

鳥取県米子市

BAKU ROU MACHI

# 博 労 町 遺 跡

第 2 分 冊

理科学的分析  
特 論  
遺物観察表  
写真図版編

2011. 3

財団法人 米子市教育文化事業団

正誤表

(財)米子市教育文化事業団 文化財発掘調査報告書 64

鳥取県米子市 『博労町遺跡』

お手数ですが、以下のとおり訂正の上御活用下さい。

頁	訂正箇所	誤	正
第2分冊・108頁	遺構情報の時期欄	9世紀	9世紀前半
第2分冊・108頁	遺物情報の鉄関連遺物全体構成欄	土器(被熱淨付)	土器(被熱淨付き)
第2分冊・108頁	総括の整理・解析欄、4行目文末	4:16:80:0となる。	1:4:20:0となる。
第2分冊・108頁	総括の時期欄	・出土土器による年代観は、9世紀前半と見られる。	・鉄関連遺物廃棄土坑の年代観は、出土した遺物から9世紀前半と見られる。

鳥取県米子市

BAKU ROU MACHI

# 博労町遺跡

## 第 2 分冊

理科学的分析  
特論  
遺物観察表  
写真図版編

2011. 3

財団法人 米子市教育文化事業団

# 目 次

(第2分冊)

## 第七章 理科学的分析

- 第1節 博勞町遺跡における自然科学分析……………(株式会社古環境研究所) 1  
第2節 博勞町遺跡における種実同定……………(株式会社古環境研究所) 14  
第3節 博勞町遺跡における放射性炭素年代測定……………(株式会社古環境研究所) 22  
第4節 博勞町遺跡出土製鉄・鍛冶関連遺物の金属学的調査  
……………(九州テクノリサーチ・TACセンター 大澤正己・鈴木瑞穂) 25

## 第八章 特論

- 第1節 弥生時代終末～古墳時代前期土器の検討……………(濱野) 40  
第2節 弥生時代終末～古墳時代の遺構の変遷……………(濱野) 50  
第3節 博勞町遺跡における古代の遺物と遺構の検討……………(濱野) 53  
第4節 出土文字資料からみる博勞町遺跡の性格について  
……………(出雲市文化財課 高橋 周) 58  
第5節 博勞町遺跡出土の土錘について……………(平木) 67  
第6節 博勞町遺跡出土の石器について……………(濱野) 71  
第7節 博勞町遺跡出土鉄関連遺物の調査……………(佐伯) 77  
第8節 博勞町遺跡出土中世遺物の検討  
— 錦町第一遺跡出土中世資料と比較して —……………(濱野) 109  
第9節 博勞町遺跡の中世畠跡の検討……………(濱野) 118

## 遺物観察表

## 写真図版

(第1分冊)

## 第I章 調査の経緯

- 第1節 調査に至る経緯……………(平木) 1  
第2節 調査の体制……………(平木) 1  
第3節 調査日誌抄……………(濱野) 3

## 第II章 遺跡概観……………(濱野) 4

- 第1節 自然、地理的環境……………4  
第2節 歴史的環境……………5

## 第III章 調査の概要……………(濱野) 11

- 第1節 測量方眼の設定と調査の方法……………11  
第2節 土層堆積状況……………12



第IV章 検出した遺構と遺物	(濱野)	18
第1節 弥生時代終末～古墳時代		18
(1) 掘立柱建物跡		24
(2) 竪穴住居跡		26
(3) 土坑		92
(4) 溝状遺構		96
第2節 古代		130
(1) 掘立柱建物跡	(濱野)	132
(2) 槽列	(濱野)	167
(3) 竪穴住居跡	(濱野)	170
(4) 竈	(濱野)	173
(5) 井戸	(濱野)	175
(6) 鍛冶関連遺物廃棄土坑	(佐伯)	180
(7) 土壌墓	(濱野)	181
(8) 土坑	(濱野)	182
(9) 溝状遺構	(濱野)	194
(10) 道路状遺構 (硬化面)	(濱野)	224
(11) ビット	(濱野)	226
第3節 中世	(濱野)	230
第4節 近世以降	(濱野・佐伯)	266
(1) 井戸		266
(2) 溝状遺構		289
(3) 石列		296
第V章 遺構外の出土遺物	(濱野)	297
第1節 弥生時代～古代の遺物	(濱野)	297
第2節 中世の遺物	(濱野・佐伯)	360
第3節 近世以降の遺物	(濱野・佐伯)	362
第4節 表採遺物	(濱野)	364
第VI章 まとめ	(濱野)	372

# 写真図版目次

巻頭PL 1.	調査地全景 (南西方向から3区を望む)	5区	SI04
巻頭PL 2.	調査地全景 (3区を望む)	5区	SI04 Pit内遺物出土状況
	調査地全景 (南東方向から3区を望む)	5区	SI05
	調査地全景 (北東方向から3区を望む)	5区	SI03-04-05-08
	調査地全景 (北西方向から3区を望む)	5区	SI07 中央ピット土堤
	異形勾玉	5区	SI07
	辻玉	図版 6.	5区 SI06-07
図版 1.	調査前状況	5区	SI09
	1区 最終面全景	5区	SI10-11 (北東から)
	2区 最終面全景	5区	SI10-11 (南西から)
	3区 最終面全景	5区	SI01-02-09-16-19-18 SK17
	4区 最終面全景	5区	SI09-10-11 SK06-07-08-09
	5区 最終面全景	5区	SI12
	堆積状況	5区	SI14
	調査終了後状況	図版 7.	5区 最終状況 (南東から)
図版 2.	1区 SI01	5区	SB01
	1区 SI02	1区	SD02完掘状況 (1区)
	1区 SI03	1区	SD02遺物出土状況 (1区)
	1区 SI04-05-06	1区	SD02遺物出土状況
	1区 SI06遺物出土状況	1区	SD02遺物出土状況 (4区)
	2区 遺構検出状況	1区	SD02遺物出土状況
	2区 SI02 (西から)	図版 8.	1区 SK05遺物出土状況
	2区 SI02 (南から)	1区	SK05完掘状況
図版 3.	2区 SI03	5区	SK06
	2区 SI03遺物出土状況	5区	SK07
	2区 SI04 (南東から)	5区	SK12
	2区 SI04 (南西から)	3区	柱穴群
	2区 SI04ベッド状遺構	5区	SD11
	2区 SI04遺物出土状況	5区	SD11断面
	作業風景	図版 9.	2区 SD05 (北東から)
図版 4.	3区 SI01	2区	SD05 (南側から)
	4区 SI01-05	2区	SD06
	4区 SI02	2区	SD11-12
	4区 SI02遺物出土状況	3区	SD04
	4区 SI03		遺物出土状況
	4区 SI03遺物出土状況	図版10.	4区 SD05
	4区 SI04		遺物出土状況
	4区 SI06	4区	SD07
図版 5.	5区 SI01	4区	SD11
	5区 SI01-02-03-17-18 (西から)	5区	溝全景 (西から)

	5区 湧全景 (南西から)	3区 SK03
図版11.	2区 SX01	4区 SK01
	3区 鍛冶関連遺物廃棄土坑	4区 SK02
	3区 土壌墓	4区 SK05
	3区 土壌墓内遺物出土状況	4区 SK03
	3区 SK10	4区 SK03 構列
	作業風景	図版19. 4区 SK08
図版12.	3区 SK08	4区 SK09
	3区 SK09	5区 SK01
	2区 SK09	5区 SK02
	5区 竈跡	5区 SK03
	土層剥取り状況	1区 石列
図版13.	3区 畝全景	図版20. 作業風景
	1区 畝全景	図版21. 1区 遺構出土遺物
	2区 畝全景	図版22. 1区 遺構出土遺物
	4区 畝全景	図版23. 1区 SD02出土遺物
	5区 畝全景	図版24. 1区 SD02出土遺物
図版14.	中世島跡全景 (合成写真)	図版25. 1区 SD02出土遺物
図版15.	足跡	図版26. 1区 SD02出土遺物
	3区 SD02	図版27. 1区 SD02出土遺物
	1区 畝中遺物出土状況	図版28. 1区 遺構出土遺物
	4区 竪穴状畝	図版29. 2区 遺構出土遺物
	1区 畝中遺物出土状況	図版30. 2区 SI04出土遺物
	4区 水溜状遺構	図版31. 2区 SI04出土遺物
	5区 畦10	図版32. 2区 SI04出土遺物
	遺物出土状況	図版33. 2区 SI04出土遺物
図版16.	2区 硬化面	図版34. 2区 遺構出土遺物
	2区 硬化面断面	図版35. 2・3区 遺構出土遺物
	5区 硬化面 (西側から)	図版36. 3区 遺構出土遺物
	5区 硬化面 (東側から)	図版37. 4区 遺構出土遺物
	1区 SK01	図版38. 4区 遺構出土遺物
	1区 SK03	図版39. 4・5区 遺構出土遺物
	2区 SK01木枠	図版40. 5区 遺構出土遺物
	2区 SK01	図版41. 5区 遺構出土遺物
図版17.	2区 SK02	図版42. 5区 遺構出土遺物
	2区 SK04	図版43. 5区 遺構出土遺物
	2区 SK05	図版44. 5区 遺構出土遺物
	2区 SK06	図版45. 中世畝・中世包含層出土遺物
	2区 SK07	図版46. 中世畝・中近世包含層・包含層出土遺物
	2区 SK08	図版47. 中世包含層・包含層出土遺物
	3区 SK01	図版48. 包含層出土遺物
図版18.	3区 SK02	図版49. 包含層出土遺物
	3区 SK02内木枠	図版50. 包含層・表採遺物

- 圖版51. 表採遺物  
兩書土器  
包含層出土遺物
- 圖版52. 鉄製品  
竈体付着須惠器  
土錘  
漆器  
木製品

## 第Ⅶ章 理科学的分析

### 第1節 博労町遺跡における自然科学分析

株式会社 古環境研究所

#### I. プラント・オパール分析

##### 1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 ( $\text{SiO}_2$ ) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている (杉山 2000)。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である (藤原・杉山 1984)。

##### 2. 試料

分析試料は、中世の畝状遺構検出面において採取された10点である。試料の内訳は、2区畠5 (No 20068、No 20069)、3区畠6 (No 30025、No 30026)、4区畠9 (No 30187、No 30188、No 30291、No 30292)、5区畠10 (No 30150、No 30151) である。なお、試料は遺跡の調査担当者によって採取されたものである。

##### 3. 分析方法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法 (藤原 1976) をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥 (絶乾)
- 2) 試料約1gに直径約40 $\mu\text{m}$ のガラスビーズを約0.02g添加 (電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法 (550℃・6時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 (300W・42KHz・10分間) による分散
- 5) 沈底法による20 $\mu\text{m}$ 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞 (葉身にのみ形成される) に由来するプラント・オパールを同定の対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。

検鏡結果は、計数値を試料1g中のプラント・オパール個数 (試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズの個数の比率を乗じて求める) に換算して示した。ま

た、おもな分類群については、この値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位： $10^{-9}$ g）を乗じて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は2.94（種実重は1.03）、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、メダケ節は1.16、ネザサ節型は0.48、チマキザサ節は0.75である（杉山 2000）。

#### 4. 結果

分析試料から検出されたプラント・オパールは、イネ、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型、チガヤ属、シバ属、タケ亜科（メダケ節型、ネザサ節型、チマキザサ節型、その他）および未分類である。これらの分類群について定量を行い、その結果を第1表、第1図に示した。主要な分類群については顕微鏡写真を示す。以下に、プラント・オパールの検出状況を記す。

##### 1) 2区畠5（試料20068、試料20069）（第1分冊第309図）

試料20068では、イネが高い密度で検出され、ススキ属型も高密度である。他にキビ族型、ヨシ属、チガヤ属、シバ属、メダケ節型、ネザサ節型が低い密度で検出された。

試料20069では、イネは検出されるもののやや低い密度である。ススキ属型とシバ属が比較的高い密度である。他にキビ族型、チガヤ属、ネザサ節型が低密度で検出された。

##### 2) 3区畠6（試料30025、試料30026）（第1分冊第315図）

いずれの試料もイネが高い密度で検出された。その他では、試料30025でヨシ属、ススキ属型、シバ属、メダケ節型、ネザサ節型が、試料30026では、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型、チガヤ属、シバ属、ネザサ節型がそれぞれ検出された。試料30026でススキ属型が高い密度である以外はいずれも低い密度である。

##### 3) 4区畠9（試料30187、試料30188、試料30291、試料30292）（第1分冊第319図）

各試料ともイネが高い密度で検出された。キビ族型は試料30187のみで、チマキザサ節型は試料30291のみで検出された。ヨシ属、ススキ属型、チガヤ属、シバ属、ネザサ節型は4試料すべてで検出された。このうち、ススキ属型は試料30292で非常に高い密度であり、他の試料でも高い密度である。ネザサ節型も試料30187、試料30188、試料30292で比較的高い密度である。メダケ節型は試料30188と試料30291で検出されたがいずれも低密度である。

##### 4) 5区畠10（試料30150、試料30151）（第1分冊第323図）

いずれの試料もイネが高い密度で検出された。キビ族型、ヨシ属、ススキ属型、シバ属、ネザサ節型も両試料で検出された。試料30151でススキ属型とネザサ節型が高い密度である以外は、いずれも低い密度である。その他では、試料30150ではメダケ節型とチマキザサ節型が、試料30151ではチガヤ属が検出されたが、これらも低い密度である。

## 5. 考察

稲作跡の可能性を判断する際の目安は、試料1gあたりおよそ5,000個/g以上の密度でイネ機動細胞プラント・オパールが検出された場合とされている。ただし、近年の調査において2,000~3,000個/g程度の密度でも水田遺構が検出されている例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

中世の遺構検出面では、すべての試料でイネのプラント・オパールが検出されている。プラント・オパール密度は1,800~7,200個/gであり、2区のNo20069を除くといずれも稲作跡の可能性を判断する際の基準値である3,000個/gを超過している。したがって、当該遺構検出面ではほぼ全域において稲が作付けられていた可能性が考えられる。

プラント・オパール分析で同定が可能な分類群のうち、イネ以外で栽培植物が含まれるものには、ムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ属型（キビが含まれる）、ジュズダマ属（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがあるが、今回の調査区ではこれらは確認されなかった。したがって、これらの植物が栽培されていた可能性については肯定することはできない。また、イネ科栽培植物の中にはまだ検討が十分でないものもあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられるが、現時点ではこれらを特定することはできない。なお、プラント・オパール分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畑作物は分析の対象外となっている。したがって、イモ類、根菜類およびその他の野菜類が栽培されていた可能性については言及できない。

なお、今回の調査区で分析を実施した10箇所におけるイネプラント・オパール密度の平均値は4,200±1,500個/gと高い値であり、水田における検出密度に匹敵する。検出面は畝状（畠状）遺構であることから、畑稲作が行われていたと思われるが、あるいは田畑輪換がなされていた可能性も考えられる。

その他の分類群では、ススキ属型とシバ属がすべての試料で、ヨシ属とチガヤ属は大半の試料で検出されている。このうちススキ属型は全体に高い密度であり、ヨシ属は少量である。こうしたことから、調査地一帯は既に乾いた環境であり、ススキ属、シバ属およびチガヤ属が生育していたと推定される。

### (引用・参考文献)

- 杉山真二 2000「植物珪酸体（プラント・オパール）」『考古学と植物学』同成社、p. 189-213。
- 杉山真二・松田隆二・藤原宏志 1988「機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用-古代農耕追求のための基礎資料として-」『考古学と自然科学』20 同成社、p. 81-92。
- 藤原宏志 1976「プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)-数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法-」『考古学と自然科学』9 同成社、p. 15-29。
- 藤原宏志・杉山真二 1984「プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)-プラント・オパール分析による水田址の探査-」『考古学と自然科学』17 同成社、p. 73-85。

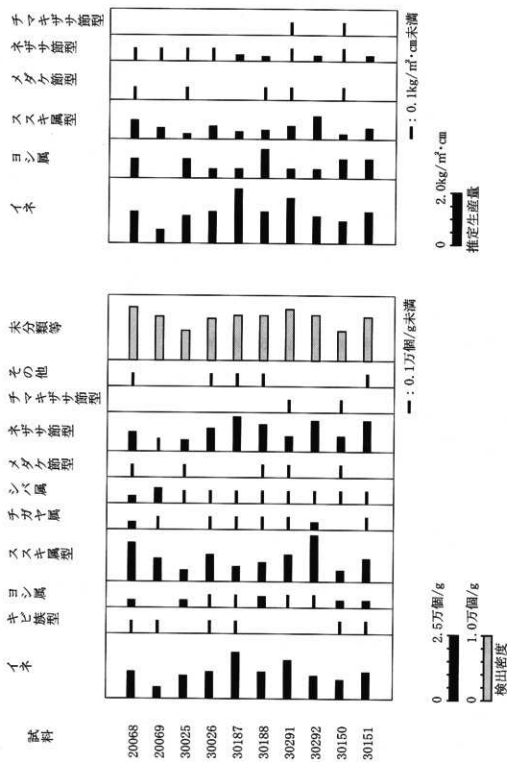
第1表 博労町遺跡のプラント・オパール分析結果

検出密度 (単位: ×100個/g)	2区					3区					4区					5区				
	20068	20069	30025	30026	30187	30188	30291	30292	30150	30151										
分類群 (和名・学名)/試料	20068	20069	30025	30026	30187	30188	30291	30292	30150	30151										
イネ科	Gramineae (Grasses)																			
イネ	42	18	36	42	72	42	60	36	30	42										
キビ族型	6	6		6	6				6	6										
ヨシ属	12		12	6	6	18	6	6	12	12										
ススキ属型	60	36	18	42	24	30	42	72	18	36										
チガヤ属	12	6		6	6	6	6	12		6										
シノ属	12	24	6	6	6	6	6	6	6	6										
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)																			
メダケ節型	6		6			6	6		6	6										
ネギサ節型	30	6	18	36	54	42	24	48	24	48										
チマキササ節型							6		6											
その他	6			6	6	6				6										
未分類等	204	169	115	161	173	173	197	175	114	168										
プラント・オパール総数	390	265	211	311	353	329	353	355	222	330										

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m<sup>2</sup>・cm) : 試料の仮比重を1.0と仮定して算出

イネ	1.23	0.53	1.07	1.23	2.11	1.23	1.76	1.06	0.88	1.24
ヨシ属	0.76		0.76	0.38	0.38	1.13	0.38	0.38	0.76	0.76
ススキ属型	0.74	0.45	0.22	0.52	0.30	0.37	0.52	0.90	0.22	0.45
メダケ節型	0.07		0.07			0.07	0.07		0.07	
ネギサ節型	0.14	0.03	0.09	0.17	0.26	0.20	0.11	0.23	0.12	0.23
チマキササ節型						0.04			0.04	





第1図 博多町遺跡のプラント・オパール分析結果

## II. 花粉分析

### 1. はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

### 2. 試料

分析試料は、2区から採取された畝5 試料20068、試料20069の2点、3区から採取された畝6 試料30025、試料30026の2点、4区から採取された畝9 試料30187、試料30188、試料30291、試料30292の4点、5区から採取された畝10試料30150、試料30151の2点の計10点である。時期は中世（鎌倉時代）と想定される。これらは、プラント・オパール分析に用いられたものと同一試料である。

### 3. 方法

花粉の分離抽出は、中村（1973）の方法をもとに、以下の手順で行った。

- 1) 試料から1cmを採量
- 2) 0.5%リン酸三ナトリウム（12水）溶液を加え15分間湯煎
- 3) 水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
- 4) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
- 5) 水洗処理の後、水酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸9：濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎）を施す
- 6) 再び水酢酸を加えて水洗処理
- 7) 沈澱に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- 8) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、鳥倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示す。イネ属については、中村（1974、1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とする。また、この処理を施すとクスノキ科の花粉は検出されない。

### 4. 結果

#### (1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉15、樹木花粉と草本花粉を含むもの2、草本花粉15、シダ植物胞子2形態の計34である。これらの学名と和名および粒数を第1表に示し、花粉数が200個以上計数できた試料は、周辺の植生を復元するために花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを第1図に示す。なお、200個未満であっても100個以上の試料については傾向をみるため参考に図示し、主要な分類群は顕微

鏡写真に示した。また、寄生虫卵についても観察したが検出されなかった。以下に出現した分類群を記載する。

#### 〔樹木花粉〕

モミ属、マツ属複雑管束亜属、スギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ノグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属-アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、エノキ属-ムクノキ、スイカズラ属

#### 〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科-イラクサ科、マメ科

#### 〔草本花粉〕

ガマ属-ミクリ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、ソバ属、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、カラマツソウ属、アブラナ科、アリノトウグサ属-フサモ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

#### 〔シダ植物孢子〕

単条溝孢子、三条溝孢子

### (2) 花粉群集の特徴

#### 1) 2区畠5 (試料20068、試料20069) (第1分冊第309図)

いずれの試料も草本花粉が約90%を占め、類似した出現傾向を示す。特にヨモギ属が卓越し、イネ科、タンポポ亜科、アブラナ科などが低率に出現する。樹木花粉ではスギ、マツ属複雑管束亜属が低率に出現する。

#### 2) 3区畠6 (試料30025、試料30026) (第1分冊第315図)

いずれの試料も類似した出現傾向を示す。草本花粉が約90%を占め、特にヨモギ属が卓越し、次いでイネ科が多く、アカザ科-ヒユ科、タンポポ亜科などが低率に出現する。樹木花粉ではスギなどが低率に出現する。

#### 3) 4区畠9 (試料30187、試料30188、試料30291、試料30292) (第1分冊第319図)

試料30187と試料30188では類似した出現傾向を示し、草本花粉が約85%を占める。草本花粉ではイネ科(試料30187はイネ属型を含む)を主にヨモギ属、カヤツリグサ科、アブラナ科、アカザ科-ヒユ科などが伴われ、チドメグサ亜科、タンポポ亜科、キク亜科などが低率に出現する。試料30187ではソバ属がわずかに出現する。樹木花粉ではスギ、マツ属複雑管束亜属などが低率に出現する。

試料30291では草本花粉が約90%を占め、花粉密度は低い。特にヨモギ属が卓越し、次いでイネ科が多く、タンポポ亜科、キク亜科などが低率に出現する。樹木花粉ではスギなどがわずかに出現する。

試料30292では草本花粉が約65%を占め、樹木・草本花粉を含むマメ科が約20%を占める。草本花

粉ではヨモギ属、イネ科が比較的多く、アブラナ科が伴われ、アカザ科-ヒユ科、タンポポ亜科、ソバ属などが出現する。樹木花粉ではスギ、マツ属複雑維管束亜属などが低率に出現する。

#### 4) 5区島10(試料30150、試料30151)(第1分冊第323図)

いずれの試料も類似した出現傾向を示し、草本花粉が約80%を占める。特にヨモギ属が高率に出現し、次いでイネ科が多く、アブラナ科、アカザ科-ヒユ科、タンポポ亜科などが低率に出現する。樹木花粉ではスギが比較的多い。

### 5. 花粉分析から推定される植生と環境

#### 1) 2区

卓越するヨモギ属は乾燥を好む人里雑草ないし畑雑草であり、イネ科、タンポポ亜科なども同様の性格を持つ。堆積地はこれらの草本が生育する乾燥した草地の環境であったと考えられる。また、遺構が畝状遺構であり出現するイネ科、アブラナ科には栽培植物が含まれることから、アワ、ヒエ、ムギなど雑穀類やアブラナなどの畑の可能性も考えられる。近隣にはスギ、マツ属複雑維管束亜属などの針葉樹がやや遠方に生育していたと思われる。

#### 2) 3区

2区と類似した出現傾向を示し、同様な堆積環境であったと考えられる。耕地雑草のアカザ科-ヒユ科が2区よりやや多い。

#### 3) 4区

試料30187と試料30188では、多様な環境に生育する水生植物のイネ科(試料30187はイネ属型を含む)やカヤツリグサ科が出現することから、水草が生育するような止水域の分布が示唆され、これには水田周囲の環境が含まれる。栽培植物を多く含むアブラナ科や、試料30187ではソバ属、耕地雑草のアカザ科-ヒユ科なども出現し、これらの畑の可能性も考えられる。

試料30291では乾燥を好むヨモギ属が卓越し、乾燥ないし乾湿を繰り返すような環境が推定され、畑であった可能性も考えられる。

試料30292では、栽培植物を多く含むイネ科、アブラナ科、マメ科が優占し、ソバ属も出現しこれらの畑が分布していたと考えられる。4区の周辺には、やや遠方にスギ、マツ属複雑維管束亜属などの針葉樹が生育していたと思われる。

#### 4) 5区

乾燥した環境を好むヨモギ属が高率に出現し、多様な環境に生育するイネ科も多い。さらに、アブラナ科、アカザ科-ヒユ科、タンポポ亜科などの畑雑草で占められることから、堆積地は乾燥した畑などの環境が考えられる。近隣にはスギ林の分布が示唆される。

## 6. まとめ

博労町遺跡の中世とみられる2区、3区、4区、5区で、花粉分析を行った。その結果、ヨモギ属、イネ科、アブラナ科、アカザ科-ヒユ科、タンポポ亜科の畑作雑草の性格をもつ草本の繁茂が示唆された。イネ科、アブラナ科には栽培植物を含まれ、特に4区はアワ、ヒエ、ムギなどの雑穀類やアブラナやソバなどの畑の可能性が推定された。また、周辺地域にはスギ林の分布が示唆されるが、5区の方がスギ林に近い可能性がある。

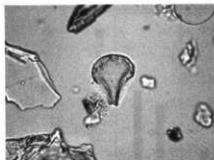
### (引用・参考文献)

- 金原正明 1993「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法』角川書店、p.248-262。  
島倉巳三郎 1973「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録』第5集 60p。  
中村 純 1967「花粉分析」古今書院、p.82-110。  
中村 純 1974「イネ科花粉について、とくにイネ (*Oryza sativa*) を中心として」『第四紀研究』13p.187-193。  
中村 純 1977「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』第10号 同成社 p.21-30。  
中村 純 1980「日本産花粉の標徴」『大阪自然史博物館収蔵目録』第13集、91p。

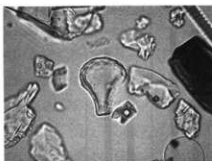
第1表 博労町遺跡における花粉分析結果

分類群		2区		3区		4区				5区	
学名	和名	2008	2009	20025	20026	30187	30188	30291	30292	30150	30151
Arboreal pollen		樹木花粉									
<i>Abies</i>	モミ属								1		
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxyle</i>	マツ属緑葉常葉亜属	6		4	1	10	6		5		1
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	7	11	22	18	17	26	2	36	30	55
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae		イチイ科-イヌゴヤ科-ヒノキ科									
<i>Platycarya strobilacea</i>	ノダクミ						1				
<i>Alnus</i>	ハンノキ属					1	1				
<i>Betula</i>	カバノキ属			1	1	1			1		
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ			1			1			1	
<i>Castanea crenata</i>	クリ	1		2							1
<i>Castanopsis</i>	シイ属				1				2	1	1
<i>Fagus</i>	ブナ属	1									
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属				2	2	3	2			1
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanus</i>	コナラ属アカガシ亜属				1	1	1		1	2	
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エノキ属-ムクノキ							2			
<i>Lonicera</i>	スイカズラ属					1					
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉									
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	1	1	1	1	2	3	1	2		
Leguminosae	マメ科		1		1	1			71		
Nonarboreal pollen		草本花粉									
<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属										1
Gramineae	イネ科	13	14	68	32	160	117	31	77	40	59
<i>Oryza type</i>	イネ属型					5			1		
Cyperaceae	カヤツリグサ科		1	2		67	33		2		2
<i>Fagopyrum</i>	ソバ属						1		1		
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1	1	15	4	13	21	1	6	4	1
Caryophyllaceae	ナデシコ科				1	4	1				
<i>Thalictrum</i>	カラマツソウ属		1								
Cruciferae	アブラナ科	3	2	3	5	17	27		33	12	3
<i>Isotragus-Myriophyllum</i>	アリノトウグサ属-フサモ属					3			2		
Hydrocotyloideae	ナドメダサザ科					7	8				
Apiaceae	セリ科	1	1	2	5		1		2	1	1
Lactucoideae	タンポポコ属科	9	4	5	11	6	4	3	6	3	10
Asteroidae	キク科	2	4	4	3	4	5	2	3		
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	207	185	213	235	62	105	92	85	80	153
Fern spore		シダ植物胞子									
Monoletic type spore	単条溝胞子	4	2	3	3	4	8	6	1	2	3
Trilete type spore	三条溝胞子	5	4	2	2	14	16	4	3	1	
Arboreal pollen	樹木花粉	15	13	33	27	38	38	3	47	36	62
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	1	1	2	3	3	1	73	0	0
Nonarboreal pollen	草本花粉	237	212	342	296	349	322	129	218	140	230
Total pollen	花粉総数	255	226	376	325	390	363	133	338	176	292
Pollen frequencies of 1cf	試料1cf中の花粉密度	1.5	1.5	3.0	2.3	1.7	9.2	4.0	5.6	2.2	2.1
		$\times 10^3$	$\times 10^3$	$\times 10^3$	$\times 10^3$	$\times 10^3$	$\times 10^3$	$\times 10^3$	$\times 10^3$	$\times 10^3$	$\times 10^3$
Unknown pollen	未同定花粉	5	6	4	4	2	5	3	3	2	2
Fern spore	シダ植物胞子	9	6	5	5	18	21	10	4	3	3
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Digestion remains	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Charcoal fragments	微炭化物	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(++)	(+)	(++)	(+)	(++)

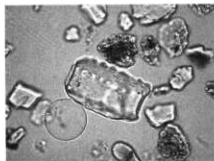




イネ



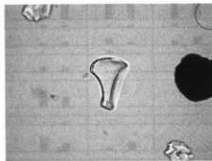
イネ



キビ族型



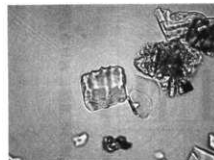
ヨシ属



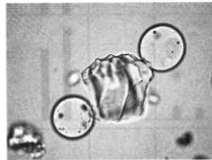
ススキ属型



チガヤ属



ネザサ節型



メダケ節型

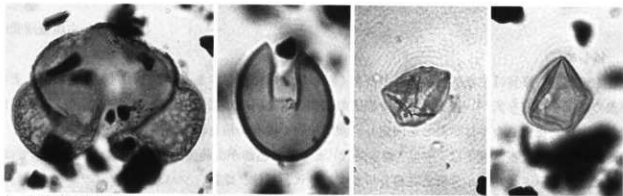


シバ属

— 50 μ m



博労町遺跡の花粉・胞子

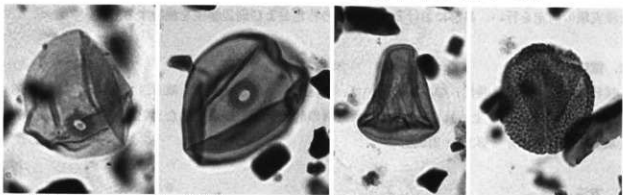


1 マツ属複雑管束型

2 スギ

3 クワ科-イラクサ科

4 マメ科

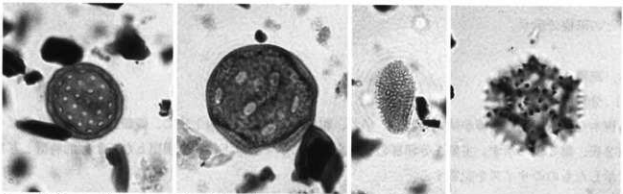


5 イネ科

6 イネ属型

7 カヤツリグサ科

8 ソバ属

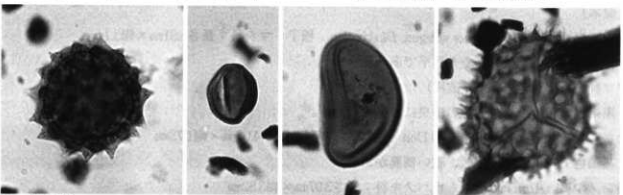


9 アカザ科-ヒユ科

10 ナデシコ科

11 アブラナ科

12 タンポポ亜科



13 キク亜科

14 ヨモギ属

15 シダ植物単条溝胞子

16 シダ植物三条溝胞子

— 10 μm

## 第2節 博勞町遺跡における種実同定

株式会社 古環境研究所

### 1. はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物中に残存する。堆積物から種実を検出しその群集の構成や組成を調べ、過去の植生や群落の構成要素を明らかにし古環境の推定を行うことが可能である。また出土した単体試料等を同定し、栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。

博勞町遺跡の発掘調査では、中世（鎌倉時代）とされる畠跡が広範囲で検出された。当該遺構では、すでにプラント・オパール分析及花粉分析が実施され、稲作、雑穀、ソバおよびアブラナ等を作物とする畑作が行われていた可能性が示唆されている。そこで、ここでは畠の畝および遺構より抽出された種実類の同定を行い、畠跡における栽培作物の特定および周辺植生を検討する。

### 2. 試料

試料は、中世（鎌倉時代）の畠跡において、1区の畠1畝1～畝3、畝5・7～畝9、畠4畝6の8箇所、2区のSX01（土坑）、4区の水溜状遺構の計10箇所から採取された土壌より水洗選別された種実類である（第1分冊第306・319図）。

### 3. 方法

同定は、形態的特徴および現生標本との対比によって行い、結果は同定レベルによって科、属、種などの階級で示す。

### 4. 結果

#### (1) 分類群

樹木6、草本13分類群が同定される。学名、和名および粒数を第1表に、穀類、ウリ類のサイズを第2表、第3表に示す。主要な分類群の写真を図版に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴と写真に示したもののサイズを記載する。

#### 〔樹木〕

マツ属複雑管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxylon* 種子 マツ科：長さ5.91mm×幅3.14mm

種子は倒卵形を呈し、やや扁平である。

マツ科 *Pinaceae* 毬果（破片）

黒褐色で卵形を呈す。その中央にはへそがある。

スギ *Cryptomeria japonica* D.Don 種子 スギ科：長さ4.05mm×幅1.73mm

茶褐色で長楕円形を呈し、狭い側翼がある。

ハンノキ属 *Alnus* 種子 カバノキ科：長さ3.97mm×幅3.82mm

種子は広卵形や卵形、倒卵形を呈し、扁平である。暗褐色で平滑となる。

アカメガシワ *Mallotus japonicus* Muell. et Arg. 種子（破片） トウダイグサ科

黒色で球形を呈し、「Y」字状のへそがある。表面にはいは状の突起が密に分布する。

クログネモチ *Ilex rotunda* Thunb. 核 モチノキ科：長さ4.30mm×幅1.20mm

灰黄色で半狭楕円形を呈し、光沢はない。背面には2個の縦溝があり、溝は粗面。腹面の正中線は稜をなす。

〔草本〕

イネ *Oryza sativa* L. 炭化果実 イネ科：サイズは第2表に記載する。

炭化しているため黒色である。長楕円形を呈し、胚の部分がくぼむ。表面には数本の筋が走る。

ヒエ *Echinochloa utilis* Ohwi et Yabuno 類 (完形・破片) イネ科：サイズは第2表に記載する。

茶褐色で類円形を呈し、下端に枝梗が残る。腹面はやや平ら。背面は丸い。発芽しているものがあり、赤い発芽促進剤状の色のついているものもあり、これらについては現生の種実の混入の可能性も考えなければならない。

オオムギ *Hordeum vulgare* L. 果実 (完形・破片) イネ科：サイズは第2表に記載する。

炭化しているため黒色で、楕円形を呈す。腹部の端には胚がある。背面には縦に一本の溝がある。側面の形は曲率が大きく、胚と胚乳との接する輪郭線は山形である。

コムギ *Triticum aestivum* L. 果実 イネ科：サイズは第2表に記載する。

炭化しているため黒色で、楕円形を呈する。腹部の端には胚がある。背面には縦に一本の溝がある。比較的四角い形を呈し、短い。

ムギ類 (オオムギ・コムギ) *Hordeum-Triticum* 果実 (破片) イネ科

オオムギもしくはコムギと思われるが、発泡しているため穀類とした。

イネ科 Gramineae 穎：長さ1.94mm×幅0.89mm

灰褐色で長楕円形を呈す。腹面はやや平ら。背面は丸い。表面は滑らかである。

ホタルイ属 *Scirpus* 果実 (完形・破片) カヤツリグサ科：長さ1.96mm×幅1.56mm

黒褐色で、やや光沢がある。広倒卵形を呈し、断面は両凸レンズ形である。表面には横方向の微細な隆起があり、基部に4~8本の針状の付属物を持つ。

アサ *Cannabis sativa* L. 種子 クワ科：長さ3.98mm×幅3.17mm

茶褐色で広卵形を呈す。一端には円形のへそ部がある。

アサは南アジアや中央アジアが原産とされる1年草の畑作物である。茎皮の繊維は麻糸になり、種子は油を採ったり食用になる。

カナムグラ *Humulus japonicus* Sieb. et Zucc. 種子 (破片) クワ科

黒色で円形を呈し、断面形は両凸レンズ状である。側面には心形を呈するへそがある。

タデ属 *Polygonum* 果実 タデ科

黒褐色で卵形を呈す。断面は三角形である。

ギシギシ属 *Rumex* 果実 タデ科：長さ5.35mm×幅2.94mm

茶褐色で頂端が尖る卵形を呈す。断面は三角形、表面には光沢がある。翼状の花被の残るものもある。

アブラナ科 Cruciferae 種子

赤褐色で類円形を呈し、下端にへそがある。

ウリ類 *Cucumis melo* L. 種子 (完形・破片) ウリ科：サイズは第3表に記載する。

淡褐色~黄褐色で長楕円形を呈し、上端は「ハ」字状にくぼむ。平均値は長さ7.94mm×幅3.82mm、

最大値長さ8.83mm×幅4.33mm、最小値長さ6.24mm×幅3.26mm。

藤下(1992)によると小粒種子(雑草メロン型)、中粒種子(マクワウリ・シロウリ型)、大粒種子(モモルディカ型)があり、本試料は中粒種子(マクワウリ・シロウリ型)から大粒種子(モモルディカ型)にあたる。

キク亜科 Asteroideae 果実 キク科

茶褐色で楕円形を呈し、両端は切形となる。

## (2) 種実群集の特徴

・1区

### 1) 畝1

草本種実のヒエを中心に、オオムギ、ムギ類、イネ科、イネ、コムギ、タデ属、ギシギシ属が伴い、樹木草本ではスギ、マツ科が同定された。

### 2) 畝2

すべて草本種実でありヒエを中心に、イネ科、イネ、コムギ、ムギ類が同定された。

### 3) 畝3

すべて草本種実でありヒエを中心に、イネ科、オオムギ、ムギ類、キク亜科が同定された。

### 4) 畝5

畝3と出現傾向はほとんど一緒だが、樹木種実のマツ属複雑維管束亜属、ハンノキ属が同定された。

### 5) 畝6

すべて草本種実でありヒエを中心に、イネ科、カナムグラが同定された。

### 6) 畝7

すべて草本種実でありヒエを中心に、イネ科が同定された。

### 7) 畝8

草本種実のヒエ、イネ科、ムギ類、樹木種実のハンノキ属が同定された。

### 8) 畝9

草本種実のヒエ、ホタルイ属、樹木種実のマツ属複雑維管束亜属、アカメガシワ、クロガネモチが同定された。

・2区 SX01(土坑)

すべて草本種実であり、オオムギ、ムギ類が同定された。

・4区 水溜状遺構

すべて草本種実であり、ウリ類が多量に検出され、ほかにホタルイ属、アサが同定された。

## 5. 種実同定から推定される植生と農耕

### (1) 1区畝1・畝4(畝1~畝3、畝5~畝9)

草本種実のヒエ、オオムギ、イネ、コムギ、ムギ類は栽培植物であり、ほとんどが炭化しているがヒエだけは未炭化であった。ヒエの中には発芽しているものもあった。もしかすると現生のものが混入した可能性も考えられる。イネ科、ホタルイ属、タデ属は抽水植物であり、カナムグラ、ギシギシ属、キク亜科は人里植物ないし畑雑草で、陽当たりの良い乾燥地に生育する。マツ属複雑維管束亜属、

クロガネモチは温帯を中心に広く分布する針葉樹ないし常緑広葉樹である。マツ属複雑管束亜属は土壌条件の悪い岩山に生育し、二次林を形成するアカマツと、砂地の海岸林を形成するクロマツとがある。スギは温帯に広く分布し、とくに積雪地帯や多雨地帯で純林を形成する針葉樹である。ハンノキ属も温帯を中心に広く分布し、沢沿いなどの湿原や水湿のある低地に生育し、ときには湿地林を形成する。アカメガシワは落葉広葉樹であり、二次林種でもある。これらの樹木が近隣に生育していたと考えられる。

## (2) 2区 SX01 (土坑)

すべて草本種実で、オオムギ、ムギ類は栽培植物である。近隣にそれらを栽培した畑があり、土坑内に混入した可能性が考えられる。土坑の性格は種実同定からは言及できない。

## (3) 4区 水溜状遺構

検出された種実はいずれも草本種実である。最も多いウリ類は栽培植物であり、サイズの平均値は長さ7.94mm×幅3.82mm、最大値は長さ8.83mm×幅4.33mm、最小値は長さ6.24mm×幅3.26mmであった。これらの計測値からサイズのばらつきはあまりなく、一団体からもたらされた可能性が高い。アサは栽培ないし有用植物である。ホタルイ属は抽水性植物であり水辺を好む。

## 6. まとめ

博労町遺跡で検出された中世の畠跡における種実同定の結果、樹木種実のマツ属複雑管束亜属、マツ科、スギ、ハンノキ属、アカメガシワ、クロガネモチ、草本種実のイネ、ヒエ、オオムギ、コムギ、ムギ類、イネ科、ホタルイ属、アサ、カナムグラ、タデ属、ギシギシ属、ウリ類、キク亜科が同定された。1区ではヒエ、オオムギ、イネ、コムギ、ムギ類の栽培植物が検出され、とくにヒエが多く、ヒエを主にオオムギ、コムギ、イネが栽培されていたと推定された。2区SX01ではオオムギ、ムギ類の栽培植物が検出されたが、土坑の性格は不明であった。4区の水溜状遺構では多量のウリ類、アサの栽培植物が検出され、当時、調査地もしくは近傍でウリ類やアサが栽培されていたと推定される。なお、ウリ類については種子の形状からでは種レベルの同定は困難であるため、詳細な同定を行うためにもDNA分析を実施することが望まれる。

以上のように、当該畠跡ではイネやヒエ、オオムギ、コムギ、ムギ類等の雑穀が栽培されていたことが明らかになった。また、ウリ類やアサも栽培されていた可能性が認められた。

### (引用・参考文献)

- 松谷晚子 1982「電子顕微鏡でみる縄文時代の栽培植物」『細作文化の誕生』日本放送出版協会、p. 91-120。  
笠原安夫 1985『日本雑草図説』養賢堂、494p。  
笠原安夫 1988「作物および田畑雑草種類」『弥生文化の研究』第2巻生業、雄山閣出版、p. 131-139。  
南木睦彦 1991「栽培植物」『古墳時代の研究』第4巻生産と流通1、雄山閣出版株式会社、p. 165-174。  
吉崎昌一 1992「古代雑穀の検出」『月刊考古学ジャーナル』No.355、ニューサイエンス社、p. 2-14。  
藤下典之 1992「出土種子からみた古代日本のメロンの仲間、その種類、由来、伝搬、利用について」『考古学ジャーナル』354、ニュー・サイエンス社、p. 7-13。

第1表 博労町遺跡における種実同定結果

学名	分類	科名	部位	区				2区 SX01	4区
				1	5	6	7		
Arbor									
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>		マツ属 常緑針葉樹類	種子		1				
			(破片)					1	
Pinaceae		マツ科	穂果	1					
<i>Cryptomeria japonica</i> D. Don		スギ	種子	2					2
<i>Alnus</i>		ハシノキ属	果実				1		
<i>Mallotus japonicus</i> Muell. et Arg.		アカメガシワ	種子						1
<i>Ilex rotunda</i> Thunb.		クロガネモチ	種子						1
Herb									
<i>Oryza sativa</i> L.		イネ	炭化果実	1					
<i>Echinochloa utilis</i> Ohwi et Yabumo		ヒエ	穎	51	43	106	45	29	132
			(破片)				8		12
<i>Hordeum vulgare</i> L.		オオムギ	炭化果実	4		1			
			(破片)	5					1
<i>Triticum aestivum</i> L.		コムギ	炭化果実	1		1			
<i>Hordeum-Triticum</i>		ムギ類	炭化果実	5	1	1			1
Gramineae		イネ科	穎	3	10	6	5	2	9
<i>Scirpus</i>		ホタルイ属	果実						7
<i>Cannabis sativa</i> L.		アサ	種子						1
<i>Humulus scandens</i> Merr.		カナムグラ	種子					1	
<i>Polygonum</i>		タデ属	果実	1					
<i>Rumex</i>		ギシギシ属	果実	1					
<i>Cruciferae</i>		アブラナ科	種子			3			
<i>Cucumis melo</i> L.		ウリ類	種子						156
			(破片)						8
Asteroidae		キク亜科	果実			1			
Total		合計		75	59	115	60	32	153
									173

第2表 博労町遺跡穀類計測値

畝3 ヒエ

試料	長さ(mm)	幅(mm)
1	2.31	1.80
2	2.32	1.75
3	2.03	1.62
4	2.49	1.85
5	2.31	1.84
6	2.14	1.64
7	2.26	1.79
8	1.91	1.39
9	2.26	1.75
10	2.36	1.76
11	2.49	1.85
12	2.22	1.66
13	2.07	1.84
14	2.22	1.78
15	2.16	1.81
16	2.30	1.75
17	2.18	1.67
18	2.05	1.62
19	2.31	1.66
20	2.14	1.72
21	2.14	1.60
22	2.16	1.45
23	2.29	1.66
24	2.40	1.72
25	2.11	1.35
26	2.22	1.61
27	2.23	1.78
28	2.33	1.71
29	2.21	1.92
30	2.29	1.80
31	2.06	1.51
32	2.49	1.82
33	1.69	1.47
34	2.14	1.67
35	2.15	1.86
36	2.02	1.53
37	2.03	1.45
38	1.95	1.28
39	2.45	1.83
40	2.18	1.49
41	2.30	1.80
42	2.34	1.61
43	2.23	1.98
44	2.34	1.94
45	2.32	1.74
46	2.09	1.62
47	2.17	1.56
48	1.94	1.52
49	2.23	1.57
50	1.78	1.36

畝7 ヒエ

試料	長さ(mm)	幅(mm)
1	1.67	1.15
2	2.24	1.78
3	2.44	1.67
4	2.28	1.58
5	2.08	1.76
6	2.50	1.87
7	1.95	1.63
8	2.39	1.85
9	2.07	1.55
10	2.01	1.58
11	2.09	1.49
12	2.49	2.00
13	2.12	1.46
14	2.16	1.67
15	2.45	1.79
16	2.31	1.88
17	1.99	1.55
18	2.54	1.63
19	2.36	1.67
20	2.32	1.84
21	2.48	1.98
22	2.38	1.65
23	2.42	2.02
24	2.14	1.50
25	2.17	1.83
26	1.92	1.65
27	2.51	1.95
28	1.67	1.19
29	1.66	1.35
30	2.42	1.89
31	2.50	1.71
32	2.27	1.76
33	2.09	1.74
34	2.06	1.71
35	2.22	1.84
36	2.57	1.84
37	2.07	1.64
38	2.00	1.69
39	2.24	1.65
40	1.69	1.30
41	2.24	1.80
42	1.98	1.51
43	2.40	1.57
44	2.16	1.67
45	2.42	1.78
46	1.71	1.31
47	2.58	1.91
48	2.26	2.01
49	2.58	1.77
50	2.21	1.68

畝3	長さ(mm)	幅(mm)
平均値	2.20	1.68
最大値	2.49	1.98
最小値	1.69	1.28

畝7	長さ(mm)	幅(mm)
平均値	2.21	1.69
最大値	2.58	2.02
最小値	1.66	1.15

ヒエ全体	長さ(mm)	幅(mm)
平均値	2.20	1.68
最大値	2.58	2.02
最小値	1.66	1.15

試料	長さ(mm)	幅(mm)
イネ	4.76	3.10
	4.33	2.92
	4.55	2.49
	4.71	2.67
	4.87	3.08
オオムギ	3.99	2.34
	4.71	2.36
コムギ	3.33	2.49
	3.59	2.41

第3表 博労町遺跡ウリ類計測値

試料	長さ(mm)	幅(mm)	試料	長さ(mm)	幅(mm)		長さ(mm)	幅(mm)
1	8.47	3.79	51	8.12	4.26	平均値	7.94	3.82
2	8.56	4.05	52	8.10	3.53	最大値	8.83	4.33
3	7.63	3.98	53	6.95	3.35	最小値	6.24	3.26
4	7.83	3.63	54	7.10	4.02			
5	7.47	3.56	55	8.05	3.91			
6	7.96	3.63	56	8.19	3.55			
7	8.65	4.19	57	6.55	3.48			
8	8.38	3.97	58	8.42	3.84			
9	8.00	4.04	59	8.05	3.70			
10	7.89	3.86	60	7.67	3.84			
11	8.61	3.66	61	8.28	3.86			
12	6.64	3.77	62	8.16	3.91			
13	7.87	3.43	63	7.98	3.44			
14	8.18	3.77	64	7.44	3.65			
15	8.27	3.66	65	7.81	3.62			
16	7.16	3.57	66	8.47	3.93			
17	7.87	3.61	67	7.93	3.81			
18	7.65	3.81	68	8.09	3.93			
19	7.69	4.01	69	7.95	3.67			
20	7.76	3.59	70	7.95	4.14			
21	8.27	4.06	71	6.95	3.79			
22	8.29	3.81	72	8.12	4.16			
23	8.03	3.57	73	8.09	3.72			
24	8.54	3.59	74	7.37	3.86			
25	8.41	3.79	75	7.30	3.77			
26	7.74	3.92	76	8.35	4.14			
27	7.76	3.90	77	8.51	3.88			
28	8.65	3.63	78	8.00	3.93			
29	8.58	3.79	79	8.19	3.93			
30	7.85	3.79	80	7.88	3.86			
31	8.34	3.75	81	8.28	3.93			
32	8.29	3.63	82	8.05	3.53			
33	7.87	3.59	83	7.27	3.77			
34	8.27	3.72	84	7.48	3.91			
35	8.14	3.92	85	7.76	4.02			
36	7.20	3.26	86	8.26	3.86			
37	8.07	3.92	87	6.27	4.30			
38	8.47	3.48	88	7.67	4.16			
39	8.38	3.84	89	8.51	3.62			
40	8.47	3.72	90	8.30	3.69			
41	8.61	3.77	91	8.33	4.23			
42	8.34	3.77	92	8.65	3.98			
43	8.45	3.72	93	7.30	3.98			
44	8.00	4.21	94	6.24	4.33			
45	8.45	3.46	95	7.06	4.12			
46	7.58	3.68	96	8.33	4.23			
47	8.41	3.62	97	6.88	3.65			
48	8.54	3.88	98	8.09	3.93			
49	7.49	3.79	99	6.88	3.70			
50	8.83	3.75	100	7.97	4.23			



博労町遺跡の種実



1 マツ属複維管束東亞属種子

1.0mm



2 スギ種子

1.0mm



3 ハンノキ属果実

1.0mm



4 クロガネモチ種子

1.0mm



5 イネ炭化果実

1.0mm



6 イネ炭化果実

1.0mm



7 ヒエ類

1.0mm



8 ヒエ類

1.0mm



9 ヒエ類

1.0mm



10 ヒエ類

1.0mm



11 オオムギ炭化果実

12 同左



1.0mm



13 コムギ炭化果実



14 同左

1.0mm



15 イネ科類

0.5mm



16 ホタルイ属果実

0.5mm



17 アサ種子

1.0mm



18 ギシギシ属果実

1.0mm



19 ウリ類種子

1.0mm



20 ウリ類種子

1.0mm

### 第3節 博労町遺跡における放射性炭素年代測定

株式会社 古環境研究所

#### 1. はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素 ( $^{14}\text{C}$ ) の濃度が、放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土壌、土器付着炭化物などが測定対象となり、約6万年前までの年代測定が可能である。

ここでは、博労町遺跡で出土した炭化物を対象に加速器質量分析法による放射性炭素年代測定を行い、検出遺構の構築年代および土層の堆積年代について検討した。

#### 2. 試料と方法

測定試料の情報、調製データは第1表のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた $^{14}\text{C}$ 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 $^{14}\text{C}$ 年代、暦年代を算出した。

第1表 測定試料及び処理

試料名	出土箇所	種類	前処理・調整	測定法
No.1	No. 6081 (2区SB19 P417)	炭化材	超音波洗浄、酸-アルカリ-酸処理	AMS
No.2	No. 6102 (2区SB18 P465)	炭化材	超音波洗浄、酸-アルカリ-酸処理	AMS
No.3	No. 3691 (4区SD10)	炭化材	超音波洗浄、酸-アルカリ-酸処理	AMS
No.4	No. 1307 (5区南1畝)	炭化材	超音波洗浄、酸-アルカリ-酸処理	AMS

※AMS (Accelerator Mass Spectrometry) は加速器質量分析法

#### 3. 測定結果

第2表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ( $\delta^{13}\text{C}$ )、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値、誤差を丸めて表示した $^{14}\text{C}$ 年代、 $^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に較正した年代範囲を、第1図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は年代値、誤差を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

第2表 測定結果

試料名	測定No. (PED-)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (年BP)	$^{14}\text{C}$ 年代 (年BP)	暦年代 (西暦)	
					1 $\sigma$ (68.2%確率)	2 $\sigma$ (95.4%確率)
No.1	15461	-23.87 ± 0.17	1253 ± 20	1255 ± 20	AD690-750 (56.5%)	AD670-820 (94.3%)
					AD760-780 (11.7%)	AD840-860 (1.1%)
					BC1495-1470 (25.2%)	BC1500-1415 (95.4%)
No.2	15462	-27.81 ± 0.17	3185 ± 23	3185 ± 25	BC1465-1430 (43.0%)	BC1515-1425 (95.4%)
No.3	15463	-26.57 ± 0.16	3203 ± 22	3205 ± 20	AD1030-1050 (14.8%)	AD1020-1160 (95.4%)
No.4	15464	-29.29 ± 0.14	943 ± 20	945 ± 20	AD1080-1160 (53.4%)	

BP : Before Physics (Present)、BC : 紀元前、AD : 紀元

$^{14}\text{C}$ 年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。 $^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP) の算出には、 $^{14}\text{C}$ の半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した $^{14}\text{C}$ 年代誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の $^{14}\text{C}$ 年代がその $^{14}\text{C}$ 年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示すものである。なお、暦年校正の詳細は以下の通りである。

暦年校正とは、大気中の $^{14}\text{C}$ 濃度が一定で半減期が5568年として算出された $^{14}\text{C}$ 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の $^{14}\text{C}$ 濃度の変動、及び半減期の違い ( $^{14}\text{C}$ の半減期5730 $\pm$ 40年) を校正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

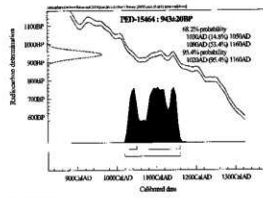
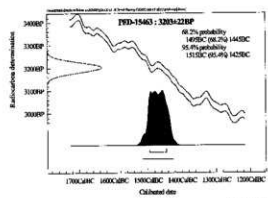
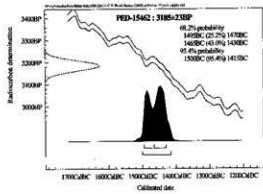
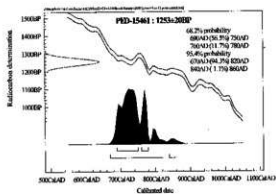
$^{14}\text{C}$ 年代の暦年校正にはOxCal3.1 (校正曲線データ: IntCal09) を使用した。なお、 $1\sigma$  暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された $^{14}\text{C}$ 年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に $2\sigma$  暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は $^{14}\text{C}$ 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年校正曲線を示す。

#### 4. 所見

博労町遺跡で出土した炭化材4点について、加速器質量分析法 (AMS法) による放射性炭素年代測定を行った。その結果、試料No.6081 (2区SB19、P417) は $1255 \pm 20$ 年BP ( $2\sigma$ の暦年代でAD670~820年、AD840~860年)、試料No. 6102 (2区SB18、P465) は $3185 \pm 25$ 年BP (同BC1500~1415年)、試料No. 3691 (4区SD10) は $3205 \pm 20$ 年BP (同BC1515~1425年)、試料No. 1307 (中世5区畠畝) は $945 \pm 20$ 年BP (同AD1020~1160年) の年代値が得られた。

#### (引用・参考文献)

- Bronk Ramsey C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy, The OxCal Program, Radiocarbon, 37 (2), p. 425-430.
- Bronk Ramsey C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon, 43 (2A), 355-363.
- 中村俊夫 2000「放射性炭素年代測定法の基礎」『日本先史時代の $^{14}\text{C}$ 年代』p. 3-20.
- Paula J Reimer et al. (2004) IntCal 04 Terrestrial radiocarbon age calibration, 26-0 ka BP. Radiocarbon 46, p. 1029-1058.
- Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Burr, G.S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C.E. (2009) IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 51, 1111-1150.



第1圖 曆年較正結果

## 第4節 博勞町遺跡出土製鉄・鍛冶関連遺物の金属学的調査

九州テクノリサーチ・TACセンター

大澤正己・鈴木瑞穂

### 1. いきざつ

博勞町遺跡は鳥取県米子市博勞町に所在する。調査地区内では古代の掘立柱建物跡や区画溝などが検出された。3区からは9世紀前半と推定される鉄関連遺物を廃棄した土坑より羽口、鉄滓等が出土している。遺跡内での生産の実態を検討する目的から、金属学的調査を行う運びとなった。

### 2. 調査方法

#### 2-1. 供試材

Table 1に示す。鍛冶関連遺物計8点の調査を行った。

#### 2-2. 調査項目

##### (1) 肉眼観察

遺物の外観上の観察所見を簡単に記載した。

##### (2) マクロ組織

本来は肉眼またはルーペで観察した組織であるが、本稿では顕微鏡埋込み試料の断面全体像を、低倍率で撮影したものを指す。当調査は、顕微鏡検査によるよりも広い範囲にわたって、組織の分布状態、形状、大きさなどの観察ができる利点がある。

##### (3) 顕微鏡組織

滓中に晶出する鉱物及び鉄部の調査を目的として、光学顕微鏡を用い観察を実施した。観察面は供試材を切り出した後、エメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の3 $\mu$ と1 $\mu$ で順を追って研磨している。なお金属組織の調査では、3%ナイトル(硝酸アルコール液)を腐食(Etching)に用いた。

##### (4) ビッカース断面硬度

鉄滓中の鉱物と、金属鉄の組織同定を目的として、ビッカース断面硬度計(Vickers Hardness Tester)を用いて硬さの測定を行った。試験は鏡面研磨した試料に136°の頂角をもったダイヤモンドを押し込み、その時に生じた窪みの面積をもって、その荷重を除いた商を硬度値としている。試料は顕微鏡用を併用し、荷重は50または100gfで測定した。

##### (5) EPMA(Electron Probe Micro Analyzer) 調査

化学分析を行えない微量試料や鉱物組織の微小域の組織同定を目的とする。

分析の原理は、真空中で試料面(顕微鏡試料併用)に電子線を照射し、発生する特性X線を分光後に画像化し、定性的な結果を得る。更に標準試料とX線強度との対比から元素定量値をコンピューター処理してデータ解析を行う方法である。

##### (6) 化学組成分析

供試材の分析は次の方法で実施した。

全鉄分 (Total Fe)、金属鉄 (Metallic Fe)、酸化第一鉄 (FeO) : 容量法。

炭素 (C)、硫黄 (S) : 燃焼容量法、燃焼赤外吸収法

二酸化硅素 (SiO<sub>2</sub>)、酸化アルミニウム (Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、酸化カルシウム (CaO)、酸化マグネシウム (MgO)、酸化カリウム (K<sub>2</sub>O)、酸化ナトリウム (Na<sub>2</sub>O)、酸化マンガン (MnO)、二酸化チタン (TiO<sub>2</sub>)、酸化クロム (Cr<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、五酸化磷 (P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>)、バナジウム (V)、銅 (Cu)、二酸化ジルコニウム (ZrO<sub>2</sub>) : ICP (Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer) 法 : 誘導結合プラズマ発光分光分析。

### 3. 調査結果

#### BAK-1 : 梘形鍛冶滓 (含鉄)

- (1) 肉眼観察 : 19gの小型の梘形鍛冶滓である。表面は黄褐色の土砂や茶褐色の錆化物に覆われており、微細な木炭破片や鍛造剥片が付着する。滓部は黒灰色で、破面にはごく細かい気孔が散在するが緻密である。
- (2) マクロ組織 : Photo.1 ①に示す。観察面ではまとまった鉄部は存在せず、上面側を中心にごく微細な錆化鉄が多数散在する。また滓部の鉱物組成をみると、上半部はウスタイト (Wustite : FeO) の割合が少なく、下半部で密に晶出する。
- (3) 顕微鏡組織 : Photo.1 ②~⑦に示す。②は滓表面に付着する微細な木炭破片で、木口面が観察される。発達した導管が分布する広葉樹材の黒炭であった。また③は滓表面に付着した平坦度に乏しい鍛造剥片の拡大である。

④⑤は上面側の滓部の拡大で、淡茶褐色多角形結晶ウルボスピネル (Ulvöspinel : 2FeO·TiO<sub>2</sub>)、白色粒状結晶ウスタイト (Wustite: FeO)、淡灰色柱状結晶ファヤライト (Fayalite: 2FeO·SiO<sub>2</sub>) が晶出する。精錬鍛冶滓の晶癖である。また⑥⑦は滓中にごく微細な錆化鉄部が散在しており、内部には亜共析組織 (C<0.77%) の痕跡が残存する。この金属組織痕跡から、炭素含有率は0.2~0.3%程度の低炭素鋼と推定される。

- (4) ビッカース断面硬度 : 紙面の構成上、硬度を測定した圧痕の写真を割愛したが、淡茶褐色多角形結晶の調査を実施した。硬度値は638Hv、641Hv、664Hvであった (荷重 : 100gf)。ウルボスピネルに同定される。また淡灰色柱状結晶の定量分析値は610Hv、687Hvであった (荷重 : 50gf)。ファヤライトの文献硬度値600~700Hvの範囲内であり、ファヤライトに同定される。さらに白色粒状結晶の硬度値は492Hv、527Hv、533Hvであった (50gf)。ウスタイトの文献硬度値450~500Hvと比較するとやや硬質で、一部マグネタイトの範疇500~600Hvに入る。両者の混晶である可能性が高い (註1)。

滓中にウルボスピネルが晶出することから、当鉄滓は鍛冶原料 (製錬鉄塊系遺物) の不純物除去作業で生じた精錬鍛冶滓に分類される。また始発 (製鉄) 原料は後述の流出滓滓 (BAK-4) の特徴などからも砂鉄である。

#### BAK-2 : 粒状滓

BAK-2 イー-1 3.8mm径

- (1) 肉眼観察 : 表面はごく薄く茶褐色の錆化物で覆われる。やや歪な球状で、大きな破面が1面観

察される。滓の地の色調は黒灰色で、非常に微細な気孔が点在する。

- (2) マクロ組織: Photo. 2 ①に示す。断面は楕円状で、内部には微細な気孔が多数散在する。
- (3) 顕微鏡組織: Photo. 2 ②に示す。最表層の微細な明白色針状はヘマタイト (Hematite:  $\text{Fe}_2\text{O}_3$ )、灰褐色多角形結晶はマグネタイト (Magnetite:  $\text{Fe}_3\text{O}_4$ ) と推定される。さらに内部には白色粒状結晶ウスタイトが凝集して晶出する。

BAK-2 イ-2 2.4mm径

- (1) 肉眼観察: 色調は黒灰色で、歪な球状を呈する。表面には微細な気孔が点在する。
- (2) マクロ組織: Photo. 2 ③に示す。断面中央付近に気孔が複数点在している。
- (3) 顕微鏡組織: Photo. 2 ④に示す。明白色最表層はヘマタイト、その内側の明灰色層はマグネタイト、その内側の暗灰色部はウスタイトである。

BAK-2 ロー-1 1.6mm径

- (1) 肉眼観察: 色調は黒灰色で、やや歪な球状を呈する。表面は比較的平滑で、若干微細な気孔がみられる。
- (2) マクロ組織: Photo. 2 ⑤に示す。断面には非常に微細な気孔が少量散在する。
- (3) 顕微鏡組織: Photo. 2 ⑥に示す。内部には白色粒状結晶ウスタイトが凝集して晶出する。

BAK-2 ハー-1 3.8mm径

- (1) 肉眼観察: 色調は黒灰色で、やや歪な球状を呈する。表面には波状の凹凸があり、1個所棘状の突起がみられる。
- (2) マクロ組織: Photo. 2 ⑦に示す。断面には中央付近に不定形の気孔がみられる。その周囲にも、ごく微細な気孔が多数散在する。
- (3) 顕微鏡組織: Photo. 2 ⑧に示す。最表層の微細な明白色針状はヘマタイト、灰褐色多角形結晶はマグネタイトと推定される。さらに内部には白色粒状結晶ウスタイトが凝集して晶出する。  
分析調査を実施した粒状滓4点は、すべて鉄酸化物であった。鉄材の熱間加工時、表面に生じた鉄酸化物が鍛打に伴い飛散した微細遺物である。

### BAK-3: 鍛造剥片

BAK-3 イ-1 3.6×2.6×0.4mm

- (1) 肉眼観察: 色調は表裏面とも黒褐色である。表面は平滑で、裏面は波状の凹凸がみられる。
- (2) マクロ組織: Photo. 3 ①に示す。やや厚手の剥片で、裏面側の凹凸に伴う厚みの変動がみられる。
- (3) 顕微鏡組織: Photo. 3 ②に示す。明白色最表層はヘマタイト、その内側の明灰色層はマグネタイト、その内側の暗灰色層は凝集ウスタイトである。

BAK-3 イ-2 3.4×2.1×0.2mm

- (1) 肉眼観察: 色調は表裏面とも黒褐色である。表面には筋が2条あり、下面には細かい凹凸が存在する。
- (2) マクロ組織: Photo. 3 ③に示す。比較的平坦であるが、表裏面の凹凸に伴う厚みの変動がみられる。
- (3) 顕微鏡組織: Photo. 3 ④に示す。明白色最表層はヘマタイト、その内側の明灰色層は肥大マグネタイト、その内側の暗灰色は層亀裂の走るウスタイトである。

BAK-3 イ-3 3.7×2.2×0.1mm

- (1) 肉眼観察：色調は表裏面とも青黒～黒褐色である。また表裏面とも波状の凹凸がみられる。
- (2) マクロ組織：Photo. 3⑤に示す。薄手で比較的平坦な剥片である。
- (3) 顕微鏡組織：Photo. 3⑥に示す。明白色最表層はヘマタイト、その内側の明灰色層はマグネタイト、その内側の暗灰色層は非晶質ウスタイトである。最終仕上げの剥片であろう。

BAK-3 ロー1 3.3×1.9×0.4mm

- (1) 肉眼観察：色調は表裏面とも青黒～黒褐色である。また表裏面ともごく微細な凹凸がみられる。
- (2) マクロ組織：Photo. 3⑦に示す。厚手で平坦な剥片である。
- (3) 顕微鏡組織：Photo. 3⑧に示す。明白色最表層はヘマタイト、その内側の明灰色層はマグネタイト、その内側の暗灰色層は非晶質に近づくウスタイトである。

BAK-3 ロー2 2.7×2.2×0.2mm

- (1) 肉眼観察：色調は表裏面とも青黒～黒褐色で、平滑である。
- (2) マクロ組織：Photo. 4①に示す。やや薄手で平坦な剥片である。
- (3) 顕微鏡組織：Photo. 4②に示す。明白色最表層はヘマタイト、その内側の明灰色層はマグネタイト、その内側の暗灰色層は非晶質ウスタイトである。

BAK-3 ロー3 2.2×1.8×0.1mm

- (1) 肉眼観察：色調は表裏面とも青黒～黒褐色で、平滑である。
- (2) マクロ組織：Photo. 4③に示す。やや薄手で平坦な剥片である。
- (3) 顕微鏡組織：Photo. 4④に示す。明白色最表層はヘマタイト、その内側の明灰色層はマグネタイト、その内側の暗灰色層は非晶質に近づいたウスタイトである。

分析調査を実施した鍛造剥片6点は、すべて薄膜状の鉄酸化物であった。粒状滓 (BAK-2) と同様、鉄材の熱間加工時表面に生じた鉄酸化物が、鍛打に伴って飛散した剥片状微細遺物である。

#### BAK-4：流出溝滓

- (1) 肉眼観察：716gの平面不整六角形で盤状の流川溝滓破片である。上面は流動状で、微細な凹凸の凹凸がみられる。また下面は全体に微細な炉壁粘土や小礫が固着する。破面にはやや小型の気孔が散在するが、非常に緻密で重量感がある。
- (2) 顕微鏡組織：Photo. 4⑤～⑦に示す。淡茶褐色多角形結晶ウルボスピネル、淡灰色柱状結晶フェライトが晶出する。砂鉄製錬滓の晶癖である。また滓中にはごく微細な金属鉄粒が散在する。⑥⑦の明白色粒はその拡大である。3%ナイトルで腐食したところ、ほとんど炭素を含まないフェライト (Ferrite:  $\alpha$ 鉄) 単相の組織が確認された。
- (3) ビッカース断面硬度：紙面の構成上、硬度を測定した圧痕の写真を割愛したが、淡茶褐色多角形結晶の調査を実施した。硬度値は740Hv、748Hv、765Hvであった。ウルボスピネル (Ulvöspinel:  $2\text{FeO}\cdot\text{TiO}_2$ ) としては若干硬質であり、ヘーシナイト (Hercynite:  $\text{FeO}\cdot\text{Al}_2\text{O}_3$ ) との固溶体の可能性が高い。
- (4) 化学組成分析：Table 2に示す。全鉄分 (Total Fe) 30.74%に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.03%、酸化第1鉄 (FeO) 33.70%、酸化第2鉄 ( $\text{Fe}_2\text{O}_3$ ) 6.46%の割合であった。造滓成分 ( $\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$ ) 50.07%と高値であるが、このうち塩基性成分 ( $\text{CaO} + \text{MgO}$ )



は2.97%と低めである。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（ $\text{TiO}_2$ ）7.37%、バナジウム（V）0.30%と高値であった。また酸化マンガン（ $\text{MnO}$ ）は0.43%、銅（Cu）は<0.01%と低値である。

当鉄滓は砂鉄起源の脈石成分（ $\text{TiO}_2$ 、V）の割合が高く、砂鉄製錬滓に分類される。

#### BAK-5：羽口

- (1) 肉眼観察：熱影響を受けて先端部が黒色ガラス質化した、鍛冶羽口の破片である。内外径ともやや先細りの形状を呈する。胎土は淡褐色の粘土質で、細かい砂粒を含んでいる。
- (2) 顕微鏡組織：Photo. 5 ①～③に示す。①は外面表層側の黒色ガラス質部分である。滓中には非常に微細な鉄酸化物（ウスタイトまたはマグネタイト）が晶出する。②③はその拡大である。鉄材を加熱したときの吹き減り（酸化による損失）に伴うものといえよう。
- (3) 化学組成分析：Table 2に示す。胎土分析である。強熱減量（lg loss）8.64%とやや高めであった。熱影響を受けてはいるが、比較的結晶構造水を保持した状態での分析といえる。鉄分（ $\text{Fe}_2\text{O}_3$ ）は4.41%と高めであるが、酸化アルミニウム（ $\text{Al}_2\text{O}_3$ ）が20.07%と高値で、耐火性にも有利に働くと考えられる。
- (4) 耐火度：1320℃であった。古代の羽口としてはごく一般的で、十分な耐火性状といえる。

当羽口はガラス質滓中の鉱物組成から、鍛冶原料鉄の加熱に用いられたと判断される。

#### BAK-6：椀形鍛冶滓

- (1) 肉眼観察：260g弱で小型の椀形鍛冶滓である。上面は比較的平坦で、外周部に微細な木炭痕が散在する。下面は一部鍛冶炉床土が固着する部分と、細かい木炭痕による凹凸の残る部分とが混在する。側面1面は破面で、細かい気孔が散在するが緻密である。
- (2) 顕微鏡組織：Photo. 5 ④～⑥に示す。④は滓部で白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶フヤライトが晶出する。高温沸し鍛接・鍛錬鍛冶滓の晶癖である。
- (3) ビッカース断面硬度：紙面の構成上、硬度を測定した圧痕の写真を割愛したが、白色粒状結晶の調査を実施した。硬度値は397Hv、422Hvであった。ウスタイトとしては若干低値傾向を示すが、風化等の影響と推測される。
- (4) 化学組成分析：Table 2に示す。全鉄分（Total Fe）48.75%に対して、金属鉄（Metallic Fe）0.01%、酸化第1鉄（ $\text{FeO}$ ）47.06%、酸化第2鉄（ $\text{Fe}_2\text{O}_3$ ）17.34%の割合であった。造滓成分（ $\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$ ）31.93%で、このうち塩基性成分（ $\text{CaO} + \text{MgO}$ ）は4.67%であった。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）の二酸化チタン（ $\text{TiO}_2$ ）は0.48%、バナジウム（V）<0.01%と低値であった。また酸化マンガン（ $\text{MnO}$ ）も0.10%、銅（Cu）<0.01%と低値である。

当鉄滓は砂鉄起源の脈石成分（ $\text{TiO}_2$ 、V）の低減傾向が顕著であり、鉄材の熱間加工時に生じた高温沸し鍛接・鍛錬鍛冶滓に分類される。

#### BAK-7：椀形鍛冶滓（含鉄）

- (1) 肉眼観察：69g弱と小型の椀形鍛冶滓の破片と推定される。ただし外観的には製錬鉄塊系遺物にも類似する。表面は黄褐色の土砂で覆われており、一部茶褐色の錆跡や酸化に伴う割れが観

察される。特殊金属探知機のH(O)で反応があることから、内部に若干金属鉄が残存する可能性が高い。

- (2) マクロ組織：Photo. 6 ①に示す。観察面にはまとまった金属鉄（またはその錆化物）は確認されず、滓中に非常に微細な錆化鉄部が多数散在する状態であった。
- (3) 顕微鏡組織：Photo. 6 ②③に示す。滓中には0.1~0.4mm径の砂鉄残骸と淡褐色片状結晶シュードブルーカイト（Pseudobrookite： $\text{Fe}_2\text{O}_3 \cdot \text{TiO}_2$ ）ないしルチル（Rutile： $\text{TiO}_2$ ）が晶出する。高温下で生じる砂鉄製錬滓の晶癖である（註2）。

また滓中にはごく微細な金属鉄や錆化鉄部が多数確認される。金属鉄部を3%ナイトルで腐食したところ、ほとんど炭素を含まないフェライト単相の組織が確認された。砂鉄から還元された初期鉄粒である。

- (4) 化学組成分析：Table 2に示す。全鉄分（Total Fe）47.76%に対して、金属鉄（Metallic Fe）0.13%、酸化第1鉄（FeO）15.66%、酸化第2鉄（ $\text{Fe}_2\text{O}_3$ ）50.70%の割合であった。造滓成分（ $\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$ ）は21.59%で、このうち塩基性成分（ $\text{CaO} + \text{MgO}$ ）は1.61%と低値であった。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（ $\text{TiO}_2$ ）は4.04%、バナジウム（V）0.14%であった。また酸化マンガン（MnO）は0.62%と高めで、銅（Cu）は<0.01%と低値である。

当鉄滓は、当初外観の特徴から碗形鍛冶滓片と製錬鉄塊系遺物の可能性が考えられたが、滓部の鉱物組成から、高温下で生じた砂鉄製錬滓と推定される。チタン（ $\text{TiO}_2$ ）含有率は流出溝滓（BAK-4）と比較すると低めであるが、これは金属鉄とその錆化物の影響を受けたためと判断される。また鉄部は非常に微細で、鍛冶原料となり得る品位ではない。

## BAK-8：鉄製品

- (1) 内眼観察：棒状の鍛造品の破片である。端部は緩やかに湾曲しており、反対側の端部は錆化に伴う破面である。鍛冶具の破片の可能性も指摘されているが、全体に錆化が進行しており、表面の剥離や割れも著しい。特殊金属探知機のH(O)で反応があることから、内部に若干金属鉄が残存する可能性が高い。
- (2) マクロ組織：Photo. 6 ④に示す。観察位置ではほぼ断面全体が錆化している。また錆化鉄には層状の剥離痕跡が多数生じている。これは折り返し鍛錬が施された鍛造鉄器の特徴といえる。断面は長方形状であり、火掻き棒様の破片の可能性を提示しておく。
- (3) 顕微鏡組織：Photo. 6 ⑤~⑦に示す。錆化鉄部には、部分的に亜共析組織（<0.77% C）痕跡が残存している。これらの組織痕跡が確認される範囲では、炭素含有率は最大でも0.2%以下の軟鉄と推測される。また⑥⑦の錆化鉄中には製鉄原料の砂鉄に起因する非金属介在物で淡茶褐色結晶のウルボスピネル（Ulvöspinel： $2\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$ ）が多数点在する。
- (4) 化学組成分析：Table 2に示す。全鉄分（Total Fe）61.20%に対して、金属鉄（Metallic Fe）0.12%、酸化第1鉄（FeO）7.62%、酸化第2鉄（ $\text{Fe}_2\text{O}_3$ ）78.86%の割合であった。造滓成分（ $\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$ ）は4.41%であるが、これは土砂等の影響も受けた可能性が高い。また製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（ $\text{TiO}_2$ ）は0.50%、バナジウム（V）は0.05%であった。また酸化マンガン（MnO）は0.02%、銅（Cu）<0.01%である。

以上の調査結果から、当製品は軟鉄を折り返し鍛錬して製作されたと判断される。また鉄中非金属介在物からは始発原料は砂鉄であった。在地素材の鍛冶具の破片であろうか。

#### 4. まとめ

博労町から出土した9世紀前半と推定される製鉄・鍛冶関連遺物を調査した結果、以下の点が明らかとなった。

- (1) 出土鉄滓のうち2点は砂鉄製錬滓に分類される。流出溝滓(BAK-4)のチタン含有率はやや高めであり( $\text{TiO}_2$ : 7.37%)、地域に分布する安山岩質の火山岩起源の砂鉄が主な製鉄原料であったと推定される。また含鉄鉄滓(BAK-7)には、砂鉄残骸とシュードブルーカイト(Pseudobrookite:  $\text{Fe}_2\text{O}_3 \cdot \text{TiO}_2$ )ないしルチル(Rutile:  $\text{TiO}_2$ )といった、高温製錬で生じる(鉄)チタン化合物の結晶が確認された。これらの製鉄関連遺物は地域周辺の製鉄遺跡から、鍛冶原料(製錬鉄塊系遺物)に混じって搬入されたものと判断される。
- (2) また出土鉄滓中には、精錬鍛冶滓(BAK-1)と高温沸し鍛接・鍛錬鍛冶滓(BAK-6)が確認された。さらに粒状滓(BAK-2)、鍛造剥片(BAK-3)など、熟間での鍛打加工が行われたことを示す微細遺物も存在する。これらの遺物群から、当遺跡では鍛冶原料(製錬鉄塊系遺物)の不純物除去の精錬鍛冶から、鉄材を熟間で鍛打加工する高温沸し鍛接・鍛錬鍛冶まで、一連の鍛冶作業が行われたと推定される。  
また鍛冶滓(BAK-1)表層に付着した微細な木炭破片から、広葉樹材が鍛冶炭に用いられたことが指摘できる。
- (3) 羽口(BAK-5)も、先端部の黒色ガラス質滓中に鉄酸化合物が品出しているため、鉄材の加熱に用いられた鍛冶羽口と推定される。耐火度は $1320^\circ\text{C}$ で古代の鍛冶羽口としては十分な性状である。
- (4) 鉄製品(BAK-8)は金属組織の痕跡から、軟鉄を折り返し鍛錬して製作された鍛造品と推定される。また非金属介在物としてウルボスピネル(Ulvöspinel:  $2\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$ )が多数確認されたことから、始発原料は砂鉄と判断される。

当遺跡の出土製錬滓(BAK-4、7)とともに生成された金属鉄(製錬系鉄塊)が原料であったと仮定しても矛盾はない。

(註)

- (1) 日刊工業新聞社「焼結組織写真および鑑別法」1968

ウスタイトは $150\sim 500\text{Hv}$ 、マグネタイトは $500\sim 600\text{Hv}$ 、ファヤライトは $600\sim 700\text{Hv}$ の範囲が提示されている。またウルボスピネルの硬度値範囲の明記はないが、マグネタイトにチタン(Ti)を固溶するので、 $600\text{Hv}$ 以上であればウルボスピネルと同定している。

それにアルミナ(Al)が加わり、ウルボスピネルとヘーシナイトを端成分とする固溶体となると更に硬度値は上昇する。このため $700\text{Hv}$ を超える値では、ウルボスピネルとヘーシナイトの固溶体の可能性が考えられる。

- (2) J.B. Mac chesney and A. Murau: American Mineralogist. 46 (1961), 572

[イルミナイト(Ilmenite:  $\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$ )、シュードブルーカイト(Pseudobrookite:  $\text{Fe}_2\text{O}_3 \cdot \text{TiO}_2$ )、ルチル(Rutile:  $\text{TiO}_2$ )の晶出は $\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$ 二元平衡状態図から高温化操作が推定される。]

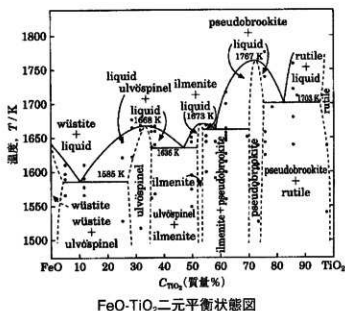


Table 1 供試材の履歴と調査項目

符号	産地名	出土地	産物名称	産定年代	計測値					調査項目					備考
					大きさ(mm)	重量(g)	細粒度	メタル度	マイクロ組織	顕微鏡	ドッホ-スチン	エプタ	EPMA	化学分析	
BAK-1	孫治開池産物 箱塚十坑下層		塊形磁鉄石 (含鉄)	9c試片	35×30×20	193	3	酸化(△)	○	○	○				
BAK-2			粒状体 (4点)		—	—	1	なし		○					
BAK-3			磁鉄石片 (6点)		—	—	1	なし		○					
BAK-4	D-2 No.801	鹿山湧出			113×80×66	715.9	1	なし		○	○		○		
BAK-5	A-2 No.804	利江			78×61×23	89.9	1	なし		○			○	○	
BAK-6	A-2 No.3714	塊形磁鉄石			89×92×36	259.8	1	なし		○	○		○		
BAK-7	D-3・4 No.39	塊形磁鉄石 (含鉄)			46×62×25	68.6	6	H(O)	○	○			○		
BAK-8	C-1 No.978	鉄製品 (鍛造品)			76×12×11	30.2	5	H(O)	○	○			○		

\*13.0測定



BAK-1 椀形鍛冶滓

- ①マクロ組織
- ②木炭破片:木口面、広葉樹材
- ③附着鍛造剥片拡大
- ④⑤滓部:ウスタイト・ウルホスビネル・ファヤライト
- ⑥⑦酸化鉄部:垂共析組織痕跡、滓部:ウスタイト・ファヤライト

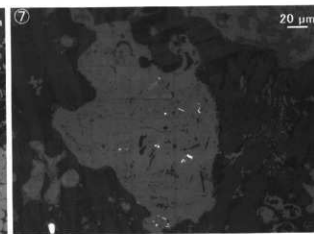
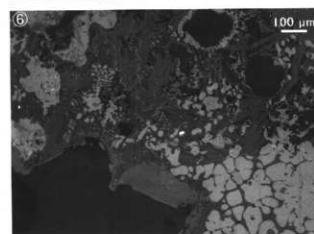
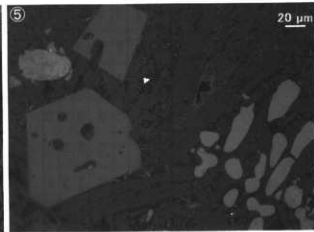
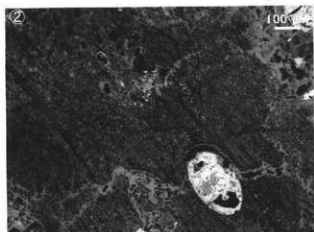
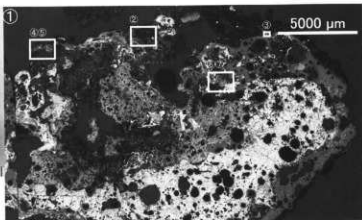
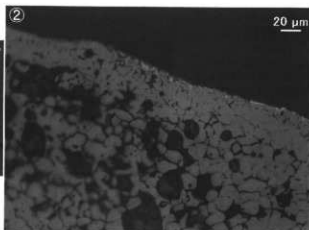
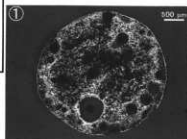
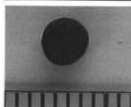
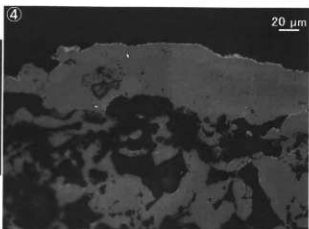
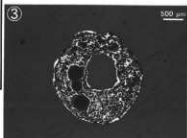
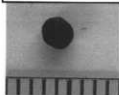


Photo. 1 椀形鍛冶滓の顕微鏡組織

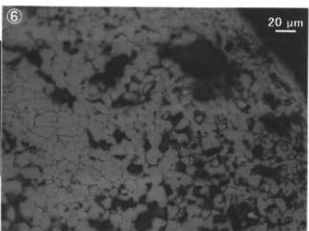
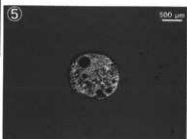
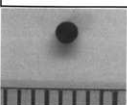
BAK-2 イー1  
粒状滓  
①マクロ組織  
②針状結晶:ヘマトイト、  
多角形結晶:マグネサイト、  
粒状結晶:ウスタイト



BAK-2 イー2  
粒状滓  
③マクロ組織  
④明白色層:ヘマトイト、  
明灰色層:マグネサイト、  
暗灰色層:ウスタイト



BAK-2 ロー1  
粒状滓  
⑤マクロ組織  
⑥ウスタイト



BAK-2 ハー1  
粒状滓  
⑦マクロ組織  
⑧針状結晶:ヘマトイト、  
多角形結晶:マグネサイト、  
粒状結晶:ウスタイト

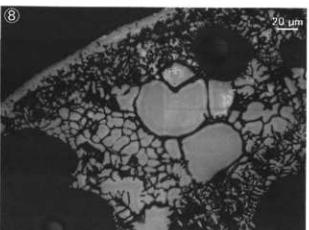
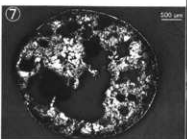
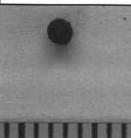
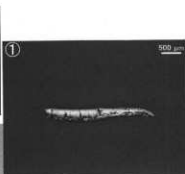
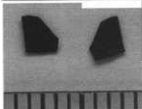
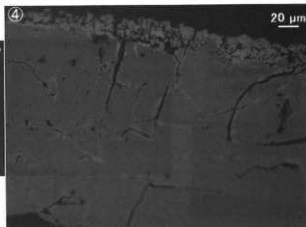
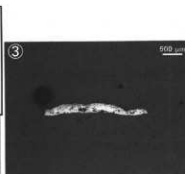


Photo. 2 粒状滓の顕微鏡組織

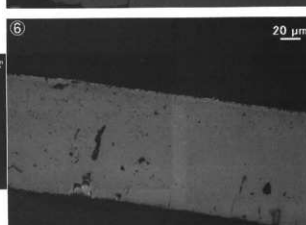
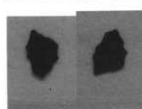
BAK-3 イ-1  
鍛造剥片  
①マクロ組織  
②明白色層:ヘマタイト、  
明灰色層:マグネタイト、  
暗灰色層:ウスタイト



BAK-3 イ-2  
鍛造剥片  
③マクロ組織  
④明白色層:ヘマタイト、  
明灰色層:マグネタイト、  
暗灰色層:ウスタイト



BAK-3 イ-3  
鍛造剥片  
⑤マクロ組織  
⑥明白色層:ヘマタイト、  
明灰色層:マグネタイト、  
暗灰色層:ウスタイト



BAK-3 ロ-1  
鍛造剥片  
マクロ組織  
明白色層:ヘマタイト、  
明灰色層:マグネタイト、  
暗灰色層:ウスタイト

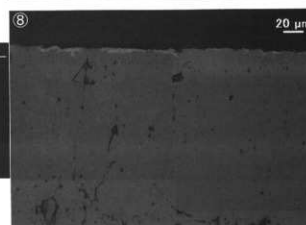
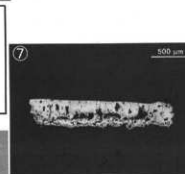
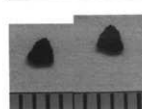
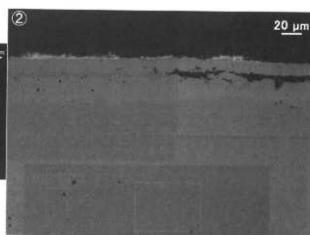
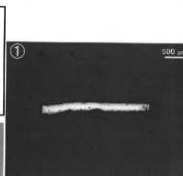
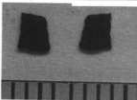


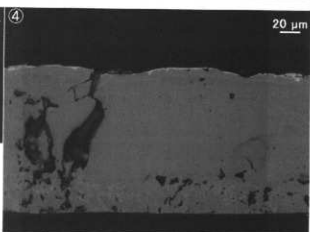
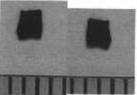
Photo. 3 鍛造剥片の顕微鏡組織



BAK-3 0-2  
鍛造剥片  
①マクロ組織  
②明白色層:ヘマタイト、  
明灰色層:マグネサイト、  
暗灰色層:ウスタイト



BAK-3 0-3  
鍛造剥片  
③マクロ組織  
④明白色層:ヘマタイト、  
明灰色層:マグネサイト、  
暗灰色層:ウスタイト



BAK-4 流出溝滓  
⑤滓部:ウルホスピネル・ウスタイト、微小金属鉄粒散在  
⑥⑦⑤の拡大  
微小金属鉄粒:オパールetch  
フェライト単相

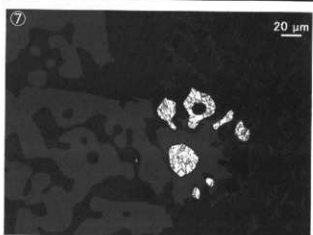
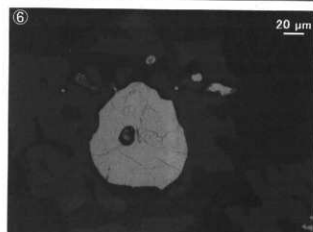
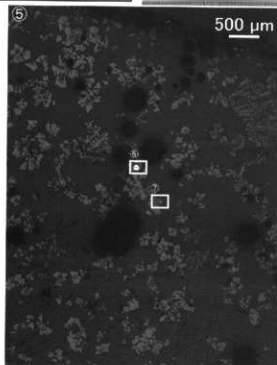
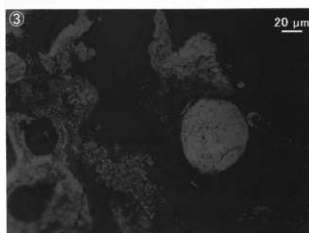
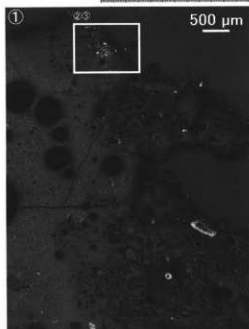
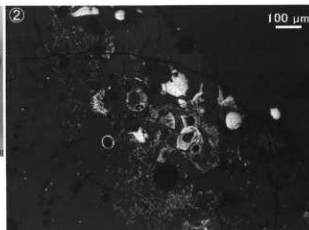
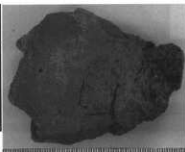


Photo. 4 鍛造剥片・流出溝滓の顕微鏡組織

BAK-5 羽口  
 ①外面表層ガラス質  
 滓、微細ウスタイト・マグネ  
 什晶出  
 ②③①の拡大



BAK-6 椀形鍛冶滓  
 ④滓部:ウスタイト・ファヤライト  
 ⑤⑥錆化鉄部:亜共析組  
 織痕跡

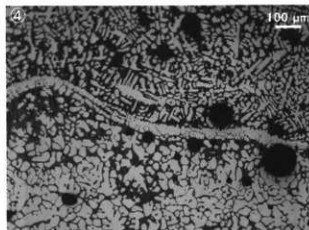
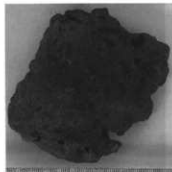
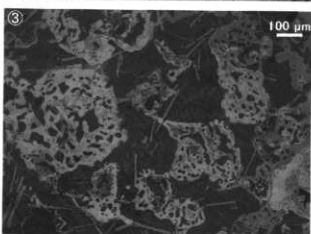
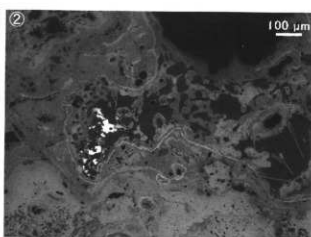
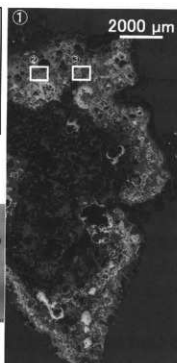


Photo. 5 羽口・椀形鍛冶滓の顕微鏡組織

**BAK-7 含鉄鉄滓**  
 ①マクロ組織  
 ②③ ①の拡大  
 滓部シュートブル-カイトない  
 シルネル、微小金属鉄粒ナイ  
 タルetch フェライト単相、微  
 小錆化鉄部多数散在



**BAK-8 鉄製品**  
 ④マクロ組織  
 ⑤~⑦ 錆化鉄部拡大  
 歪共折組織痕跡  
 介在物ウルホスピネル

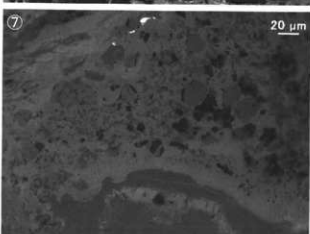
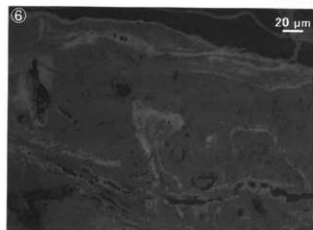
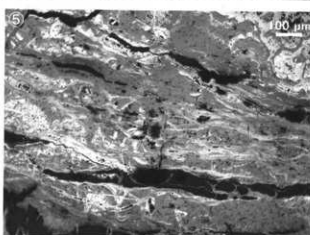
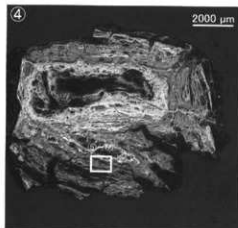


Photo. 6 含鉄鉄滓・鉄製品の顕微鏡組織

## 第Ⅳ章 特 論

### 第1節 弥生時代終末～古墳時代前期土器の検討

濱野 浩美

#### 1. はじめに

博労町遺跡では、クロスナ(Ⅲ)層中の遺構及び包含層中から膨大な量の遺物が出土している。遺物は古墳時代のものが最も多く、壺、甕、高坏等集落で一般的に出土する土器器類の他、埴輪片、玉や鏡、石製模造品、土製模造品などの祭祀遺物も出土している。これらの遺物は、滞水砂中という包蔵環境により、遺存状態が非常に良好で、個々の土器から製作過程における成形技法や器面調整に至るまで多くの情報が読み取れた。

この時期の土器に関する研究については、既に多くの研究者によって様々な切り口から編年研究が行われている。近年、渡邊 誠氏は従前の研究に基づき「古墳時代開始期における土器編年研究～山陰地域を素材として～」において当該地域の詳細な編年研究を行っている(渡邊 2009)。

本節では、この渡邊氏の編年研究をもとに、今回出土した弥生時代終末～古墳時代前期の土器について型式分類を行い、その出土傾向及び土器の特色についての検討を行った。なお、本文中に記載した遺物番号は第1分冊掲載の遺物番号に符合するものであり、個々の実測図に関してはそちらを参照されたい。

#### 2. 土器の型式分類(第1図)

ここでは、従前の研究などを参考にし、今回出土した土器の分類基準について述べることにする。

##### (1) 壺

複合口縁壺：やや長胴で、最大径を体部上半に持ち、複合口縁を呈するもの。

A類：口縁部が大きく外反、頸部付け根に突帯が巡るもの。

B類：口縁部は外反、頸部の突帯はないもの。

C類：大型で直立ないし内傾する口縁を持つもの。

複合口縁直口壺：扁平気味の体部に、垂直気味に長く伸びる複合口縁を持つもの。

単純口縁直口壺：やや長胴気味の体部に、やや外傾気味に立ち上がる単口縁を持つもの。

裝飾壺：肩部から体部にかけて貝殻復縁や竹管等による刺突文、平行沈線などの裝飾が施されるもの。

A類：扁平気味の体部最大径に突帯が巡る、いわゆる特殊壺の類のもの。

B類：突帯を持たないもの。

短頸壺：扁平な体部に、直立した短い口縁部がつくもの。口縁部に穿孔が施されるものがある。

##### (2) 甕

複合口縁甕：最大径を体部上半に持ち、複合口縁を呈するもの。

- A類：丸底を呈し、長胴気味の体部を持つもの。
- B類：小型で丸底を呈し、球胴もしくは扁平気味の体部を持つもの。
- C類：平底を呈するもの。

**裝飾甕**：口縁部にはナデ消しの溝描沈線などが施され、肩部から体部にかけて貝殻腹線や竹管等による刺突文、平行沈線などの裝飾が施されるもの。

**布留形壺**：くの字状を呈する単口縁で、布留式土器に系譜を持つもの。

(3) **小型丸底壺**：小型で丸底を呈し、屈曲する頸部に直線的に外傾する口縁をもつもの。

- A類：畿内系の土器に系譜を持つもので、扁平気味の体部に長く直線的に外傾する口縁を持つもの。
- B類：球胴気味の体部に、短く外傾する口縁を持つもの。
- C類：複合口縁のもの。
- D類：球胴ないし扁平気味の体部に、複合口縁部は短く直立ないしは内傾するもの。

(4) **小型丸底鉢**：小型で丸底を呈し、口径もしくは胴部最大径が器高より大きくなるもの

- A類：大きく広がる口縁部を持つもの
- B類：有段で屈曲する鉢状を呈するもの。

(5) **高坏**

- A類：やや深めの皿状の坏部で緩やかに湾曲し口縁端部は外反、脚裾部は緩やかに広がるもの。
- B類：布留系の高坏に系譜を持つもので、碗形の坏部に脚部は柱状、裾部は緩やかに広がるもの。
- C類：庄内系の碗形高坏に系譜を持つもので、碗形の坏部に大きく開く脚部を持つもの。
- D類：有段の大型の坏部を持ち、脚部は低めで大きく開くもの。
- E類：有段の坏部を持ち、脚裾部は緩やかに広がるもの。
- F類：プランテアグラス形の坏部を持つもの、大型と小型のものがある。
- G類：小型丸底壺A類に脚部が付くもの。

(6) **低脚坏**

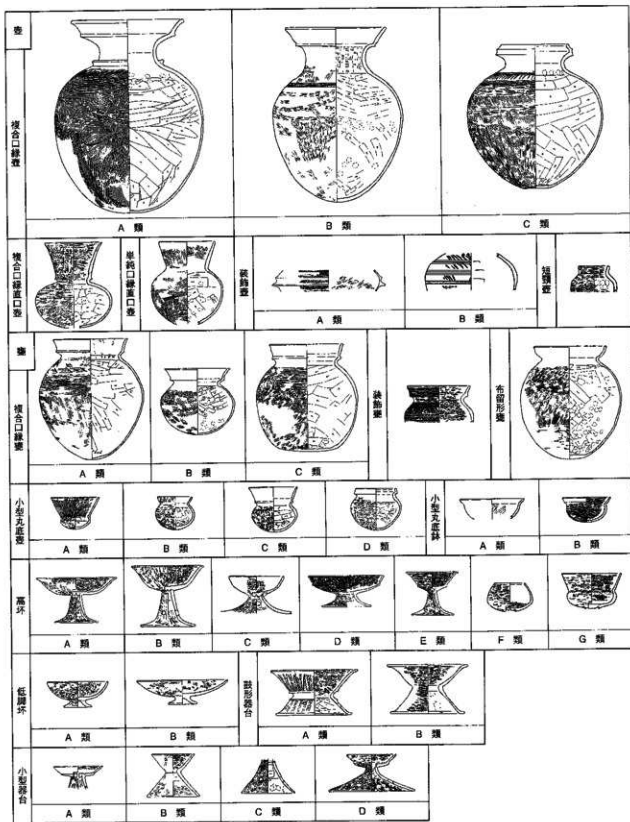
- A類：深めの碗形の坏部に、短小でありあまり広がらない脚部を持つもの。
- B類：浅めの皿状の坏部に、短小で広がらない脚部を持つもの。

(7) **鼓形器台**

- A類：接合部上下に突出部を持ち、受部に最大径を持つもの。
- B類：X形を呈し、接合部上下端に突出部を持たないもの。

(8) **小型器台**

- A類：高坏型の受部に、脚部は柱状、坏・脚接合部は円盤充填後刺突が施されるもの。
- B類：布留系の小型器台でX形を呈するもの。坏、脚接合部後穿孔が施されるもの。
- C類：小型の碗状の受部にハの字状に開く脚部を持つもの。
- D類：A類の受部に、ハの字状に開く脚部を持つ折衷型のもの。



第1圖 博勞町遺跡出土弥生時代終末～古墳時代前期土器型式分類圖

第1表 博勞町遺跡古墳時代前期出土土器種別集計表

遺構名	罎				甕				小瓶				高				甗		数形器台		小型器台		合計												
	複合口罎		複合口罎		短		複合口罎		甕		小瓶丸底		高		甗		数形器台		小型器台																
	A類	B類	C類	D類	A類	B類	C類	D類	A類	B類	C類	D類	A類	B類	C類	D類	A類	B類	A類	B類	A類	B類		C類	D類										
5区SD01								2																	2										
1区SI01		2	1					2																	7										
1区SI02								1															1		3										
1区SI03								2															1	2	6										
1区SI04		1						9																2	19										
1区SI05		1						8	1															2	25										
1区SI06								4																1	13										
2区SI02								1																1	3										
2区SI03								11	1	1														1	21										
2区SI04	2	2	2		3			73	7																152										
4区SI01								2																	10										
4区SI05								5																	5										
4区SI02								6																	8										
4区SI03	1	1	1					14																3	27										
4区SI04	2	1						5																	11										
5区SI02								10																	21										
5区SI03			1																						4										
5区SI04	1							3	1																9										
5区SI06								1																	2										
5区SI07								3																	8										
5区SI08								3																	11										
5区SI10								1	1																5										
5区SI11								2																	3										
5区SI14								5																	11										
5区SI15																									1										
5区SI16	1							3																	17										
5区SI17																									1										
5区SI18								1																	1										
1区SK06								1																	2										
5区SK18								5																	10										
1区SD02	6	15	3	4	3	1	2	1	117	9	2														309										
1区包舎榊	8	3	1					1	2	1	88	1													121										
2区包舎榊	1	4	1					1	1	13	1														57										
3区包舎榊								1	1	4															8										
4区包舎榊								4	1																16										
5区包舎榊	2	7	1	2	1			2	1	36															104										
合計	11	44	17	8	13	2	11	5	391	22	3	6	39	33	6	14	5	9	7	63	50	18	19	16	6	5	33	55	87	8	7	17	2	1	1033

### 3. 分類結果

以上の分類に基づき、博勞町遺跡の古墳時代前期に帰属する土器について、遺構別に集計を行った(第1表)。集計作業においては復元可能な個体を1点としたが、全体の形状が不明な破片資料については膨大な数にのぼるため除外した。

まず、総数で出土量が最も多かったのが甕で、全体の47%と約5割を占める。次いで、高坏の17%、壺の10%と、この3器種が主体を占める。

個別に見ていくと、壺では複合口縁壺が主体的で大型品が多い。中でも複合口縁B類が72点と壺全体の40%を占める。複合口縁部が大きく開き、口縁下端については、水平方向に突出するものと、屈曲が緩やかで頸部にかけて肥厚するものがある。このうち、特徴的なものとしては、壺頸部に沈線区画内にハケ状工具端部を連続して押し引きしたような文様が巡るものがある（2区SI04-13・5区SI03-1）。その他、包含層中では頸部や口縁部に竹管文が巡るものも僅かに見られる。

直口壺については、壺全体の19%と比較的高い出土比率である。複合口縁のものより単純口縁のものが多く、複合口縁直口壺は、精緻な胎土を用い、全体的にシャープな作りである。口縁は粘土を何条も積み上げ非常に長く伸びるものと、短めのものがあり、在地の甕との折衷型のような形状を呈するものもある。単純口縁直口壺は、口径18cm前後の大型のものと、10cm以下の小型のものがあり、いずれも器壁は厚い。大型のものでは口縁端部を逆三角状に肥厚させ、水平に平坦面を作るものもみられる。また、小型のものは体部中央に最大径を持ち肩部から口縁にかけての器壁は非常に厚くぼつりとしている（2区表採-1、2区包含層-31）。

装飾壺は、13点と壺全体の12%である。器壁は薄く、個々の文様体は数条の沈線区画内に施される。A類の装飾壺は胴部中位に断面三角形の突帯を貼り付け、その上位に連続爪形文が施される。

短頸壺は、5点と壺全体の5%である。小型で全体的に器壁が厚く、全体にヘラミガキが施される。

次に甕については、圧倒的に複合口縁甕が多く、甕全体の85%を占める。A類は、口縁端部が丸くおさめられるもの、面取りされるもの、平坦部が作られるものがある。また、下端については水平方向に突出するものと、屈曲が緩やかで頸部にかけて肥厚するものがある。主体的なものは器壁が非常に薄く全体的にシャープな作りで、口縁端部は外側に引き出され、下端は水平方向に突出するタイプである。内面は、体部から底部にかけて成形時の指頭圧痕が顕著に認められるものが多い。この圧痕は指頭によるものが主体的であるが、中には棒状工具の小口などで押圧を加えたような痕跡も認められ、製作技法を推測する上で興味深い。肩部の文様については、櫛描直線文、波状文等があり、波状文が途中から直線文になるものや全周しないものなど、退化傾向にあるものが多い。列点文については、一部のみ施文されるもの、ハの字状や三角形に一部分にのみ施文されるものもある。

B類の小型甕は、22点と甕全体の5%である。殆どは外反する複合口縁部が付くタイプである。器壁は薄く全体的にシャープな作りで、胎土も精緻で肩部に装飾が施されるものが殆どである。中には、外面にミガキが施され、成形技法的には小型丸底壺C類に近似するものもみられる（2区SI04-103）。使用痕はほとんど見られないことから、この小型甕は煮沸具などの実用品ではなく、祭祀的な器として使用された可能性が高い。この甕は大型住居跡で祭壇状の施設が検出された2区SI04で7点、大型溝の1区SD02では9点出土しており、遺構の性格を考える上で興味深い。

C類の平底甕は、点数的には3点と非常に少ない。複合口縁の端部が肥厚するものが殆どで、底部内面を指頭により平底に作りだしている。

布留形の甕については、口縁部が外反するもの、端部が内側に折れるもの、口縁中位が肥厚するものなどがある。このうち1区包含層-62など肩部に退化した波状文等の文様が施されるものもある。

この他、表には掲載されていないイレギュラーな土器に甕転用鉢2点がある。1区SI06-5は庄内系の甕体部以下を転用したもので、突出した小型の平底をもつ。内面には細かいハケ目調整が、外面にはナデが施されており、全体に丁寧な作りであるが、口縁端部は歪なまま軽くナデが施されたのみで、焼成し鉢として使用されたものと考えられる。また、1区包含層-66は、内底面は庄内系の甕の



ように底部を尖り底状にして細かいハケ調整が行われているが、外底面は底部を平底にする為かケズリを施した段階でやめている。ただし、口縁はナデが施され、未製品の状態で鉢に転用したようである。いずれも使用痕が顕著である。この2点の土器は胎土や成形技法から、同じ供給地からのものと考えられる。

次に、小型丸底壺は総数で57点と全体の5%である。このうち主体的なものA類で56%を占める。個別に見ていくと、A類は屈曲気味の非常に扁平な体部に、長く直線的に外傾する口縁を持つものが主体的である。その中には底部を欠損するものが多く、脚部を持つ可能性があるものもある。また口縁が長く伸びるものの中には端部がわずかに内湾するものもみられる(1区包含層-98)。器壁は肩部から頸部にかけては肥厚し、口縁部と底部は非常に薄くなる。胎土は赤褐色系で、精緻なものが殆どである。B類は口縁端部が尖り気味のもの、丸くおさめるものがあるが、いずれもナデにより僅かに内湾する。このタイプはA類よりはやや大型のものが殆どである。器壁は底部が比較的厚く、頸部から口縁にかけては非常に薄くなる。胎土は甕や高坏に見られるような粗い黄灰白色を呈し、在地産と考えられる。C類は、在地的な複合口縁壺B類と小型丸底壺A類の折衷型で、複合口縁部に縦方向のミガキが施されるものもある。D類は、比較的灰色に近い胎土を用い、器壁は厚く内湾する口縁端部が肥厚するものが多い。全体的に丁寧なミガキが施されるものが多い。本節では小型丸底壺に含めたが、壺と甕と小型丸底壺との折衷型と考えられる。

高坏は、全体の17%と、甕に次いで出土比率が高い。このうちA類が36%、B類が28%と高坏全体の5割以上を占める。脚部は、柱状を呈し裾部が緩やかに広がるものが多い。接合部は円盤充填法が殆どで、B類、C類などの布留系や庄内系のタイプに関しても、接合方法は円盤充填法を用いている。このうち、D類は、灰白色～黄灰色の胎土を持つものが殆どで、法量的にもほとんど近似していることから、いずれも同じ供給地の土器である可能性が高い。F類については、口径12cm以上の大型のものと、口径8cm以下の小型のものがあり、口縁端部は内湾するものと外側に引き出されるものがある。このタイプは脚部が遺存するものがなく形状が不明である。高坏は全体的に、内外面に使用痕が顕著なものも多く、中には外面に煤や焦げが付着するものも認められる。さらに脚部を欠損しているものの中には、外面の接合部付近に煤が付着し脚部との破断面も摩耗しているものが一定量出土している。これらは脚部欠損後も坏として使用していたと考えられる。このことから、高坏については供献土器としての使用だけでなく、食器や煮沸具としての使用も当然考えられよう。

その他、イレギュラーなタイプとして、1区包含層-126がある。口径10.0cmと小さく、コップ状の坏部を呈し、底部と口縁の境に段を持ち、口縁はあまり開かず垂直気味に外反する。特異な形状から、搬入品と考えられよう。また、2区包含層-52は高坏の未製品を転用した鉢と思われる。全体に仕上げのナデ調整が施されておらず、外底面中央には脚部接合のための刺突痕が施される。ただし、外面に煤が付着していることから、前述の甕転用鉢と同様に、未製品のまま鉢として使用されたものと考えられる。

低脚坏は、88点と全体の8%の出土比率である。このうちB類の皿状のタイプが63%、A類の碗状のタイプが37%を占める。B類の皿状のものについては、口縁部に輪状に煤が付くものや、外面全体に煤が付着するものがみられることから、蓋としての使用が想定できる。

鼓形器台は、全体の9%で、このうちA類が87%と主体を占める。接合部の幅は全体的に狭く、口径が器高より大きいタイプが主流である。口縁及び脚端部は強く外反するものも多く、中には完全に

反り返るのみられる。比較的小型のものについては、外面に赤彩や外面に縦ヘラミガキが施されるものがある。また、ヘラ記号が脚部内面に施されるものが多い。数条単位の斜線、「×」「ハ」などの種類がある。この記号は甕や高坏に施されたものにも通有していることから、製作者集団の印等のようなものと考えられる。その他、煮魚け状のものが付着しているものや被熱痕などが認められるものが一定量出土している。これについては、五徳等として使用した可能性も考えられよう。また4区包含層-20は坏部外面に墨痕が放射状に描かれている。非破壊による科学分析では原料が判別出来なかったが、墨書であればこの時期のものとして希少な事例と考えられる。

小型器台は、総数で27点、全体の2%を占める。このうちB類が63%を占める。このB類の中には、鼓形器台B類を小型化したような折衷型もみられる。

#### 4. 遺構出土の遺物について

次に、今回検出された遺構の中でも特徴的な遺構出土品について検討を行った。全体的な総数としては、大型溝状遺構である1区SD02が309点と突出して多い。住居跡では、当該期の住居跡内で最も大きい2区SI04で総数で152点、うち複合口縁甕80点、布留形甕7点、高坏は全部で25点と一軒の住居跡からの出土量としては最も多い。

以下、特徴的な遺構出土品について述べる。

##### 1区SD02

本遺構は調査区を縦断する大型の溝状遺構で、特に埋砂中下層から中層にかけては整理用コンテナにして86箱分もの大量の遺物が出土している。遺物は何ヶ所かに集中して出土していること、ほぼ完形もしくは完形に近い破片で出土しているものが主体的であることから、断続的に一括廃棄が行われたものと考えられよう。出土比率をみると、最も多いのは甕類の140点(45%)、次いで高坏の42点(14%)、鼓形器台38点(12%)、壺31点(10%)、低脚坏の31点(10%)となり、甕の出土量が突出している。個別に見ていくと、壺では複合口縁壺B類が15点と最も多い。このうち、C類は口径40cm前後の大型のもので、複合口縁壺、口縁は内傾し、下端は突出する。文様については肩部に波状文・羽状文・直線文等の文様が施されるものが多い。複合口縁直口壺は精緻な胎土を用い、全体的にシャープな作りである。191は体部下半に羽状文が施される。また、他より短く外側に引き出される口縁を持つものも認められる。小型壺との折衷型と考えられる。なお、直口壺のうち最下層出土の29は、突出する平底中央が凹み、球胴気味の体部に、屈曲する頸部から口縁は大きく直線的に開く。外面全体にハケ目調整後、丁寧なヘラミガキが施される。胎土は灰白色から淡橙色系で、在地品とは考えにくい。神原神社古墳の墓坑内土器埋納坑出土の直口壺に類似している(松山 2002)。

複合口縁の甕は、A類が117点と全体の中でも38%を占める。いずれも胴部上半に最大径を持つが、球胴に近いものと長胴気味のものがある。底部は丸底が主体的であるが、平底のもの、平底を意識しているものなどもみられる。形状については、口縁が外反するものが主体であるが、内湾するものもある。口唇部は平坦なものが主体的でこのほか丸くおさめるもの、外側に引き出されるものなどがあり、口縁下端については水平方向に突出するものと屈曲が緩やかで頸部にかけて肥厚するものがある。また、52・53の内底面には棒状工具の小口による圧痕が見られる。文様については、肩部が無文のものが主体で、施文されているものについても全周しないものや屈曲の緩い波状文、列点文については

一部のみ施文されるもの等全体的に退化している傾向がある。ただし、少量ではあるが76のように櫛状工具による文様が何条にも互り丁寧に施されるものもある。また、143は肩部に焼成前の×印が線刻され、151は肩部に米粒形の列点文2個が上下に施文されており、ヘラ記号であると考えられる(註1)。なお、71・124の内面頸部以下は黒色を呈する。焦げや黒斑のような焼けムラは認められず、全体的に均一に黒色であることから、この2点については、何らかの黒色処理を施された可能性も考えられよう。また、体部に焼成後に楕円形の穿孔が施されるもの、使用痕がまったく見られないB類の甕については、祭祀関連の遺物の可能性が考えられよう。

布留形の甕は、溝南側を中心に出土している。口縁が中位で肥厚するもの、口縁が内側に折れるものがある。169は粗いハケ目調整が施され、全体に粗雑な作りである。

小型丸底壺は、192～194は扁平な体部に複合口縁が付く在地系のタイプ、195～202は畿内系の系譜を持つタイプで、精緻な胎土を用い、球刷から扁平気味の体部に直線的に外傾する口縁を持つ。

高坏はA・B類が最も多い。脚部については布留系の高坏に似た、エンタシス状の膨らみを持つ細く柱状脚に細かいヘラミガキが施されるものが多い。脚接合部で破損し坏部だけ遺存しているもの多くにおいて外面に内外面に顕著な使用痕が見られ、外面には破断面を含めて煤が付着していることから、これらの土器は脚部欠損後も坏として使用していた可能性が高い。

低脚坏はB類が主体である。坏部外面や口縁部に煤が付着しているものや口縁部が剝離摩耗しているものが多く、蓋として使用された可能性が考えられる。283・284は脚部に焼成前の穿孔が施される。

鼓形器台はA類が主体である。口径より底径が小さいものが殆どである。294は受部外面に波状文が施される。300は円形透かしが2個一対で開けられている。前面等の印であろうか。また、脚部内外面に1条、4条、逆「く」の字等の線刻が施されるもの(311～314)もあり、ヘラ記号と考えられる。B類も口縁端部は外反する。

小型器台はB類が主体である。328はB類に含めたが、鼓形器台を小型化したような形状で折衷型と考えられる。

以上、1区SD02の出土遺物は弥生時代終末期～古墳時代前期に亘るものが出土しているが、下層～最下層において集中して出土した遺物を見ると、古墳時代前期中葉～後葉が中心であると考えられる。従って、この時期、1区SD02に大量の遺物が断続的に一括廃棄され、溝としての機能を停止していったものと考えられる。一括廃棄遺物は使用痕が顕著なものが主体で、その中に祭祀遺物が僅かに見られることから、想像を逞くすれば、日常生活で使用されていた土器を豊稷祭などの祭祀後に溝に一括廃棄するといった、集落内の共同祭祀が断続的に行われていたことを示すのではないだろうか。

このような多量の完形を含む遺物が廃棄された溝状遺構は、出雲平野の主要な集落などにおいても発見されている。古志本郷遺跡、下古志遺跡、田畑遺跡では集落を区画する大溝に土器を集中廃棄し、それ以降集落が廃絶している(米田2002)。こうした行為が行われた時期は、博旁町遺跡で今回検出された大溝の時期とも重複しており、当該期に出雲地域も含めた広範囲のいわゆる「山陰系土器群」を使用する共同体に通用の祭祀儀礼が存在したのではないだろうか。

## 1区SK05

土坑底面に、弥生時代終末期の広口鉢と古墳時代初頭頃の甕と鼓形器台が一括して出土した。鉢と

甕・鼓形器台は、胎土や形状も全く異なり、形態的に鉢と他の2点の間には明瞭な時期差が生じる。しかし、出土状況としてはこの3点が同時に埋納されたことが明瞭である。片口鉢は漆による補修が認められ、補修後も使用していた痕跡が認められる。このことから、鉢は弥生時代終末期から伝世的に使用され、最終的に古墳時代前期初頭に一括埋納されたことが推測できる。これは土器の製作から廃棄までの使用期間の問題や、伝世品の可能性を考える上で非常に興味深い事例と考えられよう。

## 5区SK18

今回の調査において最も多くの遺物が出土した土坑である。多量の破片の他、総数で10点のほぼ完形の遺物が出土している。器高57.4cmの大型品を含む甕A類3点と高坏A類、低脚坏A・B類が一括埋納された遺物と考えられる。いずれも黄灰白色の胎土を持ち、同じ供給地からの土器と考えられよう。出土遺物から、本遺構の時期は古墳時代前期初頭と考えられ、当該期の一括埋納資料としては良好な事例と考えられる。

## 5. 時期について

博労町遺跡出土の古墳時代前期土器を概観すると、複合口縁壺・甕、鼓形器台といった在地系のいわゆる「山陰系土器群」の中に、小型丸底壺や小型器台といった畿内系の土器群が一定量認められる。畿内系の土器群については搬入品はほとんどなく、いわゆる在地で製作された模倣土器である。さらに、在地の土器の中に畿内系土器の要素が融合した折衷型の土器が多くみられる。これは在地の伝統的製作技法である円盤充填法を用いた布留系の高坏や、複合口縁の小型丸底壺など、胎土の選別から製作技法、調整にいたるまで、当該遺跡の出土土器に普遍的に見られる傾向である。これは在地の集団が積極的に畿内系の要素を取り入れた結果と考えられる。

以上のことから、当該遺跡出土土器の年代観を考えるなら、渡邊編年のIVa期、即ち弥生時代終末期を上限とし、中心時期としては、V期からVI期、古墳時代前期中葉頃であろうか。そして下限としてはVII期、古墳時代前期末までは降らないものと考えられる。

## 6. まとめ

以上、博労町遺跡の古墳時代前期の土器について概観してみた。特に、「山陰系土器群」と言われる在来の伝統的な土器様式と搬入系の土器様式の両方の要素が1つの土器に内包される折衷型の土器が多いこと、その中でも畿内系土器群の受容が顕著に見られることは、この遺跡の土器の大きな特徴と考えられる。小型丸底壺の中には、精製した胎土を用いず在地産の粗い胎土で作られたものや、成形技法についても在地系のものが一定量みられ、在地の製作者集団が作成したのと考えられる。これは渡邊氏が既に述べられている、在来系の土器様式に新たな様式が組み込まれた変容型の土器が多く、より畿内の様相が強くなっていく段階といえよう(渡邊2008)。I区SD02出土遺物はまさにそれを裏付ける遺構で、畿内型土器の在地化現象が起こる時期が、当該遺跡における古墳時代前期の集落の中心時期と考えられる。

また斉一的な様相の中にも搬入品や個別の色彩が入り込む余地が少なからず見られることは、今回出土した異形勾玉や土製品などにも言えることであり、当該遺跡の出土遺物における特徴と考えられよう。こうした様相から、推測すると博労町遺跡で使用された土器は畿内系土器群の型式を受容しな

がらもその規制はゆるやかなものであったのではないだろうか。

今回は、床面直上出土遺物など良好な一括資料が少なく、先行研究の編年観に準ずる分類にとどまったため博労町遺跡出土土器の編年を構築するまでには至らなかった。また、搬入品の可能性がある遺物についても詳細な検討ができなかったが、古墳時代前期の米子海浜砂丘域の様相を伝える新発見を提示できたものと思われる。

(註1) 米粒形列点文等の文様については畿内の布留形甕にみられる文様パターンであるといわれている(次山1996)。しかし、今回の出土遺物を見る限りは胎土や形状から在地産のものと考えられる。

(引用・参考文献)

- 清水真一 1976「第V章考察編 土器編年論」『青木遺跡発掘調査報告書I』F・J地区 青木遺跡発掘調査団。
- 清水真一 1978「第V章考察編 土器論」『青木遺跡発掘調査報告書II』A・B・E・H地区 青木遺跡発掘調査団。
- 清水真一 1992「因幡・伯耆地域」『弥生土器の形式と編年』山陽・山陰編 木耳社。
- 高橋 護 1991「土師紀の編年 中国・四国」『古墳時代の編年』6 裕山閣出版。
- 谷口恭子 1991「土器」『岩吉遺跡Ⅲ』鳥取県教育委員会。
- 次山 淳 1995「波状文と列点文一布留系甕にみられる肩部文様の分類・系譜・分布」『文化財論叢』Ⅱ 同朋社出版。
- 牧本哲雄 1994「第5章 第1節 土器編年について」『南谷大山遺跡Ⅱ・南谷29号墳』(財)鳥取県教育文化財団・建設省 倉吉工事事務所。
- 牧本哲雄 1999「第9章 第1節 古墳時代の土器について」『長瀬高浜Ⅷ・園第6遺跡』(財)鳥取県教育文化財団・建設省 倉吉工事事務所。
- 牧本哲雄・八埜 興 1998「第8章 第1節 古墳時代の土器について」『石脇第3遺跡—森末地区・操り地区—石脇8・9号墳 寺戸第1遺跡 寺戸第2遺跡 石脇第1遺跡』(財)鳥取県教育文化財団・建設省 倉吉工事事務所。
- 松井 潔 1997「東の土器、南の土器—山陰東部における弥生時代中期中葉—古墳時代初頭の非在地系土器の動態」『古代古備』第19集 古代古備研究会。
- 松本岩雄 1992「出雲・隠岐地域」『弥生土器の形式と編年』山陽・山陰編 木耳社。
- 松山智弘 2002「第4節神原神社古墳埋納坑出土の土器について」『神原神社古墳』加茂町教育委員会。
- 湯村 功 1997「鳥取県内出土の外來系土器について」『天萬土井前遺跡』(財)鳥取県教育文化財団。
- 米田美江子 2002「第3章 第3節 搬入系遺物」『下古志遺跡』考察編 出雲市教育委員会。
- 渡邊 誠 2008「土器からみた古墳出現期の地域社会—山陰地方をケーススタディーとして—」『九州と東アジアの考古学』九州大学考古学研究室50周年記念事業実行委員会。
- 渡邊 誠 2009「古墳時代開始期前後における土器編年研究—山陰地域を素材として—」『鳥根考古学会誌』第26集 鳥根考古学会。

## 第2節 弥生時代終末～古墳時代の遺構の変遷

濱野 浩美

### 1. はじめに

今回の調査では、腐食化したクロスナ最下層～下層にかけて弥生時代終末～古墳時代前期の掘立柱建物跡1棟、竪穴住居跡29棟、土坑2基の他、大型の溝状遺構（1区SD02）1条等の大規模な集落跡が確認された。当該期の地形は2区南側を頂部として東西方向に延びる尾根状の砂丘列とその周囲の緩斜面部で構成されており、4区南端が最も低位となる。

本節では、前節に述べた出土遺物の検討を基に弥生時代終末期から古墳時代にかけて海浜砂丘域に展開した遺構の変遷について大きく3時期にまとめてみた（第1図）。

### 2. 弥生時代終末～庄内併行期

博労町遺跡に集落が形成されるのは弥生時代終末期からである。近接する錦町第一遺跡では弥生時代前期～中期に遡る遺物も出土しているが、当該遺跡ではその時期の遺物は全く出土していないことから、弥生時代終末期以前は居住し易い環境ではなかったものと推測できる。当該期の遺構として竪穴住居跡8棟、土坑1基があげられる。遺構は砂丘尾根東側の緩斜面上に検出されており、さらに東側調査区外に広がる様相を見せる。従って今回検出された遺構は、その集落域の西側縁辺部に位置するものと考えられる。この時期の特徴的な遺構としては、庄内併行期の5区SI07があげられる。本遺構は円形の平面形を呈し、土堤を敷設した中央ピットが検出されている。

### 3. 古墳時代前期

集落の規模が拡大し、大型住居跡や区画溝などの大型施設が形成され集落の最盛期を迎える。当該期の遺構としては掘立柱建物跡1棟、竪穴住居跡21棟、土坑1基の他、大型の溝状遺構（1区SD02）1条等の遺構があり、前代に比べ急激に増加する。この傾向は前代に引き続き東側緩斜面において最も顕著で、集落はさらに東側の調査区外に続いていくものと考えられる。

このうち、古墳時代前期前葉～中葉のものは掘立柱建物跡1棟、竪穴住居跡8棟で、東側斜面の大型布堀り掘立柱建物跡を中心に遺構が展開する。古墳時代前期中葉～後葉になると最も集落は盛行し、竪穴住居跡13棟、土坑1基、大型の溝状遺構（1区SD02）1条が展開する。中でも砂丘尾根を南北方向に横断する大型溝（1区SD02）はやや弧を描き、溝東側の集落密集域を開墾するような形状を呈する。さらに溝西側の砂丘尾根北側斜面にも新たに集落が出現する。特に1区北側の砂丘間低地には4棟の竪穴住居跡が確認されており、遷地して居住していたことが推測できる。この北側斜面域では大型竪穴住居跡の2区SI04が主要施設と考えられる。調査区で最も大型の竪穴住居跡で平面形態や出土遺物、祭壇状の施設などから他の住居跡とは異なった性格が考えられよう。この北側斜面の集落と、東側斜面の集落とは大型溝で区画されていることから単位集団が異なる可能性が高い。

以上のように、弥生時代終末期～古墳時代前期にかけて遺跡は尾根状の砂丘頂部の東側緩斜面を中心に展開する。特に1区SK05からは弥生時代終末期～古墳時代前期にかけての連続性が推察される遺物が出土しており、当該期に東側斜面から北側に拡大しながら連続と集落が営まれていたものと考え

えられよう。また、大型溝状遺構（1区SD02）からは大量の一括廃棄遺物が出土しており、集落内祭祀などが行われていたものと推測できる。一方、南側斜面の3区では当該期には全く遺構が検出されていない。調査区の土層堆積状況を観察すると、3区南端は粘質土が堆積する湿地であったことが分かる。居住に適した環境ではなかったであろう。

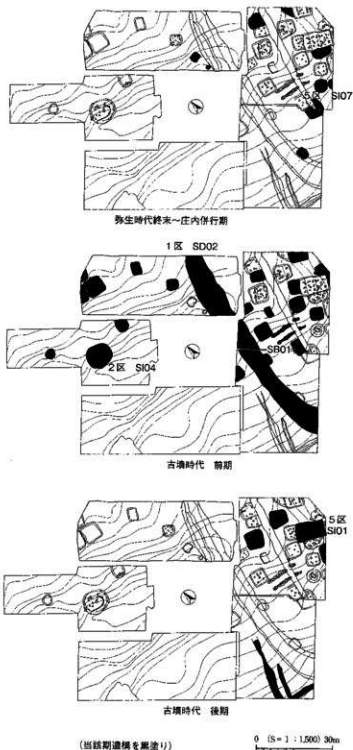
その後、古墳時代中期になると遺構は全く検出されず、遺跡は空白期となる。当該期に集落は周辺域に移動したのか、もしくは砂丘地という性格を勘案すれば、自然環境の変化により居住環境に適さない状況にあったのかも知れない。ただし、堆積土層に変化は見られず断定は難しい。

#### 4. 古墳時代後期

古墳時代後期になると、遺跡地に再び集落が形成され始める。検出された遺構は堅穴住居跡4棟、溝状遺構3条と古墳時代前期に比べ規模は小さい。ただし、堅穴住居跡は5区の東側緩斜面に集中しており、調査区外東側に居住域はさらに展開していく可能性も考えられる。検出された堅穴住居跡のうち、5区SI01は床面積86.3㎡と非常に大型のもので、主要施設の一つと考えられよう。また、低位の4区南側には溝状遺構3条が掘り込まれる。この溝は堅穴住居跡の主軸方向と直交・平行関係をもつことから、集落を区画する溝と考えられる。米子市域ではこの時期の集落の検出例は少なく、特に砂丘域においては貴重な事例である。

#### 5. まとめ

以上、博労町遺跡の弥生時代終末期～古墳時代の遺構の変遷を検討した。米子市域では今まで福市遺跡、青木遺跡等の当該期の大型集落は台地上でのみ確認されていた。しかし今回の調査により、海浜砂丘地においても大規模集落が形成されていたということが初めて確認された。目久美遺跡など日野川下流域の低湿地集落は、弥生時代後期初頭の大規模な洪水や、砂丘の発達などにより衰退し廃絶に繋がっていく。そ



第1図 博労町遺跡古墳時代遺構変遷図

のような環境下において、砂丘停滞により安定した砂丘上に生活集団が移動し、海岸域により近接する博労町遺跡に集落が形成され始めたのではないだろうか。そして古墳時代前期になると大型溝状遺構を伴う10棟前後の集落的景観を呈する。この状況は古墳時代前期後半まで続く。この状況はまさに海浜砂丘域において古墳時代前期を通じて営まれた村落が存在したという新知見を得たものである。

この集落は遺跡内では古墳時代中期には断絶するが、古墳時代後期になると再び形成される。そして、この拠点集落の支配勢力が「会見半生郷」の形成などに繋がっていくのではないだろうか。

前述のように、本遺跡は米子海浜砂丘域の腐食砂（クロスナ）層中に展開する遺跡である。このような腐食砂層に形成された遺跡として、県内では中部の湯梨浜町長瀬高浜遺跡、東部の鳥取市身千山遺跡などがある。特に、長瀬高浜遺跡は天神川下流域の砂丘域に形成された拠点集落である。博労町遺跡とは立地環境や遺跡形成過程、集落の中心時期など共通する点が多い。古墳時代前期における海浜砂丘域の拠点集落の形成は、鳥取県内に留まらず広く日本海沿岸域に通有の現象で、当該期に日本海沿岸の平野部や微高地にはこのような拠点集落が点在している。今回検出された博労町遺跡の集落は、当該期の交易流通を研究していく上でも非常に重要な意味を持つ遺跡であると考えられよう。

#### （引用・参考文献）

- 大村雅夫 2010「米子平野の考古学」【新修米子市史第十五巻 資料編 考古補遺】米子市  
岡野雅則 1999「第9章 第2節 古墳時代集落について」【長瀬高浜遺跡・図第6遺跡】(財)鳥取県教育文化財団・建設省 倉吉工事事務所  
三原一将・米田美江子 2002「下古志遺跡」考察編 出雲市教育委員会



### 第3節 博労町遺跡における古代の遺物と遺構の検討

濱野 浩美

#### 1. はじめに

博労町遺跡の調査では、奈良・平安時代の遺構として掘立柱建物跡55棟、構列5条、堅穴状土坑3棟、竈1基、溝状遺構30条、井戸2基、土塙墓1基、鍛冶関連遺物廃棄土坑1基、土坑24基、硬化面（道路状遺構）5条が検出されている。これらの遺構及び包含層中からは、7世紀から9世紀にかけての遺物が出土している。

山陰地域の古代土器については、近年岡田裕之氏を中心とした土器検討グループにより、出雲地域の須恵器の型式分類の検討作業が行われ、須恵器編年がまとめられている（岡田ほか 2010）。また、中森 祥氏は因幡・伯耆地域における古代土器の編年を提示されている（中森 2010）。

本節では、これらの編年案を基に博労町遺跡における古代土器の出土傾向を検討し、奈良・平安時代における遺構の変遷について検討を行った。

#### 2. 須恵器について

博労町遺跡出土の須恵器については、既に白石 純氏により胎土分析が行われ、大井窯跡群から7世紀後半から9世紀にかけて供給されたとの分析結果が報告されている（白石 2010）。胎土分析に使用された須恵器は、包含層中及び表採資料であるが、遺構出土資料についても肉眼観察の限りでは包含層出土のものと同様の胎土を呈することから、当該遺跡出土の須恵器の殆どは大井窯から供給されたものと考えられる。

岡田編年では、7世紀代から9世紀にかけての須恵器を型式学的変遷からI期からV期の5段階に区分し、編年が行われている。これに基づき当該遺跡出土の須恵器について検討を行った。

全体的な出土量としては、須恵器坏類が圧倒的に多い。これについて概観すると、坏類では無高台で底部が回転糸切りで体部は内湾、口縁は屈曲し外反もしくは外反気味のもの为主体である。皿類では、底部が回転糸切りで器壁は厚く底部から体部が丸味を持って立ち上がり、口縁は外傾するものが主体である。高台付のものについては高台があまり高くないものが殆どを占める。

これに対し、殆ど出土していないものは、坏では底径が小さく器壁は薄く体部から口縁にかけて直線的に外傾するものである。皿においても底部へら切り技法のものや器壁が薄く器高が非常に低く縁を持って直線的に外傾するものは遺構からは出土していない。

この他、特徴的なものとして、灯明皿形の坏が一定量出土している。これらの坏にはタール、煤等の付着していないものもみられ、すべてが灯明皿として使用されたとはいえない。また、包含層中からではあるが、鉄鉢形の鉢が数点出土している。特筆すべきは、内底面に漆の付着した須恵器壺2点（1区包含層212・242）である。いずれも底部のみの残存で、漆貯蔵具と考えられる。また、1区包含層242の坏内面には科学分析の結果、白色顔料など数種類の成分が付着していることから、パレットとして使用されたものと考えられる。須恵器転用硯では墨の他、ベンガラ、水銀朱などによる朱墨が付着したものが3点（3区包含層82・112、4区包含層106）出土している。

これらの出土須恵器を編年研究に基づき、3期に区分を行った（第1図）。ただし、包含層中から

出土した遺物については、クロスナ層全体から出土するという状況であり、時期決定資料とするには困難であることから除外している。

すなわち、Ⅰ期は坏に内傾する返りが付く段階で、Ⅱ期は底部が回転糸切りで体部は内湾、口縁は屈曲し外反もしくは外反気味の無高台坏を中心とする段階、Ⅲ期は回転台を使用した土師器坏が出現する段階、底部押圧技法のものが見られ、体部は直線的に外傾する。出土量が最も多かったのはⅡ期の丸味を持つ無高台坏の段階で、口縁端部が屈曲して外反するものから緩く内湾するものまでが全般的に出土している。

これを前述の編年観に照らし合わせると、Ⅰ期が7世紀中葉、Ⅱ期が8世紀前半～中葉、Ⅲ期が8世紀後半～9世紀前半頃と考えられよう。従って、奈良・平安時代に本遺跡で遺構が展開するのは7世紀中葉からで、遺構の中心時期としては8世紀中葉から後葉が考えられる。漆附着須恵器や転用硯はⅡ期に帰属する遺物である。

### 3. 土師器について

土師器については、総量的に少ないことから出土傾向を検討することは非常に困難であった。その中でも主体的なものとしては坏・皿類で、薄い赤色塗彩が刷毛塗りで施され、底部はヘラ削り、器高は低く、体部は丸味を持ち、口縁は屈曲気味に外反するものである。また、ヘラミガキ調整は行われるが暗文等は省略され、行われないものもみられる。これに対し、ヘラ切り後底部押圧技法、器高が高く体部が直線的に外傾するものや高台が付くものは、包含層からの出土が殆どである。その他、特徴的なものとして口縁が外反し玉縁状になるものも出土している（2区SK09-7）。これについては、同遺構出土の須恵器において灯明皿形坏が出土していることからその時期のものと考えられよう。

これらを前述の遺構出土須恵器の編年的位置づけを基に、遺構出土のものをⅠ～Ⅲ期に分けてみた（第2図）。ただし、出土総量が少なく、その変遷までは検討できなかった。

### 4. 出土遺構の特徴と変遷

前述の出土土器分類を基に、今回検出された遺構を3期に区分した。ただし、出土遺物が殆どなく、帰属時期が不明な遺構については除外した。すなわち、Ⅰ期に帰属するものが5区SD11・12、Ⅱ期に帰属するものは1区SB01～07・09～11、楯列、2区の掘立柱建物群、Ⅲ期に帰属するものは1区SB08、3区SB01～08、5区SB02である。

当該期の遺構として最も遡るⅠ期の遺構としては、5区SD11・12の2条がある。いずれも東側緩斜面に南北方向に平行して伸びている。このうち、5区SD11については幅300cm、深さ145cm、断面V字状のもので大型の区画溝である可能性が高い。この溝以外に当該期の遺構は検出されていないが、5区SD12が東側に90°近く屈曲していることを考えると、調査区外の東側に当該期の遺構群が存在し、この溝状遺構はその遺構を囲繞している可能性が考えられる。とすると、Ⅰ期の段階では遺構の中心は調査区東側にあると推測できるが、調査区内では一部のみの検出でありその断定は難しい。

Ⅱ期は遺跡の中心時期であり、砂丘尾根頂部から南北斜面に大型の1区SB01を中心とする掘立柱群が展開する。楯列と砂丘頂部に東西方向に検出された溝状遺構（2区SD11～13・5区SD04）は、この建物群を方形に囲繞している。区画内の建物群の主軸方向は、この1区SB01の主軸方向とほぼ平行直交関係を持ち、大型建物を中心とする施設であると思われる。ただし中心的建物以外は、2間

×1間の小型のものが主体であり、その配置も整然としたものではない。

Ⅲ期には、遺構の中心は尾根頂部の東西溝（2区SD11～13）南側に移るようであるが、出土遺物が少なく遺構の詳細な変遷は不明である。ただし、溝南側の空間（3区）で検出された掘立柱建物群は1区よりも密集度が高く時代もやや降ることから、1区SB01を中心とする建物群よりも後発的なものと考えられる。また、最も低位の3区南端では土坑群や鍛冶関連遺物廃棄土坑、土墳墓などが検出されていることから、この周辺域と尾根頂部付近では空間利用の違いがあったものと推測できよう。

なお、2区SD11～13（5区SD04）については、何回もの掘り替えが認められ、8世紀～9世紀前半頃までの遺物が出土している。すなわち、Ⅱ期からⅢ期にかけて踏襲された遺構と考えられる。このことから、Ⅱ期からⅢ期にかけては、遺構の連続性が考えられよう。

すなわち、博労町遺跡における古代の遺構は、7世紀中葉の東側緩斜面部から始まり、8世紀代には当該期の中心時期で砂丘頂部から南北緩斜面にかけて方形区画の建物群を中心に遺構が展開する。その後、9世紀前半までは南側緩斜面を中心に遺構は存続するが、9世紀後半代と考えられる遺構は1区SB08のみであり、以降中世まで生活の痕跡は途絶えるようである。

## 5. まとめ

以上、出土遺物から、博労町遺跡における古代の様相を検討した。当該時期に帰属する遺構については、本来的にはクロスナ上層から中層にかけて掘り込まれた遺構であるが、遺跡地のクロスナ層が肉眼観察による判別が困難で、古墳時代の遺構検出面まで掘り下げた段階で検出した遺構が多かった。このため、堆積層位による遺構の重複関係を決定することが困難であり、結果的には出土遺物からの時期比定が困難な遺構も多かった。しかしながら、方形区画に囲まれた掘立柱建物群の時期を明らかにできたことは、大きな成果であると思われる。

出土遺物の中で、特筆すべきは墨書・刻書土器28点、銅製帯金具4点（巡方2点、丸柄2点）、石帯1点、漆貯蔵具2点、転用硯27点、多量の砥石、鍛冶関連遺物などである。この出土量は一般的集落から出土する遺物様相とは考えにくく、官衙的色彩が非常に強いものである。なお灯明皿、鉄鉢形鉢や古代瓦の出土から寺院跡の可能性も想定したが、島根大学の橋本泰夫氏によれば、今回出土した古代瓦は型式的には大寺庵寺のものと似ているが出土点数が少ないこと、平瓦のみで構成されていることから、この遺跡内に古代寺院があったとは考えにくいとのことであった（註1）。

平安時代に編纂された「和名類聚抄」によれば、現在の米子市街地は伯耆国会見郡にあたり、博労町付近は国会見郡の十二の郷のうちの一つである半生郷に含まれると推定される。国会見郡の郡衙推定地としては、長者原大殿周辺域が挙げられており、実際に長者屋敷遺跡、坂長下屋敷遺跡では8世紀後半～9世紀前半に至る大型掘立柱建物跡が確認され、国会見郡衙を構成する施設と考えられている。また、坂長第6遺跡では7世紀末～8世紀代の官営鍛冶工房が検出されている（坂本 2009）。今回検出された遺構は、国会見郡衙の遺構年代とも重なっており、その関連性は高いものと考えられよう。近年、全国で郡衙の下部機関にあたる施設の検出例が増えている。奈良時代後半は郷、戸の再編が行われた時期であり、「国会見郡半生郷」設立の問題も勘案すると、検出された遺構はこのような政治的動向と非常に関連深い施設の可能性が推測できる。ただし、検出された遺構の配列は国庁域、郡衙域にみられるような整然としたものではなく、1区で検出された大型の掘立柱建物も柱穴の掘り方にばらつきがあり柱筋の通りも悪い。以上のことから、博労町遺跡において検出された古代遺構は官衙関連

の公的施設の中でも、別院や館などの官衙末端施設の一部と考えたい。

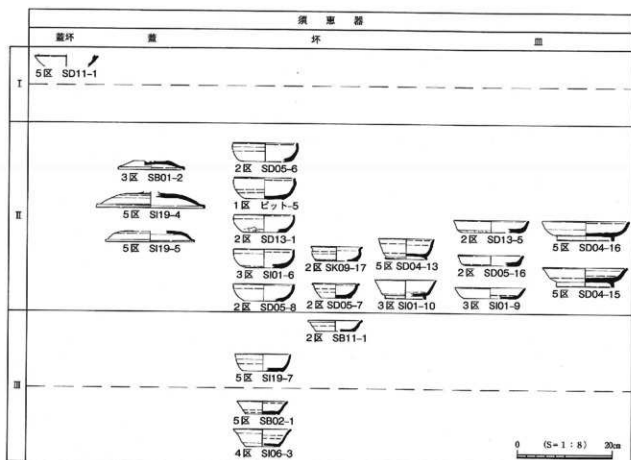
より具体的な性格にまで言及するならば、米子市域では会見郡関連遺構を含め、広く大井窯産須恵器を受容していることが胎土分析の結果から判明している（岡田 2010）。博労町遺跡出土の須恵器の中には、包含層中等から窯体付着須恵器（図版No52）や焼成不良のもの、焼成時に変形したもの等も少数ながら出土している。こうした生産地に直結する資料を積極的に評価するならば、供給地である大井窯から中海を介して運ばれた後、遺跡内で持ち込まれた須恵器の選別などが行われたという可能性も考えられないだろうか。中海・日本海に近接する海浜砂丘という立地環境を考慮すると、当該期に遺跡地は海上交易ルートにおける物資供給拠点という公的機関の「津」的な機能を担っていたという推測も出来よう。

今回検出された古代の遺構は米子海浜砂丘地で初めて発見された官衙関連の遺構であり、米子の古代史を解明していく上で貴重な事例と考えられる。

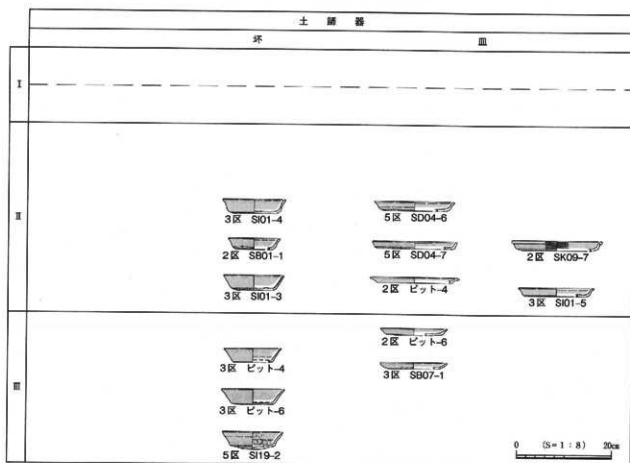
（註1） 調査中、現地にてご教示頂いた。

#### （引用・参考文献）

- 岡田裕之・土器検討グループ 2010「出雲地域における古代須恵器の編年」『出雲国の形成と国府成立の研究』 島根県古代文化センター
- 岡田裕之 2010「考古学的に見た大井産須恵器の供給問題」『出雲国の形成と国府成立の研究』 島根県古代文化センター
- 川原和人 2010「出雲地方における須恵器の特色とその背景」『出雲国の形成と国府成立の研究』 島根県古代文化センター
- 白石 純 2010「出雲地方出土須恵器の胎土分析」『出雲国の形成と国府成立の研究』 島根県古代文化センター
- 中森 祥 2010「因幡・伯耆における古代土器の編年とその様相」『出雲国の形成と国府成立の研究』 島根県古代文化センター
- 坂本嘉和 2009「第6章 総括—坂長第6遺跡と会見郡衙—」『坂長第6遺跡』（財）鳥取県教育文化財団



第1図 博勞町遺跡遺構出土須惠器変遷図



第2図 博勞町遺跡遺構出土土師器変遷図

## 第4節 出土文字資料からみる博労町遺跡の性格について

高橋 周（出雲市文化財課）

### 1. はじめに

博労町遺跡では、奈良時代の大小の掘立柱建物跡や溝・構列が確認されている。なかでも、東西棟SB01（1区）を北に、主軸を同じくする小規模な建物（SB03（1区）・SB10（2区）など）がその南に配され、櫛列1～5により方形に区画された建物群が目される。国府・郡家にみられる建物の配置形式に近い様相を呈し、当該遺跡の中心的な建物群と考えられる。さらに、その周辺には主軸を同じくする小規模な建物群が立地する。少なくとも4つの建物群に分けることができ、時期が異なるものも含むが、それぞれに機能があったとみられる。

墨書土器・刻書土器（以下、文字資料とする。）は28点（記号を含む）見つまっている。その多くが包含層から偏りなく調査区全域で出土する。ただし、中心的な建物群とみられる方形区画内からは、ほとんど出土しない。このような出土状況は、それぞれの建物群の機能を示唆している。

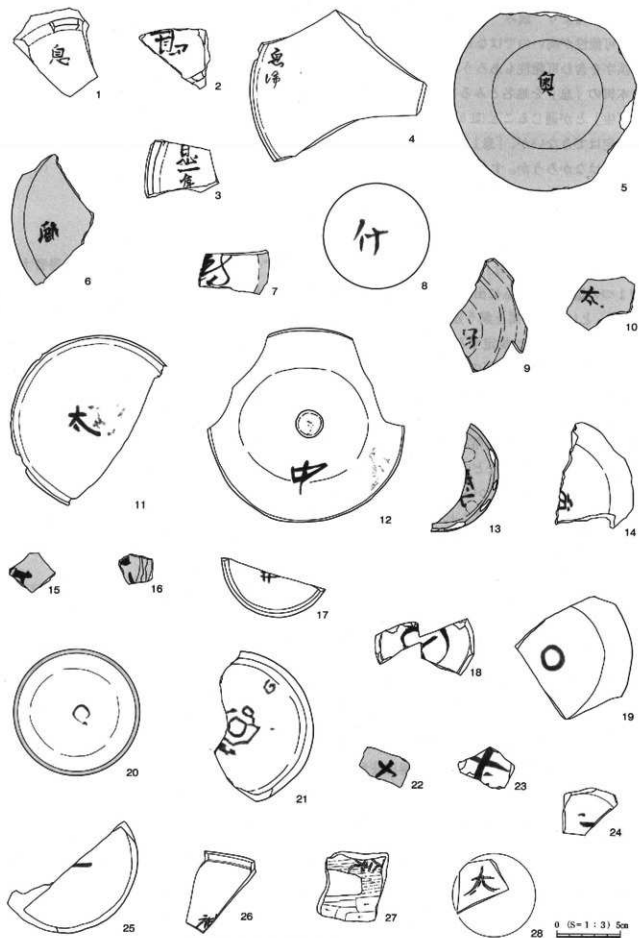
本遺跡出土の文字資料の字句は、施設の名称などを記したものを含み、遺跡の性格を推察するに足るものである。以下、特に注目される字句の意義を考察し、本遺跡の性格について検討を加えたい。

### 2. 「息」（第1図—1～4）

本遺跡出土の文字資料では「息」と記すものが多い。「息」と記す類例としては、息長氏などのウジ名を記したとみられる例がある（註1）。本例の場合、墨書きされる資料が特定の器種に限定されないことから、その所属先を示した可能性が高いとみられる。息に係る祭祀との関連も想定されるが、その祭祀に関わって「息」と記された例は管見の限りにおいては無い。本例の「息」の意義について考えると、一文字では不明とせざるを得ないが、「息一食」「息浄」などとする例が参考となる。すなわち、「息一食」と記す須恵器の坏については、本遺跡の官衛的な遺構・遺物の性格を考え合わせると、糧食を供給する施設に所属する食器を示唆するとみられる（註3）。したがって、「息」とは官衛的な施設の名称もしくはその名称の由来となった地名とみることができよう。また、「息浄」については、「浄」は人名を記した可能性もあるが、本遺跡からは鉄鉢形土器や灯明皿などの仏教関連遺物も多く出土することから、浄処といった祭祀の場に関わる器物を示唆したものと考えられる。

「息」が示す官衛的な施設については後述するが、地名としてはどのように考えられるであろうか。本遺跡は、10世紀に編纂された【和名類聚抄】（以下、【和名抄】）記載の「半生郷」に相当する（註4）。【半生】の「読み」については、一般的には「ハニユウ」とされている（註5）。おそらく、大宝2年御野国戸籍（『大日本古文書』1—58—92）に見える「半布里」を【和名抄】で「壇生」（ハニユウ）とする例から、「半生」に敷衍したものとみられる。しかしながら、同郷比定地周辺には「ハニユウ」に由来する地名が存在せず、【和名抄】の「半生」を誤写とみる説があるなど、その「読み」を含めて判然としない部分を残している。

一方、「半生」の遺称地として、本遺跡から南へ約2kmの美吉地区に残る「飯生」を指摘する説がある（註6）。ただし、その「読み」は「イケ」もしくは「イイケ」とする。「飯生」の字句を直ちに遺称とみることには躊躇するが、その「読み」には注目する必要があるであろう。すなわち、郷里名の遺称



第1図 博勞町遺跡出土の墨書・刻書土器

地には字句より“読み”を残すものが多く、「半生」は「ハニユウ」ではなく、「イケ」などと呼称された可能性が高いのではなからうか。『和名抄』の郷名表記にはしばしば誤字が見られ(註7)、「半生」が誤字を含む可能性もあろう。

本例の「息」を地名とみるならば、「イキ」と「イケ」とで音が類似すること、語義的にも「息」と「生」とが通じること(註8)など、通用する点があることに注目される。依拠する史料が少ないため断定はできないが、「息」とは郡里名を二字好字とする和銅6年(713)勅以前の地名の可能性があるのでなからうか。すなわち、上記のことから、「息(イキ)→「〇生」(和銅6年以降)→「半生」(10世紀以降)→「飯生(イケ)」といった字句の変遷が想定されるのである。

### 3. 「厩」「厨」(第1図-6・7)

本遺跡では「厩」「厨」と記した赤彩土師器片が各1点ずつ出土している。「厩」「厨」の墨書土器が1つの遺跡からともに出土する例は、福島県広畑遺跡・大船迫A遺跡に次いで3例目となる(註9)。

「厩」とは本来、馬を飼う建物の意で、厩牧令では厩に使役すべき役丁・獲丁の数や馬・乳牛に給すべき飼料について規定する(註10)。「厩」の実例として、福島県・荒田目条里遺跡出土木簡に「厩伝子丈部」と記す伝馬制の「厩家」を示唆するものがある(註11)。一方で、「厨」とは食事の調理・供給などの厨房としての機能だけでなく、食料品の調達・保管・管理、食器類の保管・管理などの機能をもっていたとする(山中1994)。「厨」と記した墨書・刻書土器は全国で800点近くあり、官衙関連遺跡のほか、一般の集落跡からも出土する。したがって、「厨」の活動は官衙だけではなく、部内巡行の国司や往来伝使などのために官衙外での食料供給にも及んだとされる(山中1994)。

本例の「厩」「厨」については、官衙的な性格をもつ遺跡であることから、周辺に立地した施設の機能を示唆するものと考えられる。

### 4. 「神」「奉」「大」(第1図-26~28)

本遺跡では、刻書土器が3点出土している。須恵器に記される「神」は焼成後に、土師器に記される「奉」「大」は焼成前に刻まれている。

「奉」は三本線に人を重ねた字体で、北海道・東北地方などを中心に東日本で多く見られる。「夷」の異体字とする指摘もあるが、本例では「奉」の略字とした。「奉」は土師器甕の頸部内側に倒位で刻まれ、「奉」の上部にさらに一文字認められる。刻まれた意図は判然としないが、興味深い資料である。

「神」は祭祀の対象もしくは関連の器物を表現する例のほか、神人・神部などの氏族名を示唆する例などがある。本遺跡周辺には中世勝田荘が立地したとの指摘もあり、本例との関係で注目される。

### 5. 博労町遺跡出土の文字資料と遺跡の性格

博労町遺跡から出土した文字資料(記号を含む)は28点を数えるが、決して多い数ではない。しかしながら、その遺構・遺物から官衙的な性格の施設の存在を想定することができ、文字資料にもその想定を裏付ける内容が含まれる。最後に、本遺跡で出土した文字資料を総体的に捉え、遺跡の性格について言及したい。

本遺跡出土の文字資料で、施設の機能を示唆するものに「厩」「厨」がある。「厩」の存在を直接示



峻する遺構・遺物はなく、包含層から同時期の馬具（第1分冊第413図-169）が見つかった（註12）。また、「厨」については、多量の食器や製塩土器・土製支脚などが出土し、同時期の井戸も認められる。したがって、「厩」「厨」が本遺跡もしくは周辺に立地した施設を示唆する可能性が高いと言える。

地方官衙における「厩」「厨」の存在形態を知り得る史料として、「上野国交替実録帳」（以下、「実録帳」）がある。「実録帳」は長元3年（1030）に国司の任務引継ぎの文書として作成されたもので、上野国各郡の施設や施設毎の建物群の内訳が記される。平安時代の史料であるが、その施設の構成要素は、八世紀以来の郡家の基本的な実態を反映しているとみなせると評価される（山中1994・森2003）。「実録帳」によると、「庁屋」「向屋」「副屋」などの郡家（郡庁）に置かれた建物群とは別に、「館」と表わされる建物群があったことが分かる。「一館」「二館」「三館」「四館」として上野国各郡には複数の館が存在し、館の施設の一部として「厩」や「厨」が記載される。この「館」の性格については、基本的に宿泊機能を主とする施設とされている。ただし、その宿泊の対象について、公使や駅使などの外来者（吉田1973・原1984）、通勤の郡司（青木1990）などとする諸説に分かれる。しかしながら、いずれの説も館が郡家に付属した施設であることを前提とする。一方で、館は必ずしも郡家周辺に所在せず、郡内の交通・宿泊に関わる施設とみる説（森2008）もある。また、館とは別に「実録帳」吾妻郡に「長田院」「伊参院」とする施設が記載される。この院については、吾妻郡長田郷・伊参郷に宿泊供給の施設として郡家から別置された館であったとする説（山中1994）、「朝野群載」にみえる「別院」（註13）、いわゆる、郡内の生産・現業の拠点である郡家別院とする説（森2008）がある。

それでは、本遺跡の性格はどのように位置付けることができるのか。本遺跡からは文字資料や転用視・水滴などに加えて、帯金具・石帯などの官人層の存在をうかがわせるものが多く出土する。また、鍛冶関連遺物の廃棄土坑が認められ、周辺に小鍛冶などの金属工房が存在した可能性が高い（註14）。包含層から見つかった鉄鏃・鉄釘・鉄製紡錘車などは、その工房での製品の可能性がある。なかでも、鉄鏃が注目される。天平六年「出雲国計会帳」（『大日本古文书』1-586-604）に「官器仗帳一卷 百姓器仗帳一卷」「新造兵器帳一卷」とあるように、律令制下、公私の兵器は国郡により把握され中央へ申上されるべきものであった（註15）。本遺跡出土の鉄鏃については、後述するように有力豪族の家内生産の一部として製作された可能性もあるが、多分に公的な性格をもつものと考えられる。

さらに、遺構についても、大型の東西棟を中心とした方形の圍繞施設をもつ建物群、その東に主軸を揃えた直・並列的な同時期の建物群が認められ、それぞれが何らかの機能をもつ一群として想定される。

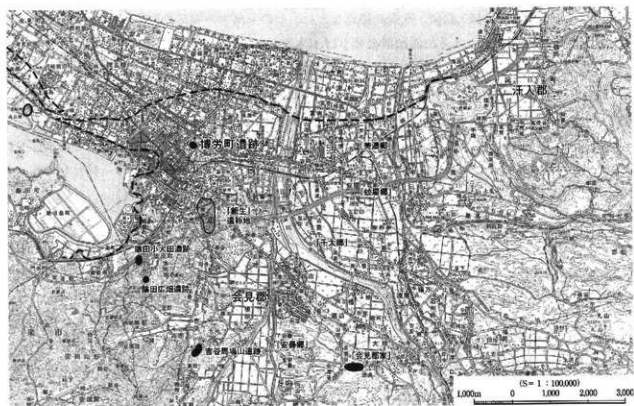
上記のように、本遺跡は官衙的な遺構の様相を呈し、かつ、手工業生産の場としての機能（註16）も想定される。したがって、郡家別院に相当する性格をもつものとみてよいであろう。一方で、大型の東西棟や「厨」「厩」などの施設の存在から、郡内の交通に関わる宿泊施設の機能をもつ館の想定も可能となる。すなわち、本遺跡は郡家別院と館の両様の機能をもつ可能性がある（註17）。

また、「厩」「厨」とともに本遺跡の性格を示唆する文字資料が、「息一食」（第1図-3）である。上述のように「息」を「半生」に先行する郷名とし、本遺跡の性格を郡家別院あるいは館とすると、「息」院の「一屋」あるいは「一館」に供する食器の意と解せることができまいか。このほか、「息」「息浄」の資料についても、「息」院などに所属する食器を示唆するものとみることができよう。

「息一食」をこのように解するならば、本遺跡から南西約3.5km離れた陰田小犬田遺跡で出土した文

字資料が注目される。同遺跡は狭小な谷底の低湿地に立地するが、本遺跡と同時期の多量の土器類や  
 甕・甔・土製支脚・製塩土器のほか、漆付着土器や鍛冶関連遺物、円面硯などが出土する。これらの  
 遺物とともに「館」「田知」などと記す文字資料が出土するため、付近に「館」の存在が想定されて  
 いる。ただし、「館」の建物群が立地するためには地形的な制約が大きいことから、報文ではその存在  
 に疑問も呈している（鳥取県教育文化財団1996）。同遺跡では、さらに「□知□」と記す木簡が出土  
 する。木簡の字句については解釈が分かれているが、共伴の墨書土器に「田知」とするものがあり、  
 その図面から判読すると、「田知一」と読むのが妥当とみられる。このように考えると、推測の域を  
 出るものではないが、同遺跡は博労町遺跡と同じ郷に相当することからして、「田知一」と「息一食」  
 と同じ施設に係る字句の可能性があるのでなかろうか。陰田小犬田遺跡を含む陰田遺跡群では7  
 世紀後葉以降、律令的支配の下で鉄器生産の操業規模の拡大が図られたとされる（註18）（鳥取県教育  
 文化財団 1996）。博労町遺跡においても鍛冶関連遺物が出土しており、その鉄の供給元として同郷  
 内の陰田遺跡群を想定するならば、同じ施設を示唆する文字資料が出土しても矛盾はないであろう。  
 また、「館」などの墨書土器についても、土器の所属先を明記したものであって、必ずしも遺跡の性  
 格を直接的に示すものではない。

上述のように、陰田遺跡群の報文では付近に「館」などの施設を想定しつつも地形的な制約から疑  
 義が呈されている。実際に同遺跡群の建物は急峻な斜面を削平したテラス上に立地し、比較的規模  
 の大きな掘立柱建物も認められるが、現地工房に付随する出先機関レベルの官衙とする方が妥当であ  
 ろう。同遺跡群の遺物として特徴的な多数の円面硯は律令的な供給関係を想定させ、会見郡あるいは同  
 郷内での有機的な関連の中に位置付けられるべきものである。同遺跡群の一つ、陰田広畑遺跡では「里  
 長」の墨書土器が出土し、陰田に存した工房に係る人的差発が郷里単位で行われたことを示唆する。



第2図 博労町遺跡とその周辺(破線は古代における汀線)

各地で出土の郡符木簡などから窺える律令的な人的差発の実態からすると、会見郡家-「息」郷の院・一館【博勞町遺跡】-「息」郷の現地工房の出入機関【陰田遺跡群など】といった関係が考えられるのである(註19)。

このように、博勞町遺跡は郡家別院あるいは館の機能をもつ「息」郷の施設と捉えることができるが、さらに交通の結節点に位置することも拠点的な性格を示唆している。奈良時代、博勞町遺跡の南東には「夜見島」があり、『出雲国風土記』島根郡条に「夜見島」との交通の様相が記される。それによると、蜈蚣島(現在の江島)から干潮時の乗馬での往来、江戸刻を経た粟江崎から船による促戸渡での往来が見られる。このような交通は令制以前からの様相に起因するものとみられ、島根半島部と「夜見島」との関係のみでなく、「夜見島」の「後背地」となる会見郡内との交通としてもみる必要がある。律令制による地方支配の中で、会見郡家から「夜見島」までのルートが確立していたと考えられ、「夜見島」を介した交通路の存在が想定されるのである。その「夜見島」への交通の結節点として、博勞町遺跡を位置付けることができるのではなかろうか(註20)。また、博勞町遺跡では窯体付着土器が見つかることも注目される。当該期の会見郡内で使われる須恵器には出雲国島根郡大井浜に所在する窯で製作されたものが多く、博勞町遺跡出土須恵器の大半は大井浜から由来することが胎土分析の結果明らかになっている(註21)。すなわち、窯体付着土器の出土は、大井浜からの製品が本遺跡へ運ばれて選別され、会見郡内へ供給されたことを示唆するものである。上記のことから、交通の結節点として、付近に「津」の機能を有する施設の存在も想定することができよう。

## 6. まとめ

博勞町遺跡出土の文字資料を手がかりに、遺跡の性格にまで言及した。史資料的な制約があり、判然としない点も残すが、博勞町遺跡は会見郡の郡家別院あるいは館としての機能を有する可能性が高いといえる。全国各地には郡家別院などの末端官衙に比定される遺跡は多くあるが、その全容が分かる例は少ない。博勞町遺跡では方形の囲繞区画を有する建物群などの遺構の様相や施設を示唆する文字資料が確認され、末端官衙の一例に加えることができよう。

さらに、古墳時代の大型堅穴住居跡が確認されるなど、令制以前から有力豪族が拠点としていた地であることも注目される。すなわち、古代における地方支配においても、従来からの有力豪族の力が利用されたことを示唆するものである。郡内の支配において、郡司職について複数の有力豪族が輪番的に任命されたとの指摘(須原1996)があるように、本遺跡を拠点とする有力豪族も郡司あるいは郡雑任に任命され、会見郡内の地方支配の一画を担ったと思われる。それは、帯金具や石帯の出土が物語っている。このように考えると、方形の囲繞区画などの遺構は公的な性格を示唆するが、その施設の運営や手工業生産の場としての機能は有力豪族の家内生産的な面に包括されていた可能性がある。水晶製辻玉を副葬する奈良後期~平安初めの土壊墓や平安前期の緑釉陶器・黒色土器の出土は、継続的に本遺跡付近を有力豪族が拠点としたことの証左となろう。末端官衙の様相が令制以前から継続的に確認できる遺跡は少なく、本遺跡は古代の地方支配の様相を考える上で全国的にも貴重な遺跡といえよう。

最後に、本遺跡の古代末以降の性格について一瞥したい。承安3年(1173)奉納の大山寺鉄製厨子には紀成盛が「会東郡地主」と称しており(註22)、古代末期には会見郡は「会東郡」と「会西郡」に分かれていたとみられる。伝承などから紀氏の根拠地としては、会見郡家の立地した長者原付近が比

定される。それに従うと、「会東郡」とは日野川右岸及び法勝寺川—小松谷川右岸の地域が相当しよう。さすれば、「会西郡」の拠点として、博芳町遺跡周辺を比定することができるのではないか。古代以来、会見郡の郡家別院としての機能の延長として捉えることができる可能性はあろう。本調査では古代末期以降の顕著な遺構・遺物はないが、畑作地としての開発が継続して行われることから、付近に拠点的な集落の存在を想定してよいのではなからうか。

米子市周辺の会見郡・汗入郡については、史資料的な制約があり、判然としない部分がおお多い。ただし、近年の発掘調査の増加で、出土文字資料を含め多くの注目すべき遺構・遺物が見つかった。これらの成果を一地方の様相として捉えるのではなく、全国的な視点に立った研究が進められることを期してつとめたい。

#### (主要参考文献)

- 平凡社『日本歴史地名大系第32巻 鳥取県の地名』1992年  
山中敏史『古代地方官衙遺跡の研究』1994年  
須原祥二「8世紀の郡司制度と在地—その運用実態をめぐって」『史学雑誌』105—7、1996年  
鳥取県教育文化財団『一般国道9号米子道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書X 陰田遺跡群』1996年  
津野仁「古代鉄器からみた武器所有と武器政策」『栃木史学』16、2002年  
平川南『古代地方木簡の研究』2003年  
森公章「郡家の施設と部署—郡雑任の執務形態との関係から」『弘前大学国史研究』115、2003年  
森公章「文献史料から見た郡家の構造と機能」『桑里制・古代都市研究』23、2008年  
桑里制・古代都市研究会編『日本古代の郡衙遺跡』2009年

#### (註)

- 「息」と記した墨書土器は、全国で10点確認される。「息福」（千葉県滝東台遺跡）、「息家」（千葉県長部山遺跡）などの例はウジ名に関わるとみられる。平城宮跡出土の資料で祭祀に関わる例があるが、習書の可能性もあり、判然としない。
- 息に係る祭祀とは、人面墨書土器や人形木製品などを使用して、自らの息を吹きかけて浄化するものである。宮都や地方官衙で行われた祭祀であるが伯耆国あるいは出雲国における類例は少ない。
- 「食」と記す墨書土器の出土例はほとんどが平城宮跡などの都城で、他に秋田城跡や湯麓館跡などで報告されている。このことからしても、官衙的な施設に関わるものと考えられる。特に本例と類似するのが、長岡京京一条三坊六町で出土する「食一」とするものである。
- 『鳥取県史1 原始古代』（1972）では、米子市南西部の旧成実村地区を中心とした地域に比定する。
- 吉田東伍『大日本地名辞書』（1899-1907）では、「ハブ」と読み、殖生・土生とする。
- 景山庸『伯耆志』（1858）などで指摘する。『鳥取藩史』（1933）によると、享保元年（1716）の「上新田村」から「上飯生村」への村名改称が初見。「新田」の地名そのものが新しいものであることから、既に周辺に存在した地名への改称とみられる。
- 例えば、『和名抄』最古の写本とされる高山寺本において、出雲国能義郡の山国郷と母理郷の間に母国郷を記し、意宇郡穴道郷を宮道郷とする。また、半生郷に続く日野郡桑には因幡国高草郡・気多郡の郡名が重複して記されるなどの混乱がみられる。『和名抄』の郷名については、池邊彌『和名類聚抄郡郷里名考證』1981に詳しい。
- 『万葉集』では「伊企」あるいは「伊吉」との仮名表記が見られるが、『日本書紀』雄略即位前紀には「気息」

との字句が見えており、早くから「息」は「イキ」として通用したとみられる。

また、息の語源についてはいずれも近世の史料ではあるが、具原益軒『日本釈名』や谷川士清『和訓栞』は「生」の義とする。

本遺跡では「興」と記した資料も出土しており、「息」を「オキ」と読む可能性も否定できない。『万葉集』には「興」を「於伎（オキ）」とする例がみえる。しかしながら、本遺跡では「息」が多く見られることや、遺跡地に「生」字が含まれることからすると、「息」は「イキ」と読まれたものとする。

- 9 『原町市史4 資料編Ⅱ』(2003)
- 10 既牧令1 既細馬条。ただし、同条は中央の左右馬寮の既を指すものとされる。
- 11 「既」と記した木簡・墨書土器の出土例は都城以外では少なく、木簡では上記の1点、墨書土器では「既」（北中寺遺跡〈三重県〉・広畑遺跡〈福島県〉）、「既酒环」（大船迫A遺跡〈福島県〉）の例が知られるのみである。
- 12 本遺跡より南へ5.5kmに位置する吉谷馬場山遺跡では「□牧」と記す墨書土器が出土している。隣接する吉谷鏡神遺跡では、「目」と記す墨書土器が出土しており、専当国司が牧を巡行した例からすると、官営の牧が存在した可能性が高い。「□牧」が本遺跡の「既」で飼育された馬の供給源となった可能性があらう。
- 13 『朝野群載』巻22「国務条々」第20条「扱吉日、可波雜公文由驛送前司事」に「次勘官舎（神社・学校・孔子廟堂并祭器・国庁院、共部郡院・駅館・厨家、及諸郡院・別院・駅家・仏像・国分二寺塔・経論等）」とみえる。同史料も古代の地方官衙の様相を示唆するものとしてあげられる。
- 14 金属工場の最終段階で使用されたとみられる多数の砥石（漆付着を含む）や漆の付着土器が見つかったことも、その証左とならう。
- 15 軍防令42從軍甲仗条で、国郡の器仗は年毎に帳簿をまとめ、朝集使により兵部省へ進奏するように規定される。各地に置かれた軍団の兵士の武器は、律令の上では弓や大刀などの武器を自備することとなっている。東日本の集落遺跡での出土例から狩猟用などの生活用具の一部として鉄鐵が使用されたと考えられ、民衆による自備は可能だったとする見解もある（津野2002）。
- 16 包含層出土の金属製品には、鉄製紡錘車も多く見つかった。直ちに付近でのその使用を示唆するものではないが、紡績・織機の作業がなされた可能性もあらう。
- 17 考古学的には遺構・遺物からの郡家別院や館の類型化は困難な現状である。「館」などの施設を示唆する出土文字資料が全国的に増加する中で、文献史料における「館」の議論と考古学的な遺構論・遺物論との整合性が図られることが望まれる。
- 18 除田遺跡群は、主として鍛錬鍛冶を中心に操業し、集団内で消費するだけの鉄器を製作していたものとする。一方で、長期にわたる鍛冶を行うには製錬鉄が必要であり、同遺跡群周辺に製錬操業を行う製鉄遺跡が存在し、同遺跡群と直接的、継続的な供給ルートをもっていたと想像できるとする（鳥取県1996）。
- 19 会見郡内における出先機関として、「厨□」と記す墨書土器が出土した八金小清水田遺跡（南部町）もそれに相当しよう。同遺跡は法勝寺川支流の上流部の狭小な谷底に立地し、鍛冶工房に関わる施設が立地したと考えられる。除田遺跡群を含め、会見郡の末端官衙のあり方について再検討する必要がある。
- 20 奈良時代における「夜見鳥」の南端の様相は判然としない。ただし、『出雲国風土記』意宇郡条に伯耆国との境として「門江浜」との地名があり、現在の境水道館と同様な地名があることは注目される。すなわち、「門江」とはある程度閉塞的な水域を示唆するとみられ、狭い瀬戸で入海（中海）と北海（日本海）がつながっていたと考えられる。今後の地質的な調査での検討がまたれよう。
- 21 白石 純 2010『出雲地方出土須恵器の胎土分析』『出雲国の形成と国府成立の研究』鳥取県古代文化センター
- 22 錦織 勲 2003『第七章 古代から中世への転換点・平安時代』『新修 米子市史』第一巻 通史編 原始・古代・中世 米子市

第1表 墨書・刻書土器觀察表 (第1圖)

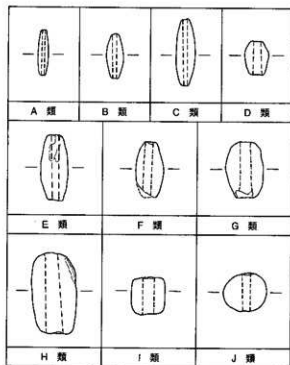
通物 No.	契文	器種	墨書部位	種類	通稱名	地区 出土層位	法量 (cm)	燒成	色調	胎土	博圖No. (第1分冊)
1	息	須惠器 環	底部外面	墨書	1区 包含層	B-2 Ⅲ-①層	器高(2.5) 底徑(9.6)	良好	青灰色	密 白色粒	第392図-200
2	息	須惠器 環	底部外面	墨書	4区 包含層	A-4 Ⅲ-①層	器高(1.5) 底徑(9.4)	良好	灰色	密 白色粒	第416図-62
3	息一食	須惠器 環	底部外面	墨書	4区 包含層	C-2 Ⅲ-①層	器高(1.4) 底徑(10.0)	良好	青灰色	密 白色粒	第416図-63
4	息淨	須惠器 蓋	口縁部内面	墨書	5区 包含層	C-2 Ⅲ-①層	口徑(17.1) 器高: 3.5	良	青灰色	密 雲母・白色粒	第428図-165
5	興	赤彩土師器 皿	底部外面	墨書	1区 包含層	W-1 Ⅲ-①層	口徑(14.8) 器高: 3.7 底徑(8.7)	良	灰褐色	密	第391図-167
6	興	赤彩土師器 皿	底部外面	墨書	1区 包含層	W-5 Ⅲ-②層	口徑(15.4) 器高(2.8) 底徑(11.9)	良	灰褐色	密	第391図-168
7	厨	赤彩土師器 皿	底部外面	墨書	3区 包含層	B-1 Ⅲ-②層	器高(0.8) 底徑(9.2)	良	灰褐色	密 角閃石・雲母	第406図-17
8	什	須惠器 皿	底部外面	墨書	5区 包含層	A-3 Ⅲ-①層	口徑(14.8) 器高: 2.5 底徑: 8.4	良	灰色	密 雲母・白色粒	第428図-166
9	□子	赤彩土師器 環	底部外面	墨書	1区 表採	1層中	口徑(13.2) 器高: 2.8 底徑(9.4)	良	橙褐色	密 砂粒	第441図-35
10	太	赤彩土師器 環	底部外面	墨書	4区 包含層	B-2 Ⅲ-③層	器高(0.6) 底徑(8.0)	良好	橙褐色	密 白色粒	第416図-59
11	太	須惠器 環	底部外面	墨書	5区 包含層	C-3 Ⅲ-②層	口徑(18.7) 器高: 4.0 底徑: 13.7	良	灰色	密 石英・白色粒	第428図-167
12	中	須惠器 蓋	口部外面	墨書	4区 包含層	B-4 Ⅲ-①層	口徑(15.0) 器高: 2.8 底徑: 5.9	良	灰色	密 白色粒	第416図-61
13	□	黑色土師 環	底部外面	墨書	5区 包含層	D-3 Ⅲ-③層	器高(2.3) 底徑(8.8)	良	褐色	密 雲母	第428図-164
14	□	須惠器 環	底部外面	墨書	2区 SK09	濠砂中	口徑(12.4) 器高: 4.1 底徑(8.9)	良	青灰色	密 白色粒	第209図-24
15	□	赤彩土師器 環	底部外面	墨書	3区 ピット	PH260	—	良	橙褐色	密	第302図-15
16	□	赤彩土師器 皿	底部外面	墨書	1区 包含層	W-5 Ⅲ-①層	器高(1.0)	良好	灰褐色	密	第391図-169
17	井 (記号)	須惠器 環	底部外面	墨書	3区 包含層	D-1 Ⅲ-①層	器高(2.6) 底徑(8.8)	良	黄灰白色	密	第410図-118
18	日 (記号力)	須惠器 環	底部内面	墨書	5区 包含層	A-3 Ⅲ-①層	器高(1.2) 底徑(7.2)	良	灰色	密 雲母・石英・ 白色粒	第428図-168
19	○ (記号)	須惠器 皿	底部外面	墨書	1区 包含層	E-4 Ⅲ-①層	口徑(13.8) 器高: 2.1 底徑(9.6)	良好	青灰色	密 白色粒	第392図-201
20	○ (記号)	赤彩土師器 皿	底部外面	墨書	5区 包含層	C-1 Ⅲ-③層	口徑(17.4) 器高: 4.3 底徑: 9.9	良	橙褐色	密 石英・白色粒	第428図-162
21	◎ (記号)	須惠器 環	底部外面	墨書	3区 包含層	C-1 Ⅲ-②層	口徑(17.8) 器高: 3.7 底徑(11.8)	良好	赤褐色	密 白色粒	第410図-117
22	× (記号)	赤彩土師器 環	底部外面	墨書	3区 包含層	B-1 Ⅲ-②層	—	良	橙褐色	密 白色粒	第406図-18
23	× (記号)	赤彩土師器 環	底部外面	墨書	3区 包含層	A-1 Ⅲ-②層	—	良	橙褐色	密 石英・白色粒	第406図-19
24	□ (記号力)	須惠器 環	底部外面	墨書	5区 包含層	B-1 Ⅲ-①層	器高(0.9) 底徑(6.8)	良	灰色	密 白色粒	第428図-169
25	□ (記号力)	須惠器 皿	底部外面	墨書	5区 包含層	C-3 Ⅲ-①層	口徑(17.0) 器高(3.8) 底徑(11.4)	良好	灰色	密 砂粒	第428図-170
26	神	須惠器 皿	底部外面	線刻	5区 包含層	D-2 Ⅲ-①層	器高(1.4) 底徑(14.8)	良	灰色	密 白色粒	第429図-171
27	□ (筆力)	土師器 蓋	頸部内面 両面	ヘラ 書き	3区 包含層	D-1 Ⅲ-①層	器高(5.6)	良	褐色	密	第406図-14
28	大	土師器 環	底部外面	ヘラ 書き	3区 包含層	A-2 Ⅲ-③層	底徑(6.0)	良	黄灰白色	密	第406図-20

## 第5節 博労町遺跡出土の土鍾について

平木 裕子

博労町遺跡では約680個の土鍾が出土した。米子市内の今までの調査で一度にこれだけの数の土鍾が出土した例がないため、今回若干の分類を行ってみた。最も多く出土したのは3区の311点、次いで4区の160点となる。出土した土鍾のうち約80個は破片のため形態が不明であるが、残り約600個を形態別に次のようにAからJの10種類に分類を行った。

A類…最大径1.6cmまでの細身のもの
B類…中央部がやや膨らみを持ち、長さ5.0cmまでの中型のもの
C類…中央部がやや膨らみを持ち、長さ5.0cm以上のやや大型のもの
D類…全体的に膨らみがあり、長さ3.5cmまでの小型のもの
E類…全体的に膨らみがあり、長さ6.0cmまでの中型のもの
F類…全体的に膨らみがあり、長さ6.0cm以上のやや大型のもの
G類…最大径と端部の径の差が小さく、やや作りが雑なもの
H類…長さ・最大径共に大型のもの
I類…断面が長方形のもの
J類…球形のもの
Z類…形態不明のもの(破片)



第1図 土鍾分類図

の中で、A～F類は大きさからみて刺網・投網用と考えられ、B・C類、D・E・F類は、それぞれ長さの違いだけで同形状のものとする。

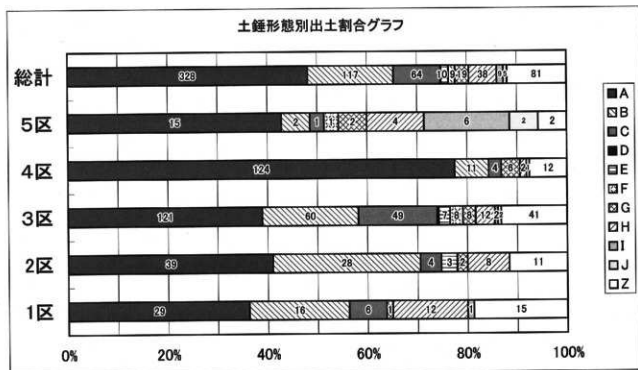
次に出土量(第1表)を見てみるとA類が最も出土量が多く、全体の約55%を占める。区域ごとの出土傾向をみても、各区域ともA類の出土量が最も多く、区域内の約50%をA類が占めるが、中でも4区では特に多く約84%を占める。次いでB・C類が多くみられるが、重量の軽いA～C類が多いのは当然であろう。では投網1枚に対してどの程度の鍾が必要なかは、捕獲する対象物によって、網の大きさも異なり鍾の数・大きさも変わってくると思われる。そこで、鍾をつけた状態で網が副産品として埋葬されたと考えられている鳥根県の小才1号墳を参考に考えてみると、約184個の土鍾が出土していることから、例え今回出土した土鍾が同時期に使われたものであったとしても2・3枚程度であったと考えられる。この枚数が当時の生活においてどのような意味を持つかは不明である。さらに博労町遺跡の地理的位置を考えるならば、恐らく漁の中心は美保湾であったと考えるならば、投網以外にも曳網・巻網などの漁も行われていたであろう。これを裏付けけるかのように、重量が100gを超える大型寸胴のH類の出土量も比較的多い。

次にI J類であるが、これらは一般的な土錘とは形状の異なるものである。どのように使用されていたかは不明である。内田律雄氏※によると土錘の大きさの違いは時期的なもので、時代が新しくなるにつれて小型化、軽量化しているとあるが、今回の調査では、層位的にみて時期的に大きな違いは見られなかった。漁の種類によって網の大きさ・形態が変わり、それに伴って錘の数、大きさ等は異なってくると思われる。今回の調査では網本体及び魚の骨等の当時の漁撈の様子を知る手がかりを確認することはできなかった。

次に出土分布状況を見ると、2区から5区にかけて伸びる尾根の南西側に特に集中し全体の出土量の約70%強を占める。(第2図)。これは浜の陰になる傾斜地を利用して網を乾燥あるいは、補修等していたとは考えられないだろうか。

また数は少ないが石錘も50点近く出土していることからまた別の漁撈網の存在も窺える。石錘のほとんどは礫石の両端を打ち掻いたものであるが、5区SI-06・10ではラグビーボール型に成形した石に十字に紐を掛けるための溝を施したものや、4区では隅丸直方体の一方をやや細身にし円孔を施した形態のものもみられる。また軽石製の浮子なども確認されている。今回の調査では、漁の種類・網の大きさ等は不明であるが、地形的にも海に近く、比較的漁が身近なものであったことは想像がつくであろう。

※『古代日本海の漁撈民』 内田律雄 同成社 2009年



第2図 土錘出土状況グラフ



第1表 博労町遺跡出土土錘一覧表(No.1)

No	1区					2区					3区					4区																									
	%	長	最大径	口径	内径	%	長	最大径	口径	内径	%	長	最大径	口径	内径	%	長	最大径	口径	内径																					
5	1.4	0.85	0.93	0.6	1	1-4	2.03	1.26	0.78	0.5	46	A	3706-1	-	-	-	-	-	-	3009	-	-	12	0.7	0.95	0.4	A														
5	4.0	1.4	0.96	0.65	A	1.14	-	-	-	0.47	7.1	A	3016	-	-	-	-	-	-	3019	-	-	1.07	0.74	0.4	A															
5	3.8	1.4	0.94	0.63	5.5	A	1-15	-	-	1.18	0.62	0.4	A	3018	-	-	-	-	-	2012	-	-	3.17	1.08	0.8	0.4	B														
3	0.9	0.8	0.6	0.4	A	3005	-	-	-	0.34	2.0	A	4005	-	-	-	-	-	-	3013	-	-	1.37	0.7	0.32	0.4	A														
5	4.8	1.2	0.6	0.42	7.9	A	1-17	-	-	0.76	0.27	1.4	A	4001	2.4	1.7	0.82	0.5	21(8)	3705-1	-	-	-	-	-	0.44	1.7	A													
5-4	-	2.36	0.86	0.5	6.3	A	279	4.4	2.27	0.76	0.46	5.9	A	3008	-	-	-	-	-	3010	-	-	-	-	-	0.41	2.2	A													
5-4	-	1.28	0.9	0.63	3.3	A	862	-	-	0.9	0.4	2.4	A	3007	-	-	-	-	-	3009	-	-	-	-	-	0.41	2.2	A													
5-7	-	1.18	0.92	0.4	2.8	A	1189	-	-	1.1	0.64	0.34	3.5	A	1-4	4.65	1.44	0.8	0.4	8.0	A	3154	-	-	1.27	-	0.4	6.4	A												
309-2	-	1.29	0.77	0.4	3.4	A	1866	4.96	1.73	0.56	7.7	A	1-3	-	-	-	-	-	-	3001	-	-	1.4	0.75	0.32	6.8	A														
659	-	1.2	0.6	0.32	A	2750	-	-	-	0.36	0.3	A	1-6	-	-	-	-	-	-	3220	-	-	1.2	0.7	0.4	6.2	A														
471	-	4.3	1.4	0.5	0.77	A	3985	-	-	-	0.94	0.2	A	1-7	4.1	1.14	0.61	0.32	5.4	A	3048	-	-	-	-	-	0.66	2.6	A												
682	-	1.2	0.64	0.32	A	2069	3.89	1.44	-	-	-	-	A	1-8	-	-	-	-	-	3050	4.46	-	-	-	-	1.27	0.36	5.0	A												
682	-	1.5	-	0.2	8.1	A	3703	-	-	-	0.82	0.5	4.5	A	1-9	3.58	1.1	0.68	0.36	2.5	A	3256	3.4	-	-	-	-	0.88	0.4	A											
682	-	1.68	-	-	4	A	3054	-	-	-	0.4	4.2	A	13-1	4.13	1.44	0.75	0.35	8.6	A	3256	3.4	-	-	-	-	1.2	1.02	0.5	6.4	A										
1211	-	1.52	0.83	0.43	5	A	3239	-	-	-	1.43	1.06	0.4	6.9	A	13-2	-	-	-	0.94	0.82	0.24	2.9	-	-	3.29	1.83	0.94	0.47	0.3	3.0	A									
1469	-	4.8	1.4	0.86	0.4	7.7	A	3351	-	-	-	0.82	0.3	3.1	A	5.9	-	-	-	0.5	0.28	0.22	A	3070	4.43	1.18	0.7	0.33	6.0	A											
1750-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-											
2050	-	4.4	1.4	0.72	0.4	8.7	A	3352	-	-	1.22	0.57	0.4	6.9	A	125	4.1	0.9	0.6	0.16	2.4	A	3277	-	-	-	-	-	0.96	0.56	4.4	A									
2050	-	4.4	1.3	0.62	0.4	7.6	A	3359	-	-	4.36	1.35	0.5	4.8	5.7	A	239	2	0.9	0.47	0.55	2.6	A	3299	1.76	1.08	0.66	0.27	6.3	A											
2795	-	4.3	1.3	0.3	0.4	6.1	A	3681	-	-	1.46	0.69	0.44	10.3	A	303	-	-	-	-	0.34	0.3	A	3352	3.29	1.0	0.9	0.37	6.1	A											
3027	-	1.5	-	0.48	0.23	0.6	A	3682	-	-	-	0.94	0.41	2.7	A	487	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.4	4.0	A										
3127	-	4.7	1.5	0.79	0.47	9.7	A	3709	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.46	2.2	A									
3349	-	4.6	1.5	0.83	0.56	2.8	A	4079	-	-	1.47	0.86	0.5	8.1	A	483	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.7	A									
3352	-	4.7	1.3	0.6	0.3	A	4138	-	-	4.32	1.91	0.94	0.47	7.2	A	494	4.1	1.2	0.7	0.35	4.9	A	3601-1	-	-	-	-	-	-	-	1.4	A									
3602	-	4.6	1.6	0.8	0.48	9.2	A	4184	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.7	A									
3607	-	1.26	0.7	0.48	0.5	A	4553	-	-	-	1.62	0.56	0.34	8.8	A	722	4.3	1.4	0.74	0.4	7.2	A	3601-2	-	-	-	-	-	1.3	0.7	0.32	6.4	A								
3607	-	4.3	1.2	0.67	0.35	5.8	A	4541	-	-	-	1.32	0.6	0.3	7	A	746	-	-	-	0.37	0.33	3.2	A	3601-3	-	-	-	-	-	0.83	0.37	1.7	A							
3927	-	4.4	1.4	0.9	0.52	7	A	4658	-	-	-	0.3	1.6	A	756	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.77	0.4	2.9	A								
4528	-	4	1.4	0.64	0.38	7.2	A	4971	4.63	1.33	0.63	0.4	7.6	A	707	4.7	1.35	0.8	0.35	6.8	A	3439	-	-	1.18	-	-	0.38	0.4	2.4	A										
4	1.6	1.6	0.7	0.4	1.1	B	2990	-	-	1.67	1.35	0.5	8.7	A	276	4.1	1.1	0.7	0.35	3.2	A	3467	-	-	-	-	-	0.83	0.4	2.4	A										
5	4.5	1.6	1.05	0.54	7.2	A	5025	-	-	1.27	0.28	0.3	4.3	A	403-1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.36	4.9	A								
5	4.5	1.6	0.85	0.5	8.8	A	6235	-	-	-	0.33	0.5	A	469	4.38	1.3	0.7	0.35	6.3	A	3505	4.85	-	-	-	-	-	-	-	1.04	0.4	2.7	A								
5	4.5	1.6	0.86	0.52	7.9	B	6096	-	-	-	1.58	0.36	6.3	A	904	3.38	1.02	0.65	0.53	7.1	A	3641	-	-	-	-	-	-	-	-	0.36	4.5	A								
5	4.2	1.6	0.8	0.5	8.5	B	7464	-	-	-	1.06	0.6	0.3	7.9	AB	929	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.33	2.9	A								
5	4.3	1.5	0.7	0.57	7.2	B	3414	2.84	1.54	0.66	0.42	1.4	AC	945	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.23	6.3	A								
5	5.6	1.8	0.93	0.5	8.6	B	1-7	-	-	4.9	1.82	0.86	0.5	12.0	B	986	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.42	2.1	A							
4	4.84	1.73	0.89	0.4	11.7	B	1.8	4.67	1.59	0.7	0.5	8.6	B	3749-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.26	0.63	0.43	6.9	A					
38	4.25	1.65	1.2	0.59	1.5	B	6214	-	-	4.17	1.58	0.67	0.4	7.7	B	3117	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.05	0.74	0.8	3	A				
39	4.2	1.5	0.67	0.4	8.7	B	1-13	-	-	1.64	1	0.4	8.1	A	1126	4.9	1.3	0.7	0.35	6.7	A	4122	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.37	5.3	A							
39	4.3	1.5	0.63	0.4	8	B	48	4.1	1.4	0.7	0.36	7.8	B	1114	2.52	0.6	0.62	0.23	4.1	A	4126	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.23	0.73	0.37	7.4	A					
2813	-	4.7	1.5	0.94	0.48	7.6	B	1123	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.2	0.8	1.7	A						
2144	-	4.4	1.6	0.72	0.46	8.9	B	1323	-	-	1.44	1.56	0.9	0.5	9.5	B	1276	3.06	1.38	0.71	0.38	6.6	A	4137	-	-	-	-	-	-	-	0.84	0.24	9.1	2.3	A					
2611	-	3.7	1.7	-	-	0.38	9.2	A	3204	4.1	1.55	0.9	0.4	8.8	B	1338	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.59	0.4	4.6	A					
3053	-	4.4	1.7	0.88	0.4	9.1	B	3301	-	-	1.42	1.18	0.6	9.4	B	1376	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.7	0.4	4.6	A					
30-1	-	4.7	1.72	1.16	0.56	11.8	B	3350-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.08	0.5	9.5	B				
3	5.1	1.5	0.74	0.31	8.9	A	3392	4.82	1.67	0.8	0.44	8.9	A	1413	4.75	1.1	0.7	0.3	3.6	A	4135	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.95	4.36	1.88	1.05	0.42	12.7	B
5	5	1.9	0.8	0.44	1.17	C	3393	-	-	4.32	1.7																														

博芳町遺跡出土土鍬一覽表(No.2)

3区					4区					5区																	
No.	表土	段層	深	内径	No.	表土	段層	深	内径	No.	表土	段層	深	内径													
2701	47	17	1.01	0.67	86	B	3200	358	1.6	1.1	62.2	G	81	39	0.96	0.53	0.3	A	2925	258	0.92	0.66	0.30	B			
2703	41	154	0.96	0.67	82	B	3096	726	3.51	1.45	1.11	83.7	G	86	306	1.11	0.59	0.3	A	2926	448	1.05	0.76	0.28	A		
2714	458	168	1.08	0.32	79	B	325	857	4.84	2.12	1.5	151.9	H	103	358	1.06	0.57	0.3	A	2927	93	1.26	-	-	-	-	
2812	-	138	0.5	0.39	79	B	617	877	4.2	1.44	1.04	101.4	H	137	319	1.5	0.8	0.3	A	2942	49	1.1	0.82	0.2	A		
2894	126	126	0.51	0.3	79	B	657	835	4.28	2.1	1.46	120.9	H	140	-	1.12	0.67	0.33	A	2997	448	1.12	0.75	0.24	B		
3027	17	174	0.84	0.4	61	B	1292	35	4.28	1.9	1.4	137.6	H	164	-	0.90	0.3	A	3002	35	0.88	0.64	0.24	A			
3090	46	18	0.63	0.4	342	B	3272	-	4.13	-	1.22	108.1	H	178	2	3.48	1.2	0.7	0.35	A	3032	41	1.07	0.86	0.33	A	
3003	462	128	0.9	0.43	131	B	1455	87	4.7	3.1	1.66	161.8	H	179	35	-	0.5	0.44	0.2	A	3022	-	-	0.87	0.3	B	
3137	-	186	-	-	74	B	1253	76	4.1	1.88	1.3	101.8	H	186	136	1.43	0.96	0.47	A	3024	-	-	1.39	0.39	B		
3207	11	1.66	0.9	0.48	8	B	2031	938	4.26	1.8	1.38	192.7	H	195	472	1.22	0.7	0.43	A	3028	365	1.14	0.76	0.4	B		
3283	48	173	0.8	0.41	333	B	2175	735	4.88	2.68	1.9	132.1	H	247	342	1.3	0.68	0.32	A	3333	4	1.08	0.6	0.22	A		
3300	414	17	0.9	0.46	78	B	2319	380	4.88	2.68	1.9	132.1	H	266	41	1.15	0.72	0.43	A	3665	398	1.08	0.92	0.35	A		
3479	19	172	0.98	0.53	103	B	3201	-	-	-	137	71.6	H	268	21	0.90	0.6	0.36	A	3	3.47	1.77	0.84	0.27	B		
3522	42	143	0.25	0.30	77	B	3428	730	4.1	1.7	1.0	84.9	H	281	-	-	0.75	0.38	0.1	A	7	1.46	1.37	0.5	0.35	B	
3617	46	1.6	0.62	0.36	9	B	145	376	3.93	2.64	0.9	84.3	H	284	-	-	0.75	0.38	0.1	A	9	1.41	1.63	0.88	0.5	B	
371	1	598	1.34	1.1	0.5	17.1	C	3249	28	3.57	3.2	1.03	107.1	H	348	-	-	0.97	0.52	0.29	A	1	1.7	1.2	1.48	0.72	B
4	2	205	1.81	1.1	0.4	36	C	772	38	4.22	2.1	1.0	77.4	H	349	342	1.26	0.82	0.3	A	4	3.44	1.68	1.19	0.93	A	
44	5.36	186	1.82	0.67	36.9	C	1400	353	-	-	-	48	116	H	347	362	1.34	0.86	0.38	A	4	1.37	1.7	1.54	0.64	A	
85	5.01	126	0.9	0.6	34.3	B	111	-	-	-	-	-	H	347	362	1.34	0.86	0.38	A	4	1.37	1.7	1.54	0.64	A		
89	1.08	1.85	0.44	0.13	3	C	130	-	-	-	-	-	H	417	378	1.18	0.7	0.4	A	4	2.07	-	2.03	1.28	0.86	B	
113	5.05	1.5	0.91	0.4	17.3	C	121	-	-	-	-	-	H	419	476	1.38	0.74	0.37	A	4	2.74	-	-	1.05	0.69	B	
120	5.5	1.86	0.8	0.53	21.9	C	284	-	-	-	-	-	H	431	455	1.2	0.7	0.24	A	4	2.95	4.84	1.33	1.23	1.12	B	
126	4.64	1.84	1.27	0.48	17.7	C	343	-	-	-	-	-	H	471	412	1.2	0.67	0.31	A	4	2.90	4.03	1.47	0.92	1.39	A	
1371	6.23	1.83	0.93	0.48	19.2	C	343	-	-	-	-	-	H	472	412	1.1	0.67	0.31	A	4	2.92	4.33	1.67	1.02	1.14	B	
1342	4.35	1.95	1.06	0.5	19.2	C	343	-	-	-	-	-	H	472	412	1.1	0.67	0.31	A	4	2.92	4.33	1.67	1.02	1.14	B	
1595	5.1	1.7	0.9	0.4	14.3	C	400	-	-	-	-	-	H	529	465	1.22	0.88	0.37	A	4	3.11	3.12	2.2	1.53	2.05	A	
1736	4.02	1.7	0.86	0.43	15.6	C	409	-	-	-	-	-	H	529	465	1.22	0.88	0.37	A	4	3.11	3.12	2.2	1.53	2.05	A	
1781	5.8	1.8	0.93	0.44	18.1	C	1045	-	-	-	-	-	H	545	-	0.84	0.51	0.22	A	4	3.06	5.48	1.8	0.75	0.4	B	
1788	3.33	1.97	1.06	0.53	16.4	C	1171	-	-	-	-	-	H	564	442	1.3	0.61	0.26	A	4	1.89	3.04	2.14	1.12	0.96	B	
1742	6.57	1.9	0.9	0.44	20.2	C	1040	-	-	-	-	-	H	629	476	1.1	0.68	0.29	A	4	2.91	7.03	3.23	2.2	1.2	B	
1780	6.77	2.13	0.9	0.5	21.5	C	1171	-	-	-	-	-	H	629	476	1.1	0.68	0.29	A	4	2.91	7.03	3.23	2.2	1.2	B	
1873	5.53	1.77	0.88	0.4	15.6	C	1171	-	-	-	-	-	H	629	476	1.1	0.68	0.29	A	4	2.91	7.03	3.23	2.2	1.2	B	
1948	4.63	1.9	0.88	0.4	21.1	C	1366	-	-	-	-	-	H	640	-	-	0.68	0.23	A	4	2.71	6.77	3.24	2.06	0.91	B	
1954	5.21	1.68	0.85	0.43	30.9	C	1370	-	-	-	-	-	H	640	-	-	0.68	0.23	A	4	2.71	6.77	3.24	2.06	0.91	B	
2098	5.8	1.94	1.02	0.4	18.7	C	1503	-	-	-	-	-	H	640	-	-	0.68	0.23	A	4	2.71	6.77	3.24	2.06	0.91	B	
2690	3.18	1.87	0.73	0.42	16.1	C	1659	-	-	-	-	-	H	640	-	-	0.68	0.23	A	4	2.71	6.77	3.24	2.06	0.91	B	
2907	6.87	1.9	0.9	0.5	25.4	C	1795	-	-	-	-	-	H	672	425	1.08	0.74	0.25	A	4	3.01	-	-	1.06	0.65	B	
3030	5.2	1.7	1.04	0.5	18.1	C	1796	-	-	-	-	-	H	699	-	-	0.73	0.36	0.1	A	4	3.01	-	-	1.06	0.65	B
3035	6.27	1.69	0.9	0.5	19.2	C	1771	-	-	-	-	-	H	704	-	-	0.74	0.36	0.1	A	4	3.01	-	-	1.06	0.65	B
3032	4.47	1.26	0.6	0.35	10	C	3771	-	-	-	-	-	H	709	446	1.15	0.8	0.33	A	4	2.91	-	-	0.77	0.38	B	
3033	6.32	2.04	1.2	0.5	27.3	C	1011	-	-	-	-	-	H	918	322	1.2	0.92	0.3	A	4	1.76	-	-	0.55	0.2	B	
3103	4.84	1.93	1.05	0.46	21.5	C	4273	-	-	-	-	-	H	920	-	-	1.06	0.5	0.22	A	4	1.93	-	-	0.67	0.33	B
3112	5.19	1.67	0.9	0.41	14.7	C	5276	-	-	-	-	-	H	920	-	-	1.06	0.5	0.22	A	4	1.93	-	-	0.67	0.33	B
3155	4.79	2.3	1.16	0.52	32.5	C	2574	-	-	-	-	-	H	920	-	-	1.06	0.5	0.22	A	4	1.93	-	-	0.67	0.33	B
3165	4.62	2.03	1.18	0.5	28.8	C	4287	-	-	-	-	-	H	920	-	-	1.06	0.5	0.22	A	4	1.93	-	-	0.67	0.33	B
3194	5.4	1.74	0.98	0.55	17.8	C	2674	-	-	-	-	-	H	920	-	-	1.06	0.5	0.22	A	4	1.93	-	-	0.67	0.33	B
2210	5.02	1.8	0.92	0.42	14.9	C	2909	-	-	-	-	-	H	1119	444	1.22	0.89	0.38	A	4	3.021	-	-	0.92	0.5	B	
2321	5.22	1.51	1.02	0.68	13.9	C	3767	-	-	-	-	-	H	1196	-	-	0.7	0.3	0.1	A	4	3.041	-	-	1.14	0.83	B
2435	5.08	1.58	1.0	0.4	13.1	C	2968	-	-	-	-	-	H	1484	4.65	1.13	0.78	0.22	A	4	3.041	-	-	1.14	0.83	B	
2537	1	1.9	0.85	0.5	14.4	C	3980	-	-	-	-	-	H	1486	-	-	0.7	0.3	0.1	A	4	3.041	-	-	1.14	0.83	B
2707	2	5.37	1.6	0.92	0.38	17.5	C	4965	-	-	-	-	H	1486	-	-	0.7	0.3	0.1	A	4	3.041	-	-	1.14	0.83	B
2816	0.67	1.83	1.1	0.5	14.4	C	3207	-	-	-	-	-	H	1486	-	-	0.7	0.3	0.1	A	4	3.041	-	-	1.14	0.83	B
2855	1.12	1.82	0.88	0.38	27.0	C	3032	-	-	-	-	-	H	1													

## 第6節 博労町遺跡出土の石器について

濱野 浩美

### 1. はじめに

博労町遺跡では、弥生時代終末期から近世末にいたる土器・陶磁器・石器等膨大な量の遺物が出土している。本節では、今回出土した石器類について従前の分類研究に基づいて組成分類を行い、その様相を述べるとともに、特に出土量の多かった砥石及び石錘について、若干の検討を試み、米子海浜砂丘域における石器出土傾向について考察してみたい。

### 2. 石器組成について

本遺跡から出土した石器類は、総数で497点を数える。その組成について、器種分類を行った（第1表）。なお分類に当たっては、明らかに玉類や鉄類の素材として持ち込まれたとみられる水晶、玉髓、黒曜石等の自然石を原石とし、その他の肉眼では使用痕が全く観察できない自然礫については、採集地から持ち込まれた可能性も当然考慮せねばならない処ではあるが、膨大な量にのぼるため今回は除外した。また、軽石については表面に明瞭に使用痕が認められるものについては砥石、浮子として分類を行ない、その他の肉眼では使用痕が認められないものについても原石素材として持ち込まれた可能性を考慮し、今回は原石の範疇に含め、カウントを行った。

第1表 出土石器組成表

	石鏃	楔形石器	二次加工剥片	剥片・剥片物	石核	原石	磨製石斧	打製石斧	石鏃	砥石	石錘	石鏃	浮子	敲石	敲石・凹石	磨石・敲石	磨石	磨石・凹石	凹石	台石	総計	
水晶				24	1	2															27	
玉髓	1		1	58	4	1															65	
石英				23		2															25	
黒曜石	2	1	3	5	1						1										13	
珪岩										5	1					1					3	10
珪質頁岩														1								1
頁岩					1					5												6
緑泥片岩							1															1
斑輝岩							3															3
玄武岩											1											1
結晶片岩									1													1
サヌカイト	4																					4
閃緑岩							7				2											9
花崗閃緑岩					1														1	1		3
花崗岩										22	2				1						2	27
角閃石安山岩											17			3	7	3	3					33
安山岩						1	2		1	15			1	1	4	2	1	1	1	1		30
アイサイト						1			5	21			7		9	10	5				4	62
砂岩						1			8	3												12
緑色凝灰岩				13																		13
凝灰岩						1			37	1												39
軽石						93			15				4									112
総計	7	1	4	123	8	98	15	2	1	98	63	1	4	12	1	22	15	9	2	11	497	

出土石器の内訳は石鏃7点(1%)、楔形石器1点(0.1%以下)、二次加工剥片4点(0.1%)、剥片・剥離物123点(25%)、石核8点(1%)、磨製石斧15点(3%)、打製石斧2点(0.1%以下)、石鏃1点(0.1%以下)、砥石98点(20%)、石錘63点(13%)、石錐1点(0.1%以下)、浮子4点(0.1%)、敲石12点(0.2%)、敲石・凹石1点(0.1%以下)、磨石・敲石22点(4%)、磨石15点(3%)、磨石・凹石9点(0.2%)、凹石2点、台石11点(0.1%以下)、原石98点(20%)である。これらを概観してみると、剥片・剥離物、原石を除く定形的な器種の中で目立つのは、組成比率が10%を超える砥石98点と石錘63点で、この2種で全体の石器出土量の3割を占めている。

次に石器出土遺構との関連を時代ごとに見ると、古墳時代前期に帰属する1区SI04・06、2区SI03・04、4区SI14・SI16、5区SI04・08・14・16、古墳時代後期の5区SI01・09、奈良時代の2区SK09において出土しており、古墳時代前期の遺構から出土するものが主体的である。なかでも、古墳時代前期の大型堅穴住居跡である2区SI04からは、石錘4点、砥石3点、磨製石斧1点、敲石1点、磨石1点、台石1点と、本遺跡中最も石器が多く出土している。この遺構では、第1分冊 第IV章において詳述しているように、ベッド状遺構部分に小石の集中区が検出されており、祭壇状の施設に置かれた祭祀具もしくは網具などの可能性が推測できる。出土した石錘4点とも重ね合わせると、この住居における生業との関連性が十分推測できよう。

この他の包含層中の出土石器については、堆積砂層に弥生時代終末期～平安時代の遺物が混在包含されている関係上、出土石器の時代別出土状況まで解明することは困難であった。以上のことも踏まえると、本遺跡における石器組成のみから安易に石器の出土傾向を決定づけることはできない。ただし、剥片・剥離物と石錘、砥石の出土量の多さは、本遺跡の性格の一側面を表すものと推測できる。

### 3. 石器石材について

本遺跡出土の石器石材については、剥片・剥離物を除くと、安山岩、角閃石安山岩、デイサイト等の安山岩類が全体の45%を占めている。

これらの石材産地については、目久美遺跡出土石器の石材産地の推定をされた山名 巖氏によれば、安山岩類は大山北西麓～海岸、花崗岩は日野川水系で産出されている(小原 1986)。また軽石は海岸浮遊物であり、いずれにしても近接する日野川や海岸が主な原石採集地であり、使用目的別に素材を選別し採集利用していたことが推測できよう。

剥片・剥離物の素材については、玉髓58点、水晶24点、緑色凝灰岩13点など、玉類の製作時に生じたとみられる石材が多い。今回出土した玉髓の剥片や石核については、一部に石器作成時の剥片も含まれるが、大半はある程度の厚さを持ち、小型で両極技法を使用していることから、玉作り工程における打割段階の途中品もしくは廃物であると考えられる。以上のことから、今回出土した水晶、玉髓の剥離物は玉作り関連の遺物と考えられよう。同じ砂丘上に立地する錦町第一遺跡では、少し時代は遡るが弥生時代前期とみられる玉作り工房跡が検出されている(平木 1996)。調査区周辺に古墳時代前期頃の玉作り工房跡が存在した可能性は非常に高いと考えられる。

なお、出土した水晶の原石は4cm前後の結晶を主体とし、煙水晶や紫水晶、透明度の非常に高いものなどが多く、玉作りに際して良質の石材を選別して持ち込んでいることが推測できる。水晶に関しては、遺跡地に近接する勝田山でも産出されていることから、近接地からの選別採集が推測されよう。

#### 4. 砥石について

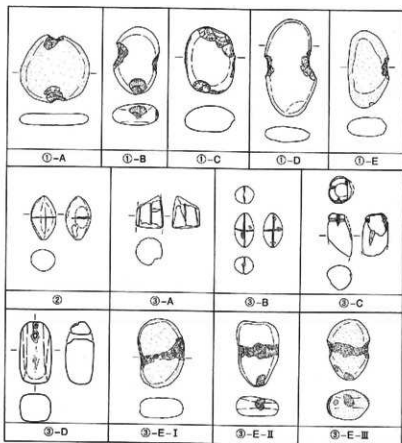
砥石は総数で98点と、本遺跡中最も出土量の多かった石器である。完形のものが少なく、残存重量のみでの分類については限界もあるが、残存形状から出来る限り原形復元すると、大きく100g以下の小型のもの、500g前後の中型のもの、800g以上の礫素材をそのまま使用したものとに分けられる。まず、小型のものについては、仕上砥が殆どで、方形に切り出した素材を使用しており、切り出し時の工具痕が残るものもあることから、製品として持ち込まれたものと考えられる。中型のものについては荒砥、中砥、仕上砥のいずれもあり、形状も棒状の素材礫をそのまま利用しているものと、方形に加工されたものとの2種類が認められる。ただし仕上砥に関しては、中型のものについてもその殆どが方形に加工されたものであり、中には1区表探遺物（第1分冊第442図-63）のように非常に丁寧に加工され、上部に穿孔が施されたものもみられることから、製品として持ち込まれたものと考えられる。次に、800g以上のものについては基本的には大型の河原石をそのまま使用しており、側面などに素材面を残すものも多い。被熱しているものもあることから、台石的な使用方法が考えられる。

この他、軽石を砥石として使用しているものも目立つ。軽石砥石には表面全体に鋭利な擦痕が認められるものが主体的であるが、中には3区SI04-171（第1分冊第43図）のような円形の窪みが認められるものもあり、これについては棒状の金属等の端部を研磨したもののなのか、もしくは何らかの未製品の可能性も考えられる。

特筆すべきは断面にU字状の溝が認められる砥石（第1分冊 第431図-239・第447図-18）である。素材が軟質であること、溝の形状から鉄製品を研磨する際に使用された砥石の可能性が示唆されている（註1）。また小型の仕上砥の中に漆状の物質が付着したものが出土している（第1分冊第411図-150）。金属製品を加工する過程では、研磨時の最終工程段階で漆を塗布する（註2）。鍛冶関連遺構や遺物が出土している当該遺跡において、これらの砥石はその使用状況が窺えるものであり、奈良時代の官衙関連施設と思われる遺構の存在を裏付けるものと言えよう。

#### 5. 石錘について

博労町遺跡では、砥石に次いで、総数63点と、非常に多くの石錘が出土している。鳥取県内出土の石錘については、従前の研究に基づいて坂本嘉和氏により分類が行われている。（坂本 2003）。これを基に、博労町遺跡出土の石錘につ



第1図 博労町遺跡出土石錘類型

いて若干の検討を加えてみたい。

### 形態分類 (第1図)

従前の資料及び坂本分類を基準にし、以下に博労町遺跡出土の石錘について形態分類を行った。

#### ① 打欠石錘

- A類 : 長軸の両端を打ち欠くもの
- B類 : 長軸一端と短軸両端の3箇所を打ち欠くもの
- C類 : 長軸と短軸の4箇所を打ち欠くもの
- D類 : 短軸の両端を打ち欠くもの
- E類 : 短軸一端のみを打ち欠くもの

#### ② 切目石錘 : 長軸と短軸の4箇所に切込みを入れるもの

#### ③ 有溝石錘

- A類 : 長軸のみに溝を施すもの
- B類 : 長軸と短軸両方に溝を施すもの
- C類 : 中央よりやや上半の短軸に溝1条を施しそれをつなぐ長軸方向の溝を有するもの
- D類 : 上部に穿孔と溝を施すもの
- E-I類 : 短軸に幅広の溝を1条施すもの
- E-II類 : 短軸に幅広の溝を1条施し、下端を打ち欠くもの
- E-III類 : 短軸に幅広の溝を1条施し、さらに短軸両端を打ち欠くもの

第2表 博労町遺跡出土石錘分類表

	①-A	①-B	①-C	①-D	①-E	②	③-A	③-B	③-C	③-D	③-E-I	③-E-II	③-E-III	総計
住居跡		1		5	1	1		1			2	1	2	14
溝状遺構	1	1		1										3
井戸							1							1
包含層	7	2	1	24	1				1	1	3		5	45
総計	8	4	1	30	2	1	1	1	1	1	5	1	7	63

これを基に、本遺跡出土の石錘を分類したものが第2表である。これによれば、①類の打欠石錘の出土比率が全体の71%と最も高い。中でも主体的なものは①-D類の扁平な楕円形の短軸両端を打ち欠くもので、全体の48%と約5割を占めている。この両端の打ち欠き幅については、両端ほぼ同様の幅に挟りが入っているものが主体的であるが、中には一端の打ち欠き幅が大きく、他方は非常に幅が短く、挟りも非常に僅かで敲打痕のごときものもある。このような石錘については、断面が三角形状を呈するものもあり、壺のようなものや敲石等、石錘以外の用途に使用された可能性も考えられる。

②類の切目石錘については、県東部に見られる長軸両端に短い切り込みを入れるタイプは今回出土していない。僅かに1点のみの出土している切目石錘は、短軸長軸に細長い切り込みが入れられており、布勢第1遺跡出土のものに形状が酷似している(津川 1981)。

有溝石錘については、③-A類~D類のいわゆる九州型石錘の範疇に入るものが4点、③-E類の瀬戸内型石錘の範疇に入るものが13点と、E類が主体的である。特に③-E-I類では、大型で卵倒

形を呈し、上部近くの短軸方向に幅広の溝が掘り込まれるタイプが多くみられる。これらは有頭石錘の区分にも入るものでいわゆる中部型石錘とも呼ばれるものであろう、その他、③-E-Ⅲ類のような打欠石錘との折衷タイプのものなどの在地的なバリエーションも見られる。また、③-D類の有頭石錘については、1点のみの出土であるが、逆台形に面取りを施した後全体を研磨し、上部に穿孔と溝が穿たれた非常に精巧な作りのものである。

## まとめ

県内における石錘出土遺跡は、その性格を考慮すれば当然ではあるが、低湿地と大型河川、潟湖周辺に集中している。特に西部では、目久美遺跡において縄文時代の石錘が500点以上出土している（小原 1986）。その他、低湿地に近接する除田第1・7・9遺跡においても多量の石錘が出土している（坂本 2003）。今回の調査では、出土遺構から考えると、出土石錘の帰属時期は、目久美遺跡よりも時代が下る古墳時代前期が主体であると考えられる。本遺跡における石錘類の出土量の多さは、縄文時代以来続く米子海浜域における生業活動の一端を表すものと考えられる。

本遺跡の出土石錘の形態的傾向は、主体的に出土する打欠石錘と共に、北九州型や、瀬戸内型など他地域に特徴的な形態が混在しており、これは従前言われている鳥取県内出土石錘の出土傾向に追随するものである（坂本 2003）。ただし、今回出土した石錘には、切目石錘が出土していないこと、形態にイレギュラーなものが多く在地色が強いこと、石材採集段階である程度の選別が行われた上で加工が行われたことなどは、本遺跡の立地環境や性格を表すものと考えられる。

このうち最も特徴的なものは、打欠石錘である。打欠石錘は目久美遺跡においても多量に出土しているが、典型的には上下端を打ち欠く①-A類が主体である。これに対し、博労町遺跡では短軸両端を打ち欠く①-D類が主体である。①-D類については前項で他の用途の可能性も示唆したが、いずれにしても出土石錘全体の5割と突出した出土量である。これは即ち米子海浜部において、石錘の主体的形態が、弥生時代以前までの①-A類から、古墳時代前期には①-D類へと変化したことを表すものといえるのではなかろうか。

本遺跡は日野川下流域の海浜砂丘域に位置しており、中海、日本海に近接する立地状況にある。今回の調査において検出された土錘・石錘の出土量の多さは、当該遺跡において漁撈というのが、生業のなかで重要な位置を占めていたことを如実に裏付ける資料であると考えられる。ただし、イレギュラーなタイプや、一端の使用痕が僅かな石錘については、漁撈具としての使用のみにかかわらず、工具としての使用、また編み物用錘具などとして、様々な生業活動に使用された可能性も十分考慮していかなければならない（渡辺 1981）。

今回の調査では、それらを踏まえたうえで、米子海浜砂丘域での生業を研究していく上での一資料を提示できたものと思われる。今後、近接砂丘域での調査の増加により、更に米子平野下流域における当該期の様相が明らかになっていくことを期待したい。

なお、出土石器の石器・石材鑑定については鳥取県教育文化財団 高橋章司氏に御指導、御教示を頂いた。記して感謝いたします。

（註1）鳥根県埋蔵文化財調査センター 丹羽野 裕氏の御教示による。

（註2）出雲市文化財課 高橋 周氏の御教示による。

(引用・参考文献)

- 池野正男ほか 2002『石名田木舟遺跡発掘調査報告書』第1分冊古代以前編 (財)富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所
- 大野左千夫 1991「漁撈」『古墳時代の研究』4 生産と流通Ⅰ 雄山閣
- 坂本嘉和 2003「第6章 考察 第3節 鳥取県内出土の石錘について」『井岡地頭遺跡・井岡地中ソネ遺跡』(財)鳥取県教育文化財団・国土交通省倉吉工事事務所
- 津川ひとみ 1981「2 石器・石製品」『布施第1遺跡発掘調査報告書』(財)鳥取県教育文化財団
- 平木裕子 1996『錦町第一遺跡』(財)米子市教育文化財団
- 小原貴樹 1986「第V章 第2節 2. 石器・土製品・金属製品」『目久美遺跡』米子市教育委員会 (加茂川改良工事関係埋蔵文化財発掘調査団) 鳥取県河川課
- 牧山直樹ほか 2010『寺家遺跡』発掘調査報告書 総括編 羽咋市教育委員会
- 森 隆 2003「古代北陸の河川漁業に関する若干の考察」『続文化財学論集』第二分冊 文化財学論集刊行会
- 和田晴吾 1985「土錘・石錘」『弥生文化の研究』5 道具と技術Ⅰ 雄山閣
- 渡辺 誠 1981「編み物用錘具としての自然石の研究」『名古屋大学文学部研究論集 (史学)』27 名古屋大学



## 第7節 博労町遺跡出土鉄関連遺物の調査

佐伯 純也

### 1. はじめに

博労町遺跡から出土した鉄関連遺物は、鍛冶関連遺物廃棄土坑から出土したものと、包含層中から出土したものがある。これらの遺物については、穴澤義功氏による詳細な分類作業を経て、構成図並びに一覧表の作成の後に金属学的な分析資料の抽出と記録作成までを行い、ある程度までは概要を把握することができた。

なお、調査の方法とその手順については、鳥取県教育文化財団の坂本嘉和氏の指導と、2005『鉄関連遺物の分析評価に関する研究会報告』(社)日本鉄鋼協会社会鉄鋼工学部会並びに2009『坂長第6遺跡』鳥取県教育文化財団、等の文献を参照した。

### 2. 遺物観察表の見方

本書90頁から106頁にかけて掲載した鉄関連遺物観察表と分析資料詳細観察表は、坂長第6遺跡の鉄関連遺物の考古学的調査で用いられた記録様式を踏襲している。主な記録項目の見方は、以下のとおりである。

- ① 遺物種類 金属学的な分析を行う前に、考古学的な観察によって判定された遺物の種である。
- ② 法 量 各遺物の長さ、幅、厚さ(各単位ともmm)、重量(単位g)を計測したものである。
- ③ 磁着度 製鉄関連遺物分類用の「標準磁石」(TOKINフェライト磁石SR-3 寸法30×17×5mm)を用いて、6mmを1単位として資料の反応の程度を数字で表現したものである。
- ④ 遺存度 資料が完形か破片かを示す。
- ⑤ 破面数 資料が破片の場合、破面がいくつあるのかを示す。
- ⑥ メタル度 埋蔵文化財専用に整準された小型特殊金属探知機によって判定された金属鉄の残留の程度を示すもので、基準感度は次のとおりである。  
なし：磁着反応がなく、金属鉄が全く含まれていないことを示す。  
錆化(△)：磁着反応があるが、感度Hでも反応しない酸化物で、金属鉄が残留しないことを示す。  
H(○)：Hは最高感度で、ごく小さな金属鉄(1~2.5mm)が残留することを示す。  
M(◎)：Mは最高感度で、Hの倍以上の金属鉄(4~5mm)が残留することを示す。  
L(●)：Lは低感度でMの倍以上の金属鉄(10~12mm)が残留することを示す。  
特L(☆)：特Lは極低感度で、Lの倍以上の金属鉄(20mm以上)が残留することを示す。
- ⑦ 分析 どの分析を、どの部分について行うのかを○印で示す。
- ⑧ 所見 外見や破面、断面の状況、木炭痕や気孔の有無、および付着物やその他の状況について示す。
- ⑨ 分析部位 資料の、どのような部分をどのような目的で調査、分析するかを示す。なお、観察表下の実測図の矢印で囲んだ部分は、分析に供した資料の採取位置を示す。
- ⑩ 備考 資料がどのような場所で、どのように生成されたと予想されるか、などについて記している。

包含層グリッド一括 (1~5區)		第1區遺構										包含層グリッド一括 (1~5區)																																								
区画 (遺構名)	断面 (遺構名)	開口 (遺構)		埋没品 (遺構)		土質調査物 (遺構)		土質調査物 (遺構)		土質調査物 (遺構)		土質調査物 (遺構)	土質調査物 (遺構)																																							
		土質調査物 (遺構)	土質調査物 (遺構)	土質調査物 (遺構)	土質調査物 (遺構)	土質調査物 (遺構)	土質調査物 (遺構)	土質調査物 (遺構)	土質調査物 (遺構)																																											
1	1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51
2	2	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	
3	3	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51		
4	4	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51			
5	5	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51				

第1区 博勢町遺跡 鉄間遺構物構成図(1)

包含層グリップ一底 (1-5区)							
形態 (断片付)	羽口 (断片) 先端部~先端	輪形断片 (中・大型) 酸化 (△)	輪形断片 (小)	H (O)	H (O) (小・大型)	輪形断片 (断片付) 酸化 (△)	H (O)
52	53	54	55	56	57	58	59
60	61	62	63	64	65	66	67
68	69	70	71	72	73	74	75
76	77	78	79	80	81	82	83
84	85	86	87	88	89	90	91
92	93	94	95	96	97	98	99
100	101	102	103	104	105	106	107

第2図 博旁町遺跡 鉄関連遺物構成図(2)



### 3. 遺物の概要

3区において検出した鍛冶関連遺物廃棄土坑については、すでに本書（第1分冊第IV章180頁）で概要を報告した。

なお、遺物の年代としては、鍛冶関連遺物廃棄土坑は、出土遺物から平安時代前期頃と想定しているが、それ以外の包含層出土遺物に関しては、博労町遺跡の年代観から、前記の廃棄土坑と同じく、全て9世紀代に納まるものと仮定した。

各遺物の出土地点を見ると、鍛冶関連遺物廃棄土坑が見つかった3区と、製錬系の遺物が多く見つかった5区に集中する傾向があり、本来はこれらの遺構に伴うものであった可能性が高い。しかしながら、どちらも鍛冶炉や製鉄炉などの直接的な遺構を確認することが出来なかったため、博労町遺跡で行われた製鉄、鍛冶作業の操業内容まで考察できる資料ではない。しかしながら、検出された鉄関連遺物の点数は比較的多く、そこで行われた鍛冶作業の一端と、製作、あるいは使用された鉄製品の内容は把握できたものとする。以下にその概要を記す。

#### 鍛冶関連遺物廃棄土坑(第4・5区)

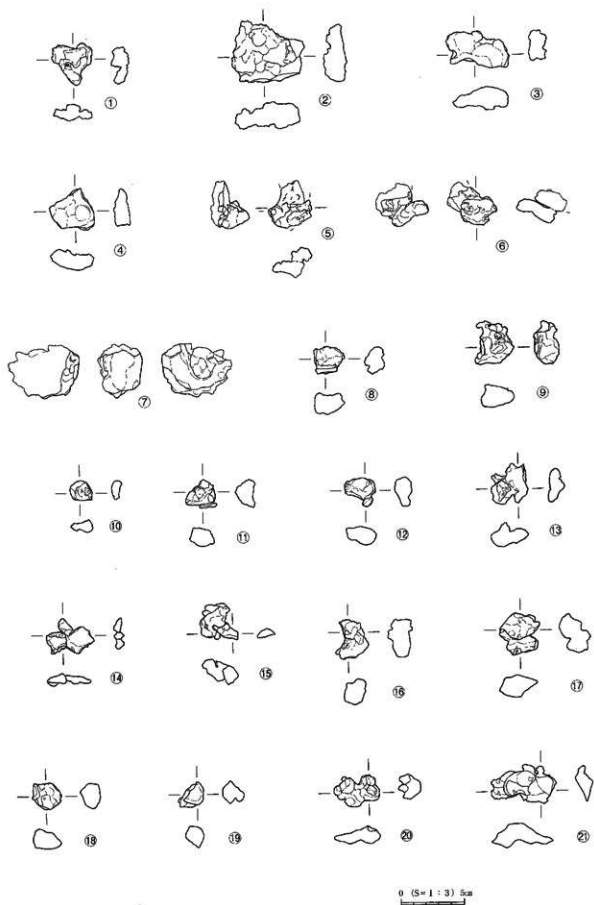
鍛冶関連遺物を一括して廃棄した土坑から出土した遺物は、炉壁、羽口、椀形鍛冶滓、粘土質溶解物、粒状滓、鍛造剥片、再結合滓、鉄塊系遺物、鉄製品である。微細な遺物については、廃棄土坑の内部と周辺の土砂をサンプリングし、篩を用いて選別作業を行い、鍛造剥片を多量に検出した。一方、粒状滓については、検出された点数が極めて少なく、鍛造剥片の出土量とは比較にならないほどの差が見られた。鉄製品は、刀子が多く確認されるが、器種不明の棒状品や釘、絞具も見られる。また、小形の鉄片も多く含まれており、鍛冶素材と考えられる。大型の鍛冶遺物は含まれず、小形品が主体であることと、鍛造剥片が多く含まれていることから、操業中に生じた廃棄物を投棄した土坑と考えられる。

#### 包含層出土鉄関連遺物(第6区～第11区)

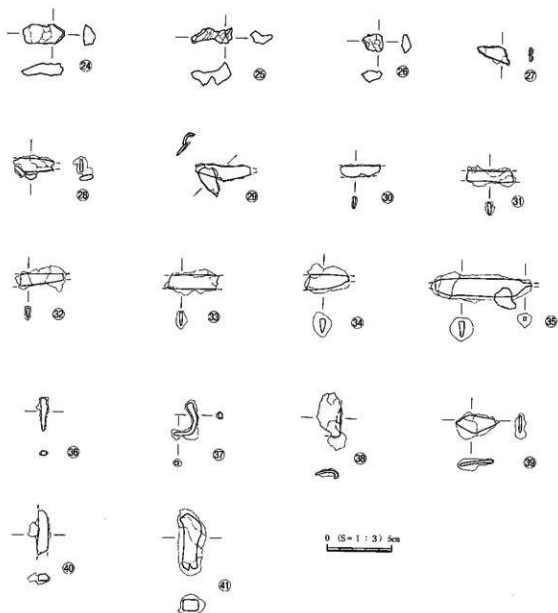
包含層から出土した遺物には、鉄製品のほか、鍛冶関連の遺物と製鉄関連の遺物が見られた。叩石や砥石、鉄床石などの石製品に関しては、全てが鉄関連遺物とは見なせないことや、年代的な裏付けがとれないことから、鉄関連遺物からは除外した。

製鉄関連の遺物は、流出滓と流動滓が主体で、1点のみ製錬炉に伴う炉壁片が確認された。42が、製錬炉の炉壁片である。この他の製錬系遺物は、43から47が流出滓、48から53が流動滓である。この中で分析資料として抽出した47は、長径11.5cm、重さ715.9gの流出滓である。底部に礫岩を噛み込んでおり、炉の設置場所が礫岩の存在する場所であったことを窺わせる。また、金属学的な分析の結果、滓部の鉱物組成から89の椀形鍛冶滓とされた資料が、製鉄系の含鉄製錬滓であることが推測されたが、こうした製錬系の遺物は、鉄関連遺物の中では少数例に止まる。こうしたことから、本調査地点はこれらの遺物を生産した製鉄炉から、やや離れた位置にあるものと推察される。

鍛冶関連の遺物は、炉壁、輪の羽口、椀形鍛冶滓、鍛冶滓、粘土質溶解物、鍛造の鉄製品が出土している。54から58は炉壁で、いずれも小破片となっており、鍛冶炉の全形を窺える資料は少ないが、57は羽口右脇の表面の破片と推測される。59、60は輪の羽口先端部である。60は残存長7.8cmを測る。先端部に付着するガラス質滓の鉱物組成から、鍛冶原料鉄の加熱に使用されたものと推測されている。



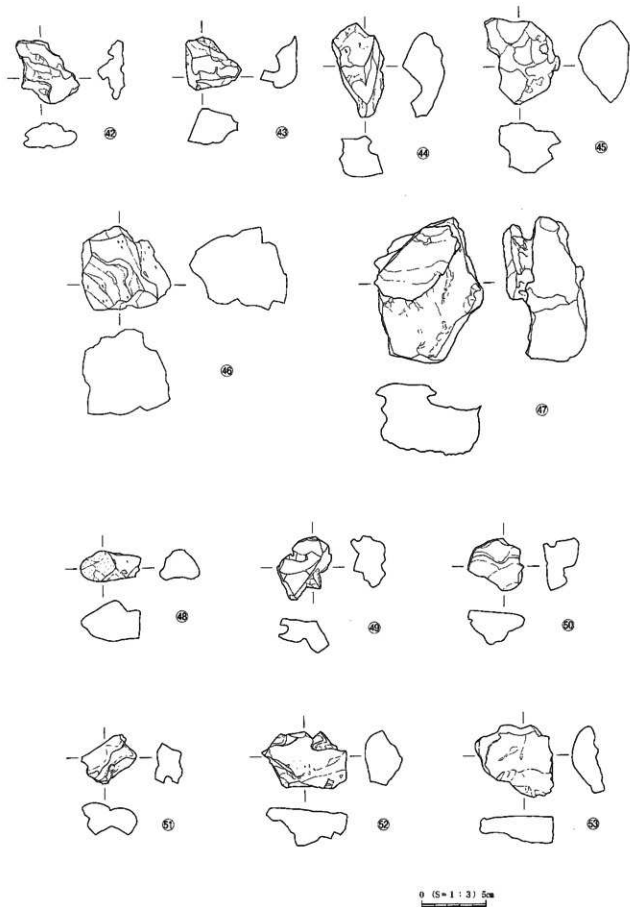
第4圖 鍛冶関連遺物廃棄土坑出土遺物(1)



第5図 鍛冶関連遺物廃棄土坑出土遺物(2)

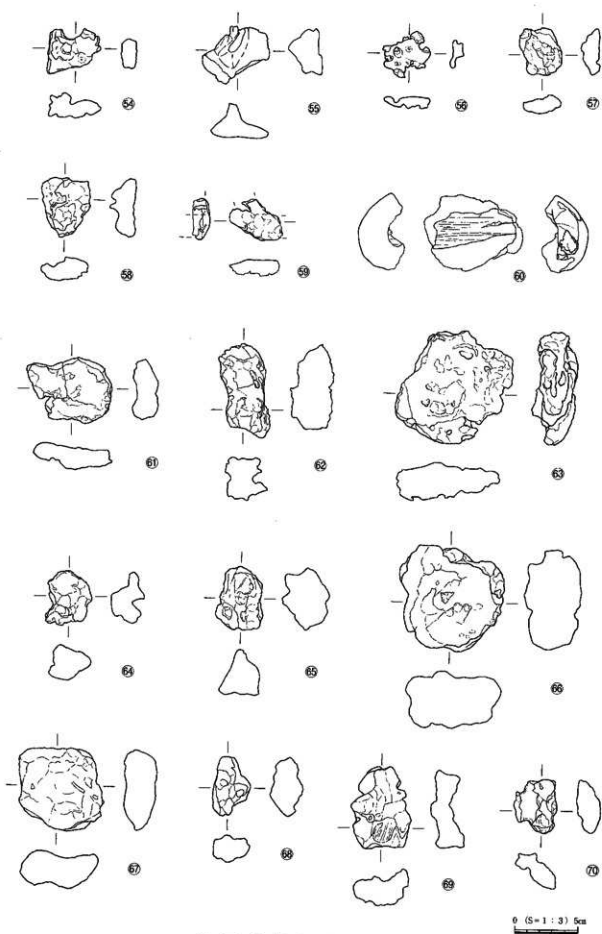
61から99は、椀形鍛冶滓である。椀形鍛冶滓は、中から極小まで確認されているが、全体的には小から極小が主体となる。出土傾向は、鍛冶関連遺物廃棄土坑の存在する3区からの出土が目立ち、それに5区が続く。100から104は、いずれも鍛冶作業に伴って生成された鍛冶滓である。105から109は粘土質溶解物である。3区からの出土が多く見られ、サイズも中・小形のもが主体である。110は、被熱のために滓化した土器片である。

鉄製品は、鉄鏝、刀子、釘、鋸など小形品を中心に多数出土したほか、鎌や鉄製紡錘車、火打金なども見られる。鉄鏝は、111のような有孔の無茎鏝や、112、113のような短茎鏝も出土しているが、多くは119に類似する長頭鏝である。刀子は小形品が多く、研ぎ減りによって、原型をとどめていないものもある。132は、鉄製紡錘車の破片と見られる。133から136は、全て破片であるが、形状から鎌と推測される。137、138は紋具である。137は遺存状態が悪いが、138は完存しており、筒状を呈する形状が読み取れる。

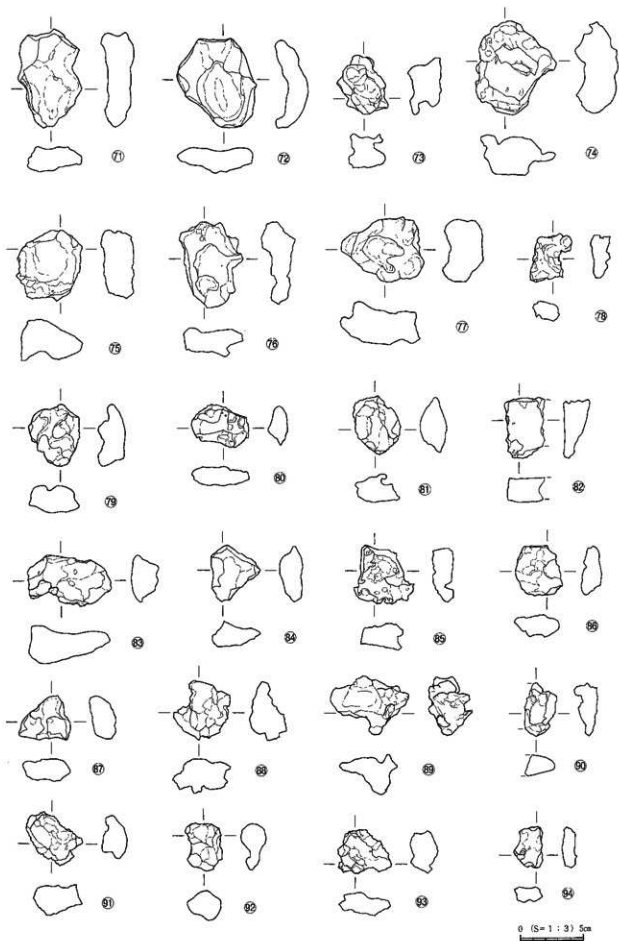


第6圖 包含層出土鉄関連遺物(1)

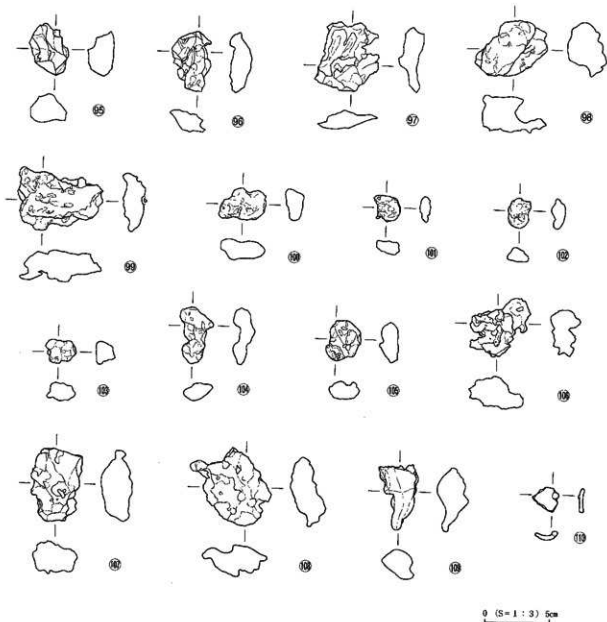




第7図 包含層出土鉄関連遺物(2)

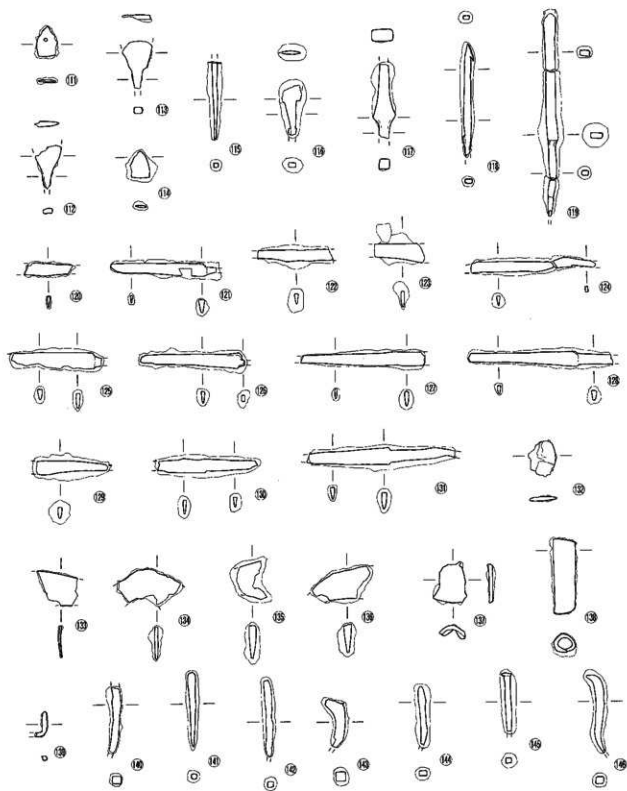


第8圖 包含層出土鉄関連遺物(3)

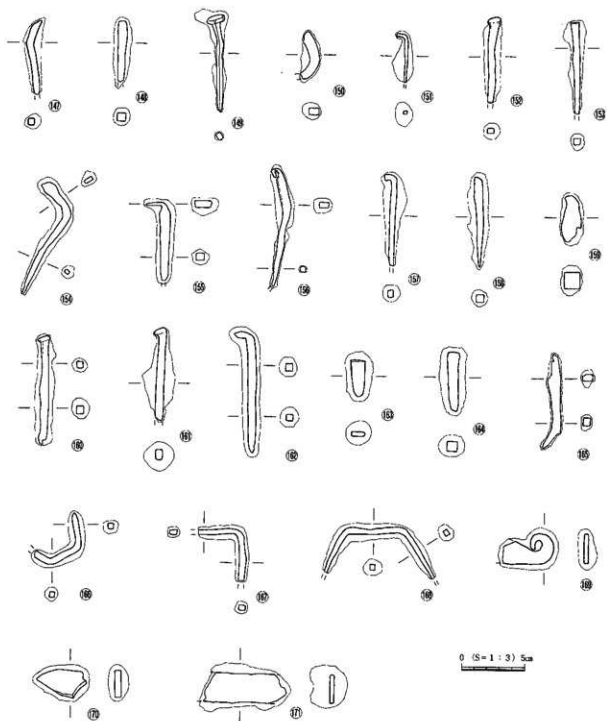


第9図 包含層出土鉄関連遺物(4)

139から162は釘である。頭部を折り返すものが多いが、再利用するために抜き取られたためか、全体に折れた釘が多く、原形を保つ資料が少ない。なお、釘に関しては3区からの出土が目立つが、この地点では建物跡が確認されておらず、建物に直接関連する釘ではない可能性も考えられる。あるいは、この地区で確認された鍛冶関連遺物廃棄土坑との関連が窺われる。163、164は楔状の鉄製品である。164は断面四角形で釘に類似する。165は、端部が籠状に屈曲する棒状の不明品である。鉄鉗や火掻き棒に類似しており、鍛冶具の可能性が考えられる。166は、釘状の鉄製品を折り曲げたものと考えられるが両端部とも欠損しており、性格は不明である。167、168は鏝と見られる、屈曲した棒状鉄製品で、どちらも断面形は角型をなす。169は、火打金の破片と見られ、透過X線像では、端部が蕨手状に成形されている。170は、表面を厚い酸化土砂で覆われているが、銅合金系の金属製品の可能性を持つ。171は、短軸側の両側部が折り返された薄板状の鉄製品で、節金具と考えられる。



第10圖 包含層出土鉄関連遺物(5)



第11図 包含層出土鉄関連遺物(6)

表1 博労町遺跡鉄関連遺物観察表(1)

標本番号	遺物名	地区名	グリッド・遺構名 層位名	遺物番号	計測値 (cm)			質量 (g)	磁率 値	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
1	伊壁 (銅造中)	3	鉄関連遺物埋土坑 下層	32	3.3	1.4	77	3	なし	内面が黒色ガラス質に溶化した赤銅小鏡片。断面から残膜は腐蝕となる。胎土中の石粒が目立つ。高さは約1cm。	
2	伊壁 (銅造中) 粘土質遺物付き	3	鉄関連遺物埋土坑 K-4	56	4.9	2.1	367	3	なし	内面のガラス質溶けの多い赤銅鏡片。内面には胎土中の赤銅質の石粒や細孔の鏡片に加えて、溶け溶けた赤銅質の塊が混入している。断面は胎土と外面が腐蝕。石粒は約10mmの塊からなる。	
3	伊壁 (銅造中) 漆付き	3	鉄関連遺物埋土坑 埋土層	19	2.9	1.9	200	3	なし	表面が流動状の漆に覆われた赤銅鏡片。漆は溶けた赤銅質の塊が混入している。断面は胎土と外面が腐蝕。石粒は約10mmの塊からなる。	
4	沼口 (銅造) 先堀部	3	鉄関連遺物埋土坑 L-2	35	3.3	1.4	135	4	錆化(△)	沼口部先堀部小鏡片。通風孔部は欠落して先堀部は黒色の漆に覆われた。断面は沼口部先堀部の胎土の層が腐蝕している。胎土は沼口部先堀部の胎土の層が腐蝕している。胎土は沼口部先堀部の胎土の層が腐蝕している。	
5	沼口 (銅造) 先堀部 粘土質遺物付き	3	鉄関連遺物埋土坑 I-2	29	3.8	1.3	126	2	なし	断面は沼口部先堀部小鏡片。通風孔部は欠落して先堀部は黒色の漆に覆われた。断面は沼口部先堀部の胎土の層が腐蝕している。胎土は沼口部先堀部の胎土の層が腐蝕している。	
6	沼口 (銅造) 先堀部 粘土質遺物付き	3	鉄関連遺物埋土坑 埋土層	42	3.5	1.4	203	3	なし	断面は沼口部先堀部小鏡片。通風孔部は欠落して先堀部は黒色の漆に覆われた。断面は沼口部先堀部の胎土の層が腐蝕している。胎土は沼口部先堀部の胎土の層が腐蝕している。	
7	沼口 (銅造) 先堀部	3	鉄関連遺物埋土坑 下層	35	4.3	2.2	518	3	なし	断面は沼口部先堀部小鏡片。通風孔部は欠落して先堀部は黒色の漆に覆われた。断面は沼口部先堀部の胎土の層が腐蝕している。胎土は沼口部先堀部の胎土の層が腐蝕している。	
8	鏡形銅造片 (銅小、合鉄)	3	鉄関連遺物埋土坑 下層	2.6	2.2	1.7	87	2	錆化(△)	断面が欠けた小鏡形の鏡形銅造片。最大厚みは1.7cmで、下手側が半円状となる。表面は胎土層の腐蝕による赤銅質の塊が混入している。	
9	鏡形銅造片 (銅小、合鉄)	3	鉄関連遺物埋土坑 下層	3.0	3.5	2.0	191	3	錆化(△)	分析資料No.1 分析資料No.2と同様。断面は胎土層の腐蝕による赤銅質の塊が混入している。	
10	鏡形銅造片 (合鉄)	3	鉄関連遺物埋土坑 I-4	1.8	1.6	1.0	23	3	錆化(△)	断面は胎土層の腐蝕による赤銅質の塊が混入している。胎土は沼口部先堀部の胎土の層が腐蝕している。	
11	鏡形銅造片 (合鉄)	3	鉄関連遺物埋土坑 J-5	2.6	2.3	1.6	72	3	錆化(△)	断面は胎土層の腐蝕による赤銅質の塊が混入している。胎土は沼口部先堀部の胎土の層が腐蝕している。	
12	粘土質遺物	3	鉄関連遺物埋土坑 下層	2.5	2.3	1.5	43	2	なし	表面が灰白色の塊状に溶化した粘土質遺物。左側部が腐蝕して、下手側には小鏡形の粘土質遺物が見られる。	
13	粘土質遺物	3	鉄関連遺物埋土坑 下層	3.2	2.8	2.0	109	2	なし	表面が黒色ガラス質に溶化した粘土質遺物。下手側に向かって傾いている。胎土の層が腐蝕している。胎土は沼口部先堀部の胎土の層が腐蝕している。	
14	粘土質遺物 金床石片付き	3	鉄関連遺物埋土坑 下層	3.8	2.8	0.9	52	2	なし	右側に金床石の表面に溶けた赤銅質の塊が混入している。胎土は沼口部先堀部の胎土の層が腐蝕している。	
15	粘土質遺物 (漆付き、胎土付)	3	鉄関連遺物埋土坑 胎土層	3.0	2.9	2.1	88	3	錆化(△)	右下手側の胎土に溶けた胎土層の赤銅質の塊が混入している。胎土は沼口部先堀部の胎土の層が腐蝕している。	
16	粘土質遺物 (合鉄)	3	鉄関連遺物埋土坑 胎土層	2.6	3.1	2.0	124	3	錆化(△)	表面が黒色ガラス質に溶けた粘土質遺物。胎土層の赤銅質の塊が混入している。胎土は沼口部先堀部の胎土の層が腐蝕している。	
17	粘土質遺物 (合鉄)	3	鉄関連遺物埋土坑 下層	3.1	3.3	2.5	160	3	錆化(△)	不規則形の粘土質遺物で2層重なった。胎土層の赤銅質の塊が混入している。胎土は沼口部先堀部の胎土の層が腐蝕している。	
18	鏡形銅造片 (合鉄) 粘土質遺物付き	3	鉄関連遺物埋土坑 K-4	2.2	2.3	1.6	69	3	錆化(△)	扁平な小鏡形になった鏡形銅造片。胎土層の赤銅質の塊が混入している。胎土は沼口部先堀部の胎土の層が腐蝕している。	
19	鏡形銅造片 (合鉄) 粘土質遺物付き	3	鉄関連遺物埋土坑 L-3	2.0	2.0	1.7	50	3	錆化(△)	胎土層の赤銅質の塊が混入している。胎土は沼口部先堀部の胎土の層が腐蝕している。	
20	粘土質遺物 (鏡形銅造片)	3	鉄関連遺物埋土坑 K-4	3.6	2.6	1.8	85	2	なし	下手が鏡形銅造片の粘土質遺物。胎土層の赤銅質の塊が混入している。胎土は沼口部先堀部の胎土の層が腐蝕している。	
21	粘土質遺物 (鏡形銅造片)	3	鉄関連遺物埋土坑 下層	5.0	3.1	1.9	134	2	なし	胎土層の赤銅質の塊が混入している。胎土は沼口部先堀部の胎土の層が腐蝕している。	
22	鏡形銅造片	3	鉄関連遺物埋土坑 下層	-	-	-	-	1	なし	分析資料No.2 分析資料No.2と同様。断面は胎土層の腐蝕による赤銅質の塊が混入している。	
23	鏡形銅造片	3	鉄関連遺物埋土坑 下層	-	-	-	-	1	なし	分析資料No.3 分析資料No.3と同様。断面は胎土層の腐蝕による赤銅質の塊が混入している。	
24	両側合線 (合鉄)	3	鉄関連遺物埋土坑 I-4	3.3	1.6	1.9	52	3	錆化(△)	厚さ約3mm以下の扁平な両側合線。胎土層の赤銅質の塊が混入している。胎土は沼口部先堀部の胎土の層が腐蝕している。	
25	両側合線 (合鉄)	3	鉄関連遺物埋土坑 埋土層	3.1	1.2	1.9	45	3	錆化(△)	小鏡形の2片が結合したよう。やや厚手の両側合線。胎土層の赤銅質の塊が混入している。胎土は沼口部先堀部の胎土の層が腐蝕している。	
26	鏡形銅造片 (合鉄)	3	鉄関連遺物埋土坑 J-5	1.5	1.4	0.9	14	2	錆化(△)	扁平な両側合線の鏡形銅造片。胎土層の赤銅質の塊が混入している。胎土は沼口部先堀部の胎土の層が腐蝕している。	

表2 博労町遺跡鉄関連遺物観察表(2)

遺物番号	遺物名	遺物年代	グラブド、遺物名 種別名	寸法 (cm)			重量 (g)	材質	メタリ度	備考	
				長さ	幅	高さ					
27	鉄製品 (鍛造品) 鉄片 (本製品?)	3	鉄関連遺物出土坑 J-1	2.5	1.1	0.2	1.8	4	轉化(ハ)	下側面がほぼ正三角形をした鉄製品。表面は酸化土壌や鉄ぶくれに覆われている。透過X線像を見ると、鍛造による筋目が見られる。右端が鋭い形に尖っており、刃部が折れているように見える。切り刃の可能性あり。(三角形鉄片)	
28	鉄製品 (鍛造品) 鉄片 (本製品?)	3	鉄関連遺物出土坑 出土層	3.2	1.1	0.2	5.2	4	轉化(ハ)	形や透過断面を含む再結合面に覆われた鉄片。下側面には酸化土壌が付着している。右側面に尖った部分があり、右側の端部が自然に尖っている。透過X線像の筋目が確認できるが、筋目には筋目がない。本製品、または作りかけの鍛造品か。	
29	鉄製品 (鍛造品) 鉄片 (本製品?)	3	鉄関連遺物出土坑 出土層	4.1	1.3	0.2	5.3	5	轉化(ハ)	刀丁片様の扁平な鉄製品。表面は酸化土壌や鉄ぶくれに覆われている。透過X線像を見ると、刀丁柄の断面が水平方向にうねりを生じている。透過X線像を見ると、鍛造による筋目が見られる。筋目には筋目がない。本製品、または作りかけの鍛造品か。	
30	鉄製品 (鍛造品) 刀丁?	3	鉄関連遺物出土坑 J-5	3.1	0.9	0.2	1.8	5	轉化(Δ)	最大幅が9mmを測る薄板状の鉄製品。左側端は明確な鍛造で、刀丁の刃部が確認できる。透過X線像を見ると、刃部が鍛造品になっており、筋目には筋目がない。筋目には筋目がない。	
31	鉄製品 (鍛造品) 刀丁?	3	鉄関連遺物出土坑 K-4	3.8	0.9	0.3	5.8	6	H(C)	最大幅が9mmを測る薄板状の鉄製品。左側端は明確な鍛造で、刀丁の刃部が確認できる。透過X線像を見ると、刃部が鍛造品になっており、筋目には筋目がない。筋目には筋目がない。	
32	鉄製品 (鍛造品) 刀丁	3	鉄関連遺物出土坑 J-4	3.5	1.0	0.2	5.9	5	轉化(Δ)	筋目と生体筋目を含む扁平な鉄製品。表面は酸化土壌や鉄ぶくれに覆われている。透過X線像を見ると、鍛造による筋目が見られる。筋目には筋目がない。筋目には筋目がない。	
33	鉄製品 (鍛造品) 刀丁?	3	鉄関連遺物出土坑 J-4	4.3	1.1	0.2	8.2	6	轉化(Δ)	扁平な薄板状の鉄製品。表面は多量の酸化土壌や鉄ぶくれを含む再結合面に覆われている。右側面に筋目が見られる。透過X線像を見ると、鍛造による筋目が見られる。筋目には筋目がない。筋目には筋目がない。	
34	鉄製品 (鍛造品) 刀丁?	3	鉄関連遺物出土坑 下層	3.3	1.2	0.4	12.5	6	H(C)	外側に小突起の筋目が見られる鉄製品。表面は酸化土壌や鉄ぶくれを含む再結合面に覆われている。透過X線像を見ると、鍛造による筋目が見られる。筋目には筋目がない。筋目には筋目がない。	
35	鉄製品 (鍛造品) 刀丁?	3	鉄関連遺物出土坑 下層	7.8	1.5	0.4	33.3	2	轉化(Δ)	扁平な薄板状の鉄製品。表面は酸化土壌や鉄ぶくれに覆われている。透過X線像を見ると、鍛造による筋目が見られる。筋目には筋目がない。筋目には筋目がない。	
36	鉄製品 (鍛造品) 釘	3	鉄関連遺物出土坑 下層	2.6	0.5	0.3	1.1	4	轉化(Δ)	鍛造品と推定される扁平な鉄製品。表面は酸化土壌や鉄ぶくれに覆われている。透過X線像を見ると、鍛造による筋目が見られる。筋目には筋目がない。筋目には筋目がない。	
37	鉄製品 (鍛造品) 釘	3	鉄関連遺物出土坑 下層	2.2	0.6	0.3	3.1	5	轉化(Δ)	扁平な薄板状の鉄製品。表面は酸化土壌や鉄ぶくれに覆われている。透過X線像を見ると、鍛造による筋目が見られる。筋目には筋目がない。筋目には筋目がない。	
38	鉄製品 (鍛造品) 武器	3	鉄関連遺物出土坑 J-4	3.1	1.9	0.2	7.1	6	H(C)	右側面に筋目が見られる扁平な鉄製品。表面は酸化土壌や鉄ぶくれに覆われている。透過X線像を見ると、鍛造による筋目が見られる。筋目には筋目がない。筋目には筋目がない。	
39	鉄製品 (鍛造品) 鉄片	3	鉄関連遺物出土坑 下層	3.2	1.3	0.2	6.2	6	H(C)	扁平な薄板状の鉄製品。表面は酸化土壌や鉄ぶくれに覆われている。透過X線像を見ると、鍛造による筋目が見られる。筋目には筋目がない。筋目には筋目がない。	
40	鉄製品 (鍛造品) 棒状不明品	3	鉄関連遺物出土坑 下層	3.5	0.9	0.5	4.0	4	轉化(Δ)	両端が鍛造品となった、やや断面長方形の棒状不明品。表面は酸化土壌や鉄ぶくれに覆われている。透過X線像を見ると、鍛造による筋目が見られる。筋目には筋目がない。筋目には筋目がない。	
41	鉄製品 (鍛造品) 棒状不明品	3	鉄関連遺物出土坑 下層	4.2	1.6	0.9	15.3	6	H(C)	棒状主体の扁平な棒状不明品。表面は酸化土壌や鉄ぶくれに覆われている。透過X線像を見ると、鍛造による筋目が見られる。筋目には筋目がない。筋目には筋目がない。	
42	伊織 (製織品) 唐付	3	D-2	347	50	50	21	36.8	1	なし	内側に1cm以上の厚みを持つ唐付の伊織片。外側の唐付は主体とするものではなく、明時代の物と思われる。唐付は1770年の鉄関連遺物の内、唯一の鉄製品の内装品という点に注意。唐付は1770年の鉄関連遺物の内、唯一の鉄製品の内装品という点に注意。唐付は1770年の鉄関連遺物の内、唯一の鉄製品の内装品という点に注意。
43	鏡 (製鏡品)	3	D-1	332.5	4.2	4.2	2.9	47.2	2	なし	断面2面がシャープな断面となった鏡の断面。表面は酸化土壌や鉄ぶくれに覆われている。透過X線像を見ると、鍛造による筋目が見られる。筋目には筋目がない。筋目には筋目がない。

表3 博多町遺跡鉄関連遺物観察表(3)

構成 番号	遺 物 名	発 見 地 名	グリップ・遺名 種別名	発物 番号	形 状 (mm)			重量 (g)	厚 度 (mm)	メタル使	備 考
					長さ	幅	厚さ				
44	流出遺物	4	A-1	161	41	7.4	4.3	974	1	なし	下面が左右方向に伸びる舟形状となった典型的な流出遺物断片。左右の側部と下側の上半部が欠けており、直線状の破面が露出する。上面は風化が進んでいるが、流動単位が十分に確認される。上面には無色の印粉痕がほとんど見られず、浮質は比較的少ない。上面に発生した無色の浮質が方向に広がっている。流動単位としては分析値より小さく、やや厚い部位には露出していたためか、一連の流動単位の上にて表面風化が強い。
45	流出遺物	4	C-3	2788	5.8	6.8	4.0	1947	2	なし	側部や下面に中小の半表面を残す流出遺物の先端部断片。表面は二次的な破面を多量に含む風化層に覆われている。流出単位は不明確のため、ほとんど厚さと厚さにては評価されており、流動方向の先頭部、閉部には黒色の印粉を含み込んでおり、流動方向の横断面が舟形状となる。浮質は顕微鏡で、やや厚い部位が目立つものの、結晶の発達はない。
46	流出遺物	5	B-2	713	7.0	6.6	7.6	4037	1	なし	側部が上面より下側が欠けた厚手の流出遺物の中段部断片。上面は二次的な破面を多量に含む風化層に覆われており、流動方向の先頭部、閉部には黒色の印粉を含み込んでおり、流動方向の横断面が舟形状となる。浮質は顕微鏡で、やや厚い部位が目立つものの、結晶の発達はない。
47	流出遺物	3	D-2	801	8.5	11.6	6.6	7159	1	なし	分析資料No.4 分析資料詳細観察参照。
48	流出遺物	5	D-1	536	4.8	2.4	3.2	492	2	なし	平直な流動単位が露出した流動単位または流出遺物断片。側部3割と下面が破面になっており、欠けには粗面あり。上面から上半部の側部は3mm位の流動単位を露出させる。浮質は顕微鏡で表面が風化する。
49	流出遺物	5	C-1 クロス①	1734	4.4	4.9	2.7	573	2	なし	上面に3mm位以上の流動単位が確認される。やや扁平な流動単位は流出遺物断片。側部にはほぼ全長が破面になっており、下面にはスス入りの印粉痕を多く含む。上面表面の風化は少なく、きれいな状態を呈す。
50	流出遺物	5	C-1	686	4.4	4.1	2.8	585	3	なし	側部が連続的な破面となった、側部と似た厚みの流出遺物断片。上面は2mm位になる平直な流動単位が確認され、色調も滑らか。上面は2mm位が破面しており、スス入りの印粉痕や木炭の塊み込みが認められる。浮質は顕微鏡で、一部の欠けが大きい。
51	流出遺物	3	B-2	2782	4.4	3.8	2.6	418	2	なし	上面に平直な流動単位が露出した流動単位断片。側部3割が破面となり、側部半から下面はやや凸凹が激しく、欠けの破面を多く含む破面になっている。浮質は顕微鏡で欠けは少ない。表面の色調は滑らか。
52	流出遺物	1	W-6	4576	6.7	4.4	3.0	1030	1	なし	上下面の8割方が印粉痕を含む薄い風化土砂に覆われた流動単位、または流出遺物断片。面は右方向に流動しており、上面1割位には平直な半表面が露出する。左右の側部と下側半の破面となっている。側部には黒色の印粉痕は、突出した半表面を有しており、深白色の印粉痕がほとんど見られず、右側の側部はほぼ全長が破面の破面となっている。上下面の側部はほぼ全長が破面の破面の破面となっている。上下面の側部はほぼ全長が破面の破面の破面となっている。
53	流出遺物	2	P-1	1942	6.1	5.7	2.6	1128	2	なし	全体が扁平な、長さ2mm位の平直な流動単位断片。左右の側部が破面となり、上面1割位の側部はほぼ全長が破面の破面の破面となっている。一方、下面側部と上面下側の側部には、風化に焼けた印粉痕が密に露出する。半表面の色調は暗褐色が強い。
54	伊勢 (製造物)	5	A-4	1459	4.2	3.6	2.0	161	2	なし	内面に黒色の印粉痕を含む表面が滑らかな流動単位。側部は基本的に破面となっており、側面も粗面が露出する。横断面は厚やかな破面で、側部や内面の欠けを有している。上面は砂粒が露出する。
55	伊勢 (製造物)	1	W-4	680	5.3	4.5	2.7	323	2	なし	内面の中央部が破面した典型的な伊勢断片。側部は全長が破面で、外側には黒い砂粒が露出する。内面の突出部上方の一部に黒い砂粒が露出する。側部には黒い砂粒が露出する。内面の突出部上方の一部に黒い砂粒が露出する。側部には黒い砂粒が露出する。内面の突出部上方の一部に黒い砂粒が露出する。
56	伊勢 (製造物) 浮付き	3	D-1	1847	3.8	3.2	1.1	71	2	なし	内面が平直な流動単位と浮付きを併せた伊勢断片の小破片。下の側部には粘土質の浮付きが露出する。側部はイゼイゴシと破面で、外側には黒い砂粒が露出する。
57	伊勢 (製造物) 浮付き	5	A-1 クロス②	6558	3.4	3.8	1.5	126	2	なし	側部下半がガラス質に溶化して、下側部は溶けた伊勢の伊勢断片。側部から外側は破面になっており、外側には黒い砂粒が露出する。側部から外側は破面になっており、外側には黒い砂粒が露出する。側部から外側は破面になっており、外側には黒い砂粒が露出する。
58	伊勢 (製造物) 浮付き (複製)	2	P-149	5615	3.9	4.8	2.0	310	3	風化(Δ)	内面が強く溶化して全体が流れ気味の塊断片。側部は基本的に破面であり、側面には砂粒が露出する。比較的溶化部分の多い伊勢で、比重が高く、内面の破面も顕著となる。側部は破面が強い。
59	伊勢 (製造物) 先端部	3	C-2	945	1.4	3.3	1.3	140	4	風化(Δ)	側部が平直な流動単位から側部にかけての側部断片。側部から内面は破面となっており、ほとんどの側部は破面である。側部は砂粒と破面を交えた破面で、ひび割れが側部から発生している。
60	羽山 (製造物) 先端部-複製	5	A-2 クロス①	824	7.8	6.1	2.3	899	1	なし	分析資料No.5 分析資料詳細観察参照。
61	鏡形流出物 (中)	3	D-2	209	6.7	5.2	2.2	1172	3	なし	中形の鏡形流出物の1/3程度の破片。中核部から側部にかけては破面であり、側部2割が破面となる。最大厚さは2mmで、上面中央部が全体に5mmほど膨らみとなる。浮質は顕微鏡で、左側の側部から下側には黒い砂粒が露出する。側部は破面が強い。
62	鏡形流出物 (中?)	3	A-1	751	4.3	7.4	3.5	1385	3	なし	側部3割が破面となった金作柄にイゼイゴシの外観を持つ中形の鏡形流出物。または側部系の中核部断片。不規則な欠けが破面や破面に露出する。側部もかなり発達している。下側部は1/3程度の側部は平直な流動単位となる。下側半の側部は破面が強い。側部は破面が強い。側部は破面が強い。側部は破面が強い。
63	鏡形流出物 (中)	3	A-2	3714	9.2	8.9	3.6	2598	2	なし	分析資料No.6 分析資料詳細観察参照。



表4 博芳町遺跡鉄関連遺物観察表(4)

調査番号	遺物名	形状	グリッド・遺物名 層位名	遺物 番号	計測値 (cm)			重量 g	測定 単位	メタル質	備 考
					長さ	幅	厚み				
64	鉄形鍔片 (小、含鉄)	5	C-1	316	3.6	4.3	2.8	43.4	4	酸化(Δ)	小片ながら遺物と似た、錆色の発達した鍔片。側部2箇所がシャープな縁となっており、上下端がほぼ直角な形状となっており、中央部が鈍角状の切欠状と判別した。右側から上部にかけてはやや粗面が認められる。
65	鉄形鍔片 (中、含鉄)	3	B-2	2857	3.8	5.0	3.7	66.3	3	酸化(△)	側部3箇所が破損となった。厚さ2.5mmほどの鉄形鍔片破片。上下部と下部の側部が生きており、中央の鈍角状と判定される。表面酸化が激しく、色も赤みに近づいている。浮きで確認、破損には側部中央部が欠けと推定。
66	鉄形鍔片 (中、含鉄)	3	A-1	3290	8.3	8.4	4.5	389.2	5	H(O)	ほぼ矩形の比較的厚みを持った小型の鉄形鍔片。上下両側の側部は中間部を中心に木炭灰の不規則な堆積が認められている。上面全体は平坦な形状ながら中央部が小突起を突出し、それを取り囲むように浅い窪みが生じている。側部から下部はやや凸の出目立つ鍔片となる。表面には中間部の突出部を中心にややく。
67	鉄形鍔片 (中、含鉄)	3	C-3	37	6.7	6.6	3.0	106.6	3	M(O)	中央部が砂粒の日立つ厚み状の鍔片に覆われた鉄形鍔片。側部3箇所ないし、1箇所が破損と判定され、上下両側の側部が生きている。1箇所中央のやや凸が認められ、これに対応するように下部も突出する。表面は上下面に3mmほど。
68	鉄形鍔片 (小)	3	B-1	1725	3.0	4.7	2.6	41.8	2	なし	側部3箇所と上部の2箇所が破損となった鉄形鍔片の破片。表面には木炭灰が目立つことから、小型、ないしは中央の鈍角状と判定される。表面は粗面であり、色もやや発達した。右側の側部から下部にかけてはやや粗面が認められる。
69	鉄形鍔片 (小)	2	F-1	1940	4.7	6.5	2.9	82.6	2	なし	表面が砂粒の日立つ厚み状の鍔片に覆われた小型の鉄形鍔片破片。側部下部を中心に3箇所の破損を数える。1箇所は90度角の突起、別の鉄形鍔片となっている。1箇所下部には2mm角の突起が認められる。
70	鉄形鍔片 (小、含鉄)	5	Si-16	7496	3.4	4.3	2.8	34.9	3	酸化(Δ)	右側部が2箇所目立つ破損となっており、小型の鉄形鍔片の破片。左側の上部には引出した突起の痕跡が認められ、下部全体が小さな丸みを帯びた形状となる。深層に埋藏ながらも中間部が平坦に存在する。下部の一部に砂粒が認められる。
71	鉄形鍔片 (小、含鉄)	4	A-2	18	5.0	7.7	2.6	71.4	1	酸化(△)	左側部と下部が破損となった。全体に厚みのある鉄形鍔片の破片。側部3箇所が2箇所目立つ破損と判別されており、破損は中央部を示すものから認められる。上下面ともやや凸状が表面の酸化も認められている。
72	鉄形鍔片 (小、含鉄)	4	C-4	540	6.2	7.1	2.6	109.2	2	H(O)	上部の中央部が大きく窪んだ鉄形鍔片破片。外周部から下部は砂粒の日立つ表面に覆われており、右側部を中心に3箇所が破損となっている。破損としては中央部から上部の側部にかけての破損と推定。下部は鍔片を破損するもの、砂色の窪みのため、やや凸が目立つ。上面中央部に小さな突起があり、強く磨きやすい。表面、あるいは鉄質品の厚さ異なる部分がある。
73	鉄形鍔片 (小、含鉄、重量)	3	A-2	2630	4.0	4.7	2.7	46.1	3	酸化(△)	側部中央に隆起が認められる。重量した鉄形鍔片の破片。下部の浮きが発見して確認が薄く、上下の厚さはほぼ均等な形状となる。また下部の厚さはほぼ均等に磨きやすい。側部3箇所はほぼ均等に磨きやすい。側部3箇所はほぼ均等に磨きやすい。側部3箇所はほぼ均等に磨きやすい。
74	鉄形鍔片 (小、含鉄) 第七貨物積付	5	B-1	2239	6.3	7.4	3.4	137.5	3	H(O)	1箇所は上部部に引いた突起の痕跡が認められ、下部全体が小さな丸みを帯びた形状となる。深層に埋藏ながらも中間部が平坦に存在する。下部の一部に砂粒が認められる。
75	鉄形鍔片 (小、含鉄)	4	シロスナー一	7	5.2	3.6	3.2	106.4	5	H(O)	上部の八角形が砂粒の日立つ表面に覆われた小型の鉄形鍔片。右上部の側部が破損となっており、右側の厚み状の全体形状となる。また側部から側部と立ち上がっており、側部が平らな形状となる。ゆがみによる変形が認められる。浮きで確認、上部から含鉄部がやや広い。
76	鉄形鍔片 (小、含鉄)	3	B-2	2261	4.9	6.7	2.6	102.5	4	H(O)	上下部と下部の側部のみが生きている小型の鉄形鍔片。やや狭く側部3箇所が破損となっている。表面も厚み、各部の破損は認められる。下部はやや厚み状で、中央部が鋭角方向に窪んでおり、工痕と見られる。
77	鉄形鍔片 (小、含鉄)	5	D-1	80	6.4	5.1	3.4	116.2	4	H(O)	表面が厚み状の鍔片に覆われた小型の鉄形鍔片。右側の側部3箇所が破損、部分的に欠けを数える。2箇所中央部は小さな窪み、右方向に窪み状が認められる。表面はこの破損の範囲に広く、少なくとも3mm以上が確認される。
78	鉄形鍔片 (細小)	5	C-2	8002	3.3	3.8	1.5	16.1	2	なし	平面、不能な形状をした小型の鉄形鍔片。左右の側部は小突起が残るが、欠けは小さい。側部が2箇所目の破損を数える。上面中央部はやや凸状が強い。
79	鉄形鍔片 (細小)	4	C-2	266	4.0	4.9	2.1	43.0	1	なし	側部3箇所が破損となった小型の鉄形鍔片。上下部と右側の側部が生きている。上部は大きな窪みで中央部が突出する。下部は浅い窪み状で面をなす。右側部は中央部に段を数える。
80	鉄形鍔片 (細小)	5	B-2 クロスナ	374	4.5	3.4	1.5	24.4	1	なし	下部の側部が欠けた、磨きやすい形状をした小型の鉄形鍔片破片。上部は平坦な形状で、側部から側部と立ち上がり、表面は粗面となる。上部側部は粘土質解離。下部は浅い窪み状で砂粒が存在する。側部の鉄形鍔片の1箇所目の破片。
81	鉄形鍔片 (細小) 粘土質解離付、羽付付	4	A-2	1796	3.7	4.7	2.2	31.2	1	なし	左側の側部に引いた突起の痕跡が残る小型の鉄形鍔片の破片。右側部は段をなす形状となっており、表面は粗面となる。上部側部は粘土質解離。下部は浅い窪み状で砂粒が存在する。引いた突起の厚みは約1cmを数える。側部は粗面を数えた後、上部。

表5 博労町遺跡鉄関連遺物観察表(5)

遺物番号	産物名	出土地	グリッド・遺物名 座標	遺物 形状 長さ 幅 高さ	許容誤差 (mm)	重量 (g)	磁気 透率	メタル度	備考
82	鉄形鋸治漆(樹小) 地上資源物付付き、灰土上行き	3	B-1 クロスナ②	2577 3.1 4.8 2.1	309.2	2	なし	上下面と下手側の縁がぼやけている鉄形鋸治漆。「敷物」全体が樹小資源物に覆われ、下手がぼやけた部分。柄杓は柄杓が折れ、気流が上り方向に向かう。下は深い垂直状で縁が明確に露出する。	
83	鉄形鋸治漆(樹小) 地上資源物付付き、灰土上行き	3	A-2	2638 6.7 4.0 3.0	61.0	1	なし	左向きに押さえる方向になった鉄形鋸治漆。トボが地上資源物物に覆われ、特に左側が小さく欠けている。縦面には開口または石片を積み込む。漆厚は最大1cm程度と薄く、下面は鋸治漆の厚土とこぼれている。	
84	鉄形鋸治漆(樹小) 灰土上行き	1	W-6	6376 3.9 4.4 2.0	166.1	1	なし	樹小鋸治漆の樹小の鋸形鋸治漆。漆厚は下手側下半分のみで、下手側は上側から下側までで全体的な薄層となる。下側は深い垂直状で、漆厚が砂粒となる。鉄形鋸治漆と同時、水が流れているが、漆厚の両側は鋸治漆の砂粒から。	
85	鉄形鋸治漆(樹小) 灰土上行き	2	B-1	4479 4.7 4.6 2.1	32.9	2	なし	左上上手側の漆厚がシャープな縁質となった樹小の鋸形鋸治漆。上下面と下手側の縁がぼやけている。上側は木炭灰の連続する凸凹のぼやけた部分となる。下側は左右方向に向かう気流をもった垂直状で、左面に軽い砂粒が広がる。漆厚は上側よりのみ高さが高い。	
86	鉄形鋸治漆(樹小、含鉄) 灰土上行き	3	B-2	1792 3.7 3.9 1.7	295.4	4	H(C)	漆厚色の酸化土砂に覆われた樹小の鋸形鋸治漆。左側面下側に小面積を露す。漆厚に深い。なお、この樹小下部には斜めに土から染み込んだ。幅1cm程度の縁状の土層もある。小さいながらもまとまった漆厚で、下手側縁部の縁・縦面には隙間が生じている。上側に広く含鉄あり。	
87	鉄形鋸治漆(樹小、含鉄) 灰土上行き	5	C-1	69 4.0 3.4 2.1	353.6	4	H(C)	砂粒土の酸化土砂と被削削れ口の樹小の鋸形鋸治漆。漆厚は下手側の縁と下側の一部で、漆厚と同様。下側は土層のぼやけた部分のぼやけている。上側から漆厚の連続性が確認できる。漆厚の少ない部分がある。含鉄は土層に広く含鉄が見受けられる。上側に広く含鉄あり。	
88	鉄形鋸治漆(樹小、含鉄) 灰土上行き	3	C-1	1357 4.4 4.6 2.9	525.2	4	H(C)	樹小や下に1cm以上の木炭灰が多く、埋入りの樹小の鋸形鋸治漆の。漆厚は上下手側と下手側中央部分のみで、全体の漆厚はぼやけた部分となる。後部縁に欠けた部分で、下手側の突出部のみ漆厚がぼやけに連続される。主体となる上手側は含鉄の広い小塊状の部分。	
89	鉄形鋸治漆(樹小、含鉄) 鉄製品(炭産品)付	5	D-3・5 土層上層	39 6.2 4.6 3.5	66.6	6	H(C)	分析資料7 分析資料詳細観察表参照。	
90	鉄形鋸治漆(樹小) 地上資源物付付き	3	B-1	2376 2.5 4.2 1.9	153.1	1	なし	樹小2つが連続となった樹小の鋸形鋸治漆。縦面縁は、下側は地上資源物に覆われ、気流は変化の下側に鉄形鋸治漆に適合する。漆厚は縁が連続する。炭産品の後、縁はD3の2層に適合することが判明した。	
91	鉄形鋸治漆(樹小) 地上資源物付付き	5	A-2 炭産品中	193 4.5 4.2 2.4	313.2	2	なし	地上資源物と漆厚が重なったよう全向き鉄形鋸治漆。刃先縁部が木炭灰の連続で、下手側は木炭灰に染み入り、生きている下側は木炭灰部分で、刃先は木炭灰に染み入る。含鉄は土層の中層。	
92	鉄形鋸治漆(樹小、含鉄)	3	B-2	129 2.9 3.8 2.3	27.0	4	縁(A)	砂質の酸化土砂に覆われた樹小の鋸形鋸治漆。樹小2つが連続で、漆厚は縁と縁とみられる。漆厚とも凸凹がなく、漆厚の少ない部分を含む。含鉄は漆厚が強く色鮮明な漆厚。欠陥は下手側には被削削れも生じている。	
93	鉄形鋸治漆(樹小、含鉄)	3	B-2	3080 4.1 3.4 2.1	314.2	2	縁(A)	漆厚2つが連続となった樹小の鋸形鋸治漆。漆厚ともに木炭灰が厚く、縦面や縁にも木炭灰の存在が確認できる。外側では含鉄が確認できず、漆厚は上から下まで。縁部は土層と一致する。	
94	鉄形鋸治漆(樹小、含鉄)	3	B-1	2593 2.3 3.2 1.2	127.2	2	縁(A)	樹小が連続となった樹小の鋸形鋸治漆。最大の漆厚は1.6cm程度。上下面とも深い木炭灰に覆われ、縁部は内より木炭灰による。含鉄は土層より漆厚より薄く。	
95	鉄形鋸治漆(樹小、含鉄) 地上資源物付付き	4	C-1	26 3.1 4.1 2.2	23.1	1	縁(A)	樹小資源物と漆厚の連続した鉄形鋸治漆。縦面縁は縁で、上手側の縁は縁をなす。下側は木炭灰で小さな漆厚が認められる。含鉄は下側が深い。	
96	鉄形鋸治漆(樹小、含鉄)	3	A-1	3410 3.2 4.7 1.7	262.1	1	縁(A)	小さいながらも漆厚に深い鉄形鋸治漆。比較的高層で上側や縁部に木炭灰がぼやちり、漆厚は露出する。縦面から下側に縁形で、上手側は縁の多い酸化土砂が露出する。含鉄はこの酸化土砂の部分。	
97	鉄形鋸治漆(樹小、含鉄)	4	炭 産 品	4 5.1 5.4 2.0	418.5	2	縁(A)	変形した漆厚の特殊な形の鉄形鋸治漆。下手側の縁部2つが縁で、上側は平直な漆厚の縁状となる。下側は縦面縁で上手側が縁状を示す。樹小2つに漆厚が付いた形で生じたもの。	
98	鉄形鋸治漆(樹小、含鉄)	3	一 断	13 5.6 4.4 3.1	808.2	2	縁(A)	漆厚が大きな破断となった樹小。または小形の鋸形鋸治漆。漆厚があり、右側部を中心に中層が認められる。下側は木炭灰の厚くついた角状。漆の厚さが厚く、漆色も漆色。含鉄は土層寄り。	
99	鉄形鋸治漆(樹小、含鉄)	5	B-1	5258 6.7 5.0 2.5	682.4	4	縁(A)	左右方向に長手の樹小の鋸形鋸治漆。漆厚2つに小面積が露出以外にはぼやけた部分。上下面ともぼやけた縁のぼやけた部分。下側は左右方向に向かう気流で、頭部は土層が連続している。含鉄は土層より下側が深い部分に露出している。	
100	鋸治漆	4	B-1 クロスナ	173 3.7 2.5 1.7	205.1	1	なし	やや樹小に作りかけの鋸治漆。下手側の漆厚が縁となる。漆色は深い木炭灰に覆われ、下側2つには露出する縁部が認められる。	
101	鋸治漆(含鉄) 地上資源物付付き	3	P-117	4114 2.1 2.1 1.1	54.1	1	縁(A)	上下面が土層と漆厚が連続する。漆厚が縁となる。漆厚は縁部で、下側から漆厚には小さな木炭灰が連続する。	
102	鋸治漆(含鉄)	4	A-2 クロスナ①	907 1.8 2.4 1.1	69.3	3	縁(A)	漆厚に覆われた小塊状の鋸治漆。漆厚は土層を露すか、ぼやけた部分。漆厚は小さな漆厚となる。含鉄は土層より。上下面とも深い木炭灰あり。	
103	鋸治漆(含鉄)	4	C-2	27 2.4 1.9 1.5	80.4	4	縁(A)	下手側の漆厚が縁質となった小面積の鋸治漆。上下面と縁部が木炭灰より変形して凸凹が生じている。右側の漆厚には砂粒土層の酸化土層あり。含鉄は土層より薄く。	

表6 博労町遺跡鉄器関連遺物観察表(6)

発掘番号	遺物名	地層名	クリップ・遺物名 層位名	遺物 番号	計測値 (cm)			重量 (g)	磁気 測定	メタル度	備 考
					長さ	幅	厚さ				
104	麻呂津 (合鉄)	3	C-2	930	27	45	17	153	1	強化(Δ)	質料方向に長手の変形となる腐蝕部。小塊状の塊が3個連続したもので、腐蝕部は逆側。たものみ。表面の8割が酸化をまじえる酸化土中に覆われており、下面右側には鋭角部が露出する。磁気測定は弱が特徴的。
105	粘土質溶射物	3	C1 土層 層り下付	112	27	32	15	154	1	なし	やや扁平な小塊状となった粘質溶射物。左手側の腐蝕が小面積となるが、ほぼ完全。左側部には、刃口由来の小塊が酸化を伴っている。下面は鋭い角状部で鋭角部。
106	粘土質溶射物	2	F 2	1943	46	46	26	182	1	なし	一見、平薄型の粘土質溶射物。右側部から下側にかけがで腐蝕に欠けており、右側部は酸化して裏が黄褐色を帯び出ている。裏面に鋭い角状部が露出して、鋭角部の腐蝕が特徴となつてくる。色調は灰褐色。
107	粘土質溶射物	3	C-1 クロスナ①	1038	49	5.8	2.6	49.3	1	なし	左側部がガラス質の硬面となる粘土質溶射物。裏面に腐蝕部露出で、下側ののみが腐蝕となる。上面は黒色ガラス質表面化しており、刃口らしき小片が鋭い刃状に付いている。鉄器には刃口部が腐蝕由来の可能性大。
108	粘土質溶射物	3	D-2	341	64	6.1	2.8	63.7	1	なし	腐蝕とやや粗大粒の遺物で、主体は角型を付与する粘土質溶射物。左手側から鋭角部、黒色、茶褐色のガラス質表面化している。上面中央部には刃口の腐蝕が鋭い刃状に付いている。表面は黒色ガラス質表面化による腐蝕部で、下側面は溶射物が広がる。
109	粘土質溶射物 (合鉄)	3	B-2	2065	31	5.2	25	21.5	2	強化(△)	下側へ向かい垂れかぶる粘土質溶射物片。左側の腐蝕下部には刃口腐蝕が鋭い刃状に付いている。上側の下部には、鋭角部の腐蝕となる砂粒状の腐蝕が露出する。左側部は右側部より厚大の突出部。
110	七器 (鉄器、洋付き)	3	B-1	2384	20	1.9	0.4	15	1	なし	厚さ0.5mm程度の表面が腐蝕のため酸化した特徴的。1手側が円の1/4程度とみられ、小さく丸状とする。表面1/4が腐蝕の腐蝕で、表面は黄褐色のガラス質表面化に酸化して、表面中央のみが赤褐色に酸化している。右側部の突出部は鋭角の粘土質溶射物。特徴的には鋭角部中央に黒色土層片が鋭い刃状に付いている。
111	鉄製品 (鍛造品) 鍔 (有孔)	4	A-1	1787	25	1.6	0.2	29	3	強化(Δ)	刃先先端部に径2.5mmの円孔が穿たれている無蓋二角鍔。円孔は中央よりやや左寄りとなる。基部は緩やかな凹状に治造されており、彫刻的にはやや左寄り。
112	鉄製品 (鍛造品) 鍔	8	A-1・2 十字下層	59	3.4	2.0	0.1	39	4	H(C)	1.7mmを渡る短手の鉄鍔。刃部は刃状に欠けており、途中で欠けている。つまり、基部の先端と刃部が平たくなっている。透過X線像には放射線が走る。
113	鉄製品 (鍛造品) 鍔	3	SD-11	6777	37	2.2	0.5	52	4	強化(Δ)	貫通と彫刻の短手の鍔。鋭い基部から刃部が鋭角部が鋭い。基部がやや欠けており、先端部は欠けた後に置き直されていると思われる。両側部の厚さは2.2mmを渡る。基部は小さく欠落する。刃部には厚さ0.11mmから0.113mmの内部酸化の酸化層がある。
114	鉄製品 (鍛造品) 鍔?	5	A-2 クロスナ①	821	21	1.5	0.2	6.2	2	強化(Δ)	透過X線像で構造が117と似る。小形の無蓋二角鍔の可能性のある鍔として扱っている。但し、基部の酸化が厚く、外側の酸化は不明瞭が多い。透過X線像では鋭角部が鋭い角状に付いている。長さ1.5mmの円孔が中央部に穿たれているようにも見え、円孔が腐蝕による腐蝕部が表面の酸化層と似る。
115	鉄製品 (鍛造品) 鍔?	3	D-2	671	6.1	0.5	0.4	12.6	2	強化(△)	無蓋二角鍔の可能性を有する。基部部の鉄鍔片。質料自体は中央部の酸化土中に埋れて覆われており、透過X線像から両側部の鉄鍔がわかる。下手側へ向かい鋭く欠けており、基部は緩やかな凹状に治造されている。下手側は緩やかに鈍くなる形状で、構造は119などと似る。
116	鉄製品 (鍛造品) 鍔?	3	B-1	1822	4.0	1.5	0.4	15.4	5	H(C)	厚い酸化土中に埋れた鉄鍔片。透過X線像には2.5mmほどの長さをもつ基部と両側の鍔身の一部分が見える。刃部は平ばから鈍め方向に欠落する。基部は緩やかに鈍くなる形状で、構造は119などと似る。
117	鉄製品 (鍛造品) 鍔	3	B-1	2167	5.8	1.7	1.0	23.6	5	H(C)	基部の中央より先端部が欠けた短手の鉄鍔片。作りは2手側で鍔身の基部と両側の鍔身の一部分が見える。刃部は1.3mmで鈍めである。刃部は基部から緩やかに鈍くなる形状で、構造は119などと似る。
118	鉄製品 (鍛造品) 鍔 (又はヤス)	3	A-1	3151	8.9	0.7	0.1	14.4	4	H(C)	短手側より酸化土中に埋れた鉄鍔片。透過X線像には鍔身の基部と両側の鍔身の一部分が見える。刃部は緩やかに鈍くなる形状で、構造は119などと似る。基部は緩やかに鈍くなる形状で、構造は119などと似る。
119	鉄製品 (鍛造品) 鍔	5	D-1	2459	15.9	1.0	0.5	35.7	3	強化(Δ)	3片に折れている長手の鍔。構造は117と似て、両側で3.5mmほどの厚さを持つ。基部は両側から緩やかに鈍くなる。9.8mmとが確定である。基部の鍔身の基部は平ばで、基部は緩やかに鈍くなる。刃先部は欠落する。
120	鉄製品 (鍛造品) 刀?	5	A-4 鉄鍔之中	195	3.8	1.0	0.3	27	4	II(C)	両側部が欠けた刀身の刃部。両側部は緩やかに鈍くなる。刃部が鋭い。両側部の酸化が鋭い刃状に付いている。透過X線像には鍔身の基部と両側の鍔身の一部分が見える。刃部は緩やかに鈍くなる形状で、構造は119などと似る。
121	鉄製品 (鍛造品) 刀?	5	D-1	740	8.2	1.0	0.4	86	3	強化(Δ)	3片に折れている刀身。刃先は基部から緩やかに鈍くなる。刃部は鋭い。両側部の酸化が鋭い刃状に付いている。透過X線像には鍔身の基部と両側の鍔身の一部分が見える。刃部は緩やかに鈍くなる形状で、構造は119などと似る。
122	鉄製品 (鍛造品) 刀?	3	C-1	2906	5.9	1.0	0.3	10.9	4	強化(Δ)	刀身の刃部。刃先は基部から緩やかに鈍くなる。刃部は鋭い。両側部の酸化が鋭い刃状に付いている。透過X線像には鍔身の基部と両側の鍔身の一部分が見える。刃部は緩やかに鈍くなる形状で、構造は119などと似る。
123	鉄製品 (鍛造品) 刀?	5	A-1	2290	3.9	1.4	0.3	11.6	4	強化(Δ)	両側部が鋭くなる刀身の刃部。刃先は基部から緩やかに鈍くなる。刃部は鋭い。両側部の酸化が鋭い刃状に付いている。透過X線像には鍔身の基部と両側の鍔身の一部分が見える。刃部は緩やかに鈍くなる形状で、構造は119などと似る。
124	鉄製品 (鍛造品) 刀?	5	D-2	1794	9.8	0.8	0.3	12.5	3	強化(Δ)	2片に折れている厚手の刀身。両側部は緩やかに鈍くなる。刃部は鋭い。両側部の酸化が鋭い刃状に付いている。透過X線像には鍔身の基部と両側の鍔身の一部分が見える。刃部は緩やかに鈍くなる形状で、構造は119などと似る。
125	鉄製品 (鍛造品) 刀?	3	D-1 クロスナ①	115	7.1	1.3	0.4	16.7	5	II(C)	刀身の平刀片。刃部は緩やかに鈍くなる。刃部は鋭い。両側部の酸化が鋭い刃状に付いている。透過X線像では、刃部に欠けがあるようにも見え、鈍くなる部分も見える。

表7 博芳町遺跡鉄関連遺物観察表(7)

検出 番号	遺物名	検出 層	グリッド・遺物名 層別名	遺物 番号	寸法 長さ	幅	厚さ	面積 (cm <sup>2</sup> )	重量 (g)	磁気 特性	メタル値	備 考
126	鉄製品(鍛造品) 刀子	3	A-1	3438	8.2	1.2	0.3	17.3	4	H(○)		鉄製の多い遺跡中に属した刀片。切先と基部の8割方が欠け落ちている。筒首部分では明確な刃面は不明確。比較的に厚い鍛造品を示すが、厚みも薄い。
127	鉄製品(鍛造品) 刀子	3	B-2	386 390	9.7	1.2	0.4	18.0	3	H(○)		2片に割れている鉄身の刀片破片。切先と基部の8割方が欠けている。筒首の基部は明確で、刃面には認められない。横溝となっているのは「既記載の1」の影響か。鉄造品は「1」。
128	鉄製品(鍛造品) 刀子	1	W-6	4989	11.5	1.2	0.3	18.1	3	緑化(△)		切先と基部が欠けた刀子破片。作りは「1」が若干(底まで1)のみの身が残っており、切先側に向かうほど緑化が薄く、基部は半ばまで削れており、両面である。部分的に錆ぶれあり。切先の可塑性を持つ小破片が未検出で見られる。
129	鉄製品(鍛造品) 刀子?	4	B-3	485	5.1	1.1	0.3	22.0	6	H(○)		刀身の基部。または鍛造鉄製品。先端部が確認でき、わずかに筒を加工する定座のような形状に確認される。基部は浅く入っているが、やや歪んだ鍛造品あり。
130	鉄製品(鍛造品) 刀子	3	C-1	1622	7.8	1.2	0.3	22.3	6	緑化(△)		刃部平らげが上方に削れ面がついた状態で欠けている刀子破片。基部は8割方が遺すが、先端部が欠失する。筒側に筒が確認されるが、鍛造品もうねっているため鉄製品かもしれない。刃部の削れ面がほぼ垂直的。
131	鉄製品(鍛造品) 刀子	4	C-2	924	11.3	1.4	0.4	30.9	5	H(○)		切先のみが欠けている刀子。基部が最大で1.4cmを覆り、両端も切替。基部は1.1cmの長さを持ち、先端部が斜上方に削れ面が見え、削り方は鍛造と類似。1箇所削り方が比較的多く、削り方も垂直的。鍛造品は筒首で緑化によるピンホールが確認される。
132	鉄製品(鍛造品) 短剣片	4	C-1 クロス①	174	2.2	2.8	0.4	3.2	2	緑化(△)		短剣の刃部破片。右側はほぼ矩形で形成されており、削り方向が欠失する。厚みの測定できず、ややよりの短剣の可能性あり。
133	鉄製品(鍛造品) 短?	3	D-2	1291	3.2	2.1	0.2	4.1	3	緑化(△)		製作の跡とみられる刃部破片。両端部と下部が削り欠けている。厚みには錆ぶれ欠けが見える。刃部はほぼ垂直に削り面が見え、削り方やどうみても不明。厚みがないことから短剣としては鉄製の短剣片。
134	鉄製品(鍛造品) 短?	4	B-3 クロス②	2121	4.8	2.4	0.2	12.0	2	緑化(△)		2片に割れている鉄製の短剣破片。刃部は2.5cmを覆り、左端が内側に削れ面がついていることから、基部の可塑性。鍛造のため内部にはピンホールが多く、基部は両側の緑化が薄く出る。
135	鉄製品(鍛造品) 短?	4	A 1	1858	2.4	3.0	0.3	11.1	3	緑化(△)		厚い緑化土中に覆われた厚板状の鉄製品破片。左右の両端部が確認されており、厚さは最大で3cmを覆る。右方向に向かい基部が欠けることから、薄の可能性を持つものとしておく。
136	鉄製品(鍛造品) 短?	5	B-1	4341	4.3	2.1	0.6	18.8	3	緑化(△)		やや歪曲した緑化土中に覆われた鉄製短剣片。両端には基部が2.2cmを覆る板状の鍛造品が確認される。一端、基部の切先に見えるが、基部の長さから1.4cmの寸法と推定でき、やや複雑な構造。緑化の状態も両端縁上では削り面と類似する。
137	鉄製品(鍛造品) 短?	4	C-1	1097	2.6	3.2	0.3	8.3	5	H(○)		細い短剣に用いられる厚板状鉄製品破片。基部の基部と上部縁部が確認される。全体に上下方向に平準化に向かい削り面がついており、厚みは2.5cmを覆る。表面にはほぼ垂直に緑化土あり。
138	鉄製品(鍛造品) 短?	1	B-2	2212	5.8	1.8	1.4	32.5	7	H(○)		筒首より重厚な良好な鍛造品。または石炭質の鉄製品。上部で長さ2.5cmを覆り、下部で長さ1.8cmの長さの断面を形成している。幅は13cm。上部の厚みは2.5cmを覆り、空室部には上部が削り面がついている。
139	鉄製品(鍛造品) (金銀) 釘?	2	SK-04	4073	2.0	0.4	0.3	0.7	2	緑化(△)		下平縁の短剣が「1」字状に削り面がついている短剣の鉄製品。断面形状は不整形で、作りは短。削れ面がほぼ垂直に削り面となり、平準化している。
140	鉄製品(鍛造品) 釘	5	C-1	2132	5.1	0.7	0.6	7.7	3	H(○)		わずかに緑化に削り面がついている釘。基部には削り面がなく、平準化状態で残る。断面形状は方形。足跡先は緑化のためわずかに欠失する。
141	鉄製品(鍛造品) 釘?	3	C-2	1007	5.8	0.6	0.4	8.5	3	H(○)		筒首と似た断面に加工の痕跡のない釘。足跡先は基部は僅かに欠け5mm程度で、基部はやや歪む。断面形状は方形。
142	鉄製品(鍛造品) 釘(管状)	3	B-1	2243	6.0	0.6	0.4	10.2	4	H(○)		断面が削り面5mm程度の鉄身の釘。足跡は筒首で、鍛造品はやや歪む。断面形状はわずかに長方形形状。
143	鉄製品(鍛造品) 釘	3	C-2	932	3.8	1.0	0.8	10.4	4	H(○)		上端部が空室に突出する釘。または鍛造鉄製品破片。基部が両側とも確認とみられるが、緑化土が厚く、測定はできない。鍛造品はやや歪む。
144	鉄製品(鍛造品) 釘	3	C-1	1202	4.1	0.6	0.4	10.8	3	H(○)		筒首に基部の削り面が確認される釘。足跡先は小さく欠けているようにも見え、鍛造品は筒首。
145	鉄製品(鍛造品) 釘(管状)	3	D-2	702	4.6	0.8	0.4	11.1	3	H(○)		基部の削り面が不明な釘破片。足跡先は基部となる。基部は水平に小さく削り面。断面形状は方形。
146	鉄製品(鍛造品) 釘	3	B-2	3633	6.1	0.7	0.6	11.7	4	H(○)		筒首方向と基部先が削れ面がついた釘。基部には基部は筒首と見られるが、削り面の可塑性大。足跡先も生きている。鍛造品は筒首。断面形状は方形。
147	鉄製品(鍛造品) 釘	3	B-2	2081	5.9	0.6	0.6	12.8	3	H(○)		筒首と同様。基部は筒首は削り面がついていないが、筒首側の可塑性を持つ。基部上部が「1」の字状に削り面がついており、足跡先は基部。断面形状は方形で、鍛造品は筒首。
148	鉄製品(鍛造品) 釘?	3	C-2	1837	4.8	0.7	0.7	13.8	2	緑化(△)		足跡先が筒首で欠けた釘。基部は削り面がなく平準化となる。断面形状はわずかに長方形形状。鍛造品は筒首。
149	鉄製品(鍛造品) 釘	3	B-2	292	7.7	1.5	0.6	14.1	3	H(○)		2片に割れている筒首側の鉄製品。基部の基部の先に長さ3.5cm程度の薄長方形の平面をもつ基部が削り面がついている。足跡先は筒首によりわずかに欠失あり。鍛造品は筒首で削り面が見え、基部上方には確認される。
150	鉄製品(鍛造品) 釘?	3	C 2 クロス③	1372	3.7	0.9	0.6	14.2	5	H(○)		筒首に削り面がついた管状短剣の鉄製品。基部方向が斜めに平準化しており、基部平らげは欠失する。鍛造品はほぼ筒首。
151	鉄製品(鍛造品) 釘	5	B-3	2396	3.9	0.3	0.3	14.4	5	H(○)		断面が筒首に削り面がついた欠け短剣の鉄製品。足跡先は筒首平らげから欠失する。断面形状は長方形で、基部の緑化土が薄い。

表8 博労町遺跡鉄関連遺物観察表(8)

標記番号	遺物名	発見層	グリッド・遺物名 層位	高野 番号	計測値 (cm)	正巻 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	材質	備考
152	鉄製品(鍛造品) 釘	3	C-2	735	66	1.0	0.4	152	3	H(C)	断面が明瞭に折り込まれている管状鉄釘。断面形状は方形からやや長方形で、足部はほぼ成面となる。鍛造痕はやや輪で、各部がほぼ均等に折れ曲がっている。
153	鉄製品(鍛造品) 釘?	5	B-1	1089	73	0.7	0.3	160	3	II(C)	断面が小さく折り込まれたやや細身の釘。断面形状は方形で、足部がほぼ成面となる。鍛造痕は僅かに見られる。
154	鉄製品(鍛造品) 釘	3	C-1	1389	90	0.9	0.3	177	4	H(C)	断面の折り返しが開いてしまった管状釘。体部上半が「く」の字状に折れ曲がり、足部先端が小さな成面となる。断面形状は方形から長方形で、断面はほぼ成面。
155	鉄製品(鍛造品) 釘	1	W 6	4322	62	0.9	0.6	178	5	H(C)	断面から体部方向に20mmほど張り出した管状釘。足部は体部半平から欠落する。断面は体部に比べて厚く加工されている。断面形状はやや長方形。
156	鉄製品(鍛造品) 釘(折れ折れ)	1	K-4	2906	93	0.7	0.5	181	6	II(C)	断面の折り返しや透過X線像に明瞭な管状釘。体部半平で、浅い「く」の字状に折れ曲がっており、足部先端がごくわずかに欠けている。断面形状は、断面方向が長方形で、断面は方形となる。鍛造痕は「準」。
157	鉄製品(鍛造品) 釘?	3	A-1	3264	72	0.5	0.6	185	4	H(C)	断面が小さく折り込まれている管状の鉄製品。足部先端は左側が欠落する。体部半平は、ひび割れから具別れ状態。厚い酸化土砂に覆われる。
158	鉄製品(鍛造品) 釘?	4	C-1	655	72	0.7	0.6	191	3	H(C)	断面が不明瞭な釘。足部先端は生きている。鍛造痕はやや折れ込み。厚い酸化土砂に覆われている。
159	鉄製品(鍛造品) 釘	3	R-2	2293	36	1.6	1.3	216	6	II(C)	外観形状には厚い酸化土砂に覆われた状態となった鉄製品。透過X線像によれば、断面の加工がなされている成形の釘。体部途中で足部が大きく欠けている。断面形状は普通で、酸化土の内部にひび割れが数箇所。
160	鉄製品(鍛造品) 釘	1	W-6	4302	82	1.0	0.6	267	3	H(C)	断面が小さく作り出されている成形の釘。足部先端はほぼ成面。鍛造痕は普通で、表面は酸化土砂が厚い。
161	鉄製品(鍛造品) 釘	3	D-1 上層部	435	74	1.0	0.9	289	4	H(C)	断面が明瞭に加工されている釘。断面の平面形状は半円状で、斜めに左下に折り込まれている。足部先端は欠落し、外周部には酸化土砂が厚い。鍛造痕は良好。
162	鉄製品(鍛造品) 釘折れ	3	B 1	2161	93	0.7	0.6	338	4	L(●)	厚い酸化土砂に覆われた釘折れの鉄製品。断面が体部方向に1cmほど突出しており、断面と足部先端が酸化土により小さく欠落している。体部半平から足部方向の酸化土が厚い。鍛造痕は普通で、体部半平にやや折れが見られる。
163	鉄製品(鍛造品) 釘?	5	SI-08	7941	29	1.2	0.4	301	2	II(C)	断面が下部に成形された小ぶりの釘。または釘片。断面が体部半平に達しており、断面方向に向かい足部先端が欠落している。断面が明瞭に成形されているものか、切欠きによるものか不明。
164	鉄製品(鍛造品) 釘又は釘	4	C-2	2316	17	1.0	0.8	283	2	酸化(△)	断面を一回り大きくした形の釘。または釘折れの鉄製品。断面が体部半平に達しており、断面で折れ曲がったような透過X線像となる。後から無垢が剥き取れて、足部先端は、鍛造痕にはやや折れあり。
165	鉄製品(鍛造品) 棒状不明品	3	C-1	973	75	1.1	0.7	202	6	H(C)	分析資料表8 分析資料詳細観察参照。
166	鉄製品(鍛造品) 棒状不明品	3	A 1	3381	41	0.5	0.5	136	3	M(C)	「コ」の字状に折れ曲がった棒状不明品。透過X線像で見ると、折り曲げられた釘状で、折り返しのない方が断面で、長い方が断面と判別されるX線像となる。断面の折り返しは遺存せず。外周部の酸化が深み、断面は比較的成面。
167	鉄製品(鍛造品) 釘?	3	C-2	1600	39	0.6	0.5	85	4	II(C)	「L」字状に折り曲がった棒状の鉄製品破片。断面の輪郭は明らかな成面で、右側の足部側の部分にはほぼ直線である。その部分がしっかりと90度方向に折り曲げられ、水平に伸びる体部の中央方向が太い部分であることから、断面とこの断面による形状と想定される。断面はほぼ成面。
168	鉄製品(鍛造品) 釘	1	W-2	1033	87	4.0	0.4	276	3	H(C)	体部2つ折りが折れ曲がった釘。または折り金め鉄製品。両端が鋭く欠けて両面が直線であり、上部の体部半平の部分が折れ曲がっていることから、断面の可能性が高い。断面とすれば、足部がやや長方形で体部の幅が5mm前後と、やや狭い形状となる。足部が「く」の字状に開いているのは、当然からか。二次元的な形状は不明。鍛造痕にはうねりがあり、やや成面作りと見られる。
169	鉄製品(鍛造品) 火打金?	3	B-1	1746	44	2.4	0.4	275	2	酸化(△)	石製の断面が体部半平に成形されている火打金の鉄製品破片。透過X線像で見ると、火打金とすれば、左側の輪郭と上半に伸びる山形の途中までが欠け落ちている。透過X線像から見ても上半が棒状の鉄製品であることを読み取れる。断面の部分は左向きで、中央の断面は約7mmを測る。
170	鉄製品(鍛造品) 棒状不明品(非鉄金属付)	3	D-1 クロムナ②	326	10	2.9	0.5	255	3	酸化(△)	外観形状が完全にわたり断面はほぼ直線となった不明鉄製品破片。透過X線像によれば、断面の半円状に異なる金属の可能性を持つ付着物が読み取れる。鋼合金系の金属の可能性あり。但し、分厚い酸化土砂に覆われているため、形状は不明。
171	鉄製品(鍛造品) 釘金?	3	C-2 クロスナ①	1045	65	2.3	0.3	812	3	H(C)	分厚い酸化土砂に覆われ、一端、断面輪郭はほぼ直線と見えても断面はほぼ直線。透過X線像によれば、断面の両側部が折り込まれている管状の鉄製品。断面はほぼ成面。長さ7.5cm前後と異なる。石製の断面は斜めに欠け落ちしており、断面の輪郭は内部に酸化土砂に覆われている。両端はほぼ成面の半円状の外周部の両端のみ。鍛造痕からは下向き刃物のような不明な鍛造痕は認められない。

表9 博労町遺跡 鉄関連遺物分析資料一覧表

(注：メタル又は粘土)

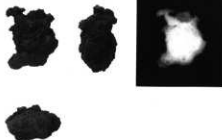
採 集 場 所	地区名及び グリッド名	遺跡名及び 遺物番号	層 次 番 号	遺 物 種 類	重 量 (g)	磁 性 度	メ タ ル 度	分 析 コ メ ン ト	マ ク ロ ビ テ ク ス 分 析	化 学 分 析	新 カ ロ リ 火 り 機 1	炭 素 分 析	分 析 位 置 勘 定	検 査 方 法	精 心 な び 点	カ ラ ク ロ ミ ン グ	安 定 同 位 素	ア ニ メ ン ト
1	3区	鉄関連遺物盛土坑 下層	9	焼灰(灰)	19.1	4	粘土(ハ)	内蔵を中心に	○	○	○	○	長軸部 1/2	炭素法の切取	○	○	○	○
2	3区	鉄関連遺物盛土坑 下層	22	焼灰(4点)	—	1	なし	穀粒として	○	○	○	○	必要品	選 択	○	○	○	○
3	3区	鉄関連遺物盛土坑 下層	23	焼灰(6点)	—	1	なし	焼土片として	○	○	○	○	必要品	選 択	○	○	○	○
4	3区-D-2	8680)	47	底川流砂	715.9	1	なし	埋蔵を	○	○	○	○	短軸部 1/10	炭素法の切取	○	○	○	○
5	5区-A-2	8624	60	硝門 (焼土、丸形部一様部)	89.3	1	なし	硝口として	○	○	○	○	短軸部 1/2	炭素法の切取	○	○	○	○
6	3区-A-2	86714	63	硝門流砂(小)	205.8	1	なし	埋蔵を	○	○	○	○	長軸部 1/6	炭素法の切取	○	○	○	○
7	5区-B-3、4	8639	89	硝門流砂(小)、骨牌、 鉄製品(鉄製品付)	68.6	6	II(C)	メタル部を中心に	○	○	○	○	長軸部 1/3	炭素法の切取	○	○	○	○
8	3区-C-1	86972	165	鉄製品(焼流法) 硝土(硝品)	20.2	5	II(O)	メタル部を中心に	○	○	○	○	短軸部 1/2	炭素法の切取	○	○	○	○

## 分析資料番号 1

出土状況	遺跡名		博多町遺跡 3区		構成№		9		項目	洋	メタル
	出土位置		鉄関連遺物廃棄土坑 下層		時期：根拠		9世紀前半：出土土器				
試料記号	検 鏡：BAK-1	計 測 値	長 径	35 cm	色 調	表：茶褐色～濃茶褐色	遺存度	破片?	分 析	マクロ	○
	化 学：—		短 径	3.0 cm		地：濃茶褐色～黒褐色	破面数	1		検 鏡 硬 度 EPMA	◎ ○
遺物種別 (名 称)	輪形鍛冶滓 (極小・含鉄)	厚 さ	2.0 cm	磁 着 度	3	前含浸	—	X線回折 化 学 耐 火 度			
		重 量	19.1 g	メタル度	鈍化(△)	断面樹脂	○	カロリー 放射化			
観察所見	<p>平面、不整半円形をした極小の輪形鍛冶滓。左側部が直立気味に途切れており、もとの母体となる輪形鍛冶滓の破面の可能性を残す。表面は酸化土砂や濃茶褐色の錆色に覆われており、付着物中には粉炭が目立つ。下面の右下手側には青光りする薄手の鍛造剥片が附着している。上面右手の肩部寄りには粉炭痕らしき細かい凹凸のある洋の自然面が露出し、部分的に青光りする。上手側の側部は不規則な突出部で、端部が小さな破面となっている。この破面の下面は浅い錐状に窪み、一見、工具痕様となる。見かけの側には洋の磁着が強いが、上面、上手側肩部の錆跡れ部分のみ磁着が強くなる。色調は表面の酸化土砂が茶褐色で、洋部は濃茶褐色となる。地は淡茶褐色から黒褐色。</p>										
分析部分 備 考	<p>長軸端部1/2を直線状に切断し、洋部を中心に分析に用いる。残材断面上に樹脂塗布。残材返却。</p> <p>完形品か破片か紛らわしい資料である。左側部を破面と見て記録をしている。どちらであっても、洋量が少ない最終工程に近い段階の鍛冶滓であろう。付着する鍛造剥片や粉炭の痕跡は本資料が残されていた空間の状況物語るものである。分析資料№1から№3は、現場調査の時点では鍛冶炉中心部として取り扱われており、微細遺物を含めて50cmメッシュで土砂ごと回収された後に水洗・分離されたものである。しかし、整理過程で鍛冶遺物としての検討を加えた結果、遺構名としては「鉄関連遺物廃棄土坑、下層」として報告することになった。</p>										



0 (S=1:3) 5cm



## 分析資料番号 2

出土状況	遺跡名		博労町遺跡 3区		構成地		22		項目	滓	メタル
	出土位相	鉄関連遺物廃棄土坑 下層	時期：板橋	9世紀前半：出上十層							
試料記号	検鏡：BAK-2	計測値	長径 — cm	色調	表：—	遺存度 —	X線同折化学耐火度	分	マクロ		
	化学：—		短径 — cm		地：—	破面数 —			検鏡	紙度	○
遺物種類(名称)	放射化：—	値	厚さ — cm	磁着度	1	前含浸 —	X線透過	析	カリ放射化		
	粒状滓(4点)		重量 — g		メタル度	なし			断面樹脂 —	カリ放射化	
観察所見	<p>現地調査の段階に於いて焼上や鉄滓の集中区を鍛冶遺構と仮定して、50cmメッシュで土砂ごと採取の後、水洗・分離された資料である。分離された粒状滓に似た外観の資料は計8点程と極めて微量で、その中から大きさや磁着傾向をもとに大から極小サイズまでに属する4点を分析資料として選択した。分析資料№2-イ-1・2と、分析資料№2-ロ-1・2である。このうち、イ-1・2は表皮が剥落気味でやや比重が高いことから真正な粒状滓ではなく、内部が中実の粒状滓様遺物とすべきかも知れない。また、ロ-2は粒径が0.8mm大と一段と微細で、粒状滓とすべきかどうか、やや躊躇する資料である。いずれにしても、鍛造剥片の回収量に比べて粒状滓に類似する資料は数百分の一以下と極めて少ない。詳細は別表参照。</p>										
分析部分	<p>必要品を選択し、粒状滓として分析に用いる。残材返却。</p>										
備考	<p>鉄関連遺物廃棄土坑下層の覆土から回収された粒状滓は鍛造剥片量に比べて極めて少ない。その原因には遺構の性格が反映されている可能性もあり。可能性① 鍛錬鍛冶工程中で粒状滓生成の原因となる粘土計が用いられていない。可能性② 廃棄土坑にもたらされた鉄関連遺物の由来が鍛冶工房床面等から選択的に移動されている。(掃除作業等による) 可能性③ 水洗分離時に磁選を行ったため、磁石に比較的反応しやすい鍛造剥片類が回収されたのに対して、一般的に磁着反応の弱い傾向を持つ粒状滓が選択的に除外されてしまった。以上のどれかによって由来するのかも知れない。</p>										

## 分析資料 №2 粒状滓(4点)

番号	径(mm)	色調	形状及び表面	磁着	気孔
2-イ-1	3.8	濃茶褐色	表皮の半分ほどが剥落した粒状滓様の遺物。表面にはクレター状の気孔が目立つ。	やや強	多く点在
2-イ-2	2.4	黒褐色	表皮が全て剥落した粒状滓様の遺物。形はややいびつで、気孔点在する。	やや強	点在する
2-ロ-1	1.6	黒褐色	正円の粒状滓。表面にはやや光沢をもち、微細な付着物あり。	やや弱	なし
2-ハ-1	1.8	やや青光りする青灰色	ほぼ正円で、一方の側面に小さな突出部あり。表面はわずかな波状を呈す。	やや弱	なし

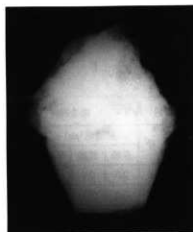
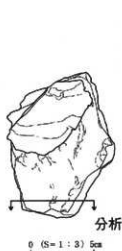


出土状況	遺跡名		博労町遺跡 3区		構成No.		23		項目	洋	メタル			
	出土位置	鉄関連遺物廃棄土坑	下層	時期:概掘	9世紀前半:出土土層									
試料記号	検 査: BAK-3	計	長 径	—	cm	色 調	表:	—	遺 存 度	—	分	マクロ	検 査 度 EPMA	○
	化 学: —		短 径	—	cm		地:	—	破 面 数	—		X線回折 化学 耐火度		
	放射化: —		厚 さ	—	cm		磁 着 度	1	前 含 浸	—		析		
遺物種類 (名 称)	鍛造剥片 (6点)	値	—	重 量	—	g		メタル度	なし	断面観察	—		X線透過	
観察所見	現地調査の段階に於いて焼上や鉄滓の集中区を鍛冶遺構と仮定して、50cmメッシュで十砂ごと採取の後、水洗・分離された資料である。分析資料No.2の詳細観察でも触れているとおり、鉄関連遺物廃棄土坑、下層の十砂から水洗・分離された鍛造剥片は量が膨立って多い。資料化にあたっては、節目の違いにより、大きき別に荒区分したのち、まず標準磁石を用いて磁着傾向の強弱に二分した。この母資料から代表厚みの資料3点を選んで、合わせて6点の分析資料にした。鍛造剥片全体の傾向は中厚から薄手にまたがっており、表面が本来の酸化色ではなく、周辺からの影響の強い二次的な錆色に覆われていることも特色となる。詳細は別表参照。													
分析部分	必要品を選択し、鍛造剥片として分析に用いる。残材返却。													
備 考	分析資料No.2の詳細観察でも触れているとおり、粒状滓に比べて数百倍以上の量を測る鍛造剥片が分離されている。検出遺構そのものは、廃棄土坑と考えられるため、周辺に本来の鍛冶遺構が存在した可能性があるが、明確な遺構としては検出されていない。その理由は、①鍛冶遺構が調査範囲外となった。②鍛冶遺構が凹凸平等で消失した。こうした二つの可能性を持っている。鉄関連遺物廃棄土坑の東側には未調査の空地があり、あるいはここに鍛冶遺構が含まれている可能性があるかも知れない。なお、廃棄土坑の北側には大形の掘立柱建物と溝(?)が検出されており、これらとの関係も検討課題であろう。													

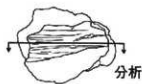
分析資料 No.3 鍛造剥片 (6点)

番 号	計測値(mm)			色 調	表	裏	磁 着	気 孔
	長軸	短軸	厚さ					
3-イ-1	3.6	2.6	0.4	表裏 黒褐色	表面は平滑で増部がそり返る。	弱いが細かい波状の剥離面。	やや弱	ややあり
3-イ-2	3.4	2.1	0.2	*	表面は平滑で筋が二条あり。	弱いがチリメン状の剥離面あり。	*	ややあり
3-イ-3	3.7	2.2	0.1	表裏 青黒~黒褐色	平滑で、ゆるやかな波状となる。	弱いが細かい波状の剥離面。	*	なし
3-ロ-1	3.3	1.9	0.4	*	平滑ながらややざらつく。	*	やや強	ややあり
3-ロ-2	2.7	2.2	0.2	*	平滑で、一部に小さなキズあり。	*	*	なし
3-ロ-3	2.2	1.8	0.1	*	平滑で、僅かにキズあり。	*	*	なし

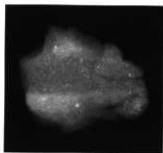
出土状況	道 路 名	博分町道跡 3区		標高No	47			項目	澤	メタル	
	出土位置	D-2 No801		時期：覆桃	9世紀前半：出土土器						
試料記号	検 査：BAK-4	計 測	長 径	11.5 cm	色 調	表：淡茶褐色 ～黒褐色	遺 存 度	破片	分 析	マクロ	
	化 学：BAK-4		短 径	8.5 cm		地：明褐色・ 黒褐色	破 面 数	11		鏡 度	○
	放射化：—		厚 さ	6.6 cm						X線同折 化 学 耐 火 度	○
遺物種類 (名 称)	流出溝滓 (製鉄系)	値	重 量	715.9 g	鉛 膏 度	1	前 含 浸	—	カロリー 放射化		
					メタル度	なし	断面樹脂	—	X線透過	○	
観察所見	<p>平面、不整六角形をした盤状の流出溝滓破片。側部は直線状の連続的な破面に覆われており、破面数は11を数える。上面は上下二段に分かれた流動する平滑面で、上面側の表皮にはチリメン状の流れを生じている。下面は左右方向に向かうごく緩やかな舟底状になっており、全体に2cm以下の伊壁礫や礫岩の小片を噛み込んでいる。なお、破面から見ると噛み込みの厚さは、最大1.5cmほどになる。伊壁片の胎土は短いスサを含む密度の高い粘土質で、被熱のためか明褐色から白色気味。滓質は緻密で、破面の結晶はやや肥大する。色調は表面の酸化した土砂が淡茶褐色で、滓部は表面地とも黒褐色となる。</p>										
分析部分	短軸端部1/10を直線状に切断し、滓部を分析に用いる。残材返却。										
備 考	<p>ゆったりと右方向に流れる製鉄系の流出溝滓の中核部破片の可能性が高い。本遺跡全体としては、鍛冶系の椀形鍛冶滓の出土量が多いが、製鉄系の流出溝滓や流動滓も22点ほど確認されている。これらのうち、比較的大ぶりの滓の底面には、本資料と同様、伊壁礫や礫岩の破片を噛み込んでいる。本遺跡自体は砂丘上に位置しているもので、礫岩の露出している地点で製鉄炉の操業(箱形炉)が実施されていたことを予想させる。なお、伊壁土にスサを一定量含み、9世紀代前半の鍛冶系の滓や土器片と共に出土していることから、製鉄炉の操業時期は、古代(9世紀前半以前)に属するものと見ておきたい。従って、砂丘上の無落遺跡からの出土品とはいえ、古代の製鉄炉の存在を窺わせる手がかりとなる情報が得られたものと評価されよう。</p>										



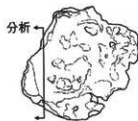
出土状況	遺跡名	博労町遺跡 5区		構成No.	60			項目	簿	メタル		
	出土位置	A-2 No824		時期：根拠	9世紀前半：出土土器							
試料記号	検 鏡：BAK-5	計測	長 径	7.8 cm	色 調	表：褐色～灰褐色～黒褐色	造 存 度	破 片	分	マクロ		
	化 学：BAK-5		短 径	6.1 cm		地：淡茶褐色～黒褐色	破 面 数	7		検 鏡 硬 度	○	
	放射化：—		厚 さ	2.3 cm		磁 着 度	1	前 含 浸		—	EPMA	
遺物種類 (名 称)	羽口(鍛冶、先端部～体部)	値	重 量	89.9 g	メタル度	なし	断面剪断	—	析	X線回折		
										カリョー放射化		○
観察所見	<p>鍛冶羽口の先端部破片。先端部方向に向かって直線的に先細りとなる羽口で、正面から見て、径の2/5ほどの破片である。側面2面と基部側が連続する小破面となっており、破面数は7を数える。通風孔部の径も外形と相似する先細り気味になる。先端から5cmほど基部側に向かった部位での通風孔部径は2.4cmを測る。先端部外面は素直に被熱し、最大厚み1cmほどが発泡気味に浮化する。続いて基部側に向かい3cm程度程度の灰色被熱帯、1cm幅程度の灰褐色被熱帯、さらに淡赤褐色被熱帯の順に熱変化する。外面の整形は、基部側から先端方向に向かう丁寧なヘラケズリによる。通風孔部の穿孔方法は、やはり先端方向に向かうもので、穿孔孔の荒れのためか不規則な筋目が壁面に明瞭に残されている。胎土は砂粒を一定量含む粘土質で、ササ等は含まれていない。外面の色調は前記各部の通り。地は淡赤褐色から赤褐色となっており、浮化した部分の一部が黒褐色を示す。</p>											
分析部分 備 考	<p>短軸端部1/2(径の1/2)を直線状に切断し、羽口として分析に用いる。残材返却。</p> <p>本遺跡出土の羽口破片は小片を含めてごく僅かで、本資料が最大破片となる。出土位置は5区A-2となっており、3区出土の分析資料No.1からNo.4との位置関係は本調査の空間を挟んだ南東側に位置する。そのため、分析資料No.1からNo.4とセットとなるかどうかは不明。なお、遺跡全体の傾向は3区出土品が鍛冶関連遺物主体で、5区出土品が鍛冶関連遺物に加えて製鉄系の跡が比較的に目立っている。また、本資料と分析資料No.7は、出土位置がやや離れているが、同じ5区出土品になる。</p>											



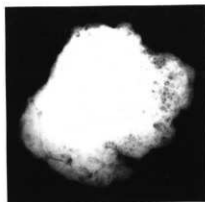
0 (S=1:3) 5cm



出土状況	道 跡 名	博 労 町 遺 跡 3 区		構成No.	63		項目	澤	メタル		
	出土位置	A-2 No.3714		時期：板橋	9世紀前半：出土土器						
試料記号	検 鏡：BAK-6	計	長 径	89 cm	色 調	表：茶褐色～ 黒褐色	遺存度	破片	分	マクロ	
	化 学：BAK-6		短 径	92 cm		地：淡茶褐色 ～黒褐色	破面数	1		検 鏡 度	○
放射化：—	遺物種類 (名称)		厚 さ	3.6 cm	磁着度	1	前含浸	—	EPMA		
検 鏡：BAK-6		重 量	259.8 g	メタル度	なし	断面樹脂	—	X線回折 化学 耐火度	○		
観察所見	<p>左上手側の側部が欠落したほぼ全形の分かる小形の碗形鍛冶滓。全体に板状の滓で、左側がやや厚く、右方向に向かい徐々に薄くなる特色を持つ。破面数は1を数える。上面は中央やや左寄りが僅かに高まっており、外周部には浅い木炭痕が点々と残されている。肩部や側部には僅かに出入りがあり、いずれも木炭痕による。下面は左下手側のみが鍛冶炉の炉床に接した丸みを持った碗形の底面で、残る右側は木炭痕が目立つ凸凹した自然面となる。破面に露出する滓質はほぼ緻密で、中間層には横方向に伸びる隙面が残る。滓は全体的に磁着が弱い。上面右寄りのみやや磁着反応が強い。色調は表面の酸化土砂が茶褐色で、滓部は風化した破面が淡茶褐色。地は黒褐色となる。</p>										
分析部分	<p>長軸端部1/6を直線状に切断し、滓部を分析に用いる。残材返却。右下手側の肩部付近の二破片がセメダインで接合されていることに留意。</p>										
備 考	<p>扁平な、標準的な小形の碗形鍛冶滓である。鍛冶関連遺物を多出した廃棄土坑と同じ3区の中でも10mほど南東に離れたA-2区からの出土品である。従って生成された鍛冶工房自体は、廃棄土坑出土品と同一かも知れない。いずれにしても、羽片が少なく、金床石の破片等も全く出土していないことから、鍛冶工房からの一括廃棄品としては種類が偏っている。博労町遺跡全体としてはむしろ、かなり広範囲に鍛冶関連遺物が散在しており、比較的集中するのが3区の鉄関連遺物廃棄土坑となる。</p>										



0 (S=1:3) 5cm



出土状況	遺跡名	博労町遺跡 5区	構成No.	89			項目	漆	メタル						
出土位置	B-3・4 No.99		時期:根拠	9世紀前半:出土土器											
試料記号	検 鏡: BAK-7	計	長 径	4.6 cm	表: 茶褐色～ 濃茶褐色	遺 存 度	完形?	マクロ	○						
	化 学: BAK-7		短 径	6.2 cm						地: 濃茶褐色 ～黒褐色	破 面 数	0?	検 鏡 硬 度	○	◎
	放射化: —		厚 さ	3.5 cm									X線回折 化 学 所 耐 火 度	○	
遺物種類 (名 称)	輪形鍛冶滓 (極小、含鉄、鉄 製品鍛造品付き)	値	重 量	68.6 g	磁 着 度	6	前 含 浸	—	カローリ 放 射 化						
観察所見	表面が酸化土砂や濃茶褐色の錆色に覆われた含鉄の輪形鍛冶滓破片。但し、外観的には通常の輪形鍛冶滓とは異なり、側部や下面が不規則に突出する。そのため、変形品か破片かの区別も厳密には出来ない資料である。注目されるのは、下面の下手側に小さな鉄製品(鍛造品)の端部が突出する点にある。幅は約1cm、厚みは1mm前後を測り、刀子の刃部様。加えて、透過X線像には直線状に伸びる筋様の影が他に3ヶ所以上確認されるため、内部の主体は複数の鉄製品破片かもしれない。外周部が酸化した故鉄処理上の鉄塊系遺物の可能性もあり。外観上確認される鉄製品の突出は一ヶ所のみとなっているが、漆としては不自然な凹凸に覆われており、磁着も全体に強い。表面には部分的に小さな重れや錆剥れの欠けも生じており、僅かに放射剛れも生じ始めている。色調は表面の酸化土砂が茶褐色で、含鉄部は表面、地とも濃茶褐色から黒褐色となる。														
分析部分	長軸端部1/3を直線状に切断し、メタル部を中心に分析に用いる。残材断面に樹脂塗布。残材返却。切断指定位置となる下面下手側に刀子刃部様の小さな鉄製品の端部が突出していることに特に注意を要する。														
備 考	外観的には製錬系の鉄塊系遺物にも類似しており、透過X線像に見られる直線状の筋目が木炭灰由来という感じも受けるが、下面下手側に突出する鉄製品の存在から、故鉄処理上の含鉄の漆の可能性がどちらかと言えば高そうである。出土位置自体は、5区の北西側に位置するB-4区で、分析資料No.5の羽口と比較的近い位置関係にある。また、3区の鉄関連遺物廃棄土坑、下層出土品の中にも分析対象外ではあるが、小釘や刀子破片等が複数含まれており、全体傾向としては、本資料とかなり類似する印象を受ける。従って、故鉄の再処理(おろし作業)工房の存在が想定されることになる。また、残る課題としては、こうした鍛冶作業と分析資料No.4のような製錬系の鉄遺物の存在との関わりであろう。鉄に関わる一連の作業工程の中でも、最初と最後の工程を示す資料のため、連続性を示す証拠には欠けるとまでは言える。														



出土状況	遺跡名	博労町遺跡 3区		構成No	165			項目	海	メタル	
	出土位置	C-1 No978		時期：根拠	9世紀前半：出土土器						
試料記号	検鏡：BAK-8	計 面	長径	7.6 cm	色調	表：茶褐色～ 濃茶褐色	遺存度	破片	分	マクロ	○
	化学：BAK-8		短径	1.2 cm		地：濃茶褐色	破面数	5		検鏡度	○
遺物種類 (名称)	鉄製品(鍛造品、 棒状不明品)	備	厚さ	1.1 cm	陥着度	5	前含浸	—	折	EPM A	○
			重量	20.2 g		メタル度	H(O)	断面樹脂		○	X線屈折 化学 耐火度
観察所見	<p>下手側の端部が緩やかに折れ曲がった鉄製品破片。表面全体が錆化して、表皮の剥落や筋状のひび割れが長手方向に走っており、性格のはっきりしない資料である。上手側の端部はやや丸みを持って取東気味で、一見、完形のようにも見えるが、左側の表皮は欠落して、全体としては舟の軸先状に小さく反り返っている。透過X線像には鍛造品を示す細い筋状の伸張層や、ひび割れが数多く確認される。含鉄部は僅かで、錆化範囲の方が広い。横断面形は方形ではなく、裏表方向にやや長手の長方形となっている。色調は表面の酸化土砂が一部、茶褐色で、大半は濃茶褐色となる。</p>										
分析部分	短軸端部1/2を直線状に切断し、メタル部を中心に分析に用いる。残材断面に樹脂塗布。残材返却。										
備考	<p>本遺跡から出土した鉄関連遺物の中から構成した171点のうちのひとつである。このうち遺構に伴わないグリッド出土の鉄製品が60点を数える。本資料を分析資料として選択した理由は、鉄関連遺物廃棄土坑と同じ3区出土品であるということ、一見、鍛冶具の一種である鉄銚、あるいは火掻き棒様の鉄製品破片であることによる。出土位置は鉄関連遺物廃棄土坑のすぐ東側に位置するグリッドになる。錆化の激しさや、表皮の剥落が通常の鉄製品より進んでおり、また、下手側の端部が不自然に折れ曲がった状態で欠けていることから、鍛冶具破片の可能性の有無を目的として分析資料の中に加えられている。</p>										



0 (S=1:3) 5cm



#### 4. まとめ

博労町遺跡から出土した鉄関連遺物についての調査成果は、海浜部に近い砂丘上において製錬炉の操業を行っている可能性が推察された点にある。これまで、鳥取県内の鉄製錬遺跡は、やや内陸の丘陵部に位置するものが知られていたが、今回の調査により、立地について、新発見を提供したものと考えられる。従来は、素材となる砂鉄や燃料となる木炭の入手に適した場所として、丘陵地が選択されていたものと考えられて来たが、想像をたくましくすれば、むしろ海浜部に近い場所は浜砂鉄の入手が容易で、還元剤となる炭材も海浜の樹木帯で比較的容易に調達できるとも考えられよう。従って、遺跡の性格としては、整然とした区画施設の存在から、官衙類似遺跡の一種とも見られ、製錬や鍛冶作業を行う施設が付属していたものと推察される。

但し、残念ながら直接的な証拠である製錬炉の跡は検出できなかったが、製錬工程の遺物である流動性の滓の分布範囲は5区に集中しており、この5区の東側の隣接地付近で製錬炉の操業が行われていた可能性が高いものと考えられるに到った。また、この事実から、博労町遺跡の性格が単なる遺跡内での鉄器製作のみに留まらず、鉄生産にまで関与していたことを示し、より、公的な施設であった可能性を伺わせるものである。

鍛冶関連の遺物では、鉄製品が主体となるが、鉄滓や羽口などの直接的な遺物も出土している。また、鍛冶関連遺物廃棄土坑からは、小さく割れた鉄製品の破片が多数出土しており、故鉄を利用したリサイクル鍛冶の存在を示すものと考えられる。鉄製品の中では大型品が少なく、古代会見郡の郡工房と見られる板長第6遺跡周辺で見つかったような、鋤先等が出土していないことも、博労町遺跡内で行われた鉄器製作の実態を表しているのかも知れない。

鉄製品の中で目立ったのは、鉄製紡錘車の出土量の多さである。博労町遺跡からは、7点の鉄製紡錘車が出土したが、周辺の遺跡でもこれほどまとまって出土する例は珍しい。鎌倉期には、米子平野一帯の長砂周辺に「布美荘」の存在が知られているが、この博労町遺跡周辺が古代から布生産に関わりのある地域であったことと、これらの鉄製紡錘車の存在にまで言及するのは、やや過大評価しすぎであろうか。

また、今回の構成遺物には記録されなかったが、鍋・釜類の破片と見られる、鑄造によって製作された鉄片もいくつか出土しており、古代にまで遡る鑄鉄資料が存在した可能性も否定できない。今回は遺構に伴う確実な年代資料が得られなかったため、明確にすることは出来なかったが、今後の調査において鑄鉄製品の存在がどこまで遡れるのか、注意すべき点と考えられる。

表10 博勞町遺跡(鉄関連遺物廃棄土坑及び包含層出土鉄滓、鉄製品)の主要要素一覧表 (まとめ表)

項目	主要素	博勞町遺跡(ばくろうまちいせき)				
調査	調査概要	平成19年度(2007年度)~平成20年度(2008年度) 調査組織: 米子市埋蔵文化財調査室				
遺構情報	主要鉄関連遺構	(1)鉄関連遺物廃棄土坑 1基				
	鍛冶関連遺構の情報	鉄関連遺物廃棄土坑	時期	9世紀	立地・規模 施設	砂丘上・標高4.4m前後 廃棄土坑・2.45m×1.62m
遺物情報	鉄関連遺物全体構成	全鉄関連遺物171点: 6.6915kg/流出溝滓5点: 1.4594kg、流動滓6点: 0.4226kg、炉壁(製錬炉)1点: 0.0368kg、柄形鍛冶滓41点: 2.9116kg、鍛冶滓9点: 0.0775kg、鉄塊系遺物1点: 0.0014kg、再結合滓2点: 0.0097kg、鉄製品76点: 1.1662kg、弁壁(鍛冶炉)8点: 0.1637kg、粘上質溶解物13点: 0.2396kg、土器(被熱滓付)1点: 0.0015kg、羽口(鍛冶)6点: 0.2015kg、粒状滓、鍛造剥片				
	鉄製品構成	鉄製品総数76点: 1.1662kg 鉄片(未製品を含む)4点: 0.0185kg、刀子18点: 0.2604kg、釘26点: 0.391kg、鍍具3点: 0.0479kg、棒状不明品4点: 0.0573kg、鍍9点: 0.1199kg、紡錘車1点: 0.0032kg、鍍4点: 0.0493kg、楔2点: 0.0484kg、鍍2点: 0.0361kg、火打金1点: 0.0275kg、薄板状不明品1点: 0.0255kg、飾金具1点: 0.0812kg				
分析	分析点数	●金属学的分析: 8点 ○柄形鍛冶滓(3点)、粒状滓(1セット4点)、鍛造剥片(1セット6点)、流出溝滓(1点)、羽口(1点)、鉄製品(1点) ○分析項目/マクロ組織・顕微鏡観察・ピッカース断面硬度・化学組成分析・耐火度分析(解析)※九州テクノリサーチ(大澤正己・鈴木瑞穂)				
		工程/遺物種別	鉄製錬—鍛錬(TiO <sub>2</sub> )			
分析資料 8点中	( )内はTiO <sub>2</sub> 値。 (-)は分析せず。	遺構名	製錬系	精錬鍛冶	鍛錬鍛冶(前半)	鍛錬鍛冶(後半)
		包含層	(4)流出溝滓(7.37) (7)製錬滓(4.04)	(5)羽口(0.69) (6)柄形鍛冶滓(0.48)		(8)鉄製品(0.50)
		鉄関連遺物廃棄土坑		(1)柄形鍛冶滓(-)	(2)粒状滓(-)	(3)鍛造剥片(-)
総括	遺構	・検出された鉄関連の遺構は、9世紀前半頃と推測される鍛冶関連遺物の廃棄土坑1基のみである。 ・製錬系の遺構は未検出。				
	整理・解析	・整理方法は、保存・活用までを視野に入れたA~Dの4ランク、個票付け方式で行い、全体量34.0515kgの中から、A保存(分析資料)を8点1.1735kg、B保存(報告書掲載資料)を162点5.518kg、C保存(屋内管理資料)を27.36kg、D保存(屋外管理資料)を0kgとした。A~D保存の比率は、4:16:80となる。 ・金属学的な分析の結果、本遺跡周辺で行われた作業工程としては、製錬から鍛錬鍛冶に至る一連の作業が行われていたものと推定される。				
	製錬関係	・流出溝滓や流動滓と共に、製錬炉の炉壁片が出土しており、調査地点の周辺に製錬炉が存在した証拠と考えられる。				
	鍛冶関係	・鍛冶関連遺物廃棄土坑の存在から、調査地点3区の周辺に鍛冶工場が存在するものと考えられる。また、出土した鉄製品は、鉄片や刀子片、皆折釘などの小形品が主体である。				
	時期	・出土土器による年代観は、9世紀前半と見られる。				
評価と課題	・発掘調査では工房跡は確認できなかったが、製錬炉に伴う炉壁や流出溝滓に加えて、鍛冶関連遺物を廃棄した土坑が検出されたことから、本遺跡周辺では製錬から鍛錬鍛冶に至る工程が行われていたことが判明した。 ・周辺部の鉄関連遺跡の調査例としては、勝田広畑遺跡や新山山田遺跡、坂長第6遺跡等が上げられるが、いずれも丘陵上や斜面に位置しており、砂丘上に立地している本遺跡とは異なる環境にある。これまでは、海浜部に近い場所での製錬遺跡の存在についてはほとんど注目されてこなかったが、本遺跡例は製錬炉の立地についても新知見を提供したものと考えられる。 ・本遺跡は古代半生野の範囲に属するものと推測され、検出された建物跡や遺物から、官衙末端施設の可能性が高い。ただし、出土した鉄製品は小形品が主体で、大形の鉄製品を製作していた郡衙工房である坂長第6遺跡とは、工房の性格が違ふものと推測される。あるいは、遺跡内で行われた鍛冶作業は、皆折釘などの存在から、鉄鍍を利用したリサイクル鍛冶を含んだものであったのかも知れない。					

(作次 穴澤義典・佐村純也)



## 第8節 博勞町遺跡出土中世遺物の検討

### — 錦町第一遺跡出土中世資料と比較して —

濱野 浩美

#### 1. はじめに

今回の調査では、クロスナ最上(第三-①)層において、中世前期の畠が検出された。畠は調査区全体に亘っており、水路、畦、畝等耕作関係の遺構が検出されている。言うまでもなく耕作地は生産遺跡であり、常に堆積土の移動がつきものであることから、良好な一括遺物資料は出土していない。それ故に畝や畦の新旧関係や、耕作土中の出土遺物を、単純に遺構の帰属時期と結び付けることはできない。更に、本遺跡のような砂丘地の場合飛砂の問題もあり、埋砂の累重状況が単純に遺構の新旧関係に繋がらない場合もあり得る。こうした問題が、本遺跡の中世前期の遺構の時期決定を困難なものにしている。ただし、そうした中でも、畠出土中世資料及び包含層出土資料の集計を行い、組成表を作成することにより、遺構の中心時期やその出土傾向を探ることは十分可能であると考えた。

1995年に調査が行われた錦町第一遺跡は、博勞町遺跡に近接する市街地の砂丘上に立地する遺跡である。この遺跡においても、クロスナ(第三-①)層最上面から中世前期の畠が検出されている(平木 1996)。本節では、この錦町第一遺跡出土の中世遺物についても、中世資料全体の組成表を作成し、その出土傾向を探ってみた。その上で、立地条件や出土遺構の性格も近似する河遺跡の中世資料を相互比較することにより、米子海浜砂丘域における、中世前期の出土遺物の傾向について検討してみた。

#### 2. 博勞町遺跡出土中世資料

博勞町遺跡出土の中世資料の集計に際しては、基本的には破片点数を1点として集計を行った。ただし、土師質鍋については、破片資料全体としては遺物整理用コンテナ約半箱分と、最も出土量が多かったが、元の個体の大きさを考慮して、口縁の形態で個別別にカウントを行った。また、各畠で出土したものについては、遺構別に表を作成したが、包含層出土のものについては、グリッドごとに集計すると、出土点数が細分され過ぎてその傾向が掴みにくいこと、区一括で取り上げられたものもあることから、区ごとに集計を行った。なお、比較検討の利便性を考えて、各遺構出土遺物についても表中に出土区を記載している。

その結果をまとめたものが第1表である。7,500㎡の調査区から、総数で295点の中世遺物が出土している。全体的には、舶載陶磁器が184点と、国産製品よりも多いことが分かる。個別の比率をみると、白磁が53%と全体の半数以上を占め、このうちⅣ類碗が77点(26%)、Ⅴ類碗が36点(12%)とその主体を占めている。青磁は25点(8%)と少ないが、他の国産製品と比較すると決して低い比率ではない。

国産製品で最も多いのは、土師質土器の坏・皿で60点(20%)、次いで土師質鍋が19個体分(6%)となっている。次いで瓦質の播鉢が13点(4%)、壺甕類が8点(2%)、瀬戸・美濃製品3点(1%)が出土している。その他、東播系の鉢が1点、石製品で4区包含層から滑石製の石鍋1点が出土している。

各遺構別の出土状況比率は、畠8が21点(23%)、畠7が17点(19%)、次いで畠9が16点(18%)、

畠6が13点(15%)と続く。特に畠9では、面積に対しての出土密度が最も高かった。これに対し、畠3では3点(3%)、畠4では1点(1%)畠5では0点(0%)と出土遺物が少ない。これを区ごとにみると、南斜面低位の3・4区の畠では出土遺物が多く、砂丘尾根頂部の2区の畠では出土遺物が最も少ない。この傾向は包含層出土遺物においても同様で、4区が90点(43%)と半数近くを占め、次いで3区が65点(32%)となる。これに対し、2区では10点(4%)と遺物出土量が最も少ない。

この差異の原因としては、畠の立地環境による耕作期間の違いが考えられる。2区は砂丘尾根上に位置しており、標高としては最も高く自然環境の影響を受け易かったと思われる。耕作面も1面のみで、出土遺物から見ても、時期幅はあまり長くない。これに対し、3・4区は調査区南側の緩斜面の低位部分に位置しており、水溜状遺構などの灌漑施設もあり、耕作面も3面以上検出されている。出土遺物にもある程度の時期幅がみられることから、耕作期間は当然長く、結果的に出土遺物も多かったと考えられる。

次に、これらの出土遺物から遺構の時期について検討を試みた。全体的な畠の帰属時期としては、最も出土量の多い白磁碗Ⅳ類、Ⅵ類皿、土師質土器杯・皿類の形状から、11世紀末～12世紀前半が中心と考えられる。ただし、畠6～8では白磁Ⅲ類の皿など、13世紀代から14世紀前半まで時期が降る遺物が出土している。瀬戸・美濃製品では、畠8で古瀬戸前Ⅱ期の合子が出土し、また、畠7・11では大窯期の皿や播鉢など16世紀代の遺物が出土しているが、これについては各1点ずつの細片でもあり、混じり込みの可能性も否定できない。

第1表 博労町遺跡出土中世遺物集計表

種別	面積	区	中国製品										小計	国産製品										総計												
			同安瀨系青磁	龍泉瀨系青磁	白磁						青白磁	褐釉陶器		瀬戸・美濃	備前	瓦質土器	東播系	土師質土器	滑石製																	
					碗		皿		合子	壺										壺・甕	播鉢	火鉢	播鉢		皿・杯	石鍋										
					I類	II類	IV類	V類																			VI類	V類	IX類	壺	壺	播鉢	皿	石鍋		
畠1	1,144㎡	1・5区	2			2	3															7							3	10						
畠2	235㎡	1区																					0							0						
畠3	1,176㎡	1・2区	2			1																	3							3						
畠4	672㎡	1・2区																					0				1			1						
畠5	37㎡	2区																					0							0						
畠6	919㎡	3区		1		1	2				1												5					8		13						
畠7	728㎡	3区			3	1	4	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			12	1				4		17						
畠8	1,252㎡	4・5区	1	2	1		7		1		1	1	1	1	1	1	1	1	1				14	1				2		21						
畠9	535㎡	4区		1			1																2					11		16						
畠10	220㎡	5区																					0							0						
畠11	42㎡	5区																					0	1			1			3						
畦10		5区																					1				1			4						
小計			5	4	4	1	15	7	1	2	0	0	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	44	3	0	0	3	5	0	2	0	0	1	30	0	88
包含層	1区			2	1		7	1															11						6	3	20					
	2区																						0							10	10					
	3区		5			1	30	5		3	9												53	1	2	3			2	4	65					
	4区		3		1		17	22		1	19	3	1											67			2	5	1	1	3	11	1	91		
	5区						8	1																9			3			7	2	21				
総計			13	6	6	2	77	36	1	6	28	3	4	1	1	1	1	1	1	1	1	184	3	1	2	8	13	0	3	1	0	19	60	1	295	

これら14世紀以降まで時代が降る遺物が出土している島は、いずれもクロスナ上面に、0面としたシロスナ混じりの島が検出された部分で、そこでは14世紀代まで耕作が行われた可能性が考えられる。

以上のことから、出土遺物から見ると、本遺跡で島が構築され始めたのは11世紀後半以降で、中心は12世紀代、そして14世紀前半頃には遺構が廃絶していったものと考えられよう。

### 3. 錦町第一遺跡出土中世資料

錦町第一遺跡は、博労町遺跡の西700mの砂丘上に位置する遺跡である。この遺跡では、中世前期に属する遺構として島、土手、道路状遺構、土器溜り等が検出されている。これらの遺構は、クロスナ最上層から検出されたものであり、堆積層位から博労町遺跡と同一面に確認された遺構であると考えられる。

なお、錦町第一遺跡出土中世遺物については、第1・2図に掲載している。第1図については、報告書未掲載のものうち、今回実測した遺物である。第2図は既出の報告書掲載遺物で、遺物番号は掲載時のものに準じている。詳細については観察表（第5表）を参照いただきたい。

今回、図示し得なかった微細遺物を含め、全資料を集計したものが第2表である。集計作業においては、博労町遺跡と同様に基本的に破片点数を1点としてカウントしたが、土師質鍋については破片資料としては遺物整理用コンテナ1箱分と量的に最も多かったが、元の個体の大きさを考慮して、口縁の形態で個体別に集計作業を行った。また、土師質土器の皿・坏類については、600点以上出土しているが、土器溜り以外の出土遺物の大半は非常に小片化し、散乱していたようである（平木1996）。細片はいずれも摩耗した状態であったため、口径、底径、器高や形態が復元できるもののみを集計し、形状復元が不可能な微細片については除外した。また、形状復元ができるものの内、同様の胎土、形状を呈する破片資料については、同一個体の可能性を考え、8/8を1個体としてカウントを行った。

その結果、当該遺跡では、総数で262点の中世遺物を確認した。1000m<sup>2</sup>という調査面積を考慮すると、この出土量は博労町よりはるかに多い出土比率である。博労町遺跡と比較して、まず特徴的なのは、舶載陶磁器の少なさで、白磁皿Ⅵ類が4点、中国製褐釉陶器壺1点が出土しているのみである。これは全体の僅か2%であり、舶載陶磁器類が最も多かった博労町遺跡とは、正反対の様相を呈している。これに対し、出土比率が最も多いのは土師質土器の皿・坏類の228点で、全体の87%を占めている。土師質土器皿・坏類に関しては、破片資料も含めると、出土量は全体の9割以上を占めると考えられる。次いで、土師質鍋が16個体分（6%）あり、調査面積に対して土師質土器の出土量が非常

第2表 錦町第一遺跡出土中世遺物集計表

種別	中国製品										小計	国産製品							総計						
	同安系青磁	龍泉系青磁		白磁				青白磁	褐釉陶器	瀬戸・美濃		備前	瓦質土器		東播系	土師質土器									
		碗	碗	碗	Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類						Ⅳ類	Ⅴ類		Ⅵ類	Ⅶ類	Ⅷ類		Ⅷ類	Ⅸ類	壺	鉢	皿・坏	
器種	Ⅰ類	Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅱ類	Ⅳ類	Ⅴ類	Ⅵ類	Ⅵ類	Ⅶ類	Ⅶ類	Ⅷ類	Ⅷ類	Ⅸ類	壺	壺・甕	鉢	鉢	火鉢	鉢	鉢	鍋	鍋	皿・坏		
総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	7	2	0	0	0	16	228	262

に多いことが分かる。その他の国産製品では、瓦質の播鉢が7点（3%）、備前の播鉢が2点（1%）と播鉢類の出土比率が比較的高い。

これらの出土遺物の時期については、白磁や土師質土器の形態から12世紀代と考えられ、博労町遺跡出土の中世遺構と同時期性が高い資料といえよう。

#### 4. 出土土師質土器の比較

次に、同時期性の高い両遺跡出土の中世遺物の中でも、出土量の最も多かった土師質土器の皿・坏類について、形態分類を行い、総数を集計した上で、その出土傾向について比較検討を試みた。

鳥取県内出土の中世前期の土師質土器の皿・坏類については、八埜 興氏により検討が行われている（八埜 1997ほか）。その後、中森 祥氏により、形態分類が行われ、その変遷案が検討されている（中森 2005）。

今回は中森分類を基に以下のように形態分類を行った。

〈小皿〉		〈坏〉	
口 径	I類：7.6cm前後のもの。 II類：8.2cm前後のもの。 III類：8.8cm前後のもの。	器 高	I類：4cm前後のもの。 II類：5cm前後のもの。
口縁形態	a類：内湾気味のもの。 b類：直線的に外傾、外反するもの。	口縁形態	a類：体部中位で「く」字状に屈曲するもの。 b類：体部から口縁にかけて直線的に外傾、外反するもの。 c類：体部が丸味を持つもの。
底部形態	回転糸切りで平底のもの。 回転糸切りで平高台のもの。 回転糸切りで柱状高台のもの。 静止糸切りで平底のもの。 静止糸切りで平高台のもの。 静止糸切りで柱状高台のもの。 ヘラ切りで平底のもの。 ヘラ切りで平高台のもの。 ヘラ切りで柱状高台のもの。 手捏ね成形のもの。	底部形態	回転糸切りで平底のもの。 回転糸切りで平高台のもの。 回転糸切りで柱状高台のもの。 静止糸切りで平底のもの。 静止糸切りで平高台のもの。 静止糸切りで柱状高台のもの。 ヘラ切りで平底のもの。 ヘラ切りで平高台のもの。 ヘラ切りで柱状高台のもの。 手捏ね成形のもの。

これを基に分類集計し、第3表に博労町遺跡、第4表に錦町第一遺跡出土の土師質土器皿・坏類をまとめた。

まず、博労町遺跡出土の土師質土器については、総数で42点、このうち小皿類が41点（98%）、坏類が1点（2%）と小皿類が圧倒的に多い。その小皿類については、底部は回転糸切りが殆どで、ヘラ切りのものはなく、手捏ね成形のものは1点のみの出土である。口径については、I類が41%、II類が34%、III類が24%と最も小型のI類が多い。全体的にみると、I・II-b類の回転糸切りで平底

第3表 博労町遺跡出土土師質土器集計表

器種	口径	形状	個数
I	a	平底	7
		回転 平高台	
		赤切り 柱状高台	
		平底	
		停止 平高台	
	b	平底	
		赤切り 平高台	
		停止 柱状高台	
		平底	
		ヘラ切り 平高台	
	c	平底	
		赤切り 平高台	
		停止 柱状高台	
		平底	
		ヘラ切り 平高台	
手捏ね			1
II	a	平底	9
		回転 平高台	
		赤切り 柱状高台	
		平底	
		停止 平高台	
	b	平底	
		赤切り 平高台	
		停止 柱状高台	
		平底	
		ヘラ切り 平高台	
	c	平底	
		赤切り 平高台	
		停止 柱状高台	
		平底	
		ヘラ切り 平高台	
手捏ね			2
III	a	平底	10
		回転 平高台	2
		赤切り 柱状高台	
		平底	
		停止 平高台	
	b	平底	
		赤切り 平高台	
		停止 柱状高台	
		平底	
		ヘラ切り 平高台	
	c	平底	
		赤切り 平高台	
		停止 柱状高台	
		平底	
		ヘラ切り 平高台	
手捏ね			6
IV	a	平底	1
		回転 平高台	
		赤切り 柱状高台	
		平底	
		停止 平高台	
	b	平底	
		赤切り 平高台	
		停止 柱状高台	
		平底	
		ヘラ切り 平高台	
	c	平底	
		赤切り 平高台	
		停止 柱状高台	
		平底	
		ヘラ切り 平高台	
手捏ね			2
計			41

第4表 錦町第一遺跡出土土師質土器集計表

器種	口径	形状	個数	
I	a	平底		
		回転 平高台		
		赤切り 柱状高台		
		平底		
		停止 平高台		
	b	平底	19	
		赤切り 平高台	8	
		停止 柱状高台		
		平底		
		ヘラ切り 平高台		
	手捏ね			7
	II	a	平底	3
			回転 平高台	
			赤切り 柱状高台	
			平底	
停止 平高台				
b		平底		
		赤切り 平高台		
		停止 柱状高台		
		平底		
		ヘラ切り 平高台		
c		平底	36	
		赤切り 平高台	10	
		停止 柱状高台		
		平底		
		ヘラ切り 平高台		
手捏ね			3	
III	a	平底	2	
		回転 平高台	1	
		赤切り 柱状高台		
		平底		
		停止 平高台		
	b	平底		
		赤切り 平高台		
		停止 柱状高台		
		平底		
		ヘラ切り 平高台		
	c	平底	6	
		赤切り 平高台	3	
		停止 柱状高台		
		平底		
		ヘラ切り 平高台		
手捏ね			4	
IV	a	平底	5	
		回転 平高台	6	
		赤切り 柱状高台		
		平底		
		停止 平高台		
	b	平底		
		赤切り 平高台		
		停止 柱状高台		
		平底		
		ヘラ切り 平高台		
	c	平底	25	
		赤切り 平高台	7	
		停止 柱状高台		
		平底		
		ヘラ切り 平高台		
手捏ね			2	
V	a	平底	9	
		回転 平高台	2	
		赤切り 柱状高台	1	
		平底		
		停止 平高台		
	b	平底		
		赤切り 平高台		
		停止 柱状高台		
		平底		
		ヘラ切り 平高台		
	c	平底	2	
		赤切り 平高台	1	
		停止 柱状高台		
		平底		
		ヘラ切り 平高台		
手捏ね			4	
VI	a	平底	7	
		回転 平高台	1	
		赤切り 柱状高台		
		平底		
		停止 平高台		
	b	平底		
		赤切り 平高台		
		停止 柱状高台		
		平底		
		ヘラ切り 平高台		
	c	平底	5	
		赤切り 平高台	2	
		停止 柱状高台		
		平底		
		ヘラ切り 平高台		
手捏ね			1	
計			184	

を呈するものが46%と最も多い。

坏については、形態復元できたものが1点のみと非常に少なく、その傾向を捉えることはできなかった。

続いて、錦町第一遺跡出土の土師質土器については、形態復元できたものが総数で206点、このうち小皿類が184点（89%）、坏類が22点（11%）と小皿類が博労町遺跡と同様に多い。

小皿類についてみると、底部については糸切り、ヘラ切り、手捏ね成形のいずれもが出土している。このうち主体的なものはヘラ切りのもので全体の67%を占める。特に、小型のⅠ類に関しては、糸切り底のものは1点も出土していない。これに対し、Ⅲ類については、底部糸切りのものが多くなる。口径については、Ⅰ類が47%、Ⅱ類が33%、Ⅲ類が20%と、博労町遺跡と同様に小型のⅠ類が多い。全体的にみると、錦町第一遺跡ではⅠ・Ⅱ-b類の底部ヘラ切りで平底を呈するものが33%と最も多い。また、手捏ね成形のものが11%と、一定量占めるのも特徴的である。

坏については、底部の形態に糸切りとヘラ切りがあるが、手捏ね成形のものはない。このうち主体となるのはヘラ切りのもので全体の64%を占める。この点については、Ⅲと同様の出土傾向である。器高については、Ⅰ類が91%とその主体を占める。全体的にみると、Ⅰ-a類の底部ヘラ切り、平底のものが23%、次いでⅠ-b類の底部回転糸切りで平底を呈するものが18%となる。

この他、形態復元できず、図化や表には掲載できなかったが、錦町第一遺跡では柱状高台の底部のみ遺存しているものが20個体分出土していることも大きな特徴である。

なお、錦町第一遺跡では膨大な量の細片遺物が出土している。磨耗した細片の形状を見ると、近接地から客土として持ち込まれた可能性や、飛砂と共に運ばれた可能性も考慮せねばならない(註1)。ただし、この遺跡では土器溜りから一括資料が出土しており、この一括遺物と細片遺物とを比較しても形態差はみられない。従って、細片遺物についても、基本的には同時期に使用されたものが耕作土に包含されたものと考えたい。

以上、両遺跡出土の土師質土器皿・坏類について概観してみた。

両遺跡を比較すると、土師質土器の小皿Ⅰ類の出土量の多さについては共通している。これは先行研究で示された西伯善における12世紀代の土師質土器の出土傾向と大過ないものと考えられる(中森2005)。これに対し、その成形技法については、両遺跡間でかなり大きな違いが生じている。即ち、博労町遺跡では、底部は回転糸切りが殆どであるのに対し、錦町第一遺跡ではヘラ切りが主体である。また、博労町遺跡では手捏ね成形の、いわゆる京都系土師器皿の類は1点のみの出土であるが、錦町第一遺跡では一定量出土していることも大きな違いである。この他、博労町遺跡で1点も出土していない柱状高台の土師質土器が、錦町第一遺跡では20点以上出土しているのも大きな特徴であろう。また、坏の出土量も博労町では1点、錦町では22点と大きく異なる。

ただし、いずれの土師質土器も胎土に大きな違いはなく、同じ12世紀代の近接する遺跡間でこのように成形技法の違いが生ずるのはいかなる要因によるものか、その原因を明らかにすることはできなかった。あるいは、在地の工人集団の違いによるものであろうか。

## 6. まとめ

以上、博労町遺跡と錦町第一遺跡の中世資料の検討を試みた。調査面積が異なることや、破片資料

のカウントが困難であったことなどから、このデータのみで単純に両遺跡を比較することは安易な部分もあるが、近接する遺跡と同様な性格を持つ遺構が検出されているということは、十分比較検討の材料になり得ると思われる。

この検討を通じて判明したことは、出土遺物の中心時期から、明らかに両遺跡が同時期性を持つ遺跡であることである。中世遺物の上限については、両遺跡とも11世紀後半代と同時期で、中心時期も12世紀代と同一である。ただし、下限については、錦町第一遺跡は12世紀代に留まるが、博労町遺跡では時期幅があり、下限は14世紀前半頃まで降る。組成については、両遺跡とも瓦器碗や吉備系土師器碗がなく、舶載陶磁器類が一定量出土する傾向は、従前から言われている山陰の中世遺物の出土傾向に追随するものである（中森 2005）。

ただし、今回検討した資料は一括資料がなく、耕作地という遺跡の性格も、その時期的変遷を捉えることを困難にしている。また、土師質土器は復元不可能な細片資料が多く出土量全体の中での傾向を把握することが非常に困難であった。しかしながら、出土資料すべてを数量的に検討していくことにより、遺跡の出土傾向をある程度は掴むことが出来たものと思われる。

即ち、今回の調査では、生産域のみの検出であり、遺跡の中心部分である屋敷跡などの集落遺構は確認できなかったが、出土遺物を見ると、貿易陶磁器の出土量が国産製品を凌駕すること、国産製品にも瀬戸・美濃製品や東播系須恵器、滑石製石鍋などの広域流通品が出土しており、当該期の遺跡地の交易流通の実態を十分裏付ける資料であると考えられる。地理的に考えてもこの遺跡が海浜部に近い砂丘上に位置しているということが、中世における日本海海運の動向を考える上で重要な意味合いを持つと思われる。

中世考古学において東シナ海を内海とする交流交易に関する研究は盛んに行われている（井上 1991）。そのなかで、北部九州や山口県など日本海沿岸域の中世対外交易の拠点と考えられる遺跡も増加している。

今回検討した博労町遺跡出土の中世資料も同様に、日本海域における中世前期の交易の活況を物語る、重要な一資料であると考えられよう。

（注1）中世鎌倉の遺跡の地業層等では、大量の客土を持ち込んでの版築地業を行っている例がみられるが、その際その土の中から碎片土師質土器が出土する。また、多量の土師質土器の坏・皿類を破砕して地業面を構築している例もあり、必ずしも遺跡地で使用された土師質土器類が出土するわけではない。また、県中央部湯梨浜町の海浜砂丘域に立地する長瀬高浜遺跡では奈良・平安時代の遺構面に、斜面上から吹き飛ばされた古墳時代の遺物が出土している（牧本 1999）。このように、人為的要因や、自然的要因で遺物が二次堆積する可能性は十分考慮すべきことである。

（引用・参考文献）

井上寛司 1991「中世日本海地域の水運と交流」『日本海と山雲世界』海と列島文化第2巻 小学館

小野正敏ほか編 2006『中性の対外交流』高志書院

中森 祥 2005「中世前期の遺物について」『門前上屋敷遺跡』第5章 第1節 伊島取県教育文化財団 国土交通省倉吉河川国道事務所

森田 勉 1982「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会

橋本久和・市村高男編 2004『中世西日本の流通と交易』高志書院

平木裕子 1996『錦町第一遺跡』朝米子市教育文化財団

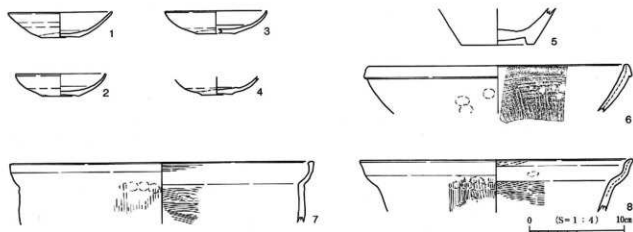
牧本哲雄 1999『長瀬高浜遺跡Ⅷ』朝鳥取県教育文化財団 国土交通省倉吉河川国道事務所

八峠 興 1997『鳥取県における土器器皿の展開について』立命館大学考古学論集 I 立命館大学

1998『山陰における中世土器の変遷について』『中近世土器の基礎研究』XIII 日本中世土器研究会

2004『山陰の中世土器に関する覚書』『中近世土器の基礎研究』XVIII 日本中世土器研究会

山本信夫 2000『大宰府条坊跡』XV 太宰府市教育委員会

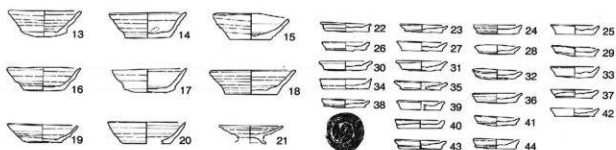


第1図 錦町第一遺跡出土中世資料(1) (今回実測分)

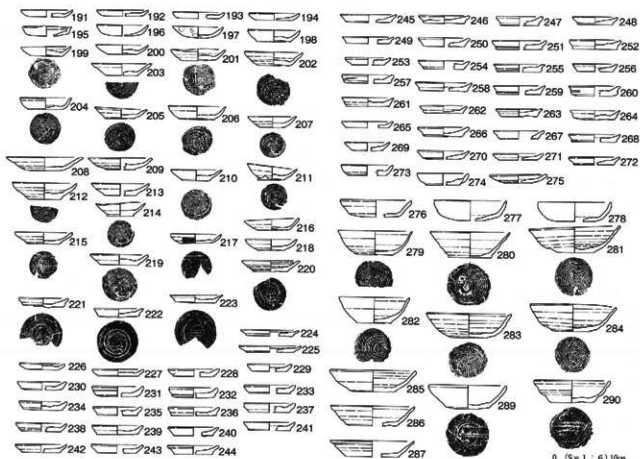
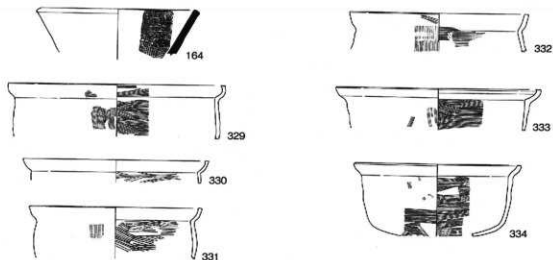
第5表 錦町第一遺跡出土陶磁器・土器観察表

遺物名	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	釉	調整・文様	備考
1	白磁	1/2	口径(10.9) 器高・2.6 底径(4.0)	良好	灰白色	密	灰白色	外面：体部下半～底面露胎、貫入 内面：貫入	見込使用痕跡著 白磁皿IV-1b類
2	白磁	1/3	口径(9.3) 器高・2.4 底径・3.9	良好	灰白色	密	灰白色	外面：底面露胎、貫入 内面：貫入	見込使用痕跡著 白磁皿IV-1b類
3	白磁	1/4	口径(10.7) 器高・2.4 底径(4.0)	良好	灰白色	密	淡黄色	外面：体部下半～底面露胎 内面：—	見込使用痕跡著 白磁皿IV-1b類
4	白磁	破片	器高(1.9) 底径(3.3)	良好	灰白色	密	灰白色	外面：体部下半～底面露胎貫入 内面：貫入	見込使用痕跡著 白磁皿IV-1b類
5	陶器	底部1/2	器高(3.9) 底径(7.7)	良好	灰褐色	密	黒褐色 被熱後灰黄色	外面：高台部内面露胎、割り出し高台 内面：—	中国製陶輪器 13c代?
6	瓦質土器 磁鉢	破片	口径(27.3) 器高(5.0)	良好	暗灰色	密	—	外面：指頭調整→回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ、体部露目	
7	土器	破片	口径(31.4) 器高(6.5) 胴径(30.3)	良好	黒褐色～ 灰褐色	密	—	外面：口縁部ナデ、頸部指頭調整、体部肥ハケメ 内面：口縁部回転ハケメ、口縁部横ナデ、体部横ハケメ	外面炭化物・ 露付着
8	土器	破片	口径(28.5) 器高(5.6)	良好	黒褐色～ 褐色	密 石英・白色粒	—	外面：口縁部ナデ、頸部以下指頭調整→肥ハケメ 内面：口縁部横ハケメ→ナデ、口縁部指頭調整→ナデ、体部横ハケメ	外面炭化物・ 露付着





土器湖出土遺物



0 (5 = 1 : 6) 10cm

第2図 錦町第一遺跡出土中世資料(2) (平木1996を改編)

## 第9節 博勞町遺跡の中世畠跡の検討

濱野 浩美

### 1. はじめに

博勞町遺跡では、砂丘停滞期の腐食砂（クロスナ）最上層において調査区全域の7500㎡に亘る畠跡が検出された。この畠跡は調査区全体に広がり、さらに周辺域に広がる様相を呈する。検出された遺構は畠跡11区画、畦10条、土坑1基、溝状遺構10条、水溜状遺構4基である。砂丘尾根緩斜面を利用した区画内に整然と作られた畠や灌漑施設からは広範囲に亘って計画的な耕作が行われていた様相が窺える。個々の畝は埋砂の状況から何回かの作り替えが認められ、ある程度の期間ここで生産活動が行われたことが分かる。これらの畠はいずれも風成砂と見られるシロスナ（Ⅱ層）に被覆されていることから、砂丘発達期による多量のシロスナ堆積の直前まで生産活動が続けられていたと考えられる。

市域では、遺跡西側700mに位置する錦町第一遺跡においても腐食砂（クロスナ）最上層に中世の畠跡が検出されている。本節では、今回検出された畠跡の変遷をまとめるとともに、錦町第一遺跡に検出された畠跡とも比較し、当該期の砂丘域における生産活動について検討を行った。

### 2. 畠の形態

畠跡は、標高3.9～5.5mの東西方向の砂丘列のトップから南北にかけて緩やかに傾斜する緩斜面に検出された。遺構は調査区全体に広がるが、畝の方向性や畦、空地地により11区画に分けられる。ここでいう区画とは畦、水路、空地地などで区画された単位、もしくは明瞭に方向軸の異なる畝列を1区画としてとらえたもので、各区画は基本的には方形単位を基本としている。

これらの畠の方向性は、南北方向の畝はN-11～18°-E、東西方向の畝はN-72～87°-Wに統一されている。この主軸方向は砂丘列の方向に対し平行・直交関係を保っており、米子平野の法勝寺川流域に復元された条理の方向に対しては東に10°以上振れている（註1）。海浜砂丘域では砂丘列に即した空間利用が、地形利用の上で最も効率的であったものと考えられる。それを裏付けるように、砂丘尾根頂部付近の畠11・5・6では畝は砂丘列に平行し、斜面部の畝は斜面に直交する南北方向に構築されている。この軸線の違いは地形環境による排水の利便性を考慮して畠が作られた結果と考えられる。

地形環境は空間利用において最も考慮されていたようである。畠4南側に検出された空地地は東西方向の砂丘尾根部にあたることから、風等自然環境の影響を考慮してこの部分を耕作地とすることを避けた可能性も考えられる。この空地地は3区畠3の中央部や畠5と畠6の間の硬化した空地地と合わせると東西方向に長いT字形となる。面上はいずれも非常に硬化していることから、通路としての使用が考えられる。また、この畠4南側の空地地では土壌1基（SX01）が検出された。砂丘頂部の畠境界地を選地して土壌は掘り込まれたものと考えられる。また、砂丘南斜面に当たる3区畠6・7、4区畠8では傾斜面をそのまま利用し比較的長い畝を作っているのに対し、東斜面の5区では畦を境に畠に高低差を作り、いわゆる棚田状にし、平坦に耕作面を作る配慮がなされている。日照条件や自然環境の差に対する工夫であろうか。

溝については埋砂の状況から水路である可能性が高い。特に畦の周囲には溝がめぐらされているものは区画と排水の両側面を担っていたものと考えられる。また、1区北端の畠2では東西方向の溝1

が検出された。この付近は砂丘間低地のような窪地になっており、この部分を利用して水路が作られている。また南斜面の4区溝3～7は南端低位の水溜状遺構に続くことから、導水目的の溝と考えられる。この水溜状遺構4条はさらに大きな落ち込みにつながっている。この部分については調査区外に広がる為不明な点もあるが、南側調査区外には池などの灌漑施設が設けられていた可能性が高い。このように、遺跡地では地形や立地を巧みに利用し畦や灌漑施設を計画的に設けて、広範囲に整然と耕作地を展開させていたことがわかる。

次に、これらの畝の変遷であるが、各畝では2回～3回の作り替えが認められる。畝1では畝→畦3・4への作り替えや、畝2では溝1を畦6として作り替え、畦10も畝が作られた後再び畦への作り替えが認められる。特に畝4では東側では畝の作り替えが頻繁に行われているのに対し、西側では畝の幅も比較的広くまばらで畝の作り替えは全く行われていない。面上は比較的硬化していることから西側は休耕地となっていた可能性が考えられよう。その他、畝7東側、畝9においても畝の状況から最終段階では休耕地になっていた可能性が考えられる。このように個々の畝の変遷が認められ、それによる隣接地との新旧関係についても第1分冊の各項で既に明らかにしている。ただし、耕作地の場合、生産遺跡であるが故に個々の畝の新旧が判明しても、細かい畝の作り替えなども行われており、隣接地の切り合い関係が遺構全体の変遷に直結するとは限らない。また、中世の段階では既に連作障害などの問題から、当然休耕地と耕作地が隣接している可能性が高く、長瀬高浜遺跡では耕作面の偶蹄目の足跡から輪換農法に伴う休閑放牧の可能性も示唆されている(岩崎 1999)。

### 3. 耕作物について

この畝における耕作物については第Ⅶ章 自然科学分析の項に評述されている。分析の結果、砂丘北側斜面の畝1～4では、ヒエを中心にイネ科、ムギ類が耕作されていたことが判明している。また、砂丘尾根頂部の2区ではイネの他、アワ、ヒエ、ムギ等の雑穀類が作られ、全般的に乾燥した環境であったことが示唆されている。これに対し、砂丘南斜面の畝6～8ではイネ科のプラントオパールが高い密度で検出された。また、畝9-2面に見られるように畝幅、畝間の形状が大きく異なる部分では根菜類が栽培されていた可能性が高いが、自然化学分析結果ではイネ以外の花粉が検出されず断定はできなかった。

これを畝の立地環境に即して概観すると、砂丘北斜面ではヒエ、ムギなどの雑穀と共にイネを栽培し、南～東斜面では主にイネを栽培していたことを示している。当然、輪作栽培が行われていたであろうが、基本的にはイネは南斜面中心に栽培されていたようである。4区南端には水溜状遺構があることから、日照条件や水利などを考慮した上での選地と考えられよう。なお、水溜状遺構底面から出土したウリ科の種は一ヶ所に集中しており、自然科学分析の結果では一個体からのものであるとのことであるが、溝に食物残滓を廃棄した痕跡とも考えられ、当該期の生活の痕跡が如実に窺える。また、畝面上には人間の足跡と共に偶蹄目の足跡が非常に多く検出された。中には規則正しく牛と人間が一緒に歩いている痕跡も認められたことから、耕作のための労働手段として牛が使用されていたことが考えられる。また、畝が壊されている所に検出された多数の偶蹄目の足跡は、休耕地の放牧などの可能性も考えられる。

#### 4. 島の耕作時期とその廃絶

この島の耕作時期であるが、これについては特論第8節 中世遺物の項に詳述しているように、出土遺物からは12世紀代が中心であると考えられる。これは面上の炭化物の放射性炭素年代測定によって得られたAD1020~1160年の数値とも符合する。ただし、各島に何枚かの面が検出されていることから、耕作期間にある程度の時期幅は当然あると考えられる。特に、島6~10では出土遺物から12世紀代を中心としながらも、下限は14世紀前半位までと考えられることから、砂丘南側斜面では14世紀代まで耕作が行われていたことが窺える。これはおそらく北側の海岸付近から吹き付けたであろう飛砂を避ける為や、日照条件の上でも南側斜面が適していたことが推測できよう。

これらの島はいずれも直上に風成砂とみられるシロスナが厚く堆積している。島跡はシロスナ直下のクロスナ層直上において検出されていることから、シロスナ堆積の直前まで生産活動が行われていたと考えられる。さらに南側の低位の島8・9ではクロスナ最上層の上にクロスナ混じりのシロスナで作られた畝(0面)も検出されていることから、飛砂の堆積する環境下でもある程度の期間は耕作が続けられていたことが推測できる。海岸から吹き付ける砂が比較的遮断され易い砂丘南斜面低位という地理的な優位性を生かしたものであろうか。

#### 5. 錦町第一遺跡との比較

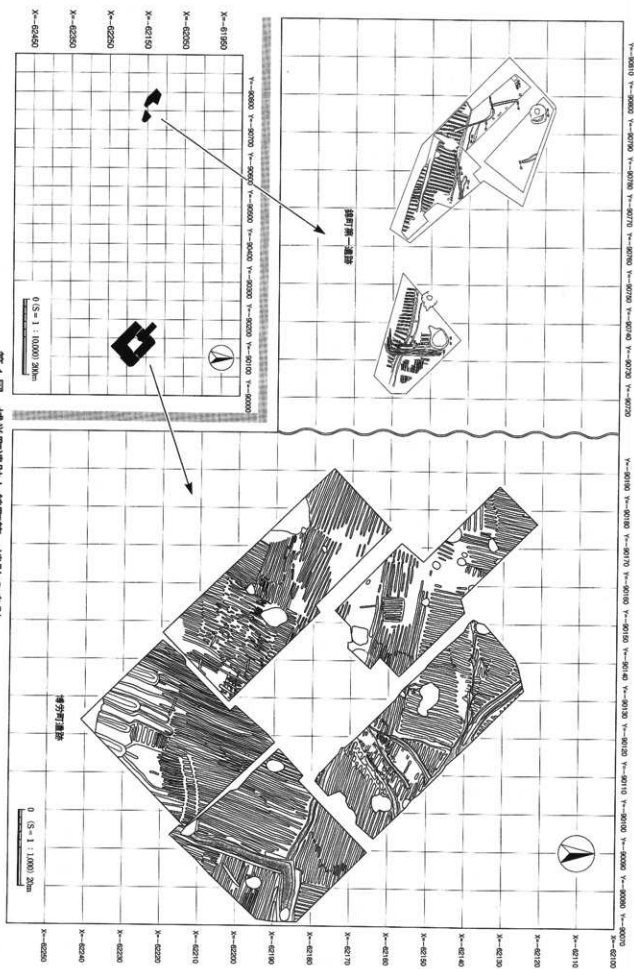
米子市域では、同じ内浜砂丘上に立地する錦町第一遺跡においてもクロスナ最上面から中世期の島跡が検出されている。特論 第8節でも述べているように、出土遺物から博労町遺跡の島跡と錦町第一遺跡の島跡は同時期性の高い遺構と考えられる。また、シロスナの堆積による廃絶状況も博労町遺跡と同様である。この両遺跡の島について、相互の位置関係を国土座標上に落とす比較検討を試みた(第1図)。その結果、博労町遺跡から錦町第一遺跡までの距離は西側に700m離れているが、緯度的には $32^{\circ}26'08''$  ( $X=-62150$ ) とほぼ同一位置に存在することが判明した。

錦町第一遺跡の島を見ると、検出された畝の主軸方向は $N-14^{\circ}-E$ で、砂丘列に直交している。この方向軸は博労町遺跡の島の南北方向軸とほぼ符合している。錦町第一遺跡では砂丘頂部から南側斜面に構築されており、検出された遺構は博労町遺跡の島7や島8の形状と同様であると考えられる。さらに東西方向に延びる畦の方向性も $N-76^{\circ}-W$ と、博労町の東西方向の畝の方向軸とほぼ平行している。錦町砂第一遺跡において検出された畝は畝の長さ約7m、幅20~70cm、畝間の幅20~30cmを測る。これは博労町遺跡の畝に比較するとかなり短い。ただし、博労町遺跡より急斜面であるという立地環境も考慮すると、短い畝しか作り得なかった可能性が高い。

以上、同緯度に位置する両遺跡の島跡は方向軸も非常に酷似しており、時的にも同時期性が高いことから、同一の遺構と考えられる。このことから、当該期に博労町から錦町にかけての砂丘域一帯が島という生産域であった可能性は非常に高いと考えられる。

県中部湯梨浜町の海浜砂丘域に発見された長瀬高浜遺跡においても、砂丘上に中世の島跡が検出されている(岩崎 1999)。この遺跡では4500m<sup>2</sup>以上に亘る島跡がクロスナ上に検出されている。出土遺物から、時的には9世紀から15世紀頃まで断続的に島が営まれていたと考えられている。この遺構はシロスナ直下の黒灰褐色砂層(クロスナ)最上層で検出されていること、直上にはシロスナが堆積していることなど、全体的には博労町遺跡や錦町第一遺跡における島の在り様と同様である。中世期には、海浜砂丘地帯においても耕作地としての開発が広範囲に行われていたことが窺えよう。

第1図 博劣町遺跡と鎮町第一遺跡の鳥瞰



## 6. まとめ

博勞町遺跡は中世期に古代以来の居館域から大規模な耕作地に転換する。米子市域の中世における荘園耕作地の範囲がどの程度の規模であったかは現在のところ不明であるが、博勞町遺跡から錦町第一遺跡にかけての範囲がすべて耕作地であるとすれば、当然その土地全体を支配していた権力層の存在が想定できよう。今回の調査では、平安時代後期に帰属する遺構は検出されていないが、空白期を挟みながらも居住域がすべて耕作地に転換していくには大きな社会背景の変化というものを考えていかなければならない。

周知のように、11世紀後半以降、在地領主層による新田開発が盛んとなり、「保」や「別名」といった所領が出現する。開発後は国衙に一定量の官物を納付せねばならないことから、この開発は律令体制が崩壊した後非常に推進された。その中で荘園もこのような開発を前提に再編されていき、12世紀代には荘園公領制として確定していく。こうした背景が砂丘のような未開の微高地においても耕地化が促進され中世的村落景観が成立する要因となった。奇しくも『民経記』天福元（1233）年五月巻の紙背文書には、勝田庄が六代に亘る相伝の土地であったが、去年地頭が新補されたという記述がある（陶山 2003）。勝田庄については比定地の問題も当然考慮せねばならないが（佐伯 2009）、13世紀前半から溯って六代前から勝田庄が荘園田畑であったとすれば、時期的には博勞町遺跡の島の時期に符合するものと思われる。このような動きは平安時代末から鎌倉時代初期における荘園開発に伴うものであり、今回検出された遺構はまさに条里水田に代表される古代的景観から荘園制度の拡大に伴う中世村落的景観への転換を如実に示している遺跡であると考えられよう。

前述の長瀬高浜遺跡においても、古代には官衙的性格の施設が存在した後、10世紀～12世紀末まで断絶した後、13世紀代には島地となる。時期的には前後するが、官衙性格の集落域から断絶期を挟み農耕地へ転換していくという大きな流れは、博勞町遺跡も同様である。また、当該地でイネ以外にもヒエやアワなどの雑穀が作られていたことは、中世の荘園社会において文献に見られるように米以外に雑穀をも盛んに採取していたという実態を裏付けるものである（木村 1996）。

しかし、その耕作地は14世紀後半以降大量の白砂の堆積とともに廃絶していく。近接する錦町第一遺跡や県中部の長瀬高浜遺跡の中世島跡においても時期は前後するが同様の廃絶状況を示している。さらにこの現象は日本海沿岸域の中世遺跡に通用の現象であり、石川県羽咋市寺家遺跡では14世紀後半の大規模な風成砂による砂丘移動が遺跡廃絶の原因とされている（牧山・中野 2010）。今回検出された島跡は、このクロスナ層の廃絶時期とその要因を検討していく上でも重要な資料である。さらに、大規模に開拓された島の廃絶は自然環境の激変だけによるものではなく、中世荘園制の崩壊といった社会背景ともリンクしていくものであると考えられよう。

このように、博勞町遺跡において検出された中世の島跡は、古代から中世にかけての村落景観の質的転換とその崩壊を如実に示すものと考えられ、当該期の米子海浜砂丘域の歴史を解明していく上で、非常に多くの新知見を得られたものと思われる。今後、周辺域の調査により居館跡など生産遺跡以外の遺構が検出されることにより、当該期の様相がさらに解明できることに期待したい。

（註1）米子市史によれば、米子平野の桑理は法勝寺川流域でN-4°-W、佐陀川流域でN-5°-Wと推定されている（内田 2003）。

(引用・参考文献)

- 岩崎康子 1999「第9章 第5節 畠跡の検討」『長瀬高浜遺跡Ⅷ』（財）鳥取県教育文化財団・建設省 倉吉工事事務所
- 内田律雄 2003「第6章 律令国家と米子平野・奈良時代」『新修米子市史』第1巻通史編 米子市
- 木村茂光 1996『ハタケと日本人』中公新書
- 佐伯純也 2009「加茂川下流域における集落の動向と博労町遺跡の性格について」『伯耆文化研究』第11号 伯耆文化研究会
- 陶山 徹 2003「第一章 鎌倉時代の米子」『新修米子市史』第1巻通史編 米子市
- 平木裕子 1996『錦町第一遺跡』（財）米子市教育文化事業団

# 遺物觀察表



第1表 5区SB01出土土器観察表 (第15図)

遺物 No.	遺物・地区 出土部位	器種	部位 残存率	法 量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	Ps1	土師器 壺	口縁-体 底1/3	口径(13.9) 器高(13.9) 胎高(12.7)	良	褐色	滑石 白化粧	外側: 口縁部縮み工具による凹線ヘラミダギ。腹部縮 ヘラミダギ。体部縮みのハケメ。唇部縮み工具に よる凹線。口縁部縮みによる凹文 内側: 口縁部縮みヘラミダギ。唇部縮みヘラミダギ	外側凹化粧・体部 滑石 内側口縁部凹化粧 付着
2	Ps1	土師器 壺	口縁-唇 部1/8	口径(18.2) 器高(6.4)	良	暗褐色	滑 石 白化粧 赤土 色胎土	外側: 口縁部縮みナテ。唇部縮みヘラミダギ 内側: 口縁部縮みナテ。唇部縮みヘラミダギ	内側凹化粧赤土

第2表 1区SI01出土土器観察表 (第18図)

遺物 No.	遺物・地区 出土部位	器種	部位 残存率	法 量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	磁砂中層	土師器 壺	破片	口径(17.4) 器高(7.5)	良	灰褐色-暗 灰白色	滑 石 砂粒	内側: 縮みナテ	
2	磁砂中層	土師器 壺	破片	口径(18.8) 器高(3.2)	良好	灰褐色	滑 石 砂粒	外側: 口縁部縮みナテ。唇部縮みヘラミダギ 内側: 口縁部縮みナテ。唇部縮みヘラミダギ	外側口縁部縮み付着
3	磁砂上層	土師器 壺	破片	口径(19.6) 器高(2.8)	良好	黄灰白色	中々滑 石 砂粒	外側: 口縁部縮みナテ。唇部縮みヘラミダギ 内側: 縮みヘラミダギ	内側口縁部-外側 小部 凹線付着
4	磁砂上層	土師器 壺	唇部破片	口径(14.0) 器高(5.6)	良	黄灰白色- 黒色	滑 石 砂粒	外側: ナテ-竹製文・貝製縮みによる縮文ヘラミダギに よる凹線文・竹製文 内側: 縮みナテ	
5	磁砂下層	土師器 壺	口縁部破片	口径(14) 器高(6.8)	良	褐色	中々滑 石 砂粒	外側: 縮み縮みナテ 内側: ヘラミダギ	左側中心部縮み付着
6	磁砂上層	土師器 壺	破片	口径(19.3) 器高(5.5)	良	灰褐色	滑 石 砂粒	外側: 口縁部縮みナテ。唇部縮みヘラミダギ。唇部縮 みナテ 内側: 口縁部縮みナテ。唇部縮みヘラミダギ	外側縮み付着
7	磁砂上層	土師器 壺	口縁部 1/3	口径(16.0) 器高(5.6)	良	灰褐色	滑 石 砂粒	外側: 口縁部縮みナテ。唇部縮みヘラミダギによる凹線文 内側: 口縁部縮みナテ。唇部縮みヘラミダギ	外側縮み付着
8	磁砂中層	土師器 壺	唇部破片	口径(5.4) 器高(22.8)	良	褐色	滑 石 砂粒	外側: 縮みナテ 内側: 唇部縮みヘラミダギ。唇部縮みナテ	

第3表 1区SI02出土土器観察表 (第20図)

遺物 No.	遺物・地区 出土部位	器種	部位 残存率	法 量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	磁砂中層	土師器 壺	破片	口径(16.4) 器高(5.1)	良	褐色	滑 石 砂粒	外側: 縮みナテ 内側: 口縁部縮みナテ。唇部縮みヘラミダギ	外側縮み付着
2	磁砂中層	土師器 壺	唇部破片	口径(3.6) 器高(11.8)	良好	灰褐色	滑 石 砂粒	外側: 縮みナテ 内側: 唇部縮みヘラミダギ。唇部縮みナテ	
3	磁砂中層	土師器 壺	2/3	口径(15.5) 器高(3.8) 胎高(4.1)	良好	赤褐色	滑 石 砂粒	外側: 縮みナテ 内側: 口縁部縮みヘラミダギ。唇部縮みナテ	内側縮み付着 縮み付着

第4表 1区SI03出土土器観察表 (第22図)

遺物 No.	遺物・地区 出土部位	器種	部位 残存率	法 量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	磁砂中層	土師器 壺	破片	口径(14.6) 器高(6.1)	良好	黄灰白色	滑 石 砂粒	外側: 口縁部縮みナテ。唇部縮みヘラミダギ 内側: 口縁部縮みナテ。唇部縮みヘラミダギ	外側縮み付着
2	磁砂中層	土師器 壺	破片	口径(13.4) 器高(5.9)	良	褐色	滑 石 砂粒	外側: 縮みナテ 内側: 口縁部縮みナテ。唇部縮みヘラミダギ	
3	磁砂上層	土師器 壺	破片	口径(16.0) 器高(3.6)	良好	暗褐色	滑 石 砂粒	外側: 口縁部縮みナテ。唇部縮みヘラミダギ 内側: 唇部縮みヘラミダギ	内側縮み
4	磁砂上層	土師器 壺	2/3	口径(14.4) 器高(3.1)	中々良	褐色	中々滑 石 砂粒	外側: 縮みナテ 内側: 縮み縮み不明	
5	磁砂上層	土師器 壺	唇部破片	口径(16.0) 器高(9.2) 器底(14.4)	良	暗褐色	滑 石 砂粒	外側: 口縁部縮み-唇部縮み縮みナテ。受胎部縮みヘラ ミダギ 内側: 受胎部ヘラミダギナテ。唇部縮みヘラミダギ 縮みナテ	内側縮み
6	磁砂上層	土師器 壺	唇部破片	口径(5.2) 器高(14.6)	良好	灰褐色	滑 石 砂粒	外側: 縮みナテ 内側: 受胎部縮みナテ。唇部縮みヘラミダギ。縮み縮 みヘラミダギ。唇部縮みナテ	

第5表 1区SI04出土土器観察表 (第24図)

遺物 No.	遺物・地区 出土部位	器種	部位 残存率	法 量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	磁砂中層	土師器 壺	唇部破片	口径(8.1) 器高(8.8) 胎高(10.3)	良好	暗灰白色	滑 石 砂粒	外側: 口縁部縮みナテ。唇部縮みヘラミダギ 内側: 口縁部縮みナテ。唇部縮みヘラミダギ	
2	磁砂上層	土師器 壺	1/3	口径(10.1) 器高(6.5)	良	褐色	滑 石 砂粒	外側: 口縁部縮みナテ。唇部縮みヘラミダギ。唇部縮 みナテ 内側: 口縁部縮みナテ。唇部縮みヘラミダギ	
3	磁砂上層	土師器 壺	口縁-唇 部1/3	口径(17.4) 器高(6.9)	良好	黄灰白色	滑 石 砂粒	外側: 口縁部縮みナテ。唇部縮みヘラミダギ。唇部縮 みナテ 内側: 口縁部縮みナテ。唇部縮みヘラミダギ	
4	磁砂中層	土師器 壺	破片	口径(15.0) 器高(7.0)	良	暗灰白色	滑 石 砂粒	外側: 口縁部縮みナテ。唇部縮みヘラミダギ 内側: 口縁部縮みナテ。唇部縮みヘラミダギ	外側口縁部縮み付着
5	磁砂中層	土師器 壺	破片	口径(15.8) 器高(3.5)	良	黄灰白色	滑 石 砂粒	外側: 縮みナテ 内側: 縮みナテ	
6	磁砂中層	土師器 壺	破片	口径(14.2) 器高(4.9)	良	褐色	滑 石 砂粒	外側: 口縁部縮みナテ。唇部縮みヘラミダギ 内側: 口縁部縮みナテ。唇部縮みヘラミダギ	

7	塚跡中層	土師器 壺	口縁-口 部1/3	口径(15.0) 器高(6.5)	良好	褐色	密	外面-黒ナテ 内面-白塗部残ナテ、器底横ヘラミナリ	
8	塚跡中層	土師器 鉢	口縁-口 部残(1)	口径(13.8) 器高(8.5)	良	黄褐色-黒 褐色	密	外面-黒ナテ 内面-白塗部残ナテ、器底横ヘラミナリ	外周底付着
9	塚跡上層	土師器 壺	口縁-口 部残(1)	口径(17.0) 器高(5.0)	良	暗灰白色	密 砂粒	外面-黒ナテ 内面-口部黒ナテ、器底横ヘラミナリ	内面一部底付着
10	塚跡中層	土師器 壺	破片	口径(14.2) 器高(5.7)	良好	暗褐色	密	外面-黒ナテ 内面-口部黒ナテ、器底横ヘラミナリ	外周底付着
11	塚跡中層	土師器 壺	破片	口径(15.1) 器高(8.7)	良	黄灰白色	密	外面-黒ナテ 内面-口部黒ナテ、器底横ヘラミナリ	外周底付着
12	塚跡中層	土師器 小丸丸底壺	破片	口径(10.1) 器高(3.7)	良好	褐色	密	外面-黒ヘラミナリ 内面-黒ヘラミナリ	
13	塚跡中層	土師器 壺	破片	口径(14.6) 器高(4.3)	良好	褐色	密	内外面-横ヘラミナリ	外周底付着 器底面底付着
14	塚跡中層	土師器 壺	破片	口径(13.4) 器高(4.3)	良好	黄灰白色	密	内外面-ハケムヘラミナリ	
15	塚跡中層	土師器 壺	破片	口径(19.8) 器高(5.5)	良	暗褐色	密	外面-横ヘラミナリ 内面-横ヘラミナリ	
16	塚跡上層	土師器 壺	破片	口径(16.2) 器高(5.2)	良好	灰褐色	密	外面-全周横ヘラミナリ、器底横ナテ 内面-全周横ヘラミナリ 内底-器底横ヘラミナリ	外周底付着
17	塚跡中層	土師器 壺	破片	口径(7.0) 器高(9.8)	良好	暗褐色	密	外面-器底横ヘラミナリ、胴部横ヘラミナリ 内面-器底横ヘラミナリ 器底二方凹通し	
18	塚跡中層	土師器 壺	破片	口径(9.3) 器高(6.3) 底径(5.8)	良好	褐色	密	外面-器底横ヘラミナリ、器底横ナテ 内面-器底横ヘラミナリ、器底横ナテ、横ヘラミナリ	
19	塚跡中層	土師器 壺	破片	口径(3.7) 底径(4.2)	良	黄灰白色	密	外面-黒ナテ 内面-横ヘラミナリ、器底横ナテ	
20	塚跡下層	土師器 壺	破片	口径(3.7) 器高(6.4)	良好	暗褐色	密	外面-器底横ヘラミナリ、器底横ナテ 内面-器底横ナテ、器底横ナテ、横ヘラミナリ	

第6表 1区SI04出土石器観察表 (第24図)

遺物 No.	遺物-地区 出土層位	種類	遺物状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考
21	塚跡中層	石器	尖石	148	98	41	895.5	安山岩	石径約26cm・石厚約13cm
22	塚跡中層	ハンマーストーン	尖石	116	42	32	202.9	安山岩	

第7表 1区SI05出土石器観察表 (第25図)

遺物 No.	遺物-地区 出土層位	種類	遺物状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	観察-特徴	備考
1	塚跡中層	土師器 壺	破片	口径(23.9) 器高(30.3) 底径(20.3)	良好	黄灰白色	密	外面-口部黒ナテ、器底横ヘラミナリ 内面-口部黒ナテ、器底横ヘラミナリ	外周底付着	
2	塚跡上層	土師器 壺	破片	口径(20.0) 器高(5.9)	良	褐色	密	外面-口部黒ナテ、器底横ヘラミナリ 内面-口部黒ナテ、器底横ヘラミナリ	外周底付着	
3	塚跡中層	土師器 壺	破片	口径(14.4) 器高(7.8)	良	黄灰白色	密	外面-口部黒ナテ、器底横ヘラミナリ 内面-口部黒ナテ、器底横ヘラミナリ	外周底付着	
4	塚跡上層	土師器 壺	破片	口径(13.4) 器高(9.7)	良好	黄褐色-黒 褐色	密 砂粒	外面-口部黒ナテ、器底横ヘラミナリ 内面-横ヘラミナリ	外周底付着	
5	塚跡中層	土師器 壺	破片	口径(13.0) 器高(7.9)	良	黄灰白色	密	外面-口部黒ナテ、器底横ヘラミナリ 内面-口部黒ナテ、器底横ヘラミナリ	外周底付着	
6	塚跡中層	土師器 壺	破片	口径(13.0) 器高(5.8)	良	黄灰白色	密	外面-口部黒ナテ、器底横ヘラミナリ 内面-口部黒ナテ、器底横ヘラミナリ	外周底付着	
7	塚跡中層	土師器 壺	破片	口径(12.0) 器高(6.0)	良	暗褐色	密	外面-黒ナテ 内面-口部黒ナテ、器底横ヘラミナリ		
8	塚跡上層	土師器 壺	破片	口径(12.0) 器高(8.1)	良	黄灰白色	密	外面-口部黒ナテ、器底横ヘラミナリ 内面-口部黒ナテ、器底横ヘラミナリ		
9	塚跡下層	土師器 壺	破片	口径(15.0) 器高(9.6)	良好	暗褐色-灰 褐色	密 砂粒	外面-口部黒ナテ、器底横ヘラミナリ 内面-口部黒ナテ、器底横ヘラミナリ	外周底付着	
10	塚跡上層	土師器 壺	破片	口径(4.7) 器高(9.8) 底径(4.4)	良好	暗褐色	密	外面-器底横ヘラミナリ、器底横ナテ 内面-器底横ヘラミナリ、器底横ナテ		
11	塚跡中層	土師器 壺	破片	口径(8.4) 器高(4.5)	良	黄褐色	密	外面-横ヘラミナリ 内面-横ヘラミナリ		
12	塚跡上層	土師器 小丸丸底壺	破片	口径(11.0) 器高(4.8)	良好	灰褐色	密	外面-横ヘラミナリ 内面-横ヘラミナリ		
13	塚跡中層	土師器 壺	破片	口径(11.7) 器高(4.1)	良	黄褐色	密	外面-横ヘラミナリ 内面-横ヘラミナリ	外周底付着	
14	塚跡中層	土師器 壺	破片	口径(12.8) 器高(3.1)	良好	黄灰白色	密	外面-横ヘラミナリ 内面-横ヘラミナリ	外周底付着	
15	塚跡上層	土師器 壺	破片	口径(14.0) 器高(3.9)	良好	暗褐色	密	外面-横ヘラミナリ 内面-横ヘラミナリ	外周底付着	
16	塚跡中層	土師器 壺	破片	口径(13.0) 器高(2.6)	良好	黄褐色	密	外面-横ヘラミナリ 内面-横ヘラミナリ	外周底付着	
17	塚跡下層	土師器 壺	破片	口径(14.5) 器高(3.7)	良	黄灰白色	密	内外面-黄褐色不明	外周底付着	
18	塚跡上層	土師器 壺	破片	口径(13.8) 器高(6.2)	良	黄灰白色	密	内外面-黒ナテ 器底横ナテ	外周底付着	
19	塚跡中層	土師器 壺	破片	口径(16.7) 器高(4.8)	良	暗褐色	密	外面-横ヘラミナリ 内面-横ヘラミナリ	外周底付着	

21	床面直上	土師器 高坪	1/3	L口径(15.0) 器高(3.9)	良好	黄灰白灰	赤 石灰	外周: ハケメヘラミギキ 内周: 黄ヘラミギキ	外周一筋線付
22	埋砂中層	土師器 高坪	脚部	器高(3.3) 口径(10.0)	良	黄灰白灰	赤	外周: ハケメヘラミギキ 内周: 脚部黒ヘラケズリ、脚部黄ヘラメーナテ	外周一筋線付
23	埋砂上層	土師器 高坪	脚部	器高(5.4) 口径(8.0)	良	黄灰白灰	赤	外周: ハケメヘラミギキ 内周: 脚部黒ヘラケズリ、脚部黄ヘラメーナテ	外周一筋線付
24	埋砂上層	土師器 高坪	脚部	器高(4.9) 口径(7.2)	良	褐色	赤	外周: 脚部黒ヘラケズリ 内周: 脚部黒ヘラケズリ、脚部黄ヘラメーナテ 接合部内周縁法	外周一筋線付
25	埋砂上層	土師器 高坪	1/3	器高(2.9) 口径(5.3)	良好	褐色	赤	外周: 環形黒ヘラミギキ、脚部黒ナテ 内周: 内周ヘラミギキ、脚部黒ナテ	内周一筋線付
26	埋砂上層	土師器 高坪	1/1	口径(7.7) 器高(1.6)	良好	褐色-灰褐色	赤 向河石 黒赤	外周: 突部黒ヘラミギキ、接合部ナテ 内周: 突部ヘラケズリ→ヘラミギキ、接合部以下黒ヘラケズリ	内周一筋線付
27	埋砂中	土師器 高坪	把手部	口径(1.0)	良	灰褐色	赤	外周: ヘラミギキ	

第8表 1区SI06出土土器観察表(第27回)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量	状態	色調	胎土	調査・文様	備考
1	床面直上	土師器 高坪	L口径-体 部1/3	L口径(12.3) 器高(11.0)	良	褐色	赤 砂粒	外周: 口縁部-黄線ナテ、接合部-黒ヘラメ 内周: L脚部黒ナテ、器高以下黒ヘラケズリ	
2	床面直上	土師器 高坪	口縁-脚 部1/3	L口径(16.4) 器高(8.6)	良	黄灰白灰	赤	外周: 口縁部黒ナテ、器高以下黒ヘラケズリ 内周: 突部黒ナテ	外周線付
3	埋砂中層	土師器 高坪	口縁部 1/4	L口径(15.8) 器高(5.9)	良	灰白灰	赤	外周: 口縁部黒ナテ、器高以下黒ヘラケズリ 内周: 口縁部黒ナテ、器高以下黒ヘラケズリ	
4	埋砂中	土師器 高坪	破片	口径(14.2) 器高(5.7)	良	褐色	赤	外周: 口縁部黒ナテ、器高以下黒ヘラケズリ 内周: 口縁部黒ナテ、器高以下黒ヘラケズリ	
5	埋砂上層	土師器 高坪	3/4	口径: 37.0 器高: 5.9 口径: 12.2	良好	暗灰白灰	赤	外周: 接合部黒ヘラメーナテ 内周: ハケミ	器高 内周一筋線付
6	埋砂中	土師器 高坪	体部1/3	器高(17.9)	良	黄灰白灰	赤	外周: 環ヘラミギキ 内周: ハケミ	外周下半部付着 大形内周縁付
7	床面直上	土師器 高坪	脚部	L口径: 29.6 器高(7.4)	良	褐色	赤	外周: L脚部黒ヘラミギキ、環脚部黒ヘラミギキ 内周: 環-黒ヘラミギキ	内周線付
8	床面直上	土師器 高坪	脚部	器高(7.2) 口径(20.8)	良	黄灰白灰	赤	外周: 脚部黒ヘラメーナテ、脚部ナテ 内周: 脚部黒ヘラケズリ、脚部黒ヘラメ	
9	埋砂上層	土師器 高坪	脚部	器高(7.5) 口径(10.2)	良	黄灰白灰	赤	外周: 脚部黒ヘラメヘラミギキ、器高以下黒ヘラケズリ 内周: 脚部黒ヘラケズリ、器高以下黒ヘラケズリ	
10	埋砂中	土師器 高坪	脚部	器高(7.2) 口径(12.4)	良	黄灰白灰	赤 砂粒	外周: 脚部黒ヘラメヘラミギキ、器高以下黒ヘラケズリ 内周: 突部黒ナテ、接合部黒ヘラケズリ→黒ナテ	
11	埋砂中	土師器 高坪	体部1/4	口径(14.2) 器高(4.5)	良好	褐色	赤	外周: L脚部黒ナテ、環脚部-黒ヘラケズリ 内周: 脚部黒ヘラミギキ	内周一筋線付
12	埋砂中	土師器 高坪	1/2	L口径(18.2) 器高(5.3) 口径(5.5)	良	褐色	赤	外周: 環脚部-黒ヘラケズリ、脚部黒ナテ 内周: 環脚部-黒ヘラミギキ、脚部黒ナテ	内周脚部ヘラケズリ 器高以下黒ヘラケズリ
13	埋砂中	土師器 高坪	1/1	L口径: 19.6 器高: 9.6 口径: 18.3	良	黄灰白灰	赤	外周: 突部黒ヘラミギキ、器高以下黒ヘラケズリ 内周: 突部黒ナテ、接合部黒ヘラケズリ→黒ナテ、脚部黒ヘラケズリ	外周脚部黒ナテ 内周脚部黒ナテ
14	埋砂中	土師器 高坪	1/1	L口径: 19.9 器高: 9.1 口径: 16.8	良	黄灰白灰	赤 石灰	外周: 突部黒ナテ、接合部黒ヘラケズリ→黒ナテ、脚部黒ヘラケズリ 内周: ナテ	
15	埋砂上層	土師器 高坪	破片	L口径(22.4) 器高(5.3)	良好	灰褐色	赤 石灰	外周: 環ヘラミギキ 内周: 環ヘラミギキ	
16	埋砂上層	土師器 高坪	口縁部 1/5	口径(12.6) 器高(10.2)	良	黄灰白灰	赤 砂粒	外周: 口縁部ナテ、器高以下黒ヘラケズリ 内周: 口縁部ナテ、器高以下黒ヘラケズリ	内周線付

第9表 1区SI06出土土器観察表(第27回)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	器種	遺存状態	最大径 (mm)	最大径 (mm)	最大径 (mm)	重量 (g)	石 材	備考
17	埋砂中	土師器	尖形	149	82	19	32.0	角閃石製	左打欠幅3mm 右打欠幅42mm
18	埋砂中	土師器	尖形	70	54	46	32.0	緑石	

第10表 2区SI02出土土器観察表(第30回)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量	状態	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂上層	土師器 高坪	口縁部 1/4	口径(13.6) 器高(8.9)	良	褐色	赤 石灰、砂粒	外周: 口縁部黒ナテ、器高以下黒ヘラケズリ 内周: 口縁部黒ナテ、器高以下黒ヘラケズリ	
2	埋砂中層	土師器 高坪	脚部 1/3	器高(4.3) 口径(10.0)	良	褐色	赤 石灰、石 砂粒	外周: 口縁部黒ナテ、器高以下黒ヘラケズリ 内周: 口縁部黒ナテ、器高以下黒ヘラケズリ	
3	埋砂中	土師器 高坪	1/5	L口径(16.5) 器高(3.7)	良好	褐色	赤 黄赤、石灰、 砂粒	外周: 口縁部黒ナテ、器高以下黒ヘラケズリ 内周: 環脚部-黒ヘラミギキ	
4	埋砂下層	土師器 高坪	脚部破片	口径(1.7) 器高(14.6)	良好	灰褐色	赤	外周: 脚部黒ヘラミギキ、脚部黒ナテ 内周: 脚部黒ヘラケズリ、器高以下黒ヘラケズリ	
5	埋砂中層	土師器 高坪	脚部破片	口径(2.3) 器高(14.6)	良	褐色	赤	外周: 脚部黒ナテ 内周: 脚部黒ヘラケズリ、器高以下黒ヘラケズリ	

第11表 2区SI03出土土器観察表(第32図)

遺物 No.	発祥・地区 出土層位	形制	部位 残存率	容量 (cm)	胎土	色澤	胎土	調査・文様	備考
1	埴砂中層	土師器 壺	1/3	口径:13.0 器高:19.9 胴径:18.0	良	灰褐色	雲母・砂粒	外周:口縁部ナシ。肩部縮状工具痕跡による突起6筋。肩筋部 縮ハケミ 内周:口縁部ナシ。各部縮ハケミナシ。体部下半部縮状ハケミナシ	
2	埴砂中層	土師器 壺	1/2	口径(3.8) 器高(23.3) 3.8x(21.0)	良	褐色	雲母・砂粒	外周:口縁一帯縮ナシ。肩筋縮状工具による突起文。体部縮ハケミ 内周:口縁部ナシ。体部縮ハケミナシ。体部下半部縮状ハケミナシ	内外周一部縮付否
3	埴砂中層	土師器 壺	完形	口径:16.2 器高:19.1 胴径:20.4	良	黄灰白色	雲	外周:口縁一帯縮ナシ。肩筋縮状工具による突起文。体部縮ハケミ 内周:口縁部ナシ。体部下半部縮ハケミナシ。体部縮ハケミナシ	外周体部縮付否
4	埴砂中層	土師器 壺	1/8	口径(14.0) 器高(16.7) 胴径(19.4)	良	灰褐色	雲母・石灰・砂粒	外周:口縁部ナシ。肩筋縮状工具による突起文。体部縮ハケミ 内周:口縁部ナシ。体部下半部縮ハケミナシ。体部下半部縮状ハケミナシ	外周体部縮付による縮付2箇
5	埴砂上層	土師器 壺	2/3	口径(12.0) 器高:13.1 胴径(13.8)	良	灰褐色	雲母・石灰・砂粒	外周:口縁一帯縮ナシ。肩筋縮状工具による突起文。体部縮ハケミ 内周:口縁部ナシ。体部下半部縮ハケミナシ。体部下半部縮状ハケミナシ	外周体部下半部縮付否
6	埴砂中層	土師器 壺	破片	口径(16.0) 器高(7.1)	良好	黄褐色	雲母・石灰・砂粒	外周:口縁部ナシ。肩筋縮状工具による突起文2箇 内周:口縁部ナシ。肩筋縮ハケミナシ	
7	埴砂中下層	土師器 壺	破片	口径(14.0) 器高(4.1)	良	灰褐色	雲母・砂粒	外周:縮ナシ 内周:口縁部縮ナシ。肩筋縮ハケミナシ	
8	埴砂中層	土師器 壺	口径一帯 破片	口径(16.0) 器高(9.8)	良	灰褐色	雲母	外周:口縁部縮ナシ。肩筋以下縮ハケミ 内周:口縁部縮ナシ。肩筋以下縮ハケミナシ	内外周一部縮付否
9	埴砂中層	土師器 壺	口径一帯 破片	口径:12.6 器高(9.2)	良	黄灰白色	雲母・石灰	外周:口縁一帯縮ナシ。肩筋縮状工具による突起文。体部縮ハケミ 内周:口縁部縮ナシ。体部縮ハケミナシ	
10	埴砂上層	土師器 壺	破片	口径(14.0) 器高(5.2)	良好	褐色	雲母・砂粒	外周:縮ナシ 内周:口縁部縮ナシ。肩筋縮ハケミナシ	外周・内周一部縮付
11	埴砂中層	土師器 壺	1/2	口径(14.0) 器高(4.7)	良好	黄褐色	雲	外周:縮ナシ 内周:口縁部縮ナシ。肩筋縮ハケミナシ	外周縮付否
12	埴砂上層	土師器 壺	破片	口径(17.0) 器高(5.4)	良	灰褐色	雲	外周:縮ナシ 内周:口縁部縮ナシ。肩筋縮ハケミナシ	外周口縁部縮付否
13	埴砂中層	土師器 壺	口径一帯 破片	口径:15.8 器高(5.5)	良	灰褐色	雲	外周:口縁部縮ナシ。肩筋以下縮ハケミ 内周:口縁部縮ナシ。肩筋以下縮ハケミナシ	内周縮以下縮付否
14	埴砂中層	土師器 小瓶	1/3	口径(8.0) 器高(14.1)	良	灰褐色	雲母・石灰・砂粒	外周:縮ハケミナシ 内周:体部下半部縮ハケミナシ。体部下半部縮状ハケミナシ	
15	埴砂中層	土師器 小瓶	体部破片 小瓶丸底出	口径(2.7) 器高(10.0)	良	黄褐色	雲母・砂粒	外周:縮ハケミナシ 内周:縮ハケミナシ	内外周縮付
16	埴砂中層	土師器 高杯	杯部	口径:19.8 器高(5.8)	良好	灰褐色	雲母・石灰・白色粒	外周:杯部縮ハケミナシ 内周:杯部縮ハケミナシ	
17	埴砂中層	土師器 高杯	杯部	口径(25)	良	灰褐色	雲母・砂粒	外周:口縁部縮ハケミ。杯部縮ナシ 内周:杯部縮ハケミナシ。杯部縮ナシ	
18	埴砂下層	土師器 高杯	1/3	口径(11.4) 器高(7.8)	良	褐色	雲	外周:口縁部縮ハケミ。杯部縮ハケミナシ 内周:杯部縮ハケミナシ	
19	埴砂中層	土師器 高杯	杯部1/2	口径(8.2) 器高(2.1) 3.8x(11.0)	良	黄褐色	雲母・砂粒	外周:口縁部縮ナシ。杯部縮ハケミナシ 内周:杯部縮ナシ。杯部縮ハケミナシ	フランクゲラス 付
20	埴砂中層	土師器 高杯	杯部1/2	口径(2.1) 器高(7.6)	良	褐色	雲母・石灰・砂粒	外周:杯部縮ハケミナシ。杯部縮ハケミナシ 内周:杯部縮ハケミナシ。杯部縮ハケミナシ	
21	埴砂上層	土師器 高杯	杯部1/4	口径(15.6) 器高(3.4)	良	黄褐色	雲	外周:口縁部縮ナシ。杯部縮ハケミナシ 内周:杯部縮ハケミナシ	内外周縮付
22	埴砂中層	土師器 高杯	2/3	口径(12.9) 器高(7.0) 器高 12.3	良好	黄褐色	雲母・石灰・砂粒	外周:口縁部縮ナシ。杯部縮ハケミナシ 内周:杯部縮ハケミナシ	
23	埴砂中層	土師器 高杯	完形	口径:19.8 器高:10.0 器高 16.7	良好	黄褐色	雲母・石灰	外周:縮ナシ。受部上半部縮付否 内周:口縁部縮ハケミ。杯部縮ナシ。杯部縮ハケミナシ	

第12表 2区SI03出土金属製品観察表(第33図)

遺物 No.	発祥・地区 出土層位	種類	形状 残存率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	メタル	クワツ	重量 (g)	備考
24	埴砂上層	刀	1/4	鉄	全长(73) 刃部-37 茎部(16)	刃部-11 茎部:6	刃部-3 茎部-3	4	錆化(△)	5	6.6	蓋部木質付
25	埴砂中層	短剣不明 片	一	鉄	53	4	4	5	錆化(△)	3	2.9	
26	埴砂上層	針	尖部	鉄	37	3	2	2	錆化(△)	3	1.4	
27	埴砂上層	短針不明 片	一	鉄	40	8	2	5	錆化(△)	2	4.9	

第13表 2区SI03出土石器観察表(第33図)

遺物 No.	発祥・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	材質	備考
28	埴砂上層	石錐	1/2	(53)	82	60	968.2	玄武岩	互打欠幅51mm 他打欠幅59mm
29	埴砂中層	石斧	1/2	(85)	62	33	227.6	花崗閃緑岩	





64	緑砂上層	土砂部 史	口線一層 部1/3	口線(142) 部高(7.2)	良	褐色一黒色	密 笠石・石高・ 砂粒	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ 内層 口線部砂ナ、各部横ハケメナ	内外両層付着
65	緑砂下層	土砂部 史	口線一層 部5/8	口線154 部高(7.8)	良	褐色	良笠石・石高・ 砂粒	外層 口線部砂ナ、上部以下層ハケメ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	
66	緑砂下層	土砂部 史	口線一層 部1/8	口線(134) 部高(7.5)	良好	褐色	密 砂粒	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	外層土砂部付着
67	緑砂下層	土砂部 史	口線一層 部	口線175 部高(162) 部高(23.3)	良	灰褐色	密	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ、上部横ハケメナ 内層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ、上部以下層横ハケメナ	外層土砂部付着
68	緑砂上層	土砂部 史	口線一層 部1/2	口線146 部高(12.1)	良	灰褐色	密 笠石・砂粒	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ、上部横ハケメナ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	外層土砂部付着
69	緑砂下層	土砂部 史	口線一層 部1/2	口線(138) 部高(11.3)	良	灰褐色	密 笠石・砂粒	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	
70	緑砂下層	土砂部 史	口線一層 部2/3	口線(144) 部高(14.9) 部高(22.6)	良好	褐色	密 笠石・石高・ 砂粒	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	外層土砂部付着
71	緑砂下層	土砂部 史	口線一層 部1/2	口線(164) 部高(8.8)	良	灰褐色	密 笠石・砂粒	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ、上部横ハケメナ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	
72	緑砂下層	土砂部 史	口線一層 部1/2	口線159 部高(7.8)	良好	黄灰白色	密 砂粒	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	
73	緑砂下層	土砂部 史	口線一層 部1/3	口線(164) 部高(12.8)	良好	褐色	密 笠石・砂粒	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	
74	緑砂下層	土砂部 史	口線一層 部	口線(148) 部高(13.2)	良	褐色	密 笠石・石高	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ、上部横ハケメナ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	外層土砂部付着
75	緑砂上層	土砂部 史	口線一層 部	口線140 部高(7.3)	良	黄灰白色	密	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	
76	緑砂上層	土砂部 史	口線一層 部1/8	口線(148) 部高(9.3)	良	灰褐色	密 笠石・砂粒	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ、上部横ハケメナ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	口線部砂部付着
77	緑砂下層	土砂部 史	1/2	口線142 部高(15.6) 部高(21.3)	良	褐色	密 笠石・石高	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ、上部横ハケメナ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	
78	緑砂下層	土砂部 史	口線一層 部	口線143 部高(15.4) 部高(22.3)	良好	褐色	密 笠石・石高	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ、上部横ハケメナ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	
79	緑砂下層	土砂部 史	口線一層 部	口線162 部高(12.4) 部高(21.4)	良好	褐色	密 笠石・石高・ 白砂	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ、上部横ハケメナ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	外層土砂部付着
80	緑砂下層	土砂部 史	口線一層 部	口線(166) 部高(11.3) 部高(21.4)	良	灰褐色	密 笠石	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	外層土砂部付着
81	緑砂下層	土砂部 史	口線一層 部1/3	口線(154) 部高(15.1) 部高(21.4)	良	灰褐色	密 笠石・砂粒	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	外層土砂部付着
82	緑砂下層	土砂部 史	1/5	口線(166) 部高(8.8)	良	灰褐色	密 笠石・白砂	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	外層土砂部付着
83	緑砂上層	土砂部 史	口線一層 部	口線(133) 部高(9.8)	良好	褐色	密 笠石	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	外層土砂部付着
84	緑砂上層	土砂部 史	口線一層 部	口線(156) 部高(10.7)	良	灰褐色	密 笠石・石高・ 砂粒	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ、上部横ハケメナ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	外層土砂部付着
85	緑砂上層	土砂部 史	口線一層 部1/2	口線(158) 部高(10.5)	良好	褐色	密 笠石・砂粒	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	外層土砂部付着
86	緑砂下層	土砂部 史	口線一層 部1/3	口線(150) 部高(9.2)	良好	褐色	密 笠石・砂粒	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	外層土砂部付着
87	緑砂下層	土砂部 史	口線一層 部1/2	口線(138) 部高(13.5) 部高(22.6)	良	褐色	密 笠石・砂粒	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	外層土砂部付着
88	緑砂上層	土砂部 史	口線一層 部1/4	口線(136) 部高(13.5)	良	褐色	密 笠石・砂粒	内外両層 新築時不明	
89	緑砂上層	土砂部 史	口線一層 部1/2	口線(202) 部高(20.2)	良	黄灰白色	密 笠石・砂粒	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	
90	緑砂上層	土砂部 史	口線一層 部1/3	口線(188) 部高(8.5)	良	褐色	密 笠石	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	外層土砂部付着
91	緑砂上層	土砂部 史	口線一層 部1/4	口線(150) 部高(10.7)	良	灰褐色	密 笠石・石高・ 白砂	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	外層土砂部付着
92	緑砂上層	土砂部 史	口線一層 部1/2	口線134 部高(8.4)	良好	褐色	密 笠石	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	内外両層土砂部付着
93	緑砂上層	土砂部 史	口線一層 部1/8	口線(144) 部高(1.9)	良好	褐色	密 笠石	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	
94	緑砂上層	土砂部 史	口線一層 部1/2	口線137 部高(8.5)	良好	褐色	密 笠石・石高	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	外層土砂部付着
95	緑砂上層	土砂部 史	口線一層 部	口線126 部高(4.7)	良	褐色	密 笠石	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	
96	緑砂上層	土砂部 史	口線一層 部1/2	口線(148) 部高(13.7) 部高(20.0)	良	灰褐色	密 笠石・砂粒	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	外層土砂部付着
97	緑砂上層	土砂部 史	口線一層 部1/3	口線(120) 部高(7.1)	良	褐色	密 笠石・白砂	外層 口線部砂ナ、上部以下層・横ハケメ 内層 口線部砂ナ、上部以下層横ハケメナ	外層土砂部付着

96	磁砂上層	土砂層 底層	口径(16.2) 高さ(6.6)	良	灰褐色	赤 石灰・白色粒	外層：口縁部磁ナ。青磁類ハケメ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡顕著一様ヘラケズリ	
99	磁砂上層	土砂層	1/8 口径(13.6) 高さ(2.4)	良	黒紫色	赤 磁粒	外層：口縁部ノ異質一層ナ。磁器類ナ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡ヘラケズリ	
100	磁砂下層	土砂層	2/3 口径(11.2) 高さ(14.6) 断面(15.1)	良	褐色	黄褐色・赤 石灰・白色粒	外層：口縁部磁ナ。赤磁類ハケメ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡一様ヘラケズリ	外層一部腐食・灰化 跡あり
101	磁砂下層	土砂層	口径：92 高さ：99 断面：102	良	黄灰白色	赤 白色粒	外層：口縁部磁ナ。磁器類一様ヘラケメ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡顕著一様ヘラケズリ	
102	磁砂下層	土砂層	口径(11.7) 断面(15.8)	良	灰色	赤 石灰・磁粒	外層：口縁部磁ナ。磁器類ナ。釘痕跡ヘラミギキ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡ヘラケズリ	
103	磁砂上層	土砂層	口径：112 高さ：155 断面：14.2	良	褐色	赤	外層：口縁部磁ナ。磁器類一様ヘラミギキ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡一様ヘラケズリ	外層一部腐食
104	磁砂下層	土砂層	口径：112 高さ：154 断面(14.0)	良	黄褐色	赤 磁粒	外層：口縁部磁ナ。磁器類一様ヘラミギキ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡一様ヘラケズリ	外層一部腐食
105	磁砂上層	土砂層	口径(10.0) 断面(11.7) 高さ(15.8)	良	灰色	赤 石灰・磁粒	外層：口縁部磁ナ。磁器類一様ヘラミギキ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡一様ヘラケズリ	
106	磁砂上層	土砂層	口径(10.0) 断面(11.7) 高さ(15.8)	良	灰色	赤 石灰・磁粒	外層：口縁部磁ナ。磁器類一様ヘラミギキ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡一様ヘラケズリ	
107	磁砂下層	土砂層	口径(16.4) 高さ(12.1) 断面(9.8)	良好	黄褐色	赤 石灰・石灰 白色粒	外層：口縁部磁ナ。磁器類一様ヘラミギキ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡一様ヘラケズリ	内面一部腐食
108	磁砂下層	土砂層	口径(16.6) 高さ(11.4) 断面(10.3)	良好	黄褐色	赤 石灰・石灰 磁粒	外層：口縁部磁ナ。磁器類一様ヘラミギキ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡一様ヘラケズリ	
109	磁砂下層	土砂層	口径(17.0) 高さ(12.5) 断面(10.3)	良好	黄褐色	赤 石灰・石灰 磁粒	外層：口縁部磁ナ。磁器類一様ヘラミギキ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡一様ヘラケズリ	
110	磁砂下層	土砂層	口径(15.6) 高さ(11.3) 断面(9.8)	良	褐色	赤 石灰・石灰 磁粒	外層：口縁部磁ナ。磁器類一様ヘラミギキ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡一様ヘラケズリ	
111	磁砂下層	土砂層	口径(17.0) 高さ(9.9)	良	黄褐色	赤 石灰・白色粒	外層：口縁部磁ナ。磁器類一様ヘラミギキ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡一様ヘラケズリ	
112	磁砂下層	土砂層	口径(15.6) 高さ(4.3)	良	黄灰白色	赤 石灰	外層：口縁部磁ナ。磁器類一様ヘラミギキ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡一様ヘラケズリ	内面一部腐食
113	磁砂下層	土砂層	口径(16.4) 高さ(4.6)	やや良	褐色	赤 石灰・石灰 磁粒	外層：口縁部磁ナ。磁器類一様ヘラミギキ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡一様ヘラケズリ	
114	磁砂上層	土砂層	口径(14.6) 高さ(3.7)	良	褐色	赤	外層：口縁部磁ナ。磁器類一様ヘラミギキ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡一様ヘラケズリ	
115	磁砂下層	土砂層	口径(20.6) 高さ(7.3)	良	黄灰白色	赤 石灰	外層：口縁部磁ナ。磁器類一様ヘラミギキ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡一様ヘラケズリ	
116	磁砂下層	土砂層	口径(16.8) 高さ(5.2)	良好	褐色	赤 石灰	外層：口縁部磁ナ。磁器類一様ヘラミギキ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡一様ヘラケズリ	
117	磁砂下層	土砂層	口径(17.7) 高さ(4.9)	やや良	黄褐色	赤 石灰	外層：口縁部磁ナ。磁器類一様ヘラミギキ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡一様ヘラケズリ	外層一部腐食 内面一部腐食
118	磁砂下層	土砂層	口径(14.8) 高さ(5.3)	良	灰褐色	赤 石灰・石灰 磁粒	外層：口縁部磁ナ。磁器類一様ヘラミギキ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡一様ヘラケズリ	
119	磁砂上層	土砂層	口径(10.0) 高さ(4.4)	良	黄褐色	赤 石灰・磁粒	外層：口縁部磁ナ。磁器類一様ヘラミギキ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡一様ヘラケズリ	
120	磁砂上層	土砂層	口径(9.9) 高さ(4.5)	良	褐色	赤	外層：口縁部磁ナ。磁器類一様ヘラミギキ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡一様ヘラケズリ	内面一部腐食
121	磁砂上層	土砂層	口径(8.4) 高さ(5.9) 断面(9.8)	良	褐色	赤 石灰	外層：口縁部磁ナ。磁器類一様ヘラミギキ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡一様ヘラケズリ	外層一部腐食
122	磁砂下層	土砂層	口径(12.2) 高さ(7.4) 断面(10.4)	やや良	黄褐色	赤	外層：口縁部磁ナ。磁器類一様ヘラミギキ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡一様ヘラケズリ	外層一部腐食
123	磁砂上層	土砂層	口径(4.7) 断面(8.2)	良	灰褐色	赤 石灰・石灰 磁粒	外層：口縁部磁ナ。磁器類一様ヘラミギキ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡一様ヘラケズリ	外層一部腐食
124	磁砂上層	土砂層	高さ(8.6) 底径(10.3)	良好	褐色	赤 磁粒	外層：口縁部磁ナ。磁器類一様ヘラミギキ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡一様ヘラケズリ	
125	磁砂下層	土砂層	高さ(7.4) 底径(9.5)	良	褐色	赤 石灰・磁粒	外層：口縁部磁ナ。磁器類一様ヘラミギキ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡一様ヘラケズリ	内面一部腐食
126	磁砂上層	土砂層	高さ(7.9) 底径(12.4)	良	褐色	赤	外層：口縁部磁ナ。磁器類一様ヘラミギキ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡一様ヘラケズリ	
127	磁砂上層	土砂層	高さ(8.4) 底径(9.8)	良	黄褐色	赤 石灰・石灰 磁粒	外層：口縁部磁ナ。磁器類一様ヘラミギキ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡一様ヘラケズリ	
128	磁砂下層	土砂層	高さ(7.4) 底径(10.6)	良	黄褐色	赤 石灰・石灰 磁粒	外層：口縁部磁ナ。磁器類一様ヘラミギキ 内面：口縁部磁ナ。釘痕跡一様ヘラケズリ	



129	埋砂下層	十和器 高坪	期部	容高: 7.7 容積: 9.8	良	褐色	密 赤砂・砂粒	外周: 新築地ヘラズリー・壁・階段ハケメー ラミガキ 内周: 埋砂層ヘラズリー、階部ハケメー ヘラミガキ	
130	埋砂上層	十和器 高坪	期部	容高: 7.1 容積: 10.8	良	褐色	密 砂粒	外周: 新築地ハケメー・壁ヘラミガキ、階部 新築地 内周: 埋砂層・壁ヘラズリー、新築地ハケ メー 新築三方羽形通し	
131	埋砂上層	十和器 高坪	期部	容高: 3.2 容積: 15.6	良	褐色色	密 赤砂・砂粒	外周: 新築地ハケメー・壁ヘラミガキ、階部 新築地 内周: 埋砂層ヘラズリー、新築地ハケ メー	
132	埋砂中層	十和器 高坪	2/3	門径: 13.6 容高: 6.1 容積: 3.4	良	灰褐色	密 赤砂	外周: 新築地ハケメー・壁ヘラミガキ、階部 新築地 内周: 埋砂層ヘラズリー、新築地ハケ メー	
133	埋砂下層	十和器 高坪	2/3	門径: 13.6 容高: 5.7 容積: 8.3	良	灰褐色	密 赤砂・石莖	外周: 新築地ハケメー・壁ヘラミガキ、階部 新築地 内周: 埋砂層ヘラズリー、新築地ハケ メー	
134	埋砂上層	十和器 高坪	2/3	門径: 15.6 容高: 5.1 容積: 5.1	良好	暗褐色	密 赤砂・石莖	外周: 新築地ハケメー・壁ヘラミガキ、階部 新築地 内周: 埋砂層・壁ヘラミガキ、新築地ハ ケメー	
135	埋砂上層	十和器 高坪	2/3	門径: 13.3 容高: 4.5 容積: 3.6	良	灰褐色	密 石莖・赤砂	外周: 埋砂層・壁ヘラミガキ、新築地ハ ケメー 内周: 埋砂層・壁ヘラミガキ、新築地ハ ケメー	外周一部露出
136	埋砂下層	十和器 高坪	1/2	門径: 14.6 容高: 3.6	良好	暗褐色	密 赤砂・石莖	外周: 埋砂層・壁ヘラミガキ、新築地ハ ケメー 内周: 埋砂層・壁ヘラミガキ	
137	埋砂上層	十和器 高坪	7/8	門径: 16.4 容高: 5.0 容積: 4.6	良	灰褐色・暗 褐色	密 赤砂・石莖	外周: 埋砂層・壁ヘラミガキ、新築地ハ ケメー 内周: 埋砂層・壁ヘラミガキ、新築地ハ ケメー	外周一部露出
138	埋砂下層	十和器 高坪	1/3	門径: 12.9 容高: 5.0 容積: 6.0	良好	暗褐色	密 赤砂・石莖・ 白色砂	外周: 埋砂層・壁ヘラミガキ、新築地ハ ケメー 内周: 埋砂層・壁ヘラミガキ、新築地ハ ケメー	外周一部露出
139	埋砂上層	十和器 高坪	2/3	門径: 10.8 容高: 4.2 容積: 4.6	良	褐色	密 赤砂・砂粒	外周: 埋砂層・壁ヘラミガキ、新築地ハ ケメー 内周: 埋砂層ヘラミガキ、新築地ハ ケメー	内周埋砂層多量 付着
140	埋砂下層	十和器 高坪	12/12	門径: 15.8 容高: 4.3 容積: 4.5	良	褐色	密 赤砂・石莖	外周: 埋砂層・壁ヘラミガキ、新築地ハ ケメー 内周: 埋砂層ヘラミガキ、新築地ハ ケメー	内周露出ミム有
141	埋砂下層	十和器 高坪	2/3	門径: 16.5 容高: 3.0 容積: 3.6	良好	暗褐色	密 赤砂・石莖	外周: 埋砂層 内周: 埋砂層・壁ヘラミガキ、新築地ハ ケメー・埋砂層・壁ヘラミガキ	
142	埋砂上層	十和器 高坪	5/8	門径: 17.9 容高: 9.9 容積: 15.6	良	灰褐色	密 石莖・赤砂	外周: 埋砂層 内周: 埋砂層・壁ヘラミガキ、埋砂層・ 壁ヘラミガキ、埋砂層・壁ヘラミガキ	内周埋砂層へよ る露出
143	埋砂上層	十和器 高坪	2/3	門径: 18.1 容高: 9.9 容積: 35.3	良好	灰褐色	密 赤砂・石莖・ 砂粒	外周: 埋砂層 内周: 埋砂層・壁ヘラミガキ、埋砂層・ 壁ヘラミガキ、埋砂層・壁ヘラミガキ	内周埋砂層一部露 出
144	埋砂下層	十和器 高坪	1/4	容高: 6.9 容積: 15.2	良	暗褐色	密 赤砂・石莖・ 砂粒	外周: 埋砂層 内周: 埋砂層・壁ヘラミガキ、埋砂層・ 壁ヘラミガキ	
145	埋砂下層	十和器 高坪	5/8	門径: 17.4 容高: 9.6 容積: 15.3	良好	灰褐色	密 赤砂・石莖・ 砂粒	外周: 埋砂層 内周: 埋砂層・壁ヘラミガキ、埋砂層・ 壁ヘラミガキ	
146	埋砂下層	十和器 高坪	12/12	門径: 17.8 容高: 10.1 容積: 15.3	良好	暗褐色	密 赤砂・石莖・ 白色砂	外周: 埋砂層 内周: 埋砂層・壁ヘラミガキ、埋砂層・ 壁ヘラミガキ	
147	埋砂上層	十和器 高坪	定形	門径: 13.6 容高: 9.9 容積: 13.8	良好	暗褐色	密 赤砂・石莖・ 砂粒	外周: 埋砂層 内周: 埋砂層・壁ヘラミガキ、埋砂層・ 壁ヘラミガキ	
148	埋砂下層	十和器 高坪	12/12	門径: 17.2 容高: 9.3 容積: 15.4	良好	褐色	密 砂粒	外周: 埋砂層 内周: 埋砂層・壁ヘラミガキ、埋砂層・ 壁ヘラミガキ	
149	埋砂下層	十和器 高坪	12/12	門径: 18.5 容高: 9.9 容積: 15.1	良好	暗褐色	密	外周: 埋砂層 内周: 埋砂層・壁ヘラミガキ、埋砂層・ 壁ヘラミガキ	
150	埋砂下層	十和器 高坪	2/4	門径: 17.0 容高: 10.0 容積: 15.6	やや良	暗褐色	密 角閃石・赤砂・ 白色砂	外周: 埋砂層 内周: 埋砂層・壁ヘラミガキ、埋砂層・ 壁ヘラミガキ	
151	埋砂下層	十和器 高坪	期部	門径: 19.0 容高: 4.8	良	暗褐色	密	外周: 埋砂層 内周: 埋砂層・壁ヘラミガキ	内周一部露出
152	埋砂上層	十和器 高坪	期部	容高: 2.4 容積: 2.8	良	褐色	密 砂粒	外周: 埋砂層 内周: 埋砂層・壁ヘラミガキ	
153	埋砂中層	十和器 高坪	12/12	門径: 10.2 容高: 6.2 容積: 9.6	良好	褐色	密 赤砂・砂粒	外周: 埋砂層 内周: 埋砂層・壁ヘラミガキ	
154	埋砂下層	十和器 高坪	期部	容高: 7.6 容積: 11.0	良	灰白色	密 赤砂	外周: 埋砂層 内周: 埋砂層・壁ヘラミガキ	
155	埋砂中層	十和器 高坪	期部	門径: 17.8 容高: 10.0	良	暗褐色	密 角閃石・赤砂・ 砂粒	外周: 埋砂層 内周: 埋砂層・壁ヘラミガキ	
156	埋砂上層	十和器 高坪	期部	容高: 10.1 容積: 13.7	良	褐色	密 赤砂・砂粒	外周: 埋砂層 内周: 埋砂層・壁ヘラミガキ	
157	埋砂下層	十和器 高坪	期部	容高: 6.6 容積: 12.6	良	灰褐色	密 赤砂	外周: 埋砂層 内周: 埋砂層・壁ヘラミガキ	内外周一部露出
158	埋砂下層	十和器 高坪	期部	容高: 1.4 容積: 2.5	良	灰褐色	密 赤砂・石莖	外周: 埋砂層 内周: 埋砂層・壁ヘラミガキ	内周露出

159	埋砂下層	土塊	1/2	長さ: 4.2 幅: (4.3) 厚さ: (2.6) 重量: 2.5	やや長	灰褐色	密 石灰・白色鉄 ・赤色粒	重量: 34.7g
160	灰面直上	土塊	定形	長さ: 2.8 幅: 2.9	長	灰色	密	重量: 18.6g

第15表 2区SI04出土石器観察表 (第43図)

発物 No	遺構・地区 出土部位	種 類	産 状	出 量 (g)	構成	色 調	胎 土	備 考
161	埋砂上層	磨製石斧	破片	(50)	(19)	(24)	20.5 内砂粒	刃端内刃部
162	埋砂下層	石斧	1/2	(176)	(203)	43	203.6 白土粒	
163	埋砂上層	磨石	1/2	(96)	(87)	41	517.3 アイサイト	
164	埋砂下層	石鏃	定形	161	87	49	716.6 アイサイト	左打欠幅3mm・右打欠幅(45) mm
165	埋砂下層	石鏃	1/2	(113)	88	40	511.1 安山岩	左打欠幅3mm・右打欠幅3mm 側付差
166	埋砂下層	石鏃	定形	139	89	41	677.5 安山岩	左打欠幅3mm・右打欠幅3mm 側付差
167	埋砂上層	石鏃	定形	168	91	61	1130.2 アイサイト	左打欠幅3mm・右打欠幅45mm
168	埋砂下層	ハンマーストーン	定形	145	76	52	850.3 アイサイト	
169	埋砂上層	燧石	ほぼ定形	(183)	(113)	(92)	1636.1 燧石	
170	埋砂下層	燧石	ほぼ定形	77	72	35	36.6 燧石	
171	埋砂上層	燧石	1/2	(94)	38	(37)	25.1 燧石	

第16表 4区SI01出土石器観察表 (第45図)

発物 No	遺構・地区 出土部位	種 類	産 状	出 量 (g)	構成	色 調	胎 土	備 考	
1	埋砂中層	土器器 蓋	1/100 - 1/2	口径(13.0) 器高(14.6) 器径(23.2)	丸	褐色	密 雲母・石英 砂粒	外底: 口縁部ナメテ、各部縁・横ハケミ 内底: 口縁部ナメテ、体部縁ヘラケズリ	外底保存
2	埋砂下層	土器器 蓋	1/100 - 1/2	口径: 14.6 器高(13.2)	丸	灰褐色	密 雲母・砂粒	外底: 口縁部ナメテ、体部縁・横ハケミ→器縁部状況工具磨 破による凹凸を以て隠す 内底: 口縁部ナメテ、体部縁部縁部ヘラケズリ	外底保存
3	埋砂中層	土器器 小瓶丸底皿	1/100 - 1/2	口径(11.4) 器高(5.3)	丸	褐色	密 白色鉄・赤色 鉄・砂粒	外底: 口縁部縁部ナメテ、口縁部縁部ナメテ・横ハケミ 内底: 口縁部縁部ナメテ、器縁部ヘラケズリ	
4	埋砂中層	土器器 高杯	ほぼ 定形	口径: 15.9 器高(13.8) 器径: 11.3	丸	褐色	密 雲母・砂粒	外底: 口縁部縁部ナメテ、器縁部ヘラケズリ・横ハケミ、器 縁部ヘラミガキ 内底: 口縁部縁部ヘラミガキ、器縁部ヘラケズリ、器縁部 ハケミ 縦合部肉付状態、脚部三方肉付通し	内底裏面使用による 磨耗 脚部内底側・器縁 付差
5	埋砂中層	土器器 高杯	ほぼ 定形	口径(13.6) 器高(11.4) 器径(11.0)	丸	褐色	密 雲母・石英 砂粒	外底: 口縁部縁部ナメテ、器縁部ヘラミガキ、器縁部ヘ ラケズリ 内底: 口縁部縁部ヘラミガキ、器縁部ヘラケズリ、器縁部ヘ ラケミ 器縁部縁部縁部	
6	埋砂中層	土器器 高杯	ほぼ2/3	口径: 14.8 器高(5.6)	丸	褐色	密 雲母・砂粒	外底: 横ハケミガキ 内底: 横ハケミガキ・横ハケミガキ 縦合部肉付状態	
7	埋砂中層	土器器 高杯	ほぼ2/3	口径: 15.3 器高(5.7)	丸	褐色	密 雲母・石英 ・白色鉄	外底: 口縁部縁部ナメテ、器縁部ナメテ・横ハケミガキ 内底: 横ハケミガキ 縦合部肉付状態	
8	埋砂中層	土器器 高杯	ほぼ	口径: 16.1 器高(3.2)	丸	褐色	密	外底: 口縁部縁部ナメテ、器縁部縁部ヘラケズリ 内底: 横ハケミガキ 器縁部縁部縁部	外底保存
9	埋砂中層	土器器 高杯	ほぼ	口径(10.0) 器高(11.6)	丸	灰褐色	密 雲母・石英 砂粒	外底: 器縁部ヘラケズリ・横ハケミガキ 内底: 器縁部縁部縁部不明、器縁部ヘラケズリ、器縁部ヘ ラケミ 縦合部肉付状態、脚部三方肉付通し	
10	埋砂中層	土器器 小瓶器台	2/3	口径: 7.8 器高(11.2)	丸	褐色	密 白色鉄・赤色 鉄・砂粒	外底: 横ハケミガキ 内底: 器縁部縁部ヘラミガキ	

第17表 4区SI01出土石器観察表 (第45図)

発物 No	遺構・地区 出土部位	種 類	産 状	出 量 (g)	構成	色 調	胎 土	備 考
11	埋砂中層	石鏃	2/3	(112)	(83)	(27)	47.4 花崗岩	左打欠幅43mm・右打欠幅43mm

第18表 4区SI05出土石器観察表 (第46図)

発物 No	遺構・地区 出土部位	種 類	産 状	出 量 (g)	構成	色 調	胎 土	備 考	
1	埋砂上層	土器器 蓋	1/4	口径(15.0) 器高(15.0) 器径(17.4) 器径: 2.4	丸	灰褐色	密 雲母・石英 砂粒	外底: 口縁部縁部ナメテ、口縁部縁部状況工具による磨滅、器縁 部ヘラケミ、器縁部ナメテ 内底: 口縁部縁部ナメテ、器縁部ヘラケズリ	内底裏面付差
2	埋砂下層	土器器 蓋	1/100 - 1/3	口径(20.8) 器高(17.6) 器径(22.4)	丸	灰褐色	密 雲母・石英 砂粒	外底: 口縁部縁部ナメテ、口縁部縁部状況工具による磨滅・ナメテ、 器縁部縁部縁部不明、器縁部ヘラケミ 内底: 口縁部縁部ナメテ、器縁部ヘラケズリ	内底裏面以下層付 差
3	灰面直上	土器器 蓋	1/100 - 1/2	口径(19.0) 器高(4.2)	丸	褐色	密 砂粒	外底: 口縁部縁部ナメテ、口縁部縁部状況工具による磨滅・ナメテ 内底: 口縁部縁部ナメテ、器縁部以下ヘラケズリ	外底保存
4	埋砂下層	土器器 蓋	口縁部縁 部	口径(18.0) 器高(3.8)	丸	褐色	密 雲母・石英 砂粒	外底: 口縁部縁部ナメテ、口縁部縁部状況工具による磨滅・ナメテ 内底: 口縁部縁部ナメテ、器縁部以下ヘラケズリ	外底口縁部縁部付差
5	埋砂下層	土器器 蓋	口縁部縁 部	口径(18.6) 器高(6.2)	丸	褐色	密 雲母・石英 砂粒	外底: 口縁部縁部ナメテ 内底: 口縁部縁部ナメテ、器縁部以下ヘラケズリ	外底保存

6	埴砂中	十割器	高部	器高(152) 口径(20)	良	灰褐色	帝 帝砂粒	外面：ヘラズリ 内面：磨削面	外面内面付着
7	埴砂上層	十割器 注口十割	注口部	口径：20 注口径(68)	良	黄灰白色	帝 帝砂・石実・ 帝粒	外面：裏面方向のヘラズリ→ナガ 内面：注口ヘラズリ、体部ヘラズリ	
8	埴砂中下層	十割器 鉢	2/3	器高：60 口径(46)	良	灰褐色～黄 灰白色	帝 帝砂	外面：口縁部ヘラズリ、口縁部～体部間ヘラミダキ 内面：底ヘラミダキ	外面底面付着

第19表 4区SI02出土土器観察表(第48図)

遺物 No.	遺跡・地区 内土器位置	器種	部位 見本数	法 量 (cm)	焼成	色調	胎十	調査・文様	備考
1	埴砂下層	十割器 大口壺	破片	口径(127) 器高(53)	良	灰褐色	帝 帝砂・石実・ 帝粒	外面：口縁部ヘラズリ、肩部ヘラミ 内面：口縁部指図調整→ナガ、肩縁部ヘラズリ	外面一部内面以下 層付着
2	埴砂上層	土師器 土師鉢	1/3	口径(166) 器高(43)	良好	褐色	帝 帝砂	外面：縁ナガ 内面：口縁部横ナガ、腹部以下指図調整→ヘラズリ	外面一部内面以下 層付着
3	埴砂上層	土師器 土師鉢	1/3	口径(118) 器高(38)	良	褐色	帝 帝砂	外面：縁ナガ 内面：口縁部横ナガ、腹部以下指図調整→ヘラズリ	外面内面付着
4	埴砂上層	土師器 土師鉢	1/3	口径(196) 器高(51)	良	黄灰白色	帝 帝砂	外面：口縁部横ナガ、腹部以下指図調整→ヘラズリ 内面：口縁部横ナガ、腹部以下指図調整→ナガ、肩部以下指図調整→ナガ	外面底面付着
5	埴砂下層	土師器 土師鉢	1/3	口径(162) 器高(51)	良	灰褐色	帝 帝砂・石実・ 帝粒	外面：口縁部横ナガ→指図調整による底面調整→ナガ、肩部横 ナガ 内面：口縁部横ナガ、腹部以下指図調整→ナガ	外面内面付着
6	埴砂上層	土師器 土師鉢	1/3	口径(150) 器高(40)	やや良	灰褐色	帝 帝砂・石実・ 帝粒	外面：口縁部横ナガ、腹部以下指図調整→ナガ、肩部以下指 図調整→ナガ 内面：口縁部横ナガ、腹部以下指図調整→ナガ	外面内面以下層付 着
7	埴砂下層	土師器 土師鉢	1/2	口径(162) 器高(45)	良	灰褐色	帝 帝砂	外面：縁ナガ 内面：口縁部横ナガ、腹部以下指図調整→ナガ	外面内面付着
8	埴砂中	土師器 土師鉢	1/3	口径(148) 器高(63)	良	褐色	帝 帝砂・石実・ 帝粒	外面：口縁部横ナガ、口縁部横ナガによる底面調整→ナ ガ、肩部下層ヘラミダキ、腹部横ヘラミダキ 内面：口縁部横ナガ、腹部以下指図調整→ナガ	外面内面以下層付 着

第20表 4区SI03出土土器観察表(第50-51図)

遺物 No.	遺跡・地区 内土器位置	器種	部位 見本数	法 量 (cm)	焼成	色調	胎十	調査・文様	備考
1	埴砂下層	十割器 大口壺	破片	口径(78) 器高(104)	良	黄灰白色	帝 帝砂・石実・ 帝粒	外面：口縁部横ナガ、腹部以下指図調整→ナガ 内面：口縁部横ナガ、腹部指図調整→ナガ、肩部横ヘラズ リ	外面一部内面付 着
2	埴砂中層	土師器 土師鉢	1/3	口径(96) 器高(119)	良	褐色	帝 帝砂・石実・ 帝粒	外面：口縁部横ナガ、体部横ヘラミダキ 内面：口縁部横ナガ、腹部指図調整→ナガ、肩部横ヘラズ リ	外面内面付着
3	埴砂下層	土師器 土師鉢	1/3	口径(152) 器高(51)	良	灰褐色	帝 帝砂・石実・ 帝粒	外面：口縁部横ナガ、肩部指図調整→ヘラズリ 内面：口縁部横ナガ、腹部以下指図調整→ナガ	外面内面付着
4	埴砂下層	土師器 土師鉢	1/3	口径(128) 器高(49)	良	黄灰白色	帝 帝砂・石実・ 帝粒	外面：口縁部横ナガ、肩部指図調整による底面調整、 体部横ヘラミ 内面：口縁部横ナガ、腹部以下指図調整→ナガ	外面内面付着
5	埴砂中層	土師器 土師鉢	1/3	口径(163) 器高(287)	良	灰褐色	帝 帝砂・石実・ 帝粒	外面：口縁部横ナガ、肩部指図調整→ナガ、肩部以下指 図調整→ナガ 内面：口縁部横ナガ、腹部以下指図調整→ナガ	外面内面付着
6	埴砂中層	土師器 土師鉢	1/3	口径(158) 器高(229)	良	黄灰白色	帝 帝砂・石実・ 帝粒	外面：口縁部横ナガ、肩部横ヘラミ、肩部調整工具使 用による底面調整 内面：口縁部横ナガ、肩部横ヘラズリ、肩部下指 図調整→ナガ	外面内面付着
7	埴砂下層	土師器 土師鉢	1/3	口径(144) 器高(215)	良	灰褐色	帝 帝砂・石実・ 帝粒	外面：口縁部横ナガ、体部横ヘラミ、肩部調整工具使 用による底面調整 内面：口縁部横ナガ、腹部指図調整→ナガ、肩部下指 図調整→ナガ	外面内面付着
8	埴砂中層	土師器 土師鉢	1/3	口径(150) 器高(222)	良	黄灰白色	帝 帝砂	外面：口縁部横ナガ、肩部横ヘラミ、肩部調整工 具使用による底面調整 内面：口縁部横ナガ、腹部指図調整→ナガ、肩部下指 図調整→ナガ	外面内面付着
9	埴砂下層	土師器 土師鉢	1/3	口径(163) 器高(247)	やや良	灰褐色	帝 帝砂・石実・ 帝粒	外面：口縁部横ナガ、肩部横ヘラミ、肩部調整工 具使用による底面調整 内面：口縁部横ナガ、腹部指図調整→ナガ、肩部下指 図調整→ナガ	外面内面付着
10	埴砂下層	土師器 土師鉢	1/3	口径(140) 器高(223)	良	黄灰白色	帝 帝砂・石実・ 帝粒	外面：口縁部横ナガ、肩部横ヘラミ、肩部調整工 具使用による底面調整 内面：口縁部横ナガ、腹部指図調整→ナガ、肩部下指 図調整→ナガ	外面内面付着
11	埴砂中層	土師器 土師鉢	1/3	口径(128) 器高(202)	やや良	黄灰白色	帝 帝砂	外面：口縁部横ナガ、肩部横ヘラミ、肩部調整工 具使用による底面調整 内面：口縁部横ナガ、腹部指図調整→ナガ、肩部下指 図調整→ナガ	外面内面付着
12	埴砂下層	土師器 土師鉢	1/3	口径(132) 器高(190)	良	褐色	帝 帝砂・石実・ 帝粒	外面：口縁部横ナガ、肩部横ヘラミ、肩部調整工 具使用による底面調整 内面：口縁部横ナガ、腹部指図調整→ナガ、肩部下指 図調整→ナガ	外面内面付着
13	埴砂下層	土師器 土師鉢	1/3	口径(162) 器高(132)	良好	褐色	帝 帝砂・石実・ 帝粒	外面：口縁部横ナガ、肩部横ヘラミ、肩部調整工 具使用による底面調整 内面：口縁部横ナガ、腹部指図調整→ナガ、肩部下指 図調整→ナガ	外面内面付着
14	埴砂下層	土師器 土師鉢	1/3	口径(86) 器高(127)	良	灰褐色～黄 灰白色	帝 帝砂・石実・ 帝粒	外面：口縁部横ナガ、肩部横ヘラミ、肩部調整工 具使用による底面調整 内面：口縁部横ナガ、腹部指図調整→ナガ、肩部下指 図調整→ナガ	外面内面付着
15	埴砂下層	土師器 土師鉢	1/3	口径(254) 器高(165)	良	灰褐色	帝 帝砂・石実・ 帝粒	外面：口縁部横ナガ、肩部横ヘラミ、肩部調整工 具使用による底面調整 内面：口縁部横ナガ、腹部指図調整→ナガ、肩部下指 図調整→ナガ	外面内面付着
16	埴砂下層	土師器 土師鉢	1/3	口径(71) 器高(71)	良	黄灰白色	帝 帝砂・石実・ 帝粒	外面：口縁部横ナガ、肩部横ヘラミ、肩部調整工 具使用による底面調整 内面：口縁部横ナガ、腹部指図調整→ナガ、肩部下指 図調整→ナガ	外面内面付着
17	埴砂下層	土師器 土師鉢	1/3	口径(163) 器高(87)	良	褐色	帝 帝砂・石実・ 帝粒	外面：口縁部横ナガ、肩部横ヘラミ、肩部調整工 具使用による底面調整 内面：口縁部横ナガ、腹部指図調整→ナガ、肩部下指 図調整→ナガ	外面内面付着

18	埋砂下層	土師器 甕	口縁部 1/3	口径(154) 器高(45)	真	褐色	赤 砂粒	外周: 滑ナテ 内面: 口縁部滑ナテ、胴部以下滑ヘラズリナテ	外周縁付着
19	埋砂下層	土師器 甕	底部 破片	器高(27)	真好	黒褐色	赤 黄赤・石灰 砂粒	外周: 丸縁部による連続的欠文 内面: 滑ヘラズリナテ	
20	埋砂下層	土師器 高杯	1/8	口径(32.2) 器高(6.5)	真	黄灰白色	赤 黄赤・石灰 砂粒	外周: 口縁部縮短ナテ、杯部縮短ヘラズリナテ 内面: 杯部縮短ヘラズリナテ	
21	埋砂下層	土師器 高杯	胴部	口径(7.1) 器高(11.0)	真	黄灰白色	赤 黄赤・石灰 砂粒	外周: 滑ナテ 内面: 杯部縮短ヘラズリナテ、縮短部滑ナテ滑ヘラズリナテ	
22	埋砂下層	土師器 低脚杯	口形	口径(11.9) 器高(5.3) 底径(6.1)	真	黄灰白色	赤 砂粒	外周: 丸縁部ヘラズリナテ、縮短部ナテ 内面: 杯部縮短、縮短部ナテ	
23	埋砂下層	土師器 低脚杯	口形	口径(10.2) 器高(7.0) 底径(5.6)	真	黄灰白色	赤 黄赤・石灰 白色砂粒	外周: 丸縁部縮短部一線ヘラズリナテ、縮短部ナテ 内面: 口縁部縮短部ナテ、杯部縮短ヘラズリナテ、縮短部ヘラズリナテ	
24	埋砂下層	土師器 低脚杯	口形	口径(14.3) 器高(6.8) 底径(6.6)	真	黄灰白色	赤 黄赤・石灰 砂粒	外周: 口縁部縮短部ナテ、杯部縮短部一線縮短ヘラズリナテ、縮短部ナテ 内面: 杯部縮短ヘラズリナテ、縮短部ヘラズリナテ	
25	埋砂下層	土師器 低脚杯	口形	口径(20.6) 器高(10.5) 底径(18.2)	真好	黄褐色	赤 黄赤・石灰 砂粒	外周: 滑ナテ 内面: 交配部一線ヘラズリナテ、縮短部半線ヘラズリナテ、縮短部半線ナテ	
26	埋砂下層	土師器 低脚杯	口形	口径(20.9) 器高(11.1) 底径(19.2)	真	褐色	赤 黄赤・石灰 砂粒	外周: 滑ナテ 内面: 交配部一線ヘラズリナテ、接合部ナテ、縮短部半線ヘラズリナテ、縮短部半線ナテ	交配部内面・縮短部内面保存
27	埋砂下層	土師器 低脚杯	口形	口径(20.8) 器高(11.6) 底径(19.4)	真	黄褐色	赤 黄赤・石灰 砂粒	外周: 滑ナテ 内面: 交配部一線ヘラズリナテ、接合部ヘラズリナテ、縮短部半線ヘラズリナテ、縮短部半線ナテ	縮短部内面ヘラズリによる差別

第21表 4区SI03出土石器観察表(第51図)

遺物No	遺跡・地区 出土層位	種別	遺存状態	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	材質	備考
28	埋砂下層	磁石	1/2	(73)	(57)	(56)	2079	珪石	

第22表 4区SI04出土石器観察表(第53図)

遺物No	遺跡・地区 出土層位	種別	部位 現存率	法 量 (cm)	形状	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂下層	土師器 甕	口縁部	口径(24.6) 器高(9.9)	真	緑褐色	肉内石・白色 粒	外周: 口縁部縮短ナテ、口縁部縮短工具による黄褐色・黄褐色文・凹線上下2個半段の付着文、底部以下滑ヘラズリ 内面: 口縁部ナテ、縮短部以下ヘラズリ	
2	埋砂下層	土師器 甕	口縁部	口径(16.6) 器高(6.7)	真	緑褐色	赤	外周: 口縁部縮短ナテ、口縁部縮短工具による黄褐色文 内面: 口縁部縮短ナテ、縮短部以下ヘラズリ	
3	埋砂下層	土師器 甕	口縁部 破片	口径(14.2) 器高(3.4)	真	黄褐色	赤 黄赤・石灰 砂粒	外周: 口縁部縮短ナテ 内面: 口縁部縮短ナテ、縮短部以下ヘラズリ	外周縁付着
4	埋砂下層	土師器 甕	口形	口径(14.3) 器高(20.6) 胴径(19.1)	真	黄灰白色	赤 黄赤・石灰 砂粒	外周: 丸縁部ナテ、縮短部以下滑ヘラズリ 内面: 口縁部縮短ナテ、杯部縮短ヘラズリナテ、杯部縮短部一線ヘラズリナテ	杯部縮短部付着孔 全面保存
5	埋砂中層	土師器 甕	口縁部 1/3	口径(13.6) 器高(16.3)	真	褐色	赤 砂粒	外周: 口縁部一線滑ナテ、滑ナテ縮短工具による黄褐色文、杯部上半線ヘラズリ、下半線ヘラズリ 内面: 口縁部縮短ナテ、杯部縮短ヘラズリ	外周縁付着
6	埋砂下層	土師器 甕	口縁部 1/3	口径(19.4) 器高(11.0)	真	灰褐色	赤 石灰・砂粒	外周: 口縁部一線滑ナテ、滑ナテ縮短工具による黄褐色文・凹線文、杯部縮短ヘラズリ 内面: 口縁部縮短ナテ、杯部縮短ヘラズリ	
7	埋砂下層	土師器 甕	口縁部 破片	口径(16.2) 器高(4.1)	真	灰褐色	赤 砂粒	外周: 口縁部縮短ナテ、口縁部縮短工具による黄褐色文・凹線文 内面: 口縁部縮短ナテ、杯部縮短ヘラズリ	全面保存
8	埋砂下層	土師器 甕	口縁部 1/8	口径(17.0) 器高(2.5)	真	灰褐色	赤 砂粒	外周: 口縁部縮短ナテ、口縁部縮短工具による黄褐色文・凹線文 内面: 口縁部縮短ナテ、杯部縮短ヘラズリ	外周保付着
9	埋砂下層	土師器 甕	底部1/4	器高(3.6) 底径(2.0)	真	灰褐色	赤	外周: 杯部縮短ヘラズリ、縮短部ナテ 内面: 縮短部ヘラズリ	
10	埋砂下層	土師器 高杯	杯部1/2	口径(9.7) 器高(7.7)	真	褐色	赤 砂粒	外周: 杯部縮短部一線ヘラズリナテ、縮短部ヘラズリナテ 内面: 口縁部縮短ヘラズリナテ、杯部縮短部一線ヘラズリナテ	プランテラグラス
11	埋砂下層	土師器 高脚杯	杯部 破片	器高(4.8) 底径(1.6)	真	褐色	赤 石灰	外周: 杯部縮短部一線ヘラズリナテ、縮短部縮短ナテ 内面: 杯部縮短部一線ヘラズリナテ	杯部縮短部ナテ
12	埋砂中層	土師器 高脚杯	杯部	器高(3.0) 底径(5.4)	真	黄褐色	赤 黄赤・石灰 砂粒	外周: 滑ナテ 内面: 杯部縮短部一線縮短部ナテ	杯部縮短部ナテ
13	埋砂下層	土師器 高脚杯	杯部 1/8	口径(20.4) 器高(4.7)	真	褐色	赤 黄赤・砂粒	外周: 口縁部縮短部一線縮短部ナテ 内面: 滑ヘラズリ	杯部縮短部ナテ

第23表 4区SI04出土石器観察表(第53図)

遺物No	遺跡・地区 出土層位	種別	遺存状態	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	材質	備考
14	埋砂下層	磁石	1/2	124	82	70	6617	珪石	破片
15	埋砂下層	磁石	1/2	190	106	64	17500	ダイヤモンド	破片付
16	埋砂下層	磁石	1/2	282	138	127	20900	ダイヤモンド	破片付

第24表 5区SI01出土石器観察表(第55図)

遺物No	遺跡・地区 出土層位	種別	部位 現存率	法 量 (cm)	形状	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂下層	土師器 甕	口縁部 1/4	口径(17.5) 器高(8.0)	真好	褐色	赤 肉内石・白色 粒	外周: 口縁部縮短ナテ 内面: 口縁部縮短ナテ、縮短部縮短部、縮短部ヘラズリ	内周縁付着

2	埋跡中	土師器 灰門蓋	口径約 1/5	LJH( 80) 容積( 68)	良好	褐色	角閃石・白色 雲 霞	外周：口縁部縁・縦ヘラミガキ、脚部ナテ 内周：口縁部縁一縦ヘラミガキナ	
3	埋跡中	土師器 直口蓋	口径約 1/4	LJH(102) 容積(102)	良好	褐色	角閃石・石英 ・灰色砂・小 石粒	外周：口縁部縁・横ヘラミガキ、脚部ナテ、底部下 半縦ヘラミガキ 内周：口縁部縁部縁ナテ→縦ヘラミガキ、底部ナテ、 底部下半縦ヘラミガキ	
4	灰田直上	土師器 直口蓋	口径一編 約2/3	LJH(245) 容積(120)	良好	褐色	雲 霞・小石粒	外周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテ 内周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテナリ	
5	灰田直上	土師器 直口蓋	破片	口径(194) 容積(104)	良好	褐色	角閃石・白色 雲	外周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテ 内周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテナリ	
6	埋跡ト幕	土師器 直口蓋	破片	口径(216) 容積( 96)	良好	褐色	雲 ・黒石・石英 ・白色砂・小石 粒	外周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテ 内周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテナリ	
7	灰田直上	土師器 直口蓋	破片	口径(172) 容積( 73)	良好	褐色	雲 ・角閃石・白色 雲	外周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテ 内周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテナリ	二次焼成?
8	灰田直上	土師器 直口蓋	破片	口径(162) 容積( 80)	良好	褐色	雲 ・角閃石・白色 雲	外周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテ 内周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテナリ	外周口縁部 窪窪 付着
9	灰田直上	土師器 直口蓋	破片	口径( 54) 容積( 80)	良好	褐色	雲 ・石・白色砂	外周：口縁部縁ナテ 内周：口縁部縁ナテナリ	外周基部縁部
10	埋跡中	土師器 直口蓋	破片	LJH(159) 容積( 90) 容積(130)	良好	褐色	雲 ・石・白色砂	外周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテ 内周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテナリ	
11	埋跡下層	土師器 直口蓋	破片	容積( 53) 容積(114)	良好	褐色	雲 ・角閃石・白色 雲	外周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテ 内周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテナリ	
12	埋跡下層	土師器 直口蓋	破片	容積( 28) 容積( 80)	良好	褐色	雲 ・角閃石・白色 雲	外周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテ 内周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテナリ	
13	埋跡中	土師器 直口蓋	破片	口径( 78) 容積( 93) 容積(140)	中々良好	褐色	雲	外周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテ、底部下平直 ヘラミガキナ 内周：口縁部縁ナテ	
14	埋跡中	土師器 直口蓋	破片	口径( 85) 容積( 34)	良好	褐色	雲 ・白色砂	外周：口縁部縁ナテ 内周：口縁部縁ナテ	外周基部縁部
15	埋跡中	土師器 直口蓋	破片	容積( 65) 容積( 95)	良好	褐色	雲	外周：口縁部縁ナテ、口縁部縁ナテ 内周：口縁部縁ナテ、口縁部縁ナテナリ	
16	埋跡直上	土師器 直口蓋	破片	容積( 63) 容積( 95)	良好	褐色	雲 ・白色砂	外周：口縁部縁ナテ、口縁部縁ナテ 内周：口縁部縁ナテ、口縁部縁ナテナリ	
17	埋跡中	土師器 直口蓋	破片	容積(131) 容積(244) 容積( 98)	良好	褐色	雲 ・角閃石・白色 雲	外周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテ、口縁部縁ナテ 内周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテナリ	外周基部縁部
18	埋跡中	土師器 直口蓋	破片	容積( 53) 容積( 94)	良好	褐色	雲 ・白色砂	外周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテ 内周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテナリ	
19	埋跡中	土師器 直口蓋	破片	口径(158) 容積( 30)	良好	褐色	雲 ・白色砂	外周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテ 内周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテナリ	
20	埋跡直上	土師器 直口蓋	破片	口径(136) 容積( 43) 容積( 38)	良好	褐色	雲 ・白色砂	外周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテ、底部下平直 ヘラミガキナ 内周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテナリ	
21	埋跡直上	土師器 直口蓋	破片	口径(126) 容積( 47) 容積( 57)	良好	褐色	雲 ・白色砂	外周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテ、底部下平直 ヘラミガキナ 内周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテナリ	
22	埋跡直上	土師器 直口蓋	破片	LJH(113) 容積( 48)	良好	褐色	雲 ・白色砂	外周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテ、底部下平直 ヘラミガキナ 内周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテナリ	内周基部縁部
23	埋跡直上	土師器 直口蓋	破片	口径(113) 容積( 39) 容積( 34)	良好	褐色	雲 ・白色砂	外周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテ、底部下平直 ヘラミガキナ 内周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテナリ	外周基部縁部 内周基部縁部

第25表 5区SI01出土金属製品観察表(第56図)

遺物 No.	遺構・地区 出土位置	種類	部位 形状	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量度	メタル度	ランク	重量 (g)	備考
24	埋跡中層	刀子	1/2	鉄	45(96) 40(30) 35(29)	7	2	4	酸化(△)	2	23	
25	埋跡中	鎌?	方型	鉄	21	22	2	3	酸化(△)	—	27	
29	灰田直上	鉄製鉄片	ほぼ方形	鉄	64	66	15	2	—	—	50.3	

第26表 5区SI01出土石器観察表(第56図)

遺物 No.	遺構・地区 出土位置	種類	部位 形状	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考
26	埋跡直上	刮削	直口蓋	燧石	78	31	23	87.2	燧石	
27	埋跡直上	石錘	方形	燧石	129	90	62	911.6	燧石	左行欠幅35mm・右行欠幅30mm
28	埋跡直上	石錘	方形	燧石	114	75	44	492.0	燧石	左行欠幅35mm・右行欠幅45mm

第27表 5区SI02出土土器観察表(第58図)

遺物 No.	遺構・地区 出土位置	種類	部位 形状	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	陶器・文様	備考
1	埋跡中	土師器 直口蓋	口径一編 約1/2	土師器	口径(128) 容積(135.3) 容積(302)	良好	褐色	雲 ・角閃石・石英 ・砂粒	外周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテ 内周：口縁部縁ナテ、脚部縁ナテナリ	

2	埴砂中層	土器群 Ⅰ/3	口徑(20.4) 器高(8.4)	黒	褐色	雲 雲母・砂粒	外面：横ナテ 内面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ	灰砂 口縁部・腹部付着
3	埴砂中	土器群 Ⅰ/4	口徑(15.8) 器高(6.7)	黒	褐色	雲 雲母・砂粒	外面：横ナテ 内面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ、肩部横ナテ	内面二次焼成
4	埴砂中	土器群 Ⅰ/5	口徑(12.0) 器高(12.2)	黒	黄灰白色	雲 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナテ、腹部以下横ナテ、肩部筋状 下縁部による列点文 内面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ	
5	埴砂中	土器群 Ⅰ/6	口徑(13.0) 器高(12.6)	黒	褐色	雲 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナテ、腹部横ナテ、肩部筋状ハナメ 下部ハナメ 内面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ	外面下部付着
6	埴砂中	土器群 Ⅰ/7	口徑(13.8) 器高(9.4)	黒	黄褐色	雲 雲母・砂粒	外面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ、横ナテによる筋面 文 内面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ	外面下部付着
7	埴砂中層	土器群 Ⅰ/8	口徑(17.0) 器高(7.3)	黒	褐色	雲 雲母・砂粒	外面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ、肩部筋面横ナテ 内面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ	
8	埴砂中	土器群 Ⅰ/9	口徑(16.4) 器高(7.5)	黒	黄灰白色	雲 雲母・石英・ 白色粒・砂粒	外面：口縁部横ナテ、腹部筋状工具による点線文 内面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ	
9	埴砂中	土器群 Ⅰ/10	口徑(15.0) 器高(6.7)	黒	褐色	雲 雲母・砂粒	外面：口縁部横ナテ、腹部筋状工具による点線文 内面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ	外面下部付着
10	埴砂中層	土器群 Ⅰ/11	口徑(14.4) 器高(10.2)	黒	褐色	雲 雲母・砂粒	外面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ、肩部筋状工具 による点線文 内面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ	外面下部付着
11	埴砂中	土器群 Ⅰ/12	口徑(15.4) 器高(5.9)	黒	黄灰白色	雲 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ 内面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ	
12	埴砂下層	土器群 Ⅰ/13	口徑(13.2) 器高(6.5)	黒	褐色	雲 雲母・石英・ 白色粒・砂粒	外面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ 内面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ	外面筋状工具付 外面口縁部筋状付着
13	埴砂中層	土器群 Ⅰ/14	口徑(10.3) 器高(6.7)	黒	褐色	雲 雲母・砂粒	外面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ、肩部筋状ハナメ による列点文 内面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ	外面下部付着
14	埴砂中層	土器群 小瓦丸型	口徑：7.0 器高：7.5 厚径：8.9	黒	褐色	雲 雲母・白色粒・ 砂粒	外面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ 内面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ	
15	埴砂中層	土器群 高坪	口徑(14.8) 器高(11.4) 器底(11.0)	黒	黄褐色	雲 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ、肩部筋状ハナメ による列点文 内面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ	
16	埴砂中層	土器群 高坪	口徑(16.1) 器高(5.3)	黒	褐色	雲 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ、肩部筋状ハナメ による列点文 内面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ	
17	埴砂中層	土器群 高坪	口徑(15.0) 器高(5.3)	黒	黄褐色	雲 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ、肩部筋状ハナメ による列点文 内面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ	内外面下部付着
18	埴砂中	土器群 高坪	口徑(18.0) 器高(4.2)	黒	褐色	雲 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ、肩部筋状ハナメ による列点文 内面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ	内外面下部付着
19	埴砂中	土器群 高坪	口徑(12.8) 器高(3.5)	黒	黄灰白色	雲 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ、肩部筋状ハナメ による列点文 内面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ	
20	埴砂中	土器群 高坪	口徑(4.0) 器高(5.1)	黒	黄褐色	雲 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ、肩部筋状ハナメ による列点文 内面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ	内外面下部付着
21	埴砂中層	土器群 高坪	口徑(4.0) 器高(6.7)	黒	黄灰白色	雲 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ、肩部筋状ハナメ による列点文 内面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ	内外面下部付着

第28表 5区SI02出土金属製品観察表(第59回)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	種類	部位 形状	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	総重量	メタル度	ランク	重量(g)	備考
22	埴砂中	刀子?	L2	鉄	全長(46) 刃部(30) 基部(10)	刃部: 8 基部: 4	刃部② 基部 2	3	錆化(△)	—	27	
23	埴砂下層	鏃	方形	鉄	110	24	2	6	錆化(△)	5	262	

第29表 5区SI02出土石器観察表(第59回)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	種類	存在状態	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石材	備考
24	埴砂中	石鏃	変形	13	8	5	60.8	チャイナイト	左刃欠損20mm 右刃欠損35mm

第30表 5区SI03出土石器観察表(第61回)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	種類	部位 形状	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	色調	粘土	備考・文様	備考
1	埴砂中層	土師器 甕	口縁部 器高(11.3)	黒	灰褐色	雲 砂粒	外面：口縁部横ナテ、腹部筋状ハナメによる点線文、腹部筋状ハナメによる筋面横ナテ、肩部筋状ハナメによる列点文 内面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ					
2	埴砂中	土師器 甕	口縁部 器高(4.5)	黒	黄褐色	雲 砂粒	外面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ、肩部筋状ハナメによる列点文 内面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ	内外面下部付着				
3	埴砂中	土師器 小瓦丸型	口径(9.6) 器高(4.8)	黒	黄褐色	雲 砂粒	外面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ、肩部筋状ハナメによる列点文 内面：口縁部横ナテ、腹部筋面横ナテ	外面下部付着				

4	P04-15- 埋砂中	土師器 高杯	杯口1/4	口径(25.0) 器高(5.2)	丸	褐色	赤 磁器・磁彩	外底：横ナテ 式型：横ヘラミギキ	内外両面付着
5	埋砂直上	土師器 煎餅鉢白	杯口 1/2	口径(4.5)	丸	灰白色	青 磁	外底：口縁部横ヘラケム、胴部横ヘラミギキ 内底：口縁部横ヘラミギキ、底部下半横ヘラケズリ	内面赤彩

第31表 5区SI03出土金属製品観察表(第61回)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	器種	部位 残存率	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	メタル度	ランク	重量(g)	備考
6	埋砂中	鉄鍔	刃部	鉄	25	3	1	3	強化(△)	5	17	刃部角破壊
7	埋砂中	鉄杖不明品	一	鉄	5(2)	5	3	1	強化(△)	3	106	

第32表 5区SI04出土土器観察表(第63回)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法 量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂中層	土師器 高杯	口縁一帯 部1/6	口径(12.4) 器高(4.0)	丸	灰褐色	赤 石灰・白色粒	外底：口縁部横ナテ、胴部横ヘラメー横ナテ工具による痕状文 内底：口縁部横ナテ、胴部横ヘラケズリ	
2	埋砂中層	土師器 煎餅鉢	2/3	口径(14.0) 器高(2.1) 口径(20.0)	丸	灰褐色	赤 白土・ 白色粒	外底：口縁部横ナテ、胴部横ヘラケム、青磁縁状工具跡 により列状文 内底：口縁部横ナテ、底部下半横ナテ	外両面付着
3	埋砂中層	土師器 煎餅鉢	2/3	口径(13.6) 器高(1.25) 口径(13.9)	丸	灰褐色	赤 赤白・青 白色粒	外底：口縁部横ナテ、胴部横ヘラメー 内底：口縁部横ナテ、底部横ナテ	外両面付着
4	埋砂中層	土師器 煎餅鉢	口縁1/2	口径(16.4) 器高(6.4)	丸	灰褐色	赤白・青 白色粒	外底：口縁部横ヘラケム、胴部横ナテ、胴部横ナテ工具による 痕状文 内底：口縁部横ナテ、底部横ナテ	
5	埋砂中層	土師器 煎餅鉢	口縁部	口径(14.8) 器高(5.5)	丸	灰褐色	赤 赤白・青 白色粒	外底：口縁部横ナテ、胴部横ナテ 内底：口縁部横ナテ、底部横ナテ	黒染
6	埋砂直上層	土師器 小煎餅鉢	口縁一帯 部3/3	口径(13.8) 器高(6.1)	丸	灰褐色	赤 赤白・青 白色粒	外底：口縁部横ナテ、胴部横ヘラミギキ 内底：口縁部横ナテ、底部横ナテ	
7	埋砂中層	土師器 高杯	杯口部 部3/3	口径(4.7) 器高(11.2)	丸	灰褐色	赤 赤白・青 白色粒	外底：口縁部横ナテ、胴部横ナテ 内底：口縁部横ナテ、底部横ナテ	
8	埋砂中層	土師器 高杯	杯口部 部5/8	口径(13.9) 器高(10.9) 口径(10.4)	丸	灰褐色	赤 赤白・青 白色粒	外底：口縁部横ナテ、胴部横ナテ 内底：口縁部横ナテ、底部横ナテ	内外面・胴部付着
9	埋砂中層	土師器 煎餅鉢	脚部	口径(2.0) 器高(2.6)	丸	黄灰白色	赤 赤白・青 白色粒	外底：口縁部横ナテ 内底：口縁部横ナテ、底部横ナテ	
10	埋砂中層	土師器 煎餅鉢	脚部	口径(3.3) 器高(2.2)	今半丸	灰色	赤 赤白・青 白色粒	外底：口縁部横ナテ 内底：口縁部横ナテ、底部横ナテ	二次焼成
11	埋砂中層	土師器 煎餅鉢	全部	口径(30.9) 器高(6.0)	丸	黄灰白色	赤 赤白・青 白色粒	外底：口縁部横ナテ、胴部横ナテ 内底：口縁部横ナテ、底部横ナテ	内面赤彩
13	埋砂直上層	土師器 煎餅鉢	口縁部	口径(28.6) 口径(23.6)	丸	黄灰白色	赤 赤白・青 白色粒	外底：口縁部横ナテ、胴部横ナテ 内底：口縁部横ナテ、底部横ナテ	内両面付着

第33表 5区SI04出土石器観察表(第63回)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	器種	遺存状態	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石材	備考
12	埋砂中層	刀子	全形	83	28	8	11.9	緑石	

第34表 5区SI05出土土器観察表(第65回)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法 量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂直上層	土師器 煎餅鉢	口縁一帯 部1/4	口径(29.6) 器高(14.3)	丸	褐色	赤 赤白・青 白色粒	外底：口縁部横ナテ、胴部横ヘラミギキ 内底：口縁部横ナテ、胴部横ナテ	外両面付着
2	埋砂中層	土師器 煎餅鉢	口縁部	口径(20.0) 器高(6.6)	丸	褐色	赤 赤白・青 白色粒	外底：口縁部横ナテ、胴部横ナテ 内底：口縁部横ナテ、底部横ナテ	内両面付着
3	埋砂直上層	土師器 煎餅鉢	口縁部	口径(18.6) 器高(10.6)	丸	褐色	赤 赤白・青 白色粒	外底：口縁部横ナテ、胴部横ナテ 内底：口縁部横ナテ、底部横ナテ	内両面付着
4	埋砂中層	土師器 煎餅鉢	口縁部	口径(5.4) 器高(5.6)	丸	褐色	赤 赤白・青 白色粒	外底：口縁部横ナテ、胴部横ナテ 内底：口縁部横ナテ、底部横ナテ	内両面付着
5	埋砂中層	土師器 煎餅鉢	口縁部	口径(12.4) 器高(4.0)	丸好	青灰色	赤 赤白・青 白色粒	外底：口縁部横ナテ、胴部横ナテ 内底：口縁部横ナテ、底部横ナテ	
6	埋砂中層	土師器 煎餅鉢	口縁部	口径(12.2) 器高(4.1) 口径(6.5)	丸好	青灰色	赤 赤白・青 白色粒	外底：口縁部横ナテ、胴部横ナテ 内底：口縁部横ナテ、底部横ナテ	外両面付着
7	埋砂直上層	土師器 煎餅鉢	口縁部	口径(12.6) 器高(5.9)	丸好	青灰色	赤 赤白・青 白色粒	外底：口縁部横ナテ、胴部横ナテ 内底：口縁部横ナテ、底部横ナテ	

第35表 5区SI06出土土器観察表(第67回)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法 量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂中層	土師器 煎餅鉢	口縁部	口径(18.0) 器高(15.7)	丸	灰褐色	赤 赤白・青 白色粒	外底：口縁部横ナテ、胴部横ナテ 内底：口縁部横ナテ、底部横ナテ	内外両面付着
2	埋砂中層	土師器 煎餅鉢	口縁部	口径(16.0) 器高(5.5)	丸	褐色	赤 赤白・青 白色粒	外底：口縁部横ナテ、胴部横ナテ 内底：口縁部横ナテ、底部横ナテ	黒染
3	埋砂中層	土師器 煎餅鉢	口縁部	口径(12.6) 器高(5.5)	丸	褐色	赤 赤白・青 白色粒	外底：口縁部横ナテ、胴部横ナテ 内底：口縁部横ナテ、底部横ナテ	

第36表 5区SI06出土金属製品観察表(第67図)

遺物No.	遺種・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	断面形状	メタル色	ラック	重量(g)	備考
4	埋砂中層	刀子	13(12)形	鉄	全長(12) 刃長(6)	刃幅:13 茎幅:7	刃厚:4 茎厚:3	6	緑化(△)	5	11A	

第37表 5区SI07出土土器観察表(第69図)

遺物No.	遺種・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	断面形状	メタル色	ラック	重量(g)	備考
1	埋砂下層	土師器 灰白土	破片	13(124) 器高(47)	丸	褐色	器	外面:口縁部破片ナシ。器部縁状瓦片による直線文 内面:横ヘラミガキ				外周断面凸
2	埋砂中層	土師器 赤土	破片	L1(192) 器高(53)	丸	褐色	器	外面:L1部破片ハナメノテ。口縁下半以下横ナテ 内面:L1部破片ハナメノテ。器部下半横ヘラミガキ				外周一部破片付
3	埋砂中層	土師器 赤土	L1(159) 器高(129)	丸	褐色	器	外面:L1部破片ナシ。器部縁・横ハナメ 内面:口縁部破片ナシ。体部横ヘラミガキ					外周縁部一部破片付
4	埋砂中層	土師器 赤土	L1(130) 器高(77)	丸	褐色	器	外面:口縁部破片ナシ。口縁部瓦片状による直線文。器 部以下横ヘラミガキ一帯以下瓦片による直線文の作 用。其成器部による斜線文 内面:横ヘラミガキ					外周断面凸
5	埋砂中層	土師器 赤土	体部破片	器高(28)	丸	褐色	器	外面:横ヘラミガキ一帯以下瓦片による直線文。口縁部 直線文。口縁部 内面:横ヘラミガキ				外周断面凸
6	埋砂上層	土師器 赤土	破片	L1(136) 器高(53)	丸	灰褐色	器	外面:口縁部破片ナシ。器部下半横ヘラミガキ 内面:口縁部破片ナシ				
7	埋砂上層	土師器 赤土	器高(62)	丸	灰褐色	器	外面:L1部破片ナシ。体部横ヘラミガキ 内面:横ヘラミガキ					外周口縁部一部破片付
8	埋砂下層	土師器 赤土	2/3	L1(131) 器高(130) 器高(203)	丸	灰褐色	器	外面:L1部破片ハナメノテ。横ヘラミガキ 内面:L1部破片ハナメノテ。器部縁・横ヘラミガキ。器部 縁・横ヘラミガキ				外周口縁部一部破片付

第38表 5区SI07出土金属製品観察表(第69図)

遺物No.	遺種・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	断面形状	メタル色	ラック	重量(g)	備考
9	埋砂下層	小刀	13(12)形	鉄	(40)	刃幅:25 刃厚(28)	刃厚:14 刃厚:2	5	緑化(△)	5	190	

第39表 5区SI08出土土器観察表(第71図)

遺物No.	遺種・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	断面形状	メタル色	ラック	重量(g)	備考
1	埋砂中層	土師器 赤土	器高(32)	丸	17(178) 器高(329) 器高(302)	丸	灰褐色	器	外面:L1部破片ナシ。体部縁・横ハナメ 内面:口縁部破片ナシ。体部縁・横ヘラミガキ。器部 縁部破片ハナメノテ			外周・内周一部破片付
2	埋砂中層	土師器 赤土	口縁一部 破片	丸	15(155) 器高(145) 器高(120)	丸	灰褐色	器	外面:口縁部破片ナシ。体部縁・横ハナメ 内面:口縁部破片ナシ。体部縁・横ヘラミガキ			外周断面凸
3	埋砂上層	土師器 赤土	L1(151) 器高(80)	丸	15(151) 器高(80)	丸	灰褐色	器	外面:L1部破片ナシ。体部縁・横ハナメ 内面:口縁部破片ナシ。体部縁・横ヘラミガキ			外周断面凸
4	埋砂中層	土師器 赤土	L1(110) 器高(34)	丸	15(110) 器高(34)	丸	褐色	器	外面:横ヘラミガキ 内面:横ヘラミガキ			外周断面凸
5	埋砂下層	土師器 赤土	体部	丸	11(110) 器高(166) 器高(160) 器高(108)	丸	褐色	器	外面:横ヘラミガキ一帯ヘラミガキ 内面:体部縁部一帯ヘラミガキ			外周断面凸
6	埋砂中層	土師器 赤土	1/2	丸	17(178) 器高(166) 器高(160) 器高(108)	丸	褐色	器	外面:口縁部破片ナシ。体部縁・横ヘラミガキ 内面:口縁部破片ナシ。器部縁・横ヘラミガキ。器部 縁部破片ハナメノテ			外周断面凸
7	埋砂上層	土師器 赤土	13(12)形	丸	17(178) 器高(166) 器高(160) 器高(108)	丸	褐色	器	外面:口縁部破片ナシ。体部縁・横ヘラミガキ 内面:口縁部破片ナシ。器部縁・横ヘラミガキ。器部 縁部破片ハナメノテ			外周断面凸
8	埋砂上層	土師器 赤土	器高(61)	丸	17(178) 器高(61)	丸	灰褐色	器	外面:口縁部破片ナシ。体部縁・横ヘラミガキ 内面:口縁部破片ナシ。器部縁・横ヘラミガキ			内周断面凸
9	埋砂上層	土師器 赤土	器高(148)	丸	17(178) 器高(148)	丸	褐色	器	外面:口縁部破片ナシ。体部縁・横ヘラミガキ 内面:口縁部破片ナシ。器部縁・横ヘラミガキ			L1部破片付
10	埋砂中層	土師器 赤土	器高(39)	丸	17(178) 器高(39)	丸	褐色	器	外面:口縁部破片ナシ。体部縁・横ヘラミガキ 内面:口縁部破片ナシ。器部縁・横ヘラミガキ			外周断面凸
11	埋砂下層	土師器 赤土	器高(36)	丸	17(178) 器高(36)	丸	灰褐色	器	外面:口縁部破片ナシ。体部縁・横ヘラミガキ 内面:口縁部破片ナシ。器部縁・横ヘラミガキ			外周一部破片付
12	埋砂中層	土師器 赤土	器高(86)	丸	17(178) 器高(86)	丸	灰褐色	器	外面:口縁部破片ナシ。体部縁・横ヘラミガキ 内面:口縁部破片ナシ。器部縁・横ヘラミガキ			外周一部破片付
13	埋砂上層	土師器 赤土	器高(89)	丸	17(178) 器高(89)	丸	灰褐色	器	外面:口縁部破片ナシ。体部縁・横ヘラミガキ 内面:口縁部破片ナシ。器部縁・横ヘラミガキ			内周断面凸



第40表 5区SI08出土金属製品観察表(第71図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 保存率	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	縦寸数	メタル度	ランク	重量(g)	備考
14	埋砂中	刀子?	1/4	鉄	全長:333 刃部:165 茎部:177	刃部:15 茎部:10	刃部:2 茎部:1	6	II(○)	2	45	
15	埋砂中層	棒状不明品	—	鉄	(45)	7	3	5	H(○)	3	44	
16	埋砂中層	棒状不明品	—	鉄	(40)	4	3	3	酸化(△)	2	1.5	
17	埋砂面上	形状不明品	不明	鉄	135	10	6	5	I,●	5	315	

第41表 5区SI08出土石器・石製品観察表(第71図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石材	備考
18	埋砂中	礫石	ほぼ完全	118	87	45	6728	礫石質	
19	埋砂中層	不明石製品	完整	44	37	20	64	燧石	中心部穿孔
20	埋砂中層	燧石製品	完整	92	53	46	255.8	角閃石質閃岩	
21	埋砂上層	石製品	完整	21	10	2	14	燧石	石製軸用

第42表 5区SI09出土石器観察表(第73図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 保存率	法量 (g)	形状	色調	出土	調査・文様	備考
1	埋砂面上	土師器 空	口縁一 部1/4	口径(25.4) 器高(9.7)	丸	灰褐色~灰 白色	密 腐食・石質・ 砂粒	外面: L線部残ナダ、底部残ハナメ 内面: L線部残ナダ、底部残ハナメナダ	外周一部残存者
2	埋砂下層	土師器 空	L線部 1/3	L径(29.2) 器高(5.6)	丸	灰褐色	密 石灰・砂粒	外面: 線部残ナダ 内面: L線部残ナダ、底部残ハナメナダ	外周残存者
3	埋砂中	灰土器 空	口縁部 1/4	口径(9.8) 器高(3.6)	丸	青灰色	密	外面: L線部残ナダ、底部残ハナメナダ 内面: L線部残ナダ	
4	埋砂中	灰土器 空	L線部 1/8	口径(6.0) 器高(2.9) 器径(9.9)	丸	青灰色	密	内外面: 線部残ナダ	外周部自然剥落
5	埋砂中	灰土器 空	口縁一 部1/2	口径(6.0) 器高(2.6) 器径(9.8)	丸	灰色	密	内外面: 線部残ナダ	
6	埋砂中	灰土器 空	L径 1/8	口径(12.0) 器高(3.1)	丸	青灰色	密	外面: L線部一部位残ナダ、底部残ハナメナダ 内面: L線部一部位残ナダ、底部残ハナメナダ	
7	埋砂上層	灰土器 空	L径 1/3	口径(12.0) 器高(8.2) 器径(7.9)	丸	青灰色	密	外面: 線部残ナダ、底部残ハナメナダ 内面: 線部残ナダ、底部残ハナメナダ 断面二方角造り	
8	埋砂上層	灰土器 空	口縁部 1/2	口径(17)	丸	青灰色	密	外面: 線部残ナダ 内面: 線部残ナダ、底部残ハナメナダ	
9	埋砂上層	灰土器 空	L径 1/3	口径(4.2) 器高(4.4)	丸	黒褐色	密 白色粒	内外面: 線部残ナダ	
10	埋砂上層	灰土器 空	口縁部 1/2	口径(1.5)	丸	灰褐色	密	ハナメナダ	一部残存者

第43表 5区SI09出土金属製品観察表(第73図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 保存率	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	縦寸数	メタル度	ランク	重量(g)	備考
11	埋砂中	棒状不明品	—	鉄	(22)	3	3	3	酸化(△)	2	0.6	

第44表 5区SI09出土石器観察表(第73図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石材	備考
12	埋砂中	砂結玉	1/2	(25)	(45)	22	67	燧石質	
13	埋砂中	磨製石斧	破片	(35)	(34)	(9)	11.8	燧石質	片断内和成
14	埋砂中	浮子	完全	48	55	48	39.1	燧石	

第45表 5区SI10出土石器観察表(第75図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 保存率	法量 (g)	形状	色調	出土	調査・文様	備考
1	埋砂上層	土師器 空	口縁一 部1/2	L径(14.7) 器高(11.6) 器径(20.8)	丸	灰褐色	密 腐食・石質・ 白色粒	外面: L線部残ナダ、底部残ハナメ 内面: L線部残ナダ、底部残ハナメナダ	内外周部残存者
2	埋砂面上	土師器 空	底部破片	器高(9.3) 器径(20.0)	丸	褐色~灰茶 色	密 石灰・砂粒	外面: 底部残ナダ、底部残ハナメナダ 内面: 線部残ナダ	外周部残存者
3	埋砂下層	土師器 空	破片	L径(11.8) 器高(4.2)	丸	褐色	密 腐食・石質・ 白色粒	外面: L線部残ナダ、底部残ハナメナダ 内面: L線部残ナダ、底部残ハナメナダ	
4	埋砂中	土師器 空	破片	口径(13.8) 器高(2.5)	丸	褐色	密 石灰・燧石・ 白色粒	内外面: 線部残ナダによる遺状文ナダ	
5	埋砂中層	土師器 空	口縁部 1/2	器高(2.6) 器径(3.0)	丸	黒褐色	密 石灰・砂粒	外面: 線部残ナダ、底部残ハナメナダ 内面: 線部残ナダ	
6	埋砂中	土師器 空	底部破片	器高(2.6)	丸	灰褐色	密 石灰・白色粒	外面: L線部残ナダによる遺状文2条・線部残ナダによる遺状文 内面: L線部残ナダ	
7	埋砂下層	土師器 空	L径	口径(19.6) 器高(14.7)	丸	灰褐色	密 腐食・石質・ 白色粒	外面: L線部残ナダ、底部残ハナメナダ 内面: L線部残ナダ、底部残ハナメナダ 断面二方角造り	外周部

第46表 5区SI10出土金属製品観察表(第75図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	種類	部位 形状	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	メタル皮	ラック	重量 (g)	備考
8	両面地上	鍍	鏡片	鉄	97	23	2	6	鍍(△)	2	2.5	

第47表 5区SI10出土石器観察表(第75図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	種類	部位 形状	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石	材	備考
9	両面地上	青雉石	尖形	72	41	37	136.1		砂岩	

第48表 5区SI11出土石器観察表(第76図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	種類	部位 形状	長さ (mm)	幅	厚	重量 (g)	色調	崩土	調整・文様	備考
1	両面地上	土師器 小型丸形	口縁一貫 形1/3	口径(11.0) 器高(5.5)				黄	赤 雲母・白色粒	外周:口縁部横一線ヘラミギキ、器底以下縦ハケミナーナ 内周:口縁部横一線ヘラミギキ、口縁部横一線ヘラミギキ、肩部横一線ヘラミギキ	
2	両面地上	土師器 小型丸形	口縁一貫 形1/4	口径(10.3) 器高(6.0) 器底(8.3)				黄	赤 雲母・白色粒	外周:口縁部横一線ヘラミギキ、器底以下縦ハケミナーナ 内周:口縁部横一線ヘラミギキ、器底横一線ヘラミギキ	
3	両面地上	土師器 小型丸形	口縁一貫 形1/2	口径(3.6) 器高(5.0)				黄	赤 雲母・白色粒	外周:口縁部横一線ヘラミギキ 内周:口縁部横一線ヘラミギキ	外周縁付着
4	両面地上	土師器 小型丸形	口縁一貫 形1/2	口径(8.0) 器高(2.6)				黄	赤 雲母・白色粒	外周:口縁部横一線ヘラミギキ、器底横一線ヘラミギキ 内周:口縁部横一線ヘラミギキ	内周縁付着

第49表 5区SI13b出土石器観察表(第79図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	種類	部位 形状	長さ (mm)	幅	厚	重量 (g)	色調	崩土	調整・文様	備考
1	両面地上	土師器 小型丸形	口縁一貫 形1/3	口径(24.8) 器高(5.7)				黄	赤 雲母・白色粒	外周:口縁部横一線ヘラミギキ 内周:口縁部横一線ヘラミギキ	
2	両面地上	土師器 小型丸形	口縁一貫 形1/2	口径(18.4) 器高(6.6)				黄	赤 雲母・白色粒	外周:口縁部横一線ヘラミギキ、器底横一線ヘラミギキ 内周:口縁部横一線ヘラミギキ、器底横一線ヘラミギキ	
3	両面地上	土師器 小型丸形	口縁一貫 形1/2	口径(1.2) 器高(3.8)				黄	赤 雲母・白色粒	内周:口縁部横一線ヘラミギキ	
4	両面地上	土師器 小型丸形	口縁一貫 形1/2	口径(2.5) 器高(7.9)				黄	赤 雲母・白色粒	外周:口縁部横一線ヘラミギキ、器底横一線ヘラミギキ 内周:口縁部横一線ヘラミギキ	内周縁部横一線ヘラミギキによる直線、器底縁部横一線ヘラミギキ
5	両面地上	土師器 小型丸形	口縁一貫 形1/2	口径(12.9) 器高(5.0)				黄	赤 雲母・白色粒	外周:口縁部横一線ヘラミギキ、器底横一線ヘラミギキ 内周:口縁部横一線ヘラミギキ	外周縁部横一線ヘラミギキ
6	両面地上	土師器 小型丸形	口縁一貫 形1/2	口径(11.7) 器高(5.8)				黄	赤 雲母・白色粒	外周:口縁部横一線ヘラミギキ、器底横一線ヘラミギキ 内周:口縁部横一線ヘラミギキ	外周縁部横一線ヘラミギキ
7	両面地上	土師器 小型丸形	口縁一貫 形1/2	口径(12.0) 器高(5.3)				黄	赤 雲母・白色粒	外周:口縁部横一線ヘラミギキ、器底横一線ヘラミギキ 内周:口縁部横一線ヘラミギキ	外周縁部横一線ヘラミギキ

第50表 5区SI14出土石器観察表(第81図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	種類	部位 形状	長さ (mm)	幅	厚	重量 (g)	色調	崩土	調整・文様	備考
1	両面地上	土師器 小型丸形	口縁一貫 形1/2	口径(28.2) 器高(4.3)				黄	赤 雲母・白色粒	外周:口縁部横一線ヘラミギキ 内周:口縁部横一線ヘラミギキ	
2	両面地上	土師器 小型丸形	口縁一貫 形1/2	口径(28.7) 器高(16.2) 器底(35.0)				黄	赤 雲母・白色粒	外周:口縁部横一線ヘラミギキ、器底横一線ヘラミギキ 内周:口縁部横一線ヘラミギキ、器底横一線ヘラミギキ	外周縁付着
3	両面地上	土師器 小型丸形	口縁一貫 形1/2	口径(15.4) 器高(8.8)				黄	赤 雲母・白色粒	外周:口縁部横一線ヘラミギキ、器底横一線ヘラミギキ 内周:口縁部横一線ヘラミギキ	外周縁部横一線ヘラミギキ
4	両面地上	土師器 小型丸形	口縁一貫 形1/2	口径(15.8) 器高(9.2)				黄	赤 雲母・白色粒	外周:口縁部横一線ヘラミギキ、器底横一線ヘラミギキ 内周:口縁部横一線ヘラミギキ	外周縁部横一線ヘラミギキ
5	両面地上	土師器 小型丸形	口縁一貫 形1/2	口径(13.9) 器高(7.0)				黄	赤 雲母・白色粒	外周:口縁部横一線ヘラミギキ、器底横一線ヘラミギキ 内周:口縁部横一線ヘラミギキ	外周縁部横一線ヘラミギキ
6	両面地上	土師器 小型丸形	口縁一貫 形1/2	口径(13.0) 器高(5.2)				黄	赤 雲母・白色粒	外周:口縁部横一線ヘラミギキ、器底横一線ヘラミギキ 内周:口縁部横一線ヘラミギキ	外周縁部横一線ヘラミギキ
7	両面地上	土師器 小型丸形	口縁一貫 形1/4	口径(22.8) 器高(5.2)				黄	赤 雲母・白色粒	外周:口縁部横一線ヘラミギキ 内周:口縁部横一線ヘラミギキ	
8	両面地上	土師器 小型丸形	口縁一貫 形1/4	口径(11.6) 器高(8.0) 器底(15.0)				黄	赤 雲母・白色粒	外周:口縁部横一線ヘラミギキ、器底横一線ヘラミギキ 内周:口縁部横一線ヘラミギキ	ブランクークラス 部 外周縁部横一線ヘラミギキ
9	両面地上	土師器 小型丸形	口縁一貫 形1/2	口径(5.2) 器高(12.8)				黄	赤 雲母・白色粒	外周:口縁部横一線ヘラミギキ、器底横一線ヘラミギキ 内周:口縁部横一線ヘラミギキ	
10	両面地上	土師器 小型丸形	口縁一貫 形1/2	口径(6.3) 器高(9.8)				黄	赤 雲母・白色粒	外周:口縁部横一線ヘラミギキ、器底横一線ヘラミギキ 内周:口縁部横一線ヘラミギキ	
11	両面地上	土師器 小型丸形	口縁一貫 形1/2	口径(9.7)				黄	赤 雲母・白色粒	外周:口縁部横一線ヘラミギキ、器底横一線ヘラミギキ 内周:口縁部横一線ヘラミギキ	
12	両面地上	土師器 小型丸形	口縁一貫 形1/2	口径(22.4) 器高(5.2)				黄	赤 雲母・白色粒	外周:口縁部横一線ヘラミギキ、器底横一線ヘラミギキ 内周:口縁部横一線ヘラミギキ	
13	両面地上	土師器 小型丸形	口縁一貫 形1/2	口径(2.6)				黄	赤 雲母・白色粒	外周:口縁部横一線ヘラミギキ、器底横一線ヘラミギキ 内周:口縁部横一線ヘラミギキ	



第54表 5区SI16a・b出土金属製品観察表 (第85図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	メタル度	ランク	重量 (g)	備考
24	SI16a 埋砂上層	刀子	1/2	鉄	全長(83) 刃部(56) 茎部(7)	刃部:10 茎部:5	刃部:2 茎部:1	3	錆化(△)	2	54	
25	SI16b 埋砂下層	刀子	1/2	鉄	全長(60) 刃部(32) 茎部(18)	刃部(9) 茎部:5	刃部:2 茎部:1	4	錆化(△)	2	32	
26	埋砂中	刀子?	—	鉄	全長(47) 刃部(12) 茎部(38)	刃部(4) 茎部:4	刃部:1 茎部:1	4	錆化(△)	2	27	

第55表 5区SI16a出土石器観察表 (第85図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	形状	色調	胎土	調査・文様	備考	
27	埋砂中	礫石		65形	151	62	26	421.3	礫片巻	
28	埋砂中	礫石		66形	73	44	46	33.1	礫片	
29	埋砂中	礫石		67形	56	41	42	25.8	礫石	
30	SI16a 埋砂下層	台石		68形	218	132	81	300.0	花崗岩	備付品
31	SI16a 埋砂上層	ハンマー・ストーン		69形	172	76	52	308.0	テサイト	

第56表 5区SI17出土石器観察表 (第87図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	形状	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂中	土器器 磁器片	脚部	口径(4.6) 高さ:0.9	丸	黄灰白色	黒色・石灰・砂粒	外側: 坏部縁へラミダキ、脚部狭ナテ 内側: 坏部縁へラミダキ、脚部狭ナテ	外装無残

第57表 5区SI18出土石器観察表 (第88図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	形状	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂中	土器器 磁器片	口縁部	口径(12.4) 高さ(5.2)	丸	褐色	黄 黒色・石灰	外側: 坏部縁へラミダキ 内側: 口部縁ナテ、底部下縁へラミダキ	底面 外装: 磁器片

第58表 1区SK05出土石器観察表 (第90図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	形状	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂下層	土器器 土製器	底部	L17: 118.8 器高: 33.2 器径: 26.8 器厚: 8.0	丸	黄灰白色	黒	外側: L17縁部ナテ、器高以下縁へラミダキ、底部縁部ナテ 内側: L17縁部ナテ、器高以下縁へラミダキ、底部縁部ナテ	内装無残 外装: 磁器片ナテ・内装部縁部ナテ
2	埋砂下層	土器器 土製器	L18完形	L17: 23.0 器高: 12.9 器径: 20.6	丸形	灰褐色	黒 内側石・赤色	外側: ナテ 内側: 坏部縁へラミダキ、器高以下縁へラミダキ	内装無残 外装: 磁器片ナテ
3	埋砂下層	土器器 片口鉢	L18完形	L17: 34.2 器高: 20.5 器径: 32.1 器厚: 7.8	丸形	灰褐色	黒 赤・石灰	外側: L17縁部ナテ、器高以下縁へラミダキ、器高以下縁へラミダキ 内側: 坏部縁へラミダキ、器高以下縁へラミダキ	外装無残 内装: 磁器片ナテ

第59表 5区SK18出土石器観察表 (第92図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	形状	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂上層	土器器 土製器	5/8	L17: 31.1 器高: 57.4 器径(49.4) 器厚(8.1)	丸形	褐色	黒 黄灰石・ 灰・白色粒	外側: L17縁部ナテ、器高以下縁へラミダキ、器高以下縁へラミダキ 内側: L17縁部ナテ、器高以下縁へラミダキ、器高以下縁へラミダキ	内装無残 外装: 磁器片ナテ・内装部縁部ナテ
2	埋砂上層	土器器 土製器	L17完形	L17: 27.2 器高: 24.4 器径: 31.1	やや丸	灰褐色	黒 灰・白色粒	外側: L17縁部ナテ、器高以下縁へラミダキ、器高以下縁へラミダキ 内側: L17縁部ナテ、器高以下縁へラミダキ、器高以下縁へラミダキ	内装無残 外装: 磁器片ナテ
3	埋砂上層	土器器 土製器	L17完形	L17: 16.9 器高: 27.1 器径: 22.7	丸	褐色	黒 赤	外側: L17縁部ナテ、器高以下縁へラミダキ、器高以下縁へラミダキ 内側: L17縁部ナテ、器高以下縁へラミダキ、器高以下縁へラミダキ	外装: 内装部縁部ナテ
4	埋砂上層	土器器 土製器	L17完形	L17: 25.6 器高: 16.0 器径: 13.7	丸	黄灰白色・ 褐色	黒 赤・石灰・ 砂粒	外側: 坏部縁へラミダキ、器高以下縁へラミダキ 内側: 坏部縁へラミダキ、器高以下縁へラミダキ	外装: 坏部縁へラミダキ、器高以下縁へラミダキ
5	埋砂上層	土器器 土製器	L17完形	L17: 25.6 器高: 16.8 器径: 15.2	丸	褐色・ 褐色	黒 赤・石灰・ 砂粒	外側: 坏部縁へラミダキ、器高以下縁へラミダキ 内側: 坏部縁へラミダキ、器高以下縁へラミダキ	外装: 坏部縁へラミダキ、器高以下縁へラミダキ
6	埋砂上層	土器器 土製器	L17完形	L17: 21.6 器高: 11.4 器径: 11.8	やや丸	黄灰白色	黒 赤・石灰・ 砂粒	外側: L17縁部ナテ、器高以下縁へラミダキ、器高以下縁へラミダキ 内側: L17縁部ナテ、器高以下縁へラミダキ、器高以下縁へラミダキ	外装: 坏部縁へラミダキ、器高以下縁へラミダキ
7	埋砂上層	土器器 土製器	L17完形	L17: 12.9 器高(4.9)	丸	褐色	黒 赤・石灰	外側: 坏部縁へラミダキ、器高以下縁へラミダキ 内側: 坏部縁へラミダキ、器高以下縁へラミダキ	外装: 坏部縁へラミダキ、器高以下縁へラミダキ

8	磁砂土層	土質部 磁砂土	定形	口径:21.6 器高:5.7 底径:5.8	良	褐色	雲母・石英	外面: 浮遊磁ハケメー部・横ハケミガキ、彫部磁ナナ 穴部: 浮遊磁ハケメー部・横ハケミガキ、彫部磁ナナ	浮遊磁内磁線3本
9	磁砂土層	土質部 磁砂土	球状定形	口径:20.0 器高:5.5	良	黄灰色	雲母 雲母・石英	内丹山: ハケメー部・横ハケミガキ	内外表面部磁付着
10	磁砂土層	土質部 磁砂土	定形	口径:22.8 器高:12.7 底径:20.2	良	灰白色	雲母・石英・砂粒	外面: 磁ナナ 内面: 口部磁ナナナ、彫部磁・横ハケミガキ、彫部磁ハラケズリ、彫部磁ナナ	

第60表 1区SD02出土土器・土製品観察表(第95~115図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	度量 (cm)	状態	色相	粘土	調整・文様	備考
1	磁砂土層	土質部 磁砂土	球状定形	口径:27.8 器高:45.6 底径:34.6	良好	褐色	雲母 雲母・石英 白色粒	外面: 口部磁ナナ、彫部以下段・横ハケメ、彫部磁線付着する彫部上具増部による列状文、彫部磁ナナによる赤線文・彫部上具増部による列状文(全周) 内面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁ハラケズリ、彫部磁調整	
2	磁砂土層	土質部 磁砂土	1/2	口径:35.4 器高:37.4 底径:31.1	良	灰褐色	雲母 雲母・石英 白色粒	外面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整 内面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整	
3	磁砂土層	土質部 磁砂土	口部磁 1/8	口径:21.0 器高:9.2	良	褐色	雲母 雲母・石英 白色粒	外面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整 内面: 口部磁ナナ、彫部磁調整	
4	磁砂土層	土質部 磁砂土	球状定形	口径:21.7 器高:35.2 底径:17.4	良好	黄褐色	雲母 砂粒	外面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整 内面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整	
5	磁砂土層	土質部 磁砂土	球状定形	口径:20.7 器高:36.8 底径:17.0	良	褐色	雲母	外面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整 内面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整	
6	磁砂土層	土質部 磁砂土	1/2	口径:22.0 器高:21.5 底径:18.2	良好	黄灰色	雲母 砂粒	外面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整 内面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整	彫部磁調整・彫部磁調整
7	磁砂土層	土質部 磁砂土	1/2	口径:21.2 器高:35.0 底径:16.7	良	灰褐色	雲母 角閃石・雲母 石英・石英 白色粒	外面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整 内面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整	彫部磁調整・彫部磁調整
8	磁砂土層	土質部 磁砂土	球状定形	口径:19.7 器高:34.5 底径:15.5	良好	褐色	雲母 角閃石・白色 粒・石英	外面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整 内面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整	彫部磁調整
9	磁砂土層	土質部 磁砂土	口部磁 1/2	口径:19.3 器高:22.5 底径:17.8	良好	褐色	雲母 角閃石・白色 粒	外面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整 内面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整	彫部磁調整
10	磁砂土層	土質部 磁砂土	球状定形	口径:21.3 器高:38.0 底径:18.2	やや良	灰褐色	雲母 角閃石・雲母 白色粒	外面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整 内面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整	
11	磁砂土層	土質部 磁砂土	1/3	口径:23.2 器高:40.5 底径:13.4	良好	褐色	雲母 雲母・石英 白色粒	外面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整 内面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整	
12	磁砂土層	土質部 磁砂土	口部磁 1/3	口径:15.4 器高:12.0	良好	灰褐色	雲母 砂粒	外面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整 内面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整	
13	磁砂土層	土質部 磁砂土	1/2	口径:24.8 器高:39.0 底径:18.4	良好	褐色	雲母 雲母・石英 白色粒	外面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整 内面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整	彫部磁調整・彫部磁調整
14	磁砂土層	土質部 磁砂土	球状定形	口径:25.6 器高:34.8 底径:20.0	良	灰褐色	雲母 雲母・砂粒	外面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整 内面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整	
15	磁砂土層	土質部 磁砂土	口部磁 1/2	口径:25.4 器高:10.0	良	灰褐色	雲母 角閃石・雲母 石英・石英 白色粒	外面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整 内面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整	
16	磁砂土層	土質部 磁砂土	口部磁 1/2	口径:25.2 器高:28.0	良好	褐色	雲母 雲母・石英 白色粒	外面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整 内面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整	彫部磁調整・彫部磁調整
17	磁砂土層	土質部 磁砂土	口部磁 1/2	口径:26.2 器高:22.8 底径:18.8	良好	灰褐色	雲母 雲母・石英	外面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整 内面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整	
18	磁砂土層	土質部 磁砂土	口部磁 1/2	口径:21.0 器高:11.8	良好	灰褐色	雲母 雲母・白色 粒・砂粒	外面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整 内面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整	
19	磁砂土層	土質部 磁砂土	口部磁 1/2	口径:19.9 器高:21.4	良好	黄灰色	雲母	外面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整 内面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整	
20	磁砂土層	土質部 磁砂土	1/2	口径:13.8 器高:13.4	良好	褐色	雲母	外面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整 内面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整	彫部磁調整
21	磁砂土層	土質部 磁砂土	口部磁 1/2	口径:20.0 器高:5.2	良好	褐色	雲母 雲母・石英 白色粒	外面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整 内面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整	彫部磁調整
22	磁砂土層	土質部 磁砂土	口部磁 1/2	口径:11.4 器高:16.7 底径:11.6	良好	褐色	雲母 角閃石・雲母 白色粒	外面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整 内面: 口部磁ナナ、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整、彫部磁調整	彫部磁調整

23	磁砂下層	土砂部 大口吸	口挿一 作部	口径:102 高さ:112)	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外周:口挿一層部積ナリ、底部積状工具による底状文、体 部割心・横ハケム 内周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ	外部 内周
24	磁砂中層	土砂部 大口吸	口挿完形	口径:105 高さ(14.8) 調整:16.4	良	褐色	密 雲母・白色 砂・砂粒	外周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ 内周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ	外部 内周
25	磁砂中層	土砂部 大口吸	口挿部 1/2	口径(14.5) 高さ(11.8)	良好	褐色	密 雲母・石英・ 白色砂	外周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ 内周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ	外部 内周
26	磁砂中層	土砂部 大口吸	口挿部 1/8	口径(32.4) 高さ(9.0)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ 内周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ	外部 内周
27	磁砂中層	土砂部 大口吸	口挿一 作部	口径(39.2) 高さ(7.03) 調整(62.4)	良	灰褐色一 層	密 雲母・石英・ 砂粒	外周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ 内周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ	外部 内周
28	磁砂中層	土砂部 大口吸	口挿部 2/3	口径(52.0) 高さ(35.6) 調整(11.2)	やや良	褐色	密 雲母・石英・ 白色砂	外周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ 内周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ	外部 内周
29	磁砂下層	土砂部 大口吸	口挿完形	口径(34.4) 高さ(31.9) 調整:6.4	やや良	灰灰白色一 層	密 砂粒	外周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ 内周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ	外部 内周
30	磁砂中層	土砂部 大口吸	口挿部 1/2	口径:13.4 高さ(14.3)	良	灰褐色一 層	密 雲母・砂粒	外周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ 内周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ	外部 内周
31	磁砂中層	土砂部 大口吸	口挿完形	口径:11.6 高さ(17.5) 調整(15.2)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色砂	外周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ 内周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ	外部 内周
32	磁砂中層	土砂部 大口吸	口挿部 1/3	口径:5.6 高さ(1.7)	良好	褐色	密 雲母	外周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ 内周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ	外部 内周
33	磁砂下層	土砂部 大口吸	口挿部 1/4	口径:4.6 高さ(2.0)	良	灰灰白色	密 雲母・石英	外周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ 内周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ	外部 内周
34	磁砂下層	土砂部 大口吸	口挿部 1/4	口径:3.5 高さ(3.5)	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ 内周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ	外部 内周
35	磁砂中層	土砂部 大口吸	口挿部 1/2	口径:1.0 高さ(1.0)	良好	灰褐色	密 雲母・砂粒	外周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ 内周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ	外部 内周
36	磁砂中層	土砂部 大口吸	口挿部 1/2	口径:29.6 高さ:42.2 調整:36.9	良好	褐色	密 雲母・白色砂	外周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ 内周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ	外部 内周
37	磁砂下層	土砂部 大口吸	口挿部 1/2	口径(18.4) 高さ(12.9) 調整(28.2)	良	灰灰白色	密 雲母・石英	外周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ 内周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ	外部 内周
38	磁砂下層	土砂部 大口吸	口挿部 1/2	口径(17.8) 高さ(32.5) 調整(30.2)	良	灰褐色一 層 灰白色	密 雲母・石英	外周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ 内周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ	外部 内周
39	磁砂下層	土砂部 大口吸	口挿部 1/2	口径:15.6 高さ:29.0 調整:27.5	良好	褐色	密 雲母	外周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ 内周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ	外部 内周
40	磁砂下層	土砂部 大口吸	口挿部 1/2	口径:13.8 高さ(32.0) 調整:29.6	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ 内周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ	外部 内周
41	磁砂中層	土砂部 大口吸	口挿部 1/2	口径(17.4) 高さ(26.3) 調整(26.6)	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色砂	外周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ 内周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ	外部 内周
42	磁砂中層	土砂部 大口吸	口挿部 2/3	口径(18.4) 高さ(26.4) 調整(23.5)	良	灰灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ 内周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ	外部 内周
43	磁砂下層	土砂部 大口吸	口挿部 1/2	口径(18.8) 高さ(30.8) 調整(27.8)	良好	灰褐色	密 雲母	外周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ 内周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ	外部 内周
44	磁砂中層	土砂部 大口吸	口挿部 1/2	口径(17.4) 高さ(26.9) 調整(24.0)	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色砂	外周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ 内周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ	外部 内周
45	磁砂下層	土砂部 大口吸	口挿部 1/2	口径:16.2 高さ:25.1 調整:21.6	やや良	褐色	密 雲母・石英・ 白色砂	外周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ 内周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ	外部 内周
46	磁砂中層	土砂部 大口吸	口挿部 1/2	口径(15.4) 高さ:34.5 調整(22.6)	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ 内周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ	外部 内周
47	磁砂下層	土砂部 大口吸	口挿部 1/2	口径:14.4 高さ:29.0 調整:22.5	良好	灰褐色	密 雲母・石英	外周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ 内周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ	外部 内周
48	磁砂中層	土砂部 大口吸	口挿部 1/2	口径(16.6) 高さ(28.1) 調整(22.5)	良	褐色	密 雲母	外周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ 内周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ	外部 内周
49	磁砂下層	土砂部 大口吸	口挿部 1/2	口径:15.1 高さ:25.2 調整:22.1	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色砂	外周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ 内周:口挿部積ナリ、底部積状調整、体部積ハケナリ	外部 内周

50	襪紗下着	上履部 装束	口縁一色 部L1/3	口縁(18.3) 部高(11.0) 脚深(19.6)	良好	褐色	密 砂粒	外履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束 内履: 口縁部装束ナリ、前部以下履ハケメナリ	内履部装束付着
51	襪紗下着	上履部 装束	2/3	口縁(14.8) 部高(11.5) 脚深(15.5)	良	褐色	密 小石粒・砂粒	外履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束 内履: 口縁部装束ナリ、前部以下履ハケメナリ	外履部付着
52	襪紗下着	上履部 装束	文形	口縁(12.2) 部高(10.9) 脚深(15.5)	良	褐色	密	外履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束 内履: 口縁部装束ナリ、前部以下履ハケメナリ	前部装束成後半孔 内履部装束付着
53	襪紗下着	上履部 装束	口縁一色 部L1/2	口縁(13.1) 部高(18.0) 脚深(17.4)	良	褐色	密 白色粒	外履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束 内履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束	外履一部装束付着
54	襪紗下着	上履部 装束	文形	口縁(12.9) 部高(17.4) 脚深(16.9)	良	黄白色	今中粒	外履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束 内履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束	外履部装束付着
55	襪紗下着	上履部 装束	文形	口縁(13.5) 部高(13.9) 脚深(15.6)	良	灰褐色	密 石・石灰	外履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束 内履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束	外履一部装束付着
56	襪紗下着	上履部 装束	口縁一色 部L1/2	口縁(12.3) 部高(14.3) 脚深(15.8)	良好	灰褐色	密 石・石灰 白色粒	外履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束 内履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束	外履部装束付着 内履部装束成後半孔付着
57	襪紗下着	上履部 装束	1/2	口縁(13.0) 部高(25.6) 脚深(22.6)	良	灰褐色一褐色	密	外履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束 内履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束	内履部装束付着
58	襪紗上着	上履部 装束	口縁一色 部L1/2	口縁(14.7) 部高(25.4) 脚深(22.6)	良	灰褐色	密 角石・石灰 白色粒	外履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束 内履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束	外履部装束成後半孔付着 内履部装束付着
59	襪紗上着	上履部 装束	口縁一色 部L1/2	口縁(15.2) 部高(27.8) 脚深(23.4)	良好	褐色	密 角石・白色 粒・小石粒	外履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束 内履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束	外履部装束成後半孔付着
60	襪紗下着	上履部 装束	1/2	口縁(15.7) 部高(25.4) 脚深(22.5)	良	黄灰色	密 石付	外履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束 内履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束	内外履部装束付着
61	襪紗上着	上履部 装束	口縁一色 部L1/2	口縁(14.2) 部高(22.9) 脚深(20.8)	良好	黄白色	密 砂粒	外履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束 内履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束	高筒 底部装束成後半孔 付着、底履付着
62	襪紗下着	上履部 装束	1/2	口縁(15.1) 部高(24.2) 脚深(21.7)	良	灰褐色	密 石・白色粒	外履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束 内履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束	外履一部装束付着
63	襪紗下着	上履部 装束	2/3	口縁(14.0) 部高(25.3) 脚深(19.8)	良	褐色	密 砂粒	外履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束 内履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束	外履部装束付着
64	襪紗下着	上履部 装束	文形	口縁(15.0) 部高(23.1) 脚深(20.6)	良	褐色	密	外履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束 内履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束	外履部装束付着
65	襪紗下着	上履部 装束	文形	口縁(14.2) 部高(21.0) 脚深(20.0)	良	黄白色	今中粒	外履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束 内履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束	外履部装束付着
66	襪紗中履	上履部 装束	口縁一色 部L1/2	口縁(14.8) 部高(14.4) 脚深(20.0)	良	灰褐色	密 石・石灰	外履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束 内履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束	外履部装束付着
67	襪紗中履	上履部 装束	口縁一色 部L1/2	口縁(13.2) 部高(18.5) 脚深(20.0)	良	灰褐色	密 石・砂粒	外履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束 内履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束	外履部装束付着
68	襪紗中履	上履部 装束	口縁一色 部L1/2	口縁(14.5) 部高(18.0) 脚深(20.0)	良	黄灰色	密 白色粒	外履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束 内履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束	外履部装束付着
69	襪紗上履	上履部 装束	1/2	口縁(14.5) 部高(25.7) 脚深(22.4)	良好	褐色	密 石・砂粒	外履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束 内履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束	外履一部装束付着
70	襪紗下履	上履部 装束	1/2	口縁(15.6) 部高(25.1) 脚深(23.5)	今中良	褐色	密 石・石灰	外履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束 内履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束	内外履部装束付着
71	襪紗中履	上履部 装束	1/2	口縁(13.5) 部高(22.7) 脚深(21.4)	良	灰褐色	密 石・石灰	外履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束 内履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束	内履部装束付着
72	襪紗下履	上履部 装束	1/2	口縁(15.8) 部高(22.5) 脚深(21.6)	今中良	黄白色	密 石・石灰	外履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束 内履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束	外履部装束成後半孔 外履一部装束付着
73	襪紗上履	上履部 装束	口縁一色 部L1/2	口縁(13.2) 部高(21.9) 脚深(20.0)	良	褐色	密 石・小石 粒・砂粒	外履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束 内履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束	内外履部装束付着
74	襪紗中履	上履部 装束	口縁一色 部L1/2	口縁(14.8) 部高(18.0) 脚深(21.8)	良好	褐色	密 石・石灰	外履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束 内履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束	内履一部装束付着
75	襪紗上履	上履部 装束	口縁一色 部L1/2	口縁(15.4) 部高(11.3) 脚深(20.3)	良	黒褐色	密 石	外履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束 内履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束	内外履部装束付着
76	襪紗下履	上履部 装束	口縁一色 部L1/2	口縁(16.3) 部高(14.0) 脚深(20.0)	良好	褐色	密 石・白色粒	外履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束 内履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束	内履口縁部一外履 部装束付着
77	襪紗下履	上履部 装束	口縁一色 部L1/2	口縁(21.4) 部高(9.5) 脚深(20.8)	良	灰褐色	密 石・砂粒	外履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束 内履: 口縁部装束ナリ、各部履-履ハケメ、前部口縁部装束	外履部装束付着





109	緑砂中層	土砂砂変	口幅一回 幅1/3	口径:148 砂高:92	真	灰褐色	赤 褐色・白色 砂粒	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	
110	緑砂中層	土砂砂変	口幅一回 幅2/3	口径:118 砂高:91 砂層(141)	真	灰褐色	赤褐色・(赤・ 砂粒	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	
111	緑砂上層	土砂砂変	4/5	砂高(142) 砂層:148	真	灰褐色	赤褐色・白色 砂粒	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	外層砂層下層付着
112	緑砂中層	土砂砂変	口幅一回 幅1/2	口径(141) 砂高(107) 砂層(172)	真	褐色	赤褐色・石 灰・白色砂粒	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	外層口幅砂層付着
113	緑砂中層	土砂砂変	1/2	口径:144 砂高(126) 砂層(200)	真	黒褐色・灰 褐色	赤褐色・石 灰・石灰	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	内層砂層付着
114	緑砂中層	土砂砂変	1/5	口径(152) 砂高(52)	真	黄褐色	赤 白色砂粒	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	
115	緑砂下層	土砂砂変	1/3	口径(145) 砂高(217) 砂層(210)	真	灰褐色	赤 雲母・砂粒	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	
116	緑砂上層	土砂砂変	1/2	口径(136) 砂高(213) 砂層(210)	真	褐色	赤 雲母・石灰 白色砂粒	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	外層砂層一部付着
117	緑砂下層	土砂砂変	1/3	口径(152) 砂高(188) 砂層(211)	真	灰褐色	赤 雲母・石灰 砂粒	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	外層砂層付着
118	緑砂下層	土砂砂変	2/3	口径(132) 砂高(200) 砂層(198)	真	灰褐色	赤 砂粒	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	外層砂層付着
119	緑砂中層	土砂砂変	1/3	口径(174) 砂高(175) 砂層(262)	真	灰褐色	赤 雲母・石灰 砂粒	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	
120	黄砂中層	土砂砂変	口幅一回 幅1/2	口径:178 砂高(128)	真	灰褐色	赤 砂粒	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	
121	黄砂中層	土砂砂変	口幅一回 幅1/2	口径:153 砂高(147) 砂層(250)	真	黄褐色	赤 石灰	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	外層砂層付着
122	黄砂下層	土砂砂変	口幅一回 幅1/3	口径(166) 砂高(158) 砂層(222)	真	灰褐色	赤 砂粒	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	外層一部砂層付着
123	4区南端	土砂砂変	口幅一回 幅1/2	口径(180) 砂高:98	真	黄褐色	赤 雲母・砂粒	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	外層砂層付着
124	緑砂下層	土砂砂変	口幅一回 幅1/2	口径:187 砂高(100)	真	黄褐色・白 色砂粒	赤 雲母・石灰 砂粒	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	内層砂層 外層砂層付着
125	緑砂下層	土砂砂変	口幅一回 幅1/2	口径:160 砂高:86	真	黄褐色	赤 雲母・石灰 砂粒	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	
126	緑砂上層	土砂砂変	口幅一回 幅1/2	口径(146) 砂高(152) 砂層(201)	真	灰褐色	赤褐色・石灰 白色砂粒	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	
127	緑砂中層	土砂砂変	口幅一回 幅1/2	口径(146) 砂高(190)	真	褐色	赤 雲母・砂粒	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	外層砂層付着
128	緑砂上層	土砂砂変	口幅一回 幅1/2	口径(134) 砂高(62)	真	灰褐色	赤 石灰・白色砂粒	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	
129	緑砂中層	土砂砂変	口幅一回 幅1/2	口径(138) 砂高(85)	真	灰褐色	赤褐色・石灰 砂粒	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	外層一部砂層付着
130	緑砂中層	土砂砂変	口幅一回 幅1/2	口径:142 砂高(85)	真	灰褐色	赤褐色・石灰 砂粒	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	外層砂層付着
131	緑砂下層	土砂砂変	口幅一回 幅2/3	口径:134 砂高(63)	真	灰褐色	赤褐色・石灰 砂粒	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	外層砂層付着
132	緑砂中層	土砂砂変	口幅一回 幅1/2	口径(140) 砂高(70)	真	灰褐色	赤 砂粒	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	外層砂層付着
133	緑砂中層	土砂砂変	口幅一回 幅1/2	口径(154) 砂高(207) 砂層(266)	真	灰褐色	赤 石灰・砂粒	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	外層砂層付着
134	黄砂上層	土砂砂変	1/2	口径(148) 砂高(229) 砂層(195)	真	褐色	赤 雲母・石灰	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	外層砂層付着
135	黄砂中層	土砂砂変	1/2	口径:150 砂高(138) 砂層(229)	真	灰褐色・黄 灰白色	赤 雲母	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	黄砂
136	黄砂中層	土砂砂変	1/2	口径:152 砂高(135) 砂層(228)	真	黄褐色	赤 砂粒	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	外層砂層付着
137	黄砂中層	土砂砂変	1/2	口径:155 砂高(132) 砂層(229)	真	黄褐色	赤 雲母・石灰	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	
138	黄砂下層	土砂砂変	口幅一回 幅1/4	口径(187) 砂高(125) 砂層(210)	真好	灰褐色	黄 石灰	外層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ 内層: 口幅砂層ナド、砂層横ハケメ	外層砂層一部砂層付着

129	厚砂中層	土砂部	1/2	口径:178 容積(18.3) 砂高(24.8)	真	褐色	密	外周: 円筒部→背板積ナテ、筒部へラ状上其構造による閉式、他部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、体部積→積ハケム	内周円筒部積ハケム
130	厚砂下層	土砂部	1/2	口径:159 容積(11.7)	真	灰白色	密 黄赤・石灰	外周: 円筒部積ナテ、筒部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、筒部以下積ナテ	内周一部積ハケム
131	厚砂中層	土砂部	1/2	口径:144 容積(10.6)	真	灰褐色	密 黄赤・石灰	外周: 円筒部積ナテ、筒部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、体部積→積ハケム	外周積ハケム
142	厚砂中層	土砂部	1/2	口径:143 容積(13.3) 砂高(20.8)	真	灰白色	密 黄赤・石灰	外周: 円筒部積ナテ、体部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、体部積→積ハケム	外周積ハケム
143	厚砂上層	土砂部	1/2	口径(16.2) 容積(12.5) 砂高(22.6)	真	灰褐色	密 黄赤・石灰	外周: 円筒部積ナテ、筒部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、体部積→積ハケム	外周積ハケムによる積込「X」
144	厚砂上層	土砂部	2/5	口径:112 容積(7.5)	真	灰褐色	密 砂粒	外周: 円筒部積ナテ、筒部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、体部積→積ハケム	追加 外周体部・筒部積込
145	厚砂上層	土砂部	1/3	口径(11.1) 容積(11.7) 砂高(17.6)	真	褐色	密 黄赤・石灰	外周: 円筒部積ナテ、筒部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、体部積→積ハケム	追加 外周体部・筒部積込
146	厚砂中層	土砂部	1/4	口径(14.8) 容積(13.2) 砂高(22.0)	真	灰白色	密 黄赤・石灰・ 白色砂	外周: 円筒部積ナテ、体部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、体部積→積ハケム	追加 外周体部・筒部積込
147	厚砂中層	土砂部	1/5	口径(15.8) 容積(10.6)	真	灰白色	密 黄赤・石灰・ 砂粒	外周: 円筒部積ナテ、体部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、体部積→積ハケム	追加 外周体部・筒部積込
148	厚砂中層	土砂部	1/3	口径:147 容積(10.3)	真	灰白色	密 黄赤・石灰・ 砂粒多量	外周: 円筒部積ナテ、体部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、体部積→積ハケム	外周積込
149	厚砂中層	土砂部	2/5	口径(14.0) 容積(10.4)	真	褐色	密 砂粒	外周: 円筒部積ナテ、筒部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、体部積→積ハケム	外周積込
150	厚砂上層	土砂部	1/2	口径(16.0) 容積(14.4) 砂高(22.6)	真	灰色	密 黄赤・白色砂 砂粒	外周: 円筒部積ナテ、体部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、体部積→積ハケム	追加 外周体部・筒部積込
151	厚砂中層	土砂部	1/2	口径(17.2) 容積(9.5)	真	褐色	密 砂粒	外周: 円筒部積ナテ、筒部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、筒部以下積ナテ	外周積込
152	厚砂下層	土砂部	1/2	口径(15.2) 容積(13.2) 砂高(20.6)	真	褐色	密 黄赤・石灰・ 砂粒	外周: 円筒部積ナテ、筒部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、体部積→積ハケム	外周積込
153	厚砂中層	土砂部	1/4	口径(14.8) 容積(11.0)	真	灰白色	密	外周: 円筒部積ナテ、筒部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、筒部以下積ナテ	追加 外周体部・筒部積込
154	厚砂中層	土砂部	1/2	口径(16.0) 容積(10.6)	真	灰褐色	密 黄赤・石灰 砂粒	外周: 円筒部積ナテ、筒部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、体部積→積ハケム	追加 外周体部・筒部積込
155	厚砂中層	土砂部	1/2	口径(15.6) 容積(12.0)	良好	褐色	密 黄赤・石灰・ 砂粒	外周: 円筒部積ナテ、筒部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、体部積→積ハケム	外周積込
156	厚砂中層	土砂部	1/2	口径:137 容積(13.8) 砂高(21.0)	真	灰白色	密 砂粒	外周: 円筒部積ナテ、筒部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、体部積→積ハケム	外周体部積込
157	厚砂下層	土砂部	1/2	口径(15.8) 容積(22.0) 砂高(26.0)	真	黒褐色	密 砂粒	外周: 円筒部積ナテ、筒部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、体部積→積ハケム	外周積込
158	厚砂下層	土砂部	1/3	口径(13.6) 容積(7.8)	真	灰色	密 黄赤・石灰・ 白色砂	外周: 円筒部積ナテ、筒部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、体部積→積ハケム	追加 外周体部・筒部積込
159	厚砂中層	土砂部	1/8	口径(10.3) 容積(12.5) 砂高(14.8)	真	褐色	密 黄赤・石灰・ 砂粒	外周: 円筒部積ナテ、筒部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、筒部以下積ナテ	外周体部積込
160	厚砂中層	土砂部	1/2	口径(12.6) 容積(6.3)	真	灰褐色	密 黄赤・石灰・ 砂粒	外周: 円筒部積ナテ、筒部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、筒部以下積ナテ	外周積込
161	厚砂下層	土砂部	1/2	口径(11.3) 容積(7.0) 砂高(12.4)	真	灰褐色	密 砂粒	外周: 円筒部積ナテ、筒部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、筒部以下積ナテ	追加 外周体部・筒部積込
162	厚砂中層	土砂部	(11.5)容積	口径:101 容積: 9.8 砂高:11.2	良好	褐色	密 石灰	外周: 円筒部積ナテ、筒部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、筒部以下積ナテ	追加 外周体部・筒部積込
163	厚砂下層	土砂部	1/2	口径(14.2) 容積(5.1)	真	灰褐色	密 白色砂	外周: 円筒部積ナテ、筒部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、筒部以下積ナテ	外周積込
164	厚砂中層	土砂部	1/2	口径(11.0) 容積(19.3) 砂高(28.0)	真	灰褐色	密 黄赤・石灰・ 白色砂	外周: 円筒部積ナテ、筒部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、筒部以下積ナテ	追加 外周体部・筒部積込
165	厚砂中層	土砂部	2/3	口径:104 容積(11.1) 砂高(12.8)	真	灰褐色	密 白色砂	外周: 円筒部積ナテ、筒部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、筒部以下積ナテ	追加 外周体部・筒部積込
166	厚砂上層	土砂部	1/3	口径(12.4) 容積(7.5) 砂高(17.0)	良好	黒褐色	密 黄赤・石灰・ 砂粒	外周: 円筒部積ナテ、筒部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、筒部以下積ナテ	外周積込
167	厚砂中層	土砂部	2/3	口径(14.0) 容積(11.2) 砂高(17.0)	真	黒褐色	密	外周: 円筒部積ナテ、筒部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、筒部以下積ナテ	追加 外周体部・筒部積込
168	厚砂上層	土砂部	1/2	口径:144 容積(17.3) 砂高(21.6)	真	褐色・灰褐色	密 黄赤・石灰・ 砂粒	外周: 円筒部積ナテ、筒部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、筒部以下積ナテ	追加 外周体部・筒部積込
169	厚砂上層	土砂部	4/21	口径(13.6) 容積(20.8) 砂高(30.0)	真	褐色	密 黄赤・石灰・ 砂粒	外周: 円筒部積ナテ、筒部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、筒部以下積ナテ	追加 外周体部・筒部積込
170	厚砂中層	土砂部	1/2	口径:134 容積(7.1)	真	灰褐色・褐色	密	外周: 円筒部積ナテ、筒部積→積ハケム 内周: 円筒部積ナテ、筒部以下積ナテ	追加 外周体部・筒部積込

171	緑砂上層	土層部 上層部	口径:14(0) 高さ:7.5	良好	灰褐色	普通 赤土	外周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊→ナ、底部破 内周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊→ナ、底部破 ラケズ	
172	緑砂上層	土層部 上層部	口径:136.7 高さ:10.6	良	灰褐色	赤土 石瓦多量	外周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊による片点 文→散見ナ、底部破ハケナ 内周: 口縁部破片ナ、底部破ハケナ	外周部付着
173	緑砂上層	土層部 上層部	口径:132 高さ:6.25	良	緑褐色	密	外周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ 内周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ	
174	緑砂上層	土層部 上層部	口径:117.7 高さ:6(2.5) 高さ:21.3	良	褐色	密 石灰・石膏 多量	外周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊→横・傾ハケメ 内周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊→横・傾ハケメ	外周部以下破砕 部付着 外周部付着
175	緑砂上層	土層部 上層部	口径:132 高さ:12.8 高さ:19.4	良好	褐色→灰褐色	密 石灰・石膏 多量	外周: 口縁部破片ナ、底部破ハケメ 内周: 口縁部破片ナ、底部破ハケメ	外周部以下破砕 部付着 外周部付着
176	緑砂上層	土層部 上層部	口径:130.2 高さ:13.9	良好	灰褐色	密 内周: 白色 多量	外周: 口縁部破片ナ、底部破ハケメ 内周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ	
177	緑砂中層	土層部 中層部	口径:130.2 高さ:19.3	良	灰褐色	密 石灰・石膏 多量	外周: 口縁部破片ナ、底部破ハケメ 内周: 口縁部破片ナ、底部破ハケメ	外周部以下破砕 部付着
178	緑砂上層	土層部 上層部	口径:176.1 高さ:22.0 高さ:28.0	良	灰褐色	密 内周: 石膏 多量	外周: 口縁部破片ナ、底部破ハケメ 内周: 口縁部破片ナ、底部破ハケメ	外周部以下破砕 部付着
179	緑砂上層	土層部 上層部	口径:196 高さ:13.7	良	灰褐色	密 石灰・石膏 多量	外周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ 内周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ	外周部付着
180	緑砂中層	土層部 中層部	口径:138.4 高さ:5.6	良	褐色	密 石灰・石膏 多量	外周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ 内周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ	外周部以下破砕 部付着
181	緑砂上層	土層部 上層部	口径:191.1 高さ:1.8	良好	灰褐色	密 石灰・石膏 多量	外周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ 内周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ	外周部以下破砕 部付着
182	緑砂上層	土層部 上層部	口径:147 高さ:4.1	良	褐色	密 石灰・石膏 多量	外周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ 内周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ	外周部以下破砕 部付着
183	緑砂上層	土層部 上層部	口径:147 高さ:5.0	良	褐色	密 石灰・石膏 多量	外周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ 内周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ	外周部以下破砕 部付着
184	緑砂中層	土層部 中層部	口径:154.4 高さ:8.0	良	灰褐色	密 石灰・石膏 多量	外周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ 内周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ	外周部以下破砕 部付着
185	緑砂中層	土層部 中層部	口径:144.1 高さ:13.9	良	褐色	密 石灰・石膏 多量	外周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ 内周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ	外周部以下破砕 部付着
186	緑砂上層	土層部 上層部	口径:130.7 高さ:11.0	良	灰褐色	密 石灰・石膏 多量	外周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ 内周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ	外周部以下破砕 部付着
187	緑砂中層	土層部 中層部	口径:128.2 高さ:14.7 高さ:21.1	良	暗灰白色	密 石灰・石膏 多量	外周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ 内周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ	外周部以下破砕 部付着
188	緑砂中層	土層部 中層部	口径:114.7 高さ:19.4 高さ:25.4	良	褐色	密 石灰・石膏 多量	外周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ 内周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ	外周部以下破砕 部付着
189	緑砂上層	土層部 上層部	口径:90 高さ:15.4 高さ:15.4	やや良	暗褐色→褐色	密 石灰・石膏 多量	外周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ 内周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ	外周部以下破砕 部付着
190	緑砂中層	土層部 中層部	口径:132 高さ:16.2 高さ:16.8	良	褐色	密 石灰・石膏 多量	外周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ 内周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ	外周部以下破砕 部付着
191	緑砂中層	土層部 中層部	口径:118 高さ:15.5 高さ:14.5	良	黄灰白色	密 石灰・石膏 多量	外周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ 内周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ	外周部以下破砕 部付着
192	緑砂中層	土層部 中層部	口径:100 高さ:9.5 高さ:9.5	良好	灰褐色	密 石灰・石膏 多量	外周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ 内周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ	外周部以下破砕 部付着
193	緑砂中層	土層部 中層部	口径:109 高さ:4.9 高さ:16.5	良	灰色	密 石灰・石膏 多量	外周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ 内周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ	外周部以下破砕 部付着
194	緑砂中層	土層部 中層部	口径:86 高さ:6.8 高さ:8.3	良	灰褐色→灰 褐色	密 石灰・石膏 多量	外周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ 内周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ	外周部以下破砕 部付着
195	緑砂中層	土層部 中層部	口径:83 高さ:4.3 高さ:5.9	良好	暗褐色	密 石灰・石膏 多量	外周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ 内周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ	外周部以下破砕 部付着
196	緑砂中層	土層部 中層部	口径:82 高さ:5.5 高さ:7.8	良	灰褐色	密 石灰・石膏 多量	外周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ 内周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ	外周部以下破砕 部付着
197	緑砂中層	土層部 中層部	口径:9.3 高さ:3.5 高さ:7.8	良好	暗褐色	密	外周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ 内周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ	外周部以下破砕 部付着
198	緑砂上層	土層部 上層部	口径:160 高さ:6.0 高さ:3.9	良好	暗褐色	密	外周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ 内周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ	外周部以下破砕 部付着
199	緑砂中層	土層部 中層部	口径:106 高さ:7.6 高さ:7.5	良	暗褐色	密 石灰・石膏 多量	外周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ 内周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ	外周部以下破砕 部付着
200	緑砂中層	土層部 中層部	口径:139 高さ:8.2	良好	暗褐色	密	外周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ 内周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ	外周部以下破砕 部付着
201	緑砂上層	土層部 上層部	口径:11.2 高さ:7.7 高さ:7.0	良好	灰褐色	密	外周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ 内周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ	外周部以下破砕 部付着
202	緑砂中層	土層部 中層部	口径:89 高さ:7.5 高さ:6.8	良好	暗褐色	密	外周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ 内周: 口縁部破片ナ、底部以下破砕塊ハケ	外周部以下破砕 部付着

203	黒砂上層	上部層 小型瓦片	破片	L径(167) 高さ(42)	良	褐色	密	外面: 砂ナデ 内面: 砂ナデ→縦ヘラミガキ	
204	黒砂下層	上部層 小型瓦片	破片	口径(108) 高さ(56) 厚径(10.1)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・砂粒	外面: 白漆部残ナデ、漆部残ハケミガキナデ 内面: 白漆部残ナデ、漆部残ハケミガキナデ→縦ヘラミガキ	
205	黒砂中層	上部層 小型瓦片	破片	L径(168) 高さ(45)	良	褐色	密 雲母・石英・砂粒	外面: 白漆部残ナデ、漆部残ハケミガキ 内面: 漆部残ハケミガキ	外面残片付
206	黒砂下層	上部層 小型瓦片	1/2	口径(118) 高さ(78) 厚径(9.1)	やや良	褐色	密 雲母・砂粒	外面: 漆部残ハケミガキ→縦ヘラミガキ 内面: 白漆部残高麗塗、漆部残ハケミガキ	内面黒色
207	黒砂下層	上部層 小型瓦片	6/8	L径:267 高さ:144 厚径:13.8	良	黄灰白色→褐色	密 雲母・石英・砂粒	外面: 漆部→漆部残ハケミガキ、漆部残ハケミガキ 内面: 漆部残ハケミガキ、漆部残ハケミガキ 接合部: 漆部残ハケミガキ、漆部残ハケミガキ	内外面: 漆部残片付
208	黒砂中層	上部層 高瓦片	2/3	口径:203 高さ(138) 厚径:11.3	良好	灰白色	密	外面: 漆部残ハケミガキ、漆部残ハケミガキ 内面: 漆部残ハケミガキ、漆部残ハケミガキ	内面黒色
209	黒砂中層	上部層 高瓦片	3/4	口径(150) 高さ:128 厚径:11.4	良好	褐色	密	外面: 漆部残ハケミガキ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 内面: 漆部残ハケミガキ、漆部残ハケミガキ 接合部: 漆部残ハケミガキ、漆部残ハケミガキ	内面黒色
210	黒砂中層	上部層 高瓦片	1/2(欠)	L径:21.6 高さ:13.8 厚径:13.5	良	黄灰白色	やや密	外面: 漆部残ナデ、漆部残ハケミガキ 内面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 接合部: 漆部残ナデ、漆部残ハケミガキ	内面黒色
211	黒砂下層	上部層 高瓦片	2/3	口径(222) 高さ(132) 厚径(13.4)	良	灰褐色	密 雲母・砂粒	外面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 内面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ	内面黒色
212	黒砂中層	上部層 高瓦片	3/3	口径(169) 高さ:123 厚径(10.4)	良好	黄褐色	密 砂粒	外面: 漆部残ハケミガキ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 内面: 漆部残ハケミガキ、漆部残ハケミガキ 接合部: 漆部残ハケミガキ	内面黒色
213	黒砂中層	上部層 高瓦片	2/3	L径(248) 高さ:165 厚径:17.2	良好	黄褐色	密	外面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 内面: 漆部残ハケミガキ、漆部残ハケミガキ 接合部: 漆部残ナデ、漆部残ハケミガキ	内面黒色
214	黒砂中層	上部層 高瓦片	1/2(欠)	口径:174 高さ:132 厚径(14.5)	良好	黄灰白色	密	外面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 内面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 接合部: 漆部残ナデ、漆部残ハケミガキ	内面黒色
215	黒砂中層	上部層 高瓦片	1/2(欠)	口径:165 高さ:137 厚径(13.2)	良好	灰褐色	密	外面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 内面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 接合部: 漆部残ナデ、漆部残ハケミガキ	内面黒色
216	黒砂中層	上部層 高瓦片	1/2(欠)	口径:21.6 高さ:10.5 厚径:13.3	良好	褐色	密	外面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 内面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 接合部: 漆部残ナデ、漆部残ハケミガキ	内面黒色
217	黒砂上層	上部層 高瓦片	1/2(欠)	口径:162 高さ(132) 厚径(12.4)	良好	黄褐色→褐色	密	外面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 内面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 接合部: 漆部残ナデ、漆部残ハケミガキ	内外面残片付
218	黒砂中層	上部層 高瓦片	3/4	口径(161) 高さ:158 厚径(14.4)	良好	黄褐色	密 雲母・石英・砂粒	外面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 内面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 接合部: 漆部残ナデ、漆部残ハケミガキ	内面黒色
219	黒砂上層	上部層 高瓦片	3/4	L径:14.8 高さ:136 厚径:10.7	良	黄灰白色	密	外面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 内面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 接合部: 漆部残ナデ、漆部残ハケミガキ	内面黒色
220	黒砂中層	上部層 高瓦片	5/8	口径:14.9 高さ:136 厚径:11.6	良	黄褐色	密 雲母・石英・砂粒	外面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 内面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 接合部: 漆部残ナデ、漆部残ハケミガキ	内面黒色
221	黒砂下層	上部層 高瓦片	5/8	口径(178) 高さ:110 厚径:8.9	良	褐色	密 雲母・石英・白色砂	外面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 内面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 接合部: 漆部残ナデ、漆部残ハケミガキ	内外面残片付
222	黒砂中層	上部層 高瓦片	半瓦	口径:174 高さ(43)	良	褐色	密 砂粒	外面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 内面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 接合部: 漆部残ナデ、漆部残ハケミガキ	内面黒色
223	黒砂中層	上部層 高瓦片	半瓦	口径:169 高さ(43)	良	黄灰白色	密 雲母・石英・砂粒	外面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 内面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 接合部: 漆部残ナデ、漆部残ハケミガキ	内外面残片付
224	黒砂下層	上部層 高瓦片	半瓦	口径:148 高さ(53)	良	黄褐色	密	外面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 内面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 接合部: 漆部残ナデ、漆部残ハケミガキ	内外面残片付
225	黒砂中層	上部層 高瓦片	半瓦	口径(134) 高さ(43)	良	褐色→灰褐色	密	外面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 内面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 接合部: 漆部残ナデ、漆部残ハケミガキ	内外面残片付
226	黒砂中層	上部層 高瓦片	半瓦	口径:162 高さ(53)	良	黄褐色	密	外面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 内面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 接合部: 漆部残ナデ、漆部残ハケミガキ	内外面残片付
227	黒砂中層	上部層 高瓦片	半瓦	口径:164 高さ(53)	良	黄褐色	密	外面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 内面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 接合部: 漆部残ナデ、漆部残ハケミガキ	内外面残片付
228	黒砂上層	上部層 高瓦片	半瓦 1/3	L径(156) 高さ(48)	良好	灰褐色	密	外面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 内面: 漆部残ナデ→縦ヘラミガキ、漆部残ハケミガキ 接合部: 漆部残ナデ、漆部残ハケミガキ	内面黒色





294	磯砂下層	土層部 散形砂台	1/2	口径:22.0 高さ:10.8 底径:20.0	良	灰色	密砂状	外周: 磯ナテ、受部傾斜下面による張伏文 内周: 受部傾斜ヘラミギキ、接合部傾ヘラズリ→磯ナテ、 脚部傾ヘラズリ、脚部傾ナテ	
295	磯砂下層	土層部 散形砂台	1/2	口径:21.8 高さ:10.7 底径:19.3	良	灰褐色	密砂・石夾・ 白色砂	外周: 磯ナテ 内周: 受部傾ヘラミギキ、接合部傾ヘラズリ→磯ナテ、 脚部傾・斜めヘラズリ、脚部傾ナテ	内周一部腐食
296	磯砂中層	土層部 散形砂台	1/3	口径:21.0 高さ:12.0 底径:17.2	良	灰褐色→灰 褐色	密	外周: 磯ナテ 内周: 受部傾・斜めヘラミギキ、接合部傾ヘラズリ→磯ナテ、 脚部傾ヘラズリ、脚部傾ナテ	内周一部腐食
297	磯砂中層	土層部 散形砂台	1/3	口径:20.5 高さ:11.7 底径:18.4	良	黄灰色	やや密 砂状	外周: 磯ナテ 内周: 受部傾ヘラミギキ、接合部傾ヘラズリ→磯ナテ、 脚部傾ヘラズリ、脚部傾ナテ	
298	磯砂1層	土層部 散形砂台	1/2	口径:15.9 高さ:9.1 底径:12.9	良好	濃褐色	密	外周: 磯ナテ 内周: 受部傾ヘラズリ→磯ヘラミギキ、接合部傾ヘラズ リ→磯ナテ、脚部傾ヘラズリ、脚部傾ナテ	内周脚部ヘラによる 腐蝕1条
299	磯砂中層	土層部 散形砂台	3/4	口径:21.0 高さ:10.4 底径:18.0	良好	黄灰色	密	外周: 磯ナテ 内周: 受部傾ヘラズリ→磯ヘラミギキ、接合部傾ヘラズ リ→磯ナテ、脚部傾ヘラズリ、脚部傾ナテ	内周脚部ヘラによる 腐蝕1条
300	磯砂下層	土層部 散形砂台	1/2	LH16(21.2) 高さ:9.5 底径:17.8	やや良	灰褐色	密 石灰・砂状	外周: 磯ナテ 内周: 受部傾・傾ヘラミギキ、接合部傾ヘラズリ→磯ナテ、 脚部傾ヘラズリ 脚部傾内形造し	
301	磯砂下層	土層部 散形砂台	1/2	口径:17.9 高さ:9.5 底径:15.7	良	黄灰色	密 密砂	外周: 磯ナテ、受部・脚部傾ヘラミギキ 内周: 受部傾・傾ヘラミギキ、接合部傾ヘラズリ→磯ナテ、 脚部傾ヘラズリ 脚部傾内形造し	
302	磯砂中層	土層部 散形砂台	1/2	口径:18.9 高さ:9.8 底径:15.6	良	灰褐色	密	外周: 磯ナテ 内周: 受部傾ヘラズリ、接合部傾ヘラズリ→磯ナテ、 脚部傾ヘラズリ、脚部傾ナテ	内外面腐食
303	磯砂上層	土層部 散形砂台	1/2	口径:16.4 高さ:9.0 底径:15.4	良好	灰褐色	密 砂状	外周: 受部傾ヘラミギキ、接合部傾ヘラズリ→磯ナテ、 内周: 受部傾・傾ヘラミギキ、接合部傾ヘラズリ→磯ナテ、 脚部傾ヘラズリ、脚部傾ナテ	
304	磯砂中層	土層部 散形砂台	3/4	口径:17.1 高さ:9.3 底径:15.3	良	黄灰色	密 砂状	外周: 磯ナテ 内周: 受部傾・斜めヘラミギキ、接合部傾ヘラズリ→磯 ナテ、脚部傾ヘラズリ、脚部傾ナテ	内周脚部ヘラによる 腐蝕1条
305	磯砂上層	土層部 散形砂台	1/2	口径:16.0 高さ:9.9 底径:15.4	良	密褐色	密砂・石夾・ 白色砂	外周: 磯ナテ、受部・脚部傾ヘラミギキ 内周: 受部傾ヘラミギキ、接合部傾ヘラズリ→磯ナテ、 脚部傾ヘラズリ、脚部傾ナテ	内外面腐
306	磯砂1層	土層部 散形砂台	1/2	口径:17.4 高さ:9.7 底径:8.0	良好	灰褐色	密	外周: 磯ナテ 内周: 受部傾ヘラズリ→ヘラミギキ、接合部傾ヘラズリ→ 磯ナテ、脚部傾ヘラズリ	内周脚部腐
307	磯砂中層	土層部 散形砂台	3/4	LH16(16.0) 高さ:9.2 底径:14.6	良好	濃褐色	密	外周: 磯ナテ、受部傾ヘラミギキ 内周: 受部傾ヘラズリ→傾ヘラミギキ、接合部傾ヘ ラズリ→磯ナテ、脚部傾ヘラズリ、脚部傾ナテ	
308	磯砂下層	土層部 散形砂台	受部一部 合部	口径:21.3 高さ:8.8	良	灰褐色	密 石灰・白色 砂・砂状	外周: 磯ナテ 内周: 受部傾・傾ヘラミギキ、接合部傾ヘラズリ→磯ナテ、 脚部傾ヘラズリ	
309	磯砂中層	土層部 散形砂台	1/2	LH16:17.8 高さ:7.2	良好	灰褐色	密	外周: 磯ナテ 内周: 受部傾・傾ヘラミギキ、接合部傾ヘラズリ→磯ナテ、 脚部傾ヘラズリ	
310	磯砂上層	土層部 散形砂台	2/3	LH16:16.1 高さ:7.9	良好	濃褐色	密	外周: 磯ナテ、接合部傾・傾ヘラミギキ 内周: 受部傾・傾ヘラミギキ、接合部傾ヘラズリ→磯ナテ、 脚部傾ヘラズリ	
311	磯砂中層	土層部 散形砂台	3/5	高さ:8.6 底径:18.6	良	灰褐色	密 砂状	外周: 磯ナテ 内周: 受部傾ヘラズリ→傾ヘラミギキ、接合部傾ヘラズリ→ 磯ナテ、脚部傾ヘラズリ	内周脚部ヘラによる 腐蝕4条以上
312	磯砂下層	土層部 散形砂台	2/3	高さ:7.7 底径:18.7	良	黄灰色	密	外周: 磯ナテ、接合部傾ヘラミギキ 内周: 受部傾ヘラズリ→傾ヘラズリ→磯ナテ、脚部傾ヘ ラズリ	内周脚部ヘラによる 腐蝕1条
313	磯砂中層	土層部 散形砂台	脚部 2/3	高さ:5.8 底径:15.4	良	黄灰色	密 砂状	外周: 磯ナテ、脚部上部竹管文1箇 内周: 受部傾ヘラミギキ、接合部傾ヘラズリ→磯ナテ、 脚部傾ヘラズリ	内周脚部ヘラによる 腐蝕1条
314	磯砂上層	土層部 散形砂台	2/3	高さ:7.3 底径:15.4	良好	濃褐色	密	外周: 磯ナテ 内周: 受部傾ヘラズリ→磯ナテ、接合部傾ヘラズリ→磯ナ テ、脚部傾ヘラズリ	内周脚部ヘラによる 腐蝕1条
315	磯砂中層	土層部 散形砂台	1/2	高さ:7.5 底径:17.0	良	濃褐色	密砂・石灰・ 白色砂	外周: 磯ナテ 内周: 受部傾ヘラミギキ、接合部傾ヘラズリ→磯ナテ、 脚部傾・斜めヘラズリ	
316	磯砂上層	土層部 散形砂台	脚部 1/3	高さ:7.1 底径:16.8	良	濃褐色	密 角閃石・雲 母・石英・ 砂状	外周: 磯ナテ 内周: 受部傾ヘラミギキ、接合部傾ヘラズリ→磯ナテ、 脚部傾ヘラズリ、脚部傾ナテ	
317	磯砂上層	土層部 散形砂台	4/5 1/4	LH16(16.8) 高さ:5.9	良	灰褐色	密	外周: 磯ナテ 内周: 受部傾ヘラミギキ、接合部傾ヘラズリ→磯ナテ、 脚部傾ヘラズリ	
318	磯砂下層	土層部 散形砂台	1/4	高さ:4.8 底径:15.6	良好	灰褐色	密 砂状	外周: 磯ナテ 内周: 受部傾ヘラズリ、接合部傾ヘラズリ→磯ナテ、脚部傾 ヘラズリ 脚部傾内形造し	
319	磯砂下層	土層部 散形砂台	脚部 1/4	高さ:5.5 底径:18.8	良好	濃褐色→灰 褐色	密	外周: 磯ナテ 内周: 脚部傾ヘラズリ、脚部傾ナテ	
320	磯砂上層	土層部 散形砂台	1/2	口径:14.0 高さ:8.8 底径:12.8	良	灰褐色	密	外周: 磯ナテ、受部傾・傾ヘラミギキ、脚部傾ヘラミギキ 内周: 受部傾・傾ヘラミギキ、接合部傾ヘラズリ→磯ナテ、 脚部傾ヘラズリ、脚部傾ナテ	内周脚部腐
321	磯砂中層	土層部 散形砂台	2/3	口径:14.8 高さ:7.9 底径:13.6	良好	濃褐色	密 砂状	外周: 磯ナテ、受部・脚部傾・傾ヘラミギキ 内周: 受部傾・傾ヘラミギキ、接合部傾ヘラズリ、脚部傾 ヘラズリ	内周一部腐食
322	磯砂上層	土層部 散形砂台	受部 1/3	口径:16.2 高さ:6.3	良	黄灰色	密	外周: 受部傾傾斜面→傾ヘラミギキ 内周: 受部傾・傾ヘラミギキ、脚部傾ヘラズリ	
323	磯砂上層	土層部 散形砂台	3/4	口径:8.8 高さ:9.9 底径:10.9	良好	灰褐色	密	外周: 受部傾ヘラミギキ→傾ヘラミギキ、脚部傾ヘラズリ 内周: 受部傾ヘラミギキ、接合部傾ヘラズリ、脚部傾ヘラズリ、 脚部傾ナテ	

324	磁粉下層	土層部 小型磁石	1/3	口径(87) 器高(79) 重量(125)	灰砂	灰褐色	赤	外周:受胎線ヘラミダキ、胎線部ハケメ一版ヘラミダキ 内周:受胎線ハケメ一版ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ→線ナゲ 胎線部ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ 胎線部ヘラミダキ	内周受胎線部
325	磁粉上層	土層部 小型磁石	3/4	口径: 85 器高: 76 底径: 125)	灰	灰褐色	赤	外周: 受胎線ヘラミダキ、胎線部ハケメ一版ヘラミダキ 内周: 受胎線ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ→線ナゲ 胎線部ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ 胎線部ヘラミダキ	
326	磁粉中層	土層部 小型磁石	1/4	口径(90) 器高(74) 底径(110)	灰	褐色	赤 緑	外周: 受胎線ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ→線ナゲ 内周: 受胎線ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ→線ナゲ 胎線部ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ 胎線部ヘラミダキ	
327	磁粉上層	土層部 小型磁石	1/3	口径(84) 器高(87)	灰砂	灰褐色	赤	外周: 受胎線ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ一版ヘラミダキ 内周: 受胎線ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ→線ナゲ 胎線部ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ 胎線部ヘラミダキ	
328	磁粉上層	土層部 小型磁石	受胎 1/3	口径(107) 器高(49)	灰砂	灰色	赤	外周: 受胎線ヘラミダキ 内周: 受胎線ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ 胎線部ヘラミダキ	
329	磁粉下層	土層部 小型磁石	受胎~胎 部	口径(102) 器高(48)	やや灰	灰色	赤 黒 赤 石 赤 石	外周: 胎線部ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ 内周: 胎線部ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ 胎線部ヘラミダキ	内周受胎線部 胎線部
330	磁粉下層	土層部 小型磁石	胎部	口径(108) 器高(35)	灰	灰色	赤	外周: 胎線部ヘラミダキ 内周: 胎線部ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ 胎線部ヘラミダキ	内周受胎線部 胎線部
331	磁粉下層	土層部 小型磁石	胎部 1/3	口径(60) 器高(108)	灰砂	灰褐色	赤	外周: 胎線部ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ 内周: 胎線部ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ 胎線部ヘラミダキ	
332	磁粉上層	土層部 胎線部	1/3	口径(120) 器高(51) 底径(55)	灰	褐色	赤 砂	外周: 胎線部ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ 内周: 胎線部ヘラミダキ	
333	磁粉中層	土層部 胎線部	胎線部 1/3	口径(38) 器高(125)	灰	灰色	赤 石 灰 砂	外周: 胎線部ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ 内周: 胎線部ヘラミダキ	
334	磁粉上層	土層部 胎線部	胎線部 1/3	口径(124) 器高(175)	灰	灰色	赤 石 灰 砂	外周: 胎線部ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ 内周: 胎線部ヘラミダキ	内周胎線部
335	磁粉中層	土層部 胎線部	胎線部 1/3	口径(136) 器高(136)	灰砂	灰褐色	赤 黒 赤 石 灰 砂	外周: 胎線部ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ 内周: 胎線部ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ 胎線部ヘラミダキ	胎線部 胎線部
336	磁粉下層	土層部 胎線部	胎線部 1/3	口径(205)	灰	灰褐色	赤 白 石 灰 砂	外周: 胎線部ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ 内周: 胎線部ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ 胎線部ヘラミダキ	胎線部
337	磁粉上層	土層部 胎線部	胎線部 1/3	口径(14~18)	灰	褐色	赤 石 灰 砂	外周: 胎線部ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ 内周: 胎線部ヘラミダキ	胎線部
338	磁粉中層	土層部 胎線部	胎線部 1/3	口径(38) 器高(36)	灰	褐色	赤 白 石 灰 砂	外周: 胎線部ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ 内周: 胎線部ヘラミダキ	胎線部
339	磁粉下層	土層部 胎線部	胎線部 1/3	口径(52) 器高(36) 底径(36)	灰	灰褐色	赤 白 石 灰 砂	外周: 胎線部ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ 内周: 胎線部ヘラミダキ	胎線部
340	磁粉上層	土層部 胎線部	胎線部 1/3	口径(34) 器高(34)	灰	褐色	赤 白 石 灰 砂	外周: 胎線部ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ 内周: 胎線部ヘラミダキ	胎線部
341	磁粉中層	土層部 胎線部	胎線部 1/3	口径(31) 器高(39) 底径(34)	やや灰	灰褐色	赤 黒 赤 石 灰 砂	外周: 胎線部ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ 内周: 胎線部ヘラミダキ	胎線部
342	磁粉上層	土層部 胎線部	胎線部 1/3	口径(39) 器高(40)	やや灰	灰褐色	赤 黒 赤 石 灰 砂	外周: 胎線部ヘラミダキ、胎線部ヘラミダキ 内周: 胎線部ヘラミダキ	胎線部

第61表 1区SD02出土金属製品観察表(第116図)

遺物 No.	遺物-地区 出土層位	種類	形状 特徴	材質	最大径 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	メタル	ランク	重量 (g)	備考
343	磁粉上層	刀子	ほぼ定形	鉄	全長(192) 刃部(90) 底径(86)	刃部:12 底径:7	刃部:2 底径:2	6	磨化(△)	5	11.6	
344	磁粉中層	鉄鏡	ほぼ定形	鉄	全長(89) 刃部(14) 底径(68) 底径(7)	刃部:11 底径:6 底径:5	刃部:2 底径:3 底径:2	4	磨化(△)	4	6.0	
345	磁粉中層	刀子	刃部	鉄	(75)	12.9	1	4	磨化(△)	3	1.7	
346	磁粉中層	棒状不明品	棒状	鉄	(75)	4	1	3	磨化(△)	3	8.1	
347	磁粉中層	小刀	刃部	鉄	(80)	13.5	1.7	6	磨化(△)	2	12.6	
348	磁粉中層	棒状不明品	棒状	鉄	(37)	6	5	4	磨化(△)	2	4.0	

第62表 1区SD02出土石器観察表(第116図)

遺物 No.	遺物-地区 出土層位	種類	遺存状態	最大径 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	材質	備考
349	磁粉中層	磨石	磨石	50	38	12	18.1	閃石	刃部角7度
350	磁粉中層	磨石	磨石	1/2 (94)	(79)	(44)	401.7	灰山岩	磨石
351	磁粉中層	磨石	ほぼ定形	81	80	37	312.7	砂岩	磨石
352	磁粉中層	磨石	ほぼ定形	(63)	32	28	63.6	燧石	磨石
353	磁粉上層	磨石	磨石	66	18	36	36.4	燧石	磨石
354	磁粉中層	磨石	ほぼ定形	40	38	25	5.8	燧石	磨石
355	磁粉下層	磨石	ほぼ定形	86	51	35	29.1	燧石	磨石
356	磁粉上層	磨石	ほぼ定形	71	55	50	36.7	燧石	磨石
357	磁粉下層	磨石	ほぼ定形	121	65	79	244.1	燧石	磨石
358	磁粉中層	磨石	ほぼ定形	137	72	72	280.2	燧石	磨石
359	磁粉上層	石鏡	定形	145	146	25	794.4	灰山岩	5行欠損22mm 下打欠損22mm
360	磁粉中層	石鏡	定形	103	72	28	226.4	アイオライト	上打欠損12mm 下打欠損41mm



361	塚形中層	石鏡	彫形	彫形	142	96	46	796.5	ガイサイト		左打欠幅50mm・右打欠幅30mm
362	塚形中層	磨石・巴西石	彫形	彫形	94	90	39	428.8	ガイサイト		
363	塚形中層	石鏡	彫形	彫形	148	62	36	503.8	ガイサイト		
364	塚形中層	白石	柱状彫形	(181)	(135)	82	3100.0	花崗岩			

第63表 4区SD04出土土器観察表 (第118図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	塚形下層	土師器 甕	口縁-体 部1/2	口径(18.0) 径高(22.0) 胴高(22.8)	良	褐色	密 石灰・小石粒 多量	外面:口縁部横ナゲ、体部粗い噴(ハケメ 内面:口縁部横ナゲ、体部縦・横ヘラナゲ)	出庫
2	塚形下層	土師器 杯	口縁-体 部1/2	口径(18.8) 径高(10.6)	良	灰褐色	密 霏多・石灰・ 砂粒	外面:口縁部横ナゲ、腹部以下ハケメ 内面:口縁部横ナゲ、体部縦ヘラナゲ)	外部一部焼付
3	塚形上層	土師器 杯	4/5	口径(11.1) 径高(4.9)	やや良	褐色	密 石灰・小石 粒・砂粒	外面:縦割部一横ヘラミガキ 内面:横ヘラミガキ	全面赤形
4	塚形下層	須恵器 短甕	口縁部	口径(10.8) 径高(2.0)	良好	青灰色	密 白色粒・黒色 粒	内外面:面転ナゲ	口縁部露、外面局 部自然剥
5	塚形下層	須恵器 杯	2/3	口径(13.8) 径高(4.6)	良好	黄灰白色	密 白色粒・砂粒	外面:口縁部横ヘラナゲ、口縁部以下横ナゲ 内面:口縁部横ナゲ、腹部以下横ヘラナゲ)	
6	塚形下層	須恵器 杯	2/3	口径(10.5) 径高(8.2)	良好	灰色	密	外面:口縁部一横割部横ナゲ、腹部ヘラナゲ 内面:口縁部一横割部横ナゲ、腹部ナゲ	

第64表 4区SD05出土土器観察表 (第120図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	塚形中層	土師器 甕	破片	口径(20.4) 径高(2.7)	良	黄灰白色	密 石灰・砂粒	内外面:横ナゲ	外縁部露
2	塚形中層	土師器 甕	破片	口径(17.4) 径高(3.2)	良	褐色	密 砂粒	外面:横ナゲ 内面:口縁部横ナゲ、腹部以下横ヘラナゲ)	
3	塚形下層	須恵器 杯	破片	口径(11.8) 径高(2.5)	良好	灰色	密 白色粒	内外面:面転ナゲ	

第65表 4区SD05出土土器観察表 (第120図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	器種	遺存状態	最大径 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考
4	塚形中層下層	打製石斧	刃部	168	93	21	418.6	陸奥安山岩	

第66表 4区SD07出土土器観察表 (第122図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	塚形中層	土師器 甕	破片	口径(17.4) 径高(4.0)	良	黄灰白色	密 霏多・石灰・ 砂粒	外面:口縁部横ナゲ、腹部横ヘラナゲ 内面:口縁部横ナゲ、腹部以下横ヘラナゲ)	

第67表 1区SB01出土土器観察表 (第130図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	Pit65	土師器 甕	破片	口径(25.0) 径高(3.1)	良	灰褐色	密 砂粒	外面:横ナゲ 内面:口縁部横ナゲ、腹部横ヘラナゲ)	
2	Pit62	須恵器 甕	破片	口径(17.4) 径高(1.7)	良好	暗赤灰色	密	内外面:面転ナゲ	
3	Pit62	須恵器 杯	破片	口径(19.8) 径高(3.3)	良好	暗赤灰色	密	内外面:面転ナゲ	
4	Pit62	須恵器 杯	破片	口径(1.4) 径高(6.6)	良好	黄灰色	密	外面:体部縦ヘラナゲ、底部面転ナゲ 内面:面転ナゲ	
5	Pit62	土師 杯	1/4	口径(4.3) 径高(4.0)	良	黄灰白色	密		重量:26.5g

第68表 1区SB02出土土器観察表 (第132図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	Pit21	須恵器 甕	破片	口径(15.6) 径高(2.3)	良	灰色	密	内外面:面転ナゲ	

第69表 1区SB04出土土器観察表 (第135図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	Pit292	土師器 甕	破片	径高(1.9) 径高(11.6)	良	褐色	密	外面:ナゲ、筋付高台 内面:ナゲ	全面赤形

第70表 1区SB08出土土器観察表(第140図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Pt164	十部鉢 器	破片	L径(21.2) 器高( 3.7)	良	褐色	黄 砂粒	外面:口縁部ナテ→ヘラメ 内面:口縁部ナテ、器底以下横ヘラケズリ	
2	Pt164	十部鉢 器	1/2	口径(14.0) 器高( 4.7) 底径( 7.0)	良	灰褐色	密	外面:横ヘラミガキ 内面:黒色灰層→横ヘラミガキ	褐色土器

第71表 2区SB01出土土器観察表(第145図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Pt155	土部鉢 器	破片	L径(10.8) 器高( 2.4) 底径( 7.0)	良	のり色	黄 砂粒	外面:口縁部→体部縦ナテ、体部ナテ→器底ヘラケズリ 内面:横ナテ	内外両側→赤彩

第72表 2区SB11出土土器観察表(第156図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Pt136	灰部鉢 器	1/8	L径(11.2) 器高( 2.3) 底径( 8.2)	良好	青灰色	密 白色粒・黒色 粒	外面:口縁部→体部縦ナテ、器底縦線赤切り 内面:口縁部→体部縦ナテ、灰部ナテ	内面口縁部→体部 白黒線状

第73表 2区SB16出土土器観察表(第162図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Pt149	灰部鉢 器	破片	器高( 2.5)	良好	青灰色	密	外面:口縁部ナテ、天舟部横ヘラケズリ 内面:口縁部縦ナテ、天舟部ナテ	

第74表 3区SB01出土土器観察表(第168図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Pt5	灰部鉢 器	底部	器高( 1.0) 底径(12.0)	やや良	灰色	密	外面:胴部ナテ、底部縦線赤切り 内面:ナテ	外面底縁ヘラ横き
2	Pt5	灰部鉢 器	口縁 残片	L径(13.8) 器高( 2.0)	良	青灰色	密 石灰・白色 粒・黒色粒、 砂粒	内外面:縦線ナテ	外周口縁部自然剥 離
3	Pt5	灰部鉢 器	破片	L径(12.8) 器高( 2.4) 底径( 9.2)	やや良	灰色	密	外面:口縁部→体部縦ナテ、底部縦線赤切り 内面:口縁部→体部縦ナテ、底部ナテ	

第75表 3区SB03出土土器観察表(第171図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Pt200	灰部土器	破片	L径(11.2) 器高( 2.7)	やや良	褐色	やや粗	内外面:指痕調整	

第76表 3区SB04出土土器観察表(第173図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Pt397	灰部鉢 器	破片	器高( 2.4) 底径( 7.0)	良好	青灰色	密 白色粒	外面:体部縦ナテ、底部縦線赤切り 内面:体部縦ナテ、灰部ナテ	
2	Pt310	灰部鉢 器	底部	器高( 9.8)	良好	青灰色	密 白色粒	外面:体部縦ナテ、底部縦線赤切り、器付高台 内面:体部縦ナテ、底部ナテ	
3	Pt310	十部鉢 器	破片	器高( 2.9)	良	褐色	密 赤白・白色粒	外面:横ヘラケズリ 内面:黒色灰層→横ヘラミガキ	褐色土器

第77表 3区SB04出土金属製品観察表(第173図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	総重量	メタリ度	ウツク	重量 (g)	備考
4	Pt310	刀子	基部	鉄	38	11	2	5	硬化 (△)	2	2.9	目前欠1部

第78表 3区SB05出土土器観察表(第175図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Pt399	灰部鉢 器	破片	L径(11.2) 器高( 2.5)	良好	青灰色	密 砂粒	内外面:縦線ナテ	

第79表 3区SB07出土土器観察表(第178図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	Pl884	土師器 甕	破片	口径(13.9) 器高: 1.3 底径(10.2)	良	褐色	密	外面: L線部~体部横ナガ、体部下~底部ヘラケズリ 内面: ナア	赤影
2	Pl880	灰土器 甕	破片	口径(19.7) 器高: 1.6)	良	暗赤灰色	密	外面: 胎土ナア 内面: 線部胎土ナア、L線部胎土ヘラケズリ	

第80表 3区SB08出土土器・土製品観察表(第180図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	Pl334	土師器 甕	破片	口径(14.8) 器高: 2.2 底径(11.8)	良	褐色	密 石灰・砂粒	外面: L線部~体部横ヘラケズリ、底部ヘラケズリ 内面: 横ヘラケズリ	赤影

第81表 5区SB02出土土器観察表(第193図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	Pl4	灰土器 甕	1/2	口径(10.5) 器高: 2.8 底径( 7.0)	良	灰色	密	外面: L線部~体部胎土ナア、底部胎土未切り 内面: 胎土ナア	

第82表 3区SI01出土土器観察表(第201図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂上層	土師器 甕	破片	口径(31.0) 器高( 6.1)	良	褐色	密 密合・石灰・砂粒	外面: L線部横ナガ、器高以下胎土ナア 内面: L線部横ナガ、器高以下胎土ナア	
2	埋砂最上層	土師器 甕	破片	口径(29.0) 器高( 5.8)	良	褐色	密 密合・石灰・砂粒	外面: L線部横ナガ、器高以下胎土ナア 内面: L線部横ナガ、器高以下胎土ナア	
3	埋砂最上層	土師器 甕	1/2	口径: 12.6 器高: 3.2 底径: 7.5	良	褐色	密 砂粒	外面: L線部~体部横ナガ、体部下~底部ヘラケズリ 内面: L線部~体部横ナガ、底部ナア	外面胎土以外 赤影
4	埋砂7層	土師器 甕	完整	口径: 13.4 器高: 3.0 底径: 9.0	良	暗褐色	密 砂粒	外面: L線部~体部横ナガ、体部下~底部ヘラケズリ 内面: L線部~体部横ナガ、底部ナア	全面赤影
5	埋砂中層	土師器 甕	破片	口径(13.4) 器高: 1.5 底径(13.0)	良	暗褐色	密 砂粒	外面: L線部~体部横ナガ、体部下~底部ヘラケズリ 内面: L線部~体部横ナガ、底部ナア	赤影
6	埋砂最上層	灰土器 甕	1/4	口径(12.6) 器高: 4.0 底径( 7.4)	良好	青灰色	密	外面: L線部~体部胎土ナア、体部下ナアヘラケズリ、底部胎土未切り 内面: L線部~体部胎土ナア	内面胎土付
7	埋砂上層	灰土器 甕	1/3	口径(11.4) 器高: 4.0 底径( 8.4)	良好	青灰色	密 砂粒	外面: L線部~体部胎土ナア、底部胎土未切り 内面: 胎土ナア	
8	埋砂中層	灰土器 甕	1/2	口径(10.6) 器高: 4.0 底径( 8.2)	良好	青灰色	密 砂粒	外面: L線部~体部胎土ナア、体部下横ナガヘラケズリ、底部胎土未切り 内面: 胎土ナア	
9	埋砂最上層	灰土器 甕	1/3	口径(14.8) 器高: 2.8 底径(11.2)	良好	青灰色	密	外面: L線部~体部胎土ナア、体部下ナア、底部胎土未切り 内面: 胎土ナア	
10	埋砂上層	灰土器 甕	1/2	口径(12.9) 器高: 4.1 底径( 8.6)	良好	灰色	密	外面: 胎土ナア、胎土未切り 内面: 胎土ナア	横ヒムラあり
11	埋砂最上層	灰土器 甕	1/2	口径: 5.9	良好	暗赤灰色	密 石灰・砂粒	内外面: 胎土ナア	

第83表 3区SI02出土土器観察表(第203図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂中層	土師器 甕	破片	口径(26.2) 器高( 5.1)	良	褐色	密 石灰・砂粒	外面: 横ナガ 内面: L線部横ナガ、器高以下胎土ナア	外面胎土付
2	埋砂中層	土師器 甕	破片	口径(28.4) 器高( 6.5)	良	暗褐色~褐色	密 砂粒	外面: 横ナガ 内面: L線部横ナガ、器高以下胎土ナア	内面胎土付
3	埋砂中層	土師器 甕	破片	口径(15.6) 器高( 3.0)	良	暗褐色	密 砂粒	内外面: 横ナガ	赤影
4	埋砂上層	灰土器 甕	完整	口径: 11.1 器高: 3.8 底径: 8.7	良好	青灰色	密 石灰	外面: L線部~体部胎土ナア、底部胎土未切り 内面: L線部~体部胎土ナア、底部ナア	
5	埋砂最上層	灰土器 甕	完整	口径(13.9) 器高: 1.9 底径(13.6)	良	褐色	密 石灰	外面: 体部胎土ナア、底部胎土未切り、胎土未切り 内面: ナア	
6	埋砂最上層	灰土器 甕	破片	口径(17.6) 器高( 2.7)	良好	青灰色	白色粒	外面: L線部~体部胎土ナア、体部下ナアヘラケズリ 内面: 胎土ナア	
7	埋砂最上層	灰土器 甕	破片	口径( 2.0) 器高( 2.0)	良	灰褐色	密	内外面: 胎土ナア	

第84表 4区SI06出土土器・土製品観察表 (第205図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (g)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	灰層直上	土師器 鉢	破片	口径(18.9) 器高(2.8)	良	灰褐色	密	内外面：横ナテ	内面底付着
2	灰層直上	土師器 鉢	破片	口径(26.6) 器高(3.2)	良	黄褐色	密 雲母・白色 粒・砂粒	外側：横ナテ 内側：口縁起線ナテ、胴部以下横ヘラケズリ	内面縁部以下横付 着
3	灰層直上	須恵器 55	1/2	口径(12.0) 器高(3.7) 底径(4.6)	良	青灰色	密	外側：口縁部一帯彫刻ナテ、底部刻線未切り 内側：ナテ	
4	埋砂中	須恵器 55	破片	口径(17.4) 器高(2.2)	良	青灰色	密	内外側：彫刻ナテ	
5	埋砂中層	土師 甕	(41.7 定形)	口径(3.6) 高(1.1) 厚さ(1.1)	良	灰褐色	密 雲母		34g

第85表 5区甕出土土器観察表 (第207図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (g)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	土師器 甕	脚部	口径(4.5) 器高(11.2)	良	褐色	密 雲母・砂粒	内外側：縦・横ヘラケズリ	

第86表 5区甕出土土器観察表 (第207図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大径 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考
2	埋砂中	砥石	ほぼ完整	149	90	71	960.9	礫石	

第87表 2区SK09出土土器・土製品観察表 (第209図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (g)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂上層	土師器 甕	口縁一帯 破片	口径(31.4) 器高(8.0)	やや良	黄褐色	密 石灰・白色粒	外側：横ナテ 内側：口縁起線ナテ、胴部以下横ヘラケズリ	外周底付着
2	埋砂上層	土師器 甕	破片	口径(32.2) 器高(4.2)	良	黄褐色	密 雲母・白色粒	外側：横ナテ 内側：口縁起線ナテ、胴部以下横ヘラケズリ	内面一帯底付着
3	埋砂上層	土師器 甕	口縁一帯 破片	口径(31.8) 器高(6.1)	良	黄褐色	密 雲母・白色粒	外側：口縁起線ナテ、胴部以下横ヘラケズリ 内側：口縁起線ナテ、胴部以下横ヘラケズリ	内面一帯底付着
4	埋砂上層	土師器 甕	破片	口径(30.4) 器高(6.0)	やや良	黄褐色	密 雲母・白色粒	外側：口縁起線ナテ、胴部以下横ヘラケズリ 内側：口縁起線ナテ、胴部以下横ヘラケズリ	内面一帯底付着
5	埋砂上層	土師器 甕	破片	口径(16.3) 器高(2.9)	良好	灰褐色	密 白色粒	内外側：横ナテ	内面底付着
6	埋砂上層	土師器 甕	1/8	口径(13.6) 器高(3.4)	良好	黄褐色	密 白色粒	内外側：横ナテ	内外底付着
7	埋砂上層	土師器 甕	破片	口径(18.6) 器高(2.1)	良好	黄褐色	密	外側：口縁部一帯彫刻ナテ、胴部以下横ヘラケズリ 内側：横ヘラミナキ	内外底付着
8	埋砂中	土師器 甕	破片	口径(13.3) 器高(1.7)	良好	灰褐色	密 石灰・白色粒	内外側：横ナテ	内外周口縁部底付着
9	埋砂中	土師器 三叉支脚	脚部	口径(10.8) 器高(1.8)	良	褐色	密 雲母・白色粒	外側：縦・横ヘラケズリ	一帯底付着 地面底付着
10	埋砂中層	須恵器 55	口縁一帯 破片	口径(18.8) 器高(11.6) 底径(28.0)	良好	青灰色	密	外側：口縁部一帯彫刻ナテ、胴部以下横ヘラケズリ 内側：口縁部一帯彫刻ナテ、胴部以下横ヘラケズリ	一帯底付着 外側一内面口縁部 自然脱落
11	埋砂中層	須恵器 55	破片	口径(10.9) 器高(2.2)	良好	青灰色	密 白色粒	外側：両ホテ 内側：ナテ	外周口縁部第一内 面自然脱落
12	埋砂中層	須恵器 55	底部	口径(8.3)	やや良	灰色	密 白色粒	外側：体部起線ナテ、体部以下横ヘラケズリ 内側：ナテ	底面起線ナテ
13	埋砂中	須恵器 55	破片	口径(16.5) 器高(2.3)	良	灰色	密	外側：口縁部起線ナテ、体部起線ナテ 内側：口縁部起線ナテ、体部起線ナテ	内面一帯底付着
14	埋砂上層	須恵器 55	1/4	口径(13.2) 器高(3.6) 底径(5.5)	良好	赤褐色	密 白色粒	外側：口縁部一帯彫刻ナテ、底部刻線未切り 内側：口縁部一帯彫刻ナテ、底部ナテ	
15	埋砂中	須恵器 55	4/5	口径(11.7) 器高(4.0) 底径(7.6)	良好	青灰色	密 白色粒	外側：口縁部一帯彫刻ナテ、底部刻線未切り 内側：口縁部一帯彫刻ナテ、底部ナテ	
16	埋砂中層	須恵器 55	1/4	口径(13.0) 器高(2.6) 底径(11.3)	良好	青灰色	密 白色粒	外側：口縁部一帯彫刻ナテ、体部以下横ヘラケズリ、底部刻線未切り 内側：口縁部一帯彫刻ナテ、底部ナテ	
17	埋砂中	須恵器 55	1/5	口径(10.6) 器高(3.1) 底径(8.5)	良好	青灰色	密 雲母・白色粒	外側：口縁部一帯彫刻ナテ、底部刻線未切り 内側：彫刻ナテ	
18	埋砂中	須恵器 55	1/4	口径(12.8) 器高(3.6) 底径(8.0)	良好	灰色	密 白色粒	外側：口縁部一帯彫刻ナテ、底部刻線未切り 内側：口縁部一帯彫刻ナテ、底部ナテ	
19	埋砂上層	須恵器 55	1/3	口径(21.1) 器高(7.8)	不良	灰色	密 砂粒	外側：体部起線ナテ、底部刻線未切り 内側：体部起線ナテ、底部ナテ	
20	埋砂中	須恵器 55	1/4	口径(17.2) 器高(4.0) 底径(11.2)	良	灰色	密 白色粒	外側：口縁部一帯彫刻ナテ、底部刻線未切り、胴付内側 内側：口縁部一帯彫刻ナテ、底部ナテ	
21	埋砂上層	須恵器 55	1/4	口径(3.5) 器高(6.6)	良好	青灰色	密 白色粒・黒色 粒・砂粒	外側：体部起線ナテ、底部刻線未切り、胴付内側 内側：体部起線ナテ、底部ナテ	
22	埋砂中層	須恵器 55	1/4	口径(3.7) 器高(9.5)	良好	赤褐色	密 白色粒	外側：体部起線ナテ、底部刻線未切り、胴付内側 内側：体部起線ナテ、底部ナテ	

23	埴砂上層	土師器杯	鏡片	口径(23) 器高(7.8)	良	褐色色	褐色色	外周：体部縮ナテ、底部ヘラケズリ 内面：ナテ	内外面赤彩 内底赤彩後縁部
24	埴砂中	須恵器杯	1/3	口径(12.4) 器高(4.1) 器底(8.9)	良	青灰色	紫白色	外周：口縁部~体部縮ナテ、底部縮赤彩り 内面：口縁部~体部縮ナテ、底部ナテ	外周底面赤彩
25	埴砂中	土師	丸形	口径：6.4 器高：2.0 器底：2.2	良	褐色色	紫		重量：22.6g

第88表 2区SK09出土土器観察表(第209図)

遺物No.	遺跡・地区 出土層位	種類	部位 所在率	法量 (cm)	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考
26	埴砂上層	有蓋石函	1/1	(51)	(42)	(42)		80.5	砂岩	

第89表 5区SI19出土土器観察表(第211図)

遺物No.	遺跡・地区 出土層位	種類	部位 所在率	法量 (cm)	形状	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埴砂中	土師器 鉢	1/2	口径(11.6) 器高(17.9) 器底(17.1)	良	灰褐色	紫 紫褐色・赤彩	外周：口縁部縮ナテ、底部以下段ハケメ、底部縮赤彩り 内面：口縁部縮赤彩り一横ナテ、体部縮赤彩り、体部縮赤彩り縮赤彩りヘラケズリ	外周縁部赤彩
2	埴砂中	土師器 杯	2/3	口径(12.6) 器高(3.8) 器底(9.3)	良	褐色色	紫 紫褐色・石炭	外周：口縁部縮ナテ、底部ヘリ切り指痕跡あり 内面：指痕跡一横ナテ	内外面深い赤彩
3	埴砂中	須恵器 鉢	鏡片	口径(21.8) 器高(6.0)	良	青灰色	紫	外周：口縁部縮ナテ、器底平削りあり 内面：口縁部縮ナテ、器底器具による青褐色文	
4	埴砂中	須恵器 鉢	1/2	口径(22.8) 器高(3.5)	良	青灰色~褐色 紫	石炭・白色色	外周：縮ナテ 内面：口縁部縮ナテ、入丹縮ナテ	
5	埴砂中	須恵器 鉢	1/4	口径(18.6) 器高(2.3)	良	青灰色	紫	外周：縮ナテ	外周白粉痕跡
6	埴砂下層	須恵器 鉢	1/2	口径(12.4) 器高(4.4) 器底(8.7)	良	青灰色~灰褐色	紫	外周：口縁部~体部縮ナテ、底部縮赤彩り 内面：口縁部~体部縮ナテ、底部ナテ	
7	埴砂中	須恵器 鉢	1/4	口径(11.6) 器高(3.6) 器底(8.7)	良	青灰色~赤褐色	紫	外周：口縁部~体部縮ナテ、底部縮赤彩り 内面：口縁部~体部縮ナテ、底部ナテ	

第90表 5区SI19出土金属製品観察表(第211図)

遺物No.	遺跡・地区 出土層位	種類	部位 所在率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	メタル度	ランク	重量 (g)	備考	
8	埴砂下層	刀子	—	鉄	刃部(30) 全長(29)	刃部(15) 全長(5)	刃部(2) 全長(1)		5	錆化(Δ)	3	9.3	
9	埴砂下層	銅平塚鉢小 銅片	—	鉄	(55)	7	4	3	錆化(Δ)	3	6.3		
10	埴砂下層	釘	1/4	鉄	(26)	7	7	2	錆化(Δ)	5	35.5		
11	埴砂下層	釘	1/4	鉄	(51)	6	8	3	錆化(Δ)	5	130	骨折面未発行済	
12	埴砂下層	銅小不明品	—	鉄	(37)	5	5	3	II(○)	3	139		
13	埴砂下層	釘	2/3	鉄	(43)	5	5	2	錆化(Δ)	4	5.9	未発行済	

第91表 鍛冶関連遺物廃棄土坑出土土器観察表(第213図)

遺物No.	遺跡・地区 出土層位	種類	部位 所在率	法量 (cm)	形状	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埴砂下層	須恵器 鉢	鏡片	口径(18.8) 器高(1.5)	良好	青灰色	紫 灰白・石炭	外周：縮ナテ 内面：口縁部縮赤彩りナテ、口縁部ヘラケズリナテ	
2	埴砂下層	須恵器 鉢	鏡片	口径(17.8) 器高(1.5)	良好	青灰色	紫 紫褐色・石炭	外周：縮ナテ 内面：縮ナテ	
3	埴砂下層	須恵器 鉢	鏡片	口径(1.8) 器高(8.1) 器底(13.0)	良	青灰色	紫 紫褐色	外周：体部ヘラケズリ、底部縮赤彩り 内面：体部縮赤彩り、底部ナテ	
4	埴砂下層	須恵器 鉢	底部	口径(7.4)	良	青灰色	紫 紫褐色	外周：体部ヘラケズリ、底部縮赤彩り 内面：体部縮赤彩り、底部ナテ	

第92表 3区土壌基出土土器観察表(第215図)

遺物No.	遺跡・地区 出土層位	種類	部位 所在率	法量 (cm)	形状	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埴砂中	須恵器 鉢	口縁部	口径(10.0) 器高(20.0) 器底(18.8) 器底(13.0)	良好	青灰色	紫 石炭・砂粒	外周：器底一横ナテ、器底高台 内面：縮ナテ	
2	埴砂中	土師器 鉢	底部	口径(1.5) 器底(6.6)	良	灰褐色	紫	外周：所存高台	赤彩

第93表 3区土壌基出土土器製品観察表(第215図)

遺物No.	遺跡・地区 出土層位	種類	部位 所在率	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考
3	埴砂中	磁器鉢(成平)	1/2	19	15	17	5.7	水田	口径15mm

第94表 3区土壤墓出土金属製品観察表(第215図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考			
4	掘中	人刀子	14段 完全	鉄	中央(294) 刃部:135 基部:79	黒人輪	中央部:3 基部:3	8	錆化(△)	5	906	目録1大

第95表 3区SK04出土土器観察表(第217図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	掘中	土師器 壺	破片	口径(21.9) 器高(3.2)	良	黒茶色	密	外面:土師器胎ナテ、肩部微細彫刻、胴部ナテ 内面:口縁部胎ナテ、腹部以下横ヘラズリ	口縁部外面一帯 残存
2	掘中	土師器 小皿	破片	器高(2.3)	良	灰褐色	密	外面:口縁部胎ナテ、肩部以下横ヘラズリ 内面:口縁部胎ナテ、腹部以下横ヘラズリ	石炭・砂粒

第96表 3区SK08出土土器観察表(第222図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	掘中	土師 甕	完全	高さ:5.3 幅:1.9 厚さ:1.7	良	黒茶色	密 白色粒		重量:15.5g

第97表 4区SK08出土土器観察表(第231図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	掘中	土師器 壺	破片	口径(14.4) 器高(2.2)	良	緑褐色	密	内外面:横ナテ	内外面磨ハレ形

第98表 4区SK09出土土器観察表(第233図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	掘中	土師器 壺	破片	口径(12.3) 器高(2.6)	良好	青灰色	密	内外面:縦ナテ	

第99表 5区SK05出土土器観察表(第235図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	掘中	土師器 壺	破片	口径(24.3) 器高(2.3)	良	灰褐色	密	内外面:横ナテ	内外製成化付存
2	掘中下層	土師器 壺	破片	口径(14.6) 器高(1.8)	良	灰褐色	密	内外面:縦ナテ	内外面系赤形
3	掘中	土師器 壺	体部 1/4	口径(4.4) 器高(10.8)	良好	灰色	密	外面:肩部胎ナテ、体部ナテ 内面:腹部横ナテ、体部胎ナテ	

第100表 5区SK06出土土器観察表(第237図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	掘中	土師器 壺	1/3	口径(11.2) 器高:4.1 器底(8.2)	良好	青灰色	密	外面:口縁部一帯横ナテ、腹部胎ナテ 内面:胎ナテ	

第101表 5区SK07出土土器観察表(第239図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	掘中下層	土師器 壺	破片	口径(26.1) 器高(6.1)	良	褐色	密	外面:横ナテ 内面:口縁部胎ナテ、腹部以下横ヘラズリ	内面口縁部一帯製 成化付存
2	掘中上層	土師器 壺	破片	口径(14.6) 器高(5.9)	中良	青灰色	密	外面:口縁部胎ナテ、腹部以下横ヘラズリ 内面:胎ナテ	外面口縁部胎ナテ
3	掘中上層	土師器 壺	体部 1/4	口径(12.2) 器高(20)	良好	青灰色	白色粒	外面:胎ナテ 内面:口縁部胎ナテ、腹部胎ナテ	

第102表 5区SK08出土土器観察表(第241図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	掘中	土師器 壺	底部破片	口径(2.2) 器底(8.5)	良	暗灰色	密	外面:体部胎ナテ、肩部胎ナテ 内面:体部胎ナテ、底部胎ナテ	

第103表 5区SK09出土土器観察表(第243図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	掘中下層	土師器 壺	1/3	口径(28.7) 器高(5.3)	良	灰褐色	密	外面:横ナテ 内面:口縁部胎ナテ、腹部以下横ヘラズリ	内外製成化付存

2	塚中層	須磨器 環	1/4	口径(11.1) 器高: 3.6 底径( 8.3)	良好	青灰色	密	外面: 口縁部-体部同軸ナデ、底面同軸未切り 内面: 口縁部-体部同軸ナデ、底部ナデ
---	-----	----------	-----	---------------------------------	----	-----	---	---

第104表 5区SK09出土金属製品観察表(第243図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 現存率	法 量 (cm)	構成	色調	胎土	調査・文様	備考				
3	塚中層	環	1/2	口径 124	鉄	黒	4	5	緑化(△)	16.1	折れ折		
4	塚中層	釘	1/2	径 (32)	鉄	黒	5	5	3	緑化(△)	3	12.2	折れ折

第105表 5区SK11出土土器観察表(第245図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 現存率	法 量 (cm)	構成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	塚中層	土師器 碗	把手部	器高(128)	良	灰褐色	密 角状石・雲 母・石英・白 色粒	把手部: ナデ 外面: ヘラズリ・ハケズリ・ナデ 内面: 指痕同軸・ヘラズリ・ハケメ	

第106表 5区SK12出土土器観察表(第247図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 現存率	法 量 (cm)	構成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	塚中層	土師器 土師	口縁	口径(139) 器高(138)	良	灰褐色	密	外面: 指痕同軸→ヘラズリ 内面: 横ヘラズリ→ナデ	

第107表 5区SK15出土土器観察表(第249図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 現存率	法 量 (cm)	構成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	塚中層	土師器 器	底部破片	器高(121) 底径(58)	良	灰褐色	密 石英・雲母・ 白色粒	外面: ハケメ 内面: 横ヘラズリ	

第107表 5区SK15出土土器観察表(第249図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 現存率	法 量 (cm)	構成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	塚中層	土師器 器	底部破片	器高(121) 底径(58)	良	灰褐色	密 石英・雲母・ 白色粒	外面: ハケメ 内面: 横ヘラズリ	黒染

第108表 2区SD05出土土器観察表(第258図)

遺物 No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 現存率	法 量 (cm)	構成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	塚中層	土師器 器	破片	口径(21.6) 器高(20)	良	灰褐色	密 角状石・白色	外面: 横ナデ 内面: 口縁部同軸ナデ、口縁部同軸ハケメ	外面・底面付着
2	塚中層	土師器 器	破片	口径(18) 器高(28)	良	灰褐色	密 石英	外面: 同軸ナデ 内面: ナデ	
3	塚中層	土師器 器	破片	口径(11.6) 器高(19)	良好	黄褐色	密	内外面: 横ナデ	
4	塚中層	土師器 器	破片	口径(16.0) 器高(24)	良	黄褐色	密	内外面: 横ナデ	内外面付着
5	塚中層	土師器 器	破片	口径(32.8) 器高(33)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 口縁部ナデ→ヘラズリ、其による流紋文2本、器高 付着目録 内面: 口縁部ナデ、器高付着による黄褐色文	外周同軸同軸同軸
6	塚中層	土師器 器	破片	口径(12.6) 器高: 3.9 底径(11.6)	良好	青灰色	密 白色粒・灰 色	外面: 口縁部-体部同軸ナデ、底部同軸未切り 内面: 口縁部-体部同軸ナデ、底部ナデ	
7	塚中層	土師器 器	破片	口径(9.6) 器高: 2.1 底径( 6.2)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 口縁部-体部同軸ナデ、底部同軸未切り 内面: 口縁部-体部同軸ナデ、底部ナデ	
8	塚中層	土師器 器	破片	口径(12.8) 器高: 3.6 底径( 8.3)	良好	黄褐色	密 白色粒	外面: 口縁部-体部同軸ナデ、底部同軸未切り 内面: 口縁部-体部同軸ナデ、底部ナデ	
9	塚中層	土師器 器	破片	口径(12.4) 器高( 3.1)	良好	黄褐色	密 白色粒	内外面: 同軸ナデ	
10	塚中層	土師器 器	破片	口径(11.0) 器高( 2.4)	良好	黄褐色	密 白色粒	内外面: 同軸ナデ	
11	塚中層	土師器 器	破片	口径(15.6) 器高( 1.5)	良好	青灰色	密 白色粒	内外面: 同軸ナデ	
12	塚中層	土師器 器	破片	口径(16.0) 器高( 2.3)	良好	赤褐色	密	内外面: 同軸ナデ	
13	塚中層	土師器 器	破片	口径(13.2) 器高( 2.4)	良好	青灰色	密 白色粒	内外面: 同軸ナデ	
14	塚中層	土師器 器	破片	口径(15.9) 器高( 1.9)	良好	青灰色	密 白色粒	内外面: 同軸ナデ	
15	塚中層	土師器 器	破片	器高( 2.4) 底径( 6.2)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 体部同軸ナデ、底部同軸未切り 内面: 同軸ナデ	
16	塚中層	土師器 器	破片	口径(13.6) 器高: 2.2 底径(11.6)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 口縁部-体部同軸ナデ、底部同軸未切り 内面: 口縁部-体部同軸ナデ、底部ナデ	
17	塚中層	土師器 器	破片	器高( 2.8) 底径( 8.7)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 体部同軸ナデ、底部同軸未切り 内面: 体部同軸ナデ、底部ナデ	

18	埋砂上層	須山砂 環	破片	母体(19) 底径(11.0)	良好	青灰色	密 白色粒	外周: 体部回転ナ、底部回転ナ 内周: 回転ナ
19	埋砂上層	須山砂 環	破片	器高(24) 底径(8.0)	良好	暗赤褐色	密 白色粒	外周: 体部回転ナ、底部回転ナ 内周: 体部回転ナ、底径ナ
20	埋砂上層	須山砂 環	破片	器高(14.0) 底径(6.2)	良好	青灰色	密 白色粒	外周: 体部回転ナ、底径ナ 内周: 体部回転ナ、底径ナ
21	埋砂下層	須山砂 環	破片	器高(25) 底径(9.2)	良好	青灰色	密	外周: 体部回転ナ、底部回転ナ 内周: 体部回転ナ、底径ナ
22	埋砂下層	須山砂 環	破片	器高(3.0) 底径(10.0)	良	青灰色	密	外周: 体部回転ナ、貼付高台 内周: ナ

第109表 2区SD05出土石器観察表(第258図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	最大径 (mm)	径大径 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	材質	備考
23	埋砂下層	ハンマーストーン	完形	117	58	40	3313	アキサイト	

第110表 2区SD06出土石器観察表(第260図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	法 量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂下層	土師器 環	底部	器高(15) 底径(6.0)	良	黄灰色	密	外周: 体部ナ、底部回転ナ 内周: ナ	
2	埋砂上層	土師器 環	底部	器高(2.0) 底径(8.0)	良	褐色	密	外周: 体部ナ、底部回転ナ 内周: 体部回転ナ、底径ナ	
3	埋砂上層	土師器 環	底部	器高(9.9) 底径(7.1)	良好	黒褐色	密	外周: 体部ナ、底部回転ナ 内周: ナ	
4	埋砂上層	土師器 環	底部	器高(6.8) 底径(4.8)	良	灰褐色	密 砂粒	外周: 体部ナ、底径ナ 内周: ナ	
5	埋砂上層	土師器 環	破片	口径(31.0) 器高(2.1)	良	緑褐色	密	内外周: 体部ナ	
6	埋砂中層	土師器 環	破片	口径(26.0) 器高(2.5)	良	灰褐色	密	外周: 体部ナ 内周: 口縁部ナ、底部以下横ヘラズリ	部破片
7	埋砂上層	土師器 環	破片	口径(19.8) 器高(2.9)	良	褐色	密 石丸・砂粒	内外周: 体部ナ	内周自然剥落
8	埋砂上層	土師器 環	底部	器高(27)	良好	青灰色	密 白色粒	外周: 体部ナ、底部回転ナ 内周: 体部による管状ナ	内周自然剥落
9	埋砂下層	土師器 環	底部	器高(1.0) 底径(9.6)	良好	青灰色	密	外周: 体部回転ナ、底径ナ 内周: 回転ナ	
10	埋砂上層	土師器 環	破片	口径(12.8) 器高(2.3)	良好	暗赤褐色	密 白色粒	内外周: 体部ナ	
11	埋砂下層	土師器 環	破片	口径(17.8) 器高(4.0)	良	青灰色	密 白色粒	内外周: 体部ナ	
12	埋砂下層	土師器 環	破片	口径(13.0) 器高(2.0)	良好	灰色	密 砂粒	内外周: 体部ナ	
13	埋砂下層	土師器 環	破片	口径(12.8) 器高(2.5)	良	灰色	密	内外周: 体部ナ	
14	埋砂下層	土師器 環	破片	器高(3.3) 底径(13.2)	良	青灰色	密	外周: 体部回転ナ、底部回転ナ 内周: 体部回転ナ、底径ナ	
15	埋砂下層	土師器 環	把手部	器高(8.7)	良	暗褐色	密 砂粒・石丸・砂粒	外周: ヘラズリ・ナ 内周: ヘラズリ	
16	埋砂下層	土師器 環	完形	長さ: 34 幅: 3.3 厚さ: 1.1	良好	青灰色	密	管状器用	重量: 150g

第111表 2区SD07出土石器観察表(第262図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	法 量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂中層	土師器 環	破片	口径(12.8) 器高: 2.3 底径(9.0)	良	暗赤褐色	密	外周: 口縁部・体部回転ナ、底部回転ナ 内周: 回転ナ	

第112表 2区SD08出土石器観察表(第264図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	法 量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂上層	土師器 環	破片	口径(21.0) 器高(2.3)	良	暗褐色	密	内外周: 体部ナ	内外周・体部
2	埋砂下層	土師器 環	破片	口径(9.0) 器高(2.1)	やや良	褐色	密 やや丸 石丸・砂粒	外周: 体部回転ナ 内周: ヘラズリ	

第113表 2区SD11出土石器観察表(第267図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	法 量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂中層	土師器 環	破片	口径(27.0) 器高(3.3)	良	褐色	密	外周: 体部ナ 内周: 口縁部ナ、底部以下横ヘラズリ	
2	埋砂下層	土師器 環	破片	口径(8.2) 器高(1.8) 底径(6.0) 底径(3.8)	良	灰褐色	密 白色粒	外周: 体部回転ナ 内周: 体部回転ナ	内外周
3	埋砂上層	土師器 環	完形	長さ: 7.1 幅: 2.2 厚さ: 2.0	良	褐色	密		重量: 257g



4	腰巾上層	土師	1/2	長さ(37) 幅(29) 厚さ(1.6)	良	灰白色	密		重量: 0.5g
5	腰巾最上層	須恵器 土師	破片	長さ(24) 幅(17) 厚さ(0.8)	良好	灰色	密		重量: 3.0g
6	腰巾中層	土師	1/2	長さ(21) 幅(9.6) 厚さ(1.0)	良	灰褐色	密		重量: 1.6g
7	腰巾最上層	須恵器 高耳杯	把手部	高さ(6.5) 幅(21.8)	良好	灰白	密 角閃石・白色 粒	外面: 体部4枚ナガ、把手部ヘラケズリ 内面: 同ナ	把手部穿孔
8	腰巾最上層	須恵器 杯	1/5	口径(16.2) 高さ(5.4) 底径(10.6)	良好	青灰色	密	外面: 同ナ、貼付高台 内面: 同ナ	
9	腰巾中層	須恵器 杯	破片	高さ(2.2) 底径(10.0)	良	青灰色	密	外面: 体部4枚ナガ、底面同軸糸切りナガ、貼付高台 内面: 体部同軸ナガ、底面ナ	
10	腰巾下層	土師器 灯明皿	底部	高さ(2.8) 底径(8.0)	良	褐色	密 石英・輝石	外面: ナガ、貼付高台 内面: ナ	土師器同軸高台部内外側ナガ付着
11	腰巾下層	土師器 杯	底部	高さ(2.6) 底径(7.4)	良好	灰褐色	密	外面: 体部ナガヘラミダキ、底面ヘラウリ→指環跡ナ ナガ、貼付高台 内面: 体部ナガヘラミダキ、底面同軸糸切りナ	

第114表 2区SD11出土石器観察表(第267図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考
12	腰巾中層	硬石	完整	53	41	27	157	硬石	
13	腰巾中層	石錘	2/3	(86)	(60)	36	232.6	火山岩	左打欠幅20mm・右打欠幅(12)mm
14	腰巾上層	石錘	完整	85	66	24	192.0	火山岩	左打欠幅20mm・右打欠幅37mm

第115表 2区SD12出土磁器・土器・土製品観察表(第268図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	種類	破片 残存率	法 量 (g)	形状	色調	胎土	調査・文様	備考
1	腰巾上層	須恵器 杯	破片	口径(18.8) 高さ(4.1)	良	黄灰色	密	外面: 同ナ 内面: 同ナ同軸ナガ、肩部内角による背溝浅文	
2	腰巾中層	須恵器 杯	口径一割 破片2	口径(18.0) 底径(3.9)	良好	黄灰色	密	外面: 同ナ 内面: 同ナ同軸ナガ、肩部内角による背溝浅文	
3	腰巾中層	土師器 甕	破片	口径(15.4) 高さ(3.4)	良	黄褐色	密 砂粒	外面: 残ナ 内面: 同ナ同軸ナガ、頸部以下横ヘラケズリ	
4	腰巾中層	土師器 甕	破片	口径(14.0) 高さ(4.1)	良	褐色	密 黄粒	外面: 残ナ 内面: 同ナ同軸ナガ、頸部以下横ヘラケズリ	
5	腰巾下層	土師器 灯明皿	取付部 破片	高さ(15.4) 底径(6.7)	良	褐色	密 黄赤・白色 粒	外面: 取付部ナガ、体部同軸ナ 内面: 体部同軸ナガ、体部横ヘラケズリ	外周狭口部磨削
6	腰巾中層	須恵器 盃	破片	口径(15.6) 高さ(1.8)	良好	青灰色	密	内外面: 同ナ	
7	腰巾中層	須恵器 杯	破片	口径(13.4) 高さ(3.8)	良好	灰色	密 自然粒・黄 白色粒	内外面: 同ナ	
8	腰巾中層	須恵器 杯	破片	口径(16.0) 高さ(4.7)	良好	青灰色	密 白色粒	内外面: 同ナ	
9	腰巾上層	須恵器 杯	破片	高さ(1.2) 底径(6.2)	良	青灰色	密	外面: 体部同軸ナガ、底面同軸糸切り 内面: 体部同軸ナガ、底面ナ	
10	腰巾中層	須恵器 杯	破片	高さ(1.9) 底径(11.0)	良好	暗赤灰色	密 黄粒	外面: 体部同軸ナガ、底面同軸糸切り 内面: 同ナ	
11	腰巾上層	須恵器 杯	破片	高さ(2.5) 底径(10.0)	良好	黄灰色	密 白色粒・黄赤 粒	外面: 体部同軸ナガ、底面同軸糸切り 内面: 体部同軸ナガ、底面ナ	
12	腰巾中層	須恵器 杯	破片	高さ(1.3) 底径(7.3)	良好	暗赤灰色	密 白色粒	外面: 体部同軸ナガ、底面同軸糸切り 内面: 体部同軸ナガ、底面ナ	
13	腰巾上層	須恵器 杯	破片	高さ(1.7) 底径(11.2)	良好	暗赤灰色	密	外面: 体部同軸ナガ、底面同軸糸切り、貼付高台 内面: 体部同軸ナガ、底面ナ	底面残付着
14	腰巾下層	須恵器 杯	破片	高さ(2.0) 底径(14.6)	良	黄灰色	密	外面: 体部同軸ナガ、底面同軸糸切りナガ、貼付高台 内面: ナ	
15	腰巾中層	須恵器 杯	1/2	口径(11.5) 高さ(4.1) 底径(7.8)	良好	黄灰色	密	外面: 体部同軸ナガ、底面同軸糸切りナガ、貼付高台 内面: ナ	外面高台内側残付 跡ナ
16	腰巾上層	白磁 皿	破片	高さ(1.2) 底径(3.3) 長さ(3.2)	良好	灰白色	密	外面: 体部ナガ→底面磨削、貫入 内面: 貫入	白磁底径: 1.8mm
18	腰巾下層	土師	1/2	高さ(1.4) 厚さ(1.2)	良	褐色	密 白色粒		重量: 4.5g
19	腰巾中層	土師	(11.7) 破片	長さ(4.3) 幅(1.8) 厚さ(1.7)	良	灰褐色	密		重量: 11.9g

第116表 2区SD12出土石器観察表(第268図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考
17	腰巾下層	磨石・磨石	完整	341	48	45	497.6	硬岩	

第117表 2区SD12出土金属製品観察表 (第268図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	備考
20	埋砂下層	刀子	2/3	鉄	全長(94) 刃長(35) 基部(39)	刃部:11 基部:7	刃部:3 基部:2	5	錆化(△)
21	埋砂下層	釘	ほぼ完全	鉄	54	3	4	5	錆化(△)

第118表 2区SD13出土土器・土製品観察表 (第269図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	法量 (cm)	構成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂中層	須恵器 杯	1/5	口径(124) 器高(37) 底径(86)	良	青灰色	密	外面:口縁部~体部凹線ナテ、体部下半横ヘラケズリ、裏面凹線ナテナテ 内面:口縁部~体部凹線ナテ、底部ナテ	
2	埋砂下層	須恵器 杯	破片	器高(19) 底径(112)	良好	青灰色	密	外面:体部凹線ナテ、体部下半横ヘラケズリ、底面凹線ナテ 内面:体部凹線ナテ、底部ナテ	
3	埋砂中層	須恵器 杯	破片	器高(39) 底径(78)	良好	青灰色	密	外面:体部ナテ、底面凹線ナテ 内面:体部凹線ナテ、底部ナテ	
4	埋砂上層	須恵器 杯	破片	器高(24) 底径(90)	良好	赤褐色	密	外面:体部ナテ、底面凹線ナテ 内面:ナテ	
5	埋砂中下層	須恵器 杯	破片	口径(145) 器高(25) 底径(120)	良好	青灰色	密	外面:口縁部~体部凹線ナテ、体部下半横ヘラケズリ、底面凹線ナテ 内面:ナテ	
6	埋砂中層	土器	ほぼ完全	高さ(51) 径(16) 厚さ(16)	良	灰褐色	密 空付・砂粒		重量:115g
7	埋砂中層	土器	ほぼ完全	高さ(47) 径(13) 厚さ(13)	良	緑白色	密 砂粒		重量:64g
8	埋砂中層	土器	1/2	高さ(25) 径(13) 厚さ(12)	良	灰褐色	密		重量:37g

第119表 3区SD01出土土器観察表 (第272図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	法量 (cm)	構成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂中層	土器 杯	1/8	口径(34.4) 器高(15) 底径(120)	良	緑褐色	密	外面:口縁部~体部横ナテ、体部下半底部ヘラケズリ 内面:横ナテ	赤影
2	埋砂上層	土器 杯	1/2	口径(16.6) 器高(12) 底径(11.9)	良	褐色	密 砂粒	外面:口縁部~体部横ナテ、体部下半底部ヘラケズリ 内面:口縁部~体部横ナテ、底部ナテ	
3	埋砂中下層	須恵器 杯	残片	器高(22) 底径(12.4)	良	青灰色	密 砂粒	外面:ナテ、胎付高台 内面:ナテ	

第120表 3区SD03出土土器・土製品観察表 (第274図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	法量 (cm)	構成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂中層	土器 杯	1/8	口径(13.8) 器高(27) 底径(8.0)	良	緑褐色	密 砂粒	外面:口縁部~体部横ナテ、底部ヘラケズリ 内面:口縁部~体部横ナテ、底部ナテ	赤影
2	埋砂中層	須恵器 杯	破片	口径(12.6) 器高(3.4)	良好	青灰色	密 砂粒	内面:凹線ナテ	
3	埋砂中層	須恵器 杯	破片	器高(26) 底径(12.6)	良好	青灰色	密 砂粒	外面:体部横ナテ、底部ヘラケズリ;胎付高台 内面:ナテ	
4	埋砂中層	土器	1/2	高さ(7.6) 径(3.8) 厚さ(3.8)	良	褐色	密 空付・赤影 砂粒		重量:84Ag

第121表 3区SD03出土土器観察表 (第274図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考
4	埋砂中層	磁石	ほぼ完全	42	40	16	41	磁石	

第122表 3区SD04出土土器観察表 (第276図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	法量 (cm)	構成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂中層	土器 杯	破片	口径(27.6) 器高(3.2)	良	褐色	密 砂粒	外面:横ナテ 内面:口縁部横ナテ、底部以下横ヘラケズリ	
2	埋砂中層	土器 杯	1/2	器高(4.5) 底径(6.2)	良	灰褐色 褐色	密 胎付・石灰 砂粒	外面:体部凹線ナテ、底面凹線ナテ 内面:体部凹線ナテ、底部ナテ	

第123表 5区SD03出土土器観察表 (第282図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	法量 (cm)	構成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂下層	土器 杯	破片	口径(25.7) 器高(1.5)	良	褐色	密 石灰・砂粒	外面:口縁部横ナテ、底面以下横ヘラケズリ 内面:口縁部横ナテ、底面以下横ヘラケズリ	外面一部横ナテ

2	発祥中層	上層遺物	つまみ形 石製(20)	丸	褐色	密 石灰・砂粒	外面: 指形網目一線ナテ 内面: つまみ形凹部→ヘラケズリ、天舟部ヘラケズリ	つまみ形穿孔2個 一部欠損
---	------	------	----------------	---	----	------------	---	------------------

第124表 5区SD03出土金属製品観察表(第282図)

遺物No.	遺物・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	備考
3	発祥中層	小銅器	柱状形 1/3	黄銅	34	34	3	27	底面磨削

第125表 5区SD06出土土器観察表(第283図)

遺物No.	遺物・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	備考
1	埋砂上層	灰砂器	底部 1/8	黄銅	5.1 底径11.5				外面: 底部凹部ヘラケズリ・底縁1条 内面: 底部凹部ナテ、底部ナテ
2	埋砂下層	灰砂器	片 1/8	黄銅	11.6 底径3.8 底径10.0				外面: 口縁部一帯凹部ナテ、底部凹部未切り 内面: 口縁部一帯凹部ナテ、底部ナテ

第126表 5区SD04出土土器観察表(第285図)

遺物No.	遺物・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	備考
1	埋砂上層	土師器	2/3	黄銅	19.0 底径17.7 底径20.0 底径8.0				外面: 口縁部一帯凹部ナテ、底部凹部未切り 内面: 口縁部ナテ、底部凹部ナテ、底部ナテ
2	埋砂下層	土師器	破片	黄銅	12.6 底径6.4				外面: 口縁部ナテ、底部凹部ナテ 内面: 口縁部ナテ、底部凹部ナテ
3	埋砂上層	土師器	片 1/3	黄銅	19.6 底径4.6				外面: ハラメ一帯ヘラケズリ 内面: 口縁部ナテ、底部凹部ナテ
4	埋砂下層	土師器	破片	黄銅	10.6 底径3.4				外面: 口縁部ナテ 内面: 口縁部ナテ
5	埋砂下層	土師器	破片	黄銅	10.8 底径5.2				外面: 口縁部一帯凹部ナテ 内面: 口縁部一帯凹部ナテ
6	埋砂下層	土師器	1/10	黄銅	16.6 底径2.0 底径12.0				外面: 口縁部一帯凹部ナテ、底部凹部ナテ、底部ナテ 内面: 口縁部ナテ
7	埋砂下層	土師器	破片	黄銅	17.0 底径1.5 底径15.4				外面: 口縁部一帯凹部ナテ、底部凹部ナテ 内面: 口縁部ナテ
8	埋砂下層	土師器	1/8	黄銅	17.7 底径3.2 底径12.8				外面: 口縁部一帯凹部ナテ、底部凹部ナテ 内面: 口縁部ナテ
9	埋砂上層	土師器	破片	黄銅	18.9 底径3.2 底径13.0				外面: 口縁部一帯凹部ナテ 内面: 口縁部ナテ
10	埋砂下層	土師器	1/2	黄銅	12.8 底径4.7				外面: 口縁部一帯凹部ナテ、底部凹部ナテ 内面: 口縁部ナテ
11	埋砂上層	土師器	1/2	黄銅	12.8 底径4.7				外面: 口縁部一帯凹部ナテ、底部凹部ナテ 内面: 口縁部ナテ
12	埋砂上層	土師器	破片	黄銅	11.2 底径4.5 底径7.8				外面: 口縁部一帯凹部ナテ、底部凹部ナテ 内面: 口縁部ナテ
13	埋砂下層	土師器	破片	黄銅	11.8 底径4.3 底径8.5				外面: 口縁部一帯凹部ナテ、底部凹部ナテ 内面: 口縁部ナテ
14	埋砂上層	土師器	1/2	黄銅	17.6 底径3.8 底径12.6				外面: 口縁部一帯凹部ナテ、底部凹部ナテ 内面: 口縁部ナテ
15	埋砂下層	土師器	1/2	黄銅	17.6 底径4.1 底径12.0				外面: 口縁部一帯凹部ナテ、底部凹部ナテ 内面: 口縁部ナテ
16	埋砂下層	土師器	5/8	黄銅	18.2 底径4.1 底径11.7				外面: 口縁部一帯凹部ナテ、底部凹部ナテ 内面: 口縁部一帯凹部ナテ、底部ナテ

第127表 5区SD04出土土器観察表(第285図)

遺物No.	遺物・地区 出土層位	種類	形状	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石	備考
17	埋砂下層	土師器	笠形	121	81	33	444.0	灰岩	左打穴幅2mm・右打穴幅30mm

第128表 5区SD04出土金属製品観察表(第285図)

遺物No.	遺物・地区 出土層位	種類	形状	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	備考
18	埋砂中層	刀	1417文形	鉄	全长(90) 刃部(42) 茎部(41)	刃部: 12 茎部: 6	刃部: 3 茎部: 2	5	錆化(△) 3 104
19	埋砂下層	刀	1/2	鉄	全长(85) 刃部(25) 茎部(60)	刃部: 10 茎部: 6	刃部: 3 茎部: 2	5	H(○) 4 84
20	埋砂上層	鐵製不明品	笠形	鉄	底径: 31	5	5	4	錆化(△) 3 91
21	埋砂下層	鐵製不明品	1417文形	鉄	(41)	4	4	4	錆化(△) 4 21 底面磨削
22	埋砂下層	鐵製不明品	笠形	鉄	(38)	3	3	3	錆化(△) 3 1.1
23	埋砂中層	刀	笠形	鉄	(43)	(14)	2	4	錆化(△) 3 3.7 打穴1個

第129表 5区SD08出土土器観察表 (第286図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	容量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂下層	土器壺	口縁部 1/4	口径(24.6) 高さ(7.4)	良	褐色	空	外面：口縁部縮ナテ、腹部以下縦-斜めハナメ 内面：口縁部縮ナテ、腹部以下横-ハナメ	
2	埋砂下層	土器壺	胴部 底残	口径(6.8) 底径( 9.7)	良	褐色	空	外面：胴縁部ヘラミダシ、胴部縮ナテ 内面：外縁部ナテ、胴部ヘラミダシ、胴縁部縮ナテ	外壁・内面両系 赤塗
3	埋砂中	土器壺	破片	口径( 5.3)	良	褐色	空	外面：ナテ 内面：ヘラミダシ	内面縮筋 外壁一部紅行塗
4	埋砂下層	土器壺	口縁部 1/10	口径(3.1) 底径( 3.9)	良	褐色	空	内外面：縮筋陶装	
5	埋砂下層	土器壺	口縁部 1/8	口径(10.2) 底径( 4.1)	良	青灰色	空	内外面：縮筋ナテ	
6	埋砂下層	土器壺	口縁部 1/4	口径(13.0) 底径( 2.1) 底径( 9.0)	良	青灰色	空	外面：口縁部-体部縮筋ナテ、体部下半ヘラミダシ、胴部 内面：口縁部-体部縮筋ナテ、胴部ナテ	
7	埋砂下層	土器壺	口縁部 1/4	口径( 2.3) 底径(11.8)	良	褐色	空	外面：ナテ、肩付高台 内面：ナテ	青色内面以外系 赤塗
8	埋砂下層	土器壺	口縁部 1/2	口径( 4.7) 底径( 8.4)	良	青灰色	滑	内外面：縮筋ナテ 胴部二方筋通シ	
9	埋砂下層	土器壺	口縁部 底残	口径( 9.8)	良	青灰色	滑	外面：縮筋ナテ 内面：縮筋ナテ、胴部ナテヘラミダシ、縮筋縮筋ナテ	

第130表 5区SD08出土金属製品観察表 (第286図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	磁導度	メタル度	ランク	重量 (g)	備考
10	埋砂中	刀子	—	鉄	(35)	9	2	3	硬化(△)	2	51	
11	埋砂上層	釘	ほぼ完全形	鉄	(56)	4	5	3	硬化(△)	3	30	骨質包被
12	埋砂中層	釘	ほぼ完全形	鉄	(50)	4	4	6	硬化(△)	4	35	骨質包被
13	埋砂上層	棒状不明品	—	鉄	(39)	3	4	6	硬化(△)	3	59	
14	埋砂中層	棒状不明品	—	鉄	(28)	5	5	5	硬化(△)	2	25	
15	埋砂上層	棒状不明品	—	鉄	(20)	5	5	4	硬化(△)	2	22	鉛筆状、釘?

第131表 5区SD09出土土器観察表 (第287図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	容量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂最上層	土器壺	口縁部 底残	口径(14.4) 高さ( 1.6)	良	青灰色	滑	外面：縮筋ナテ 内面：口縁部縮筋ナテ、天付縮筋ナテ	

第132表 5区SD15出土土器観察表 (第288図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	容量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂中	土器壺	口縁部 底残	口径(11.2) 高さ( 3.7) 底径( 8.3)	良好	青灰色	滑	外面：口縁部-体部縮筋ナテ、体部下半ヘラミダシ、胴部 胴部赤塗り 内面：口縁部-体部縮筋ナテ、胴部ナテ	
3	埋砂中	土器壺	破片	口径( 2.8)	良	褐色	滑 粉粒	内外面：横ナテ	内面口縁部縮筋

第133表 5区SD15出土土器観察表 (第288図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	材質	備考
2	埋砂中	磁石	1/2	(111)	(82)	(51)	320.0	花崗岩	

第134表 5区SD15出土金属製品観察表 (第288図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	磁導度	メタル度	ランク	重量 (g)	備考
4	埋砂下層	棒状不明品	—	鉄	(121)	6	6	5	硬化(△)	4	327	釘?

第135表 5区SD05出土土器観察表 (第290図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	材質	備考
1	埋砂中層	磁石	1/2	(78)	(74)	(54)	150.5	花崗岩	

第136表 5区SD07出土土器観察表 (第292図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	容量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂下層	土器壺	破片	口径(29.4) 高さ( 2.9)	良	灰褐色	滑	外面：横ナテ 内面：口縁部縮筋ナテ、胴部ヘラミダシ	
2	埋砂中	土器壺	口縁部 底残	口径(13.9) 高さ( 6.6)	良	灰褐色	滑 石灰・粉粒	外面：横ナテ 内面：口縁部縮筋ナテ、腹部以下横-ヘラミダシ	

第137表 5区SD11出土石器観察表 (第295図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法 量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂中	須恵器 杯	破片	部高(25)	良	灰色	密	内外面: 同紋ナデ	
2	埋砂中	須恵器 杯	破片	口径(100) 部高(20)	良	灰色	密	内外面: 同紋ナデ	
3	埋砂上層	須恵器 杯	破片	口径(116) 部高(41)	良	灰色	密	内外面: 同紋ナデ	

第138表 5区SD11出土金属製品観察表 (第295図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	メタル度	ランク	重量 (g)	備考
4	埋砂中層	鉄鏝	ほぼ完全	鉄	29	29	3	5	錆化(△)	5	2.9	刃部有欠 厚さ3層
5	埋砂下層	現状不明品	—	鉄	(71)	5	5	6	錆化(△)	3	9.2	
6	埋砂中層	現状不明品	—	鉄	(27)	3	3	3	錆化(△)	2	1.1	

第139表 5区SD11出土石器観察表 (第295図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石 材	備考
7	埋砂中層	—	—	—	1/2	(52)	(38)	28	830	須恵岩
8	埋砂上層	—	—	—	1/2	(37)	27	18.7	18.7	須恵岩

第140表 5区SD12出土石器観察表 (第297図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石 材	備考
1	埋砂上層	土師器	破片	口径(13.8) 部高(4.3)	良	黒褐色	密		内面: 1線部横ナデ, 底部以下斜めハケテ 内底: 1線部横ナデ, 底部以下傾ヘツミガキ	外底一部残存

第141表 5区SD12出土金属製品観察表 (第297図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	メタル度	ランク	重量 (g)	備考
2	埋砂上層	鉄鏝	2/3	鉄	全長(92) 刃部(28)	刃部:16 厚部:4	刃部:1 厚部:1	4	錆化(△)	5	5.3	刃部欠損

第142表 5区SD12出土石器観察表 (第297図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石 材	備考
3	埋砂中層	—	—	—	(190)	(80)	(60)	708.8	埴岩	
4	埋砂中層	—	—	—	94	94	61	810.9	安山岩	左刃欠幅25mm 右刃欠幅50mm

第143表 1区ピット出土石器観察表 (第300図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法 量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	Pi241	須恵器 土師器	破片	口径(7.0) 部高(3.4)	やや良	黄灰白色	疏	内外面: 同紋同線ナデ	
2	Pi243	土師器 土師器	破片	口径(19.2) 部高(3.2)	良好	黄褐色	密	内外面: 同紋ナデ	内外面赤彩
3	Pi249	土師器 土師器	破片	口径(21.2) 部高(1.8)	良好	砂褐色	密	内外面: ナデ	内外面赤彩
4	Pi249	須恵器 土師器	破片	口径(4.5) 部高(9.0)	良好	黄灰色	密	内面: 同紋ナデ, 底付高合 内面: ナデ	
5	Pi249	須恵器 土師器	破片	口径(12.6) 部高(4.5) 底径(8.0)	良好	灰色	密	外底: 口縁部~底部同線ナデ, 底部同線赤彩 内底: 口縁部~底部同線ナデ, 底部同線赤彩	
6	Pi249	須恵器 土師器	破片	口径(1.8) 部高(8.6)	良好	灰色	密	外底: 口縁部同線ナデ, 底部同線赤彩 内底: 口縁部同線ナデ, 底部同線赤彩	
7	Pi249	須恵器 土師器	破片	口径(3.0) 部高(8.2)	良好	灰色	密	外底: 口縁部同線ナデ, 底部同線赤彩 内底: 口縁部同線ナデ, 底部同線赤彩	
8	Pi255	須恵器 土師器	破片	口径(2.2) 部高(8.8)	良好	暗赤灰色	密	外底: 口縁部同線ナデ, 底部同線赤彩 内底: ナデ	

第144表 2区ピット出土石器観察表 (第301図)

遺物No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法 量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	Pi5	土師器 土師器	破片	口径(23.4) 部高(2.0)	良	灰褐色	密	内外面: 同線ナデ	
2	Pi345	土師器 土師器	破片	口径(23.4) 部高(4.4)	良	黄褐色	密	外底: 口縁部同線ナデ, 底部同線赤彩 内底: 口縁部同線ナデ, 底部同線赤彩	
3	Pi314	土師器 土師器	破片	口径(21.2) 部高(5.8)	良	褐色	密	外底: 口縁部同線ナデ, 底部同線赤彩 内底: 口縁部同線ナデ, 底部同線赤彩	内底同線部残存
4	Pi361	土師器 土師器	破片	口径(18.0) 部高(1.2) 底径(15.5)	良	黄褐色	密	外底: 口縁部~底部同線ナデ, 底部同線赤彩 内底: 口縁部~底部同線ナデ	内外面赤彩

5	Pt385	上脚部 環	破片	器高(1.4) 器底(1.4)	良	暗褐色	雲	外周: 体部破ナナ、底部回転糸切り、肩付高台 内周: ナナ	内外周赤部
6	Pt321	上脚部 環	破片	口径(135) 器高(1.4) 底径(10.6)	良	暗褐色	雲 石片	外周: 口縁部一体部破ナナ、底部ヘラケズリ 内周: ナナ	内外周黒い赤部
7	Pt140	手控石 土器	破片	口径(84) 器高(4.1)	良	灰褐色	雲 灰母・石灰・ 砂粒	内外周: 胎線調整	
8	Pt3	製塩土器	破片	口径(104) 器高(2.7)	やや良	褐色	やや粗 砂粒	外周: 胎線調整→ヘラケズリ→ナナ 内周: 胎線調整	
9	Pt3	製塩土器	破片	口径(82) 器高(1.9)	やや良	灰褐色	やや粗 砂粒	外周: 胎線調整 内周: ヘラケズリ	
10	Pt190	十握部 環	破片	口径(15.0) 器高(3.8)	良	暗褐色	雲	内外周: 様ナナ	
11	Pt514	赤志部 環	破片	口径(11.4) 器高(1.6)	良好	暗赤褐色	雲 白色粒	内外周: 回転ナナ	
12	Pt6	赤志部 環	破片	口径(1.9) 器高(8.4)	良	暗赤褐色	雲 白色粒	外周: 体部破ナナ、底部回転糸切り 内周: 体部破ナナ、底部ナナ	
13	Pt23	赤志部 環	1/3	口径(12.2) 器高(4.6) 底径(9.0)	良好	青灰色	雲 黒色粒	外周: 口縁部一体部破ナナ、底部回転糸切り 内周: 口縁部一体部破ナナ、底部ナナ	
14	Pt1	赤志部 環	破片	口径(12.8) 器高(3.2)	良好	青灰色	雲 白色粒	外周: 回転ナナ 内周: ナナ	
15	Pt185	赤志部 環	破片	口径(13.2) 器高(3.2)	良好	青灰色	雲	内外周: 回転ナナ	
16	Pt431	赤志部 環	破片	口径(2.1)	良好	青灰色	雲	内外周: 回転ナナ	

第145表 2区ビット出土金属製品観察表(第301図)

遺物 No	遺物・地区 出土層位	器種	形状 残存率	材質	最大径(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	備考
17	Pt242	釘	2/3	鉄	(37)	4	4	21	埋付丸釘
18	Pt242	釘	1/2	鉄	(28)	3	4	13	埋付丸釘

第146表 3区ビット出土土器・土製品観察表(第302図)

遺物 No	遺物・地区 出土層位	器種	形状 残存率	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	重量 (g)	備考	
1	Pt18	上脚部 環	破片	口径(14.8) 器高(2.1) 底径(10.0)	良	暗褐色	雲	外周: 口縁部一体部破ナナ、体部下半ヘラケズリ→ナナ 内周: 様ナナ	赤部
2	Pt580	上脚部 環	破片	口径(12.6) 器高(1.7) 底径(8.4)	良	暗褐色	雲 石片・砂粒	外周: 口縁部一体部破ナナ、底部ヘラケズリ→ナナ 内周: 様ナナ	深い赤部
3	Pt538	上脚部 環	1/8	口径(12.8) 器高(2.8) 底径(8.4)	良好	暗褐色	雲	外周: 口縁部一体部胎線調整→様ナナ、底部ヘラケズリ→ ナナ 内周: 様ナナ	赤部
4	Pt669	上脚部 環	破片	口径(12.0) 器高(3.9) 底径(8.0)	良	暗褐色	雲	外周: 口縁部一体部破ナナ、底部ヘラケズリ→ナナ 内周: 回転ナナ	深い赤部
5	Pt885	上脚部 環	1/8	口径(12.8) 器高(3.2) 底径(4.0)	良	暗褐色	雲	外周: 口縁部一体部破ナナ、底部ヘラケズリ→ナナ 内周: 回転ナナ	赤部
6	Pt584	上脚部 環	1/2	口径(13.0) 器高(3.3) 底径(8.0)	良	暗褐色	雲 石灰・砂粒	外周: 口縁部一体部破ナナ、底部ヘラケズリ→胎線調整 内周: 回転ナナ	赤部
7	Pt553	上脚部 環	1/8	口径(11.8) 器高(3.0) 底径(9.8)	良好	暗褐色	雲 灰母・石灰・ 砂粒	外周: 様ナナ、胎付高台 内周: 様ナナ	赤部
8	Pt496	上脚部 環	破片	口径(6.3) 器高(8.4)	良	暗褐色	雲	外周: 体部破ナナ、底部ヘラケズリ→ナナ・胎付高台 内周: 胎線調整→ナナ	外周以外赤部 内周調整部
9	Pt669	製塩土器	破片	口径(11.8) 器高(3.0) 底径(8.4)	やや良	暗褐色	やや粗 砂粒	内外周: 胎線調整	
10	Pt188	赤志部 環	1/8	口径(11.8) 器高(3.9) 底径(8.0)	良好	灰色	雲	外周: 口縁部一体部破ナナ、底部回転糸切り 内周: 口縁部一体部破ナナ、底部ナナ	
11	Pt630	赤志部 環	1/2	口径(11.8) 器高(4.0) 底径(8.0)	やや良	灰色	雲 黒色粒	外周: 口縁部一体部破ナナ、底部回転糸切り 内周: 口縁部一体部破ナナ、底部ナナ	
12	Pt141- 143-144	赤志部 環	破片	器高(3.1) 底径(7.8)	良好	青灰色	雲 白色粒	外周: 体部破ナナ、底部回転糸切り・胎付高台 内周: 体部破ナナ、底部ナナ	
13	Pt229	赤志部 環	破片	器高(2.2) 底径(12.0)	良	灰色	雲 白色粒・ 砂粒	外周: 体部破ナナ、底部回転糸切り・胎付高台 内周: ナナ	
14	Pt148	赤志部 環	破片	器高(2.2) 底径(14.0)	良	灰色	雲 白色粒	外周: 体部破ナナ、底部回転糸切り→ナナ・胎付高台 内周: ナナ	
15	Pt260	十握部 環	破片	—	良	暗褐色	雲	外周: ヘラケズリ 内周: ナナ	内外周赤部 内周調整部
16	Pt294	十握 環	変形	長さ: 4.9 幅: 1.3 厚さ: 1.2	良	暗褐色	雲	重量: 7.4g	
17	Pt251	十握 環	変形	長さ: 4.6 幅: 1.6 厚さ: 1.4 高さ: 5.8 幅: 4.6 厚さ: 4.3	良	暗赤褐色	雲	重量: 9.2g	
18	Pt288	十握 環	変形	長さ: 4.6 幅: 1.6 厚さ: 1.4 高さ: 5.8 幅: 4.6 厚さ: 4.3	良	暗褐色	雲 石灰・砂粒	重量: 132.9g	

第147表 4区ピット出土土器観察表 (第303図)

遺物No.	遺物・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	胎	調査・文様	備考
1	Pt84	灰褐色 埴輪	ほぼ 完全	口径(14.2) 器高: 6.6 厚さ: 7.0	良好	灰褐色	密	灰白・白色 粒・赤色粒	外面: 口縁部-縁部間ナガ, 先端部全周り 内面: 口縁部-縁部間ナガ, 底部ナガ	

第148表 5区ピット出土土器観察表 (第304図)

遺物No.	遺物・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	胎	調査・文様	備考
1	Pt93	土師器 壺	破片	口径(17.3) 器高(6.4)	良	灰褐色- 灰白色	密	石質	外面: 縁ナガ 内面: 口縁部ナガ, 底部間ヘタナガ	
2	Pt137	土師器 壺	脚部破片	器高(6.6)	良	灰褐色	密	石質・白色粒	外面: 脚部1部残存による耳状文, 縁部間ヘタメ 内面: 口縁部ナガ	外面灰化物・灰付
3	Pt101	土師器 壺	破片	口径(23.2) 器高(1.9)	良	灰褐色- 灰褐色	密	石質・白色粒	内外面: 縁ナガ	外面灰化物付
4	Pt71	土師器 壺	1/3	口径(8.2) 器高: 4.1	良	灰褐色	密	石質・石質・ 白色粒	外面: つまみ部-先端部ヘタナガ, 口縁部ナガ 内面: つまみ部ヘタナガ, 口縁部ナガ, 先端部ヘタナガ	灰濁
5	Pt101	土師器 壺	破片	口径(14.2) 器高: 5.2	やや良	灰褐色	密	石質・石質	内外面: 脚部間ナガ	

第149表 5区ピット出土金属製品観察表 (第304図)

遺物No.	遺物・地区 出土層位	器種	部位 残存率	材質	最大径 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	調査度	メタル後	ランク	重量 (g)	備考
5	Pt229	鉄鍔	ほぼ完全	鉄	全長(149) 刃部(46) 基部: 103	刃部(27)	刃部: 3 基部: 3	4	錆化 (△)	5	420	刃部欠損
7	Pt290	刀子	一部	鉄	33	7	4	4	錆化 (△)	2	1.6	
8	Pt18	鉄鍔?	一部	鉄	全長(30) 刃部(26) 基部(4)	刃部(9)	刃部: 4 基部: 3	4	錆化 (△)	3	1.7	

第150表 1区畠跡出土磁器・土製品観察表 (第308図)

遺物No.	遺物・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	胎	調査・文様	備考
1	畠1	青磁 碗	破片	口径(13.5) 器高(4.2)	良好	灰白色	密	灰白・フ	外面: 縁部・底面 内面: 底面・片形文・縁部による点文	阿波瀬瀬1-1b 類
2	畠1	白磁 碗	破片	口径(13.5) 器高(2.5)	良好	灰白色	密	灰白色	外面: 裏 内面: 裏入	白磁碗V-3a類
3	畠1	白磁 碗	破片	口径(17.4) 器高(3.7) 器底(5.0)	良好	灰白色	密	灰白色	外面: 一 内面: 一	白磁碗V-1a類
4	畠1	白磁 碗	底部破片	器高(1.7)	良好	灰白色	密	灰白色	外面: 底面, 縁り雨ノ高巾 内面: 裏入	白磁碗V類
5	畠3 2a類	土師 壺	完全	口径: 4.6 器高: 1.6 厚さ: 1.5	良	灰褐色	密	—	—	重量: 9.0g
6	畠2	土師 壺	完全	口径: 4.2 器高: 1.5 厚さ: 1.5	良	褐色	密	—	—	重量: 9.3g
7	畠3	土師 壺	ほぼ完全	口径(4.9) 器高: 1.4 厚さ: 1.3	良	灰褐色	密	—	—	重量: 6.8g
8	畠1 1a類	土師 壺	ほぼ完全	口径(4.5) 器高: 1.5 厚さ: 1.5	良	灰褐色	密	—	—	重量: 7.6g
9	畠2	土師 壺	ほぼ完全	口径: 4.2 器高: 1.4 厚さ: 1.3	良	褐色	密	—	—	重量: 6.9g
10	畠1	土師 壺	完全	口径: 4.3 器高: 1.1 厚さ: 1.0	良	褐色	密	—	—	重量: 5.3g
11	畠3	土師 壺	1/2	口径(2.8) 器高: 1.4 厚さ: 1.2	良	灰褐色	密	—	—	重量: 4.9g
12	畠3	土師 壺	2/3	口径(3.4) 器高: 1.2 厚さ: 1.2	良	灰褐色	密	—	—	重量: 3.4g

第151表 1区畠跡出土金属製品観察表 (第308図)

遺物No.	遺物・地区 出土層位	器種	部位 残存率	材質	最大径 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	調査度	メタル後	ランク	重量 (g)	備考
13	畠1	鍔?	1/2	鉄	全長(90) 刃部(80) 基部(10)	刃部: 11 基部: 7	刃部: 10 基部: 6	磁器度 5	メタル後 錆化 (△)	4	17.1	
14	畠3 W-5	古銭	完全	銅	外径: 24.0	穿径: 6.0	鍔厚: 0.8	—	—	—	2.3	開元通寶 906年铸造
15	畠3 W-5	古銭	完全	銅	外径: 23.0	穿径: 6.0	鍔厚: 0.5	—	—	—	1.2	乾元通寶 1009年铸造
16	畠3 W-5	古銭	完全	銅	外径: 23.0	穿径: 6.0	鍔厚: 0.5	—	—	—	2.2	元祐通寶 1086年铸造
17	畠3 W-5	古銭	完全	銅	外径: 25.5	穿径: 6.5	鍔厚: 0.9	—	—	—	2.0	政和通寶 1111年铸造

18	品3 W-5	大方子	1414形	灰	全長(207) 方眼(157) 底幅(100)	方眼:55 底幅:12	方眼:4 底幅:3	2203	目録穴1番
----	-----------	-----	-------	---	-------------------------------	----------------	--------------	------	-------

第152表 2区島跡出土磁器・土器観察表(第312図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	器種	部位 残存率	寸法 (cm)	焼成	色調	胎土	釉	調査・文様	備考
1	品3 A-2	白磁 碗	破片	口径(21) 底径(16.8)	良好	灰白色	密	白色	外側:体部下半部露筋、削り出し高台 内側:見込縁	内証面跡残 白磁碗片断
2	品3 F-1	青磁 碗	破片	器高(3.0)	良好	灰色	密	灰オリーブ 色	外側:一 内側:刺文文	同安奈永根1類
3	品4 G-2	方磁 碗	破片	器高(2.4)	良好	灰色	密	灰オリーブ 色	外側:体部下半部露筋 内側:刺文文	同安奈永根1類
4	品4 C-2	土師灰 土器 碗	1/4 底形	口径:8.0 底径:4.7	良	灰褐色	密	黒・石黄・ 白黄	外側:口縁部一体部同軸ナナ、底面同軸 削り一取付点 内側:口縁部一取部同軸ナナ、底面ナナ	

第153表 2区SX01出土石器観察表(第314図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	種類	遺存(比率)	最大長さ(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	4f	材質	備考
1	層部7層	白石	1414形	(150)	96	72	18799		片岩	

第154表 3区島跡出土陶磁器・土器観察表(第317図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	器種	部位 残存率	寸法 (cm)	焼成	色調	胎土	釉	調査・文様	備考
1	品7 A-1	青磁 碗	破片	口径(19.1) 底径(14.2)	良好	灰色	密	オリーブ色	外側:体部下半部露筋、削り出し高台、貫入 内側:貫入	同安奈永根1-2類
2	品6 C-1	青磁 碗	破片	口径(17.6) 底径(12.8)	良好	灰白色	密	灰オリーブ 色	外側:一 内側:刺文文	同安奈永根1-2類
3	品7 A-2	青磁 碗	破片	器高(2.3)	良好	灰白色	密	灰オリーブ 色	外側:体部下半部露筋、貫入 内側:貫入	同安奈永根1-2類
4	品7 E-1	青磁 碗	破片	口径(2.7)	良好	灰白色	密	灰オリーブ 色	外側:刺文文 内側:一	同安奈永根1-2類
5	品7 E-1	青磁 碗	破片	口径(3.2)	良好	灰白色	密	灰白色	外側:体部下半部露筋 内側:刺文文、見込縁	白磁碗片断
6	品7 C-2	白磁 碗	破片	口径(2.3)	良好	灰白色	密	灰白色	外側:体部下半部露筋、削り出し高台 内側:刺文文、見込縁	白磁碗片断
7	品7 E-2	白磁 碗	破片	口径(15.7) 底径(11.5)	良好	灰白色	密	灰白色	外側:貫入 内側:貫入	白磁碗V-3x型
8	品7 A-1	白磁 碗	破片	口径(15.7) 底径(12.3)	良好	灰白色	密	灰白色	内外側:貫入	白磁碗V-3-4類
9	品7 B-2	白磁 碗	破片	口径(15.9)底径(12.7)	良好	灰白色	密	灰白色	外側:体部下半部露筋、削り出し高台、貫入 内側:見込縁、貫入	白磁碗片断
10	品7 A-1	白磁 碗	破片	口径(15.9) 底径(12.7)	良好	灰白色	密	灰白色	内外側:一取付点	白磁碗片断
11	品7 A-2	白磁 碗	破片	口径(17.0) 底径(12.6)	良好	灰白色	密	灰白色	内外側:貫入	白磁碗片断
12	品6 C-2	白磁 碗	破片	口径(16.0) 底径(11.1)	良好	灰白色	密	灰白色	内外側:貫入	白磁碗片断
13	品7 A-2	白磁 碗	破片	口径(2.8) 底径(1.7)	良好	白色	密	灰白色	外側:底面、削り出し高台 内側:貫入	白磁碗V-1類
14	品6 C-1	白磁 碗	破片	口径(2.9) 底径(1.5)	良好	白色	密	灰白色	外側:体部下半部露筋、削り出し高台、貫入 内側:貫入	白磁碗V-1類
15	品6 C-2	白磁 碗	破片	口径(2.9) 底径(1.5)	良好	白色	密	灰白色	外側:体部下半部露筋 内側:一	白磁碗V-1類
16	品7 A-1	白磁 碗	破片	口径(2.7) 底径(1.7)	良好	灰白色	密	灰白色	外側:底面一取部露筋 内側:一	白磁碗V-1類
17	品7 A-2	白磁 碗	破片	口径(9.6) 底径(5.3)	良好	灰褐色	密	灰オリーブ 色	外側:唇部に浅溝3条 内側:一	口縁部内証面跡 残片
18	品7 B-2	白磁 碗	1/8	口径(10.5) 底径:2.3 底幅(4.0)	良好	灰白色	密	浅灰色	外側:唇部露筋、削り出し高台、貫入 内側:貫入	破片・体部露筋 欠部2類
19	品7 E-2	土師灰 土器 小皿	1/2	口径(8.6) 底径:1.9 底幅(2.6)	良	黄褐色	密	石黄・白色 灰・赤色	外側:口縁部一体部同軸ナナ、底面同軸 削り 内側:口縁部一体部同軸ナナ、底面同軸 削り	
20	品7 C-1	土師灰 土器 小皿	1/2	口径(8.8) 底径:1.6 底幅(5.4)	良	黄褐色	密	赤	外側:口縁部一体部同軸ナナ、底面同軸 削り 内側:口縁部一体部同軸ナナ、底面同軸 削り	
21	品7 A-2	土師灰 土器 小皿	1/8	口径(8.6) 底径:2.1 底幅(4.5)	良	褐色	密	赤	外側:口縁部一体部同軸ナナ、底面同軸 削り 内側:同軸ナナ	
22	品7 A-2	土師灰 土器 小皿	変形	口径:8.8 底径:2.0 底幅:5.3	良	褐色	密	赤	外側:口縁部一体部同軸ナナ、底面同軸 削り 内側:口縁部一体部同軸ナナ、底面同軸 削り	
23	品6 C-1	土師灰 土器 小皿	5/8	口径(8.2) 底径:1.3 底幅(4.7)	良	褐色	密	赤	外側:口縁部一体部同軸ナナ、底面同軸 削り 内側:口縁部一体部同軸ナナ、底面同軸 削り	
24	品6 E-2	土師灰 土器 小皿	1/2	口径(8.0) 底径:1.5 底幅(5.6)	良	黄褐色	密	赤	外側:口縁部一体部同軸ナナ、底面同軸 削り 内側:口縁部一体部同軸ナナ、底面同軸 削り	
25	品6 E-2	土師灰 土器 小皿	1/3	口径(8.6) 底径:1.3 底幅(5.6)	良	黄褐色	密	赤	外側:口縁部一体部同軸ナナ、底面同軸 削り 内側:口縁部一体部同軸ナナ、底面同軸 削り	
26	品6 C-2	土師灰 土器 小皿	1/2	口径(8.0) 底径:2.2 底幅(4.8)	良	黄褐色	密	赤	外側:口縁部一体部同軸ナナ、底面同軸 削り 内側:口縁部一体部同軸ナナ、底面同軸 削り	



27	島6 C-1	十層瓦 土器 小皿	1/4	口径(94) 器高:12 底径(65)	良	橙褐色	密 二色、黒色 紅・白色粒	—	外周:口縁部一帯部同軸ナゲ、底部同軸糸 取り 内周:口縁部一帯部同軸ナゲ、底部同軸糸 取り	表部
28	島6 E-1	十層瓦 土器 土皿	1/5	口径(92) 器高:17 底径(64)	良	褐色	密 黄・白色粒	—	外周:口縁部一帯部同軸ナゲ、底部同軸糸 取り 内周:同軸ナゲ	表部
29	島7 B-1	十層瓦 土器 小皿	3/8	口径(82) 器高:17 底径(68)	良	橙褐色	密 黒色粒・赤色 粒	—	外周:口縁部一帯部同軸ナゲ、底部糸止 取り 内周:口縁部一帯部同軸ナゲ、底部ナゲ	表部
30	島6 E-1	十層瓦 土器 小皿	1/4	口径(88) 器高:16 底径(68)	良	橙褐色	密 黄・石黄	—	外周:口縁部一帯部同軸ナゲ、底部同軸糸 取り 内周:同軸ナゲ	表部

第155表 3区島跡出土金属製品観察表(第317図)

遺物 No.	遺構・地況 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	組着数	メタル度	ランク	重量(g)	備考
31	島6 C-1	環状不明品	—	鉄	直径(26)	6	6	5	錆化(△)	3	4.8	

第156表 4区島跡出土陶磁器・土器観察表(第322図)

遺物 No.	遺構・地況 出土層位	器種	部位 残存率	注 量 (g)	形状	色調	胎土	飾	調査・文様	備考
1	島8・1 C-4	青磁碗	破片	器高(27)	良好	灰色	密	灰オリーブ 色	外周:各面下半部貼、貫入 内周:片断花文、優先による点捺文、貫入	内周面同軸?1a型
2	島8 C-3	青磁碗	破片	口径(79) 器高(22)	良好	灰色	密	灰オリーブ 色	外周:編織弁文、貫入 内周:貫入	内周面同軸?1b型
3	島8 A-4	青磁碗	破片	口径(60) 器高(47)	良好	灰色	密	赤灰色	外周:編織弁文、貫入 内周:貫入	内周面同軸?1c型
4	島9 B-3	青磁碗	破片	器高(36)	良好	灰色	密	緑灰色	外周:編織弁文 内周:—	内周面同軸?1d型
5	島8 C-1	白磁碗	破片	口径(73) 器高(32)	良好	灰白色	密	白色	外周:— 内周:貫入	白磁碗?1e型
6	島8 B-2・3	白磁碗	破片	口径(74) 器高(45)	良好	淡黄色	密	淡黄色	内周面:貫入	淡黄色 白磁碗?1f型
7	島8 B-1	白磁碗	破片	口径(64) 器高(51)	良好	灰白色	密	灰白色	外周:各面下半部貼、貫入 内周:貫入	白磁碗?1g型
8	島9 A-4	白磁碗	破片	口径(53) 器高(20)	良好	灰白色	密	灰白色	外周:— 内周:貫入	白磁碗?1h型
9	島8 B-2	白磁碗	破片	口径(66) 器高(45)	良好	灰白色	密	淡黄色	外周:各面下半部貼、貫入 内周:貫入	白磁碗?1i型
10	島8 C-1	白磁碗	破片	器高(37) 底径(58)	良好	灰白色	密	灰白色	外周:各面下半部貼、器口折し、器口、 貫入 内周:器口半周貼、貫入	白磁碗?1j型
11	島8・1 A-1	陶器 弁子	破片	口径(32) 器高(26) 底径(44)	良好	淡黄色	密	灰オリーブ 色	外周:貫入 内周:各面下半部貼、貫入	青磁碗?1k型
12	島8・0 B-3・C-1	瓦質土器 火鉢	破片	口径(62) 器高(61) 底径(48)	良	黒灰色	密	—	外周:同軸ナゲ、各面各花文スタンプ4個 以上 内周:同軸ナゲ	内周面同軸?1l型
13	島9 A-2	瓦質土器 火鉢	破片	器高(33) 底径(30)	やや良	淡灰色～ 黒灰色	密	—	外周:同軸ナゲ、底部附付物 内周:同軸ナゲ	内周面同軸?1m型
14	島8 B-1	瓦質土器 器鉢	破片	口径(34) 器高(54)	良	灰色	密 磨粒	—	外周:同軸ナゲ 内周:同軸ナゲ	内周面同軸?1n型
15	島9 A-4	瓦質土器 器鉢	破片	口径(29) 器高(45)	良	暗灰白色	密	—	外周:同軸ナゲ 内周:同軸ナゲ	内周面同軸?1o型
16	島9 A-3	瓦質土器 器鉢	破片	口径(20) 器高(44)	良	淡灰色～ 黒灰色	密	—	外周:同軸ナゲ 内周:口縁部同軸ナゲ、各面5条単位の横目	内周面同軸?1p型
17	島8 A-2・1-2	瓦質土器 器鉢	破片	口径(34) 器高(43)	良	暗灰白色	密	—	外周:同軸ナゲ 内周:口縁部同軸ナゲ、各面5条単位の横目	内周面同軸?1q型
18	島8 E-2	土製瓦 土器 土皿	2/3	口径:83 器高(34) 底径:45	良	灰灰白色	密 磨粒	—	外周:口縁部一帯部同軸ナゲ、底部同軸糸 取り 内周:同軸ナゲ	内周面同軸?1r型
19	島9 A-2	土製瓦 土器 土皿	2/3	口径:81 器高:17 底径:50	良	灰褐色	密 石黄・砂粒	—	外周:口縁部一帯部同軸ナゲ、底部同軸糸 取り 内周:口縁部一帯部同軸ナゲ、底部ナゲ	内周面同軸?1s型
20	島9 A-2	土製瓦 土器 土皿	2/3	口径(76) 器高:13 底径(41)	良	灰褐色	密 黄・石黄・ 白色粒	—	外周:口縁部一帯部同軸ナゲ、底部同軸糸 取り 内周:口縁部一帯部同軸ナゲ、底部ナゲ	内周面同軸?1t型
21	島9 A-2	土製瓦 土器 土皿	2/3	口径(81) 器高:15 底径(44)	良	灰褐色	密 黄・石黄・ 白色粒	—	外周:口縁部一帯部同軸ナゲ、底部同軸糸 取り 内周:口縁部一帯部同軸ナゲ、底部ナゲ	内周面同軸?1u型
22	島9 A-2	土製瓦 土器 土皿	1/4	口径(78) 器高:16 底径(57)	良	灰褐色	密 石黄・白色粒	—	外周:口縁部一帯部同軸ナゲ、底部同軸糸 取り 内周:同軸ナゲ	内周面同軸?1v型
23	島9 A-2	土製瓦 土器 土皿	2/3	口径:75 器高:14 底径:45	良	黄灰白色	密 黄・砂粒	—	外周:口縁部一帯部同軸ナゲ、底部同軸糸 取り 内周:口縁部一帯部同軸ナゲ、底部ナゲ	内周面同軸?1w型
24	島9 A-1	土製瓦 土器 土皿	2/3	口径(71) 器高:15 底径(43)	良	灰褐色	密 黄・石黄・ 砂粒	—	外周:口縁部一帯部同軸ナゲ、底部同軸糸 取り 内周:同軸ナゲ	内周面同軸?1x型
25	島9 A-2	土製瓦 土器 土皿	2/3	口径:75 器高:16 底径:43	良	灰褐色	密 石黄・白色粒	—	外周:口縁部一帯部同軸ナゲ、底部同軸糸 取り 内周:口縁部一帯部同軸ナゲ、底部ナゲ	内周面同軸?1y型
26	島9 A-2	土製瓦 土器 土皿	2/3	口径(77) 器高:17 底径(52)	やや良	灰褐色	密 黄・石黄・ 白色粒	—	外周:口縁部一帯部同軸ナゲ、底部同軸糸 取り 内周:口縁部一帯部同軸ナゲ、底部ナゲ	内周面同軸?1z型

27	島9-A-2	上野質土器 小皿	1/2	口径: 7.2 高さ: 1.1 底径: 5.9	良	灰褐色	磨 形粒	—	外周: 口縁部-体部回転ナテ、底部回転糸切り 内周: 口縁部-体部回転ナテ、底面ナテ
28	島9-2期 A-2	上野質土器 小皿	ほぼ定形	口径: 7.7 高さ: 1.4 底径: 5.0	良	灰白色	磨 帯白・石灰・白色粒	—	外周: 口縁部-体部回転ナテ、底部回転糸切り 内周: 回転ナテ
29	島9-A-2	上野質土器 小皿	ほぼ定形	口径: 7.2 高さ: 1.5 底径: 4.8	良	褐色色-灰白色	磨 形粒	—	外周: 口縁部-体部回転ナテ、底部回転糸切り 内周: 回転ナテ

第157表 4区島跡出土金属製品観察表(第322図)

遺物No.	遺跡・地区 出土層位	種類	形状	材質	外径(mm)	口径(mm)	厚径(mm)	その他計測値(mm)	重量(g)	備考
30	島9-B-3	古銭	定形	銅	23	7	1		1.9	徳永元寶 北条1066年造
31	島9-B-3	古銭	定形	銅	23	6	1		2.7	元龜通寶 北条1075年造 徳永元寶 北条1094年造 何れか?
32	島9-B-3	古銭	定形	銅	24	6	1		2.4	

第158表 5区島跡出土陶磁器・土器観察表(第327図)

遺物No.	遺跡・地区 出土層位	種類	形状	口径 (cm)	高さ (cm)	口径	胎土	釉	色	文様	備考
1	島8-2期 D-4	青白磁 合子器	定形	口径: 4.1 高さ: 1.3	良好	白色	密	明緑灰釉	外周: 身分文様押入、口縁部透筋、貫入 内周: 口縁部-体部透筋、貫入		白磁系瓦器
2	島8-2期 C-4	白磁 盃	碗片	口径: 9.22 底径: 2.4	良好	灰白色	密	灰白色	外周: 貫入 内周: 口縁部透筋ナテ(口先)		内周先周縁部 龍象系透筋1-2期
3	島1-2期 B-2	青磁 碗	碗片	口径: 3.22	良好	灰白色	密	灰オリーブ色	外周: 貫入 内周: 龍文、貫入		龍象系透筋1-2期
4	島8-1期 C-2	青磁 碗	碗片 1/2	口径: 1.6 底径: 4.33	良好	灰色	密	灰オリーブ色	外周: 蓮花文、貫入内透筋、開り出し両方 内周: 一		龍象系透筋1-2期
5	嶋10 構成跡中層	内磁 皿	底面破片	口径: 6.9 底径: 3.6	良好	灰白色	密	灰白色	外周: 体部下半-底面透筋、貫入 内周: 貫入		内周透筋 白磁系瓦器
6	島8-1期 D-2	白磁 碗	碗破片	口径: 1.6 底径: 4.0	良好	灰白色	密	灰白色	外周: 体部下半-底面透筋、貫入 内周: 貫入		白磁系瓦器
7	島8-2期 C-3	白磁 碗	碗片	口径: 16.9 底径: 2.4	良好	灰白色	密	灰白色	内外周: 貫入		白磁系瓦器
8	島1-1期 A-4	内磁 碗	碗片	口径: 16.9 底径: 2.2	良好	灰白色	密	灰白色	内外周: 一		内周透筋 白磁系瓦器
9	島1-1期 B-4	内磁 碗	碗片	口径: 15.6 底径: 2.7	良好	灰白色	密	浅灰色	内外周: 貫入		透筋点 白磁系瓦器V-3a型
10	島8-2期 D-4	白磁 碗	碗片	口径: 37.0 底径: 2.4	良好	灰色	密	灰色	内外周: 一		白磁系瓦器
11	島11-1期 内周	内磁 碗	碗片	口径: 31.1 底径: 4.1	良好	灰白色	密	暗褐色	外周: 透筋 内周: 透筋、6条帯位の透筋		龍戸大聖1後期
12	島8-1期 C-3	瓦質土器 底面破片	底面破片	口径: 1.5 底径: 3.6	良	灰色-灰褐色	密	一	外周: 体部回転ナテ、底面透筋糸切り 内周: 回転ナテ		内外周底部一部残付
13	嶋10 構成跡上層	瓦質土器 底面破片	底面破片	口径: 3.8 底径: 6.2	良	褐色色-灰褐色	密	一	外周: 体部回転ナテ、底面透筋糸切り 内周: 体部回転ナテ、底面ナテ		内外周底部一部残付
14	島8-2期 D-3	瓦質土器 底面破片	底面破片	口径: 1.9 底径: 12.7	良	褐色色	密	一	外周: 体部回転ナテ、底面透筋糸切り 内周: 回転ナテ		内外周底部一部残付
15	島11-1期 内周	瓦質土器 碗片	碗片	口径: 19.8 底径: 4.8	良	灰褐色-暗褐色	密	一	外周: 回転ナテ 内周: 口縁部透筋ナテによる透筋、体部5条帯位の透筋		外周透筋
16	嶋10 構成跡中層	瓦質土器 碗片	碗片	口径: 2.6 底径: 12.0	やや良	暗灰白色	密	一	外周: 体部透筋透筋ナテ、底面ナテ 内周: 体部5条帯位の透筋、底面ナテ		外周透筋-底面透筋 内周透筋底面透筋ナテ
17	嶋10 構成跡中層	上野質土器 碗	1/2	口径: 30.6 高さ: 14.2 底径: 25.6	良	灰褐色	密	一	外周: 縦-横ハケテ 内周: 口縁部透筋ナテ、底面以下横ハケテ		外周透筋底面透筋ナテ
18	島1-2期 A-4	土師質土器 小皿	定形	口径: 7.7 高さ: 1.9 底径: 4.8	良	灰褐色	密	小石粒	外周: 口縁部-体部回転ナテ、底部回転糸切り 内周: 口縁部-体部回転ナテ、底面ナテ		内周透筋底面透筋ナテ
19	島1-1期 A-4	土師質土器 小皿	定形	口径: 8.1 高さ: 1.9 底径: 5.3	良	灰褐色	密	石灰・石灰粒	外周: 口縁部-体部回転ナテ、底面透筋糸切り 内周: 口縁部-体部回転ナテ、底面透筋糸切り		内周透筋底面透筋ナテ
20	島1-2期 A-4	土師質土器 小皿	定形	口径: 7.7 高さ: 1.6 底径: 5.0	良	灰褐色	密	帯白色粒	外周: 口縁部-体部回転ナテ、底面透筋糸切り 内周: 口縁部-体部回転ナテ、底面ナテ		内周透筋底面透筋ナテ
21	島11-2期 A-1	土師質土器 小皿	定形	口径: 8.0 高さ: 1.8 底径: 4.3	良	灰褐色	密	一	外周: 口縁部-体部回転ナテ、底面透筋糸切り 内周: 口縁部-体部回転ナテ、底面ナテ		内周透筋底面透筋ナテ
22	島8-2期 D-3	土師質土器 小皿	碗片	口径: 7.3 底径: 6.0	良	暗褐色	密	一	外周: 口縁部-体部ナテ、底面透筋透筋ナテ 内周: 口縁部-体部ナテ、底面透筋透筋ナテ		手捏瓦器

第159表 5区島跡出土金属製品観察表(第327図)

遺物No.	遺跡・地区 出土層位	種類	形状	材質	最大長(mm)	最大厚(mm)	最大径(mm)	筋間隔	メタリ度	ランク	重量(g)	備考
23	嶋10 構成跡中層	銅貨	14F定形	銅	径長: 31.1 厚: 29 直径: 2		径長: 40 直径: 5	径長: 3 直径: 3	5	磨化(ハ)	6.8	

25	雄10 雄灰砂下層	紅	完整	熟	70	6	6	5	酸化(Δ)	4	98	
----	--------------	---	----	---	----	---	---	---	-------	---	----	--

第160表 1区SK01出土陶磁器・土器觀察表(第335図)

遺物No.	遺跡・地区 出土層位	器種	部位 保存率	径 (cm)	形状	色調	胎土	調整・文様	備考
1	雄砂下層	磁器 灰付皿	底面	器高(1.3) 底径(3.4)	良好	白色	密	外面：高台内、通體部内「大明年號」書入、高内面磨漆施胎、高台外周 内面：一	胎前 18c後半
2	雄砂下層	磁器 灰付皿	底面	器高(2.5)	良好	白色	密	外面：書入文、磨り出し高台 内面：磨り出し高台	胎前 磨り出し高台 18c後半
3	雄砂下層	磁器 灰付皿	1/2	口径(10.3) 器高(3.2) 底径(5.9)	良好	灰白色	密	外面：書入文、高台内、通體部内「大明年號」書入、高内面磨漆施胎、砂付書、書入、磨り出し高台 内面：書入文、書入	胎前 18c前半
4	雄砂下層	陶器 灰付皿	破片	口径(9.8) 器高(5.8)	良好	灰白色	密	外面：書入 内面：書入	胎前 京焼風 18c
5	雄砂下層	土師製 灰付皿	1/4	口径(10.3) 器高(1.9) 底径(4.4)	中等良	灰褐色	密	外面：口縁部一帯磨り出し、底面に磨漆施胎 内面：口縁部一帯磨り出し、底面に磨漆施胎	

第161表 1区SK02出土陶磁器・土製品觀察表(第337図)

遺物No.	遺跡・地区 出土層位	器種	部位 保存率	径 (cm)	形状	色調	胎土	調整・文様	備考
1	雄砂下層	磁器 磨り出し高台	破片	器高(3.2)	良好	灰色	密	外面：口足文 内面：磨漆施胎	
2	雄砂下層	磁器 磨り出し高台	破片	器高(3.1) 底径(4.1)	良好	灰白色	密	外面：磨り出し高台、高台部分磨漆施胎、砂付書、書入、磨り出し高台 内面：書入	胎前 18c代
3	雄砂下層	磁器 磨り出し高台	破片	器高(2.1) 底径(4.0)	良好	白色	密	外面：高台内磨漆施胎、磨り出し高台 内面：磨り出し高台	胎前 18c後半
4	雄砂下層	磁器 磨り出し高台	破片	器高(2.0) 底径(4.0)	良好	灰白色	密	外面：高台内一帯磨漆施胎、磨り出し高台 内面：磨り出し高台	胎前 18c後半
5	雄砂下層	磁器 磨り出し高台	破片	器高(2.3) 底径(7.0)	良好	灰白色	密	外面：口足文、磨漆、高台部分磨漆施胎、砂付書、磨り出し高台 内面：磨漆施胎	胎前
6	雄砂下層	磁器 磨り出し高台	破片	口径(5.0) 器高(3.1)	良好	白色	密	外面：口足磨文 内面：四方磨文	伊万里 18c前半
7	雄砂下層	磁器 磨り出し高台	破片	口径(7.2) 器高(4.0) 底径(4.8)	良好	白色	密	外面：磨漆、高台部分磨漆施胎、磨り出し高台 内面：一	在地方 18c後半
8	雄砂下層	磁器 磨り出し高台	破片	一	良好	灰白色	密	外面：磨漆、磨り出し高台 内面：磨漆	
9	雄砂下層	磁器 磨り出し高台	1/3	器高(3.0) 底径(3.4)	良好	灰白色	密	外面：磨漆、高台部分磨漆施胎、磨り出し高台	胎前
10	雄砂下層	陶器 灰付皿	破片	器高(3.8) 底径(4.2)	良好	灰色	密	外面：磨漆、高台内磨漆施胎、高台部分磨漆施胎、磨り出し高台 内面：磨漆、磨り出し高台	在地方 18c後半以降
11	雄砂下層	陶器 灰付皿	破片	器高(4.0) 底径(4.3)	良好	灰色	密	外面：磨漆、高台内磨漆施胎、高台部分磨漆施胎、磨り出し高台 内面：磨漆、磨り出し高台	胎前 18c
12	雄砂下層	陶器 灰付皿	破片	器高(4.6) 底径(10.6)	良好	褐色	密	外面：磨漆、高台内磨漆施胎、磨り出し高台 内面：磨漆、磨り出し高台	胎前 17c後半
13	雄砂下層	陶器 灰付皿	破片	口径(8.7) 器高(5.8) 底径(10.8)	良好	褐色	密	外面：磨漆、口縁部磨漆施胎 内面：口縁部磨漆、磨り出し高台	在地方 18c後半以降
14	雄砂下層	陶器 灰付皿	破片	口径(11.9) 器高(1.4)	良好	灰色	密	外面：磨漆、口縁部一帯磨漆施胎 内面：磨漆	内外面一帯磨漆施胎 在地方 18c後半以降
15	雄砂下層	陶器 灰付皿	1/3	器高(3.0) 底径(3.3)	良好	褐色	密	外面：磨漆 内面：磨漆	内外面磨漆施胎 在地方
16	雄砂下層	陶器 灰付皿	破片	器高(5.1) 底径(9.6)	良好	灰褐色	密	外面：磨漆、磨り出し高台一帯磨漆施胎、磨り出し高台 内面：磨漆、磨り出し高台	在地方 18c後半以降
17	雄砂下層	陶器 灰付皿	破片	器高(4.5) 底径(12.6)	良好	灰褐色	密	外面：磨漆、高台内磨漆施胎、磨り出し高台 内面：磨漆、高台部分磨漆施胎	在地方 18c後半以降
18	雄砂下層	土師製 灰付皿	破片	口径(4.5) 器高(1.6) 底径(1.6)	良	褐色	密	外面：磨漆 内面：磨漆	重量：10.5g

第162表 1区SK02出土土製品觀察表(第337図)

遺物No.	遺跡・地区 出土層位	器種	保存状態	最大径(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石	材	備考
19	雄砂下層	陶器	3/5	(19)	(4)	07		硬瓦	

第163表 1区SK03出土陶磁器・土器觀察表(第339図)

遺物No.	遺跡・地区 出土層位	器種	部位 保存率	径 (cm)	形状	色調	胎土	調整・文様	備考
1	雄砂下層	磁器 灰付皿	破片	口径(11.6) 器高(5.0)	良好	白色	密	外面：書入文、書入 内面：磨り出し高台	胎前 18c後半～19c
2	雄砂下層	磁器 灰付皿	破片	口径(8.2) 底径(3.6)	良好	灰白色	密	外面：磨り出し高台 内面：一	胎前 18c後半
3	雄砂下層	磁器 灰付皿	破片	口径(9.8) 器高(2.7) 底径(5.2)	良好	白色	密	外面：磨漆、高台内磨漆施胎、砂付書、磨り出し高台 内面：書入文、見立、磨漆施胎	胎前 18c後半
4	雄砂下層	磁器 灰付皿	破片	器高(1.3)	良好	白色	密	外面：磨漆 内面：磨漆	胎前

3	履砂下層	陶器 小皿	破片	口径(12.9) 器高(2.4)	良好	褐色灰色	密	外面: 灰釉、体部下半露胎 内面: 灰釉、一部露胎	肥前? 16c代?
6	履砂下層	陶器 小皿	1/2	口径(8.3) 器高(1.1) 底径(3.8)	良好	灰褐色	密	外面: 口縁部鉄釉、体部~底部露胎 内面: 鉄釉	志摩産
7	履砂下層	陶器 大皿	破片	器高(4.1) 口径(10.6)	良好	灰褐色	密	外面: 体部下半~底部露胎、削り出し高台 内面: 二色ガラス、赤鉄、貫入	肥前県 17c後半
8	履砂下層	土師質 土師 小皿	147°彩色	L径(7.3) 器高(1.6) 底径(3.9)	良	灰褐色	密	外面: 口縁部~体部黒鉛ナテ、泉部黒鉛赤印リ→ナテ 内面: 黒鉛ナテ	L径部露胎付
9	履砂下層	陶器 茶碗	破片	L径(34.0) 器高(5.0)	良	褐色	密	外面: 口縁部~体部黒鉛ナテ、体部黒ヘラズリ 内面: 黒鉛ナテ	丹波国産付

第164表 1区SK03出土金属製品観察表(第339図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	法量 (cm)	状態	色調	胎土	その他計測値 (cm)	重量 (g)	備考
10	履砂下層	金	外形	縦	123		2	2	4.3	二線足 丸底厚縁金

第165表 2区SK02出土陶磁器観察表(第343図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	法量 (cm)	状態	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	磁器 茶付小皿	底部	器高(3.0) 底径(4.2)	良好	灰白色	密	外面: 青磁、高台内角縁、高台部露胎露胎、削り出し高台 内面: 見込二重線彫内コンニキヤ印刻丸弁花	肥前 18c後半
2	埋砂中	磁器 茶付小皿	破片	口径(5.2) 底径(3.3)	良好	白色	密	外面: 菊花に基文、高台部露胎露胎、削り出し高台 内面: 見込・重線彫	肥前 18c末
3	埋砂中	磁器 茶付小皿	破片	口径(7.7) 器高(3.7)	良好	白色	密	外面: 黒文・露胎 内面: 白方澤	肥前 18c末
4	埋砂下層	磁器 茶付小皿	破片	器高(1.8) 底径(6.4)	良好	白色	密	外面: 高台部露胎露胎、削り出し高台 内面: 黒文	17c後半
5	埋砂中	磁器 茶付小皿	底部	口径(2.3) 器高(4.3)	良好	灰白色	密	外面: 体部下半~高台部露胎~内面露胎、削り出し高台 内面: 見込・重線彫、緑の目輪彫	御前崎小 皿器 18c前半
6	埋砂中	陶器 茶碗	底部	器高(2.3) 口径(4.1)	良好	褐色	密	外面: 体部下半~底部露胎、削り出し高台、貫入 内面: 鉄絵、緑の目輪彫、貫入	御前崎小 皿器 17c後半

第166表 2区SK04出土陶磁器観察表(第346図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	法量 (cm)	状態	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	磁器 茶付小皿	底部	器高(2.0) 口径(7.6)	良好	灰白色	密	外面: 高台部露胎露胎、削り出し高台 内面: 見込・重線彫内黒文	御前崎小 皿器 17c半ば
2	埋砂中	陶器 茶碗	底部	器高(2.1) 口径(5.2)	良好	淡灰褐色	密	外面: 体部下半~高台部~内面露胎、削り出し高台、 内面: 貫入	御前崎小 皿器 17c半ば
3	埋砂中	陶器 大皿	破片	器高(3.6)	良好	淡灰褐色	密	外面: 貫入 内面: 貫入	御前崎小 皿器 17c代

第167表 2区SK04出土木製品観察表(第346図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	法量 (cm)	木取り	調整・文様	備考
4	埋砂中	漆器 筒	破片	口径(11.3) 器高(4.7)		外面: 黒漆、梅花文(彫) 内面: 朱漆	

第168表 2区SK08出土陶磁器観察表(第351図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	法量 (cm)	状態	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂中	陶器 茶付小皿	底部	器高(2.3) 底径(5.5)	良好	白色	密	外面: 高台部露胎露胎、削り出し高台 内面: 一	御前崎小 皿器 18c末?
2	埋砂中	陶器 茶付小皿	破片	器高(4.3) 口径(4.2)	良好	褐色	密	外面: 灰白色胎、体部下半~高台部内面露胎、削り出し高台 内面: 灰白色胎	肥前 17c半ば頃
3	埋砂中	陶器 茶付小皿	破片	器高(4.3) 口径(13.0)	良好	赤褐色	密	外面: 体部下半、底部露胎赤切り 内面: 6条黒文の浮目	肥前県 18c前半

第169表 3区SK01出土陶磁器観察表(第353図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	種類	部位 残存率	法量 (cm)	状態	色調	胎土	調整・文様	備考
1	埋砂上層	磁器 茶付小皿	1/3	L径(8.4) 器高(5.3) 口径(8.8) 底径(3.5)	良好	白色	密	外面: 半青磁文、高台部露胎、削り出し高台、貫入 内面: 見込・重線彫、貫入	肥前 18c前
2	埋砂下層	陶器 茶碗	破片	L径(28.8) 器高(6.0)	良好	灰褐色	密	外面: 鉄釉 内面: 鉄釉、緑目	志摩産 18c後半以降

第170表 3区SK02出土陶磁器・土器・土製品観察表 (第355図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	形 種	容 積 割合 (%)	法 量 (g)	焼 成	色 澤	胎 土	調査・文 種	備 考
1	埋砂段上層	陶器 灰付皿	3/4	口径: 21.6 器高: 4.9 底径: 12.8	良好	白色	密	外面: 蓮葉文、高台部露胎、削り出し高台、貫入 内面: 見込捺物文、貫入	新十日橋 ガラス焼酎 伊豆屋 18c後-19c前半
2	埋砂段上層	陶器 灰付皿	ほぼ 定形	口径: 13.8 器高: 2.7 底径: 8.6	良好	白色	密	外面: 蓮葉文、高台部露胎、削り出し高台 内面: 蓮文、見込五弁花	ガラス焼酎 高台内(フイメヤ) 伊豆屋 18c後半
3	埋砂段上層	陶器 灰付皿	定形	口径: 14.4 器高: 4.6 底径: 9.8	良好	白色	密	外面: 蓮葉文、高台部露胎、削り出し高台、貫入 内面: 見込捺物文、貫入	伊豆屋 18c後半
4	埋砂段上層	陶器 灰付皿	定形	口径: 4.5 器高: (2.4) 底径: (1.9)	良好	白色	密	外面: 蓮葉文、高台部露胎、削り出し高台 内面: 蓮文、見込五弁花	伊豆屋 18c後半
5	埋砂中層	陶器 灰付小杯	高部 底径: 2.7	口径: 2.4 底径: 2.7	良好	白色	密	外面: 高台部露胎、削り出し高台 内面: 風車文	伊豆屋 18c後-19c
6	埋砂中層	青磁 碗	高部 底径: 4.9	口径: 1.3 底径: (4.9)	良好	灰褐色	密	外面: 高台部露胎、削り出し高台、貫入 内面: 貫入	16c後半
7	埋砂段上層	陶器 碗	ほぼ 定形	口径: 8.7 器高: 5.2 底径: 3.0	良好	黄白色	密	外面: 灰白色釉、高台・高台内部露胎、貫入 内面: 灰白色釉、貫入	外部高台内部露胎 1 高台削り出し付着 灰褐色 18c後半以降
8	埋砂段上層	陶器 碗	1/2	口径(9.7) 器高: 7.5 脚径(10.4) 底径(4.4)	良好	灰色	密	外面: 灰白色釉、体部下半部露胎、削り出し高台 内面: 緑白色包釉	在泉寺・若志堂 1 18c後半-19c
9	埋砂段上層	陶器 碗	高部 底径: 4.4	口径: 1.9 底径: (4.4)	良好	灰褐色	密	外面: 露胎 内面: 緑白色釉	新十日橋 18c後半
10	埋砂中層	陶器 碗	高部 底径: 4.4	口径: 1.9 底径: (4.4)	良好	灰褐色	密	外面: 高台部露胎、削り出し高台、貫入 内面: 貫入	伊豆屋 18c後半-19c
11	埋砂段上層	陶器 灰付小杯	ほぼ 定形	口径: 17.4 器高: 9.5 底径: 6.8	良好	灰褐色	密	外面: 鉄釉、一部露胎、削り出し高台 内面: 鉄釉、一部露胎、見込みに3葉のトシナ文	伊豆屋 18c後半以降
12	埋砂段上層	陶器 灰付小杯	1/4	口径(25.6) 器高: 22.6 底径(36.1)	良好	褐色~ 灰褐色	密	外面: 草花文彫付、3葉足、底部中央穿孔	焼酎陶器 丹波屋 19c前半
13	埋砂段上層	土器 灰付小杯	ほぼ 定形	口径: 6.6 器高: 4.3 底径: 4.1	良	褐色	密	底部中央穿孔	
14	埋砂段上層	土器 湯碗	定形	口径: 8.2 器高: 1.5 底径: 3.8	良	褐色	密	外面: 口縁部一部露胎、底面露胎 内面: 口縁部一部露胎、底面露胎	内外露胎付
15	埋砂段上層	土器 湯碗	定形	口径: 8.2 器高: 1.5 底径: 3.8	良	褐色	密	外面: 口縁部一部露胎、底面露胎 内面: 口縁部一部露胎、底面露胎	内外露胎付
16	埋砂段上層	土器 湯碗	定形	口径: 8.2 器高: 1.5 底径: 4.0	良	褐色	密	外面: 口縁部一部露胎、底面露胎 内面: 口縁部一部露胎、底面露胎	内外露胎付
17	埋砂段上層	土器 湯碗	1/3	口径(13.8) 器高: 3.9	良	灰褐色	密	外面: 露胎、削り出し高台、貫入 内面: 口縁部露胎、底面露胎	内外露胎付
18	埋砂上層	土器 湯碗	高部 底径: 3.2	口径: 7.2 底径: (3.2)	良	灰褐色	密	外面: 露胎、削り出し高台、貫入 内面: 露胎、削り出し高台、貫入	内外露胎付 18c後半以降
19	埋砂下層	土器 碗	定形	口径: 6.6 器高: 2.1 底径: 2.0	良	褐色	密	外面: 露胎、削り出し高台、貫入 内面: 露胎、削り出し高台、貫入	重量: 26.1g
20	埋砂下層	土器 碗	定形	口径: 6.0 器高: 1.8 底径: 1.0	良	褐色	密	外面: 露胎、削り出し高台、貫入 内面: 露胎、削り出し高台、貫入	重量: 19.2g
21	埋砂下層	土器 碗	定形	口径: 4.8 器高: 1.0 底径: 1.0	良	褐色	密	外面: 露胎、削り出し高台、貫入 内面: 露胎、削り出し高台、貫入	重量: 5.3g

第171表 3区SK02出土石器観察表 (第355図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	形 種	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石 材	備 考
22	埋砂上層	灰付小杯	底面	26	26	22	16.3	凝灰岩	

第172表 3区SK02出土土製品観察表 (第356図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	形 種	容 積 割合 (%)	法 量 (g)	本取り	特 徴	備 考
23	埋砂上層	灰付小杯	ほぼ 定形	口径: 19.7 器高: 7.3 底径: 3.5	無目		
24	埋砂上層	陶器 碗	1/2	口径: 6.6 器高: 2.1 底径: 4.6	—	外面: 露胎、削り出し高台、貫入 内面: 露胎、削り出し高台、貫入	

第173表 4区SK01出土陶磁器・土器観察表 (第359図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	形 種	容 積 割合 (%)	法 量 (g)	焼 成	色 澤	胎 土	調査・文 種	備 考
1	埋砂中層	陶器 灰付皿	定形	口径(11.8) 器高: 3.4 脚径(7.0)	良好	灰白色	密	外面: 蓮葉文、高台部露胎、削り出し高台、貫入 内面: 蓮葉文、見込五弁花	伊豆屋 18c後半
2	埋砂中層	陶器 碗	高部 底径: 1.8	口径: (1.8) 底径: (1.8)	良好	灰白色	密	外面: 貫入 内面: 貫入	伊豆屋 18c後半

3	塚跡中	土器 地器	破片	口径(20.0) 器高(5.4) 胴径(31.2)	良好	褐色	密	外面：口縁部一帯器部割ナブ、体部ト平ヘラケナリ 内面：同割ナブ	口縁部破片1個
---	-----	----------	----	---------------------------------	----	----	---	------------------------------------	---------

第174表 4区SK02出土陶磁器・土製品観察表(第361図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	状態	色調	胎土	装束・文様	備考
1	塚跡中	磁器 鉢	1/4	口径(9.0) 器高(3.5)	良好	灰褐色	密	外面：青磁、黒入 内面：同方帯二重磨製、黒入	紀前 18c前半
2	塚跡中	土器	2/3	高さ(2.9) 幅(0.9) 厚さ(0.9)	良	緑褐色	密		重量：1.5g

第175表 4区SK02出土木製品観察表(第361図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	木取り	状態	色調	胎土	装束・文様	備考
3	塚跡中	漆器 筒	1/6	器高(4.9)				外面：黒漆、(丸に半文)底(黒) 内面：朱漆		
4	塚跡中	木製品 蓋	1/2	直径(7.6) 幅(21.0) 厚さ(1.4)	椴目	中央部4.5×6.0cmの方形割れ込込				

第176表 4区SK03出土陶器観察表(第363図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	状態	色調	胎土	装束・文様	備考
1	塚跡中	陶器 甕	底部 1/2	器高(3.2) 底径(4.9)	良好	灰色	密	外面：塗灰不明、高台部磨製磨削、割り出し高台、黒入 内面：黒入	陶器倉付 伊前 18c前半

第177表 4区SK04出土陶器観察表(第365図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	状態	色調	胎土	装束・文様	備考
1	塚跡中	陶器 甕	底部 1/2	器高(2.7) 底径(4.9)	良好	灰色	密	外面：塗灰不明、高台部磨製磨削、割り出し高台、黒入 内面：黒入	陶器倉付 伊前 18c前半

第178表 5区SK02出土陶磁器観察表(第368図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	状態	色調	胎土	装束・文様	備考
1	塚跡中	磁器 金付碗	底部	器高(1.3) 底径(4.2)	良好	白色	密	外面：高台部磨製磨削、砂付着、割り出し高台 内面：見込二重磨削内五分花	紀前 18c代
2	塚跡中	磁器 金付鉢	1/3	口径(13.0) 器高(3.8)	良好	白色	密	外面：高台部磨削、高台内一帯磨削、砂付着、割り出し高台 内面：塗灰不明、絶の耳輪割、砂付着	紀前 18c前半
3	塚跡中	磁器 金付品	1/3	口径(11.6) 器高(3.5) 底径(4.0)	良好	白色	密	外面：体部下半一帯内部磨削、割り出し高台 内面：塗灰不明、絶の耳輪割、砂付着	紀前 18c前半
4	塚跡中	磁器 金付鉢	破片	口径(7.9) 器高(5.8) 底径(8.5)	良好	白色	密	外面：青磁 内面：同方帯、見込二重磨製	紀前 18c前半
5	塚跡中	磁器 金付鉢L	1/4	口径(8.5) 器高(6.7) 底径(6.0)	良好	白色	密	口縁梅花 外面：竹葉文、底部磨削 内面：同方帯、見込二重磨製	紀前肥前系 18c
6	塚跡中	磁器 金付仏懸器	底部	器高(2.2) 底径(3.6)	良好	白色	密	外面：磨製磨削、砂付着、割り出し高台	伊前
7	塚跡中	陶器 磁器	破片	口径(27.2) 器高(6.1)	良好	灰色	密	外面：同割ナブ 内面：口縁部割ナブ、体部ト平単位の道具	同系系

第179表 5区SK03出土陶磁器・土器観察表(第370図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	状態	色調	胎土	装束・文様	備考
1	塚跡中	磁器 金付碗	底部	器高(1.9) 底径(4.2)	良好	淡黄白色	密	外面：青磁、高台内角磨、磨製磨削、割り出し高台、黒入 内面：見込コンニク印五分花、黒入	伊万屋 18c後半
2	塚跡中	磁器 金付鉢	底部1/2	器高(2.0) 底径(3.6)	良好	淡白色	密	外面：丸文、磨製磨削、割り出し高台 内面：見込折文?	陶器 伊万屋 18c後半
3	塚跡中	磁器 金付鉢	底部1/3	器高(1.8) 底径(4.1)	良好	白色	密	外面：青磁、磨製磨削、割り出し高台 内面：見込二重磨削内五分花	伊万屋 18c後半
4	塚跡中	磁器 金付鉢	破片	口径(10.2) 器高(1.6)	良好	淡灰色	密	外面：磨製磨削 内面：見込磨削	18c後半
5	塚跡中	磁器 金付品	破片	器高(2.3) 底径(3.7)	良好	白色	密	外面：塗灰不明、高台内一帯磨削、絶の高台 内面：花文?	伊万屋 18c後半～幕末
6	塚跡中	磁器 金付鉢	底部破片	器高(1.9) 底径(1.5)	良好	淡灰白色	密	外面：磨製磨削、高台内一帯の磨削、割り出し高台、黒入 内面：磨削	伊万屋 伊前 18c後半
7	塚跡中	磁器 金付品	口縁部	口径(8.8) 器高(3.6)	良好	淡灰白色	密	外面：青磁文 内面：一	伊万屋、肥前 18c代
8	塚跡中	磁器 金付小作	破片	器高(1.6) 底径(3.2)	良好	淡灰白色	密	外面：塗灰不明、磨製磨削、砂付着、割り出し高台、黒入 内面：黒入	肥前系 18c後半以降
9	塚跡中	磁器 鉢	体部一帯 破片	器高(3.5) 底径(5.5)	良好	灰色	密	外面：塗灰不明、磨製磨削、割り出し高台、黒入 内面：黒入	陶器倉付 肥前 18c後半

10	埋砂中	陶器 蓋	破片	口径(36.6) 器高(5.5) 底径(36.7)	良好	暗赤灰色	青	外面：灰白色釉、貫入 内面：口部部灰白色釉、貫入	調査 17-後半
11	埋砂中	陶器 鉢鉢	底部破片	器高(31) 底径(10.6)	良好	赤褐色	青	外面：鉄錆、磨り出し高台 内面：鉄錆、口部部位の磨り	在埋砂 18c後半以降
12	埋砂中	土器 惣鉢	破片	口径(20.7) 器高(5.8)	良好	褐色	密	外面：L1線部顔料ナリ、底部ヘラナズリ 内面：同じナリ	内外面保存者

第180表 2区SD01出土陶器・土製品観察表(第372図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂中	陶器 鉢	破片	器高(37) 底径(5.2)	良好	暗灰色	密	外面：緑灰色釉、高台部鉄錆付着跡、磨り出し高台、貫入 内面：緑灰色釉、貫入	陶器製作 時期 18c
2	埋砂中	陶器	破片	高さ(5.0) 高さ(3.7) 底径(2.6)	良	白褐色	密	裏面わぜー手捺り成形	中型

第181表 2区SD02出土磁器・土製品観察表(第373図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂中	磁器 茶付鉢	破片	L1径(15.5) 器高(3.1)	良好	白色	密	L1線部化、外面、西条文? 内面：墨汁不明	肥後系 18c後半以降
2	埋砂中	土器	2/3	高さ(4.9) 幅(2.1) 厚さ(1.9)	良	灰色	青		重量11.4g

第182表 2区SD03出土陶磁器観察表(第375図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂中	磁器 茶付鉢	破片	L1径(9.6) 器高(1.8)	良好	白色	青	外面：陶器文 内面：西条文	肥後系 18c後半以降
2	埋砂中	陶器 鉢	破片	口径(32.3) 器高(3.7)	良	灰褐色	密	外面：灰褐色 内面：灰色、暗褐色釉	18c後半以降

第183表 2区SD04出土陶磁器観察表(第377図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂中	磁器 茶付鉢	1/3	口径(7.9) 器高(5.5) 底径(3.2)	良好	白色	密	外面：墨文、高台部鉄錆付着跡、磨り出し高台 内面：鉄方捺、見込、濃縮部内環状鉄方捺文	肥後系 幕末
2	埋砂中	磁器 茶付鉢	破片	口径(9.5) 器高(1.7) 底径(5.0)	良	白色	密	外面：西条文?、高台部鉄錆付着跡、磨り出し高台、貫入 内面：写輪車底文、見込二重無地、貫入	肥後系 幕末
3	埋砂中	陶器 惣鉢	破片	器高(3.9) 底径(32.6)	良	黄灰色	密	外面：鉄錆、ナズリ、磨り出し高台 内面：鉄錆、口部部位の磨り	

第184表 4区SD01出土陶器観察表(第379図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂中	陶器 甕	1/4	口径(8.6) 器高(3.2)	良好	灰紫色	密	外面：鉄錆 内面：鉄錆、かえり部鉄錆	外周自然焼成 在埋砂 18c後半以降

第185表 5区SD01出土陶磁器製品観察表(第381図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	埋砂中	磁器 大甕	底部破片	器高(3.5) 底径(7.7)	良好	灰紫色	密	外面：鉄錆、各部 高台内面鉄錆、磨り出し高台 内面：鉄錆、足底部鉄錆付着	肥後 17c後半～18c前半
2	埋砂中	磁器 茶付鉢	破片	器高(1.6)	良好	黄灰色	密	外面：鉄錆付着、貫入 内面：貫入	肥後系 幕末以降?

第186表 石列出土磁器・土製品観察表(第383図)

遺物 No.	遺構・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法量 (cm)	焼成	色調	胎土	調査・文様	備考
1	北側	磁器 茶付鉢	破片	口径(10.2) 器高(3.6)	良好	白色	青	外面：陶器文 内面：墨文	肥後系 肥後系 幕末
2	北側	磁器 茶付鉢	底部	口径(32.0) 底径(2.9)	良好	白色	密	外面：写輪車、高台部鉄錆付着跡、鉄方捺 内面：鉄錆	重さ(1.6g)
3	南側	土器	1/2	高さ(2.3) 幅(1.0) 厚さ(0.9)	良	棕色	密		重量: 1.7g

第187表 1区弥生時代~古代包含層出土陶器・土器・土製品観察表 (第384~395図)

器物No	遺跡・地区 出土層位	器種	形位 残存率	寸法 (cm)	土質	色澤	胎上	商標・文様	備考
1	E-3 II-3層	土師器 土師器	口縁部1/4	口径(28.2) 器高(7.1)	良	灰褐色	雲 内四石・雲 母・石黄・白 色粒	外周：口縁部横ナガ、頸状工具による條状文3条 内周：口縁部横ナガ、口縁部横ヘラミダギ	
2	E-3 II-3層	土師器 土師器	口縁部1/2	口径(25.2) 器高(13.0)	やや良	黄灰白色	雲 石黄・砂粒	外周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ、横状工具溝部による 條状文 内周：口縁部横ナガ、頸部以下縦横ハケメ 内内：口縁部横ナガ、頸部ヘラ状工具による圧痕、横部横 ヘラナズリ	
3	W-1 II-3層	土師器 土師器	口縁部1/2	口径(20.6) 器高(14.1)	良	灰褐色	雲 黄赤・石黄・ 砂粒	外周：口縁部横ナガ、頸部以下縦横ハケメ 内周：口縁部横ナガ、頸部以下縦横ハケメ 内内：口縁部横ナガ、頸部ヘラ状工具による圧痕、横部横 ヘラナズリ	外周條状文
4	E-2 II-3層	土師器 土師器	口縁部1/2	口径(21.3) 器高(9.8)	良	灰褐色	雲	外周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ 内周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ 内内：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ 外周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ 内周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ	外周條状文
5	E-5-6 II-3層	土師器 土師器	口縁部1/2	口径(24.7) 器高(11.8)	良	灰褐色	雲 黄赤・白色粒	外周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ 内周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ 内内：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ	外周條状文
6	E-5 II-3層	土師器 土師器	口縁部1/2	口径(15.6) 器高(10.4)	やや良	黄灰白色	雲 黄赤・石黄・ 白色粒	外周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ 内周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ 内内：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ	外周條状文
7	W-2 II-3層	土師器 土師器	口縁部1/6	口径(16.9) 器高(7.9)	良	褐色	雲 黄赤・石黄・ 砂粒	外周：横ナガ 内周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ	
8	E-3 II-3層	土師器 土師器	口縁部1/2	口径(14.8) 器高(7.9)	良	灰褐色	雲 砂粒	外周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ 内周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ 内内：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ	
9	E-3 II-3層	土師器 土師器	口縁部1/3	口径(12.2) 器高(4.4)	良	黄灰白色	雲 黄赤・石黄・ 砂粒	内外周：横ナガ	内周口縁部一部條 状文
10	E-1 II-3層	土師器 土師器	口縁部1/3	口径(13.7) 器高(7.3)	良	褐色	雲 黄赤・砂粒	外周：横ハケメ・横ヘラミダギ 内周：口縁部横ヘラミダギ、肩部横ヘラズリ・横ヘラミ ダギ	両面
11	E-2 II-3層	土師器 土師器	口縁部1/2	口径(11.1) 器高(14.0) 厚径(17.3)	良	灰褐色	雲 黄赤・白色粒	外周：口縁部横ナガ、頸部横ヘラミダギ、頸部以下縦 横ハケメ、横部横ハケメ 内周：口縁部横ナガ、頸部横ヘラミダギ、横部横ヘラミ ダギ 内内：口縁部横ナガ、頸部横ヘラミダギ、横部横ヘラミ ダギ	両面
12	W-2 II-3層	土師器 土師器	破片	器高(6.3) 厚径(16.0)	良	灰褐色~黒 褐色	雲 黄赤・白色粒	外周：横ナガ 内周：横ナガ 内内：横ナガ	両面
13	E-1 II-3層	土師器 土師器	口縁部1/3	口径(17.0) 器高(7.7)	良	灰褐色	雲 黄赤・石黄・ 砂粒	外周：横ヘラミダギ 内周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ 内内：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ	両面
14	E-2 II-3層	土師器 土師器	破片	器高(3.3)	良	褐色	雲 白色粒	外周：横ナガ 内周：横ナガ 内内：横ナガ	内周條状文
15	E-3 II-3層	土師器 土師器	破片	口径(21.6) 器高(3.0)	良	灰褐色	雲	外周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ 内周：横ナガ 内内：横ナガ	
16	W-6 II-3層	土師器 土師器	破片	器高(3.6)	良	灰褐色	雲 黄赤・石黄・ 砂粒	内外周：横ナガ	外周條状文 外周條状文
17	W-2 II-3層	土師器 土師器	底破片	器高(4.7) 厚径(10.7)	良	褐色	雲 内四石・石 黄・白色粒	外周：ヘラズリナガ 内周：ヘラズリ	
18	W-6 II-3層	土師器 土師器	底破片	器高(6.3) 厚径(3.0)	良	灰褐色	雲 石黄・砂粒	外周：横ハケメ 内周：横ヘラナズリ	
19	E-2 II-3層	土師器 土師器	口縁部1/2	口径(15.2) 器高(15.6) 厚径(21.1)	良	褐色	雲 黄赤・石黄・ 白色粒	外周：口縁部横ナガ、頸部以下縦横ハケメ、肩部横状工 具溝部による列状文3条以下 内周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ、横部横ヘラズリ	外周條状文
20	E-2 II-3層	土師器 土師器	口縁部1/2	口径(13.0) 器高(13.5) 厚径(19.4)	良	褐色	雲 黄赤・砂粒	外周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ 内周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ 内内：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ	外周條状文
21	E-4 II-3層	土師器 土師器	口縁部1/2	口径(14.4) 器高(12.6)	良	褐色	雲 黄赤・石黄・ 砂粒	外周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ 内周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ 内内：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ	外周條状文
22	E-5 II-3層	土師器 土師器	定形	口径(15.7) 器高(29.6) 厚径(24.5)	良	黄灰白色	雲 砂粒	外周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ 内周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ 内内：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ	外周條状文
23	E-4 II-3層	土師器 土師器	口縁部1/2	口径(16.0) 器高(28.8) 厚径(23.0)	良	褐色	雲 黄赤・石黄・ 砂粒	外周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ 内周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ 内内：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ	外周條状文
24	E-2 II-3層	土師器 土師器	口縁部1/2	口径(14.3) 器高(29.9) 厚径(26.1)	良	灰褐色	雲 黄赤・石黄・ 砂粒	外周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ、肩部横状工 具溝部による列状文1条以下 内周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ、横部横ヘラズリ	内周條状文
25	E-5 II-3層	土師器 土師器	口縁部1/2	口径(13.8) 器高(12.6) 厚径(20.4)	良	褐色	雲 黄赤・砂粒	外周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ 内周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ 内内：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ	外周條状文
26	E-4 II-3層	土師器 土師器	口縁部1/2	口径(14.4) 器高(14.0) 厚径(24.2)	良	褐色	雲 黄赤・石黄・ 砂粒	外周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ 内周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ 内内：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ	外周條状文
27	E-2 II-3層	土師器 土師器	口縁部1/1	口径(15.4) 器高(23.3) 厚径(21.6)	良	灰褐色	雲 黄赤・白色粒	外周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ、肩部横状工 具溝部による列状文 内周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ、横部横ヘラズリ 内内：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ、横部横ヘラズリ	内周條状文
28	W-4 II-3層	土師器 土師器	口縁部1/3	口径(13.0) 器高(13.0) 厚径(15.6)	良	褐色	雲 砂粒	外周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ 内周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ 内内：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ	外周條状文
29	E-6 II-3層	土師器 土師器	口縁部1/2	口径(15.2) 器高(15.2) 厚径(21.2)	良	灰褐色	雲 黄赤・石黄・ 砂粒	外周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ、肩部横状工 具溝部による列状文 内周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ、横部横ヘラズリ	外周條状文
30	E-1 II-3層	土師器 土師器	口縁部1/3	口径(10.8) 器高(7.5)	良	褐色	雲 砂粒	外周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ 内周：口縁部横ナガ、頸部横ハケメ	外周條状文



31	E-6 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/2	口径(112) 器高(8.7)	片	褐色	帯 砂粒	外面: 口縁部一帯部縁ナリ、底部縁ハケム 内面: 口縁部縁ナリ、底部縁ハケムナリ	外面無付着
32	E-2 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部2/3	口径(111) 器高(14.4) 胴径(14.0)	片	灰褐色	帯 黒色・石灰・ 砂粒	外面: 口縁部縁ナリ、底部縁ハケム、胴部ヘラ状工具 による褐色文1帯以上 内面: 口縁部縁ナリ、底部縁ハケムナリ	外面無付着
33	E-1 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部2/3	口径(10.9) 器高(3.9)	片	褐色	帯	外面: 縁ナリ 内面: 口縁部縁ナリ、底部縁ハケムナリ	内外面無付着
34	E-5 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/2	口径(14.6) 器高(9.9)	片	灰褐色	帯 黒色・白色粒	外面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケム、胴部縁状工具 による褐色文 内面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケムナリ	外面無付着
35	E-3 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/2	口径(15.8) 器高(9.3)	片	褐色	帯 黒色・石灰・ 白色粒	外面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケム 内面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケムナリ	外面無付着
36	E-2 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/2	口径(14.4) 器高(7.4)	片	黄灰色	帯 黒色・石灰・ 白色粒	外面: 口縁部縁ナリ、底部縁ハケム 内面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケムナリ	外面無付着
37	E-4 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/2	口径(14.0) 器高(9.5)	片	褐色	帯 黒色・石灰・ 砂粒	外面: 口縁部縁ナリ、底部縁ハケム 内面: 口縁部縁ナリ、底部縁ハケムナリ	外面無付着
38	E-4 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/2	口径(12.8) 器高(6.0)	片	灰褐色	帯	外面: 口縁部縁ナリ、底部縁ハケム 内面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケムナリ	外面無付着
39	E-2 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/2	口径(11.7) 器高(20.7) 胴径(20.3)	片	灰褐色	帯 石灰・砂粒	外面: 口縁部縁ナリ、底部縁ハケム 内面: 口縁部縁ナリ、底部縁ハケムナリ	外面無付着
40	W-1 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/3	口径(17.4) 器高(24.5) 胴径(26.8)	片	灰褐色	帯 石灰・砂粒	外面: 口縁部縁ナリ、底部縁ハケム 内面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケムナリ	外面無付着
41	W-5 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/3	口径(22.0) 器高(10.1)	片	褐色	帯 黒色・石灰・ 砂粒	外面: 口縁部縁ナリ、底部縁ハケム 内面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケムナリ	外面無付着
42	E-5 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/2	口径(15.2) 器高(16.5) 胴径(16.4)	片	灰褐色	帯 黒色・石灰・ 白色粒・赤色粒	外面: 口縁部縁ナリ、底部縁ハケム 内面: 口縁部縁ナリ、底部縁ハケムナリ	外面無付着
43	E-2 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/2	口径(15.0) 器高(19.9) 胴径(19.6)	片	褐色	帯 黒色・石灰・ 白色粒・砂粒	外面: 口縁部縁ナリ、底部縁ハケム 内面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケムナリ	外面無付着
44	W-5 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/2	口径(18.0) 器高(6.3)	片	灰褐色	帯 黒色・石灰・ 白色粒	外面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケム 内面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケムナリ	外面無付着
45	W-5 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/2	口径(16.0) 器高(3.7)	片	灰褐色	帯 黒色・砂粒	外面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケム 内面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケムナリ	内外面無付着
46	E-1 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/4	口径(17.0) 器高(15.0) 胴径(22.2)	片	褐色	帯 石灰・黒色 ・白色粒	外面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケム 内面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケムナリ	外面無付着
47	E-4 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/2	口径(16.4) 器高(13.0)	片	灰褐色	帯	外面: 口縁部縁ナリ、底部縁ハケム 内面: 口縁部縁ナリ、底部縁ハケムナリ	外面無付着
48	E-5 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/4	口径(14.0) 器高(17.9) 胴径(21.0)	片	黄灰色	帯 黒色・石灰・ 砂粒	外面: 口縁部縁ナリ、底部縁ハケム 内面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケムナリ	外面無付着
49	E-2 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/2	口径(11.0) 器高(17.8) 胴径(20.3)	片	褐色	帯 黒色・石灰・ 白色粒	外面: 口縁部縁ナリ、底部縁ハケム、底部縁状工具による 褐色文 内面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケムナリ	外面無付着
50	E-4 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/2	口径(14.8) 器高(14.2) 胴径(28.2)	片	灰褐色	帯 黒色・石灰・ 白色粒	外面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケム、底部縁状工具 による褐色文2帯以上 内面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケムナリ	外面・底面付着
51	E-5 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/2	口径(14.2) 器高(9.0)	片	黄白色	帯 黒色・白色粒	外面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケム、底部縁状工具 による褐色文2帯以上 内面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケムナリ	外面無付着
52	E-5 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/2	口径(15.0) 器高(7.4)	片	灰褐色	帯 黒色・石灰・ 白色粒	外面: 口縁部縁ナリ、底部縁ハケム 内面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケムナリ	外面無付着
53	E-1 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/4	口径(14.7) 器高(8.5)	片	灰褐色	帯 石灰・白色粒	外面: 口縁部縁ナリ、底部縁ハケム 内面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケムナリ	外面無付着
54	E-1 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/4	口径(12.2) 器高(7.1)	片	灰褐色	帯 黒色・石灰・ 白色粒	外面: 口縁部縁ナリ、底部縁ハケム 内面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケムナリ	外面・底面付着
55	E-1 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/2	口径(19.8) 器高(7.1)	片	褐色	帯 黒色・石灰・ 砂粒	外面: 口縁部縁ナリ、底部縁ハケム 内面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケムナリ	外面無付着
56	E-5 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/2	口径(16.6) 器高(10.3) 胴径(20.0)	片	褐色	帯 黒色・石灰・ 砂粒多量	外面: 口縁部縁ナリ、底部縁ハケム 内面: 口縁部縁ナリ、底部縁ハケムナリ	外面・口縁部・外面 底面付着
57	W-4 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/2	口径(14.8) 器高(9.2)	片	灰褐色	帯 石灰・白色粒	外面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケム 内面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケムナリ	外面無付着
58	E-1 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/2	口径(13.0) 器高(11.5)	片	灰褐色	帯 砂粒	外面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケム 内面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケムナリ	外面無付着
59	E-2 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/2	口径(13.4) 器高(11.4)	片	灰褐色	帯 石灰・砂粒	外面: 口縁部縁ナリ、底部縁ハケム 内面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケムナリ	外面無付着
60	E-4 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/2	口径(11.5) 器高(4.9)	片	灰褐色	帯 黒色・石灰・ 白色粒	外面: 口縁部縁ナリ、底部縁ハケム 内面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケムナリ	外面無付着
61	W-4 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/2	口径(16.0) 器高(3.6)	片	褐色	帯 黒色・石灰・ 白色粒	外面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケム 内面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケムナリ	外面・口縁部縁状 工具付
62	E-1 E-3 E-3	土師器 土師器 土師器	口縁一帯 部1/2	口径(11.4) 器高(8.3)	片	褐色	帯 黒色・石灰・ 砂粒	外面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケム 内面: 口縁部縁ナリ、底部以下縁ハケムナリ	外面無付着

63	W-3 II-①層	土層部 裏	Li層部 1/2	門径(16.4) 容積(4.7)	真	霞青色	雲 雲母・石英	外周: 側面調整→ナテ 内面: Li層Li層調整面→ナテ、調整面ヘラケズリ	
64	E-2 II-②層	土層部 表	ははり型形	門径: 15.1 容積(13.5) 容積(29.5)	真	褐色	雲 角閃石・雲母 石英	外周: Li層調整ナテ、体部調整面→ナテ 内面: Li層調整ナテ、調整面以下層ヘラケズリ	内外面露付者
65	W-6 II-②層	土層部 裏	Li層一部 調整1/3	Li層(18.0) 容積(7.3)	真	霞青色	雲 雲母・白色粒	外周: 調整面→ナテ 内面: Li層調整ナテ、調整面調整面→ナテ	外面露付者
66	E-6 II-②層	土層部 表	ははり型形	Li層(18.4) 容積: 5.0	真	灰褐色	雲 内角閃石・雲母 石英・砂粒	外周: Li層調整ナテ、調整面調整面→ナテ、調整面ヘラケズリ 内面: ハナテ	内外面露付者
67	E-2 II-③層	土層部 表	ははり型形	Li層: 14.4 容積: 19.5 調整: 18.9	真	褐色	雲 雲母・石英・ 砂粒	外周: 調整面調整面→ナテ、調整面ヘラケズリ→調整面 内面: 調整面調整面→ナテ、調整面ヘラケズリ	内外面露付者
68	E-2 II-③層	土層部 裏	ははり型形	Li層(20.5) 容積(30.0) 調整(32.2)	真	褐色	雲 雲母・石英 (φ5mm)・砂 粒	外周: Li層調整ナテ、調整面調整面 内面: Li層調整ナテ、調整面調整面→ナテ、調整面調整面→ナテ	外面露付者
69	E-1 II-④層	土層部 裏	1/2	Li層(23.8) 容積(27.5) 調整(34.0)	やや真	褐色	雲 雲母・石英 (φ5mm)・ 小Li層調整面 調整	外周: Li層調整ナテ、調整面調整面→ナテ 内面: Li層調整ナテ、調整面調整面	外面露付者
70	E-2 II-④層	土層部 裏	ははり型形	Li層(24.4) 容積: 33.2 調整(34.6)	真	褐色	雲 角閃石・雲母 石英・白色 粒	外周: Li層調整ナテ、調整面調整面 内面: Li層調整ナテ、調整面調整面	外面露付者
71	E-2 II-④層	土層部 表	ははり型形	Li層(26.2) 容積: 24.3 調整(28.2)	真	褐色	雲 内角閃石・雲母 石英・白色 粒	外周: Li層調整ナテ、調整面調整面→ナテ 内面: Li層調整ナテ、調整面調整面	外面露付者
72	W-3 II-④層	土層部 裏	ははり型形	Li層(20.5) 容積(13.8) 調整: 19.8	真	霞青色	雲 雲母・石英・石 丸・砂粒	外周: 調整面調整面→ナテ、調整面調整面→ナテ 内面: Li層調整ナテ、調整面調整面→ナテ	外面露付者
73	E-2 II-④層	土層部 裏	ははり型形	Li層(21.5) 容積(22.9)	真	褐色	雲 雲母・石英・石 丸・砂粒	外周: 調整面調整面→ナテ、調整面調整面→ナテ 内面: 調整面調整面→ナテ、調整面調整面→ナテ	内外面露付者
74	W-2 II-④層	土層部 表	Li層一部 調整1/3	Li層: 19.9 容積(15.5) 調整(25.0)	やや真	褐色	雲 石英・白色 粒・小砂粒	外周: Li層調整ナテ、調整面調整面 内面: Li層調整ナテ、調整面調整面	内外面露付者
75	E-4 II-④層	土層部 裏	Li層一部 調整1/3	Li層(35.2) 容積(33.4)	真	褐色	雲 雲母・石英・ 砂粒	外周: Li層調整ナテ、調整面調整面 内面: Li層調整ナテ、調整面調整面→ナテ	内外面露付者
76	W-2 II-④層	土層部 表	Li層一部 調整1/3	Li層(36.0) 容積(31)	真	褐色	雲 雲母・石英・ 砂粒	外周: Li層調整ナテ、調整面調整面 内面: Li層調整ナテ、調整面調整面	外面露付者
77	W-4 II-④層	土層部 表	Li層一部 調整1/2	Li層(35.0) 容積(11.4)	真	褐色	雲 雲母・石英・ 白色粒	外周: Li層調整ナテ、調整面調整面 内面: Li層調整ナテ、調整面調整面	外面露付者
78	E-5 II-④層	土層部 裏	Li層一部 調整1/2	Li層(28.4) 容積(12.0)	真	褐色・黒茶 色	雲 砂粒	外周: 調整ナテ 内面: Li層調整ナテ、調整面調整面→ナテ	内面露付者 調整面
79	E-2 II-④層	土層部 表	Li層一部 調整1/2	Li層(28.7) 容積(11.0)	真	褐色	雲 雲母・石英・ 砂粒	外周: Li層調整ナテ、調整面調整面→ナテ 内面: Li層調整ナテ、調整面調整面	外面露付者
80	E-5 II-④層	土層部 裏	破片	容積(10.3) 調整(20.2)	真	褐色	雲 雲母・石英	外周: 調整ナテ 内面: 調整ナテ	外面露付者 調整面
81	E-2 II-④層	土層部 裏	破片	容積(30)	真	褐色	雲 石英・砂粒	外周: 調整ナテ 内面: 調整ナテ	外面露付者 調整面
82	W-1 II-④層	土層部 裏	破片	容積(25.0)	真	黄白色	雲 白色粒	外周: 調整ナテ 内面: 調整ナテ	外面露付者 調整面
83	E-1 II-④層	土層部 裏	破片	容積(4.5)	真	褐色	雲	外周: 調整ナテ 内面: 調整ナテ	外面露付者 調整面
84	E-5-W-1 II-④層	土層部 裏	破片	容積(1.8)	真	灰褐色	雲 石英・砂粒	外周: 調整ナテ 内面: 調整ナテ	外面露付者 調整面
85	E-6 II-④層	土層部 裏	破片	容積(4.0) 調整(2.4)	真	褐色	雲 雲母・石英・ 砂粒	外周: ナテ 内面: 調整ナテ	外面露付者 調整面
86	E-6 II-④層	土層部 裏	破片	容積(4.3) 調整(2.2)	真	褐色	雲	外周: 調整ナテ 内面: 調整ナテ	外面露付者 調整面
87	E-1 II-④層	土層部 裏	破片	容積(2.5) 調整(1.3)	真	灰褐色	雲 雲母・石英	外周: ナテ 内面: 調整ナテ	外面露付者 調整面
88	W-2 II-④層	土層部 裏	破片	Li層: 1.4 調整(14.7)	真	灰褐色・褐色	雲	外周: 調整ナテ 内面: 調整ナテ	外面露付者 調整面
89	E-2 II-④層	土層部 裏	破片	Li層: 1.8 調整(15.3)	真	褐色	雲 石英・砂粒	外周: 調整ナテ 内面: 調整ナテ	外面露付者 調整面
90	E-5 II-④層	土層部 裏	破片	Li層(8.4) 容積: 8.4 調整(10.4)	真	褐色	雲 角閃石・雲母 石英・白色 粒	外周: Li層調整ナテ、調整面調整面 内面: Li層調整ナテ、調整面調整面	外面露付者 調整面
91	W-6 II-④層	土層部 裏	破片	門径(7.2) 容積: 7.0 調整: 8.2	真	黄白色	雲 雲母・石英・ 砂粒	外周: Li層調整ナテ、調整面調整面 内面: Li層調整ナテ、調整面調整面	外面露付者 調整面
92	E-4 II-④層	土層部 裏	破片	門径(8.8) 容積(6.6) 調整(6.3)	真	灰褐色	雲	外周: 調整ナテ 内面: 調整ナテ	外面露付者 調整面
93	W-6 II-④層	土層部 裏	破片	門径(8.0) 容積(5.2) 調整(8.8)	真	褐色	雲 砂粒	外周: Li層調整ナテ、調整面調整面 内面: Li層調整ナテ、調整面調整面	外面露付者 調整面
94	W-3 II-④層	土層部 裏	破片	Li層(10.8) 容積(8.2) 調整(12.2)	真	褐色	雲 雲母・石英・ 砂粒	外周: ナテ 内面: Li層調整ナテ、調整面調整面	外面露付者 調整面

95	W-5 E-2 E-3 E-4 E-5 E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 小瓦丸瓦葺	1/4	口径(66) 容積(53) 厚径(25)	良	黒褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	外周: 縦ハケム→縦→横ハケミガキ 内周: 口部縦横ハケミガキ、各部縦横ハケミガキ	
96	E-4 E-5 E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 小瓦丸瓦葺	1/3	口径(87) 容積(60) 厚径(80)	良	灰褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	内外葺: 縦横調整→縦横ハケミガキ	
97	E-5 E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 小瓦丸瓦葺	1/3	口径(86) 容積(73) 厚径(81)	良	褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	外葺: 口部縦横ナア、各部縦横ハケミガキ 内周: 口部縦横ナア、各部縦横調整→縦横ハケミガキ	
98	W-4 E-3 E-4 E-5 E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 小瓦丸瓦葺	1/4	口径(100) 容積(83) 厚径(87)	やや良	灰青色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	外周: 口部縦横調整→縦横ハケミガキ 内周: 口部縦横調整→縦横ハケミガキ	
99	E-4 E-5 E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 小瓦丸瓦葺	2/3	口径(88) 容積(64) 厚径(85)	良	褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	外周: 縦横ハケミガキ→横ハケミガキ 内周: 口部縦横調整→縦横ハケミガキ、各部縦横ハケミガキ	
100	E-2 E-3 E-4 E-5 E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 小瓦丸瓦葺	宗形	口径: 93 容積: 69 厚径: 85	良好	褐色→黒褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	外周: 縦横ハケミガキ 内周: 口部縦横ナア、各部縦横調整	
101	W-4 E-3 E-4 E-5 E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 小瓦丸瓦葺	1/4	口径(58) 容積: 47 厚径(41)	良	褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	外周: 縦横ハケミガキ 内周: 横ハケミガキ→横ナア	
102	W-5 E-2 E-3 E-4 E-5 E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 丸瓦葺	1/3	口径(44) 容積(40) 厚径(70)	良	褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	外周: 口部縦横調整→縦横ハケミガキ、各部縦横ハケミガキ→横ハケミガキ 内周: 口部縦横ハケミガキ、各部縦横調整→縦横ハケミガキ	
103	E-2 E-3 E-4 E-5 E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 丸瓦葺	縦ナア	口径(152) 容積(39)	良	褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	内外葺: 横ハケミガキ	口部縦横ナア
104	W-5 E-2 E-3 E-4 E-5 E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 小瓦丸瓦葺	1/4	口径(88) 容積(36)	良	暗褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	内外葺: 横ハケミガキ	
105	E-4 E-5 E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 小瓦丸瓦葺	1/4	口径(126) 容積(50)	良	褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	外周: 口部縦横調整→縦横ハケミガキ、各部縦横ハケミガキ 内周: 口部縦横ハケミガキ、各部縦横調整→縦横ハケミガキ	外周縦横調整
106	E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 丸瓦葺	つまみ部	口径(36) 容積(33)	良	褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	外周: 縦横調整→横ハケミガキ→ナア 内周: 縦横調整→横ハケミガキ	内外縦横調整
107	E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 丸瓦葺	1/4	口径(71) 容積(34)	良	褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	外周: 天部縦横ハケミガキ、つまみ部ナア 内周: ナア部縦横調整	つまみ部中心穿孔 1個 外周縦横調整
108	E-4 E-5 E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 丸瓦葺	5/8	口径(146) 容積: 147 厚径: 115	良	褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	外周: 口部縦横調整→縦横ハケミガキ、各部縦横調整→横ハケミガキ 内周: 各部縦横調整→横ハケミガキ、調整部縦横ハケミガキ、調整部ハケミガキ→横ナア 接合部目録光線法、調整部二方向垂直	内外周縦横調整
109	W-3 E-2 E-3 E-4 E-5 E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 丸瓦葺	5/8	口径(168) 容積: 123 厚径: 104	良	褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	外周: ハケミガキ→横ハケミガキ 内周: 横調整ハケミガキ、調整部縦横ハケミガキ、調整部ハケミガキ	内外周部以外赤色
110	E-1 E-2 E-3 E-4 E-5 E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 丸瓦葺	2/3	口径(156) 容積(42) 厚径(102)	良	褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	外周: ハケミガキ→縦横ハケミガキ 内周: 調整部縦横ハケミガキ、調整部縦横ハケミガキ、調整部縦横ハケミガキ 接合部目録光線法	外周調整
111	E-4 E-5 E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 丸瓦葺	1/2	口径(152) 容積(110)	良	褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	外周: ハケミガキ→横ハケミガキ 内周: 調整部縦横ハケミガキ、調整部縦横ハケミガキ、調整部縦横ハケミガキ 接合部目録光線法	調整
112	E-5 E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 丸瓦葺	坪面1/4	口径(144) 容積(47)	良	黒褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	外周: 縦横ハケミガキ→横ハケミガキ 内周: 縦横ハケミガキ	良 内外周調整
113	E-4 E-5 E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 丸瓦葺	坪面2/3	口径(156) 容積(58)	やや良	褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	外周: 縦横ハケミガキ→横ハケミガキ 内周: 横ハケミガキ 接合部目録光線法	良 内外周調整
114	E-4 E-5 E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 丸瓦葺	坪面1/2	口径(158) 容積(53)	良	褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	外周: 縦横ハケミガキ→横ハケミガキ 内周: 縦横ハケミガキ 接合部目録光線法	
115	W-4 E-1 E-2 E-3 E-4 E-5 E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 丸瓦葺	坪面	口径(145) 容積(59)	良	褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	外周: 縦横ハケミガキ→横ハケミガキ 内周: 縦横ハケミガキ 接合部目録光線法	内周口部縦横調整 縦横調整
116	E-1 E-2 E-3 E-4 E-5 E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 丸瓦葺	坪面1/2	口径(182) 容積(51)	良	褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	外周: 縦横ハケミガキ→横ハケミガキ 内周: ハケミガキ→横ハケミガキ 接合部目録光線法	全面赤色 内外周調整
117	E-5 E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 丸瓦葺	坪面1/2	口径(118) 容積(43)	良	褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	外周: 縦横ハケミガキ→横ハケミガキ 内周: 横ハケミガキ 接合部目録光線法	内外周調整 縦横調整
118	E-4 E-5 E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 丸瓦葺	坪面 1/4	口径(148) 容積(58)	良	暗褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	外周: 縦横ハケミガキ→横ハケミガキ 内周: 横ハケミガキ	
119	W-4 E-1 E-2 E-3 E-4 E-5 E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 丸瓦葺	坪面 1/4	口径(116) 容積(27)	良	暗褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	外周: 調整部ナア、調整部ハケミガキ 内周: 調整部ナア、調整部	
120	E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 丸瓦葺	坪面 5/8	口径(292) 容積(114)	良	灰褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	外周: 口部縦横ハケミガキ、調整部ハケミガキ→横ハケミガキ 内周: 調整部ハケミガキ、調整部ハケミガキ 接合部目録光線法	調整部調整
121	E-4 E-5 E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 丸瓦葺	坪面 5/8	口径(178) 容積(62)	良	褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	外周: 口部縦横ハケミガキ、調整部ハケミガキ→横ハケミガキ 内周: 調整部ハケミガキ、調整部ハケミガキ 接合部目録光線法	外周、内周部調整 縦横調整
122	E-5 E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 丸瓦葺	坪面1/4	口径(170) 容積(69)	良好	褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	外周: 縦横ハケミガキ→横ハケミガキ 内周: 横ハケミガキ	
123	E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 丸瓦葺	坪面1/3	口径(135) 容積(43)	良	褐色→黒褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	外周: 調整部調整→横ハケミガキ→ナア 内周: 調整部調整→横ハケミガキ→ナア	調整
124	W-1 E-1 E-2 E-3 E-4 E-5 E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 丸瓦葺	坪面1/2	口径(129) 容積(58)	良	褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	外周: 口部縦横ナア、調整部調整→横ハケミガキ 内周: ナア部縦横ハケミガキ	内周一部調整
125	E-3 E-4 E-5 E-6 E-7 E-8 E-9 E-10	土師部 丸瓦葺	坪面1/4	口径(120) 容積(44)	良	褐色	密 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺 葺	内外周: 横ハケミガキ	内外周調整

126	E-2 II-③層	土層部 高坪	坪部	口径:100 器高(93)	良好	灰褐色	密 内底:赤 土・石 小石・砂粒	外周:口縁部傾ヘラミダキ、外周縁部ハケメーナテ 内周:環状ヘラズリーナテ、口縁部上中環ヘラミダキ 接合部凹凹法	
127	E-4 II-③層	土層部 高坪	坪部	器高(85) 口径:112	良	褐色	密 白色粒	外周:環ハケメー傾ヘラミダキ 内周:脚部傾ヘラズリ、脚部ハケメ 脚部三方凹通し	
128	W-3 II-③層	土層部 高坪	脚部1/2	器高(94) 口径(116)	やや良	褐色	密 角閃石・白色 粒	外周:ハケメー傾ヘラミダキ 内周:脚部傾ヘラズリ、脚部ハケメ 接合部凹凹法、脚部三方凹通し	外周一部腐付
129	E-5 II-②層	土層部 高坪	脚部2/3	器高(83) 口径(104)	良	褐色	密 赤褐色・石 葉	外周:環ヘラズリー傾ヘラミダキ 内周:脚部傾ヘラズリ、脚部ハケメ 脚部三方凹通し	
130	E-4 II-③層	土層部 高坪	脚部5/8	器高(92) 口径(107)	良	褐色	密	外周:環ヘラミダキ 内周:脚部傾ヘラズリ、脚部ハケメ 脚部三方凹通し	
131	E-4 II-③層	土層部 高坪	脚部2/3	器高(79) 口径(115)	良	褐色	密 黄赤・石葉	外周:ハケメー傾ヘラミダキ 内周:脚部傾ヘラズリ、脚部ハケメ 脚部三方凹通し	
132	E-1 II-③層	土層部 高坪	脚部5/8	器高(80) 口径(106)	良	褐色	密 石葉・砂粒	外周:環ヘラミダキ 内周:脚部傾ヘラズリ、脚部ハケメ	
133	E-5 II-③層	土層部 高坪	脚部	器高(62) 口径(92)	良	黄白色	密 黄赤・砂粒	外周:環ヘラミダキ 内周:脚部傾ヘラズリ、脚部ハケメ	
134	E-5 II-③層	土層部 高坪	脚部	器高(55) 口径(103)	良	黄白色	密 黄赤・砂粒	外周:環ハケメー傾ヘラミダキ 内周:環ヘラズリ、脚部ハケメ	内周赤腐付 内周一部腐付
135	E-3 II-③層	土層部 高坪	脚部	器高(52) 口径(154)	良	黄白色	密 黄赤・石葉	外周:環傾ヘラミダキ 内周:脚部傾ヘラズリ、脚部ハケメ	
136	E-3 II-③層	土層部 低坪	1/3	口径(43) 器高(57) 口径(70)	良	褐色	密 黄赤・石葉・ 白色粒	外周:環傾ヘラミダキ、外周部凹凹ナテ 内周:環傾ヘラミダキ、環傾中心部凹凹、脚部傾ナテ	外周一部腐付
137	E-6 II-③層	土層部 高坪	1/3	口径(29) 器高(59) 口径(51)	良	褐色	密 黄赤・石葉・ 砂粒	外周:環傾ヘラミダキ、外周部凹凹ナテ 内周:環傾ヘラミダキ、脚部傾ナテ	内外面腐付
138	E-4 II-③層	土層部 低坪	1/3	口径(23) 器高(52) 口径(41)	良	褐色	密 石葉・砂粒	外周:環傾ヘラミダキ、脚部傾調整ナテ 内周:環傾ヘラミダキ、脚部傾ナテ	
139	E-4 II-③層	土層部 低坪	1/3	口径(18) 器高(41) 口径(40)	良	褐色	密 黄赤・砂粒	外周:環傾ヘラミダキ、脚部傾ナテ 内周:環傾ヘラミダキ、脚部傾ナテ	全面赤腐 内周脚部腐付 内周一部腐付
140	E-5 II-③層	土層部 低坪	1/3	口径(18) 器高(42) 口径(42)	良	褐色	密 黄赤・石葉・ 白色粒	外周:環傾ヘラミダキ、外周部凹凹ナテ 内周:環傾ヘラミダキ、脚部傾調整ナテ	脚部内面以外赤腐
141	E-1 II-③層	土層部 低坪	5/8	口径(14) 器高(44) 口径(47)	良	褐色	密 黄赤・石葉・ 砂粒	内外周:環傾ヘラミダキ、脚部傾ナテ	内外周一部腐付
142	W-3 II-③層	土層部 低坪	1/3	口径(14) 器高(43) 口径(39)	良	灰褐色	密 黄赤・石葉・ 白色粒	外周:環傾ヘラミダキ、脚部傾ナテ 内周:環傾ヘラミダキ、脚部傾ナテ	
143	W-3 II-③層	土層部 低坪	1/3	口径(17) 器高(41) 口径(38)	良	褐色	密 黄赤・石葉	外周:環傾ヘラミダキ、脚部傾ナテ 内周:環傾ヘラミダキ、脚部傾ヘラミダキ・ナテ	外周腐付
144	W-2 II-③層	土層部 高坪	脚部1/5	口径(52) 器高(47) 口径(42)	やや良	黄白色	密 黄赤・石葉・ 砂粒	外周:環ヘラミダキ、脚部傾調整ナテ 内周:環ヘラミダキ、脚部傾ナテ	
145	E-2 II-③層	土層部 高坪	破片	器高(73)	良好	褐色	密 角閃石・石 葉・白色粒	外周:接合部傾ヘラミダキ、脚部傾調整ナテ 内周:接合部傾ヘラミダキ、脚部傾調整ナテ 内周:接合部傾ヘラミダキ、脚部傾調整ナテ	外周赤腐 内周
146	E-4 II-③層	土層部 高坪	1/2	口径(64) 器高(103) 口径(65)	良	灰褐色	密 黄赤・石葉・ 白色粒	外周:環ナテ 内周:環傾ヘラミダキ、接合部傾ヘラズリ、脚 部傾ナテ	
147	E-5 II-③層	土層部 高坪	1/2	口径(67) 器高(102) 口径(147)	良	褐色	密 黄赤・石葉・ 白色粒・砂粒	外周:環ナテ 内周:環傾ヘラミダキ、接合部傾ヘラズリ・傾ナ テ、脚部傾ナテ	
148	E-6 II-③層	土層部 高坪	交差部 脚部	口径(175) 器高(63)	良	褐色	密 石葉・砂粒	外周:環ナテ、交差部傾ヘラミダキ 内周:環傾ヘラミダキ、接合部傾ナテ、脚部傾ヘラズリ	
149	E-6 II-③層	土層部 高坪	1/2	口径(119) 器高(64)	良	灰褐色	密 黄赤・砂粒	外周:環ナテ、交差部傾ヘラミダキ 内周:環傾ヘラミダキ、接合部以下傾ヘラズリ	
150	E-4 II-③層	土層部 高坪	脚部破片	口径(51) 器高(41)	良	灰褐色	密 黄赤・白色粒	外周:環ナテ 内周:交差部ナテ、脚部傾ヘラズリ、脚部傾ナテ	
151	E-5 II-③層	土層部 高坪	脚部1/2	口径(47) 器高(114)	良	黄白色	密 砂粒	外周:環ヘラミダキ 内周:環傾ヘラミダキ、脚部傾ヘラズリ・傾ヘラ ミダキ	内外面赤腐
152	W-3 II-③層	土層部 高坪	5/8	口径(82) 器高(50) 口径(53)	良	褐色	密 黄赤・石葉・ 砂粒多量	外周:環ヘラミダキ 内周:交差部傾調整・傾ヘラミダキ、脚部傾調整・傾ヘ ラミダキ 接合部凹凹法	底面 全面赤腐
153	E-6 II-③層	土層部 高坪	脚部1/4	口径(120) 器高(69)	やや良	褐色	密 黄赤・石葉・ 砂粒	外周:傾調整ナテ 内周:傾調整	
154	E-3 II-③層	土層部 高坪	破片	口径(120) 器高(31)	やや良	黄褐色	密 黄赤・砂粒	外周:傾調整 内周:傾調整・黄赤	
155	W-3 II-③層	土層部 高坪	破片	口径(100) 器高(40)	やや良	灰褐色	密 黄赤・砂粒	内外周:傾調整ナテ	
156	E-3 II-③層	土層部 高坪	破片	口径(60) 器高(27)	やや良	褐色	密 黄赤	内外周:傾調整ナテ	
157	W-3 II-③層	土層部 高坪	破片	口径(78) 器高(39)	やや良	灰褐色	密 黄赤	内外周:傾調整ナテ	
158	E-4 II-③層	土層部 高坪	2/3	口径(45) 器高(104) 口径(40) 口径(29)	良好	黄褐色	密 黄赤・白色粒	外周:口縁部傾ヘラミダキ、外周部凹凹ナテ 内周:傾調整ナテ	全面赤腐 内外面赤腐

159	E-2 E-3 E-4	手形お 上脚	光彫	口径: 34 容積: 28 底径: 19	良好	褐色	密	内外面: 鏡面鏡面	外側一部鏡面
160	E-2 E-3 E-4	手形お 十脚	光彫1/3	口径: 20 容積: 26	良	彩色	密 黄・石黄・ 白色粒	内外面: 泡鏡面鏡面→ナテ	
161	E-1 E-2 E-3	手形お 十脚	光彫1/3	口径: 20 容積: 4.8	良	褐色色	密	内外面: 泡鏡面鏡面→ナテ	
162	E-2 E-3 E-4	手形お 十脚	光彫1/2	口径: 20 容積: 3.6	良	褐色色	密	内外面: 泡鏡面鏡面→ナテ	
163	E-1 E-2 E-3	手形お 十脚	光彫1/4	口径: 1.7 底径: 2.4	良	黄白色	密	外側: ナテ 内側: 泡鏡面鏡面	
164	W-3 E-2 E-3	土脚部 底面	鏡片	容積: 4.2	良	灰褐色	W 石黄・白色粒	外側: 鏡面・泡鏡面下具による泡鏡面→ナテ 内側: 鏡面→ナテ	鏡面部分2.2mm以上
165	E-2 E-3	土脚部 底面	把子部	幅: 2.5~2.0	良	褐色色	密	外側: 泡鏡面→ナテ 内側: 泡鏡面→ナテ	金剛砂 摩孔 (孔径3mm) 列突出 (孔径3mm)
166	E-4 E-3 E-2	土脚部 底面	1/2	口径: 1.8 底径: 0.8 厚さ: 0.8	やや良	赤褐色	密	外側: ナテ	重量: 0.6g 孔径: 3mm
167	W-1 E-1 E-2	土脚部 底面	5/8	口径: 14.8 容積: 3.7 底径: 8.7	良	灰褐色	密	外側: 口縁部→泡鏡面鏡面・底部下平→ナテ・底面鏡面 内側: 口縁部→泡鏡面鏡面・底部ナテ	内外面赤彫 外側底面赤彫(裏)
168	W-5 E-2 E-3	土脚部 底面	1/4	口径: 15.4 容積: 2.8 底径: 11.9	良	灰褐色	密	外側: 口縁部→泡鏡面鏡面・底部→ナテ 内側: 鏡面	内外面赤彫 外側底面赤彫
169	W-5 E-2 E-3	土脚部 底面	鏡片	容積: 1.0	良好	灰褐色	密	外側: ナテ・底面鏡面 内側: ナテ	内外面赤彫 外側底面赤彫
170	E-2 E-3 E-4	土脚部 底面	鏡片	容積: 4.6	良	灰褐色	密 黄・石黄・ 白色粒	外側: 鏡面 内側: 泡鏡面鏡面	外側底面鏡面
171	W-1 E-1 E-2	土脚部 底面	鏡片	—	良好	紫褐色	密	外側: 泡鏡面鏡面 内側: 泡鏡面鏡面	外側底面鏡面
172	E-4 E-3 E-2	土脚部 底面	底部	口径: 1.5 底径: 0.6	良	紫褐色	密 黄・白色粒	外側: 泡鏡面鏡面・底面鏡面 内側: 泡鏡面鏡面	内外面赤彫 外側底面鏡面
173	E-4 E-3 E-2	土脚部 底面	2/3	口径: 14.4 容積: 2.6 底径: 11.8	良	紫褐色	密 黄・白色粒	外側: 泡鏡面鏡面→ナテ 内側: 口縁部→泡鏡面鏡面→ナテ	内外面赤彫
174	W-2 E-1 E-2	土脚部 底面	脚部1/2	口径: 7.2 容積: 10.0	良	褐色	密 黄・石黄・ 白色粒	外側: 泡鏡面鏡面→ナテ・底面鏡面 内側: 泡鏡面鏡面	内外面赤彫
175	E-3 E-2 E-1	土脚部 底面	脚部1/3	口径: 8.6 容積: 13.3	良	灰褐色	密 黄・石黄・ 白色粒	外側: 泡鏡面鏡面→ナテ・底面鏡面	内外面赤彫
176	E-3 E-2 E-1	土脚部 底面	比尺光彫	口径: 59.0 底径: 37.8	良	灰褐色	密	外側: 泡鏡面鏡面 内側: 泡鏡面鏡面	内外面赤彫
177	W-4 E-3 E-2	土脚部 底面	口縁部 1/4	口径: 3.4 容積: 2.8	良	赤褐色	密 黄・石黄・ 白色粒	外側: 泡鏡面鏡面 内側: 泡鏡面鏡面	内外面赤彫
178	E-5 E-4 E-3	土脚部 底面	鏡片	口径: 39.1 容積: 15.1	良	褐色	密 黄・石黄・ 白色粒	外側: 泡鏡面鏡面 内側: 泡鏡面鏡面	内外面赤彫
179	W-5 E-4 E-3	土脚部 底面	接合部	容積: 2.9	良	褐色	密 黄・石黄・ 白色粒	外側: 泡鏡面鏡面 内側: 泡鏡面鏡面	内外面赤彫
180	W-4 E-3 E-2	土脚部 底面	1/8	口径: 15.6 容積: 6.4	良	紫褐色	密 黄・石黄・ 白色粒	内外面: 鏡面→ナテ	内外面赤彫
181	E-4 E-3 E-2	土脚部 底面	1/8	口径: 9.6 容積: 5.0	良	灰褐色	密 黄・石黄・ 白色粒	内外面: 泡鏡面鏡面→ナテ	内外面赤彫
182	E-3 E-2 E-1	土脚部 底面	比尺光彫	口径: 13.4 容積: 5.8	良	灰褐色	密 黄・石黄・ 白色粒	外側: 口縁部→泡鏡面鏡面・底部→ナテ 内側: 口縁部→泡鏡面鏡面	内外面赤彫 内側底面鏡面
183	E-5 E-4 E-3	土脚部 底面	1/4	口径: 15.6 容積: 4.8	良	褐色	密 黄・石黄・ 白色粒	外側: 口縁部→泡鏡面鏡面・底部下平→ナテ 内側: 鏡面	内外面赤彫 内外側一部鏡面
184	W-6 E-1 E-2	土脚部 底面	1/8	口径: 32.0 容積: 3.7	良	灰褐色	密 黄・石黄・ 白色粒	内外面: 鏡面→ナテ	内外面赤彫
185	W-1 E-2 E-3	土脚部 底面	1/3	口径: 16.6 容積: 3.5	良	灰褐色	密 黄・石黄・ 白色粒	外側: 口縁部→泡鏡面鏡面・底部→ナテ 内側: 口縁部→泡鏡面鏡面	内外面赤彫
186	E-5 E-4 E-3	土脚部 底面	鏡片	口径: 14.8 容積: 3.0	良好	褐色	密	外側: 泡鏡面鏡面 内側: 泡鏡面鏡面	内外面赤彫
187	E-1 E-2 E-3	土脚部 底面	1/3	口径: 13.7 容積: 2.4 底径: 13.0	良	灰褐色	密 黄・石黄・ 白色粒	外側: 口縁部→泡鏡面鏡面・底部→ナテ 内側: 口縁部→泡鏡面鏡面	内外面赤彫
188	W-3 E-1 E-2	土脚部 底面	2/4	口径: 12.5 容積: 3.0 底径: 9.3	良	紫褐色	密	外側: 口縁部→泡鏡面鏡面・底部→ナテ 内側: 口縁部→泡鏡面鏡面	内外面赤彫
189	W-4 E-1 E-2	土脚部 底面	2/3	口径: 11.6 容積: 3.6 底径: 8.9	良	紫褐色	密 黄・石黄・ 白色粒	外側: 口縁部→泡鏡面鏡面・底部→ナテ 内側: 口縁部→泡鏡面鏡面	内外面赤彫
190	W-4 E-1 E-2	土脚部 底面	2/3	口径: 13.0 容積: 3.4 底径: 8.6	良	紫褐色	密 黄・石黄・ 白色粒	外側: 口縁部→泡鏡面鏡面・底部→ナテ 内側: 口縁部→泡鏡面鏡面	内外面赤彫
191	E-1 E-2 E-3	土脚部 底面	2/3	口径: 11.8 容積: 3.7 底径: 7.7	良	紫褐色	密 黄・石黄・ 白色粒	外側: 口縁部→泡鏡面鏡面・底部→ナテ 内側: 口縁部→泡鏡面鏡面	内外面赤彫
192	E-1 E-2 E-3	土脚部 底面	1/3	口径: 11.7 容積: 2.6 底径: 8.0	良	紫褐色	密	外側: 口縁部→泡鏡面鏡面・底部→ナテ 内側: 泡鏡面鏡面	内外面赤彫

193	E-1 E-1 E-1 E-1	土和砂 坪	1/5	口径(13.2) 容積(3.4)	良好	灰褐色	黄	内外両：磁転ナ	
194	W-4 E-1 E-1	土和砂 坪	2/3	口径(12.4) 容積(3.7) 容積(3.8)	良	粉褐色	黄 赤付・白化粧	外周：口縁部一体部磁転ナ、底部へウ切り・磁質押付 内周：口縁部一体部磁転ナ、底部磁質押付ナ	
196	E-2 E-1 E-1	土和砂 坪	1/3	口径(11.7) 容積(2.4) 容積(6.6)	良	橙褐色	黄 砂粒	内周：口縁部一体部磁転ナ、底部へウ切り・磁質押付 内周：口縁部一体部磁転ナ、底部磁質押付ナ	
196	W-1 E-1 E-1	土和砂 坪	1/4	口径(13.8) 容積(2.7) 容積(9.0)	良	灰褐色	黄 赤付・白化粧	外周：口縁部一体部磁転ナ、底部へウ切り・磁質押付 内周：口縁部一体部磁転ナ、底部磁質押付ナ	
197	W-4 E-1 E-1	土和砂 坪	1/8	口径(12.8) 容積(2.4) 容積(7.0)	良	灰褐色	黄 赤付・白化粧	外周：口縁部一体部磁転ナ、底部へウ切り 内周：口縁部一体部磁転ナ、底部磁質押付ナ	
198	W-4 E-1 E-1	土和砂 坪	1/8	口径(12.8) 容積(2.5) 容積(7.0)	良	灰褐色	黄 赤付・白化粧	外周：口縁部一体部磁転ナ、底部へウ切り 内周：口縁部一体部磁転ナ、底部磁質押付ナ	
199	E-5-6 E-1 E-1	緑磁器 碗	表部破片	口径(1.5) 容積(5.9)	良好	灰白色	黄	外周：底部へウ切り、平台台 内周：ナ	緑磁色釉
200	E-2 E-1 E-1	灰磁器 碗	破片	口径(2.5) 容積(9.6)	良好	青灰色	黄 白色粒	外周：体部磁転ナ、底部磁転ナ、磁付高台 内周：体部磁転ナ、底部ナ	外周高台内黄 赤
201	E-1 E-1 E-1	灰磁器 碗	1/3	口径(2.5) 容積(9.6)	良好	青灰色	黄 白色粒	外周：体部磁転ナ、底部磁転ナ、底部磁転ナ 内周：口縁部一体部磁転ナ、底部ナ	外周底面黄赤
202	E-4 E-1 E-1	灰磁器 碗	1/3	容積(2.0)	良	青灰色	黄 赤付・白化粧	外周：体部磁転ナ、天弁磁転ナ 内周：体部磁転ナ、天弁磁転ナ	外周天弁部黄赤
203	W-1 E-1 E-1	灰磁器 碗	1/2	口径(20.0) 容積(4.2) 容積(14.4)	良	褐色	黄 赤粒	外周：口縁部一体部磁転ナ、底部磁質赤切り・磁付高台 内周：口縁部一体部磁転ナ、底部ナ	外周高台内黄赤
204	W-6 E-1 E-1	灰磁器 碗	1/5	口径(20.0) 容積(7.0)	良	青灰色	黄 赤付・黄赤粒	外周：口縁部磁転ナ・磁付工具による底状文・黄赤文、底部平行付目 内周：口縁部磁転ナ、体部ナ	外周底面黄赤
205	W-3 E-1 E-1	灰磁器 碗	破片	口径(9.2)	良好	灰色	黄 白色粒	外周：磁転ナ・磁付工具による底状文の底状文2条 内周：磁転ナ	内周口縁部自然黄赤
206	W-1 E-1 E-1	灰磁器 碗	破片	口径(9.3)	良好	青灰色	黄 白色粒	外周：磁転ナ・磁付工具による底状文の底状文2条 内周：磁転ナ	内周口縁部自然黄赤
207	W-1 E-1 E-1	灰磁器 碗	破片	口径(5.2)	良好	暗赤灰色	黄	外周：磁転ナ・磁付工具による底状文の底状文2条 内周：磁転ナ	内周口縁部自然黄赤
208	W-1 E-1 E-1	灰磁器 碗	破片	口径(5.5)	良好	暗赤灰色	黄	外周：磁転ナ・磁付工具による底状文の底状文2条 内周：磁転ナ	内周口縁部自然黄赤
209	W-2 E-1 E-1	灰磁器 碗	破片	口径(5.6)	良好	灰色	黄 白色粒	外周：磁転ナ・磁付工具による底状文の底状文3条 内周：磁転ナ	内周口縁部自然黄赤
210	W-2 E-1 E-1	灰磁器 碗	破片	口径(12.2) 容積(21.1) 容積(16.5)	良	青灰色	黄 白色粒	外周：体部平行付目・ナ 内周：磁質黄赤ナ	外周体部中央・底部自然黄赤
211	W-2 E-1 E-1	灰磁器 碗	破片	口径(8.9) 容積(10.0)	良好	灰色	黄 白色粒・黄赤粒	外周：体部磁転ナ、底付高台 内周：磁転ナ	外周高台内黄赤
212	W-4 E-1 E-1	灰磁器 碗	破片	口径(8.7) 容積(8.6)	良好	青灰色	黄	外周：体部磁転ナ、底部磁転ナ、磁付高台 内周：磁転ナ	内周体部下・底面黄赤付目
213	W-4 E-1 E-1	灰磁器 碗	破片	口径(4.6) 容積(9.2)	良好	青灰色	黄 白色粒	外周：体部磁転ナ、底部磁転ナ、磁付高台 内周：磁転ナ	内周口縁部・外周高台自然黄赤
214	W-3 E-1 E-1	灰磁器 碗	破片	口径(22.8) 容積(6.3)	良好	暗赤灰色	黄	外周：口縁部磁転ナ、底部平行付目 内周：口縁部磁転ナ、底部磁転ナ	内周口縁部・外周高台自然黄赤
215	W-1 E-1 E-1	灰磁器 碗	破片	口径(12.8) 容積(7.4)	良好	灰色	黄 白色粒・黄赤粒	外周：口縁部磁転ナ、底部平行付目 内周：口縁部磁転ナ、底部以下ナ	内周口縁部自然黄赤
216	W-2 E-1 E-1	灰磁器 碗	破片	口径(17.0) 容積(5.7)	良好	青灰色	黄 白色粒	外周：口縁部磁転ナ、底部平行付目 内周：口縁部磁転ナ、底部磁転ナ	内周口縁部自然黄赤
217	W-6 E-1 E-1	灰磁器 碗	破片	口径(11.6) 容積(5.5)	良好	青灰色	黄 白色粒	内外両：磁転ナ	
218	W-1 E-1 E-1	灰磁器 碗	破片	口径(12.0) 容積(27.9) 容積(40.0)	良	赤褐色	黄	外周：口縁部磁転ナ、底部平行付目 内周：口縁部磁転ナ、底部以下ナ	外周高台内黄赤
219	W-2 E-1 E-1	灰磁器 碗	破片	口径(6.4) 容積(4.8)	良好	灰色	黄	外周：口縁部へウ切り・磁付高台 内周：口縁部へウ切り・磁付高台	外周高台内黄赤
220	W-4 E-1 E-1	灰磁器 碗	破片	口径(22.2) 容積(6.5)	良好	灰色	黄 白色粒	外周：口縁部磁転ナ、底部磁転ナ 内周：口縁部磁転ナ、底部磁転ナ	外周高台内黄赤
221	W-4 E-1 E-1	灰磁器 碗	破片	口径(12.2) 容積(2.5) 容積(7.9)	良	青灰色	黄	外周：口縁部磁転ナ、底部磁転ナ 内周：口縁部磁転ナ、底部磁転ナ	外周高台内黄赤
222	E-2 E-1 E-1	灰磁器 碗	破片	口径(3.9)	良好	青灰色	黄 白色粒	外周：口縁部磁転ナ、底部磁転ナ 内周：口縁部磁転ナ、底部磁転ナ	外周高台内黄赤
223	E-2 E-1 E-1	灰磁器 碗	破片	口径(11.2)	不良	灰白色	黄	外周：口縁部磁転ナ、底部磁転ナ 内周：口縁部磁転ナ、底部磁転ナ	外周高台内黄赤
224	E-2 E-1 E-1	灰磁器 碗	破片	口径(13.2) 容積(2.4)	良	青灰色	黄 白色粒	外周：口縁部磁転ナ、底部磁転ナ 内周：口縁部磁転ナ、底部磁転ナ	外周高台内黄赤
225	W-2 E-1 E-1	灰磁器 碗	破片	口径(13.2) 容積(3.1)	良好	青灰色	黄	外周：口縁部磁転ナ、底部磁転ナ 内周：口縁部磁転ナ、底部磁転ナ	外周高台内黄赤
226	E-6 E-1 E-1	灰磁器 碗	破片	口径(18.2) 容積(2.6)	良好	青灰色	黄	外周：口縁部磁転ナ、底部磁転ナ 内周：口縁部磁転ナ、底部磁転ナ	外周高台内黄赤
227	W-1 E-1 E-1	灰磁器 碗	破片	口径(18.0) 容積(3.2)	良好	青灰色	黄 白色粒・黄赤粒	外周：口縁部磁転ナ、底部磁転ナ 内周：口縁部磁転ナ、底部磁転ナ	外周高台内黄赤
228	W-1 E-1 E-1	灰磁器 碗	破片	口径(17.4) 容積(3.7)	良好	灰色	黄 白色粒	外周：口縁部磁転ナ、底部磁転ナ 内周：口縁部磁転ナ、底部磁転ナ	外周高台内黄赤

229	E-4 E-①層	築造部 天井	坪床(1.2)	口径(17.0) 高さ(2.5)	良好	暗赤灰色	密 白色粒	外面：白磁貼 内面：白磁貼同貼ナテ、底面同貼ナテ	
230	E-2 E-①層	築造部 壁	5/8	口径(13.0) 高さ(5.0)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：白磁貼同貼ナテ、天井部同貼ヘラケズリ 内面：白磁貼同貼ナテ、天井部ナテ	外周自然降伏
231	W-1 E-①層	築造部 壁	柱状形	口径(14.2) 高さ(4.8)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：白磁貼同貼ナテ、天井部同貼ヘラケズリ 内面：白磁貼同貼ナテ、天井部ナテ	外周一部保付骨
232	E-2 E-①層	築造部 壁	1/2	口径(13.8) 高さ(4.6)	良好	灰色	密 密	外面：白磁貼同貼ナテ、天井部同貼ヘラケズリ 内面：同貼ナテ	
233	W-2 E-①層	築造部 壁	1/2	口径(14.4) 高さ(4.0)	良好	青灰色	密 白色粒・黒色粒	外面：白磁貼同貼ナテ、天井部同貼ヘラケズリ 内面：白磁貼同貼ナテ、天井部ナテ	
234	E-2 E-①層	築造部 壁	5/8	口径(12.8) 高さ(3.6) 底径(11.0)	良好	灰色	密	外面：白磁貼一部同貼ナテ、底面同貼ヘラケズリ 内面：白磁貼一部同貼ナテ、底面ナテ	外周自然降伏 外周面化粧
235	E-4 E-①層	築造部 壁	1/2	口径(13.2) 高さ(4.0) 底径(8.8)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：白磁貼一部同貼ナテ、底面同貼余切り 内面：白磁貼一部同貼ナテ、底面ナテ	
236	E-4 E-①層	築造部 壁	1/3	口径(13.2) 高さ(4.0) 底径(9.2)	良	灰色	密 白色粒・黒色粒	外面：白磁貼一部同貼ナテ、底面同貼余切り 内面：白磁貼一部同貼ナテ、底面ナテ	
237	W-3 E-①層	築造部 壁	1/2	口径(12.2) 高さ(4.0) 底径(7.2)	良好	青灰色・赤 灰色	密 白色粒	外面：白磁貼一部同貼ナテ、底面同貼余切り 内面：白磁貼一部同貼ナテ、底面ナテ	
238	W-5 E-①層	築造部 壁	1/3	口径(12.0) 高さ(4.0) 底径(8.8)	良好	青灰色	密	外面：白磁貼一部同貼ナテ、底面同貼余切り 内面：白磁貼一部同貼ナテ、底面ナテ	
239	W-2 E-①層	築造部 壁	1/2	口径(14.4) 高さ(3.6) 底径(9.0)	良好	暗赤灰色	密	外面：白磁貼一部同貼ナテ、底面同貼余切り 内面：白磁貼一部同貼ナテ、底面ナテ	
240	W-6 E-①層	築造部 壁	柱状形	口径(13.0) 高さ(4.0) 底径(9.5)	良好	暗赤灰色・赤 褐色	密	外面：白磁貼一部同貼ナテ、底面同貼余切り 内面：白磁貼一部同貼ナテ、底面ナテ	
241	W-5 E-①層	築造部 壁	1/2	口径(12.2) 高さ(4.2) 底径(9.6)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：白磁貼一部同貼ナテ、底面同貼余切り 内面：白磁貼一部同貼ナテ、底面ナテ	
242	E-2 E-①層	築造部 壁	1/2	口径(11.8) 高さ(4.5) 底径(8.0)	良好	灰色	密 黒色粒	外面：白磁貼一部同貼ナテ、底面同貼余切り 内面：白磁貼一部同貼ナテ、底面ナテ	内周面白色付骨
243	E-3 E-①層	築造部 壁	1/3	口径(8.8) 高さ(3.0) 底径(5.0)	良好	青灰色	密	外面：白磁貼一部同貼ナテ、底面同貼余切り 内面：同貼ナテ	内周自然降伏
244	E-3 E-①層	築造部 壁	1/3	口径(13.8) 高さ(4.5) 底径(9.8)	良好	灰色	密 白色粒	外面：白磁貼一部同貼ナテ、底面同貼余切り 内面：白磁貼一部同貼ナテ、底面ナテ	
245	E-4 E-①層	築造部 壁	1/2	口径(14.6) 高さ(3.8) 底径(8.6)	良好	灰色	密	外面：白磁貼一部同貼ナテ、底面同貼余切り 内面：白磁貼一部同貼ナテ、底面ナテ	
246	W-5 E-①層	築造部 壁	2/3	口径(14.0) 高さ(2.4) 底径(10.0)	良好	灰色	密	外面：白磁貼一部同貼ナテ、底面同貼余切り 内面：白磁貼一部同貼ナテ、底面ナテ	
247	W-6 E-①層	築造部 壁	1/8	口径(14.8) 高さ(3.0) 底径(11.0)	良好	青灰色	密	外面：白磁貼一部同貼ナテ、底面同貼余切り 内面：白磁貼一部同貼ナテ、底面ナテ	
248	W-6 E-①層	築造部 壁	1/8	口径(15.6) 高さ(2.5) 底径(10.4)	良好	青灰色	密	外面：白磁貼一部同貼ナテ、底面同貼余切り 内面：白磁貼一部同貼ナテ、底面ナテ	
249	E-4 E-①層	築造部 壁	5/8	口径(14.2) 高さ(2.8) 底径(11.0)	良好	青灰色	密	外面：白磁貼一部同貼ナテ、底面同貼余切り 内面：白磁貼一部同貼ナテ、底面ナテ	
250	W-5 E-①層	築造部 壁	1/2	口径(15.5) 高さ(2.8) 底径(12.4)	良好	灰色	密	外面：白磁貼一部同貼ナテ、底面同貼余切り、貼付高付 ヘラケズリ 内面：白磁貼一部同貼ナテ、底面ナテ	
251	W-3 E-①層	築造部 壁	1/3	口径(11.4) 高さ(4.1) 底径(6.6)	良好	灰色	密	外面：白磁貼一部同貼ナテ、底面同貼余切り 内面：白磁貼一部同貼ナテ、底面ナテ	内周白磁貼一部保付骨
252	W-5 E-①層	築造部 壁	柱状形	口径(11.8) 高さ(2.5) 底径(8.1)	良好	灰色	密	外面：白磁貼一部同貼ナテ、底面同貼余切り 内面：白磁貼一部同貼ナテ、底面ナテ	内周白磁貼一部保付骨
253	W-1 E-①層	築造部 壁	1/2	口径(10.8) 高さ(4.1) 底径(7.4)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：白磁貼一部同貼ナテ、底面同貼余切り 内面：白磁貼一部同貼ナテ、底面ナテ	
254	K-2 E-①層	築造部 壁	5/8	口径(14.8) 高さ(5.8) 底径(7.4)	良	灰色	密	外面：白磁貼一部同貼ナテ、底面同貼余切り、貼付高付 内面：白磁貼一部同貼ナテ、底面ナテ	
255	W-5 E-①層	築造部 壁	1/8	口径(10.8) 高さ(3.8) 底径(7.0)	良好	灰色	密	外面：白磁貼一部同貼ナテ、底面同貼余切り 内面：白磁貼一部同貼ナテ、底面ナテ	
256	W-5 E-①層	築造部 壁	1/8	口径(10.8) 高さ(4.0) 底径(6.8)	良好	青灰色	密 白色粒・黒色粒	外面：白磁貼一部同貼ナテ、底面同貼余切り、貼付高付 内面：白磁貼一部同貼ナテ、底面ナテ	
257	E-4 E-①層	築造部 壁	1/2	口径(17.8) 高さ(5.9) 底径(10.6)	良好	灰色	密 白色粒	外面：白磁貼一部同貼ナテ、底面同貼余切り、貼付高付 内面：白磁貼一部同貼ナテ、底面ナテ	
258	E-6 E-①層	築造部 壁	1/4	口径(16.4) 高さ(5.3) 底径(10.0)	良好	青灰色	密 白色粒	外面：白磁貼一部同貼ナテ、底面同貼余切り、貼付高付 内面：白磁貼一部同貼ナテ、底面ナテ	
259	W-1 E-①層	築造部 壁	1/2	口径(16.2) 高さ(6.0) 底径(11.2)	良好	青灰色	密 白色粒・黒色粒	外面：白磁貼一部同貼ナテ、底面同貼余切り、貼付高付 内面：白磁貼一部同貼ナテ、底面ナテ	

280	W-3 II-①層	須恵器 杯	2/3	口径(124) 器高 4.6 底径(9.6)	良好	青灰色	滑	外面：口縁部～底部磨削ナデ。底部磨削未切り。胎付両面 内面：口縁部～底部磨削ナデ。底部ナデ
281	E-5 II-①層	須恵器 皿	1/3	口径(194) 器高 3.7 底径(11.6)	良好	青灰色	滑 白色粒	外面：口縁部～底部磨削ナデ。底部磨削未切り。胎付両面 内面：口縁部～底部磨削ナデ。底部ナデ
282	E-4 II-①層	須恵器 皿	2/3	口径(185) 器高 3.5 底径 10.2	良好	青灰色	滑 白色粒	外面：口縁部～底部磨削ナデ。底部磨削未切り。胎付両面 内面：口縁部～底部磨削ナデ。底部ナデ
283	W-2 II-①層	須恵器 皿	底部	器高 3.0 器高(12.6)	良好	青灰色	滑 白色粒	外面：口縁部～底部磨削ナデ。底部磨削未切り。胎付両面 内面：口縁部～底部磨削ナデ。底部ナデ
284	E-2 II-①層	須恵器 皿	1/4	口径(160) 器高 1.7 底径(9.4)	良好	灰色	滑	外面：口縁部～底部磨削ナデ。底部磨削未切り 内面：口縁部～底部磨削ナデ。底部ナデ
285	W-6 II-①層	須恵器 杯底残片	底部	器高(1.9) 底径 6.4	良好	灰色	滑 白色粒	外面：底部磨削ナデ。底部磨削未切り 内面：底部磨削ナデ。底部ナデ
286	W-4 II-①層	須恵器 杯底用残	底部	器高(2.4) 底径 7.4	良好	暗赤灰色	滑 白色粒	外面：底部磨削ナデ。底部磨削未切り 内面：底部磨削ナデ。底部ナデ
287	W-3 II-①層	須恵器 杯底用残	底部	器高(1.0)	良好	青灰色	滑 白色粒	外面：底部磨削ナデ。底部磨削未切り 内面：底部磨削ナデ。底部ナデ
288	W-1 II-①層	須恵器 高?	破片	—	良好	青灰色	滑 白色粒	外面：横ナデ。器底面上に円形浮文3個 内面：横ナデ
289	E-2 II-①層	平瓦	1/4	厚さ(21)	良	褐色	滑 白色粒	内面：横ナデ。器底面上に円形浮文3個 外面：横ナデ
290	E-5 II-①層	平瓦	1/4	厚さ(24)	やや良	暗赤褐色	滑	内面：横ナデ。器底面上に円形浮文3個 外面：横ナデ
291	W-6 II-①層	平瓦	1/8	厚さ(28)	良	褐色	滑 白色粒	内面：横ナデ。器底面上に円形浮文3個 外面：横ナデ
292	W-5 II-①層	平瓦	1/8	厚さ(21)	良	灰色	滑 白色粒	内面：横ナデ。器底面上に円形浮文3個 外面：横ナデ
293	W-3 II-①層	平瓦	破片	厚さ(21)	良	紫灰色	滑	内面：横ナデ。器底面上に円形浮文3個 外面：横ナデ
294	W-4 II-①層	平瓦	破片	厚さ(17)	良	青灰色	滑 白色粒	内面：横ナデ。器底面上に円形浮文3個 外面：横ナデ

第188表 1区弥生時代～古代包含層出土金属製品観察表 (第396図)

器物名	遺跡・地区 出土層位	種類	形状 残存率	材質	最大径 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	メタル度	ランク	重量 (g)	備考
275	E-1 II-①層	刀子	1/2	鉄	全長(65) 刃部(56) 基部(5)	刃部-14 基部-6	刃部-2 基部-3	5	H(O)	5	8.6	物心金属 重量: 11mm 幅: 3mm
276	E-1 II-①層	刀子	1/2	鉄	全長(33) 刃部(20) 基部(13)	刃部-8 基部-4	刃部-2 基部-1	4	錆化(△)	2	2.2	
277	E-3 II-①層	鎌?	刃部	鉄	(42)	(24)	2	6	錆化(△)	2	16.3	
278	E-6 II-①層	形状不明品	—	鉄	(34)	6	3	4	錆化(△)	2	1.8	
279	W-6 II-①層	針	1/2	鉄	(25)	4	4	3	錆化(△)	2	2.0	替針1対

第189表 1区弥生時代～古代包含層出土石器・石製品観察表 (第396～397図)

器物名	遺跡・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大径 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考
280	W-6 II-①層	石帯溝方	完形	42	41	8	330	凝灰岩	磨り穴4列
281	E-6 II-①層	石帯溝方	2/3	(33)	(18)	(21)	10.3	凝灰岩	
282	E-6 II-①層	磨石	完形	47	53	40	141.1	安山岩	ペンダナ付着
283	E-5 II-①層	磨石勾丁	完形	23	27	8	5.3	滑石	磨り穴(孔径2mm)
284	W-5 II-①層	石錘	完形	22	16	3	0.9	ヤヌカイト	刃部角51度
285	E-1 II-①層	磨石石錘	完形	16	33	12	3.7	凝灰岩	
286	W-6 II-①層	磨石石帯	1/2	(130)	(58)	(24)	216.4	閃緑岩	刃部角欠損
287	E-5 II-①層	磨石	ほぼ完形	113	32	44	382.5	花崗岩	
288	E-6 II-①層	磨石	1/2	(104)	(77)	(38)	361.2	花崗岩	
289	W-3 II-①層	磨石	ほぼ完形	165	46	44	430.5	凝灰岩	磨石
290	W-2 II-①層	石錘	完形	104	78	41	521.9	角閃石斑岩	上打欠幅20mm・下打欠幅50mm
291	E-6 II-①層	石錘	完形	130	89	48	606.7	デイサイト	左打欠幅16mm・右打欠幅43mm
292	E-5 II-①層	石錘	完形	146	98	50	968.5	角閃石斑岩	左打欠幅28mm・右打欠幅40mm
293	E-1 II-①層	石錘	完形	136	76	42	628.4	角閃石斑岩	左打欠幅17mm・右打欠幅33mm



284	W-1 B-3層	石鋪	定形	133	87	37	638.2	懸崖	穴打穴幅26cm・穴打穴幅1cm
285	K-6 B-3層	石鋪	定形	125	82	35	766.7	角閃岩・安山岩	穴打穴幅26cm・穴打穴幅10cm
286	W-1 B-3層	石	定形	105	89	44	488.2	安山岩	

第190表 2区弥生時代～古代包含層出土陶器・土器・土製品観察表 (第398～403図)

発物 No.	遺跡・地区 出土層位	器種	部位 位置	法 寸法	形状	土色	胎土	調査・文様	備考
1	F-G-2 D-1層	土師器 甕	口縁～胴 部1/2	口径(36.4) 高さ(13.0)	丸	灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナテ、肩部方角突起、肩縁横ハケム 舞状下具部による直紋 内面：口縁部横ナテ、肩部横ナテ、器底面横ナテ、器 底横ナテ	
2	D-1 B-1層	赤土師 器	口縁部	口径(38.2) 高さ(6.1)	丸	暗褐色	密 内肉白・白色 粒	外面：口縁部横ナテ、口縁部-器底縁状工具による直紋 文ハケム、口縁部横ナテ付片 内面：口縁部横ナテ、器底横ナテ	黒底
3	B-1 C-1層	土師器 甕	破片	口径(15.8) 高さ(3.8)	丸	灰褐色	密	外面：口縁部横ナテ、器底横ナテ 内面：口縁部横ナテ、器底横ナテ	黒底 外面一部残存
4	C-1 B-2層	土師器 甕	口縁～肩 部1/8	口径(11.0) 高さ(3.5)	丸	灰白色	密 石英・白色 粒	外面：横ナテ 内面：口縁部横ナテ、器底横ナテ	
5	F-1 B-3層	土師器 甕	破片	口径(10.8) 高さ(2.8)	良好	褐色	密 角閃石・雲 母・石英	外面：口縁部横ナテ、器底横ナテ 内面：口縁部横ナテ、器底横ナテ	肩部穿孔
6	A-1 B-3層	土師器 甕	口縁～胴 部1/8	口径(11.0) 高さ(4.0)	丸	灰褐色	密 雲母	外面：口縁部横ナテ、器底横ナテ 内面：口縁部横ナテ、器底横ナテ	
7	C-1 B-3層	土師器 豆皿	口縁部 1/8	口径(14.4) 高さ(7.7)	やや丸	黄白色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：横ナテ 内面：口縁部横ナテ、器底横ナテ	
8	F-1 B-3層	土師器 豆皿	破片	口径(10.0) 高さ(4.9) 器底(13.4)	やや丸	褐色	密 内肉白・白色 粒	外面：口縁部横ナテ、器底横ナテ 内面：口縁部横ナテ、器底横ナテ	口縁部穿孔2箇
9	C-2 B-3層	土師器 甕	底部	口径(21) 高さ(2.6)	やや丸	褐色	密 白色粒	外面：横ナテ 内面：器底面横ナテ	肩部穿孔1箇・器 底面1箇 内外面残存
10	D-2 B-3層	土師器 甕	底部	口径(5.2) 高さ(17.5)	良好	灰褐色	密 角閃石・石 英・白色粒	外面：器底縁状工具による直紋、 内面：器底縁状工具による直紋 内面：器底縁状工具による直紋、 器底縁状工具による直紋	黒底
11	G-2 B-1層	土師器 甕	1/2	口径(13.6) 高さ(25.0) 器底(20.4)	丸	褐色	密 砂粒	外面：口縁部横ナテ、器底横ナテ 内面：口縁部横ナテ、器底横ナテ	外面一部残存
12	F-1 B-3層	土師器 甕	口縁～肩 部1/2	口径(10.4) 高さ(10.5) 器底(16.6)	丸	灰白色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナテ、器底縁状工具による直紋 文、器底縁状工具による直紋 内面：口縁部横ナテ、器底横ナテ	外面一部残存
13	C-3 B-3層	土師器 甕	口縁～胴 部1/3	口径(16.8) 高さ(12.8) 器底(21.4)	丸	褐色	密 雲母・砂粒	外面：口縁部横ナテ、器底縁状工具による直紋 文、器底縁状工具による直紋 内面：口縁部横ナテ、器底横ナテ	外面一部残存
14	C-3 B-3層	弥生土器 甕	口縁部 1/8	口径(16.0) 高さ(5.6)	やや丸	灰褐色	密 石英・白色 粒	外面：横ナテ 内面：口縁部横ナテ、器底横ナテ	外面口縁部残存
15	C-2 B-3層	土師器 甕	口縁～肩 部1/8	口径(16.4) 高さ(9.7)	丸	暗褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口縁部横ナテ、器底縁状工具による直紋 文、器底縁状工具による直紋 内面：口縁部横ナテ、器底横ナテ	
16	H-2 B-3層	土師器 甕	口縁～肩 部1/2	口径(13.6) 高さ(13.0) 器底(18.5)	良好	暗褐色	密 内肉白・雲 母・石英・白 色粒	外面：口縁部横ナテ、器底縁状工具による直紋 文、器底縁状工具による直紋 内面：口縁部横ナテ、器底横ナテ	外面一部以下残存
17	G-2 B-3層	土師器 甕	口縁～肩 部1/2	口径(14.6) 高さ(12.1) 器底(23.0)	丸	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口縁部横ナテ、器底縁状工具による直紋 文、器底縁状工具による直紋 内面：口縁部横ナテ、器底横ナテ	外面一部残存
18	C-3 B-3層	土師器 甕	口縁～肩 部1/8	口径(13.6) 高さ(10.9) 器底(18.0)	丸	微褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナテ、器底縁状工具による直紋 文、器底縁状工具による直紋 内面：口縁部横ナテ、器底横ナテ	外面一部残存
19	D-2 B-3層	土師器 甕	破片	口径(15.7) 高さ(8.5)	丸	茶褐色	密 雲母・白色 粒	外面：口縁部横ナテ、器底縁状工具による直紋 文、器底縁状工具による直紋 内面：口縁部横ナテ、器底横ナテ	外面一部残存
20	D-3 B-3層	土師器 甕	口縁～肩 部1/8	口径(15.3) 高さ(16.6) 器底(22.1)	丸	微褐色	密 内肉白・白色 粒	外面：口縁部横ナテ、器底縁状工具による直紋 文、器底縁状工具による直紋 内面：口縁部横ナテ、器底横ナテ	黒底 外面一部残存
21	D-2 B-3層	土師器 甕	1/8	口径(13.2) 高さ(11.1)	良好	褐色	密 雲母・白色 粒	外面：口縁部横ナテ、器底縁状工具による直紋 文、器底縁状工具による直紋 内面：口縁部横ナテ、器底横ナテ	外面一部残存
22	C-2 B-3層	土師器 甕	口縁～肩 部1/8	口径(14.4) 高さ(7.5)	丸	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：横ナテ 内面：口縁部横ナテ、器底横ナテ	内外面残存
23	F-1 B-3層	土師器 甕	口縁～肩 部1/8	口径(13.1) 高さ(7.1)	丸	暗褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナテ、器底縁状工具による直紋 文、器底縁状工具による直紋 内面：口縁部横ナテ、器底横ナテ	
24	C-3 B-3層	土師器 甕	口縁部 7/8	口径(14.5) 高さ(6.4)	丸	灰褐色	密 雲母・白色 粒	外面：口縁部横ナテ、器底縁状工具による直紋 文、器底縁状工具による直紋 内面：口縁部横ナテ、器底横ナテ	外面一部残存
25	F-2 B-3層	土師器 甕	口縁～肩 部1/8	口径(13.8) 高さ(9.4)	丸	暗褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：口縁部横ナテ、器底縁状工具による直紋 文、器底縁状工具による直紋 内面：口縁部横ナテ、器底横ナテ	
26	C-1 B-3層	土師器 甕	口縁～肩 部1/4	口径(11.8) 高さ(5.2)	丸	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面：口縁部横ナテ、器底縁状工具による直紋 文、器底縁状工具による直紋 内面：口縁部横ナテ、器底横ナテ	
27	C-2 B-3層	土師器 甕	口縁～肩 部	口径(14.0) 高さ(8.0)	丸	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面：横ナテ 内面：口縁部横ナテ、器底横ナテ	内外面残存

28	D-1 II-①層	十層部 変	口縁-片 断	口径:125 器高:1099 器径:1168	良	橙褐色	雲 雲母・石灰・ 白色粒	外面:白磁質ナガ、赤褐色・横ハケメ 内面:口縁部ナガ、体部横ハケメナリ	内外面付着
29	C-2 II-②層	十層部 変	破片	口径:160 器高:430	良	褐色	雲 砂鉄・赤鉄	外面:ナガナ 内面:口縁部ナガ、肩部横ハケメナリ	内面口縁部破断
30	D-1 II-①層	十層部 変	口縁-片 断	口径:84 器高:532	良	褐色	雲 雲母・白色粒	外面:口縁部ナガ、器底以下部ハケメ 内面:口縁部ナガ、肩部横ハケメ・横ハケメナリ	
31	F-1 II-①層	十層部 変	2/3	口径:88 器高:113 器径:1122	良	褐色	雲 石灰・小石 粒・砂鉄	外面:口縁部一帯厚縁ナガ、肩縁部以下肩部以下部赤 又2層、体部横ハケメ 内面:口縁部ナガ、体部横ハケメ・横ハケメナリ	
32	F-2 II-②層	十層部 変	光面	口径:78 器高:76 器径:85	良	灰褐色	雲母・石灰・ 砂鉄	外面:口縁部一帯の横ハケメナリ、体部横ハケメ・横ハケメ ヘラミギキ 内面:口縁部ナガ、体部上半部横ハケメ、体部下半部 横ハケメ	
33	H-2 II-②層	十層部 変	口縁-片 断	口径:198 器高:302 器径:197	良	褐色	雲母・石灰・多 量・赤鉄	外面:口縁部ナガ、肩部以下部一帯横ハケメ 内面:口縁部ナガ、器底以下横ハケメナリ	内外面付着
34	D-3 II-③層	十層部 変	口縁-片 断	口径:312 器高:67	良	橙褐色	雲 雲母・石灰・ 白色粒	外面:口縁部ナガ、肩部横ハケメ 内面:口縁部ナガ、肩部下半部横ハケメナリ	
35	F-1 II-①層	十層部 小型丸足器	2/3	口径:107 器高:78 器径:81	良	褐色	高灰質・雲 母・石灰・砂 鉄	外面:口縁部横ハケメナリ、体部横ハケメ 内面:口縁部ナガ、体部横ハケメ・横ハケメナリ	内外面付着
36	B-2 II-②層	十層部 小型丸足器	1/3	口径:114 器高:69 器径:75	良	褐色	雲母・石灰・多 量・赤鉄	外面:口縁部一帯の横ハケメナリ、体部横ハケメ 内面:口縁部ナガ、肩部横ハケメ・横ハケメナリ	内外面付着
37	B-2 II-②層	十層部 小型丸足器	1/2	口径:83 器高:69 器径:74	良	褐色	雲母・石灰・多 量・赤鉄	外面:口縁部一帯の横ハケメナリ、体部横ハケメ・横ハケメ ナリ 内面:口縁部ナガ、体部横ハケメ	
38	F-2 II-②層	十層部 小型丸足器	1/2	口径:110 器高:68 器径:92	良	褐色	雲 角閃石・白色 粒	外面:口縁部横ハケメナリ、体部横ハケメ 内面:口縁部ナガ、肩部横ハケメ・横ハケメナリ	黒化
39	D-3 II-③層	十層部 小型丸足器	1/2	口径:109 器高:75 器径:81	やや良	砂褐色	角閃石・石 灰・白色粒	外面:口縁部横ハケメナリ、体部横ハケメ 内面:口縁部ナガ、肩部一帯横ハケメ・横ハケメナリ	内外面付着
40	G-1 II-①層	十層部 小型丸足器	光面	口径:115 器高:68	良	黄灰白色	雲母・石灰・ 砂鉄	外面:口縁部横ハケメナリ、体部横ハケメ 内面:口縁部ナガ、体部横ハケメナリ	内外面付着
41	G-1 II-①層	十層部 小型丸足器	破片	口径:113 器高:36	良	褐色	雲 雲母・石灰・ 白色粒	内外面:横ハケメナリ	
42	B-2 II-②層	十層部 小型丸足器	破片	口径:118 器高:36	やや良	橙褐色	雲 雲母・石灰・ 白色粒	内外面:横ハケメナリ	
43	F-2 II-②層	十層部 高坏	2/3	口径:196 器高:93 器径:80	やや良	黄灰白色	雲 角閃石・雲 母・石灰・白 色粒	外面:口縁部横ハケメ・横ハケメナリ、肩部横ハケメ 内面:口縁部横ハケメナリ、肩部横ハケメ・横ハケメナリ	
44	G-2 II-②層	十層部 高坏	口縁-片 断1/4	口径:151 器高:113	良	灰褐色	雲 雲母・石灰・ 白色粒	外面:口縁部横ハケメ・横ハケメナリ、肩部横ハケメ 内面:口縁部横ハケメナリ、肩部横ハケメ・横ハケメナリ	
45	G-2 II-②層	十層部 高坏	3/3	口径:145 器高:128	良	砂褐色	雲 雲母・石灰・ 白色粒	外面:口縁部横ハケメ・横ハケメナリ、肩部横ハケメ 内面:口縁部横ハケメナリ、肩部横ハケメ・横ハケメナリ	
46	D-3 II-③層	十層部 高坏	杯底	口径:150 器高:49	良	橙褐色	雲 雲母・石灰・ 砂鉄	内外面:口縁部横ハケメナリ 横ハケメナリ	内外面付着
47	F-2 II-②層	十層部 高坏	杯底	口径:150 器高:55	良	黄灰白色	雲 雲母・石灰・ 砂鉄	外面:口縁部横ハケメ・横ハケメナリ、肩部横ハケメ 内面:口縁部横ハケメナリ、肩部横ハケメ・横ハケメナリ	内外面付着
48	A-2 II-②層	十層部 高坏	杯底1/2	口径:162 器高:63	良	褐色	雲 雲母・石灰	外面:口縁部横ハケメ・横ハケメナリ 内面:口縁部横ハケメナリ 横ハケメナリ	
49	F-2 II-②層	十層部 高坏	杯底1/2	口径:124 器高:43	良	褐色	雲 雲母・石灰・ 砂鉄	外面:口縁部横ハケメ・横ハケメナリ 内面:口縁部横ハケメナリ 横ハケメナリ	
50	G-2 II-②層	十層部 高坏	杯底2/3	口径:172 器高:42	良	褐色	雲 雲母・石灰・ 砂鉄	外面:口縁部横ハケメ・横ハケメナリ 内面:口縁部横ハケメナリ 横ハケメナリ	
51	G-2 II-②層	十層部 高坏	杯底2/3	口径:160 器高:50	良	褐色	雲 石灰・砂鉄・多 量	外面:口縁部横ハケメ・横ハケメナリ 内面:口縁部横ハケメナリ 横ハケメナリ	内外面付着
52	D-1 II-①層	十層部 高坏	杯底1/3	口径:144 器高:47	良	褐色	雲 雲母・石灰・ 白色粒	外面:口縁部横ハケメ・横ハケメナリ 内面:口縁部横ハケメナリ 横ハケメナリ	内外面付着
53	C-3 II-③層	十層部 高坏	光面	口径:144 器高:43 器径:45	良	橙褐色	雲 石灰・白色 粒・砂鉄	外面:口縁部横ハケメ・横ハケメナリ 内面:口縁部横ハケメナリ 横ハケメナリ	
54	D-2 II-②層	十層部 高坏	1/3	口径:124 器高:46 器径:47	良好	灰褐色	雲 雲母・石灰・ 白色粒	外面:口縁部横ハケメ・横ハケメナリ 内面:口縁部横ハケメナリ 横ハケメナリ	内外面付着
55	D-1 II-①層	十層部 高坏	1/2	口径:127 器高:74 器径:69	良	褐色	雲 雲母・石灰・ 砂鉄	外面:口縁部横ハケメ・横ハケメナリ 内面:口縁部横ハケメナリ 横ハケメナリ	
56	D-1 II-①層	十層部 高坏	杯底	口径:138 器高:26	良	褐色	雲 雲母・石灰・ 砂鉄	外面:口縁部横ハケメ・横ハケメナリ 内面:口縁部横ハケメナリ 横ハケメナリ	内外面付着

57	G-2 Ⅲ-①-②	土師器 彫形器台	1214丸形	口径:14.5 器高: 95 重量(148)	良	褐色	密 雲母・石灰・ 砂粒	外周: 口縁部彫線ナゲ。受部彫線ヘラミガキ。接合部彫 線ナゲ。彫線彫ヘラミガキ。彫線彫ナゲ 内周: 受部彫ヘラミガキ。彫線彫ヘラミガキ。彫線彫ナゲ	
58	C-2 Ⅲ-①-②	土師器 彫形器内	彫線2/3	器高(52) 器径(14.6)	良	褐色	密 雲母・石灰・ 砂粒	外周: 受部一筋彫線ナゲ。彫線彫ヘラミガキ 内周: 受部彫ヘラミガキ。彫線彫ヘラミガキ。彫線彫 ナゲ 彫線彫ナゲ	
59	G-2 Ⅲ-①-②	土師器 彫形器台	1/8	口径(16.6) 器高:100 器径(13.2)	良好	黄褐色	密 雲母・石灰・ 白色粒	外周: 受部一筋彫線ヘラミガキ。彫線彫ナゲ 内周: 受部彫ヘラミガキ。彫線彫ヘラミガキ。彫線彫 ナゲ	
60	F-2 Ⅲ-①-②	土師器 彫形器内	彫線1/4	口径(56) 器高(16.4)	良	褐色	密 雲母・石灰・ 砂粒	外周: 接合部彫ナゲ。彫線彫ヘラミガキ。彫線彫ナゲ 内周: 接合部彫ナゲ。彫線彫ヘラミガキ。彫線彫ナゲ	内外両面彫
61	F-2 Ⅲ-①-②	土師器 小型器台	1/2	口径(7.1) 器高: 6.6 器径(9.4)	良	褐色	密 石灰・砂粒	外周: 接合部彫ナゲ。彫線彫ヘラミガキ。彫線彫ナゲ 内周: 接合部彫ナゲ。彫線彫ヘラミガキ。彫線彫ナゲ	
62	G-1 Ⅲ-①-②	土師器 小型器内	1/2	口径: 8.5 器高: 6.1	良	褐色	密 雲母・石灰・ 砂粒	外周: 接合部彫ナゲ。彫線彫ヘラミガキ。彫線彫ナゲ 内周: 接合部彫ナゲ。彫線彫ヘラミガキ。彫線彫ナゲ	外周口縁部彫行者
63	D-2 Ⅲ-①-②	土師器 彫形器台	1/2	口径(8) 器高(50)	良	黄褐色	密 雲母・石灰・ 白色粒	外周: 接合部彫ナゲ。彫線彫ヘラミガキ。彫線彫ナゲ 内周: 接合部彫ナゲ。彫線彫ヘラミガキ。彫線彫ナゲ	
64	G-2 Ⅲ-①-②	土師器 小型器内	彫線1/4	口径(6.7) 器高(10.8)	良好	黄褐色	密 雲母・石灰・ 白色粒	外周: ハケミ彫線ヘラミガキ 内周: 接合部ナゲ。彫線彫ヘラミガキ。彫線彫ナゲ 彫線彫ナゲ	
65	A-2 Ⅲ-①-②	土師器 彫形器台	彫線1/2	器高(25)	良好	褐色	密 内周(石・白色)	外周: 彫線彫ナゲ。彫線彫ヘラミガキ。彫線彫ナゲ 内周: 接合部ナゲ。彫線彫ヘラミガキ。彫線彫ナゲ	
66	G-2 Ⅲ-①-②	土師器 小器台	つまみ	口径(26) 器高(31)	良	黄褐色	密 雲母・砂粒	外周: 接合部彫ナゲ。彫線彫ヘラミガキ。彫線彫ナゲ 内周: 接合部彫ナゲ。彫線彫ヘラミガキ。彫線彫ナゲ	
67	G-2 Ⅲ-①-②	土師器 彫形器台	鏡片	口径(11.6) 器高(6.8)	やや良	黄褐色	密 雲母・石灰・ 砂・砂粒	内外周: 彫線彫ナゲ	
68	F-1 Ⅲ-①-②	土師器 彫形器台	1/2	口径(11.0) 器高(7.3)	不良	褐色	密 雲母・石灰・小(白 色)砂粒	内外周: 彫線彫ナゲ	
69	F-2 Ⅲ-①-②	土師器 彫形器台	鏡片	口径(10.6) 器高(4.1)	やや良	褐色	密 石灰・砂粒	内外周: 彫線彫ナゲ	内外周一筋彫行者
70	C-3 Ⅲ-①-②	土師器 彫形器台	鏡片	口径(11.8) 器高(4.2)	やや良	褐色	密 石灰・白色粒	内外周: 彫線彫ナゲ	
71	G-1 Ⅲ-①-②	土師器 彫形器台	鏡片	口径(13.4) 器高(2.8)	やや良	黄褐色	密 内周(石)	内外周: 彫線彫ナゲ	
72	F-2 Ⅲ-①-②	土師器 彫形器台	鏡片	口径(8.4) 器高(3.2)	やや良	褐色	密 石灰・砂粒	内外周: 彫線彫ナゲ	
73	B-1 Ⅲ-①-②	土師器 手揉石 土器	鏡片	口径(11.6) 器高(1.8)	良	黄褐色	密	内外周: 口縁部彫線ナゲ。彫線彫ナゲ	
74	F-2 Ⅲ-①-②	土師器 手揉石 土器	鏡片	口径(12.0) 器高(2.9)	良	褐色	密	内外周: 口縁部彫線ナゲ。彫線彫ナゲ	
75	B-1 Ⅲ-①-②	土師器 手揉石 土器	鏡片	口径(11.8) 器高(2.0)	良	褐色	密	内外周: 口縁部彫線ナゲ。彫線彫ナゲ	
76	G-2 Ⅲ-①-②	土師器 手揉石 土器	鏡片	口径(6.8) 器高(1.8)	やや良	褐色	密	内外周: 口縁部彫線ナゲ。彫線彫ナゲ	
77	B-1 Ⅲ-①-②	土師器 手揉石 土器	鏡片	口径(11.8) 器高(2.3)	良	褐色	密	内外周: 口縁部彫線ナゲ。彫線彫ナゲ	
78	F-1 Ⅲ-①-②	土師器 手揉石 土器	鏡片	口径(13.2) 器高(1.5)	やや良	褐色	密 雲母・砂粒	内外周: 口縁部彫線ナゲ。彫線彫ナゲ	
79	C-2 Ⅲ-①-②	土師器 彫形器台	鏡片	口径(12.1) 器高(2.1)	良	褐色	密 雲母・砂粒	内外周: 口縁部彫線ナゲ。彫線彫ナゲ	
80	F-2 Ⅲ-①-②	土師器 彫形器台	鏡片	口径(12.0) 器高(2.1)	良	褐色	密 雲母・砂粒	内外周: 口縁部彫線ナゲ。彫線彫ナゲ	
81	C-2 Ⅲ-①-②	土師器 彫形器台	把千部	器高(16.8) 器径(37.0)	良	褐色	密 雲母・石灰・ 砂粒	外周: 接合部彫ナゲ。彫線彫ヘラミガキ。彫線彫ナゲ 内周: 接合部彫ナゲ。彫線彫ヘラミガキ。彫線彫ナゲ	内周口縁部彫行者
82	G-2 Ⅲ-①-②	土師器 手揉石 土器	鏡片	口径(20) 器高(2.3)	良	黄褐色	密 雲母・石灰・ 白色粒	内外周: 口縁部彫線ナゲ。彫線彫ナゲ	
83	D-4 Ⅲ-①-②	土師器 注口土器	把千部	口径: 1.6 器高: 1.8	良	褐色	密 角閃石・白色 粒	外周: ヘラミガキ	外周彫行者
84	D-1 Ⅲ-①-②	土師器 注口土器	把千部	口径: 20 器高: 1.6	良	褐色	密 白色粒	外周: 竹管支2条	
85	C-4 Ⅲ-①-②	土師器 彫形器台	鏡片	一	良	褐色	密	外周: ヘラミガキ 内周: ナゲ	外周彫線ナゲ(×) 内外両面彫
86	B-1 Ⅲ-①-②	土師器 彫形器台	1/2	口径: 14.0 器高: 3.2 器径(7.6)	良好	黄褐色	密	外周: 口縁部彫線ナゲ。彫線彫ヘラミガキ 内周: 口縁部彫線ナゲ。彫線彫ヘラミガキ	内外両面彫
87	B-2 Ⅲ-①-②	土師器 彫形器台	1/6	口径: 14.7 器高: 2.9 器径(16.8)	良好	黄褐色	密	外周: ナゲ。彫線彫ヘラミガキ 内周: 口縁部彫線ナゲ。彫線彫ヘラミガキ	内周彫線彫行者
88	D-1 Ⅲ-①-②	土師器 彫形器台	5/8	口径: 14.7 器高: 2.9 器径(11.0)	良	黄褐色	密 白色粒	外周: 口縁部彫線ナゲ。彫線彫ヘラミガキ 内周: 口縁部彫線ナゲ。彫線彫ヘラミガキ	内外両面彫
89	F-1 Ⅲ-①-②	土師器 彫形器台	1/8	口径(12.6) 器高(3.1) 器径(7.3)	良	褐色	密 石灰・砂粒	外周: 口縁部彫線ナゲ。彫線彫ヘラミガキ 内周: 口縁部彫線ナゲ。彫線彫ヘラミガキ	口縁部彫ナゲ(×) 内外両面彫
90	A-4 Ⅲ-①-②	土師器 彫形器台	定形	口径: 27 器高: 0.7	良好	黄褐色	密	外周: 口縁部彫線ナゲ。彫線彫ヘラミガキ 内周: 口縁部彫線ナゲ。彫線彫ヘラミガキ	重量: 6.2g

91	F-2 H-①磨	調整器 皿状取付	L/6	砂素(2.1)	良好	青褐色	滑 砂粒	外面: 体部同軸ナナ、底面同軸ホリ、除付溝付 内面: 体部ナナ、底面凸状	内面自然降伏?
92	D-K-F 1 H-①磨	調整器 環状	体部	砂素(17.8) 鋼片(16.6) 厚さ(11.0)	良好	灰色	滑 白色粒・褐色 粒	外面: 体部ナナ、体部同軸ナナ、除付ヘラケズリ 内面: 体部ナナ、体部同軸ナナナ	外面自然降伏
93	F-2 H-①磨	調整器 環状	鋼片	口径(39.0) 厚さ(8.2)	良好	青灰色	滑 石英	外面: 調整器ナナ、調整工具による底面直交ホリ状 工具による沈没2条、ホリナナ 内面: 体部ナナ	
94	G-H-2 H-①磨	調整器 環状	口径一部 部	口径(19.5) 鋼片(20.1) 厚さ(30.7)	良好	暗赤灰色	滑	外面: 口径部同軸ナナ、調整器ナナ平行ホリ付 内面: 口径部同軸ナナ、体部ナナによる同心円状	
95	F-1 H-①磨	調整器 環状	鋼片	口径(22.0) 鋼片(6.0)	良好	暗赤灰色	滑	外面: 口径部同軸ナナ、調整器ナナ平行ホリ付 内面: 調整器同軸ナナ、調整器ナナによる同心円状	
96	H-2 H-①磨	調整器 環状	鋼片	鋼素(7.3) 厚さ(15.4)	良好	青灰色	滑 小石粒・砂粒	外面: 体部同軸ナナ、調整器ナナ平行ホリ付 内面: 調整器同軸ナナ、調整器ナナによる同心円状	
97	G-1 H-①磨	調整器 環状	1/3	鋼素(5.8) 厚さ(8.6)	良好	青灰色	滑 白色粒	外面: 体部同軸ナナ、底面同軸ホリナナ、除付溝付 内面: 体部同軸ナナ、調整器ナナ	
98	F-1 H-①磨	調整器 環状	1/4	口径(12.0) 鋼素(2.4)	良好	赤褐色	滑 砂粒	外面: 調整器ナナ 内面: ナナ	
99	D-1 H-①磨	調整器 鋼片用環	1/8	口径(14.0) 鋼素(2.1)	良好	暗色	滑 石英(a 5μ)	外面: 調整器同軸ナナ、底面同軸ヘラケズリ 内面: 調整器同軸ナナ、調整器ナナ	内面天井部磨削付
100	D-1 H-①磨	調整器 鋼片用環	1/8	鋼素(9.2)	良好	青灰色	滑 石英・砂粒	外面: 調整器ナナ、調整器同軸ナナ 内面: 調整器ナナ、調整器同軸ナナ	
101	F-2 H-①磨	調整器 環状	1/2	口径(12.0) 鋼素(3.9) 厚さ(8.0)	良好	青灰色	滑 白色粒	外面: 口径部一体同軸ナナ、底面同軸ホリ 内面: 口径部一体同軸ナナ、調整器ナナ	
102	H-2 H-①磨	調整器 環状	1/2	口径(12.4) 鋼素(4.9) 厚さ(9.5)	良好	暗赤灰色	滑 鋼片・小石粒	外面: 口径部一体同軸ナナ、底面同軸ホリ 内面: 調整器ナナ	
103	G-1 H-①磨	調整器 環状	1/2	口径(12.8) 鋼素(4.1) 厚さ(8.6)	良好	青灰色	滑	外面: 口径部一体同軸ナナ、底面同軸ホリ 内面: 口径部一体同軸ナナ、調整器ナナ	
104	B-1 H-①磨	調整器 環状	3/8	口径(12.1) 鋼素(3.7) 厚さ(9.5)	良好	灰色	滑 鋼片・白色粒	外面: 口径部一体同軸ナナ、底面同軸ホリ 内面: 調整器ナナ	
105	H-2 H-①磨	調整器 環状	1/2	口径(12.0) 鋼素(3.5) 厚さ(8.2)	良好	青灰色	滑 白色粒・褐色 粒	外面: 口径部一体同軸ナナ、底面同軸ホリ 内面: 口径部一体同軸ナナ、調整器ナナ	
106	F-2 H-①磨	調整器 環状	1/2	口径(13.6) 鋼素(2.8) 厚さ(9.2)	良好	青灰色	滑 鋼片・白色粒	外面: 口径部一体同軸ナナ、底面同軸ホリ 内面: 口径部一体同軸ナナ、調整器ナナ	
107	H-1 H-①磨	調整器 環状	1/2	口径(11.2) 鋼素(4.3) 厚さ(8.4)	良好	灰色	滑 白色粒	外面: 口径部一体同軸ナナ、底面同軸ホリ 内面: 口径部一体同軸ナナ、調整器ナナ	
108	H-2 H-①磨	調整器 環状	1/3	口径(12.5) 鋼素(3.7) 厚さ(9.4)	良好	赤褐色	滑	外面: 口径部一体同軸ナナ、底面同軸ホリ 内面: 調整器ナナ	
109	E-2 H-①磨	調整器 環状	1/2	口径(11.6) 鋼素(4.4) 厚さ(7.5)	良好	暗赤灰色	滑 鋼片・石英・ 白色粒	外面: 口径部一体同軸ナナ、底面同軸ホリ 内面: 調整器ナナ	
110	H-2 H-①磨	調整器 環状	1/2	口径(11.6) 鋼素(3.6) 厚さ(7.4)	良好	赤褐色	滑	外面: 口径部一体同軸ナナ、底面同軸ホリ 内面: 調整器ナナ	
111	H-2 H-①磨	調整器 環状	1/2	口径(10.4) 鋼素(3.0) 厚さ(6.6)	良好	青灰色	滑 白色粒	外面: 口径部一体同軸ナナ、底面同軸ホリ 内面: 調整器ナナ	内面調整器ナナ
112	B-C-1 H-①磨	調整器 環状	1/2	口径(10.4) 鋼素(3.0) 厚さ(6.6)	良好	青灰色	滑 白色粒	外面: 口径部一体同軸ナナ、底面同軸ホリ 内面: 調整器ナナ	内面調整器ナナ
113	A-2 H-①磨	調整器 環状	1/2	口径(8.0) 鋼素(5.9) 厚さ(6.5)	良好	青灰色	滑	外面: 口径部一体同軸ナナ、底面同軸ホリ 内面: 調整器ナナ	外面調整器ナナ付
114	B-2 H-①磨	調整器 環状	1/2	口径(9.1) 鋼素(5.3) 厚さ(6.5)	良好	青灰色	滑	外面: 口径部一体同軸ナナ、底面同軸ホリ 内面: 調整器ナナ	内面調整器ナナ付
115	H-1 H-①磨	調整器 環状	3/4	口径(8.9) 鋼素(2.2) 厚さ(6.1)	良好	青灰色	滑 鋼片	外面: 口径部一体同軸ナナ、底面同軸ホリ 内面: 調整器ナナ	
116	H-2 H-①磨	調整器 環状	1/4	口径(14.0) 鋼素(2.9) 厚さ(9.4)	良好	青灰色	滑 鋼片・白色粒	外面: 口径部一体同軸ナナ、底面同軸ホリ 内面: 調整器ナナ	
117	F-2 H-①磨	調整器 環状	1/3	口径(13.2) 鋼素(2.9) 厚さ(9.0)	良好	青灰色	滑 砂粒	外面: 口径部一体同軸ナナ、底面同軸ホリ 内面: 調整器ナナ	
118	F-2 H-①磨	調整器 環状	1/3	口径(9.5) 鋼素(2.7) 厚さ(6.9)	良好	青灰色	滑	外面: 口径部一体同軸ナナ、底面同軸ホリ 内面: 調整器ナナ	
119	B-1-2 H-①磨	調整器 環状	1/3	口径(10.0) 鋼素(2.2) 厚さ(6.4)	良好	青灰色	滑	外面: 口径部一体同軸ナナ、底面同軸ホリ 内面: 調整器ナナ	
120	A-B-1-D-3 H-①磨	調整器 環状	1/3	口径(9.8) 鋼素(2.4) 厚さ(6.8)	良好	青灰色	滑	外面: 口径部一体同軸ナナ、底面同軸ホリ 内面: 調整器ナナ	
121	F-2 H-①磨	調整器 環状	1/8	口径(9.5) 鋼素(2.4) 厚さ(7.0)	良好	青灰色	滑 砂粒	外面: 口径部一体同軸ナナ、底面同軸ホリ 内面: 調整器ナナ	外面自然降伏
122	E-1 H-①磨	調整器 環状	1/4	口径(14.0) 鋼素(2.0) 厚さ(10.9)	良好	青灰色	滑 砂粒	外面: 口径部一体同軸ナナ、底面同軸ホリ 内面: 調整器ナナ	

123	C-1 Ⅱ-①層	旗山砂 皿	1/3	口径(15.5) 容積: 20 底径(10.6)	良好	青灰色	南 裏面・白色 底・灰色粒	外面: 口縁部~一部割断ナゲ。底面割断未切り 内面: 口縁部~一部割断ナゲ。底面ナゲ	
124	C-3 Ⅱ-①層	須置器 坏	1/4	口径(12.1) 容積: 4.6 底径( 8.2)	良好	青灰色	密	外面: 口縁部~一部割断ナゲ。底面ヘタ切り。筋付高台 内面: 口縁部~一部割断ナゲ。底面ナゲ	
125	F-2 Ⅱ-①層	須置器 坏	2/3	口径(14.9) 容積: 6.4 底径(11.4)	良好	青灰色	南	外面: 口縁部~一部割断ナゲ。底面割断未切り。筋付高台 内面: 口縁部~一部割断ナゲ。底面ナゲ	内外面口縁部~一部 筋付き
126	H-2 Ⅱ-①層	旗山砂 皿	1/3	口径(18.3) 容積: 2.4 底径(11.4)	良好	灰色	南 裏面・白色粒	外面: 口縁部~一部割断ナゲ。底面割断未切り 内面: 口縁部~一部割断ナゲ。底面ナゲ	
127	I-2 Ⅱ-①層	須置器 皿	1/3	口径(17.4) 容積: 3.2 底径(11.8)	良好	青灰色	南 砂粒	外面: 口縁部~一部割断ナゲ。底面割断未切り。筋付高台 内面: 口縁部~一部割断ナゲ。底面ナゲ	
128	C-2 Ⅱ-①層	須置器 皿	破片	口径(14.2) 容積: 2.2 底径(12.2)	やや良	褐色	南 小石粒・砂粒	外面: 口縁部~一部割断ナゲ。一部ヘタ切り 内面: 割断ナゲ	
129	G-2 Ⅱ-①層	須置器 皿	1/8	口径(18.3) 容積: 2.4 底径(13.4)	良好	青灰色	南 砂粒	外面: 口縁部~一部割断ナゲ。底面割断未切り。筋付高台 内面: 口縁部~一部割断ナゲ。底面ナゲ	
130	F-1 Ⅱ-①層	須置器 破片用底	1/3	口径(13.6) 容積: 2.0 底径( 9.4)	良好	青灰色	密	外面: 口縁部~一部割断ナゲ。底面割断未切り 内面: 口縁部~一部割断ナゲ。底面ナゲ	内面筋付き
131	E-1 Ⅱ-①層	須置器 坏	1/3	口径(11.7) 容積: 3.0 底径( 8.7)	良好	青灰色	密 底面・白色粒	外面: 口縁部~一部割断ナゲ。底面割断未切り。筋付高台 内面: 口縁部~一部割断ナゲ	外周底面筋 底面中央穿孔
132	F-2 Ⅱ-①層	砂包埋器 皿	底面	口径( 1.2) 底径( 6.1)	良好	青灰色	密	外面: 底面ヘタ切り。平高台 内面: ナゲ	緑灰色粘 土製花輪
133	A-4 Ⅱ-①層	平瓦	1/8	厚さ( 2.3)	良	灰白色	南 石葉・白灰粒	凸面: 母子目状ノミによる呼吸目 凹面: 母子目状不規。横溝あり	
134	A-4 Ⅱ-①層	平瓦	破片	厚さ( 2.1)	良	灰白色	南 石葉・白灰粒	凸面: 母子目状ノミによる呼吸目 凹面: 母子目状不規。横溝あり	

第191表 2区弥生時代~古代包舍層出土金属製品観察表(第403図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	種 類	部 位 取付位置	材 質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	その他計測値			重量 (g)	備 考
								総長さ	メタ化 程度 (%)	ランク		
135	H-2 Ⅱ-①層	小型鏡	完形	青銅	32	22	5				7.7	
136	H-2 Ⅱ-①層	金環	ほぼ完形	鉄	軸径(27.7)	内径幅: 42	輪部: 4 内径部: 4	総長さ 4	メタ化 程度 (%)	ランク 5	91.6	
137	F-1 Ⅱ-①層	帯金具 丸刺	ほぼ完形	鋼	25	26	7				6.5	射線3層 穿孔

第192表 2区弥生時代~古代包舍層出土石器・石製品観察表(第403~405図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	種 類	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石 材	備 考
138	G-1 Ⅱ-①層	石鏡	完形	22	14	3	0.4	黒曜石	刃部有欠損
139	H-2 Ⅱ-①層	石鏡	141度欠形	(21)	16	4	1.0	玄武岩	刃部欠損
140	C-1 Ⅱ-①層	石鏡	ほぼ完形	(21)	(23)	3	1.3	黒曜石	刃部欠損
141	G-1 Ⅱ-①層	二次加工剥片	完形	23	22	10	4.6	黒曜石	
142	A-2 Ⅱ-①層	二次加工剥片	完形	21	22	8	4.4	玉髓	
143	H-2 Ⅱ-①層	二次加工剥片	完形	14	24	7	2.0	流輝石	
144	G-1 Ⅱ-①層	石核	完形	30	22	13	6.5	玉髓	
145	A-1 Ⅱ-①層	石核	完形	26	26	16	10.9	玉髓	
146	H-1 Ⅱ-①層	石核	完形	26	21	23	12.9	玉髓	火打石?
147	G-2 Ⅱ-①層	石核	完形	29	22	15	10.8	水晶	
148	H-1 Ⅱ-①層	不明石製品	1/2	(13)	(20)	(8)	2.5	頁岩	中央に穿孔
149	H-2 Ⅱ-①層	勾玉	未穿孔	44	14	5	6.1	頁岩	
150	D-1 Ⅱ-①層	磨製石斧	1/2	(84)	57	37	257.9	流輝石	刃部内欠損
151	F-1 Ⅱ-①層	棒状石製品	不明	(99)	56	28	344.5	砂岩	
152	A-1 Ⅱ-①層	打製石斧	未製品	139	(73)	(26)	314.9	火山岩	
153	F-1 Ⅱ-①層	砥石	ほぼ完形	71	47	32	165.5	凝灰岩	筋付き
154	D-1 Ⅱ-①層	砥石	1/3	(60)	(46)	(40)	106.5	凝灰岩	
155	G-2 Ⅱ-①層	砥石	2/3	(73)	(76)	(40)	334.9	花崗岩	
156	G-2 Ⅱ-①層	砥石	1/2	(82)	30	17	22.3	凝灰岩	
157	A-2 Ⅱ-①層	砥石	1/2	(37)	(27)	(20)	20.7	凝灰岩	仕上砥

158	C-2 B-2 B-2 B-2	灰石	ほぼ球形	(81)	(90)	(49)	38.9	礫石	
159	D-1 B-2 C-4 B-2	輝石	1/2	55	59	26	14.5	輝石	
160	C-4 B-2 B-2 B-2	石隕	定形	86	83	40	35.7	角閃石(安山岩)	上打欠幅26mm・下打欠幅25mm
161	C-3 B-2 B-2 B-2	石隕	1/2	104	(57)	(35)	32.3	アイサイト	上打欠幅220mm・下打欠幅220mm
162	C-2 B-2 B-2 B-2	石隕	光形	120	75	48	60.7	角閃石(安山岩)	左打欠幅66mm・右打欠幅21mm
163	B-2 B-2 B-2 B-2	石隕	定形	112	76	39	102.1	安山岩	左打欠幅23mm・右打欠幅14mm
164	C-3 B-2 B-2 B-2	石隕	442定形	(215)	112	64	1580.1	アイサイト	左打欠幅110(10)mm
165	B-2 B-2 B-2 B-2	石隕	光形	158	82	33	58.5	アイサイト	左打欠幅25mm・右打欠幅15mm
166	A-1 B-2 B-2 B-2	石隕	光形	131	81	36	67.3	アイサイト	左打欠幅21mm・右打欠幅18mm
167	A-1 B-2 B-2 B-2	石隕	定形	113	60	17	176.4	アイサイト	左打欠幅60mm・右打欠幅33mm
168	A-1 B-2 B-2 B-2	石隕	定形	110	80	37	378.1	角閃石(安山岩)	左打欠幅23mm・右打欠幅44mm
169	C-4 B-2 B-2 B-2	石隕	ほぼ定形	(80)	34	33	193.8	角閃石(安山岩)	左打欠幅31mm・右打欠幅44mm
170	C-3 B-2 B-2 B-2	石隕	光形	90	50	18	130.3	アイサイト	左打欠幅22mm・右打欠幅30mm
171	B-1 B-2 B-2 B-2	輝石・閃石	ほぼ定形	100	(67)	34	303.3	安山岩	
172	B-1 B-2 B-2 B-2	輝石・閃石	光形	128	90	62	940.6	角閃石(安山岩)	採付者
173	A-2 B-2 B-2 B-2	輝石	ほぼ定形	(87)	72	68	570.7	アイサイト	
174	B-1 B-2 B-2 B-2	輝石・輝石	定形	132	75	39	578.6	アイサイト	
175	C-3 B-2 B-2 B-2	輝石・輝石	定形	130	83	80	1059.3	角閃石(安山岩)	採付者

第193表 3区弥生時代～古代包含層出土陶磁器・土器・土製品観察表(第406～410区)

遺物No.	遺層・地区 出土層位	群 属	形 状 残存有	決 量 (cm)	地 色	色 澤	胎 土	調 査 ・ 文 献	備 考
1	A-2 B-2	土師器 埴輪	口縁 ～体部	口径(105) 器高(30) 胴径(18.4)	黄	灰褐色	黄 雲母・石灰 ・白色粒	外側：口縁部～ヘラミガキ、胴部は磁器の引込文2条・ 山形文1条、体部はヘラミガキ 内側：口縁部～ヘラミガキ、胴部は磁器、体部はヘラ ミガキ	胴部穿孔2部
2	B-1 B-2	土師器 小瓶	体部 破片	器高(31)	赤	褐色	黄 雲母・石灰 ・白色粒	外側：ナメ・竹文2条以上 内側：ヘラミガキ	
3	B-1 B-2	土師器 壺	口縁 破片	器高(1.6) 胴径(3.3)	黄	褐色	黄 石灰・砂粒	外側：唇部～磁器・ヘラミガキ 内側：唇部～磁器・ヘラミガキ	内外両面採付 土内式
4	A-B-1 B-2	土師器 壺	口縁 ～体部	口径(26.1) 器高(7.0) 胴径(22.6)	黄	灰褐色	黄 石灰・白色粒	外側：口縁部～磁器・ヘラミガキ・磁器・土 による波状文5条以上、胴部～体部はヘラミガキ・磁 器・ヘラミガキ 内側：口縁部～ヘラミガキ	
5	B-1 B-2	土師器 壺	口縁 ～体部	口径(18.1) 器高(4.5)	黄	灰褐色	黄 雲母・石灰 ・白色粒	外側：口縁部～磁器・ヘラミガキ、胴部ナメ、 胴部は磁器による引込文、体部はヘラミガキ 内側：口縁部～磁器・ヘラミガキ、体部はヘラミガキ	外側口縁部採付
6	B-1 B-2	土師器 壺	破片	口径(19.6) 器高(5.2)	黄	褐色	黄 雲母・石灰 ・砂粒	外側：口縁部～磁器・胴部は磁器による引込文 内側：口縁部～磁器・胴部はヘラミガキ	
7	B-2 B-2	土師器 壺	破片	口径(17.0) 器高(4.1)	黄	灰褐色	黄 雲母・石灰 ・砂粒	外側：胴部ナメ、胴部は磁器による引込文 内側：口縁部～磁器・胴部はヘラミガキ	口縁部採付
8	B-2 B-2	土師器 片口土器	注口部	口径(7.0) 注口径(2.9)	黄	褐色	黄 雲母・石灰 ・砂粒	外側：胴部～磁器・ヘラミガキ 内側：注口部～体部ヘラミガキ	
9	B-1 B-2	土師器 壺	つまみ部	器高(3) 部径(3.3)	黄	褐色	黄	外側面：ヘラミガキ 内側面：ヘラミガキ	外側採付者 等付
10	B-1 B-2	土師器 壺	口縁 ～体部	口径(25.5) 器高(10.9) 胴径(22.6)	黄	褐色	黄 雲母・石灰 ・白色粒(φ 4mm)	外側：口縁部～磁器・胴部ナメ、体部は磁器 内側：口縁部～磁器・胴部ナメ、胴部は磁器・ヘラミガキ	
11	C-1 B-2	土師器 壺	口縁～胴 部1/4	口径(14.8) 器高(7.9) 胴径(14.5)	黄	褐色	黄 雲母・石灰 ・白色粒	外側：口縁部～磁器 内側：口縁部～磁器・体部はヘラミガキ	外側最大径に付着 内面採付一部付着
12	B-1 B-2	土師器 壺	口縁部	口径(27.0) 器高(19.4)	黄	褐色	黄 雲母・石灰 ・砂粒	外側：口縁部～磁器・胴部は磁器・ヘラミガキ 内側：口縁部～磁器・胴部は磁器・ヘラミガキ	内外両面採付者
13	B-1 B-2	土師器 壺	口縁部 1/3	口径(28.0) 器高(9.6)	黄	褐色	黄 石灰・白色粒	外側：口縁部～磁器・胴部は磁器・ヘラミガキ 内側：口縁部～磁器・胴部は磁器・ヘラミガキ	内外両面採付者
14	D-1 B-2	土師器 壺	破片	器高(5.6)	黄	褐色	黄	外側：口縁部～磁器・胴部は磁器・ヘラミガキ 内側：口縁部～磁器・胴部は磁器・ヘラミガキ	口縁部採付者 「原」?
15	B-1 B-2	土師器 瓶形器	1/2	口径(24.6) 器高(13.5) 胴径(20.2)	黄	黄灰色	黄 雲母・石灰 ・砂粒	外側：交差するヘラミガキ・磁器・土による波状文、縦合 成・横ハケム、胴部は磁器 内側：交差するヘラミガキ・磁器・土による波状文、縦合 成・横ハケム、胴部は磁器・土による波状文、胴部は磁器・ヘラミガキ	内面両部～胴部採付者
16	B-1 B-2	土師器 瓶形器	1/8	口径(26.5) 器高(10.2)	黄	褐色	黄 石灰・砂粒	外側：横ナメ 内側：交差するヘラミガキ・磁器・土による波状文・横合 成・横ハケム	

17	B-1 Ⅱ-①層	土層部 坪	底面 破片	高さ(0.8) 厚(0.2)	良	灰褐色	密 黄褐色	外周：底部部断れ切り 内周：ナテ	外周部以外表面 外表面部「青」
18	B-1 Ⅱ-②層	土層部 坪	底面 破片	—	良	黄褐色	密 白色粒	内周部：黄褐色→ナテ	全面部 外表面部「+」 か「×」
19	A-1 Ⅱ-①層	土層部 坪	底面 破片	—	良	黄褐色	密 石灰・白色粒	外周：ヘラズリ→ナテ 内周：ナテ	内周部 外表面部「+」 か「×」
20	A-2 Ⅱ-①層	土層部 坪	底面 破片	高さ(6.0)	良	灰白色	密	外周：底部部断れ切り、足付高台 内周：ナテ	内周部 外表面部「大」
21	C-2 Ⅱ-①層	土層部 坪	底面 破片	—	—	褐色	密 石灰・白色粒	外周：底部部断れ切り 内周：ナテ	内周部 外表面部 全面部
22	B-2 Ⅱ-①層	土層部 坪	破片	高さ(1.9)	良	黄褐色	密 密粒	内外周：ナテ	全面部
23	C-1 Ⅱ-①層	土層部 坪	2/3	L1層(13.0) 高さ：3.2 底径：8.2	良	褐色	密 石灰・白色粒	外周：口縁部～底部部断れ切り、足付高台 内周：口縁部～底部部断れ切り、底部部断れ切り	全面部系部 内周部 外周部 外周部断れ切り
24	B-1 Ⅱ-①層	土層部 坪	底面	高さ(4.9) 底径(10.8)	良	黄褐色	密	外周：底部部断れ切り、足付高台 内周：ナテ	全面部、表面 外表面部「×」
25	A-0 Ⅱ-①層	土層部 瓶用土層	沈形	高さ：5.0 底径：6.8 厚：0.8	良好	灰褐色	密	外周部断れ切り	高さ：32.8cm
26	B-1 Ⅱ-①層	土層部 蓋	1/3	L1層(16.6) 高さ：3.5	良	黄褐色	密	内外周：ナテ	外周部断れ切り 全面部 全面部断れ切り
27	A-1 Ⅱ-①層	土層部 蓋	1/2	口径(3.7) 高さ：2.7	良	褐色	密 黄褐色・石灰・砂粒	外周：口縁部断れ切り、足付高台 内周：ナテ	全面部
28	D-1 Ⅱ-①層	土層部 坪	底面	高さ(7.3)	良	褐色	密 黄褐色・石灰・白色粒	外周：ヘラズリ→ナテ 内周：外周部、足付高台	外周部内周部以外表面部
29	B-1 Ⅱ-①層	土層部 坪	5/8	L1層(17.0) 高さ：3.9 底径(11.0)	良	褐色	密 黄褐色・石灰・砂粒	外周：口縁部～底部部断れ切り、底部部断れ切り 内周：口縁部断れ切り、底部部断れ切り	外周部以外表面部
30	A-1 Ⅱ-①層	土層部 坪	5/8	口径(12.8) 高さ：3.7 底径：9.0	良	褐色	密 黄褐色・石灰・砂粒	外周：口縁部～底部部断れ切り、底部部断れ切り 内周：口縁部断れ切り、底部部断れ切り	全面部
31	A-1 Ⅱ-①層	土層部 坪	1/8	口径(11.8) 高さ：3.6 底径(5.8)	良	黄褐色	密 黄褐色・石灰・砂粒	外周：口縁部～底部部断れ切り、底部部断れ切り 内周：口縁部断れ切り、底部部断れ切り	全面部
32	A-1 Ⅱ-①層	土層部 坪	1/2	L1層(12.9) 高さ：3.4 底径：8.7	良	灰褐色	密 石灰・白色粒	外周：口縁部～底部部断れ切り、底部部断れ切り 内周：口縁部断れ切り、底部部断れ切り	全面部
33	A-1 Ⅱ-①層	土層部 皿	1/3	口径(22.4) 高さ：2.4 底径(13.8)	良	黄褐色	密 黄褐色・石灰・砂粒	外周：口縁部～底部部断れ切り、底部部断れ切り 内周：ナテ	全面部
34	A-1 Ⅱ-①層	土層部 皿	1/4	口径(14.8) 高さ：1.5 底径(12.0)	良	褐色	密 黄褐色・石灰・砂粒	外周：口縁部～底部部断れ切り、底部部断れ切り 内周：口縁部断れ切り、底部部断れ切り	全面部
35	C-1 Ⅱ-①層	土層部 皿	1/3	口径(12.8) 高さ：1.8 底径(8.6)	良	黄褐色	密	外周：口縁部～底部部断れ切り、底部部断れ切り 内周：ナテ	全面部断れ切り
36	A-1 Ⅱ-①層	土層部 坪	5/8	L1層(12.7) 高さ：2.7 底径：9.1	良	灰褐色	密 白色粒	外周：口縁部～底部部断れ切り、底部部断れ切り 内周：口縁部断れ切り、底部部断れ切り	外周部以外表面部
37	B-1 Ⅱ-①層	土層部 坪	1/4	口径(12.4) 高さ：3.1 底径：8.5	良	黄褐色	密 黄褐色・石灰・白色粒	外周：口縁部～底部部断れ切り、底部部断れ切り 内周：口縁部断れ切り、底部部断れ切り	全面部
38	A-2 Ⅱ-①層	土層部 坪	1/4	口径(13.4) 高さ：3.2 底径(9.9)	良	灰褐色	密 密粒	外周：口縁部～底部部断れ切り、底部部断れ切り 内周：口縁部断れ切り、底部部断れ切り	全面部
39	A-1 Ⅱ-①層	土層部 坪	1/4	口径(12.8) 高さ：3.2 底径(8.0)	良	灰褐色	密 砂粒	外周：口縁部～底部部断れ切り、底部部断れ切り 内周：口縁部断れ切り、底部部断れ切り	全面部
40	A-1 Ⅱ-①層	土層部 坪	1/3	L1層(13.5) 高さ：3.2 底径(9.6)	良	灰褐色	密 石灰・白色粒	外周：口縁部～底部部断れ切り、底部部断れ切り 内周：口縁部断れ切り、底部部断れ切り	全面部
41	C-2 Ⅱ-①層	土層部 坪	1/2	L1層(13.4) 高さ：4.0 底径(7.4)	良	褐色	密	外周：口縁部～底部部断れ切り、底部部断れ切り 内周：口縁部断れ切り、底部部断れ切り	口縁部断れ切り
42	B-1 Ⅱ-①層	土層部 皿	2/3	口径(14.1) 高さ：3.0 底径(7.5)	良	褐色	密 石灰・砂粒	外周：口縁部～底部部断れ切り、底部部断れ切り 内周：口縁部断れ切り、底部部断れ切り	全面部
43	A-1 Ⅱ-①層	土層部 皿	1/2	口径(15.5) 高さ：3.6 底径(8.1)	良	黄褐色	密 石灰・白色粒	外周：口縁部～底部部断れ切り、底部部断れ切り 内周：口縁部断れ切り、底部部断れ切り	高内周部以外表面部
44	B-1 Ⅱ-①層	土層部 坪	1/3	口径(12.6) 高さ：3.2 底径(8.4)	良	灰褐色	密 石灰・白色粒	外周：口縁部～底部部断れ切り、底部部断れ切り 内周：ナテ	全面部
45	C-1 Ⅱ-①層	土層部 坪	1/2	口径(11.8) 高さ：3.0 底径(6.5)	良	褐色	密 黄褐色・砂粒	外周：口縁部～底部部断れ切り、底部部断れ切り 内周：口縁部断れ切り、底部部断れ切り	全面部
46	C-1 Ⅱ-①層	土層部 坪	1/2	L1層(11.6) 高さ：4.4 底径(5.8)	良	黄褐色	密 黄褐色・石灰・砂粒	外周：口縁部～底部部断れ切り、底部部断れ切り 内周：口縁部断れ切り	全面部
47	B-1 Ⅱ-①層	土層部 坪	1/4	L1層(12.4) 高さ：3.3 底径(6.5)	良	褐色	密 石灰・砂粒	外周：口縁部～底部部断れ切り、底部部断れ切り 内周：口縁部断れ切り	内周部断れ切り

48	A-2 B-2 C-2	土師器 土師器 土師器	2/3 5/8 5/8	口径(122) 高さ 5.5 底径(6.6)	良	褐色	密	外面: 口縁部一帯部紅褐色ナリ。体部下半部滑研止。底部ヘラ切りナリナリ。胎付両面 内面: 口縁部一帯部紅褐色ナリ。胎付両面	内面一部胎付者
49	A-2 B-2	土師器	5/8	口径(132) 高さ 5.7 底径(6.8)	良	褐色	密 赤黄・白色 粒・砂粒	外面: 口縁部一帯部紅褐色ナリ。胎付両面 内面: 口縁部一帯部紅褐色ナリ。胎付両面	胎付両面
50	D-2 E-2	土師器	5/8	口径(135) 高さ 6.8 底径(6.7)	良	赤褐色	密 赤黄・白色 粒	外面: 口縁部一帯部紅褐色ナリ。胎付両面 内面: 口縁部一帯部紅褐色ナリ。胎付両面	胎付両面
51	C-1 E-2	土師器	2/3	口径(158) 高さ 4.6 底径(6.8)	良	褐色	密 白色粒	外面: 口縁部一帯部紅褐色ナリ。胎付両面 内面: 胎付ナリ	胎付両面
52	A-0 B-2	土師器	11/16 完形	口径(164) 高さ 4.3 底径(6.9)	良	褐色	密 赤黄・赤黄・ 白色粒・赤色 粒	外面: 口縁部一帯部紅褐色ナリ。胎付両面 内面: 胎付ナリ	胎付両面
53	C-2 E-2	土師器	1/3	口径(121) 高さ 3.9 底径(9.0)	良	灰褐色	密 赤黄・赤黄・ 砂粒	外面: 口縁部一帯部紅褐色ナリ。胎付両面 内面: 胎付ナリ	胎付両面
54	B-1 E-2	土師器	1/10	口径(138) 高さ 2.2 底径(6.0)	良	褐色	密 白色粒・砂粒	外面: 口縁部一帯部紅褐色ナリ。胎付両面 内面: 胎付ナリ	胎付両面
55	A-1 E-2	土師器	2/3	口径(124) 高さ(6.6)	良	褐色	密 赤黄・砂粒	外面: 口縁部一帯部紅褐色ナリ。胎付両面 内面: 胎付ナリ	胎付両面
56	B-2 E-2	土師器	1/10	口径(130) 高さ(8.1)	良	灰褐色	密 赤黄・砂粒	外面: 口縁部一帯部紅褐色ナリ。胎付両面 内面: 胎付ナリ	胎付両面
57	A-1 E-2	土師器	破片	口径(120) 高さ(2.6)	良	灰褐色	密 赤黄・砂粒	内外面: 胎付両面ナリ	胎付両面
58	B-2 E-2	土師器	破片	口径(108) 高さ(1.7)	良	褐色	密 赤黄・砂粒	内外面: 胎付両面ナリ	胎付両面
59	D-1 E-2	土師器	破片	口径(92) 高さ(1.4)	良	褐色	密 赤黄・砂粒	内外面: 胎付両面ナリ	胎付両面
60	B-1 E-2	土師器	破片	口径(90) 高さ(1.7)	良	褐色	密 赤黄・砂粒	内外面: 胎付両面ナリ	胎付両面
61	B-1 E-2	土師器	破片	口径(124) 高さ(4.6)	やや良	褐色	密 赤黄・砂粒	内外面: 胎付両面ナリ	胎付両面
62	A-1 E-2	土師器	破片	口径(134) 高さ(3.9)	やや良	褐色	密 赤黄・砂粒	内外面: 胎付両面ナリ	胎付両面
63	C-2 E-2	土師器	破片	口径(124) 高さ(5.3)	やや良	褐色	密 赤黄・砂粒	内外面: 胎付両面ナリ	胎付両面
64	A-1 E-2	土師器	破片	口径(112) 高さ(4.6)	やや良	褐色	密 赤黄・砂粒	内外面: 胎付両面ナリ	胎付両面
65	C-1 E-2	土師器	破片	口径(124) 高さ(5.0)	やや良	褐色	密 赤黄・砂粒	内外面: 胎付両面ナリ	胎付両面
66	C-1 E-2	土師器	破片	口径(92) 高さ(4.5)	やや良	褐色	密 赤黄・砂粒	内外面: 胎付両面ナリ	胎付両面
67	B-2 E-2	土師器	破片	口径(6.6) 高さ(8.6)	良	褐色	密 赤黄・砂粒	内外面: 胎付両面ナリ	胎付両面
68	C-1, 2 E-2	土師器	破片	口径(81) 高さ(30.0)	良	褐色	密 赤黄・砂粒	内外面: 胎付両面ナリ	胎付両面
69	A-0 E-2	土師器	破片	口径(244) 高さ(9.9) 底径(13.3)	良	灰褐色	密 赤黄・砂粒	内外面: 胎付両面ナリ	胎付両面
70	D-1 E-2	土師器	破片	口径(145) 高さ(8.7) 底径(8.8)	良	褐色	密 赤黄・砂粒	内外面: 胎付両面ナリ	胎付両面
71	C-1 E-2	土師器	破片	口径(61) 高さ(3.4) 底径(2.8)	良	灰褐色	密 赤黄・砂粒	内外面: 胎付両面ナリ	胎付両面
72	A-1 E-2	土師器	破片	口径(128) 高さ(2.1)	良好	褐色	密	内外面: 胎付両面ナリ	胎付両面
73	C-D-1, 2 E-2	土師器	破片	口径(124) 高さ(11.1)	良好	褐色	密	内外面: 胎付両面ナリ	胎付両面
74	D-E-1 E-2	土師器	破片	口径(146) 高さ(11.3)	良好	褐色	密	内外面: 胎付両面ナリ	胎付両面
75	B-1 E-2	土師器	破片	口径(288) 高さ(7.1)	良好	褐色	密	内外面: 胎付両面ナリ	胎付両面
76	A-2 E-2	土師器	破片	口径(93) 高さ(5.0)	良好	褐色	密	内外面: 胎付両面ナリ	胎付両面
77	B-C-2 E-2	土師器	破片	口径(102) 高さ(5.8)	良好	褐色	密	内外面: 胎付両面ナリ	胎付両面
78	A-1 E-2	土師器	破片	口径(102) 高さ(6.6)	良好	褐色	密	内外面: 胎付両面ナリ	胎付両面
79	A-1 E-2	土師器	破片	口径(152) 高さ(6.3)	良好	褐色	密	内外面: 胎付両面ナリ	胎付両面
80	B-1 E-2	土師器	破片	口径(28) 高さ(3.0) 底径(1.0)	良好	褐色	密	内外面: 胎付両面ナリ	胎付両面
81	A-1 E-2	土師器	破片	口径(84)	良好	褐色	密	内外面: 胎付両面ナリ	胎付両面





114	D-2 Ⅱ-①層	須恵部 灰	破片	器高(130)	良好	青灰色	密 白色粒・黒色 粒	内面：口縁部割断ナア、尻部ヘナズリ 内底：割断ナア	外側入弁部破断 外側口縁部自然折 反
115	C-1 Ⅱ-①層	須恵部 灰	1/2	L径(114) 器高(35) 底径(72)	良好	灰色	密 白色粒・黒色 粒	外底：口縁部一休部割断ナア、底部割断ナア 内面：口縁部一休部割断ナア、底部ナア	外側底縁部破断 ナズリ・割断
116	D-1 Ⅱ-①層	須恵部 灰	底径1/2	器高(46) 底径(100)	良好	青灰色	密 黒色・白色粒	外底：体部割断ナア、底縁部割断ナア、胎付高白 内面：体部割断ナア、底縁部ナア	外底高台内底割 反
117	C-1 Ⅱ-①層	須恵部 灰	2/3	L径(178) 器高(37) 底径(118)	良好	赤褐色	密 白色粒	外底：口縁部一休部割断ナア、底縁部割断ナア、胎付高白 内面：口縁部一休部割断ナア	外底高台内底割 反(口?)
118	D-1 Ⅱ-①層	須恵部 灰	1/2	L径(126) 器高(26) 底径(86)	良	黄灰白色	密	外底：体部割断ナア、底縁部割断ナア、胎付高白 内面：体部割断ナア、底部ナア	外底高台内底割 反
119	E-2 Ⅱ-②層	須恵部 灰	破片	L径(128) 器高(38)	良	灰色	密 白色粒	外底：口縁部一休部割断ナア 内面：口縁部一休部割断ナア	外底高台内底割 反?
120	E-2 Ⅱ-②層	須恵部 灰	宗形	高さ: 30 幅: 29 厚さ: 12	良好	青灰色	密	全体部破断	重量: 146g
121	Ⅱ-2 Ⅱ-②層	須恵部 灰	宗形	高さ: 33 幅: 27 厚さ: 14	良好	青灰色	密	全体部破断	重量: 122g
122	E-2 Ⅱ-②層	須恵部 灰	宗形	高さ: 33 幅: 27 厚さ: 13	良好	青灰色	密	全体部破断	重量: 109g
123	E-2 Ⅱ-②層	須恵部 灰	宗形	高さ: 28 幅: 27 厚さ: 9	良好	青灰色	密	全体部破断	重量: 90g
124	Ⅱ-2 Ⅱ-②層	須恵部 灰	宗形	高さ: 26 幅: 25 厚さ: 14	良好	青灰色	密	全体部破断	重量: 104g
125	A-2 Ⅱ-②層	須恵部 灰	宗形	高さ: 24 幅: 22 厚さ: 9	良好	青灰色	密	全体部破断	重量: 76g
126	B-1 Ⅱ-①層	須恵部 灰	宗形	高さ: 24 幅: 20 厚さ: 9	良好	青灰色	密	全体部破断	重量: 35g
127	A-1 Ⅱ-①層	須恵部 灰	宗形	高さ: 22 幅: 22 厚さ: 9	良好	青灰色	密	全体部破断	重量: 63g
128	C-1 Ⅱ-①層	須恵部 灰	宗形	高さ: 24 幅: 21 厚さ: 11	良好	青灰色	密	全体部破断	重量: 72g
129	A-2 Ⅱ-①層	須恵部 灰	宗形	高さ: 23 幅: 23 厚さ: 9	良好	青灰色	密	全体部破断	重量: 55g
130	A-1 Ⅱ-①層	須恵部 灰	宗形	高さ: 23 幅: 21 厚さ: 13	良好	青灰色	密	全体部破断	重量: 82g
131	B-1 Ⅱ-①層	須恵部 灰	宗形	高さ: 19 幅: 19 厚さ: 10	良好	青灰色	密	全体部破断	重量: 56g
132	B-1 Ⅱ-①層	須恵部 灰	宗形	高さ: 19 幅: 19 厚さ: 9	良好	青灰色	密	全体部破断	重量: 53g
133	B-1 Ⅱ-①層	須恵部 灰	宗形	高さ: 18 幅: 18 厚さ: 12	良好	青灰色	密	全体部破断	重量: 48g
134	B-1 Ⅱ-①層	須恵部 灰	宗形	高さ: 47 幅: 17 厚さ(13)	良好	青灰色	密		重量: 86g
135	D-1 Ⅱ-①層	須恵部 灰	宗形	高さ(118) 幅(94) 底径(47)	良好	青灰色	密	外底：ヘラケズリ→工具によるナア 内面：ヘラケズリ→工具によるナア	
136	A-2 Ⅱ-①層	平瓦	1/4	長さ(21)	良	暗灰白色	密 石英 (0.02%)	△内：指子目状工具による印キ目 内面：春日御所 瓦面：ヘラケリ→ナア	

第194表 3区弥生時代～古代包含層出土金属製品観察表 (第410・411・413図)

遺物 No.	遺跡・地区 品上層位	種類	形状 破断部	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	面割度	メタル度	ランク	重量 (g)	備考
137	C-1 Ⅱ-①層	鉄線釧	1112 宛形	鉄	綫部(285)	円筒径: 57	輪部: 14 円筒部: 4	7	錆化 (△)	3	79.1	
138	B-2 Ⅱ-①層	鉄線釧	1112 宛形	鉄	綫部(185)	円筒径: 47	輪部: 3 円筒部: 2	5	錆化 (△)	5	18.2	
139	B-1 Ⅱ-①層	鉄線釧	円筒部～ 綫部	鉄	輪部(30)	円筒径: 49	輪部: 14 円筒部: 3	5	錆化 (△)	4	31.2	
140	C-2 Ⅱ-①層	鉄線釧	円筒部	鉄	—	円筒径: 57	円筒部: 2	6	錆化 (△)	3	15.5	穿孔2割
141	A-1 Ⅱ-①層	鉄線釧	円筒部	鉄	—	円筒径: 46	円筒部: 3	7	錆化 (△)	4	18.6	
142	C-1 Ⅱ-①層	釧? 1412 宛形	鉄	鉄	企業(106) 万部(38) 部部(40)	万部: 24 部部: 15	万部: 2 部部: 2	6	錆化 (△)	4	21.1	
143	A-1 Ⅱ-①層	釧	万部	鉄	68	27	2	5	H(○)	3	11.7	
144	A-1 Ⅱ-①層	釧付金具	1412 宛形	鉄	綫部径: 30 全長部: 90	全長部: 3	綫部: 3 全長部: 4	4	L(●)	5	14.2	
147	A-2 Ⅱ-①層	帯金具 丸釧	宛形	銅	24	36	11				16.3	前金具・満金具付 キ

108	A-1 Ⅱ-①層	鉄製・棒状 不剥法	鉄製 棒状不同点	鉄	全長(96) 刃部(47) 基部(51)	刃部(52) 基部-4	刃部-4 基部-3			1235
109	B-1 Ⅱ-②層	鉄製片 剥法	—	鉄	全長(35) 基部(27)	刃部(36) 基部(32)	刃部(36) 基部(32)			614

第195表 3区弥生時代~古代包含層出土石器観察表(第411~412回)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	打 材	備 考
145	B-2 Ⅱ-②層	磨石片	1/2	1103	67	40	444.3	瑛瑛岩	刃部内33度
146	C-1 Ⅱ-②層	磨石片	1/2	1011	53	41	276.1	瑛瑛岩	刃部内73度
147	B-2 Ⅱ-②層	磨石片	1/2	1103	53	33	153.3	瑛瑛岩	刃部内77度
148	A-2 Ⅱ-①層	石鏃	破片	69	59	14	46.2	瑛瑛岩	
149	C-1 Ⅱ-②層	礫石	ほぼ完整	396	43	43	310.5	花崗岩	
150	B-1 Ⅱ-②層	礫石	ほぼ完整	106	27	26	115.7	瑛瑛岩	仕上げ 磨?付着
151	B-1 Ⅱ-②層	礫石	ほぼ完整	120	45	33	186.7	瑛瑛岩	仕上げ
152	B-1 Ⅱ-②層	礫石	1/2	74	50	47	176.6	瑛瑛岩	仕上げ
153	D-1 Ⅱ-①層	礫石	ほぼ完整	35	33	14	34.9	瑛瑛岩	仕上げ
154	A-2 Ⅱ-①層	礫石	1/2	52	57	23	57.7	瑛瑛岩	仕上げ 磨製痕跡
155	B-2 Ⅱ-②層	礫石	破片	133	98	96	308.5	花崗岩	
156	A-1 Ⅱ-②層	礫石	ほぼ完整	75	72	43	27.0	礫石	
157	D-1 Ⅱ-①層	石鏃	完整	131	97	40	731.5	内四石安山岩	左打欠幅27mm・右打欠幅39mm
158	D-2 Ⅱ-①層	石鏃	完整	92	70	34	289.1	アイサイト	上打欠幅40mm・下打欠幅21mm
159	C-1 Ⅱ-②層	礫石・閃石	完整	134	130	55	1219.0	角閃石安山岩	
160	C-1 Ⅱ-②層	礫石・閃石	完整	117	72	37	430.6	内四石安山岩	
161	D-2 Ⅱ-①層	礫石・閃石	ほぼ完整	126	111	39	706.3	アイサイト	採付者
162	D-1 Ⅱ-①層	礫石	完整	126	81	63	917.0	アイサイト	採付者
163	D-1 Ⅱ-①層	礫石・閃石	完整	115	109	32	536.7	アイサイト	
164	B-1 Ⅱ-②層	礫石・閃石	完整	87	78	51	301.4	安山岩	
165	C-1 Ⅱ-②層	白石・礫石	破片	145	125	83	2174.4	瑛瑛岩	採付者
166	B-1 Ⅱ-②層	白石	ほぼ完整	136	284	77	16400.0	アイサイト	

第196表 4区弥生時代~古代包含層出土陶磁器・土器・土製品・石製品観察表(第414~419回)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	種類	形状 状態	法 重 (g)	焼 成	色 調	胎 土	調査・文 理	備 考
1	A-2 Ⅱ-②層	土師器 釜	完整	口径:23.3 器高:38.8 器径:32.7 底径:4.5	良好	褐色	赤 黄赤・黄 白色粒	外底:口縁部破損ヘラミダキ、口縁部割れ・傷状工具による痕状 2ヶ所、器底部ハケメ、底部破損状工具による痕状 2ヶ所、器底部ハケメ・擦ヘラミダキ 内底:口縁部割れヘラミダキ、器底部ヘラミダキ、器底下部 擦削調整一帯ヘラミダキ	先施底痕穿孔 痕跡 外底:内底口縁部 破損・採付者
2	A-1 Ⅱ-②層	土師器 釜	ほぼ 完整	口径:13.9 器高:15.8 器径(17.2) 底径:1.9	良好	褐色	赤 角閃石・白 色粒	外底:口縁部一帯破損ヘラミダキ、器底部ハケメ、器底下部ハケメ 内底:口縁部破損ヘラミダキ、器底部ハケメ、器底下部ハケメ	器底 外底:内底口縁部 破損 器底部一帯破 損状付着 断面品か?
3	A-1 Ⅱ-②層	土師器 釜	ほぼ 完整	口径:16.5 器高:16.5 器径:16.0	やや良	褐色	赤 角閃石・白 色粒	外底:口縁部破損ヘラミダキ、器底部ハケメ、器底下部ハケメによる 痕状文一帯・擦ヘラミダキ 内底:口縁部破損ヘラミダキ、器底部ハケメ、器底下部ハケメ	外底:口縁部 破損 器底部一帯破 損状付着 外底:口縁部 破損・器底部 一帯破損状付着
4	D-1 Ⅱ-①層	土師器 釜	口縁一帯 破損	口径(16.0) 器高(9.8)	良好	褐色	赤 石灰・白色粒	外底:口縁部一帯破損ヘラミダキ、器底部ハケメ、器底下部ハケメによる 痕状文一帯・擦ヘラミダキ 内底:口縁部破損ヘラミダキ、器底部ハケメ、器底下部ハケメ	口縁部破損 外底:口縁部 破損・器底部 一帯破損状付着
5	B-4 Ⅱ-②層	土師器 釜	口縁一帯 破損	口径(16.2) 器高(4.9)	良好	褐色	赤 角閃石・白 色粒	外底:口縁部破損ヘラミダキ、器底部ハケメ、器底下部ハケメによる 痕状文一帯・擦ヘラミダキ 内底:口縁部破損ヘラミダキ、器底部ハケメ、器底下部ハケメ	外底:口縁部 破損 器底部一帯破 損状付着
6	C-2 Ⅱ-②層	土師器 釜	口縁一帯 破損	口径(15.6) 器高(10.7)	良	褐色	赤 黄赤・黄・ 砂粒	外底:口縁部一帯破損ヘラミダキ、器底部ハケメ、器底下部ハケメによる 痕状文一帯・擦ヘラミダキ 内底:口縁部破損ヘラミダキ、器底部ハケメ、器底下部ハケメ	外底:口縁部 破損 器底部一帯破 損状付着
7	A-1 Ⅱ-②層	土師器 釜	口縁一帯 破損	口径:13.4 器高(11.1)	良	黄灰白色	赤 黄赤・白 色粒	外底:口縁部破損ヘラミダキ、器底部ハケメ、器底下部ハケメによる 痕状文一帯・擦ヘラミダキ 内底:口縁部破損ヘラミダキ、器底部ハケメ、器底下部ハケメ	外底:口縁部 破損 器底部一帯破 損状付着
8	B-2 Ⅱ-②層	土師器 小壺	口縁一帯 破損	口径(6.2) 器高(4.7)	良	灰褐色	赤 黄赤・砂粒	外底:口縁部破損ヘラミダキ、器底部ハケメ、器底下部ハケメによる 痕状文一帯・擦ヘラミダキ 内底:口縁部破損ヘラミダキ、器底部ハケメ、器底下部ハケメ	外底:口縁部 破損 器底部一帯破 損状付着

9	B-3 II-①層	土留部 差	ほぼ 完成	L径:128 器高:11.0 鋼径:138	やや良	褐色	密 角閃石・雲 母・石英・白 色粒	外面:土留部破砕ナ、底部以下可なり 内面:口縁部破砕ナ、底部部調整層→横ヘラケズリ、底部 上半部ヘラケズリ、底部下半部ヘラケズリ	外面保付層
10	B-3 II-②層	土留部 差	1/2	口縁:19.2 器高:26.4 鋼径:28.5	良	褐色	密 角閃石・石 英・小石粒	外面:口縁部破砕ナ、底部部調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、底部部調整層→横ヘラケズリ	外面保付層 底部一部保付層 底部一部保付層
11	C-2 III-①層	土留部 差	口縁:一体 部1/4	L径:20.0 器高:14.6	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口縁部→底部破砕ナ、底部部調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、底部部調整層→横ヘラケズリ	外面保付層
12	B-3 II-①層	土留部 差	口縁:一体 部1/3	L径:26.8 器高:25.3	不良	褐色	密 雲母・石英・ 小石粒・砂粒	外面:口縁部→底部破砕ナ、底部部調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、底部部調整層→横ヘラケズリ	外面保付層
13	B-3 II-①層	土留部 差	口縁:一体 部1/3	L径:17.8 器高:7.7	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部→底部破砕ナ、底部部調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、底部部調整層→横ヘラケズリ	外面保付層
14	B-2 II-③層	土留部 差	口縁:一体 部1/3	L径:31.6 器高:11.3	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ、 底部部調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、底部部調整層→横ヘラケズリ	外面保付層
15	A-1 II-①層	土留部 差	口縁:一体 部1/2	L径:26.6 器高:11.3	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部破砕ナ、底部部調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、底部部調整層→横ヘラケズリ	外面一部保付層
16	B-3 II-①層	土留部 差	口縁:一体 部1/3	L径:19.6 器高:7.2	良	砂褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部破砕ナ、底部部調整層→横ヘラケズリ、底部 調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、底部部調整層→横ヘラケズリ	外面一部保付層
17	B-2 II-②層	土留部 差	L径:一体 部1/3	口縁:18.8 器高:13.7	良	褐色	密 雲母・石英	外面:口縁部破砕ナ、底部部調整層→横ヘラケズリ、 調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、底部部調整層→横ヘラケズリ、 調整層→横ヘラケズリ	外面保付層
18	A-2 II-①層	土留部 差	破片	L径:18.0 器高:5.1	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ、 調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ、 調整層→横ヘラケズリ	外面一部保付層
19	A-1 II-①層	土留部 差	破片	L径:16.6 器高:2.9	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ	外面保付層
20	C-1 II-①層	土留部 差	破片	L径:20.8 器高:6.9	良	外面:緑褐色 内面:褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ	外面保付層
21	A-1 II-①層	土留部 差	破片	L径:14.0 器高:4.3 鋼径:4.0	良	褐色	密 角閃石・雲 母・石英・砂 粒	外面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ	外面保付層
22	C-1 II-①層	土留部 差	破片	L径:12.0 器高:4.1 鋼径:3.6	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ	外面保付層
23	A-1 II-①層	土留部 差	破片	L径:16.0 器高:7.2	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ	外面保付層
24	B-3 II-①層	土留部 差	破片	L径:12.8 器高:5.3 鋼径:6.5	良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ	外面保付層
25	C-4 II-①層	土留部 差	破片	L径:23.0 器高:4.7	良	褐色	密 雲母・石英	外面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ	外面保付層
26	A-1 II-①層	土留部 差	破片	L径:6.0	良	褐色	密 角閃石・白 色粒	外面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ	外面保付層
27	A-1 II-①層	土留部 差	破片	L径:5.5 器高:1.2	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ	外面保付層
28	A-1 II-①層	土留部 差	破片	L径:16.8 器高:9.1	良	褐色	密 角閃石・雲 母・石英・砂 粒	外面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ	外面保付層
29	C-1 II-①層	土留部 差	破片	L径:29.0 器高:14.1	良	褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ	外面保付層
30	A-1 II-①層	土留部 差	破片	L径:24.0 器高:14.8 鋼径:18.2	やや良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ	外面保付層
31	C-1 II-①層	土留部 差	破片	L径:7.8 器高:6.8	やや良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ	外面保付層
32	A-1 II-①層	土留部 差	破片	L径:11.6 器高:5.1	やや良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ	外面保付層
33	B-2 II-①層	土留部 差	破片	L径:10.0 器高:4.5	やや良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ	外面保付層
34	B-4 II-①層	土留部 差	破片	L径:9.8 器高:3.7	やや良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ	外面保付層
35	B-4 II-①層	土留部 差	破片	L径:9.8 器高:4.4	やや良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ	外面保付層
36	C-3 II-①層	土留部 差	破片	L径:12.2 器高:2.7	良	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ	外面保付層
37	A-1 II-①層	土留部 差	破片	L径:20.0 器高:13.0	やや良	灰褐色	密 雲母・石英・ 白色粒	外面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ	外面保付層
38	C-1 II-①層	土留部 差	破片	L径:20.0 器高:13.0	良	外面:褐色 内面:黒褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ 内面:口縁部破砕ナ、口縁部調整層→横ヘラケズリ	外面保付層

39	A-U-1-3-4 B-U-2層	上層部 二又支脚	2/3	部高(12.6) 部高(13.0) 厚さ(4.5)	良好	褐色	密 角閃石・白色 雲	外部：門脚部・体部間継ぎナテ、底部ヘラケズリ 内部：L1層部・体部間ヘラミダキ、底部ナテ	肉部部高 6.7cm-5.6cm 突出部高 4.4cm-4.0cm →断面寸書
40	A-1 B-U-2層	土脚部 坪	1/2	口深(12.8) 部高(3.1) 底径(1.2)	良好	褐色	密 雲母・石英・ 砂粒	外部：門脚部・体部間継ぎナテ、底部ヘラケズリ 内部：L1層部・体部間ヘラミダキ、底部ナテ	全面露出
41	B-2 B-U-2層	土脚部 坪	2/3	L1層(13.3) 部高：2.6 底径(0.4)	良好	紫褐色	密 雲母・石英	外部：L1層部・体部間継ぎナテ、底部ヘラケズリ 内部：門脚部・体部間継ぎナテ、底部露出部ナテ	全面露出 外部：内面露出部露出
42	B-2 B-U-2層	土脚部 坪	定形	口深：13.3 部高：3.4 底径：0.4	良好	褐色	密 雲母・白色粒	外部：L1層部・体部間継ぎナテ、底部ヘラケズリ 内部：門脚部・体部間継ぎナテ、底部露出部ナテ	外周部以外露出
43	B-2 B-U-2層	土脚部 坪	2/3	口深：12.8 部高：3.6 底径：0.2	良好	紫褐色	密 砂粒	外部：門脚部・体部間継ぎナテ、底部ヘラケズリ 内部：L1層部・体部間継ぎナテ、底部露出部ナテ	全面露出
44	B-2 B-U-2層	土脚部 坪	2/3	L1層(11.6) 部高：3.1 底径(2.0)	良好	紫褐色	密 石英・砂粒	外部：門脚部・体部間継ぎナテ、底部ヘラケズリ 内部：L1層部・体部間継ぎナテ、底部露出部ナテ	全面露出
45	A-2 B-U-2層	土脚部 坪	2/3	L1層：13.2 部高：3.6 底径：0.2	良好	褐色	密 雲母・砂粒	外部：L1層部・体部間継ぎナテ、底部ヘラケズリ 内部：L1層部・体部間継ぎナテ、底部露出部ナテ	全面露出
46	B-1 B-U-1層	土脚部 坪	1/4	口深(12.0) 部高(4.4) 底径(1.1)	良好	紫褐色	密 雲母	外部：L1層部・体部間継ぎナテ、底部ヘラケズリ 内部：L1層部・体部間継ぎナテ、底部露出部ナテ	全面露出
47	C-2 B-U-2層	土脚部 坪	1/2	口深(11.8) 部高：4.6 底径(6.2)	良好	黄灰色	密	外部：門脚部・体部間継ぎナテ、底部露出部ナテ 内部：露出ナテ	全面露出
48	C-1 B-U-2層	土脚部 坪	定形	部高(2.5) 底径(14.8)	良好	紫褐色	密 石英・白色粒	外部：体部間継ぎナテ、貼付高台 内部：露出ナテ	全面露出
49	A-2 B-U-2層	土脚部 坪	2/3	口深(15.6) 部高：4.4 底径：5.9	良好	褐色	密	外部：門脚部・体部間継ぎナテ、底部露出部ナテ 内部：露出部ナテ	全面露出
50	C-1 B-U-1層	土脚部 坪	14/2 定形	L1層：14.8 部高：7.1 底径：8.9	良好	黄灰色	密	外部：L1層部・体部間継ぎナテ、底部露出部ナテ 内部：L1層部・体部間継ぎナテ、底部露出部ナテ	外周部露出
51	C-1 B-U-2層	土脚部 坪	定形	部高(1.9) 底径(7.3)	良好	褐色・ 紫褐色	密 雲母・石英	外部：ナテ、貼付高台 内部：ナテ	土脚部坪・内 外周部露出
52	C-1 B-U-2層	土脚部 坪	定形	部高(3.3) 底径：8.9	良好	紫褐色	密 雲母・石英	外部：ナテ、貼付高台 内部：ナテ	土脚部坪・内 外周部露出
53	C-1 B-U-2層	土脚部 坪	定形	部高(3.4) 底径(13.6)	良好	褐色	密 白色粒	外部：体部間継ぎナテ、底部露出部ナテ 内部：露出部ナテ	全面露出
54	B-1 B-U-1層	土脚部 坪	定形	部高(1.7) 底径(1.2)	良好	褐色	密 石英・砂粒	外部：ナテ 内部：露出部ナテ	全面露出
55	B-1 B-U-2層	土脚部 坪	定形	口深(14.0) 部高(2.6)	良好	灰色	密	外部：ナテ 内部：露出部ナテ	全面露出
56	C-2 B-U-2層	土脚部 坪	定形	部高(1.7) 底径：3.9	良好	青灰色	密	外部：露出部ナテ、貼付高台 内部：見込露出ナテ	全面露出
57	C-1 B-U-2層	土脚部 坪	定形	部高(2.2) 底径(7.1)	良好	青灰色	密	外部：露出部ナテ、貼付高台 内部：見込露出ナテ	全面露出
58	B-4 B-U-2層	土脚部 坪	定形	部高(7.0)	良好	黄灰色	密 雲母・石英・ 砂粒	外部：露出部ナテ、貼付高台 内部：ヘラケズリ	全面露出
59	B-2 B-U-2層	土脚部 坪	定形	部高(8.0) 底径(6.0)	良好	紫褐色	密 白色粒	外部：露出部ナテ、貼付高台 内部：露出部ナテ	全面露出
60	C-3 B-U-2層	土脚部 坪	定形	部高(0.9)	良好	紫褐色	密 内層石・白色 粒	外部：露出部ナテ、貼付高台 内部：露出部ナテ	全面露出
61	B-4 B-U-2層	土脚部 坪	定形	L1層(23.0) 部高(1.5) 底径(1.5)	良好	灰色	密 白色粒	外部：露出部ナテ、貼付高台 内部：露出部ナテ	全面露出
62	A-1 B-U-2層	土脚部 坪	定形	部高(1.5) 底径(1.4)	良好	灰色	密 白色粒	外部：露出部ナテ、貼付高台 内部：露出部ナテ	全面露出
63	C-2 B-U-2層	土脚部 坪	定形	部高(3.0) 底径(13.0)	良好	青灰色	密 白色粒	外部：露出部ナテ、貼付高台 内部：ナテ	全面露出
64	A-3 B-U-2層	土脚部 坪	定形	部高(3.3) 底径(7.0)	良好	青灰色	密 白色粒・褐色 粒	外部：露出部ナテ、貼付高台 内部：露出部ナテ	全面露出
65	C-1 B-U-2層	土脚部 坪	定形	部高(1.5) 底径(1.4)	良好	青灰色	密 白色粒	外部：露出部ナテ、貼付高台 内部：露出部ナテ	全面露出
66	A-3 B-U-2層	土脚部 坪	1/4	口深(12.5) 部高(6.8) 底径(12.0)	良好	灰色	密 白色粒	外部：L1層部・体部間継ぎナテ、底部露出部ナテ 内部：L1層部・体部間継ぎナテ、底部露出部ナテ	全面露出
67	C-1 B-U-2層	土脚部 坪	1/3	口深(7.0) 部高(3.2)	良好	青灰色	密 白色粒	外部：露出部ナテ、貼付高台 内部：露出部ナテ	全面露出
68	A-3 B-U-2層	土脚部 坪	1/3	口深(11.2) 部高(3.6) 底径(8.0)	良好	紫褐色	密 白色粒	外部：露出部ナテ、貼付高台 内部：露出部ナテ	全面露出
69	B-1 B-U-1層	土脚部 坪	定形	部高：27 底径：24 厚さ：1.2	良好	紫褐色	密 白色粒	外部：露出部ナテ、貼付高台 内部：露出部ナテ	全面露出
70	A-3 B-U-2層	土脚部 坪	定形	部高：25 底径：24 厚さ：1.6	良好	紫褐色	密 白色粒	外部：露出部ナテ、貼付高台 内部：露出部ナテ	全面露出
71	A-4 B-U-2層	土脚部 坪	定形	部高：23 底径：14	良好	青灰色	密	外部：露出部ナテ、貼付高台 内部：露出部ナテ	全面露出

72	A-C-1 Ⅱ-①層	固定部 転用+層	定形	長さ: 22 幅: 22 厚さ: 0.8	良好	灰色	密	一体部転用	重量: 6.3g
73	A-B-C-4 Ⅱ-③層	固定部 転用+層	定形	長さ: 21 幅: 21 厚さ: 0.9	良好	青灰色	密	一体部転用	重量: 7.0g
74	A-2 Ⅱ-①層	固定部 転用+層	定形	長さ: 1.2 幅: 21 厚さ: 0.8	良好	灰色	密	一体部転用	重量: 4.7g
75	C-1 Ⅱ-①層	固定部 転用+層	定形	長さ: 20 幅: 22 厚さ: 0.9	良好	青灰色	密	一体部転用、背面-裏面磨紙	重量: 5.7g
76	A-4 Ⅱ-①層	固定部 転用+層	定形	長さ: 22 幅: 22 厚さ: 1.0	良好	青灰色	密	一体部転用、背面-裏面磨紙	重量: 6.6g
77	C-1 Ⅱ-②層	固定部 転用+層	定形	長さ: 23 幅: 23 厚さ: 0.8	良好	灰色	密	一体部転用、背面-裏面磨紙	重量: 4.5g
78	C-1 Ⅱ-①層	固定部 転用	2/3	口径(17.4) 筒径(13.6) 底径(12.6)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 回転ナブ 内面: 回転ナブ、底部内面ナブ	内面口縁部-外面 裏面自然隆起 外周部ナブ手軸上 段付層
79	C-1 Ⅱ-①層	固定部 転用	1/2	外径(17.2) 筒径(17.2) 底径(11.6)	良好	赤褐色	密 白色粒	外面: 回転ナブ-一体部回転ナブ、底部回転ナブ、貼付両面 内面: 回転ナブ	外面口縁部-外面 自然隆起
80	C-1 Ⅱ-②層	固定部 転用	1層部	口径(10.0) 筒径(9.1)	良	灰色	密 白色粒	外面: 回転ナブ 内面: 回転部回転ナブ、底部ナブ	内面口縁部-外面 自然隆起
81	A-3 Ⅱ-②層	固定部 転用	1層部	口径(11.1) 筒径(8.4)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 回転ナブ、底部ナブ 内面: 回転ナブ	内面口縁部自然隆起
82	A-1 Ⅱ-①層	固定部 転用	層部 鏡片	筒径(1.0)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 回転ナブ、筒部内面ナブ(裏以上) 内面: 回転ナブ	
83	A-2 Ⅱ-②層	固定部 転用	鏡片	筒径(3.5)	良好	灰色	密 白色粒	外面: 回転ナブ、筒部ヘラ状工具による溝状、鏡状工具 による溝状 内面: 回転ナブ	
84	A-3 Ⅱ-②層	固定部 転用	層部 鏡片	筒径(3.5)	良好	灰色	密 白色粒	外面: 回転部、筒部、筒部ヘラナズリ 内面: 回転ナブ	外面自然隆起
85	A-1 Ⅱ-②層	固定部 転用	層部 鏡片	口径(22.3) 筒径(5.6)	良好	灰色	密 白色粒	外面: ロウ回転部、筒部ヘラナズリ 内面: 回転ナブ	内面口縁部-外面 付層
86	B-3 Ⅱ-①層	固定部 転用	2/3	口径(12.7) 筒径(3.4)	良好	水色	密 青・白色 粒・砂粒	外面: 回転ナブ 内面: 回転部回転ナブ、穴部ナブ	
87	B-3 Ⅱ-③層	固定部 転用	2/3	口径(16.8) 筒径(5.4)	不良	青灰色	密 白色粒・砂粒	外面: 回転ナブ 内面: 回転部回転ナブ、穴部ナブ	
88	C-1 Ⅱ-②層	固定部 転用	1/4	口径(12.6) 筒径(1.7)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 回転部回転ナブ、穴部回転ナブ 内面: 回転部回転ナブ、穴部回転ナブ	内面穴部部付層
89	A-3 Ⅱ-③層	固定部 転用	定形	口径(11.8) 筒径(5.6)	良好	青灰色	密 青・白色 粒	外面: 口縁部-一体部回転ナブ、底部回転ナズリ 内面: 口縁部-一体部回転ナブ、底部ナブ	
90	B-1 Ⅱ-①層	固定部 転用	1/2	口径(12.0) 筒径(4.2) 底径(6.4)	良好	古灰色	密 青・白色 粒	外面: 口縁部-一体部回転ナブ、底部回転ナズリ 内面: 口縁部-一体部回転ナブ、底部ナブ	
91	B-1 Ⅱ-②層	固定部 転用	5/8	口径(12.6) 筒径(4.2) 底径(6.4)	良好	青灰色-赤 褐色	密 白色粒	外面: 口縁部-一体部回転ナブ、筒部ナブヘラナズリ、底部 回転ナズリ 内面: 口縁部-一体部回転ナブ、底部ナブ	
92	A-1 Ⅱ-②層	固定部 転用	1/4	口径(12.3) 筒径(4.2) 底径(8.5)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 口縁部-一体部回転ナブ、底部回転ナズリ 内面: 口縁部-一体部回転ナブ、底部ナブ	
93	B-2 Ⅱ-②層	固定部 転用	定形	口径(11.1) 筒径(5.0) 底径(7.4)	良好	青灰色	密 青・白色 粒・砂粒	外面: 口縁部-一体部回転ナブ、底部回転ナズリ 内面: 口縁部-一体部回転ナブ、底部ナブ	
94	B-2 Ⅱ-③層	固定部 転用	1/2	口径(13.2) 筒径(4.5) 底径(9.2)	良好	青灰色	密 白色粒・黒色 粒	外面: 口縁部-一体部回転ナブ、底部回転ナズリ 内面: 口縁部-一体部回転ナブ、底部ナブ	
95	A-3 Ⅱ-③層	固定部 転用	1/2	口径(11.6) 筒径(3.8) 底径(8.2)	良	青灰色	密 白色粒	外面: 口縁部-一体部回転ナブ、底部回転ナズリ 内面: 口縁部-一体部回転ナブ、底部ナブ	
96	C-1 Ⅱ-②層	固定部 転用	1/2	口径(10.2) 筒径(3.9) 底径(7.2)	良好	青灰色	密 青・白色 粒	外面: 口縁部-一体部回転ナブ、底部回転ナズリ 内面: 口縁部-一体部回転ナブ、底部ナブ	
97	C-1 Ⅱ-③層	固定部 転用	1/2	口径(11.2) 筒径(4.1) 底径(7.6)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 口縁部-一体部回転ナブ、底部回転ナズリ 内面: 口縁部-一体部回転ナブ、底部ナブ	
98	B-2 Ⅱ-③層	固定部 転用	2/3	口径(14.1) 筒径(5.4) 底径(10.6)	良好	青灰色	密	外面: 口縁部-一体部回転ナブ、底部回転ナズリ 内面: 口縁部-一体部回転ナブ、底部ナブ	
99	B-2 Ⅱ-④層	固定部 転用	1/4	口径(13.3) 筒径(4.2) 底径(10.2)	良好	青灰色	密 白色粒・黒色 粒	外面: 口縁部-一体部回転ナブ、筒部ナブヘラナズリ、底部 回転ナズリ 内面: 口縁部-一体部回転ナブ、底部磨面	
100	A-1-C-2 Ⅱ-①層	固定部 転用	1/2	口径(11.2) 筒径(3.9) 底径(8.2)	良好	赤褐色	密 青・白色 粒	外面: 口縁部-一体部回転ナブ、底部回転ナズリ、貼付両面 内面: 口縁部-一体部回転ナブ、底部ナブ	内外口縁部-高台 外周部付層
101	A-4 Ⅱ-①層	固定部 転用	2/3	口径(15.2) 筒径(6.6) 底径(9.0)	良好	青灰色	密	外面: 口縁部-一体部回転ナブ、底部回転ナズリ、貼付両面 内面: 口縁部-一体部回転ナブ、底部ナブ	
102	C-1 Ⅱ-②層	固定部 転用	1/2	口径(11.4) 筒径(4.5) 底径(6.3)	良	青灰色	密	外面: 口縁部-一体部回転ナブ、底部回転ナズリ 内面: 口縁部-一体部回転ナブ、底部ナブ	内面-断面付層
103	B-2 Ⅱ-②層	固定部 転用	定形	口径(12.4) 筒径(4.8) 底径(7.7)	良	灰色	密	外面: 口縁部-一体部回転ナブ、底部回転ナズリ、貼付両面 内面: 口縁部-一体部回転ナブ、底部ナブ	

104	A-3 Ⅲ-②層	須磨部 重板石版	2/3	口縁(17.6) 器底: 3.5 底径(12.2)	良好	青灰色	黄 白色粒	外面: 口縁部-体部磁化ナガ。底部磁化未切り。貼付高台 内面: 口縁部-体部磁化ナガ。底部磁化	内外面口縁部磁化付 有
105	B-2 Ⅲ-②層	須磨部 皿	1/3	口縁(18.2) 器底: 3.7 底径: 12.6	良	灰色	黄 白色粒	外面: 口縁部-体部磁化ナガ。底部磁化未切り。貼付高台 内面: 磁化ナガ	内外面口縁部磁化付 有
106	C-1 Ⅲ-①層	須磨部 坏輪片	高部 磁片	器高(1.3) 底径(11.3)	良好	褐色	黄 白色粒	外面: 体部磁化ナガ。高部磁化未切り 内面: 体部磁化ナガ。磁化ナガ	内面全体未磁化付 有
107	C-4 Ⅲ-②層	須磨部 坏	1/4	器高(2.7) 底径(8.5)	良好	青灰色	黄 白色粒	外面: 体部磁化ナガ。高部磁化未切り 内面: 体部磁化ナガ。磁化ナガ	内面磁化部付 有
108	C-1 Ⅲ-①層	須磨部 坏輪片	1/3	口縁(12.2) 器高(4.2) 底径(8.6)	良好	黄灰色	黄 白色粒	外面: 口縁部-体部磁化ナガ。底部磁化未切り。貼付高台 内面: 口縁部-体部磁化ナガ。底部磁化	内外面口縁部磁化付 有
109	B-1 Ⅲ-①層	須磨部 磁板片	底部	器高(1.9) 底径: 10.9	良好	緑灰色	黄 白色粒	外面: 体部磁化ナガ。底部磁化未切り。貼付高台 内面: 磁化部	内面磁化部付 有
110	B-2 Ⅲ-①層	新平記	1/2	器高(15.7) 底径(13.5) 底径: 4.0	やや良	灰褐色	やや黄 白色粒	外面: 柄子口上具による印き目 器底: 黄白状坏片。磁化未 切り部二重痕文。薄部ナガ	二重痕成 有
114	B-2 Ⅲ-②層	石版	磁片	器高(31)	—	—	—	外面: 一 内面: 磁化	粘土質 片層状磁化付 有

第197表 4区弥生時代～古代包層出土金属製品観察表(第418図)

遺物 №	遺物・地区 出土層位	種類	部位 地位半	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	その他計測値			重量(g)	備考
								磁厚度 3	メタル度 検定(△)	ランク 3		
111	A-2 Ⅲ-②層	黄金具 高力	1/2	鋼	25	22	(5)				2.1	銅鋼4個
112	B-1 Ⅲ-②層	鏃	刀部	鉄	65	30	3	磁厚度 3	メタル度 検定(△)	ランク 3	22.9	
113	C-1 Ⅲ-②層	鉄線-人形 線状不明品	鉄線	鉄	全長(90)	刀部:22	刀部:2	磁厚度 4	メタル度 検定(C)	ランク 5	61.3	
					重部(41)	重部:3	重部:3					
					153	8	7					
					153	7	5					

第198表 4区弥生時代～古代包層出土石器・石製品観察表(第419・420図)

遺物 №	遺物・地区 出土層位	種類	遺存状態	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石 材	備 考
115	A-2 Ⅲ-②層	磨石	1/2	(51)	(30)	24	28.2	凝灰岩	
116	B-1 Ⅲ-①層	石鏃	ほぼ完形	(18)	15	3	6.0	ラモサイト	刃部欠損
117	C-1 Ⅲ-②層	磨石片	1/4	(63)	(54)	(13)	32.2	緑泥片岩	刃部角74度
118	A-2 Ⅲ-②層	磨石片	破片	(39)	(56)	(15)	33.8	閃輝綠	刃部角90度
119	A-1 Ⅲ-②層	磨石片	破片	(43)	(31)	(11)	18.0	閃輝綠	刃部角105度
120	B-2 Ⅲ-②層	磨石	1/2	(11)	(20)	18	21.4	凝灰岩	
121	A-1 Ⅲ-①層	磨石	破片	(58)	32	25	47.2	砂岩	商業採掘後
122	B-1 Ⅲ-①層	磨石	ほぼ完形	113	34	29	100.4	凝灰岩	仕上げ
123	A-1 Ⅲ-①層	磨石	ほぼ完形	83	37	29	89.7	凝灰岩	磨石
124	C-1 Ⅲ-②層	磨石	破片	(62)	(48)	(4)	128.1	花崗岩	
125	C-1 Ⅲ-①層	磨石	破片	(52)	(48)	(44)	119.3	凝灰岩	
126	C-2 Ⅲ-②層	磨石	破片	(60)	(49)	(4)	165.1	花崗岩	
127	A-3 Ⅲ-②層	磨石	1/2	(112)	105	75	1109.3	花崗岩	
128	A-3 Ⅲ-②層	磨石	1/2	(108)	(85)	(50)	261.0	凝灰岩	
129	A-3 Ⅲ-②層	磨石	1/3	(110)	(87)	(70)	664.2	花崗岩	表面に磨打痕
130	A-2 Ⅲ-②層	磨石	ほぼ完形	49	40	29	7.3	凝灰岩	
131	C-2 Ⅲ-②層	穿孔石鏃	完形	66	33	30	70.4	砂岩	孔径5mm
132	B-3 Ⅲ-②層	磨石・凹石	ほぼ完形	117	(86)	39	520.3	デイヤイト	
133	B-3 Ⅲ-②層	磨石・凹石	完形	119	100	45	756.8	デイヤイト	
134	C-2 Ⅲ-②層	ハンマーストーン	完形	132	63	54	284.4	角閃石安山岩	
135	C-2 Ⅲ-②層	ハンマーストーン	完形	120	60	56	535.2	角閃石安山岩	





29	C-2 II-①	土師器 土師器	2/3	口径(132) 器高(165) 胴径(175)	良	褐色	密 麻布・砂粒	外周：口縁部隆ナク、肩部以下縦溝ハケム、肩部隆状工具による痕状文 内周：口縁部隆ナク、肩部以下横溝ナク、肩部以下縦溝一横ヘラケズリ	内周底部・外周部付着
30	B-3 II-①	土師器 土師器	1/2	口径(152) 器高(221) 胴径(218)	良	褐色	密 雲母・石灰 白色砂・砂粒	外周：口縁部・肩部隆ナク、肩部隆状工具による痕状文、肩部隆ハケム 内周：口縁部隆ナク、体部縦溝ハケム	内周面腐付着
31	D-2 II-①	土師器 土師器	口縁・作部	口径(150) 器高(178) 胴径(206)	良	褐色	角閃石・雲母・石英・白色粒	外周：口縁部・肩部隆ナク、肩部隆ハケム 内周：口縁部隆ナク、体部縦溝一横ヘラケズリ	外周炭化物・腐付着
32	D-2 II-①	土師器 土師器	ほぼ球形	口径(146) 器高(221) 胴径(197)	良	灰褐色	密 雲母・石灰・白色粒	外周：口縁部隆ナク、肩部以下縦溝ハケム、肩部隆状工具による痕状文 内周：口縁部隆ナク、体部縦溝ハケム、体部以下横溝一横ヘラケズリ	外周腐付着
33	A-3 II-①	土師器 土師器	ほぼ球形	口径(34) 器高(47) 胴径(418) 底径(80)	良	灰褐色	密 雲母・石灰・白色砂・砂粒	外周：口縁部隆ナク、体部縦溝ハケム 内周：口縁部隆ナク、体部縦溝ハケズリ、底部縦溝一横	外周口縁部・外周上半部付着
34	D-1 II-①	土師器 土師器	口縁・作部	口径(143) 器高(225) 胴径(273)	良	灰褐色	密 雲母・石灰	外周：口縁部隆ナク、体部縦溝ハケム 内周：口縁部隆ナク、体部縦溝ハケズリ、体部以下横溝一横ヘラケズリ	外周底部以下腐付着
35	D-1 II-①	土師器 土師器	口縁・作部	口径(156) 器高(225) 胴径(230)	良	褐色	角閃石・雲母・石英	外周：口縁部隆ナク、体部縦溝ハケム 内周：口縁部隆ナク、体部縦溝ハケズリ、体部以下横溝一横ヘラケズリ	底部 外周炭化物・腐付着
36	H-3 II-①	土師器 土師器	口縁・作部	口径(160) 器高(158) 胴径(199)	良	灰褐色	密 雲母・石灰・砂粒	外周：口縁部隆ナク、体部縦溝ハケム、肩部隆状工具による痕状文 内周：口縁部隆ナク、体部縦溝ハケズリ	外周口縁部・外周上半部付着
37	A-C-2 II-①	土師器 土師器	1/3	口径(157) 器高(184) 胴径(210)	良	褐色	密 石灰・白色粒	外周：口縁部隆ナク、体部縦溝ハケム 内周：口縁部隆ナク、体部縦溝ハケズリ	内周面腐付着
38	D-1 II-①	土師器 土師器	口縁・作部	口径(152) 器高(232) 胴径(93)	良	褐色	密 石英・雲母	外周：口縁部・肩部隆ナク、肩部隆状工具による列点文 内周：口縁部隆ナク、肩部隆ヘラケズリ	外周炭化物・腐付着
39	B-1 II-①	土師器 土師器	口縁・作部	口径(139) 器高(81) 胴径(146)	良好	褐色	密 角閃石・石英	外周：口縁部隆状工具による痕状文、肩部隆ナク、肩部隆状工具による痕状文、体部縦溝ハケム 内周：口縁部隆ナク、体部縦溝ハケズリ	外周炭化物・腐付着
40	D-1 II-①	土師器 土師器	口縁・作部	口径(73) 器高(42)	良	灰褐色	密 石灰・白色粒	外周：口縁部隆状工具による痕状文、肩部隆ヘラケム 内周：口縁部隆ナク、体部縦溝ハケズリ	外周一部炭化物付着
41	D-1 II-①	土師器 土師器	口縁部・作部	口径(74) 器高(74)	良好	黄白色	密 角閃石・雲母・石英	外周：口縁部隆状工具による痕状文、肩部隆ヘラケム 内周：口縁部隆ナク、体部縦溝ハケズリ	外周炭化物・腐付着
42	A-B-4 II-①	土師器 土師器	口縁・作部	口径(182) 器高(98)	良	褐色	密 麻布・石英・砂粒	外周：口縁部隆ナク、肩部隆ハケム 内周：口縁部隆ナク、肩部隆ヘラケム、体部以下横溝ヘラケズリ	内周面腐付着
43	C-3 II-①	土師器 土師器	1/2	口径(162) 器高(100)	良	褐色	密 雲母・石灰・白色粒	外周：口縁部隆ナク、肩部隆状工具による痕状文・痕状文、体部縦溝ハケム 内周：口縁部隆ナク、体部縦溝ハケズリ	外周腐付着
44	D-2 II-①	土師器 土師器	口縁・作部	口径(146) 器高(181) 胴径(204)	良	灰褐色	密 雲母・石英・白色粒	外周：口縁部隆ナク、肩部隆状工具による痕状文、肩部隆ハケム 内周：口縁部隆ナク、体部縦溝ハケズリ、体部以下横溝一横ヘラケズリ	底部 外周炭化物・腐付着
45	C-2 II-①	土師器 土師器	口縁・作部	口径(148) 器高(151) 胴径(190)	良	褐色	密 雲母・石英・砂粒	外周：口縁部隆ナク、肩部以下縦溝ハケム、肩部隆状工具による痕状文 内周：口縁部隆ナク、体部縦溝ハケム	外周炭化物・腐付着
46	A-3 II-①	土師器 土師器	口縁・作部	口径(152) 器高(75)	良	褐色	密 雲母・石英・白色粒	外周：口縁部隆ナク、肩部隆ハケム 内周：口縁部隆ナク、肩部隆ヘラケム、体部以下横溝ハケズリ	外周口縁部・外周上半部付着
47	B-3 II-①	土師器 土師器	2/3	口径(181) 器高(187) 胴径(191)	良	灰褐色	密 雲母・石灰・砂粒	外周：口縁部隆ナク、肩部隆ハケム 内周：口縁部隆ナク、肩部隆以下横溝一横ヘラケズリ	外周底部腐付着
48	A-3 II-①	土師器 土師器	口縁・作部	口径(122) 器高(94)	良	灰白色	密 白色砂・砂粒	外周：口縁部隆ナク、肩部以下縦溝ハケム 内周：口縁部隆ナク、肩部隆以下横溝一横ヘラケズリ	内周面腐付着
49	D-2 II-①	土師器 土師器	口縁・作部	口径(124) 器高(109) 胴径(159)	良	灰褐色	密 石灰・砂粒	外周：口縁部隆ナク、肩部隆状工具による痕状文・具痕跡による列点文4個以上、体部縦溝ハケム 内周：口縁部隆ナク、体部縦溝ハケズリ	外周腐付着
50	A-3 II-①	土師器 土師器	口縁・作部	口径(128) 器高(98)	良	褐色	密 雲母・石英・砂粒	外周：口縁部・肩部隆ナク、肩部隆ハケム 内周：口縁部隆状工具による痕状文、体部縦溝ハケム	内周口縁部・外周口縁部付着
51	C-2 II-①	土師器 土師器	口縁・作部	口径(148) 器高(101)	良	褐色	密 白色粒	外周：口縁部隆ナク、体部縦溝ハケム 内周：口縁部隆ナク、体部縦溝ハケズリ	内周口縁部・外周口縁部付着
52	D-2 II-①	土師器 土師器	口縁・作部	口径(150) 器高(90)	良好	黄白色	密 石英	外周：口縁部隆ナク、肩部隆ハケム 内周：口縁部隆ナク、体部縦溝ハケズリ	外周炭化物・腐付着
53	H-3 II-①	土師器 土師器	口縁・作部	口径(148) 器高(96)	良好	灰褐色	密 角閃石・石英・白色粒	外周：口縁部隆ナク、肩部隆状工具による列点文、体部縦溝ハケム 内周：口縁部隆ナク、肩部隆以下横溝一横ヘラケズリ	外周底部腐付着
54	D-1 II-①	土師器 土師器	口縁・作部	口径(155) 器高(109)	良	灰白色	密 雲母・石灰・砂粒	外周：口縁部隆ナク、肩部隆ハケム、肩部隆状工具による痕状文、体部縦溝ハケム 内周：口縁部隆ナク、肩部隆以下横溝ハケズリ	内周面腐付着
55	D-3 II-①	土師器 土師器	口縁・作部	口径(154) 器高(103)	良	灰褐色	密 雲母・石灰・白色粒	外周：口縁部隆ナク、肩部隆ハケム 内周：口縁部隆ナク、体部縦溝一横ヘラケズリ	外周腐付着
56	B-3 II-①	土師器 土師器	口縁・作部	口径(160) 器高(107)	良	褐色	密 雲母・石灰	外周：口縁部隆ナク、体部縦溝ハケム 内周：口縁部隆ナク、体部縦溝一横ヘラケズリ	外周炭化物・腐付着
57	D-2 II-①	土師器 土師器	口縁・作部	口径(149) 器高(124) 胴径(212)	良	灰褐色	密 雲母・石英	外周：口縁部隆ナク、肩部隆状工具による列点文、体部縦溝ハケム 内周：口縁部隆ナク、体部縦溝ハケズリ	外周炭化物・腐付着

58	D-2 E-①層	土留壁 支	門壁-体 部1/4	口径(140) 器高(100)	良	灰褐色	密 雲母・石英	外面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	
59	B-3 E-②層	土留壁 小型丸底出	完形	口径(100) 器高(95) 胴径(11.6)	良	褐色	密 雲母・石英 雲母・石英	外面：口部被覆ハケメナシ、扉部被覆ハケメ 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	内面被覆付着
60	D-1 E-①層	土留壁 小型丸底出	1/4	口径(94) 器高(69) 胴径(9.2)	良	灰褐色	密 雲母・石英	外面：横ナシ 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメナシ	
61	A-3 E-①層	土留壁 小型丸底出	門壁-同 部1/4	口径(90) 器高(58)	良	黄白色	密 白色石英・砂粒	外面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	
62	A-3 E-①層	土留壁 小型丸底出	門壁-体 部1/4	口径(88) 器高(32) 胴径(9.4)	良	黄白色	密 雲母・砂粒	外面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	
63	B-1 E-①層	土留壁 小型丸底出	門壁-扉 部1/4	口径(70) 器高(34)	良	灰褐色	密 石英・白色砂	外面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	
64	C-3 E-①層	土留壁 支	扉部	器高(40) 胴径(15.7)	良	灰褐色	密 雲母・白色砂	外面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	内面被覆付着
65	B-1 E-①層	土留壁 小型丸底出	門壁部- 体部1/3	口径(26.7) 器高(12.5)	良	褐色	密 黄褐色・白色砂	外面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	内面被覆付着
66	B-2 E-①層	土留壁 小型丸底出	花手部	幅：22 厚：20	良	灰褐色	密	上面：両面被覆ナシ、爪部被覆ハケメ一層以上点による被覆 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	内面被覆付着
67	C-1 E-①層	土留壁 小型丸底出	口部	口径(17) 口高(5.3)	良	褐色	密 砂粒	外面：長軸方向のヘラミダキ	
68	D-2 E-①層	土留壁 支	扉部	器高(65) 胴径(11.3)	良	褐色	密 雲母・石英・砂粒	外面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	内面被覆付着
69	D-1 E-①層	土留壁 支	扉部	器高(33) 胴径(3.3)	良	黒褐色	密 雲母・石英・砂粒	外面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	内面被覆付着
70	A-3 E-①層	土留壁 小型丸底出	1/3	口径(79) 胴径(11.0)	良	黄褐色・褐色	密 雲母・石英・砂粒	外面：横ナシ 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	
71	B-3 E-①層	土留壁 支	1/2	口径(104) 器高(11.6)	やや良	褐色	密 雲母・石英・白色砂	外面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	内面被覆付着
72	B-2 E-①層	土留壁 支	門壁-同 部1/4	口径(110) 器高(53)	良	褐色	密 雲母・石英・砂粒	外面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	内面被覆付着
73	B-3 E-①層	土留壁 支	口部-体 部1/3	口径(134) 器高(9.8)	良	黄褐色	密 雲母・石英・白色砂	外面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	内面被覆付着
74	B-1 E-①層	土留壁 支	口部-体 部1/4	口径(134) 器高(7.9)	良好	褐色	密 雲母・石英・白色砂	外面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	内面被覆付着
75	B-1 E-①層	土留壁 支	口部-体 部1/3	口径(116) 器高(7.5)	良	褐色	密 雲母・石英・白色砂	外面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	内面被覆付着
76	D-3 E-①層	土留壁 支	門壁-同 部1/3	口径(144) 器高(14.9)	良好	赤褐色	密 石英・白色砂・砂粒	外面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	内面被覆付着
77	B-3 E-①層	土留壁 支	門壁-体 部1/3	口径(137) 器高(8.7)	良	褐色・黄褐色 白色	密 雲母・石英・白色砂・砂粒	外面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	内面被覆付着
78	A-1 E-①層	土留壁 支	口部-体 部1/3	口径(116) 器高(7.5)	良	黄褐色	密 雲母・石英・砂粒	外面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	内面被覆付着
79	B-3 E-①層	土留壁 支	口部部 1/3	口径(251) 器高(7.7)	良	褐色	密 雲母・白色砂	外面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	
80	B-1 E-①層	土留壁 支	口部-体 部1/4	口径(156) 器高(8.4)	良	赤褐色	密 雲母・石英・白色砂	外面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	内面被覆付着
81	A-2 E-①層	土留壁 支	口部-体 部1/4	口径(26.3) 器高(13.0)	良	褐色	密 雲母・石英・白色砂	外面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	
82	B-4 E-①層	土留壁 支	口部-体 部1/4	口径(153) 器高(12.3)	良	灰褐色	密 雲母・石英・白色砂	外面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	内面被覆付着
83	D-3 E-①層	土留壁 支	口部-体 部1/4	口径(252) 器高(14.5) 胴径(9.1)	良	褐色	密 黄褐色・雲母・白色砂	外面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	内面被覆付着
84	B-1 E-①層	土留壁 小型丸底出	口部部 1/3	口径(86) 器高(3.0)	良	褐色	密 石英・白色砂	外面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	
85	B-3 E-①層	土留壁 小型丸底出	扉部	器高(47) 胴径(7.0)	良好	黄褐色	密 黄褐色・雲母・石英・白色砂	外面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	
86	C-2 E-①層	土留壁 支	口部部 1/3	口径(101) 器高(4.2)	良	黄褐色	密 雲母・石英・白色砂	外面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	内面被覆付着
87	B-1 E-①層	土留壁 支	口部部 1/3	口径(222) 器高(12.8)	やや良	褐色	密 黄褐色・白色砂	外面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	内面被覆付着
88	D-2 E-①層	土留壁 支	1/6	口径(178) 器高(7.2) 胴径(7.8)	良	褐色	密 石英・白色砂	外面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	内面被覆付着
89	C-3 E-①層	土留壁 支	扉部-底 部	器高(48) 胴径(7.2)	良	黄褐色・褐色	密	外面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆 内面：口部被覆ナシ、扉部被覆ハケメ一層以上点による被覆	内面被覆付着

90	D-1 Ⅱ-①層	土留部 高坪	5/8	LH#21.8 部高:14.1 底径:12.6	良	黄灰色	密 黄砂・石膏・ 砂粒	外面: 環状壁ヘラミダキ、環状部→節間壁ハケメ 内面: 環状壁ヘラミダキ、節間壁ヘラミダキ	
91	B-2 Ⅱ-②層	土留部 高坪	環状部 高坪	LH#22.4 部高(13.6)	良	灰褐色	密 黄砂・石膏・ 白色粒	外面: 口縁部→節間壁ナダ、環状壁ヘラミダキ、環状部→節 間壁ハケメ 内面: 環状壁→ヘラミダキ、節間壁ヘラミダキ、節 間壁ハケメ 接合部引張充填法	
92	A-3 Ⅱ-③層	土留部 高坪	1/3径形	口径:17.3 部高:12.2 底径: 9.5	良	暗褐色	密 黄砂・石膏・ 砂粒	外面: 外周壁ヘラミダキ、接合部ハケメ、節間壁ヘラミ ダキ→ヘラミダキ 内面: 環状壁→ヘラミダキ、節間壁ヘラミダキ、節 間壁ナダ 接合部引張充填法	
93	A-3 Ⅱ-④層	土留部 高坪	環状部 高坪	口径(31.0) 部高(14.1)	良	灰褐色	密 黄砂・白色粒	外面: 口縁部→節間壁ナダ、環状壁ヘラミダキ、接合部ハケ メ、節間壁ヘラミダキ 内面: 環状壁→ヘラミダキ、節間壁ヘラミダキ、節 間壁ハケメ	
94	D-2 Ⅱ-⑤層	土留部 高坪	5/8	口径(17.4) 部高:10.5 底径(13.0)	やや良	黄灰色	やや中 密砂・石膏・ 砂粒	外面: 環状壁ヘラミダキ、環状部→節間壁ハケメ 内面: 外周壁→ヘラミダキ、節間壁ヘラミダキ、節 間壁ナダ 接合部引張充填法	
95	B-3 Ⅱ-⑥層	土留部 高坪	1/3径形	口径:10.0 部高: 9.7 底径:14.0	良	灰褐色	密 黄砂・石膏 (φ5mm)・ 砂粒	外面: 環状壁→ヘラミダキ 内面: 外周壁→ヘラミダキ、節間壁ヘラミダキ、節 間壁ハケメ 接合部引張充填法	
96	C-2 Ⅱ-⑦層	土留部 高坪	環状部 高坪	口径(23.4) 部高( 5.8)	良	灰褐色	密砂・石膏 (φ5mm)・ 砂粒	外面: 口縁部→節間壁ナダ、環状壁ヘラミダキ 内面: 外周壁→ヘラミダキ 接合部引張充填法	外周壁部一部保 存
97	C-4 Ⅱ-⑧層	土留部 高坪	環状部 高坪	口径(16.1) 部高( 5.7)	良	暗褐色	密 黄砂・白色粒	外面: 口縁部→節間壁ナダ、外周壁ヘラミダキ 内面: 外周壁→ヘラミダキ、節間壁ヘラミダキ 接合部引張充填法	内外面被熱処理
98	B-2 Ⅱ-⑨層	土留部 高坪	環状部 高坪	口径(17.2) 部高( 5.9)	良	灰褐色	密 黄砂・白色粒	外面: 口縁部→節間壁ナダ、環状壁ヘラミダキ、環状部ハケ メ→ヘラミダキ 内面: 環状壁→ヘラミダキ 接合部引張充填法	
99	D-2 Ⅱ-⑩層	土留部 高坪	5/8	口径(11.8) 部高(4.8)	良	暗褐色	密砂・石膏 砂粒	外面: 環状壁ヘラミダキ→ヘラミダキ 内面: 外周壁→ヘラミダキ 接合部引張充填法	
100	C-3 Ⅱ-⑪層	土留部 高坪	環状部 高坪	部高( 7.1) 部高( 21.6)	良	褐色	やや中 密砂・石膏・ 砂粒少量	外面: 環状壁→ヘラミダキ 内面: 外周壁→ヘラミダキ、環状部ヘラミダキ 接合部引張充填法	ブランデーグラス 形 内外面被熱処理
101	B-3 Ⅱ-⑫層	土留部 高坪	節間 壁	部高( 8.6) 底径:12.4	良	褐色	密 黄砂・砂粒	外面: 節間壁ハケメ→ヘラミダキ→ヘラミダキ 内面: 外周壁→ヘラミダキ、節間壁ヘラミダキ 接合部引張充填法	
102	A-3 Ⅱ-⑬層	土留部 高坪	節間 壁	部高( 9.3) 底径(14.1)	良	褐色	密	外面: 環状壁ヘラミダキ 内面: 節間壁ヘラミダキ、節間壁ハケメ	外周壁部保存
103	A-3 Ⅱ-⑭層	土留部 高坪	2/3	口径(15.6) 部高: 7.7 底径:15.4	良	黄灰色	密 黄砂・石膏	外面: 環状壁ヘラミダキ 内面: 環状壁ヘラミダキ→ヘラミダキ、節間壁ナダ	内外面被熱処理
104	D-2 Ⅱ-⑮層	土留部 高坪	2/3	口径(15.4) 部高: 6.9 底径( 6.4)	良	灰褐色	密 黄砂・石膏・ 砂粒	外面: 口縁部→節間壁ナダ、環状壁ハケメ、環状部以下 内面: 環状壁ヘラミダキ、節間壁ナダ	
105	C-2 Ⅱ-⑯層	土留部 高坪	5/8	口径(15.8) 部高( 8.2)	良	褐色	密砂・石膏・ 砂粒	外面: 口縁部→節間壁ナダ、環状壁部→節間壁ハケメ、節間 壁ヘラミダキ 内面: 環状壁→ヘラミダキ、節間壁ナダ	節 間壁被熱処理
106	A-3 Ⅱ-⑰層	土留部 高坪	1/3径形	口径:13.2 部高: 4.8 底径: 5.2	良	暗褐色	密 黄砂・石膏・ 白色粒	外面: 環状壁ヘラミダキ、外周壁以下 内面: 外周壁→ヘラミダキ、節間壁ナダ	
107	A-3 Ⅱ-⑱層	土留部 高坪	1/3径形	LH#14.1 部高: 4.3 底径( 4.4)	良	黄灰色	密 石膏・砂粒	外面: 外周壁→ヘラミダキ、節間壁ナダ 内面: 環状壁ヘラミダキ、節間壁ナダ	
108	A-3 Ⅱ-⑲層	土留部 高坪	2/3	LH#13.4 部高: 4.1 底径: 4.2	良	暗褐色	密 黄砂・石膏・ 砂粒	外面: 外周壁ヘラミダキ→ヘラミダキ、節間壁ナダ 内面: 環状壁ヘラミダキ、節間壁ナダ	
109	D-3 Ⅱ-⑳層	土留部 高坪	1/3	口径(12.6) 部高: 5.4 底径( 5.5)	良	褐色	密 黄砂・石膏・ 砂粒	外面: 環状部→節間壁ヘラミダキ、節間壁ナダ 内面: 環状壁ヘラミダキ、節間壁ナダ	
110	A-1 Ⅱ-㉑層	土留部 高坪	節間 壁	部高( 6.5) 底径( 7.4)	良	暗褐色	密 黄砂・石膏	外面: 節間壁部→節間壁ヘラミダキ 内面: 環状壁ヘラミダキ、節間壁ナダ→ヘラミダキ	内外面被熱処理
111	B-2 Ⅱ-㉒層	土留部 高坪	環状部 高坪	部高( 20) 部高( 20)	良	黄灰色	密 石膏	外面: 外周壁→ヘラミダキ、節間壁ナダ 内面: 環状壁ヘラミダキ、節間壁ナダ 節間壁ナダ引張	内外面被熱処理
112	B-3-C-1 Ⅱ-㉓層	土留部 高坪	2/3	口径(10.3) 部高: 7.8 底径(17.8)	良	灰褐色	密 黄砂・石膏・ 白色粒	外面: 外周壁→ヘラミダキ、節間壁ハケメ→ヘラミダキ 内面: 環状壁ヘラミダキ、節間壁ヘラミダキ、節間壁 ナダ 節間壁ナダ引張	
113	C-D-4 Ⅱ-㉔層	土留部 高坪	2/3	口径(18.7) 部高: 9.2 底径:16.4	良	暗褐色	密 黄砂・石膏・ 白色粒	外面: 口縁部→節間壁ナダ、接合部→節間壁ヘラミダキ 内面: 外周壁→ヘラミダキ、節間壁ヘラミダキ 節間壁ナダ引張	
114	B-3 Ⅱ-㉕層	土留部 高坪	1/3径形	LH#11.6 部高:11.6 底径:18.7	良	灰褐色	密 黄砂・石膏・ 砂粒	外面: 環状部 内面: 外周壁→ヘラミダキ、節間壁ヘラミダキ	外周壁部ヘラミ ダキ被熱処理
115	A-3 Ⅱ-㉖層	土留部 高坪	2/3	LH#(16.8) 部高: 9.7 底径(14.6)	良	暗褐色	密 黄砂・石膏・ 白色粒	外面: 環状部 内面: 外周壁→ヘラミダキ、節間壁ナダ、節間壁ヘラミ ダキ	
116	A-3 Ⅱ-㉗層	土留部 高坪	1/3	口径(15.4) 部高: 9.8 底径(13.8)	良	暗褐色	密砂・石膏・ 白色粒・砂粒	外面: 外周壁→ヘラミダキ、節間壁ナダ 内面: 外周壁→ヘラミダキ、節間壁ヘラミダキ 節間壁ナダ引張	
117	C-1 Ⅱ-㉘層	土留部 高坪	1/4	口径(17.6) 部高: 9.8 底径(17.2)	良好	暗褐色	密 石膏・白色粒	外面: 外周壁→ヘラミダキ、節間壁ナダ 内面: 外周壁→ヘラミダキ、節間壁ヘラミダキ、節間壁 ナダ	外周壁部ヘラミ ダキ被熱処理

118	D 4 II-②層	十部器 靴形部台	2/3	円径:16.1 高さ:9.6 総重:147	良	褐色	密 黄・石灰・ 白色粉・砂粒	外面:織ナゲ 内面:受器側へラミガキ、脚部側へラケズリ
119	B-3 II-②層	土器器 筒形部台	1/3	円径:16.7 高さ:10.4 総重:15.3	良	褐色	密 密粒・石灰・ 砂粒	内面:口縁部側・胴部側横ナゲ、底部・脚部側・縦へラミガキ 内面:受器側へラミガキ、接合部ナゲ、脚部側へラケズリ
120	A-3 II-②層	土器器 筒形部台	1/2	高さ:8.5 総重:15.0	良	黄褐色	密 密粒・石灰・ 砂粒	外面:受器側横へラミガキ、接合部横ナゲ 内面:受器側へラミガキ、脚部側へラケズリ
121	B-3 II-③層	土器器 筒形部台	筒形部 内面	円径:6.8 高さ:19.0	良	黄灰白色	密 密粒・石灰・ 砂粒	外面:織ナゲ 内面:受器側へラミガキ、接合部ナゲ、脚部側へラケズリ
122	C 2 II-②層	土器器 靴形部台	筒形部 内面	円径:4.9 高さ:18.6	良	黄灰白色	密 密粒・石灰・ 砂粒	外面:織ナゲ 内面:脚部側へラケズリ、脚部下方横ナゲ
123	D-1 II-②層	土器器 靴形部台	筒形部 内面	円径:5.9 高さ:20.4	良	褐色	密 密粒・砂粒	内面:織ナゲ、脚部側へラケズリ具脚部による約点文(6個) 内面:織ナゲナゲ
124	D-4 II-②層	土器器 小型部台	2/3	円径:6.0 高さ:5.0 総重:6.2	良	黄褐色	密 密粒・石灰・ 白色粒	外面:口縁部側・胴部側横ナゲ、底部・脚部側・縦へラミガキ 内面:受器側へラミガキ、接合部ナゲ、脚部側へラケズリ
125	B-3 II-③層	土器器 小型部台	外部・脚部 内面	円径:8.4 高さ:4.7	良	黄灰白色	密 密粒・石灰・ 白色粒	外面:縦へラミガキ 内面:受器側へラミガキ、接合部以下縦へラミガキ 接合部受器側から穿孔
126	C-1 II-②層	土器器 筒形部	1/2	円径:13.8 高さ:4.3	良	赤褐色	密 密粒・石灰・ 白色粒	外面:口縁部側保強部→織ナゲ、外部側面側壁一箇へラミガキ 内面:脚部側部→織ナゲ
127	B-1 II-②層	手捏ね 土器	1/2	円径:5.9 高さ:4.0 総重:2.0	良	灰褐色～褐色	密 石灰	外面:指形調整→ハケメ 内面:指形調整→ハケズリ
128	B-2 II-②層	手捏ね 土器	底部	円径:3.5 高さ:2.3	やや良	褐色	密 石灰・白色粒	外面:縦へラミガキ 内面:指形調整→ハケミガキ
129	D-1 II-②層	数珠土器	破片	円径:10.0 高さ:4.7	やや良	灰褐色	やや粗 密粒・石灰・ 白色粒	内外面:指形調整
130	C-2 II-②層	手捏ね 土器	底部	円径:2.6 高さ:2.4	やや良	褐色	密 石灰	外面:指形調整→ナゲ 内面:底部保強部→ナゲ、脚部ナゲ
131	B-2 II-②層	手捏ね 土器	脚部	円径:1.9 高さ:5.6	良好	黄褐色	密 砂粒	内外面:指形調整
132	B-2 II-②層	手捏ね 土器	底部	円径:3.8 高さ:1.2 総重:4.2	良	黄褐色	密 石灰・白色粒・ 赤色粒	外面:指形調整→ナゲ、底部中心部斜保強 内面:指形調整→ナゲ
133	B-2 II-②層	手捏ね 土器	底部	円径:2.2 高さ:1.6	良	褐色	密	内外面:指形調整
134	C-D-1 II-②層	手捏ね 土器	脚部	円径:2.0 高さ:3.0	良	黄褐色	密 白色粒	内外面:指形調整
135	A-3 II-②層	手捏ね 土器	底部	円径:1.5 高さ:0.9	良	灰褐色	密	内外面:指形調整
136	B-1 II-②層	手捏ね 土器品	底部	長さ:3.8 高さ:1.1 総重:1.1	良	褐色	密 炭灰・石灰・ 白色粒	手捏ね成形→ナゲ
137	B-2 II-②層	手捏ね 土器品	1/3	長さ:6.0 高さ:4.3 総重:4.2	良	灰褐色	密 石灰	外面:底部側へラケズリ→ナゲ、底部側へラケズリ→ナゲ 内面:指形調整→ハケズリ
138	D 1 II-②層	土器器 土器品	1/3	長さ:7.6 高さ:5.0 総重:2.6	良	灰褐色	密 密粒・石灰・ 白色粒	外面:底部側へラケズリ、底部側へラケズリ→ナゲ 内面:底部側へラケズリ
139	A-3 II-②層	土器器 土器品	底部	高さ:2.8 長さ:2.5	良	褐色	密 密粒・石灰・ 砂粒	外面:指形調整→ナゲ、底部中心部穴(直径6mm・高さ12mm)
140	C-2 II-②層	土器器 土器品	破片	長さ:1.6 高さ:0.8 厚さ:0.7	良	褐色	密	外面:ナゲ
141	B-1 II-②層	土器器 土器品	破片	長さ:1.7 高さ:2.0 厚さ:1.8	良	灰褐色	密 密粒・砂粒	外面:指形調整
142	D-1 II-②層	土器器 土器品	破片	長さ:4.2 高さ:4.6 厚さ:0.8	良	黄褐色	密 密粒・石灰・ 砂粒	外部側面側壁 兼保強部用
143	B-3 II-②層	土器器 土器品	筒形部 内面	円径:11.2 高さ:28.0 底円径:25.7	良	褐色	密 密粒・石灰・ 白色粒・小石 粒	外面:縦へラミガキ、胴部側へラケズリ→ナゲ 内面:縦へラミガキ、胴部側へラケズリ→ナゲ
144	B-2 II-②層	土器器 土器品	筒形部 破片	高さ:1.6	良好	褐色	密 外周部:白色粒・ 小石粒	へラケズリ
145	A-2 II-②層	土器器 土器品	筒形部 内面	高さ:7.8 高さ:6.1 厚さ:2.3	良	灰褐色～褐色	密	内外面:へラケズリ
146	B-3 II-②層	土器器 土器品	筒形部 内面	高さ:12.0 高さ:19.2 厚さ:7.2	良	褐色	密 石灰・白色粒	外部・脚部側・横へラケズリ
147	B-3 II-②層	土器器 土器品	筒形部 内面	高さ:18.2 高さ:11.2 高さ:6.8	良	黄褐色	密 角質石・石 灰・白色粒	外部・脚部側・横へラケズリ
148	A-3 II-②層	土器器 土器品	筒形部 破片	高さ:10.6 高さ:11.5 厚さ:10.6	やや良	灰褐色	密 石灰・砂粒	外面:底部側→脚部側調整、外部側ハケメ→脚部側調整 内面:外部側へラミガキ→脚部側調整

149	A-3 B-1 C-2 D-3	上層部 砂岩大塊	破片	厚黄(12.3) 色(26.9) 厚(14.3)	良	褐色	密 黄砂多量・石 灰・砂粒	外面：受部ナテ、底部ヘラズリテ、腰部ナテ 内面：受部ナテ、腰部ヘラズリテ	内外両面漆喰付着
150	B-1 B-2 C-2 D-3	土層砂 土	ほぼ均質	口径 135 容積 3.9 底径 115	良	褐色	密 石灰・砂粒	外面：L線部一部部断ナテ、底部ヘラズリテ 内面：L線部一部部断ナテ、底部ナテ	内外両面漆喰付着
151	C-2 C-3 D-3	土層砂 土	1/4	口径(132) 容積：2.8 底径(90)	良	褐色	密 黄砂・白色 粒・赤色粒	外面：L線部一部部断ナテ、底部ヘラズリテ 内面：口径部一部部断ナテ、底部部断ナテ	内外両面漆喰付着
152	C-1 D-3	土層砂 土	1/4	L径(92) 容積：3.0 底径(46)	良	褐色	密 黄砂・石灰 ・白色粒	外面：L線部一部部断ナテ、底部ヘラズリテ 内面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ	内外両面漆喰付着
153	C-1 D-3	土層砂 土	1/4	L径(18.4) 容積：2.0 底径(17.0)	良	灰褐色	密 黄砂・石灰 ・白色粒	外面：L線部一部部断ナテ、底部ヘラズリテ 内面：ナテ	内外両面漆喰付着
154	D-3 D-3	土層砂 土	外部	口径 147 容積：5.1	良	褐色	密 黄砂・石灰 ・白色粒	外面：L線部一部部断ナテ 内面：ナテ	内外両面漆喰付着
155	A-2 B-2 C-2 D-3	土層砂 土	定形	口径 129 容積：4.0 底径：4.9	良	褐色	密 黄砂・石灰 ・白色粒	外面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ 内面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ	内外両面漆喰付着
156	A-4 B-1 C-2 D-3	土層砂 土	1/2	L径(138) 容積：3.8 底径(90)	良	褐色	密 黄砂・石灰 ・白色粒	外面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ 内面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ	内外両面漆喰付着
157	B-3 B-3 C-2 D-3	土層砂 土	定形	厚黄(3.2) 底径(8.8)	良	灰褐色	密 赤色粒・赤色 粒	外面：底部部断ナテ、貼付高台 内面：ナテ	内外両面漆喰付着
158	C-2 D-3	土層砂 土	定形	厚黄(4.0) 底径(9.4)	良	黄灰色	密 黄砂・石灰 ・白色粒	外面：ナテ、貼付高台 内面：ナテ	土層部可転写 外側面漆喰付着 内側面漆喰付着
159	D-1 D-1	土層砂 土	底面破片	厚黄(2.9) 底径(8.8)	良	褐色	密 黄砂・白色粒 ・砂	外面：L線部ヘラズリテ、底部ナテ、貼付高台 内面：黒色処理ヘラズリテ	黒色土層
160	C-3 D-3	土層砂 土	底面破片	厚黄(2.8) 底径(9.0)	良	灰褐色	密 黄砂・石灰 ・白色粒	外面：L線部ヘラズリテ、底部ナテ、貼付高台 内面：黒色処理ヘラズリテ	黒色土層
161	C-3 D-3	土層砂 土	底面破片	厚黄(1.6) 底径(10.8)	良	灰褐色	密 黄砂・石灰 ・白色粒	外面：ナテ、貼付高台 内面：黒色処理ヘラズリテ	黒色土層
162	C-1 D-3	土層砂 土	ほぼ均質	口径(17.4) 容積：4.3 底径：1.9	良	褐色	密 石灰・白色粒	外面：L線部一部部断ナテ、底部ヘラズリテ、底部 部断ナテ、貼付高台 内面：ナテ	外面両面内外両面 漆喰付着 外側面内外両面 漆喰付着
163	A-1 B-1 C-2 D-3	土層砂 土	定形	厚黄(2.5) 底径(8.4)	良	褐色	密 黄砂・白色粒	外面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ 内面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ	内外両面漆喰付着
164	D-3 D-3	土層砂 土	底面破片	厚黄(8.8) 底径(11.7)	良	褐色	密 黄砂	外面：ナテ、貼付高台 内面：赤色処理ヘラズリテ	赤色土層 外側面内外両面 漆喰付着
165	C-2 D-3	土層砂 土	1/2	L径(14.4) 容積：3.5 底径(8.8)	良	黄灰色	密 黄砂・白色粒	外面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ、貼付高台 内面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ	内外両面漆喰付着 底面漆喰付着
166	A-3 B-3 C-3 D-3	土層砂 土	ほぼ均質	口径(14.4) 容積：2.5 底径：8.4	良	灰色	密 黄砂・白色粒	外面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ 内面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ	内外両面漆喰付着
167	C-3 D-3	土層砂 土	1/2	L径(18.7) 容積：4.0 底径(13.7)	良	灰色	密 石灰・白色粒	外面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ 内面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ	内外両面漆喰付着
168	A-3 B-3 C-3 D-3	土層砂 土	底面	厚黄(1.2) 底径(7.2)	良	灰色	密 黄砂・石灰 ・白色粒	外面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ 内面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ	内外両面漆喰付着
169	B-1 B-1 C-3 D-3	土層砂 土	定形	厚黄(0.9) 底径(6.8)	良	灰色	密 石灰・白色粒	外面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ 内面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ	内外両面漆喰付着
170	C-3 D-3	土層砂 土	1/2	口径(17.0) 容積：3.7 底径(11.4)	良好	灰色	密 砂粒	外面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ、底部 部断ナテ、貼付高台 内面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ	内外両面漆喰付着
171	D-2 D-2	土層砂 土	底面破片	厚黄(1.4) 底径(14.4)	良	灰色	密 石灰・白色粒	外面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ 内面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ	内外両面漆喰付着
172	B-3 B-3 C-3 D-3	土層砂 土	1/2	口径(13.6) 容積：4.7 底径：7.6	良好	黄灰色	密 白色粒・赤色 粒	外面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ 内面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ	内外両面漆喰付着
173	D-3 D-3	土層砂 土	2/3	L径(11.4) 容積：4.6	良好	灰色	密 白色粒・黒色 粒	外面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ 内面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ	内外両面漆喰付着
174	C-4 D-3	土層砂 土	1/2	L径(11.4) 容積：3.9 底径(8.0)	良	褐色	密 黄砂・白色粒	外面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ 内面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ	内外両面漆喰付着
175	A-1 B-1 C-4 D-3	土層砂 土	底面破片	厚黄(0.7)	良	赤褐色	密	外面：L線部一部部断ナテ 内面：ナテ	内外両面漆喰付着
176	C-1 D-1 D-1	土層砂 土	底面破片	厚黄(3.8) 底径(8.6)	良	黄灰色	密 石灰・白色粒	外面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ 内面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ	内外両面漆喰付着
177	D-1 D-1 D-1	土層砂 土	破片	厚黄(8.1)	良好	黄灰色	密 石灰・白色粒	外面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ 内面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ	内外両面漆喰付着
178	C-4 D-1 D-1	土層砂 土	破片	厚黄(3.5)	良好	灰色	密 石灰・白色粒	外面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ 内面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ	内外両面漆喰付着
179	D-1 D-1 D-1	土層砂 土	破片	厚黄(3.1)	良好	黄灰色	密	外面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ 内面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ	内外両面漆喰付着
180	B-1 B-1 C-4 D-1	土層砂 土	門部一部 破片	口径(26.1) 容積(43.9) 厚径(43.4)	良好	灰色	密 黄砂・石灰 ・白色粒	外面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ 内面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ	内外両面漆喰付着
181	D-1 D-1	土層砂 土	門部一部 破片	L径(22.1) 容積(7.5)	良好	黄灰色	密 石灰・白色粒	外面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ 内面：L線部一部部断ナテ、底部部断ナテ	内外両面漆喰付着

182	C-1 B-1 B-2 B-3	須磨部 須磨部 須磨部 須磨部	口縁・体 高: 78	口縁(18.7) 器高: 6.7	良好	青灰色	密 帯 白色粒	外面: 口縁部同転ナテ、肩面平円同 内面: 口縁部同転ナテ、器部側面調整、器部底面による青 濁染	
183	B-2-D-1 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	破片	器高: 5.9	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 同転ナテ→ヘラ状上による濃灰文2条 内面: 同転ナテ 外面: 口縁部底面の磨削工具による濃灰文 内面: 同転ナテ 器部2枚造	内面自然磨灰
184	B-1 B-2	須磨部 須磨部	器底破片	器高: 6.1	良好	赤褐色	密 帯 帯粒・白色粒		
185	A-1 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	破片	器高(12.4)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 同転同転ナテ、器部ホキ目、器部ハケム 内面: 同転同転ナテ、各部器具による同心円文 内面: 同転ナテ	外面自然磨灰
186	A-2-D-1 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	体部1/2	器高: 6.0 器底(10.4)	良好	青灰色	密	外面: 体部上平同転ナテ、中位磨削工具による濃灰文、下 部ヘラナズリ 内面: ナテ	器部穿孔
187	D-2 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	体部破片	器高: 4.5 器底(8.2)	良好	暗赤灰色	密 帯 帯粒・白色粒	外面: 同転ナテ 内面: 同転ナテ、体部同転ナテ	
188	B-C-1 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	体部破片	器高: 4.0 器底(11.2)	良好	青灰色・灰 色	密 白色粒	外面: 器部→器部ホキ目、体部ヘラ状工具による濃灰・磨 削工具部部による磨削文、体部同転ナテ 内面: 同転ナテ、器部側面調整、体部同転ナテ	器部穿孔
189	B-1 B-2	須磨部 須磨部	体部破片	器高(2.8)	良好	青灰色	密 白色粒・帯粒	外面: 器部ヘラナズリ、口縁部底の磨削工具による濃灰文 内面: 同転ナテ	
190	A-1 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	破片	口縁(9.1) 器高(3.6)	良好	青灰色	密 石質・帯粒	内外面: 同転ナテ	内外面自然磨灰
191	B-1 B-2	須磨部 須磨部	把手部破 片	口縁(9.6) 器高(3.3)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 同転ナテ、把手部ナテ 内面: 同転ナテ	
192	A-1 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	把手部	器高(1.6)	良好	灰色	密 白色粒	外面: 同転ナテ、把手部ナテ 内面: 同転ナテ	
193	D-2 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	把手部	長さ(1.9) 幅(0.9)	良好	灰色	密 白色粒	外面: 同転ナテ 内面: 同転ナテ	
194	D-1 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	破片	口縁(18.4) 器高(6.8)	良好	暗赤灰色	密	外面: 同転ナテ 内面: 口縁部同転ナテ、体部ナテ	
195	D-1 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	1/8	口縁(18.6) 器高(6.0)	良好	灰色	密 帯粒	内外面: 同転ナテ	
196	D-1 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	破片	口縁(18.2) 器高(4.0)	良	暗赤灰色・ 青灰色	密 帯粒・白色粒	外面: 同転ナテ 内面: 同転ナテ	
197	A-3 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	5/8	口縁(16.0) 器高(11.7) 底径(10.1)	良	灰色	密 白色粒	外面: 同転ナテ 内面: 環状同転ナテ、環状部ナテ、器部同転ナテ 器部2方2枚造	
198	B-1 B-2	須磨部 須磨部	器底	器高(2.3) 底径(8.9)	良好	青灰色	密 帯粒・帯粒	外面: 同転同転ナテ、天身部同転ヘラナズリ 内面: 同転同転ナテ、天身部ナテ 器部二方ヘラ造り込み	
199	A-2 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	2/3	口縁(13.5) 器高(5.2)	良好	灰色	密 白色粒・褐色 粒	外面: 口縁部同転ナテ、天身部同転ヘラナズリ 内面: 口縁部同転ナテ、天身部ナテ	
200	D-1 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	1/2	口縁(13.8) 器高(5.2)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 口縁部同転ナテ、天身部同転ヘラナズリ 内面: 口縁部同転ナテ、天身部ナテ	
201	A-4 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	1/4	口縁(15.9) 器高(4.6)	良好	青灰色	密 帯粒・小石粒	外面: 口縁部同転ナテ、天身部同転ヘラナズリ 内面: 口縁部同転ナテ、天身部ナテ	
202	B-3 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	1/2	口縁(18.0) 器高(3.8)	良好	灰色	密 帯粒・白色粒	外面: 口縁部同転ナテ、天身部同転ヘラナズリ、つまみ部 同転ナテ 内面: 口縁部同転ナテ、天身部ナテ	
203	A-1 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	定形	口縁(10.2) 器高(3.8)	良好	A灰色	密 白色粒	外面: 口縁部同転ナテ、器部同転ヘラナズリナテ 内面: 口縁部同転ナテ、器部ナテ	外面自然磨灰
204	A-3 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	ほぼ定形	口縁(10.4) 器高(3.8)	良好	灰色	密	外面: 同転ナテ 内面: 口縁部同転ナテ、器部ナテ	外面自然磨灰
205	B-4 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	定形	口縁(10.6) 器高(2.3)	良好	青灰色	密 白色粒・褐色 粒	外面: 口縁部同転ナテ、器部同転ヘラナズリ 内面: 同転ナテ	
206	D-2 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	5/8	口縁(10.7) 器高(4.2) 底径(7.6)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 口縁部同転ナテ、器部同転ナテ 内面: 口縁部同転ナテ、器部ナテ	
207	D-1 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	1/3	口縁(10.4) 器高(3.7) 底径(7.2)	良好	青灰色	密 白色粒・褐色 粒	外面: 口縁部同転ナテ、器部同転ナテ 内面: 口縁部同転ナテ、器部ナテ	
208	C-3 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	1/2	口縁(12.4) 器高(3.8) 底径(8.4)	やや良	灰色	密 白色粒・褐色 粒	外面: 口縁部同転ナテ、器部同転ナテ 内面: 口縁部同転ナテ、器部ナテ	
209	B-2 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	1/4	口縁(12.0) 器高(3.6) 底径(7.8)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 口縁部同転ナテ、器部同転ナテ 内面: 口縁部同転ナテ、器部ナテ	
210	D-4 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	1/3	口縁(12.8) 器高(4.2) 底径(7.6)	やや良	灰色	密 白色粒	外面: 口縁部同転ナテ、器部同転ナテ 内面: 口縁部同転ナテ、器部ナテ	
211	D-2 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	ほぼ定形	口縁(14.0) 器高(2.7) 底径(7.9)	やや良	赤褐色	密 白色粒	外面: 口縁部同転ナテ、器部同転ナテ 内面: 口縁部同転ナテ、器部ナテ	
212	C-1 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	1/4	口縁(12.8) 器高(3.8) 底径(8.8)	良好	青灰色	密 白色粒	外面: 口縁部同転ナテ、器部同転ナテ 内面: 口縁部同転ナテ、器部ナテ	内面自然磨灰
213	A-2 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	1/4	口縁(14.8) 器高(2.3) 底径(11.0)	良好	青灰色	密 帯粒・白色粒	外面: 口縁部同転ナテ、器部同転ナテ 内面: 口縁部同転ナテ、器部ナテ	
214	B-4 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	2/3	口縁(15.8) 器高(1.3) 底径(8.1)	良好	灰色	密 帯粒	外面: 口縁部同転ナテ、器部同転ナテ 内面: ナテ	内面自然磨灰
215	D-2 B-1 B-2	須磨部 須磨部 須磨部	ほぼ定形	口縁(12.6) 器高(3.7) 底径(7.6)	良	灰色	密 白色粒	外面: 口縁部同転ナテ、器部同転ナテ 内面: 口縁部同転ナテ、器部ナテ	外面自然磨灰

216	A-4 B-1 C-1 D-1	灰土器 環	形状不明	口径:12.4 器内: 4.0 底径: 6.6	良	灰色	密 灰白土粒	外面: 口縁部~底部に細かなナメ、底部に粗糸切り 内面: 口縁部~底部に細かなナメ、底部ナメ	
217	B-2 B-3 C-2 D-2	須恵器 環	1/2	口径:12.8 器内: 4.2 底径: 9.4	良	灰色	密 石灰・白色粒	外面: 口縁部~底部に細かなナメ、底部に粗糸切り、筋付高台 内面: 口縁部~底部に細かなナメ、底部ナメ	
218	C-2 D-1	須恵器 環	ほぼ完成形	口径:13.2 器内: 3.3 底径:14.2	良好	赤褐色	密 砂粒	外面: 口縁部~底部に細かなナメ、底部に粗糸切り、筋付高台 内面: 口縁部~底部に細かなナメ、底部ナメ	
219	B-1 B-1 C-1 D-1	須恵器 環	1/2	口径:19.2 器内: 3.9 底径:13.2	やや良	灰色	密 赤・石灰・ 白色粒	外面: 口縁部~底部に細かなナメ、底部に粗糸切り、筋付高台 内面: 口縁部~底部に細かなナメ、底部ナメ	片側削? 付着
220	B-4 B-4 C-1 D-1	須恵器 環	1/4	口径:16.1 器内: 5.5 底径:11.2	良好	青灰色	密 灰白土粒	外面: 口縁部~底部に細かなナメ、底部に粗糸切り、筋付高台 内面: 口縁部~底部に細かなナメ、底部ナメ	
221	A-2 B-1 C-3 D-1	須恵器 瓶用土器	1/4	口径:12.1 器内: 2.2	良好	灰色	密	裏面削、口縁部削~内面削痕	重量: 546g
222	C-3 D-1	須恵器 瓶用土器	5/8	器内: 1.2 底径: 7.2	良好	灰色	密 白色粒	外面削痕削、内面削痕	重量: 49.1g
223	B-1 B-1 C-1 D-1	平凡 瓶	横片	厚さ: 2.1	良	薄灰白色	密 石灰	凸面: 物了口縁下側に2.5mmほど 凹面: ほぼ平坦状、横面削	内外面二次焼成

第200表 5区弥生時代~古代包含層出土金属製品観察表 (第431図)

器物No.	遺跡-地区 出土層位	種類	形状 残存率	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	調査・文様・その他特徴	重量 (g)	備考
224	D-2 B-1 C-2 D-2	小型鏡	1/4	青銅	(26)	(25)	(1)	鏡背・裏面欠 断面不明	2.4	鏡背表面 磨光2割
225	D-1 B-1 C-3 D-1	鍔金具 透力	彫形	銅	36	34	10		23.5	断面6割 穿孔(2.8×3mm)
226	C-3 D-1	耳環	完形	青銅	22	6	8		7.3	
227	A-1 B-1 C-1 D-1	鏡蓋	完形	鉄	39	26	1	鏡背欠 メタル度 錆化(△)	ランク 5	刃部角73度
228	B-1 B-1 C-1 D-1	鉄鍔	完形	鉄	25	19	2	器背欠 メタル度 H(△)	ランク 5	刃部角75度 穿孔1個
229	B-3 B-3 C-1 D-1	鏡片	一	鉄	(23)	(15)	1	鏡背欠 メタル度 錆化(△)	ランク 2	
230	B-1 B-1 C-1 D-1	鉄鍔	完形	鉄	14	13	2	鏡背欠 メタル度 錆化(△)	ランク 5	刃部角53度 穿孔1個
231	D-2 B-1 C-3 D-1	刀子	破片	鉄	全長: (23) 刃部: (11) 茎部: (12)	刃部: 11 茎部: 5	刃部: 2 茎部: 1	鏡背欠 メタル度 錆化(△)	ランク 2	刃部欠1個
232	A-2 B-1 C-3 D-1	鏡状不明品	一	鉄	31	5	1	鏡背欠 メタル度 錆化(△)	ランク 4	
233	C-3 D-1	鎌?	刃部	鉄	(30)	(30)	5	鏡背欠 メタル度 錆化(△)	ランク 2	
234	A-4 B-1 C-3 D-1	棒状不明品	一	鉄	(190)	5	10	鏡背欠 メタル度 錆化(△)	ランク 4	大端欠
235	B-4 B-4 C-3 D-1	釘	2/3	鉄	(20)	4	3	鏡背欠 メタル度 錆化(△)	ランク 4	磨削
236	D-2 B-1 C-3 D-1	釣手状不明品	一	鉄	(38)	3	3	器背欠 メタル度 錆化(△)	ランク 3	
237	A-1 B-1 C-3 D-1	刀子	ほぼ完形	鉄	全長: (103) 刃部: 80 茎部: (23)	刃部: 9 茎部: 4	刃部: 3 茎部: 4		48	

第201表 5区弥生時代~古代包含層出土石器・石製品観察表 (第431~433図)

器物No.	遺跡-地区 出土層位	種類	形状	残存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考
237	A-4 B-1 C-3 D-1	不明石製品	変形		97	60	21	181.6	滑石	巾着型
238	B-3 B-3 C-3 D-1	網鏝	ほぼ完形		61	43	23	46.9	アイサイト	孔径8mm
239	B-3 B-3 C-3 D-1	小形石製品	瓶片	(32)	(31)	(10)	23.3		凝灰岩	玉作り用砥石?
240	B-3 B-3 C-3 D-1	網鏝製品	ほぼ完形		22	21	3	2.3	緑色凝灰岩	
241	D-1 B-1 C-3 D-1	管玉	ほぼ完形		19	4	4	0.5	緑色凝灰岩	孔径2mm
242	D-1 B-1 C-3 D-1	石鏝	2/3	(16)	14	3	0.7	2.3	ラマサイト	刃部欠損
243	B-3 B-3 C-3 D-1	石鏝製品	一		29	22	4	2.3	玉鏝	
244	C-4 B-1 C-3 D-1	石鏝	完形		47	34	9	12.0	黒輝石	
245	A-1 B-1 C-3 D-1	二次加工銅片	完形		30	26	5	4.9	黒輝石	
246	B-4 B-4 C-3 D-1	磨石片	1/2	(53)	(43)	(25)	81.6		閃緑岩	刃部角67度
247	D-1 B-1 C-3 D-1	砥石	ほぼ完形	(110)	45	33	104.8		頁岩	仕上げ
248	C-2 B-1 C-3 D-1	砥石	1/2	(98)	(71)	(26)	262.6		砂岩	
249	A-1 B-1 C-3 D-1	砥石	完形		173	49	27	344.6	凝灰岩	仕上げ
250	A-1 B-1 C-3 D-1	砥石	1/2	(49)	27	13	27.2		頁岩	仕上げ

251	B-2 B-2層	磁石	1/2	(21)	22	22	147	磁石片	柱土紙
252	B-3 B-3層	磁石	1/3	(69)	(47)	(42)	207.6	石鱗片	
253	D-3 B-3層	磁石	宛形	155	67	43	517.2	石鱗片	
254	A-3 B-3層	磁石	2/3	(112)	(54)	(59)	319.0	磁石片	
255	C-3 B-3層	磁石	ほぼ定形	(146)	(61)	(43)	616.9	磁石	
256	B-1 B-1層	磁石	1/2	(97)	(50)	(49)	318.8	磁石片	
257	D-2 B-1層	磁石	2/3	(113)	60	46	440.1	花崗岩	
258	B-1 B-1層	磁石	1/2	(63)	(46)	(37)	187.3	花崗岩	
259	C-3 B-1層	磁石	1/2	(70)	(41)	(31)	196.0	砂岩	順着積層状
260	A-2 B-1層	磁石	1/2	(123)	(97)	(69)	218.1	砂岩	
261	A-2 B-1層	石鱗	宛形	139	119	52	792.2	安山岩	左打欠幅57mm 右打欠幅47mm
262	B-1 B-1層	石鱗	宛形	122	92	58	780.0	アイサイト	左打欠幅55mm 右打欠幅77mm
263	C-4 B-1層	石鱗	ほぼ定形	(138)	86	47	736.5	角閃石安山岩	左打欠幅77mm 右打欠幅77mm
264	D-1 B-1層	石鱗	宛形	127	91	44	672.1	安山岩	左打欠幅77mm 右打欠幅33mm
265	C-1 B-1層	石鱗	ほぼ定形	91	77	43	306.6	角閃石安山岩	左打欠幅43mm 右打欠幅60mm
266	C-3 B-1層	石鱗	宛形	108	89	47	342.8	安山岩	左打欠幅49mm 右打欠幅49mm
267	C-3 B-1層	石鱗	宛形	134	80	49	679.8	角閃石安山岩	左打欠幅28mm 右打欠幅33mm
268	A-3 B-1層	磨石・磁石	ほぼ定形	132	(72)	63	678.1	アイサイト	
269	D-2 B-1層	磨石・磁石	宛形	140	95	64	1228.2	角閃石安山岩	
270	A-1 B-1層	磁石	宛形	161	95	39	904.7	安山岩	
271	A-4 B-1層	磁石	宛形	148	136	60	970.2	アイサイト	
272	D-1 B-1層	ハンマーストーン	ほぼ定形	(133)	57	36	357.8	アイサイト	

第202表 1区中世包含層出土磁器・土器観察表 (第434図)

遺物 種別	遺跡・地 出上層位	器 種	新 位 性 形 態	規 格 (cm)	状 態	色 調	胎 土	施 装	特 徴	測 量 ・ 文 様	備 考
1	Ⅱ層中	豆甕	管紐 侈形	底径(1.2)	良好	灰白色	密	磨	附緑灰化	外周：一 内面：劃文	重厚系形製 I-2類
2	ⅡB	土師 土器 小皿	3-5	口径(6.7) 器高(1.5) 底径(5.2)	良	黄灰白色	密	一	一	外周：口縁部一帯緑灰化ナ。底面緑灰化ナ。 内周：口縁部一帯緑灰化ナ。底面ナ	
3	ⅡB-2	土師 土器 小皿	2/3	口径(7.8) 器高(1.3) 底径(4.2)	良好	褐色	密	一	一	外周：口縁部一帯緑灰化ナ。底面緑灰化ナ。 内周：口縁部一帯緑灰化ナ。底面ナ	
4	ⅡB-2	土師 土器 小皿	1/4	口径(12.8) 器高(4.3) 底径(6.8)	良	黄灰白色	密	一	一	外周：口縁部一帯緑灰化ナ。底面緑灰化ナ。 内周：口縁部一帯緑灰化ナ。底面ナ	
5	ⅡB-5	土師 土器 小皿	底面	器高(2.0) 底径(2.6)	良	褐色	密	一	一	外周：口縁部一帯緑灰化ナ。底面緑灰化ナ。 内周：口縁部一帯緑灰化ナ。底面ナ	
6	ⅡB-2	土師 土器 小皿	底面	器高(1.6) 底径(7.3)	良好	灰褐色	密	一	一	外周：口縁部一帯緑灰化ナ。底面緑灰化ナ。 内周：口縁部一帯緑灰化ナ。底面ナ	
7	ⅡB-1	土師 土器 小皿	1/3	口径(3.2) 器高(14.2)	良好	黄灰白色	密 石英	一	一	外周：口縁部一帯緑灰化ナ。底面緑灰化ナ。 内周：口縁部一帯緑灰化ナ。底面ナ	内面口縁部一帯 黄灰化ナ 内面口縁部一帯 黄灰化ナ
8	ⅡB-1	土師 土器 小皿	口縁一 帯	口径(34.0) 器高(12.6)	良好	黄灰白色	密 黄白・石英	一	一	外周：口縁部一帯緑灰化ナ。底面緑灰化ナ。 内周：口縁部一帯緑灰化ナ。底面ナ	外周口縁部 黄灰化ナ

第203表 3区中世包含層出土磁器・土器観察表 (第435図)

遺物 種別	遺跡・地 出上層位	器 種	新 位 性 形 態	規 格 (cm)	状 態	色 調	胎 土	施 装	特 徴	測 量 ・ 文 様	備 考
1	Ⅱ層中	白磁 片	底面	器高(3.5) 底径(5.2)	良好	灰白色	密	灰白色	一	外周：磨り出し高台 内周：見込底	白磁片V-2類
2	Ⅱ層中	白磁 片	底面	器高(2.6) 底径(5.6)	良好	灰白色	密	灰白色	一	外周：磨り出し高台 内周：見込底	白磁片V類
3	Ⅱ層中	土師 土器 小皿	宛形	口径(8.0) 器高(1.7) 底径(4.8)	良	灰褐色	密	密 黄白・砂粒	一	外周：口縁部一帯緑灰化ナ。底面緑灰化ナ。 内周：口縁部一帯緑灰化ナ。底面ナ	
4	Ⅱ層中	土師 土器 小皿	1/4	口径(7.4) 器高(1.9) 底径(5.6)	良	黄灰白色	密 白色粒・赤 色粒	一	一	外周：口縁部一帯緑灰化ナ。底面緑灰化ナ。 内周：口縁部一帯緑灰化ナ。底面ナ	



5	Ⅱ層中	上層質 七折 小皿	磁片	口径(74) 外径(111) 底径(60)	瓦	黄灰色	赤 白色欠赤 色粒	—	外面：口縁部一帯彫刻ナブ、底面(軸糸切り) 内面：口縁部一帯彫刻ナブ、底面ナブ	
---	-----	-----------------	----	-----------------------------	---	-----	-----------------	---	--	--

第204表 3区中世包含層出土金属製品観察表(第435図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	外径(mm)	厚径(mm)	底径(mm)	その他計測値(mm)	重量(g)	備考
6	A-2 B-1層	六角 鉄	1/2 近断	鋼	35	7	1		19	高天宮 109年以降

第205表 4区中世包含層出土土器観察表(第436図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	種類	部位 残存率	口径 (cm)	構成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	鉢敷土中 C-1	鉢敷土中 土師質 土師 鉢	磁片	口径(36.4) 底径(43)	瓦	灰褐色	密	内外面：四角ナブ	内外両氏化胎付物

第206表 4区中世包含層出土金属製品観察表(第436図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	磁器厚	メタル厚	ランク	重量(g)	備考
2	鉢敷土中 C-1	火打金	完形	鉄	75	25	3				39.9	中央部穿孔

第207表 1区近世包含層出土陶磁器・土器観察表(第437図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	種類	部位 残存率	口径 (cm)	構成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Ⅱ層中	磁器 茶付碗	底部	口径(21) 底径(5.1)	良好	黄灰色	密	外面：密付不明、高合部密付一帯彫刻、貫入 内面：見込一帯彫刻内丸文、貫入	伊予窯 16A-17C層部
2	Ⅱ層中	磁器 茶付碗	底部	口径(25) 底径(5.0)	良好	白色	密	外面：高合部密付彫刻 内面：見込無文字	伊予窯 18C層部
3	Ⅱ層中	磁器 茶付碗	1/4	口径(42) 底径(42)	良好	白色	密	外面：高合部一帯彫刻内「大明年製」彫、高合部密付彫 胎 内面：無文字	二次焼成 肥後系? 奉文
4	Ⅱ層中	磁器 茶付碗	1/4	口径(39) 底径(3.3)	良好	灰白色	密	外面：草文、高合部密付彫刻 内面：重襷内五弁花	二次焼成 奉文
5	Ⅱ層中	磁器 茶付皿	1/5	口径(12.8) 底径(3.7) 底径(4.0)	良好	黄灰色	密	外面：唐文、高台内一帯彫刻内「大明年製」彫、高合部密付彫 内面：湖目文、見込二重襷内コンキョウ印内五弁花	肥後 18C後半
6	Ⅱ層中	磁器 茶付碗	底部残片	口径(25)	良好	白色	密	外面：高合部一帯彫刻内「大明年製」彫、太1、貫入 内面：見込一帯彫刻、貫入	奉文
7	Ⅱ層中	磁器 茶付皿	磁片(13.8) 口径(3.9) 底径(0.7)	良好	白色	密	外面：密付不明、高合部密付彫刻、胎の日本合具入 内面：斜格子状内丸文	18C後半以降	
8	Ⅱ層中	磁器 茶付皿	底部残片	口径(9.9) 底径(9.4)	良好	白色	密	外面：高台内角彫、高合部密付彫刻、胎の日本合具入 内面：見込一帯彫刻内「大明年製」彫、貫入	肥後 18C後半以降
9	Ⅱ層中	陶器 鉢	1/5	口径(6.3) 底径(4.8)	良好	灰褐色	密	外面：唐文、高台密付彫刻、胎の日本合具入 内面：貫入	肥後 18C後半以降
10	Ⅱ層中	陶器 鉢	1/6	口径(14.2) 口径(6.2) 底径(5.0)	良好	灰褐色	密	外面：唐文、高台密付彫刻、胎の日本合具入 内面：貫入	肥後 18C後半以降
11	Ⅱ層中	土師質 土師 小皿	1/3	口径(6.2) 口径(1.3) 底径(3.4)	瓦	灰褐色	密	外面：口縁部一帯彫刻ナブ、底部(軸糸切り) 内面：同縁ナブ	北地系-赤志名焼? 18A以降

第208表 1区近世包含層出土金属製品観察表(第437図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	その他計測値(mm)	重量(g)	備考
12	Ⅱ層中	古銭	1/2	銅	外径(22.0)	穿径(5.0)	底厚(0.8)	寛永通寶	1.3	1656年以前製造 吉夏水坑
13	Ⅱ層中	唐平御幣	破片	銀	(42)	11	7	小口径：10	2.6	

第209表 3区近世包含層出土土器観察表(第438図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	種類	部位 残存率	口径 (cm)	構成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	Ⅱ層中	土師質 土師 小皿	1/3	口径(8.8) 口径(1.6) 底径(5.0)	瓦	灰褐色	密 赤・白色 粒・赤色粒	外面：口縁部一帯彫刻ナブ、底部(軸糸切り) 内面：口縁部一帯彫刻ナブ、底面ナブ	

第210表 3区近世包含層出土金属製品観察表(第438図)

遺物 No.	遺跡・地区 出土層位	種類	部位 残存率	材質	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	その他計測値(mm)	重量(g)	備考		
2	Ⅱ層中	源平御幣	破片	銀	(35)	11	—	口付径：7mm 小口径：10	2.4	源平御幣		
3	C-1 Ⅱ層中	火打金?	完形	鉄	77	29	3	磁器厚 6	メタル厚 H(○)	ランク 3	54.2	
4	F-1 Ⅱ層中	火打金?	1/3	鉄	(40)	(25)	3	磁器厚 2	メタル厚 H(△)	ランク 4	27.5	

第211表 5区近世包含層出土金属製品観察表 (第439図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	種類	器 形・作 法	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	組 成 度	メタル質	ラック	重量 (g)	備 考
1	I層中 1-3 互層中	火打金	ほぼ完成	鉄	80	34	3	5	酸化 (ハ)	5	51A	山形層上部分

第212表 1区表層出土土器・土製品観察表 (第440~442図)

遺物No	遺構・地区 出土層位	種類	器 形・作 法	位置 (cm)	焼成	色調	胎土	調整・文様	備考
1	I層中	土師器	口縁一平縁	L径: 20(9) 器高: 17(7) 器底: 2(2)	良	黄灰白色	雲 雲母・石英・ 白色砂	外面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメ。胴部横状ハ キによる横状文 内面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ	頸道
2	I層中	土師器	口縁一平縁 器高: 11(8)	L径: 20(3) 器高: 11(8) 器底: 1(1)	良	褐色	赤色・石英・ 砂	外面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメ。胴部横状ハ キによる横状文・横状文 内面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ	内面口縁部一外周 部
3	I層中	土師器	口縁一平縁 器高: 11(5)	L径: 16(6) 器高: 11(5) 器底: 1(1)	良	灰褐色	雲 石英・赤砂	外面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ 内面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ	内面口縁部一外周 部
4	I層中	土師器	口縁一平縁 器高: 12(9)	L径: 9(6) 器高: 12(9) 器底: 1(3)	良	灰褐色	雲 赤砂	外面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメ 内面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ	内面口縁部一外周 部
5	I層中	土師器	口縁一平縁 器高: 4(2)	L径: 11(4) 器高: 4(2)	良	褐色	雲 赤砂	外面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメ 内面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ	外周部
6	I層中	土師器	口縁一平縁 器高: 4(9)	L径: 8(4) 器高: 4(9)	やや良	黄灰白色	雲 雲母・石英・ 白色砂	外面: 器形不明 内面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ	外周部
7	I層中	土師器	口縁一平縁 器高: 4(8)	L径: 7(8) 器高: 4(8)	良	灰褐色	雲母・石英・ 白色砂	外面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメ 内面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ	外周部
8	I層中	土師器	口縁一平縁 器高: 11(6)	L径: 27(6) 器高: 11(6)	良	灰褐色	雲 石英	外面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ 内面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ	内面口縁部一外周 部
9	I層中	土師器	口縁一平縁 器高: 11(6)	L径: 26(9) 器高: 11(6)	良	黄灰白色	雲 雲母・石英・ 白色砂	外面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ 内面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ	外周部
10	I層中	土師器	口縁一平縁 器高: 9(6)	L径: 19(8) 器高: 9(6)	良	黄灰白色	雲 石英・赤砂	外面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメ 内面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ	外周部
11	I層中	土師器	口縁一平縁 器高: 12(2)	L径: 15(6) 器高: 12(2) 器底: 1(2)	良	黄灰白色	雲 石英・白色砂	外面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメ 内面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ	外周部
12	I層中	土師器	口縁一平縁 器高: 24(5)	L径: 20(2) 器高: 22(7) 器底: 24(5)	良	褐色	石英・赤砂多 量	外面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメ 内面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ	外周部
13	I層中	土師器	腹部	器高: 17(7) 器底: 2(7)	良	黄灰白色	雲 空骨・石英	外面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメ 内面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ	外周部
14	I層中	土師器	腹部	器高: 1(8) 器底: 4(2)	良	灰色	雲 雲母・石英	外面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメ 内面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ	外周部
15	I層中	土師器	腹部	口径: 2(6) 器高: 8(6)	良	灰褐色	雲 雲母・石英・ 白色砂	外面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメ 内面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ	外周部
16	I層中	土師器	1/3	L径: 12(8) 器高: 7(8) 器底: 5(8)	良	褐色	雲 赤砂	外面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメ 内面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ	内面口縁部一外周 部
17	I層中	土師器	1/2	器高: 6(5) 器底: 8(4)	良	黄褐色	雲母・石英・ 赤砂	外面: ハケメ一様ハケメナリ 内面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ	外周部
18	I層中	土師器	底部	口径: 15(3) 器高: 5(3)	良	黄褐色	雲	外面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメ 内面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ	外周部
19	I層中	土師器	底部	口径: 16(8) 器高: 4(2)	良	灰褐色	雲 雲母・石英・ 白色砂	外面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメ 内面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ	外周部
20	I層中	土師器	底部	器高: 4(1) 器底: 1(8)	やや良	灰褐色	雲 雲母・石英・ 白色砂	外面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメ 内面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ	内周部
21	I層中	土師器	底部	器高: 2(6) 器底: 8(9)	良	灰褐色	雲 雲母・赤砂	外面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメ 内面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ	外周部
22	I層中	土師器	1/2	口径: 14(3) 器高: 4(6) 器底: 4(2)	良	灰褐色	雲 雲母・石英・ 赤砂	外面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメ 内面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ	外周部
23	I層中	土師器	1/2	口径: 13(8) 器高: 3(6) 器底: 3(4)	良	灰褐色	雲	外面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメ 内面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ	外周部
24	I層中	土師器	1/3	口径: 13(9) 器高: 11(9) 器底: 16(2)	良	褐色	雲 赤砂	外面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメ 内面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ	外周部
25	I層中	土師器	2/3	口径: 20(1) 器高: 3(6) 器底: 19(5)	良	黄灰白色	雲 石英・赤砂	外面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメ 内面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ	外周部
26	I層中	土師器	底部	器高: 9(1) 器底: 1(4)	良	黄灰白色	雲 雲母・石英・ 白色砂	外面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメ 内面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ	外周部
27	I層中	土師器	1/2	口径: 14(2) 器高: 8(9) 器底: 13(6)	良	褐色	雲 雲母・石英・ 赤砂	外面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメ 内面: 口縁部滑ナリ。胴部以下縦・横ハケメナリ	外周部

28	1層中	上層部 小型燈台	1/3	口径: (8.8) 器高: (6.6)	点	白色	雷 窓付・窓込	外周: 縦ハケマー・縦ヘラミダギ 内周: 電球型・縦ヘラミダギ、斜柱部横ヘラズリ、縦部 縦ハケマー 壁全面内装・半片	
29	1層中	上層部 小型燈台	全部一部 窓	器高: (8.2) 器径: 10.6	点	褐色	雷 窓付・窓込	外周: 縦ハケマー・縦ヘラミダギ 内周: 電球型・縦ヘラミダギ、斜柱部横ヘラズリ・縦ハケマー、 縦部縦部窓一ナテ 適合部内装・半片、窓部内装通し之窓	
30	1層中	上層部 環	14径光部	口径: 13.3 器高: 2.9 器径: 10.8	点	褐色	雷	外周: 縦ハケマー・縦ヘラミダギ 内周: 電球型・縦ヘラミダギ、斜柱部横ヘラズリ・縦ハケマー、 縦部縦部窓一ナテ 適合部内装・半片、窓部内装通し之窓	外面部窓部2ヶ 金剛障子高透窓
31	1層中	縦部 窓	縦片	L12: (9.4) 器高: (5.3)	点	やや丸 褐色	窓 窓付・石美・ 白色粒	内内周: 窓部窓一ナテ	
32	1層中	上層部 窓	透孔 縦片	器径: 1.4	点	灰褐色・筒 色	窓 窓付・石美・ 白色粒	内内周: ヘラズリ 器高: ナテ	
33	1層中	上層部 縦部 窓	光部	器高: 9.5 器径: 9.1 器径: 0.8	点	褐色	雷 窓付・石美・ 白色粒	窓部窓用	外面部窓部 重量: 714g
34	1層中	上層部 縦部 窓	光部	器高: 4.9 器径: 4.8 器径: 0.4	点	青灰色 白色	雷 窓付・石美・ 白色粒	窓部窓用	外面部窓部 重量: 95g
35	1層中	上層部 環	1/5	L12: (13.2) 器高: 2.8 器径: 8.9	点	褐色	雷 窓付	外周: 口径部一径部窓一ナテ、窓部ヘラ切り→指部窓付 内周: 口径部	外面部窓部 外面部窓部 重量: 107g
36	1層中	縦部 窓	窓部	器高: 4.5 器径: (10.6)	点	赤褐色・筒 色灰色	雷	外周: 窓部窓一ナテ、窓部窓一ナテ、貼付合 内周: 窓部窓一ナテ	外面部窓部 重量: 714g
37	1層中	縦部 窓	窓部	器高: 21.5 器径: (11.9)	点	灰色	雷	外周: 窓部窓一ナテ、窓部窓一ナテ、貼付合 内周: 窓部窓一ナテ、貼付合	外面部窓部 重量: 714g
38	1層中	縦部 窓	1/2	口径: (11.2) 器高: 5.0	点	青灰色	雷 白色粒	外周: 口径部窓一ナテ、窓部窓一ナテ、貼付合 内周: L12部窓一ナテ、天井部窓一ナテ	外面部窓部 重量: 714g
39	1層中	縦部 窓	1/3	口径: (13.8) 器高: 2.5	点	灰色	雷 石美	外周: 口径部窓一ナテ、窓部窓一ナテ、貼付合 内周: L12部窓一ナテ、天井部窓一ナテ	外面部窓部 重量: 714g
40	1層中	縦部 窓	1/2	L12: (14.4) 器高: 2.9	点	灰色	窓 石美	外周: 口径部窓一ナテ、窓部窓一ナテ、貼付合 内周: L12部窓一ナテ、天井部窓一ナテ	外面部窓部 重量: 714g
41	1層中	縦部 窓	1/3	L12: (18.0) 器高: 2.5	点	青灰色	雷 石美	外周: 口径部窓一ナテ、窓部窓一ナテ、貼付合 内周: L12部窓一ナテ、天井部窓一ナテ	外面部窓部 重量: 714g
42	1層中	縦部 窓	1/3	L12: (14.6) 器高: (1.7)	点	灰色	雷	外周: 窓部窓一ナテ 内周: 口径部窓一ナテ、天井部窓一ナテ	外面部窓部 重量: 714g
43	1層中	縦部 窓	1/3	L12: (18.0) 器高: (2.0)	点	青灰色	雷 石美	外周: 口径部窓一ナテ、窓部窓一ナテ、貼付合 内周: 口径部窓一ナテ、天井部窓一ナテ	外面部窓部 重量: 714g
44	1層中	縦部 窓	1/2	口径: (16.6) 器高: (2.3)	点	青灰色	雷 石美	外周: 口径部窓一ナテ、窓部窓一ナテ、貼付合 内周: 口径部窓一ナテ、天井部窓一ナテ	外面部窓部 重量: 714g
45	1層中	縦部 窓	3/5	口径: (12.4) 器高: 3.4 器径: (7.4)	点	青灰色	雷	外周: 口径部窓一ナテ、窓部窓一ナテ、貼付合 内周: 口径部窓一ナテ、天井部窓一ナテ	外面部窓部 重量: 714g
46	1層中	縦部 窓	2/3	口径: (13.7) 器高: 4.3 器径: (7.6)	点	青灰色	雷 石美	外周: 口径部窓一ナテ、窓部窓一ナテ、貼付合 内周: 口径部窓一ナテ、天井部窓一ナテ	外面部窓部 重量: 714g
47	1層中	縦部 窓	1/5	口径: (13.0) 器高: 4.0 器径: (8.0)	点	青灰色	雷	外周: 口径部窓一ナテ、窓部窓一ナテ、貼付合 内周: 口径部窓一ナテ、天井部窓一ナテ	外面部窓部 重量: 714g
48	1層中	縦部 窓	1/3	L12: (12.4) 器高: 3.6 器径: (8.6)	点	褐色	雷 石美	外周: 口径部窓一ナテ、窓部窓一ナテ、貼付合 内周: 口径部窓一ナテ、天井部窓一ナテ	外面部窓部 重量: 714g
49	1層中	縦部 窓	1/6	L12: (12.4) 器高: 4.4 器径: (9.2)	点	青灰色	雷 石美	外周: 口径部窓一ナテ、窓部窓一ナテ、貼付合 内周: 口径部窓一ナテ、天井部窓一ナテ	外面部窓部 重量: 714g
50	1層中	縦部 窓	1/3	口径: (12.4) 器高: 3.5 器径: (8.6)	点	褐色	雷 白色粒	外周: 口径部窓一ナテ、窓部窓一ナテ、貼付合 内周: 口径部窓一ナテ、天井部窓一ナテ	外面部窓部 重量: 714g
51	1層中	縦部 窓	1/3	口径: (11.8) 器高: 4.0 器径: (8.2)	点	灰色	雷	外周: 口径部窓一ナテ、窓部窓一ナテ、貼付合 内周: 口径部窓一ナテ、天井部窓一ナテ	外面部窓部 重量: 714g
52	1層中	縦部 窓	14径光部	口径: 12.4 器高: 4.0 器径: 8.4	点	灰色	雷	外周: 口径部窓一ナテ、窓部窓一ナテ、貼付合 内周: 口径部窓一ナテ、天井部窓一ナテ	外面部窓部 重量: 714g
53	1層中	縦部 窓	1/3	L12: (15.0) 器高: 4.4 器径: (9.0)	点	褐色	雷 白色粒	外周: 口径部窓一ナテ、窓部窓一ナテ、貼付合 内周: 口径部窓一ナテ、天井部窓一ナテ	外面部窓部 重量: 714g
54	1層中	縦部 窓	1/2	L12: (13.3) 器高: 4.3 器径: 8.8	点	青灰色	雷	外周: 口径部窓一ナテ、窓部窓一ナテ、貼付合 内周: 口径部窓一ナテ、天井部窓一ナテ	外面部窓部 重量: 714g
55	1層中	縦部 窓	1/3	L12: (14.6) 器高: 2.9 器径: (10.2)	点	灰色	雷 白色粒	外周: 口径部窓一ナテ、窓部窓一ナテ、貼付合 内周: 口径部窓一ナテ、天井部窓一ナテ	外面部窓部 重量: 714g
56	1層中	縦部 窓	1/2	口径: (16.6) 器高: 3.8 器径: (14.4)	点	青灰色	雷 白色粒	外周: 口径部窓一ナテ、窓部窓一ナテ、貼付合 内周: 口径部窓一ナテ、天井部窓一ナテ	外面部窓部 重量: 714g
57	1層中	縦部 窓	14径光部	口径: 14.2 器高: 2.6 器径: 9.0	点	青灰色	雷 白色粒	外周: 口径部窓一ナテ、窓部窓一ナテ、貼付合 内周: 口径部窓一ナテ、天井部窓一ナテ	外面部窓部 重量: 714g
58	1層中	縦部 窓	1/3	口径: (14.6) 器高: 2.5 器径: (10.8)	点	青灰色	雷	外周: 口径部窓一ナテ、窓部窓一ナテ、貼付合 内周: 口径部窓一ナテ、天井部窓一ナテ	外面部窓部 重量: 714g
59	1層中	縦部 窓	1/4	L12: (17.4) 器高: 2.6 器径: (12.6)	点	青灰色	雷 石美	外周: 口径部窓一ナテ、窓部窓一ナテ、貼付合 内周: 口径部窓一ナテ、天井部窓一ナテ	外面部窓部 重量: 714g

60	1層中	横山跡 長瓦	把手部	長さ: 3.4 幅: 1.5	良	青灰色	雲 裏白・石瓦	背面: ヘラケズリ 内面: 縦筋面・ヘラナデ	
61	1層中	横山跡 土板瓦	瓦葺部	長さ: 1.1	良好	青灰色	雲 裏白・白化粧	外面: 14段糸切り 内面: 筋面	内面瓦葺部付着
62	1層中	横山跡 土板瓦	瓦葺部	長さ: 0.8	良好	灰色	雲 裏白・白化粧	外面: 14段糸切り 内面: 筋面	内面瓦葺部付着

第213表 1区表採出土石器観察表(第442・443図)

器物No.	遺跡・地区 出土層位	種類	保存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石 材	備 考
63	1層中	石球	2/3	187	72	(47)	830.5	凝灰岩	穿孔1個(孔径10mm)
64	1層中	石球	2/3	100	101	33	867.0	アイサイト	左打欠幅25mm・右打欠幅17mm
65	1層中	石球	2/3	216	150	38	1633.5	アイサイト	左打欠幅52mm・右打欠幅50mm
66	1層中	石球	2/3	205	108	33	1027.0	アイサイト	左打欠幅52mm・右打欠幅50mm
67	1層中	石球	2/3	143	94	47	838.2	角閃石・雲母	左打欠幅52mm・右打欠幅52mm
68	1層中	石球	2/3	144	80	38	573.2	アイサイト	左打欠幅52mm・右打欠幅52mm
69	1層中	石球	2/3	154	95	35	688.2	アイサイト	左打欠幅52mm・右打欠幅52mm

第214表 2区表採出土石器・土製品観察表(第444図)

器物No.	遺跡・地区 出土層位	種類	保存状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	色 調	石 材	備 考
1	1層中	土師器 土板瓦	ほぼ 完好	口径: 7.9 器高(11.3) 器底(10.2)	良	間欠白色	雲 裏白・白色化粧	外面: 口縁部筋面・ヘラナデ、体部平ナデ 内面: L形筋面・筋面・ヘラケズリ・ナデ、口縁部筋面・体部筋面・ヘラケズリ、口縁部筋面		
2	1層中	土師器 土板瓦	破片	器高(4.0)	良	褐色	雲 裏(灰・砂粒)	外面: L形筋面・筋面・ヘラミガキ、筋面・筋面・筋面の筋状文 内面: 口縁部筋面・筋面・ヘラミガキ、筋面・筋面・筋面の筋状文	内面筋面付着	
3	1層中	土師器 土板瓦	破片	器高(2.1)	良	灰白色	雲 裏白・石瓦・ 白色化粧	外面: 口縁部筋面・筋面・ヘラミガキ、筋面・筋面・筋面の筋状文 内面: ヘラケズリ	外面赤色	
4	1層中	土師器 土板瓦	破片	器高(1.6)	良	褐色	雲 裏白・砂粒	外面: 口縁部筋面・筋面・ヘラミガキ、筋面・筋面・筋面の筋状文 内面: ヘラケズリ	内面筋面付着	
5	1層中	土師器 土板瓦	不詳	口径: 14.2 器高(18)	やや良	黄白色	雲 裏白・石瓦・ 砂粒多量	外面: 筋面・筋面・ヘラミガキ、筋面・筋面・筋面の筋状文 内面: 筋面・筋面・筋面の筋状文	外面L形筋面付着 外面筋面付着	
6	1層中	土師器 土板瓦	破片	器高(8.0) 器底(11.2)	良	褐色	雲 裏白・砂粒	外面: 口縁部筋面・筋面・ヘラミガキ、筋面・筋面・筋面の筋状文 内面: 筋面・筋面・筋面の筋状文		
7	1層中	土師器 土板瓦	破片	器高(8.0) 器底(11.2)	良	褐色	雲 裏白・石瓦・ 砂粒多量	外面: 口縁部筋面・筋面・ヘラミガキ、筋面・筋面・筋面の筋状文 内面: 筋面・筋面・筋面の筋状文		
8	1層中	土師器 土板瓦	破片	器高(5.8) 器底(4.8)	良	褐色	雲 裏白・砂粒	外面: 口縁部筋面・筋面・ヘラミガキ、筋面・筋面・筋面の筋状文 内面: 筋面・筋面・筋面の筋状文		
9	1層中	土師器 土板瓦	破片	口径(11.0) 器高(4.9)	不良	黄白色	石瓦・砂粒	内外面: 筋面・筋面・筋面の筋状文		
10	1層中	土師器 土板瓦	破片	口径(9.6) 器高(4.9)	不良	褐色	雲 裏白・石瓦・ 砂粒	内外面: 筋面・筋面・筋面の筋状文	内面筋面付着	
11	1層中	土師器 土板瓦	破片	口径(9.4) 器高(4.1)	不良	褐色	雲 裏白・白色化粧 ・砂粒	内外面: 筋面・筋面・筋面の筋状文		
12	1層中	土師器 土板瓦	把手部	器高(4.9) 器底(34.8)	やや良	灰褐色	雲 裏白・砂粒	外面: 把手部ヘラケズリ・筋面・筋面 内面: 体部筋面・ヘラケズリ		
13	1層中	土師器 土板瓦	L形部 破片	口径(11.8) 器高(4.3)	良好	青灰色	雲 裏白・砂粒	外面: 口縁部筋面・筋面・筋面の筋状文 内面: 筋面・筋面・筋面の筋状文		
14	1層中	土師器 土板瓦	破片	口径(9.2) 器高(2.6)	良好	青灰色	雲 裏白・砂粒	内外面: 筋面・筋面・筋面の筋状文		
15	1層中	土師器 土板瓦	破片	器高(4.3)	良好	青灰色	雲 裏白・白色化粧	外面: 口縁部筋面・筋面・筋面の筋状文 内面: 筋面・筋面・筋面の筋状文		
16	1層中	土師器 土板瓦	破片	器高(4.1) 器底(11.2)	良	青灰色	雲 砂粒・白色化粧	外面: 口縁部筋面・筋面・筋面の筋状文 内面: 筋面・筋面・筋面の筋状文	器底中央穿孔	
17	1層中	土師器 土板瓦	破片	口径(14.6) 器高(3.5) 器底(8.8)	良好	青灰色	雲 裏白・砂粒	外面: 口縁部筋面・筋面・筋面の筋状文 内面: 筋面・筋面・筋面の筋状文		
18	1層中	土師器 土板瓦	破片	口径(13.4) 器高(2.5) 器底(9.0)	良	青灰色	雲 裏白・砂粒	外面: 口縁部筋面・筋面・筋面の筋状文 内面: 筋面・筋面・筋面の筋状文		
19	1層中	土師器 土板瓦	破片	口径(16.2) 器高(3.5) 器底(8.8)	良好	青灰色	雲 裏白・砂粒	外面: 口縁部筋面・筋面・筋面の筋状文 内面: 筋面・筋面・筋面の筋状文	内面筋面付着	
20	1層中	土師器 土板瓦	破片	口径(15.0) 器高(3.5) 器底(8.8)	良好	青灰色	雲 裏白・砂粒	外面: 口縁部筋面・筋面・筋面の筋状文 内面: 筋面・筋面・筋面の筋状文		

第215表 2区表採出土石器・石製品観察表(第444・445図)

器物No.	遺跡・地区 出土層位	種類	保存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石 材	備 考	
21	1層中	土師器 土板瓦	破片	49	30	4	6.0	片岩	穿孔2ヶ(孔径2.5mm)	
22	1層中	土師器 土板瓦	破片	40	22	15	11.9	片岩		
23	1層中	土師器 土板瓦	破片	45	27	16	16.4	片岩		
24	1層中	土師器 土板瓦	破片	173	(97)	(41)	(99)	110.1	凝灰岩	
25	1層中	土師器 土板瓦	破片	172	(98)	(38)	30	89.5	凝灰岩	

26	1層中	磁石	磁片	(49)	(47)	(27)	58.6	高灰岩	柱上版
----	-----	----	----	------	------	------	------	-----	-----

第216表 3区表採出土石器観察表 (第446図)

遺物No	遺集・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法 量 (cm)	機能	色調	粘土	観察・文様	備考
1	1層中	土師器 腹部砕片	破片 残存率 1/4	口径(18.2) 底径(5.27) 高さ(2.9)	良	褐色	黄 石黄・砂粒	外面：突起線ナガ、接合部線ナガ 内面：突起線ナガ、接合部線ナガ、接合部ナガ、縁部ヘラミギキ	内面線部一部残存 重量：106g
2	1層中	土師器 腹部砕片	定形	高さ(2.7) 厚さ(1.0)	良好	青灰色	黄	突起線ナガ	重量：54g
3	1層中	土師器 腹部砕片	定形	高さ(2.2) 底径(1.9) 厚さ(1.0)	良好	青灰色	黄	突起線ナガ	重量：54g
4	1層中	土師器 腹部砕片	定形	高さ(2.2) 底径(2.1) 厚さ(1.2)	良好	灰色	黄	突起線ナガ	重量：66g
5	1層中	土師器 腹部砕片	定形	高さ(2.0) 底径(1.8) 厚さ(1.1)	良好	褐色灰色	黄	突起線ナガ	重量：54g

第217表 3区表採出土石器観察表 (第446図)

遺物No	遺集・地区 出土層位	器種	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	行材	備考
6	1層中	土師器	定形	145	55	40	436g	高灰岩	刃部角2度

第218表 5区表採出土石器観察表 (第447図)

遺物No	遺集・地区 出土層位	器種	部位 残存率	法 量 (cm)	機能	色調	粘土	観察・文様	備考
1	1層中	土師器 水口砕片	口縁一部 残存率 2/3	口径(11.0) 高さ(20.8)	良	褐色	黄 黄赤・石黄・ 白色粒	外面：口部線ナガ→縁ヘラミギキ、縁部線ナガ 内面：口部線ナガ、縁部以下突起線ナガ	外面線部一部残存
2	1層中	土師器 小形丸底器	口縁一部 残存率 2/3	口径(9.1) 底径(7.0)	やや良	黄灰色	黄 赤・石黄・ 白色粒・砂粒	外面：口部線ナガ、縁部以下突起線ナガ 内面：口部線ナガ、縁部線ナガ	外面線部一部残存
3	1層中	土師器 腹部砕片	腹部砕片	高さ(4.9) 底径(3.7)	良	褐色	黄 石黄・砂粒	外面：突起線ナガ→縁ヘラミギキによる突起線 による突起線ナガ、突起線ナガ 内面：突起線ナガ→縁ヘラミギキ	外面線部一部残存
4	1層中	土師器 腹部砕片	腹部砕片	高さ(2.8)	良	褐色	黄 白色粒	外面：突起線ナガ→縁ヘラミギキによる突起線 突起線ナガ	外面線部一部残存
5	1層中	土師器 腹部砕片	腹部砕片	高さ(1.4)	良	灰褐色	黄 赤	外面：突起線ナガ→縁ヘラミギキによる突起線 突起線ナガ	内外突起線
6	1層中	土師器 腹部砕片	腹部砕片	高さ(3.8)	良	灰褐色	黄 石黄・白色粒	外面：突起線ナガ→縁ヘラミギキによる突起線 突起線ナガ 内面：突起線ナガ	内外突起線
7	1層中	土師器 腹部砕片	腹部砕片	高さ(3.9)	良	灰褐色	黄 赤・石黄・ 白色粒	外面：突起線ナガ→縁ヘラミギキによる突起線 突起線ナガ 内面：突起線ナガ	内外突起線
8	1層中	土師器 腹部砕片	腹部砕片	高さ(2.4)	良	褐色	黄 赤・石黄・ 砂粒	外面：突起線ナガ→縁ヘラミギキによる突起線 突起線ナガ 内面：突起線ナガ	内外突起線
9	1層中	土師器 底部砕片	2/3	口径(11.7) 高さ(5.7) 底径(6.0)	良	橙褐色	黄 赤・石黄・ 白色粒	外面：突起線ナガ→縁ヘラミギキによる突起線 突起線ナガ 内面：突起線ナガ	内外突起線
10	1層中	土師器 底部砕片	5/6	口径(14.2) 高さ(8.0) 底径(5.2)	良	褐色	黄 赤・石黄・ 白色粒	外面：突起線ナガ→縁ヘラミギキによる突起線 突起線ナガ 内面：突起線ナガ	内外突起線
11	1層中	土師器 底部砕片	2/3	口径(19.1) 高さ(5.7) 底径(5.2)	良	黄灰色	黄 赤・石黄・ 白色粒	外面：突起線ナガ→縁ヘラミギキによる突起線 突起線ナガ 内面：突起線ナガ	内外突起線
12	1層中	土師器 腹部砕片	破片	口径(21.7) 高さ(15.4)	良好	褐色	黄 赤・石黄・ 白色粒	外面：突起線ナガ→縁ヘラミギキによる突起線 突起線ナガ 内面：突起線ナガ	内外突起線
13	1層中	土師器 腹部砕片	1/4	口径(20.6) 高さ(10.4)	良	褐色	黄 赤・石黄・ 白色粒	外面：突起線ナガ→縁ヘラミギキによる突起線 突起線ナガ 内面：突起線ナガ	内外突起線
14	1層中	土師器 小型器	定形	高さ(7.5) 底径(11.9)	良	灰褐色	黄 赤・石黄・ 白色粒	外面：突起線ナガ→縁ヘラミギキによる突起線 突起線ナガ 内面：突起線ナガ	内外突起線
15	1層中	土師器 腹部砕片	破片	口径(9.2) 高さ(3.4)	良好	灰褐色	黄 赤・石黄・ 白色粒	外面：突起線ナガ→縁ヘラミギキによる突起線 突起線ナガ 内面：突起線ナガ	内外突起線

第219表 5区表採出土石器・石製品観察表 (第447図)

遺物No	遺集・地区 出土層位	器種	遺存状態	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石 材	備考
16	1層中	管玉	定形	34	4	4	0.2	緑色凝灰岩	孔径2mm
17	1層中	管玉	定形	33	7	4	0.3	緑色凝灰岩	孔径3mm
18	1層中	磁石	1/2	65	33	20	27.4	凝灰岩	

# 写 真 图 版



調査前状況



1区 最終面全景



2区 最終面全景



3区 最終面全景



4区 最終面全景



5区 最終面全景



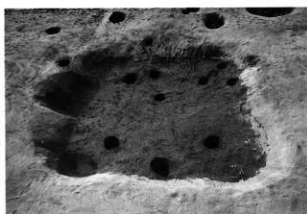
堆積状況



調査終了後状況



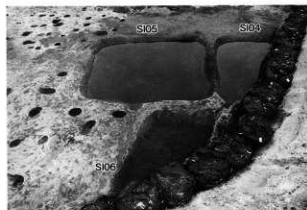
1区 SI01



1区 SI02



1区 SI03



1区 SI04・05・06



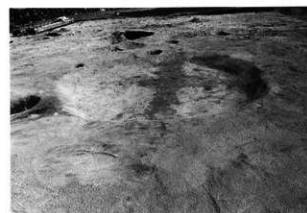
1区 SI06遺物出土状況



2区 遺構検出状況



2区 SI02 (西から)



2区 SI02 (南から)

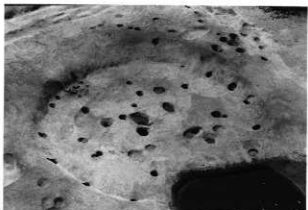




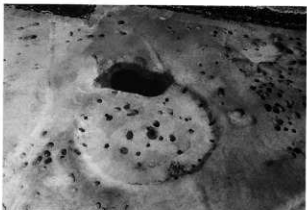
2区 SI03



2区 SI03遺物出土状況



2区 SI04 (南東から)



2区 SI04 (南西から)



2区 SI04ベッド状遺構



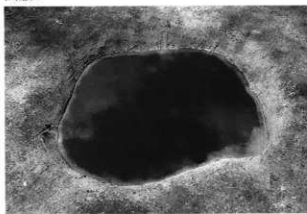
2区 SI04遺物出土状況



2区 SI04遺物出土状況



作業風景



3区 SI01



4区 SI01・05



4区 SI02



4区 SI02遺物出土状況



4区 SI03



4区 SI03遺物出土状況



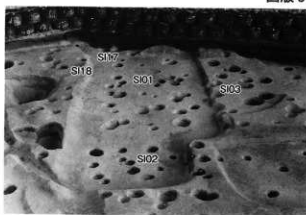
4区 SI04



4区 SI06



5区 SI01



5区 SI01・02・03・17・18 (西から)



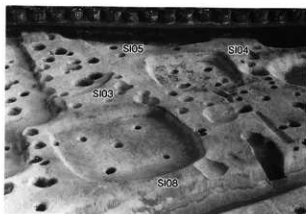
5区 SI04



5区 SI04 Pit内遺物出土状況



5区 SI05



5区 SI03・04・05・08

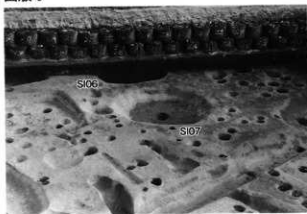


5区 SI07 中央ビット土堤



5区 SI07

図版 6



5区 SI06・07



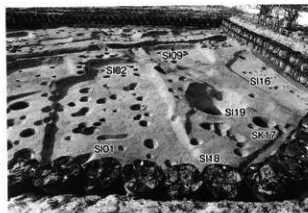
5区 SI09



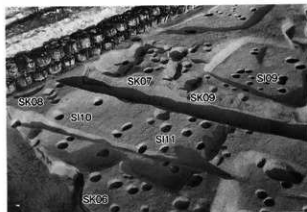
5区 SI10・11 (北東から)



5区 SI10・11 (南西から)



5区 SI01・02・09・16・19・18 SK17



5区 SI09・10・11 SK06・07・08・09



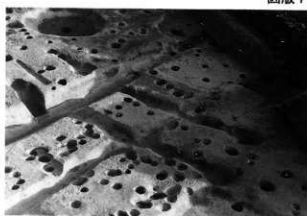
5区 SI12



5区 SI14



5区 最終状況(南東から)



5区 SB01



1区 SD02完掘状況(1区)



1区 SD02遺物出土状況



1区 SD02遺物出土状況(1区)



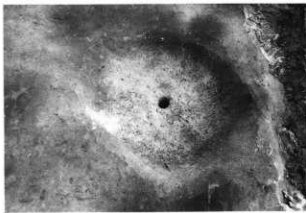
1区 SD02遺物出土状況(4区)



1区 SD02遺物出土状況



1区 SK05遺物出土状況



1区 SK05完掘状況



5区 SK06



5区 SK07



5区 SK12



3区 柱穴群



5区 SD11



5区 SD11断面



2区 SD05 (北東から)



2区 SD05 (南側から)



2区 SD06



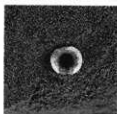
2区 SD11・12



3区 SD04



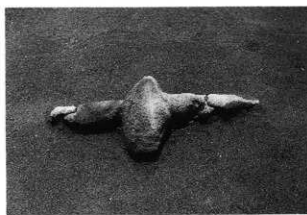
3区 SD04



遺物出土状況



4区 SD05



遺物出土状況



4区 SD07



遺物出土状況



4区 SD11



5区 溝全景 (西から)

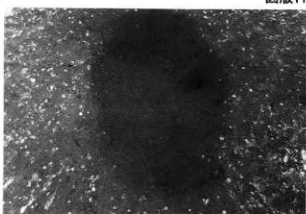


5区 溝全景 (南西から)





2区 SX01



2区 SX01



3区 鍛冶関連遺物廃棄土坑



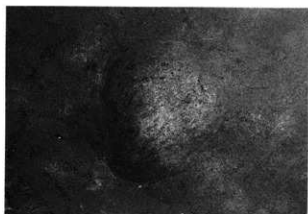
3区 鍛冶関連遺物廃棄土坑



3区 土墳墓



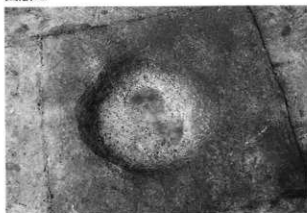
3区 土墳墓内遺物出土状況



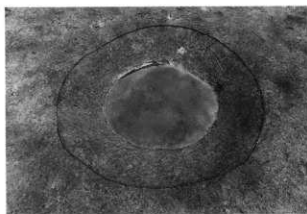
3区 SK10



作業風景



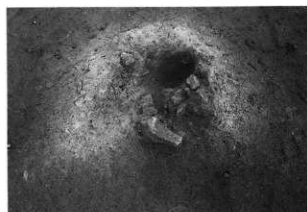
3区 SK08



3区 SK09



2区 SK09



5区 電跡



土層剥取り状況



3区 畝全景



1区 畝全景



2区 畝全景



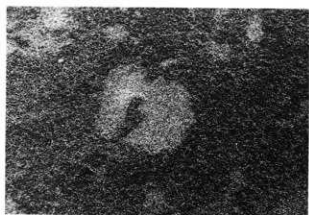
4区 畝全景



5区 畝全景



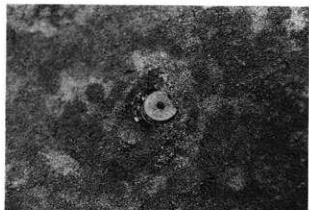
中世晶跡全景（合成写真）



足跡



3区 SD02



1区 畝中遺物出土状況



4区 竪穴状畝



1区 畝中遺物出土状況



4区 水溜状遺構



5区 畦10

遺物出土状況





2区 硬化面



2区 硬化面断面



5区 硬化面 (西側から)



5区 硬化面 (東側から)



1区 SK01



1区 SK03



2区 SK01木枠



2区 SK01



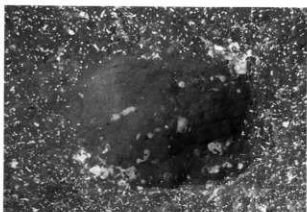
2区 SK02



2区 SK04



2区 SK05



2区 SK06



2区 SK07



2区 SK08



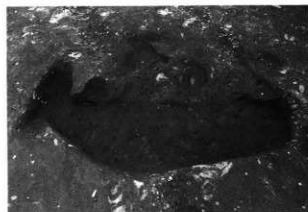
3区 SK01



3区 SK02



3区 SK02内木柱



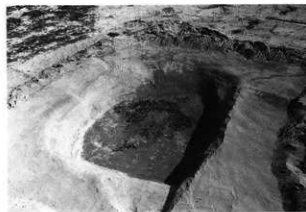
3区 SK03



4区 SK01



4区 SK02



4区 SK05



4区 SK03



4区 SK03 柵列





4区 SK08



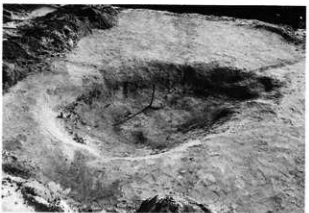
4区 SK09



5区 SK01



1区 石列



5区 SK02



1区 石列

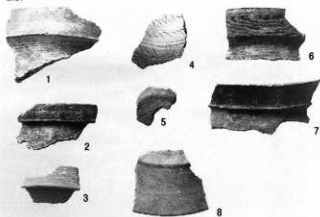


5区 SK03

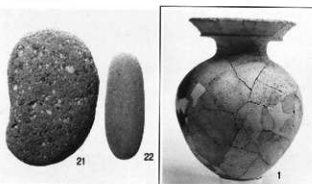
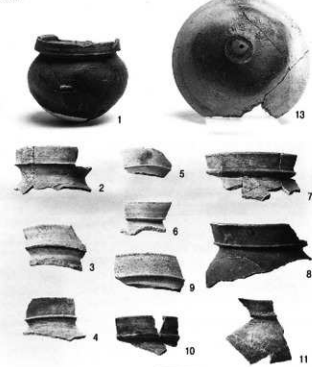


作業風景

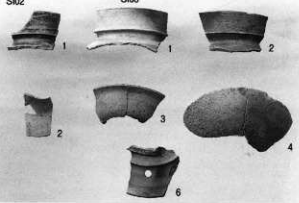
SI01



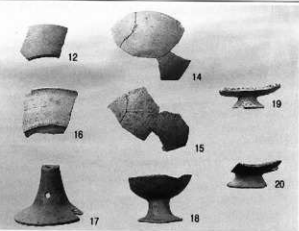
SI04



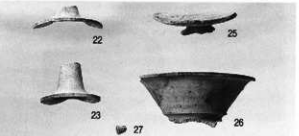
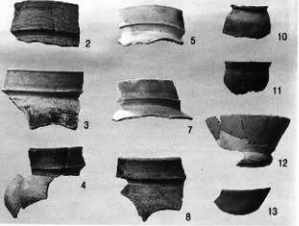
SI02



SI02

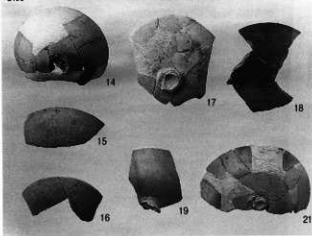


SI05

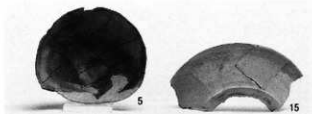
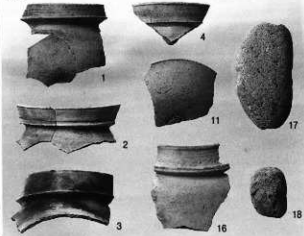


1区 遺構出土遺物

S105



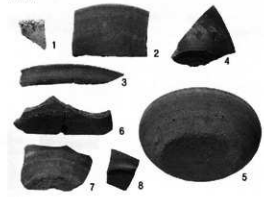
S106



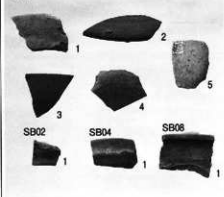
SK05



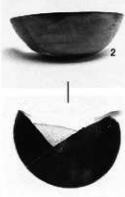
P11内



SB01



SB08

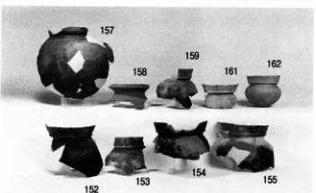
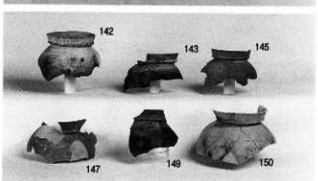
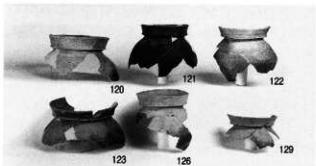
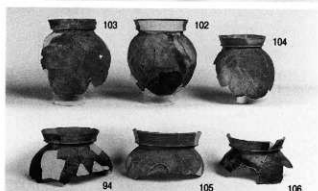
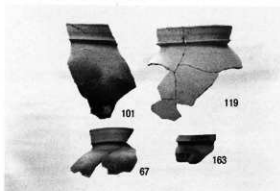
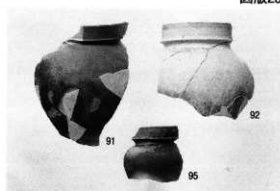
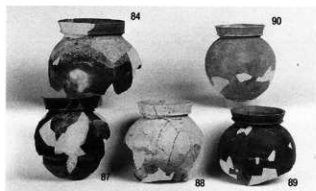


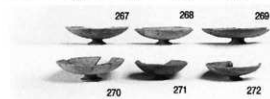
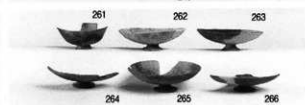
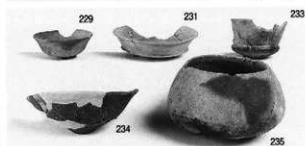
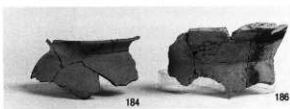
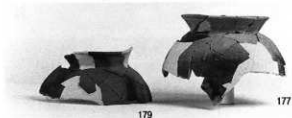
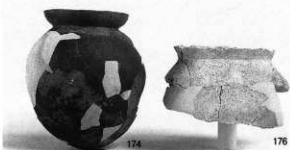
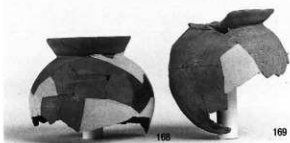


1区 SD02出土遺物

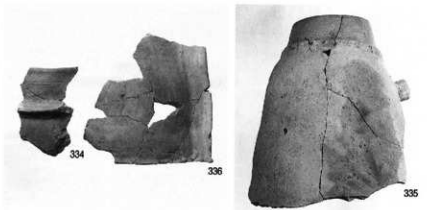
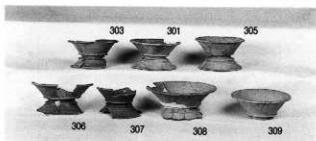
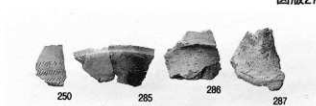
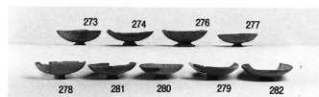


1区 SD02出土遺物





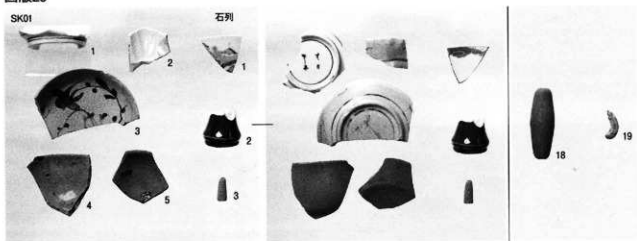




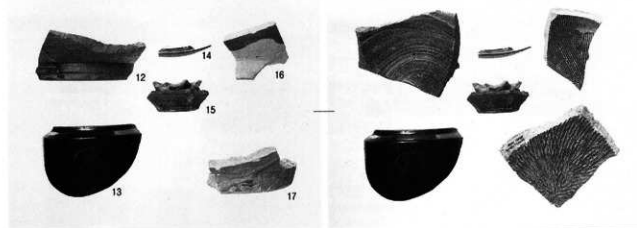
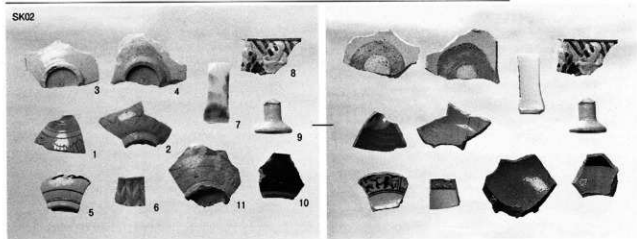
1区 SD02出土遺物

SK01

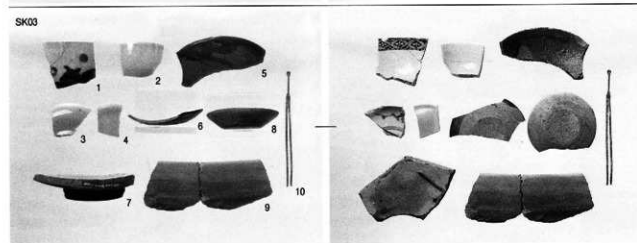
石列



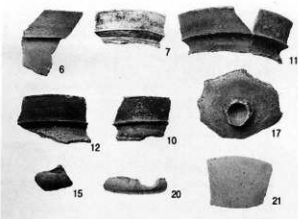
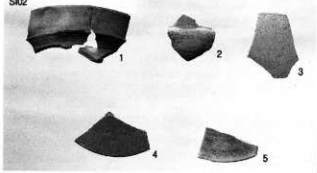
SK02



SK03



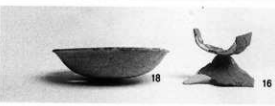
SI02



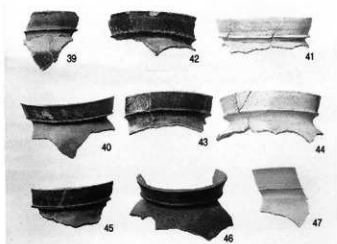
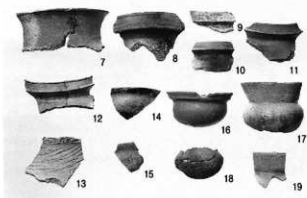
SI04

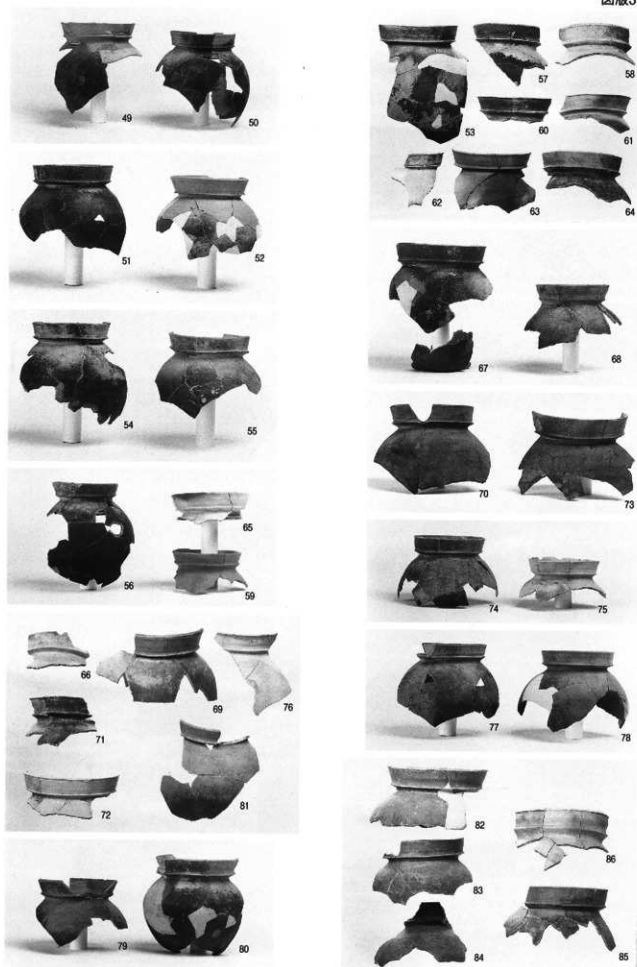


SI03

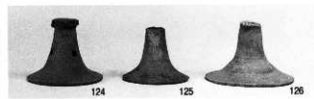
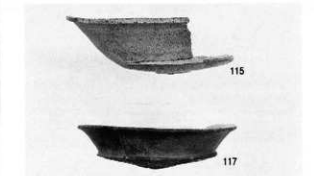
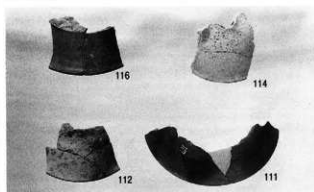
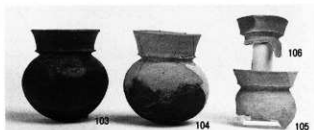
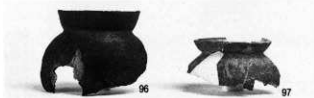
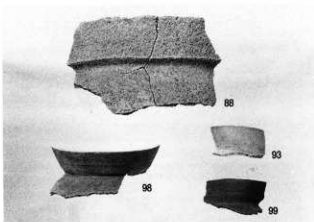
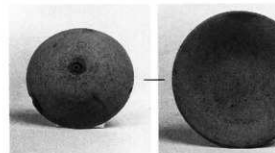


2区 遺構出土遺物

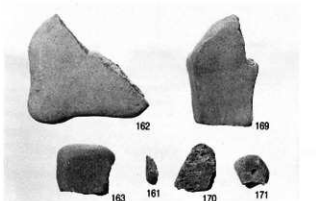
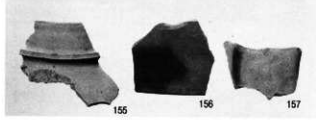
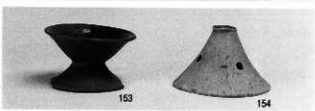
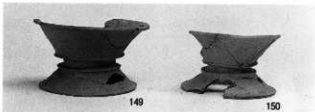
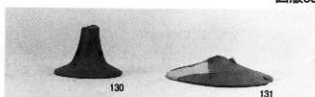
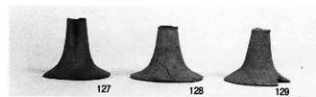




2区 S104出土遺物

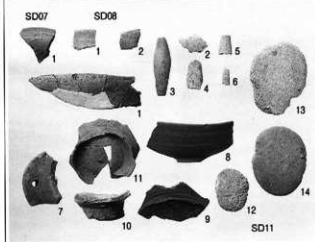
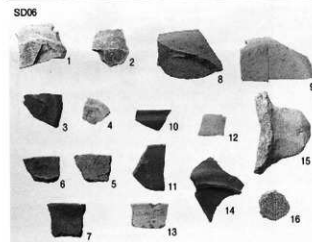
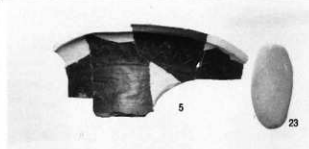
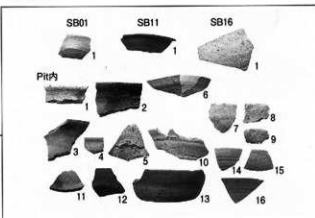
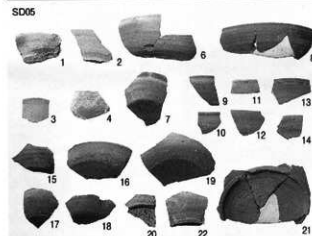
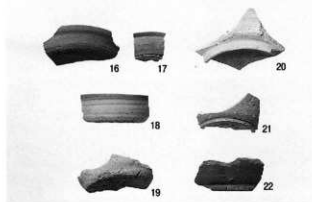
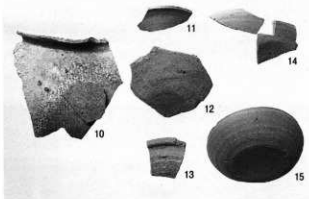


2区 S104出土遺物



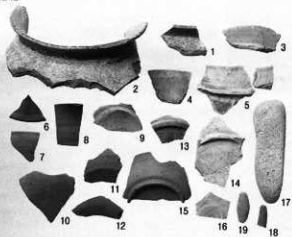
ベッド状遺構集石

SK09





SD12



SD13



SD02



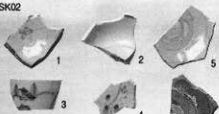
SD03



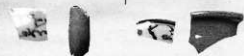
SD04



SK02



SK04



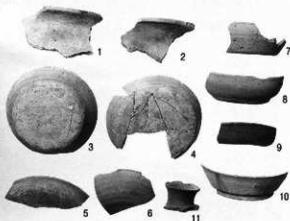
SK08



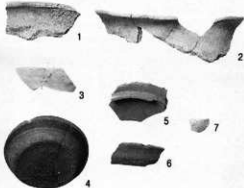
SD01

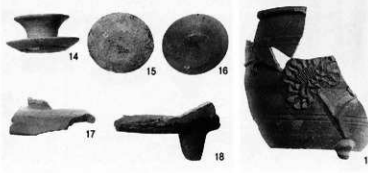
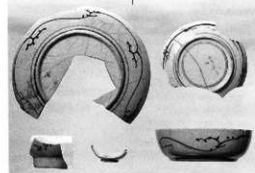
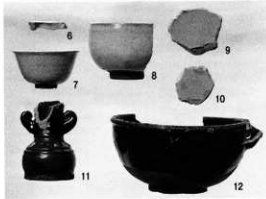
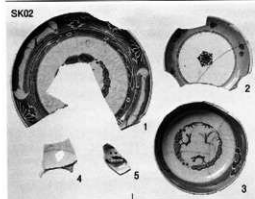
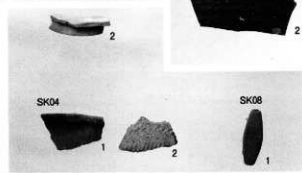
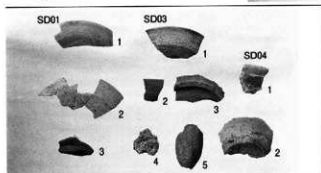
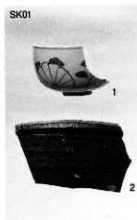
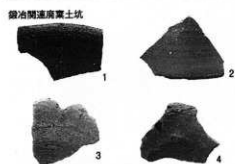
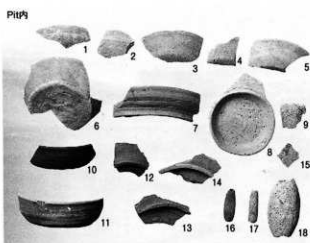
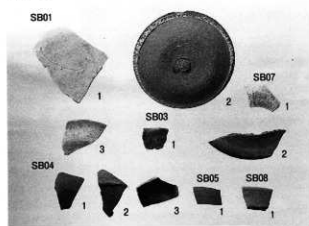


SI01



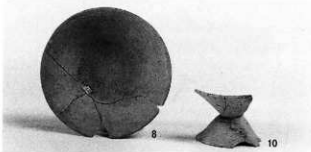
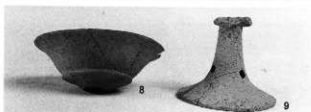
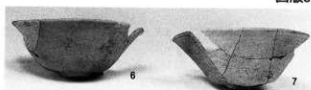
SI02





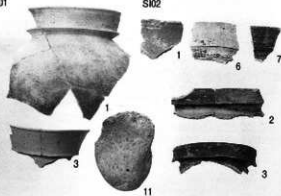
3区 遺構出土遺物

SI01



SI01

SI02



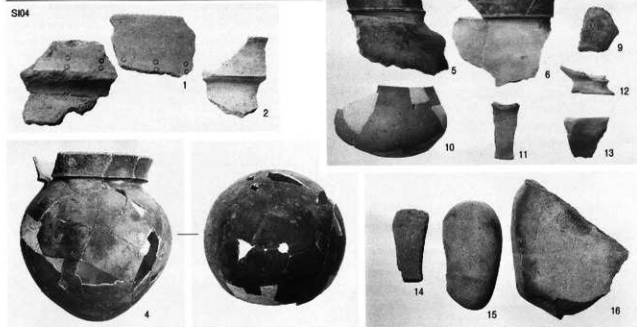
SI03



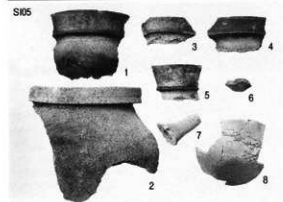
SI03



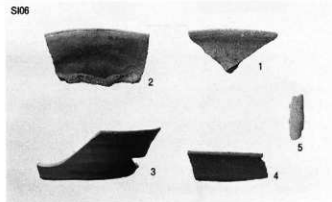
SI04

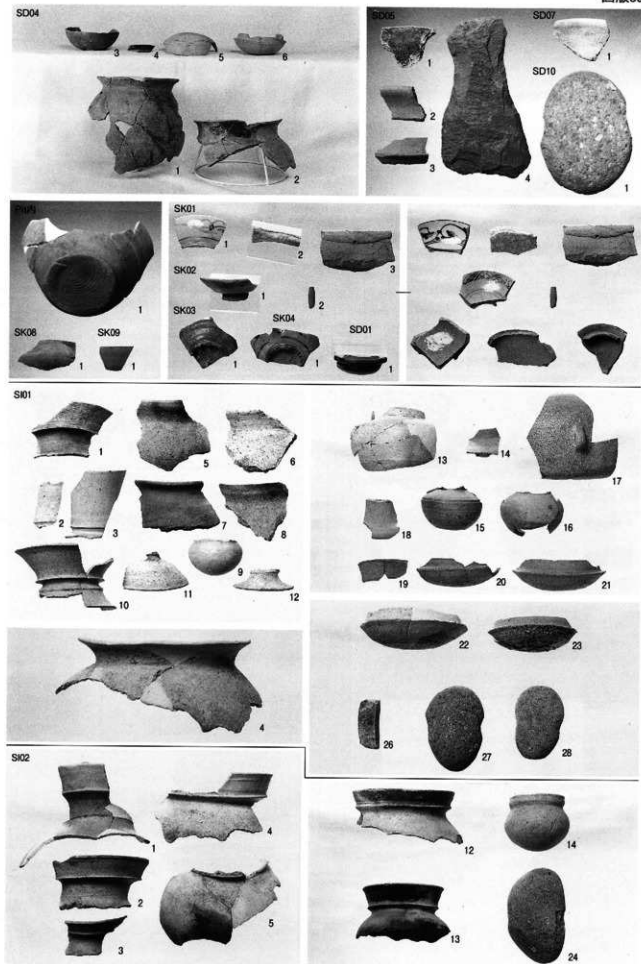


SI05



SI06

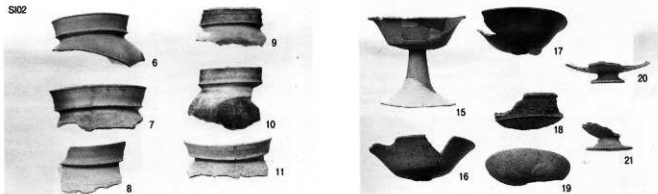




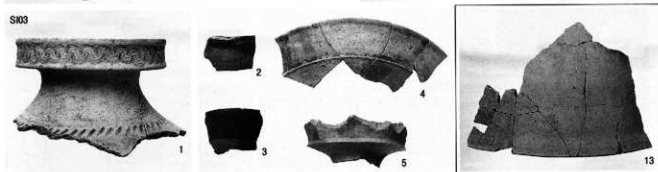
4・5区 遺構出土遺物

図版40

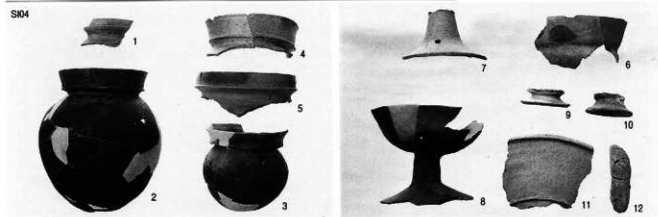
SI02



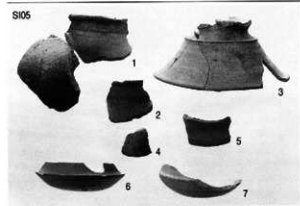
SI03



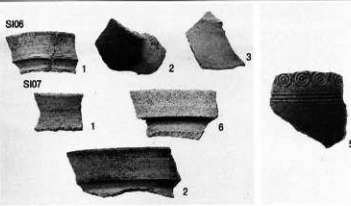
SI04



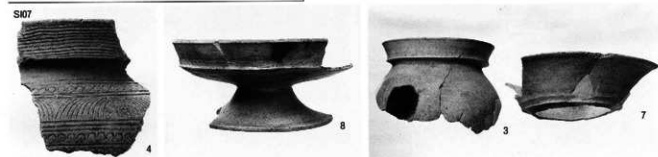
SI05

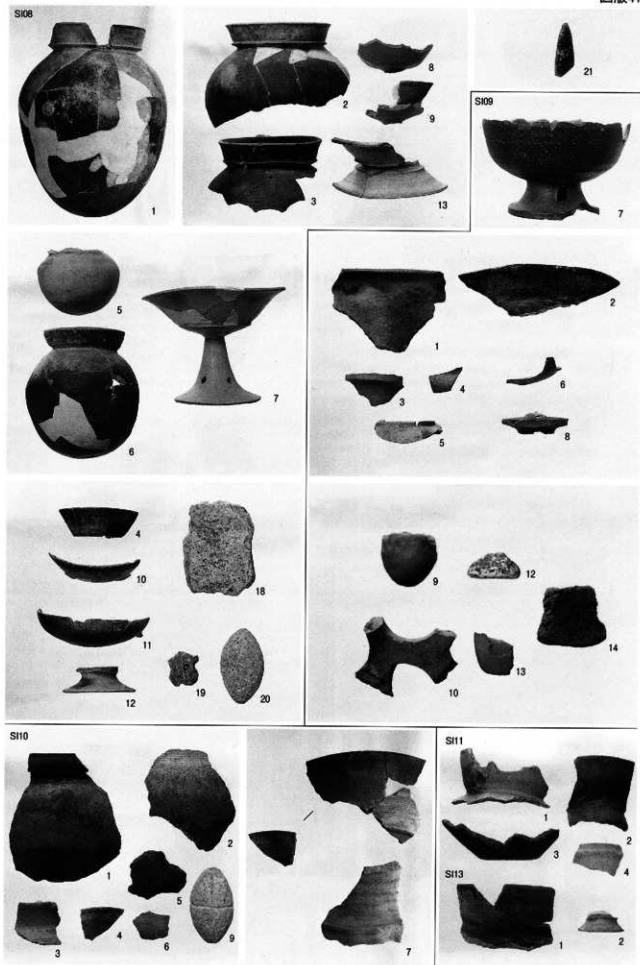


SI06



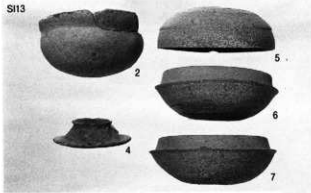
SI07



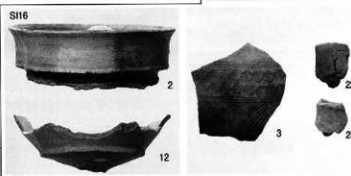
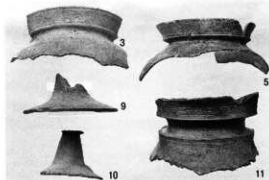
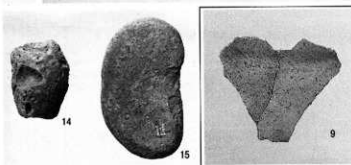
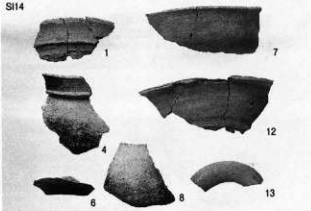


5区 遺構出土遺物

SI13



SI14



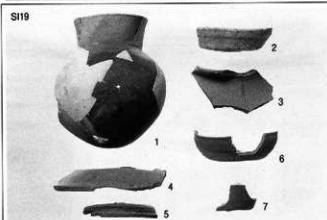
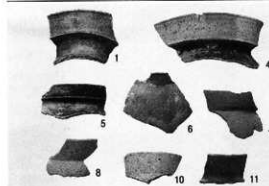
SI15



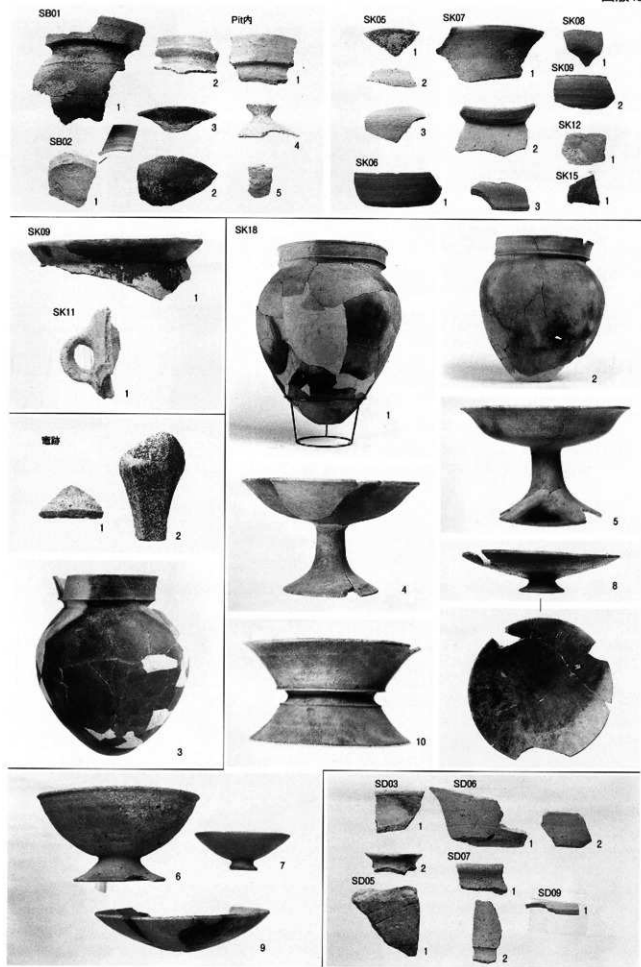
SI17



SI18

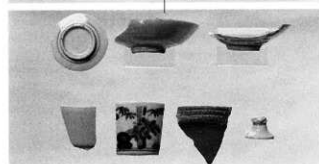
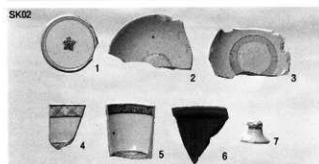
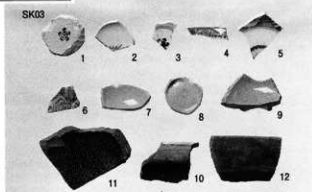
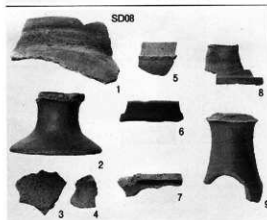
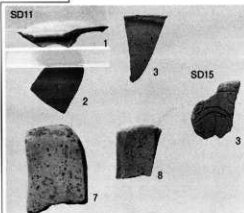
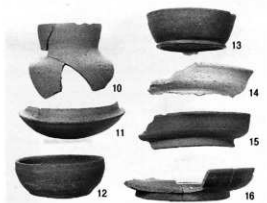
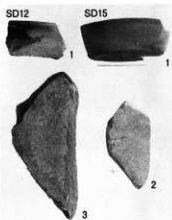
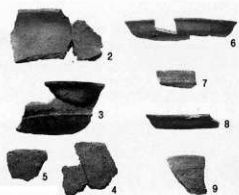


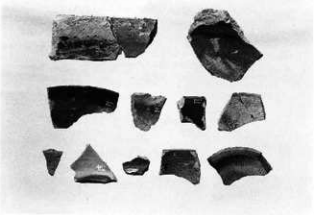
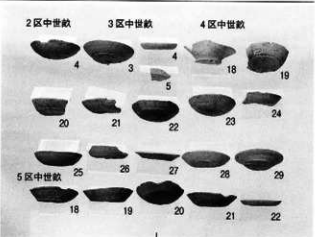
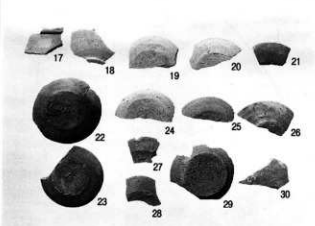
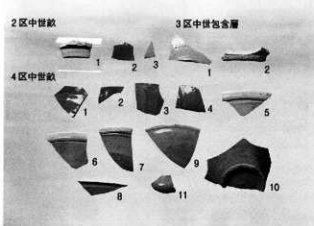
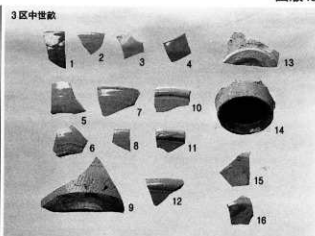
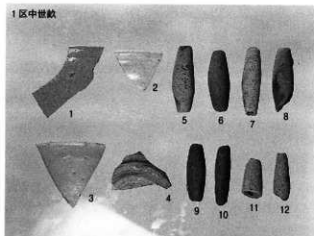




5区 遺構出土遺物

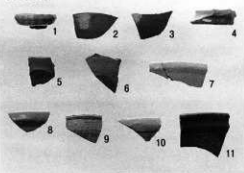
SD04





中世款・中世包含層出土遺物

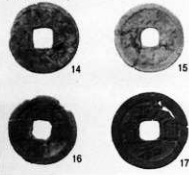
5区中世欵



4区中世包含層



1区中世欵



1区近世包含層



5区中世欵



1区中世包含層



1区中世包含層



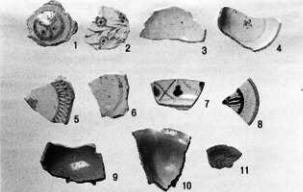
3区中世包含層



4区中世欵



1区近世包含層

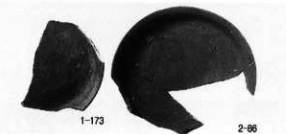
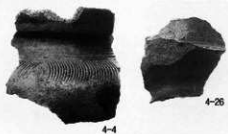
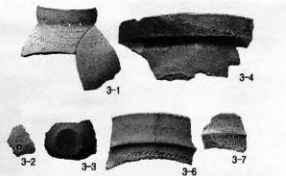
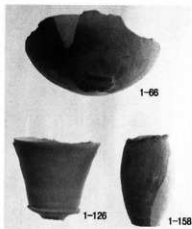
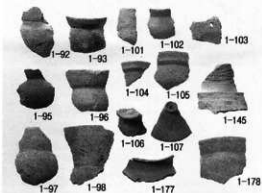
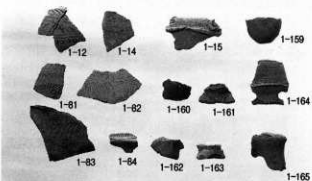


中世包含層

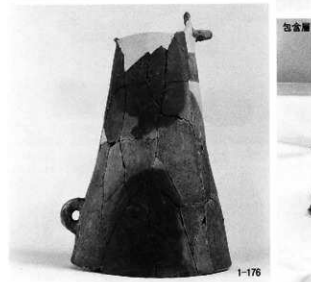
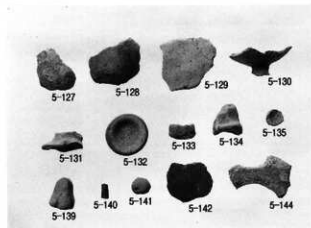
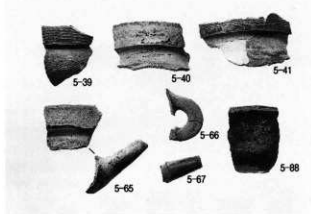
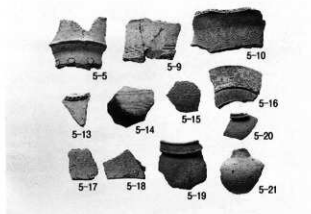
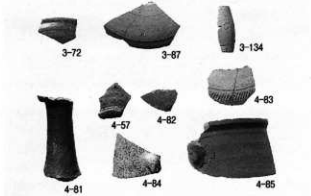
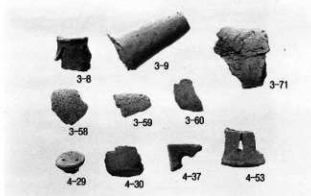


中世包含層

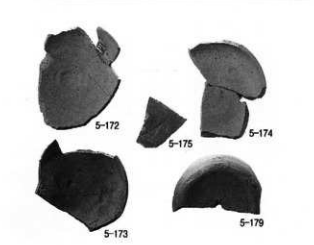
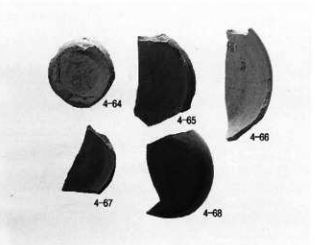
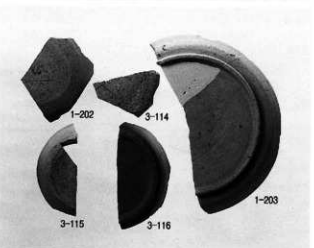
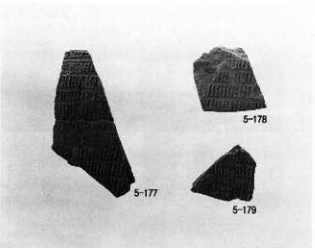
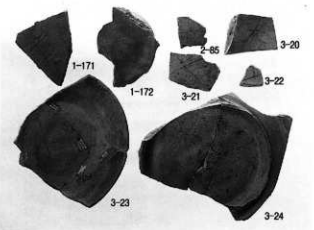




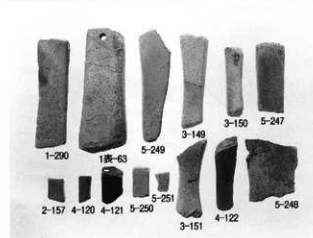
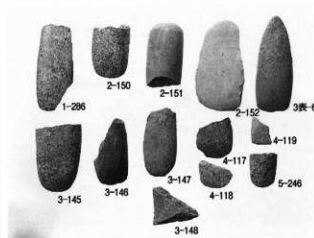
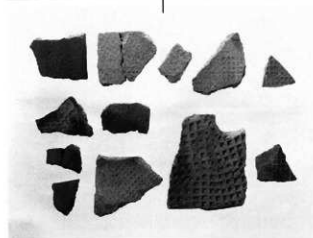
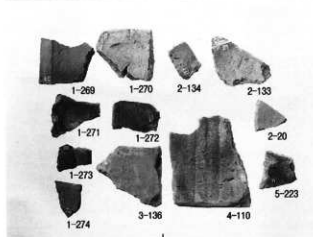
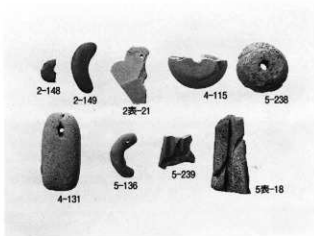
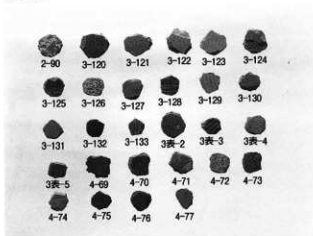
中世包含層・包含層出土遺物（※先頭の数字は区、「表」は表採遺物）



包含層出土遺物



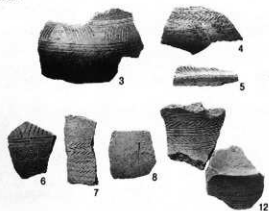
包含層出土遺物



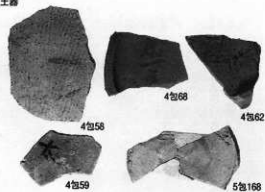
包含層・表採遺物



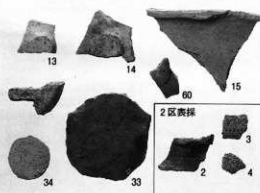
5区表探



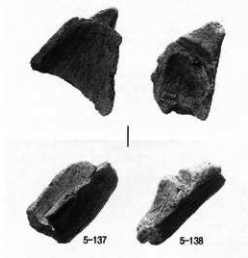
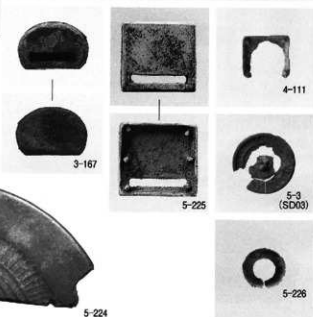
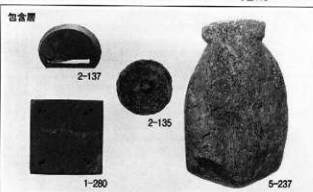
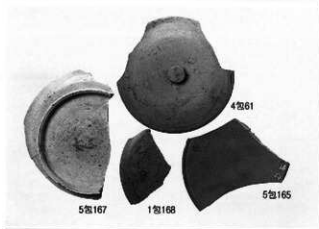
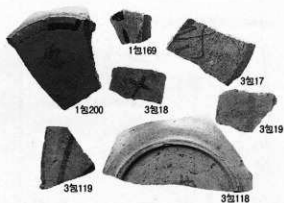
黑土器



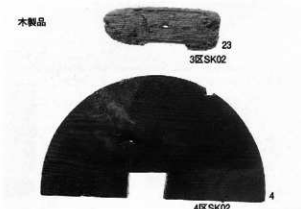
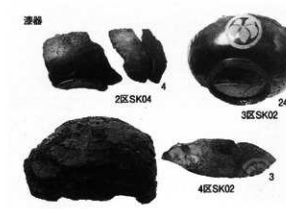
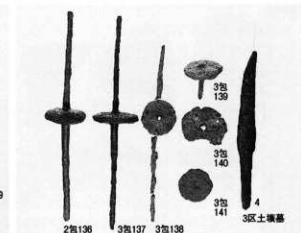
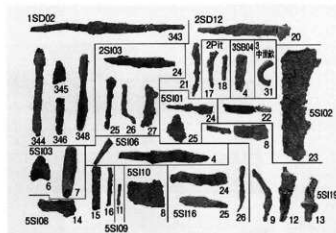
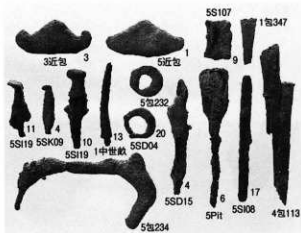
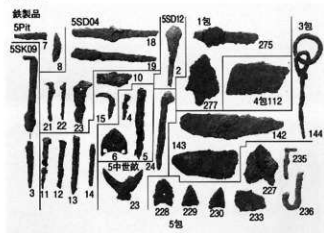
1区表探



2区表探



図版52



財米子市教育文化事業団文化財発掘調査報告書64

## 博勞町遺跡

2011年3月

編集・発行 財団法人 米子市教育文化事業団

〒683-0011 鳥取県米子市福市281番地

TEL 0859-26-0455

印刷 勝美印刷株式会社